



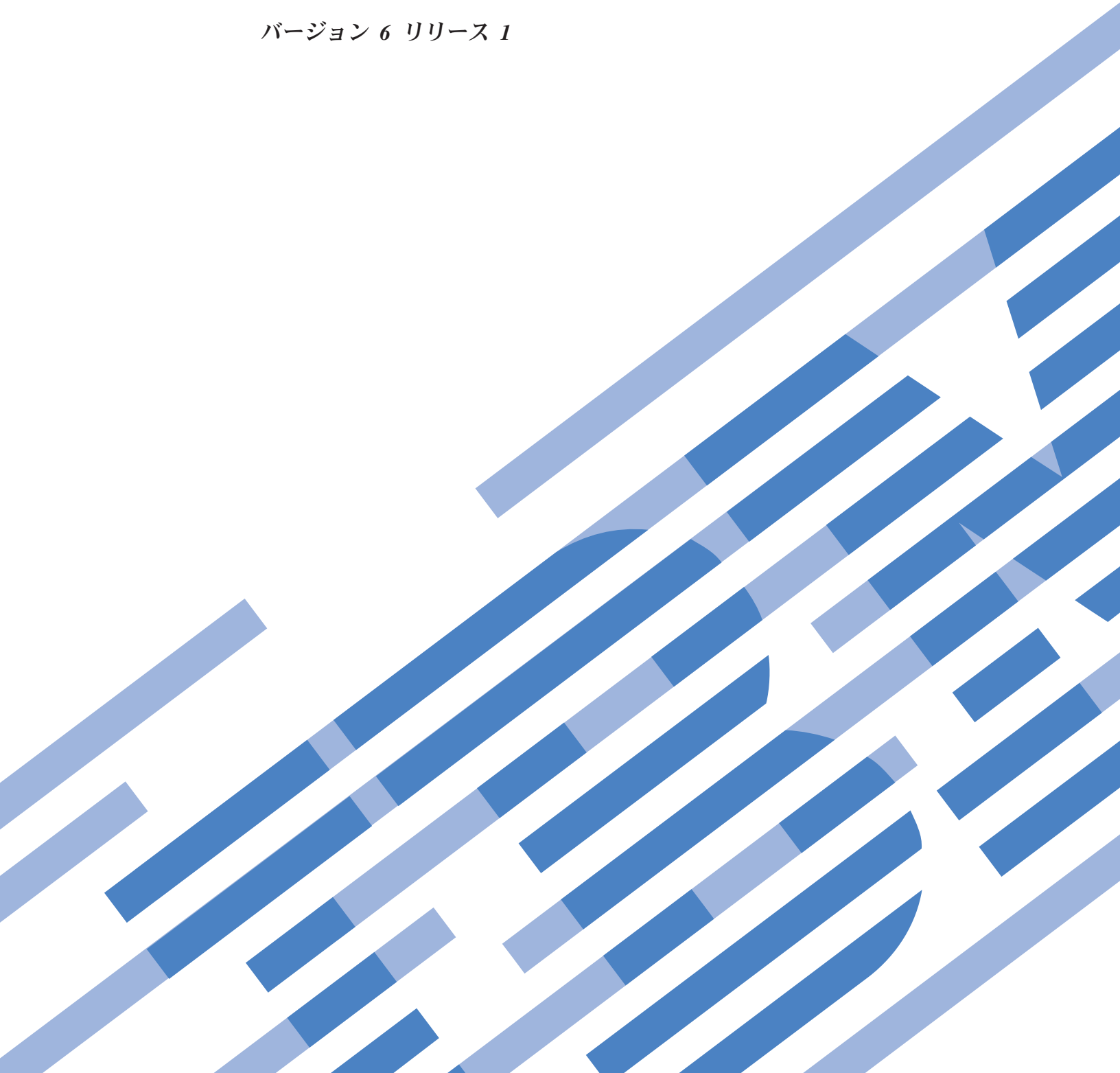
System i

プログラミング

i5/OS コマンド

ANZPFACT (プロファイル活動の分析) ~

バージョン 6 リリース 1





System i

プログラミング

i5/OS コマンド

ANZPFACT (プロファイル活動の分析) ~

バージョン 6 リリース 1

ご注意

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、837 ページの『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

本書は、IBM i5/OS (プロダクト番号 5761-SS1) のバージョン 6、リリース 1、モディフィケーション 0 に適用されます。また、改訂版で断りがない限り、それ以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションにも適用されます。このバージョンは、すべての RISC モデルで稼働するとは限りません。また CISC モデルでは稼働しません。

IBM 発行のマニュアルに関する情報のページ

<http://www.ibm.com/jp/manuals/>

こちらから、日本語版および英語版のオンライン・ライブラリーをご利用いただけます。また、マニュアルに関するご意見やご感想を、上記ページよりお送りください。今後の参考にさせていただきます。

(URL は、変更になる場合があります)

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原典： System i
Programming
i5/OS commands
Starting with ADDACC (Add Access Code)
Version 6 Release 1

発行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担当： ナショナル・ランゲージ・サポート

第1刷 2008.2

© Copyright International Business Machines Corporation 1998, 2008. All rights reserved.

目次

プロファイル活動の分析 (ANZPRFACT)	1
パラメーター	3
非活動日数 (INACDAYS)	3
例	3
エラー・メッセージ	3
QUERYの分析 (ANZQRY)	5
パラメーター	5
QUERY (QRY)	5
重大度コード・フィルター (SEV)	6
例	6
エラー・メッセージ	6
ユーザー・オブジェクトの分析 (ANZUSROBJ)	7
パラメーター	8
オプション (OPTION)	8
報告書のタイプ (RPTTYPE)	8
分析するライブラリー (LIB)	9
ASP装置 (ASPDEV)	9
例	9
エラー・メッセージ	10
APPC接続検査 (APING)	11
パラメーター	11
リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)	11
モード (MODE)	11
リモート・ユーザーID (RMTUSER)	12
リモート・パスワード (RMTPWD)	12
メッセージ・モード (MSGMODE)	12
パケットの長さ (バイト数) (PKTLEN)	13
反復回数 (NBRITER)	13
パケット数 (NBRPKT)	13
エコー (ECHO)	13
待ち時間 (秒数) (WAITTIME)	14
例	14
エラー・メッセージ	14
ジャーナル処理済み変更適用 (APYJRNCHG)	15
パラメーター	20
ジャーナル (JRN)	22
ジャーナル・ファイル識別 (FILE)	22
オブジェクト (OBJ)	23
オブジェクト (OBJPATH)	24
ディレクトリーのサブツリー (SUBTREE)	25
名前パターン (PATTERN)	26
論理ファイルへの変更の適用 (APYLF)	27
ジャーナル・レシーバーの範囲 (RCVRNG)	27
大きい開始順序番号 (FROMENTLRG)	28

大きい終了順序番号 (TOENTLRG)	30
終了日および時刻 (TOTIME)	30
完全に修飾されたジョブ名 (TOJOBO)	31
完全に修飾されたジョブ名 (TOJOBC)	31
コミットメント境界 (CMTBDY)	32
オプション (OPTION)	33
オブジェクト・エラー・オプション (OBJERROPT)	33
出力 (OUTPUT)	33
出力を受け取るファイル (OUTFILE)	34
出力メンバー・オプション (OUTMBR)	34
詳細 (DETAIL)	35
開始順序番号 (FROMENT)	35
終了順序番号 (TOENT)	36
例	37
エラー・メッセージ	38

ジャーナル処理済み変更拡張適用 (APYJRNCHGX)	43
パラメーター	46
ジャーナル (JRN)	47
ジャーナル・ファイル識別 (FILE)	48
ジャーナル・レシーバーの範囲 (RCVRNG)	49
大きい開始順序番号 (FROMENTLRG)	50
大きい終了順序番号 (TOENTLRG)	51
終了日および時刻 (TOTIME)	52
完全に修飾されたジョブ名 (TOJOBO)	52
完全に修飾されたジョブ名 (TOJOBC)	53
コミットメント境界 (CMTBDY)	53
オプション (OPTION)	54
オブジェクト・エラー・オプション (OBJERROPT)	54
出力 (OUTPUT)	55
出力を受け取るファイル (OUTFILE)	55
出力メンバー・オプション (OUTMBR)	56
詳細 (DETAIL)	56
開始順序番号 (FROMENT)	56
終了順序番号 (TOENT)	58
例	58
エラー・メッセージ	59

プログラム一時修正適用 (APYPTF)	63
パラメーター	63
プロダクト (LICPGM)	64
リリース (RLS)	64
選択するPTF番号 (SELECT)	64
除外するPTF番号 (OMIT)	65
エクステンント変更 (APY)	65
遅延PTF (DELAYED)	65
IPL適用オプション (IPLAPY)	65
必要PTFの適用 (APYREQ)	66
例	66
エラー・メッセージ	67

リモート・コマンド実行 (AREXEC)	71
パラメーター	71
コマンド (CMD)	71
リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)	72
リモート・ユーザーID (RMTUSER)	72
リモート・パスワード (RMTPWD)	72
モード (MODE)	73
コード化文字セットID (CCSID)	73
待ち時間 (秒数) (WAITTIME)	73
例	74
エラー・メッセージ	75
質問 (ASKQST)	77
パラメーター	77
Q/Aデータベース (QSTDB)	77
Q/Aデータベースが存在するライブラリー (LIB)	77
例	78
エラー・メッセージ	78
バッチ・ジョブ (BCHJOB)	79
パラメーター	80
ジョブ名 (JOB)	81
ジョブ記述 (JOBDD)	81
ジョブ待ち行列 (JOBQ)	82
印刷装置 (PRTDEV)	82
出力待ち行列 (OUTQ)	83
ジョブ優先順位(JOBQでの) (JOBPTY)	83
出力優先順位(OUTQでの) (OUTPTY)	84
印刷テキスト (PRTTXT)	84
経路指定データ (RTGDTA)	84
要求データまたはコマンド (RQSDTA)	85
CL構文検査 (SYNTAX)	85
現行ライブラリー (CURLIB)	86
初期ライブラリー・リスト (INLLIBL)	86
終了重大度 (ENDSEV)	86
メッセージのロギング (LOG)	87
CL プログラム・コマンドのログ (LOGCLPGM)	88
照会メッセージ応答 (INQMSGRPY)	88
ジョブ待ち行列上での保留 (HOLD)	89
ジョブ日付 (DATE)	89
ジョブ・スイッチ (SWS)	90
MSG 待ち行列 (MSGQ)	90
分類順序 (SRTSEQ)	90
言語識別コード (LANGID)	91
国別または地域ID (CNTRYID)	91
コード化文字セットID (CCSID)	92
ジョブ・メッセージ待ち行列最大サイズ (JOBMSGQMX)	92
ジョブ・メッセージ待ち行列満杯処置 (JOBMSGQFL)	92
例	93
エラー・メッセージ	94
プログラム呼び出し (CALL)	95
パラメーター	96
プログラム (PGM)	96

パラメーター (PARM)	96
例	97
エラー・メッセージ	98
結合プロシージャの呼び出し (CALLPRC)	99
パラメーター	99
プロシージャ (PRC)	100
パラメーター (PARM)	100
戻された値のCL変数 (RTNVAL)	102
例	102
エラー・メッセージ	103
サブルーチンの呼び出し (CALLSUBR)	105
パラメーター	105
サブルーチン (SUBR)	105
戻された値のCL変数 (RTNVAL)	106
例	106
エラー・メッセージ	106
現行ディレクトリーの変更 (CD)	107
パラメーター	107
ディレクトリー (DIR)	108
例	108
エラー・メッセージ	108
装置媒体ライブラリーの構成 (CFGDEVMLB)	111
パラメーター	111
ライブラリー装置 (DEV)	112
アダプター・タイプ (ADPTTYPE)	112
通信資源名 (RSRCNAME)	112
プロトコル (PROTOCOL)	112
回線記述 (LIND)	113
リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)	113
LAN リモート・アダプター・アドレス (ADPTADR)	113
ロボット・ホスト (ROBOTHOST)	114
ローカルIPアドレス (LCLINTNETA)	114
例	114
エラー・メッセージ	116
配布サービス構成 (CFGDSTSRV)	119
パラメーター	119
メニュー・オプション (OPTION)	119
例	120
エラー・メッセージ	120
IP OVER SNAの構成 (CFGIPS)	121
パラメーター	121
例	121
エラー・メッセージ	121
パフォーマンス収集の構成 (CFGPFRCOL)	123

パラメーター	123	エラー・メッセージ	149
省略時の間隔 (INTERVAL)	123	TCP/IP ROUTEDの構成 (CFGTCPRTD)	151
収集ライブラリー (LIB)	124	パラメーター	151
省略時収集プロファイル (DFTCOLPRF)	124	例	151
サイクル・タイム (CYCTIME)	125	エラー・メッセージ	151
サイクル間隔 (CYCITY)	125	TCP/IP SNMPの構成 (CFGTCPSNMP)	153
収集保存期間 (RETPERIOD)	125	パラメーター	153
データベース・ファイルの作成 (CRTDBF)	126	例	153
パフォーマンス・サマリーの作成 (CRTPFRSUM)	126	エラー・メッセージ	154
PMエージェント・ライブラリーの変更 (CHGPMLIB)	127	現行ディレクトリーの変更 (CHDIR)	155
標準データ保存 (日数) (STDDTARET)	127	パラメーター	155
例	127	ディレクトリー (DIR)	156
エラー・メッセージ	128	例	156
PMエージェント構成 (CFGPM400)	129	エラー・メッセージ	156
パラメーター	130	アカウント・コード変更 (CHGACGCDE)	159
例	130	パラメーター	159
エラー・メッセージ	131	ジョブ名 (JOB)	160
PMエージェント構成 (CFGPMAGT)	133	アカウント・コード (ACGCDE)	160
パラメーター	134	重複ジョブ・オプション (DUJOB OPT)	160
例	134	例	161
エラー・メッセージ	135	エラー・メッセージ	161
PMエージェント行の構成 (CFGPMLIN)	137	活動プロファイル・リスト変更 (CHGACTPRFL)	163
パラメーター	137	パラメーター	164
例	137	ユーザー・プロファイル (USRPRF)	164
エラー・メッセージ	138	処置 (ACTION)	165
システム機密保護の構成 (CFGSYSSEC)	139	例	165
パラメーター	139	エラー・メッセージ	165
例	139	活動化スケジュール項目の変更 (CHGACTSCDE)	167
エラー・メッセージ	140	パラメーター	167
TCP/IPの構成 (CFGTCP)	141	ユーザー・プロファイル (USRPRF)	168
パラメーター	141	時刻の活動化 (ENBTIME)	168
例	141	時刻の非活動化 (DSBTIME)	168
エラー・メッセージ	141	日数 (DAYS)	168
TCP/IPアプリケーションの構成 (CFGTCPAPP)	143	例	169
パラメーター	143	エラー・メッセージ	169
アプリケーション (APP)	143	自動開始ジョブ項目変更 (CHGAJE)	171
例	145	パラメーター	171
エラー・メッセージ	145	サブシステム記述 (SBSD)	171
TCP/IP BOOTPの構成 (CFGTCBP)	147	ジョブ名 (JOB)	172
パラメーター	147	ジョブ記述 (JOB D)	172
例	147	例	173
エラー・メッセージ	147	エラー・メッセージ	173
POINT-TO-POINT TCPIPの構成 (CFGTCPPTP)	149	警報処置項目の変更 (CHGALRACNE)	175
パラメーター	149	パラメーター	175
例	149		

フィルター (FILTER)	175
グループ (GROUP)	176
警報の記録 (LOG)	176
ユーザー割り当て (ASNUSER)	176
システムへ送信 (SEND)	177
データ待ち行列に送信 (SNDDTAQ)	177
SNMPトラップの生成 (GENTRAP)	178
例	178
エラー・メッセージ	178

警報記述の変更 (CHGALRD) 181

パラメーター	181
メッセージ識別コード (MSGID)	182
警報テーブル (ALRTBL)	182
警報タイプ (ALRTYPE)	182
警報記述コード・ポイント (ALRD)	183
推定原因コード・ポイント (PBLCAUSE)	183
原因 (CAUSE)	183
好ましい処置 (ACTION)	185
例	187
エラー・メッセージ	187

警報選択項目の変更 (CHGALRSLTE) 189

パラメーター	189
フィルター (FILTER)	189
順序番号 (SEQNBR)	190
選択データ (SELECT)	190
グループ (GROUP)	193
例	194
エラー・メッセージ	194

警報テーブルの変更 (CHGALRTBL) 197

パラメーター	197
警報テーブル (ALRTBL)	197
プロダクト (LICPGM)	198
ライセンス・プログラムのテキスト (LICPGMTXT)	198
テキスト記述 (TEXT)	198
例	199
エラー・メッセージ	199

ASP属性の変更 (CHGASPA) 201

パラメーター	201
ASP番号 (ASP)	201
ASP装置 (ASPDEV)	202
圧縮回復ポリシー (CPRRCYPCY)	202
例	203
エラー・メッセージ	203

ASP 活動の変更 (CHGASPACT) 205

パラメーター	205
ASP装置 (ASPDEV)	205
オプション (OPTION)	206
延期タイムアウト (SSPTIMO)	206
延期タイムアウト処置 (SSPTIMOACN)	206
例	206
エラー・メッセージ	207

属性変更 (CHGATR) 209

パラメーター	212
オブジェクト (OBJ)	213
属性 (ATR)	213
新しい値 (VALUE)	220
ディレクトリーのサブツリー (SUBTREE)	221
シンボリック・リンク (SYMLNK)	221
例	222
エラー・メッセージ	222

監査値変更 (CHGAUD) 223

パラメーター	223
オブジェクト (OBJ)	223
オブジェクト監査値 (OBJAUD)	224
ディレクトリーのサブツリー (SUBTREE)	224
シンボリック・リンク (SYMLNK)	225
例	225
エラー・メッセージ	227

権限の変更 (CHGAUT) 231

パラメーター	232
オブジェクト (OBJ)	233
ユーザー (USER)	233
新しいデータ権限 (DTAAUT)	233
新しいオブジェクト権限 (OBJAUT)	234
権限リスト (AUTL)	235
ディレクトリーのサブツリー (SUBTREE)	235
シンボリック・リンク (SYMLNK)	236
例	236
エラー・メッセージ	238

権限リスト項目の変更 (CHGAUTLE) 241

パラメーター	241
権限リスト (AUTL)	242
ユーザー (USER)	242
権限 (AUT)	242
例	244
エラー・メッセージ	244

バックアップ・オプション変更 (CHGBCKUP) 247

パラメーター	247
バックアップ・オプション (BCKUPOPT)	247
装置 (DEV)	248
テープ・セット (TAPSET)	248
テープの消去 (CLRTAP)	248
バッチへの投入 (SBMJOB)	249
変更済みオブジェクトのみ (CHGONLY)	249
詳細報告書の印刷 (PRTRPT)	249
ライブラリー (LIB)	250
フォルダー (FLR)	250
ディレクトリー (DIR)	251
機密保護データの保管 (SECDDTA)	251
構成データの保管 (CFG)	251
メールの保管 (MAIL)	251
予定表データの保管 (CAL)	252

ユーザー出口プログラム (EXITPGM)	252
例	252
エラー・メッセージ	253

BOOTP属性の変更 (CHGBPA) 255

パラメーター	255
自動開始サーバー (AUTOSTART)	255
例	256
エラー・メッセージ	256

コード化フォントの変更 (CHGCDEFNT) 257

パラメーター	257
コード化フォント (CDEFNT)	257
フォント文字セット (FNTCHRSET)	258
常駐フォント (RESFNT)	258
例	258
エラー・メッセージ	259

構成リスト変更 (CHGCFGL) 261

パラメーター	261
構成リスト・タイプ (TYPE)	263
構成リスト (CFGL)	263
省略時のフィルター処置 (DFTFTRACN)	264
APPN リモート CFGL フィルター (APPNRMTR)	264
テキスト'記述' (TEXT)	264
APPN ローカル・ロケーション項目 (APPNLCLC)	265
APPN リモート・ロケーション項目 (APPNRMTE)	265
非同期ネットワーク・アドレス項目 (ASYNCADRE)	267
非同期リモート・ロケーション項目 (ASYNCLOCE)	268
小売業パススルー項目 (RTLPASTHRE)	269
例	269
エラー・メッセージ	269

構成リスト項目の変更 (CHGCFGLE) 271

パラメーター	271
構成リスト・タイプ (TYPE)	271
SNAパススルー・グループ名 (GRPNAME)	272
SNAパススルー装置記述 (DEV)	272
項目 '記述' (TEXT)	272
SNAパススルー項目 (SNAPASTHRE)	272
例	273
エラー・メッセージ	273

クリーンアップの変更 (CHGCLNUP) 275

パラメーター	275
クリーンアップ可能 (ALWCLNUP)	276
毎日のクリーンアップ開始時刻 (STRTIME)	276
ユーザー・メッセージ (USRMSG)	277
システムおよびワークスション・メッセージ (SYSMSG)	277
重大なシステム・メッセージ (CRITSYSMSG)	277
ジョブ・ログおよびシステム出力 (SYSPRT)	278
システムのジャーナルおよびログ (SYSLOG)	278
ジョブ待ち行列 (JOBQ)	280
ジャーナル・レシーバー・サイズ (JRNRCVSIZ)	281
オフィス予定表項目 (CALITM)	281

実行優先順位 (RUNPTY)	281
例	282
エラー・メッセージ	282

クラスの変更 (CHGCLS) 285

パラメーター	285
クラス (CLS)	286
実行優先順位 (RUNPTY)	286
タイム・スライス (TIMESLICE)	287
除去適格 (PURGE)	287
省略時の待ち時間 (DFTWAIT)	287
最大CPU時間 (CPUTIME)	288
最大一時記憶域 (MAXTMPSTG)	288
最大スレッド数 (MAXTHD)	289
テキスト'記述' (TEXT)	289
例	289
エラー・メッセージ	289

クラスター回復の変更 (CHGCLURCY) 291

パラメーター	292
クラスター (CLUSTER)	292
クラスター資源グループ (CRG)	292
ノードID (NODE)	292
処置 (ACTION)	293
例	293
エラー・メッセージ	294

コマンド変更 (CHGCMD) 297

パラメーター	297
コマンド (CMD)	299
コマンドを処理するプログラム (PGM)	299
REXXソース・ファイル (REXSRFILE)	300
REXXソース・メンバー (REXSRMBR)	300
REXXコマンド環境 (REXCMDENV)	301
REXX出口プログラム (REXEXITPGM)	301
妥当性検査プログラム (VLCKR)	303
有効なモード (MODE)	303
実行可能な環境 (ALLOW)	304
制限ユーザー可能 (ALWMTUSR)	305
ヘルプ・ブックシェルフ (HLPshelf)	305
ヘルプ・パネル・グループ (HLPPNLGRP)	305
ヘルプ識別コード (HLPID)	306
ヘルプ検索見出し (HLPschIDX)	306
現行ライブラリー (CURLIB)	306
実行ライブラリー (PRDLIB)	307
プロンプト一時変更プログラム (PMTOVRPGM)	308
テキスト'記述' (TEXT)	308
GUI使用可能 (ENBGUI)	309
例	309
エラー・メッセージ	309

コマンド省略時値変更 (CHGCMDDF) 311

パラメーター	312
コマンド (CMD)	312
新しい省略時パラメーター・ストリング (NEWDF)	313
例	313

エラー・メッセージ	314
通信項目変更 (CHGCMNE)	315
パラメーター	315
サブシステム記述 (SBSD)	316
装置 (DEV)	316
リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)	317
ジョブ記述 (JOBDD)	318
省略時ユーザー・プロファイル (DFTUSR)	318
モード (MODE)	319
活動ジョブの最大数 (MAXACT)	319
例	319
エラー・メッセージ	320

連絡先情報の変更 (CHGCNTINF)	321
パラメーター	321
会社 (CMPNY)	322
担当者 (CONTACT)	322
カスタマー番号 (CUSTOMER)	322
契約番号 (CONTRACT)	323
連絡先電話番号 (TELNBR)	323
FAX電話番号 (FAXTELNBR)	324
住所 (MAILADDR)	324
各国語バージョン (LNGVER)	325
電子メール・アドレス (EMAILADDR)	326
PTFの媒体 (MEDPTF)	326
セントラル・サイト・サポートの呼び出し (CALLCSS)	326
例	327
エラー・メッセージ	327

SNMP用コミュニティの変更 (CHGCOMSNMP)	329
パラメーター	329
コミュニティ名 (COM)	329
コミュニティ名の変換 (ASCIICOM)	330
管理機能IPアドレス (INTNETADR)	330
オブジェクト・アクセス (OBJACC)	330
SET要求のログ (LOGSET)	331
GET要求のログ (LOGGET)	331
例	331
エラー・メッセージ	332

サービス・クラス記述変更 (CHGCOSD)	333
パラメーター	333
サービス・クラス記述 (COSD)	349
送信優先順位 (TMSPTY)	349
回線の1行目 (ROW1LINE)	349
ノードの1行目 (ROW1NODE)	351
回線の2行目 (ROW2LINE)	352
ノードの2行目 (ROW2NODE)	354
回線の3行目 (ROW3LINE)	354
ノードの3行目 (ROW3NODE)	356
回線の4行目 (ROW4LINE)	357
ノードの4行目 (ROW4NODE)	358
回線の5行目 (ROW5LINE)	359

ノードの5行目 (ROW5NODE)	361
回線の6行目 (ROW6LINE)	361
ノードの6行目 (ROW6NODE)	363
回線の7行目 (ROW7LINE)	364
ノードの7行目 (ROW7NODE)	366
回線の8行目 (ROW8LINE)	366
ノードの8行目 (ROW8NODE)	368
テキスト記述 (TEXT)	369
例	369
エラー・メッセージ	369

CRQ記述の変更 (CHGCRQD)	371
パラメーター	371
要求記述の変更 (CRQD)	371
ユーザー・プロファイル (USRPRF)	372
問題識別コード (PRBID)	372
問題の起点 (PRBORG)	372
テキスト記述 (TEXT)	373
例	373
エラー・メッセージ	373

通信サイド情報の変更 (CHGCSI)	375
パラメーター	375
サイド情報 (CSI)	375
リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)	376
トランザクション・プログラム (TNSPGM)	376
テキスト記述 (TEXT)	376
装置 (DEV)	377
ローカル・ロケーション (LCLLOCNAME)	377
モード (MODE)	377
リモート・ネットワーク 識別コード (RMTNETID)	378
例	378
エラー・メッセージ	378

制御装置記述の変更 (APPC) (CHGCTLAPPC)	379
パラメーター	379
制御装置記述 (CTLD)	383
IPL時のオンライン (ONLINE)	383
交換網バックアップ活動化 (ACTSNBU)	383
APPN可能 (APPN)	384
リモートIPアドレス (RMTINTNETA)	384
ローカルIPアドレス (LCLINTNETA)	385
LDLCタイマー (LDLCTMR)	386
LDLCリンク速度 (LDLCLNKSPD)	386
LDLC送信グループ (LDLCTMSGRP)	388
交換回線リスト (SWTLINLST)	389
文字コード (CODE)	390
最大フレーム・サイズ (MAXFRAME)	390
リモート・ネットワーク 識別コード (RMTNETID)	391
リモート制御点 (RMTCPNAME)	391
リモート・システム名 (RMTSYSNAME)	392
SSCP識別コード (SSCPID)	392
初期接続 (INLCNN)	392
ダイヤル開始 (DIALINIT)	393
接続番号 (CNNNBR)	394

返答番号 (ANSNBR)	394
発信接続リスト (CNLSTOUT)	394
接続リスト項目 (CNLSTOUTE)	395
IDLCウィンドウ・サイズ (IDLCWDWSIZ)	395
IDLCフレーム再試行 (IDLCFRMRTY)	396
IDLC応答タイマー (IDLCRSPTMR)	396
IDLC接続再試行 (IDLCCNNRTY)	397
事前ダイヤル呼び出し遅延 (PREDIALDLY)	397
再ダイヤル呼び出し遅延 (REDIALDLY)	397
ダイヤル呼び出し再試行 (DIALRTY)	398
交換回線切断 (SWTDSC)	398
切断タイマー (DSCTMR)	399
SHM切断限界 (SHMDSCLMT)	399
SHM切断タイマー (SHMDSCTMR)	400
端末アドレス (STNADR)	400
SDLCポーリング優先順位 (POLLPTY)	400
SDLCポーリング限界 (POLLLMT)	401
SDLC出力限界 (OUTLMT)	401
SDLC接続ポーリング再試行 (CNNPOLLRTY)	402
SDLC NDM ポーリング・タイマー (NDMPOLLTMR)	402
LAN リモート・アダプター・アドレス (ADPTADR)	403
LAN DSAP (DSAP)	403
LAN SSAP (SSAP)	403
LANフレーム再試行 (LANFRMRTY)	404
LAN接続再試行 (LANCNRRTY)	404
LAN応答タイマー (LANRSPTMR)	405
LAN接続タイマー (LANCNNTMR)	405
LAN肯定応答タイマー (LANACKTMR)	406
LAN非活動タイマー (LANINACTMR)	406
LAN肯定応答頻度 (LANACKFRQ)	407
LAN最大未処理フレーム数 (LANMAXOUT)	407
LANアクセス優先順位 (LANACCPTY)	407
LANウィンドウ・ステップ (LANWDWSTP)	408
X.25ネットワーク・レベル (NETLVL)	408
X.25 リンク・レベル・プロトコル (LINKPCL)	409
X.25接続パスワード (CNNPWD)	409
X.25交換回線選択 (SWTLINSLCT)	410
X.25省略時のパケット・サイズ (DFTPKTSIZE)	410
X.25省略時のウィンドウ・サイズ (DFTWDWSIZE)	411
X.25 ユーザー・グループ識別コード (USRGRPID)	412
X.25着信課金 (RVSCRG)	413
X.25フレーム再試行 (X25FRMRTY)	413
X.25接続再試行 (X25CNRRTY)	414
X.25応答タイマー (X25RSPTMR)	414
X.25接続タイマー (X25CNNTMR)	414
X.25遅延接続タイマー (X25DLYTMR)	415
X.25肯定応答タイマー (X25ACKTMR)	415
X.25非活動タイマー (X25INACTMR)	415
ユーザー機能 (USRFL)	416
APPN CPセッション・サポート (CPSSN)	416
リモートAPPNノードのタイプ (NODETYPE)	416
分岐拡張の役割 (BEXROLE)	417
APPN/HPR使用可能 (HPR)	417
HPRパス・スイッチ (HPRPTHSWT)	418

APPN伝送グループ番号 (TMSGRPNBR)	418
APPN最小交換状況 (MINSWTSTS)	419
装置の自動作成 (AUTOCRTDEV)	419
自動装置削除 (AUTODLTDEV)	420
ユーザー定義1 (USRDFN)	420
ユーザー定義2 (USRDFN)	420
ユーザー定義3 (USRDFN)	421
回復限界 (CMNRCYLMT)	421
MSG 待ち行列 (MSGQ)	422
モデル制御装置記述 (MDLCTL)	422
接続ネットワークID (CNNNETID)	423
接続ネットワークCP (CNNCPNAME)	423
制御所有者 (CTLOWN)	424
テキスト'記述' (TEXT)	424
例	425
エラー・メッセージ	425

制御装置記述の変更(非同期)

(CHGCTLASC) 427

パラメーター	427
制御装置記述 (CTLD)	428
IPL時のオンライン (ONLINE)	428
交換網バックアップ活動化 (ACTSNBU)	429
交換回線リスト (SWTLINLST)	429
初期接続 (INLCNN)	429
接続番号 (CNNNBR)	430
返答番号 (ANSNBR)	430
事前ダイヤル呼び出し遅延 (PREDIALDLY)	431
再ダイヤル呼び出し遅延 (REDIALDLY)	431
ダイヤル呼び出し再試行 (DIALRTY)	431
交換回線切断 (SWTDSC)	432
ファイル転送肯定応答タイマー (ACKTMR)	432
ファイル転送再試行 (RETRY)	433
リモート検査 (RMTVIFY)	433
ローカル・ロケーション (LCLLOCNAME)	433
ローカル識別コード (LCLID)	434
PADエミュレーション (PADEML)	434
X.25交換回線選択 (SWTLINSLCT)	435
X.25省略時のパケット・サイズ (DFTPKTSIZE)	435
X.25省略時のウィンドウ・サイズ (DFTWDWSIZE)	436
X.25 ユーザー・グループ識別コード (USRGRPID)	437
X.25着信課金 (RVSCRG)	437
ユーザー機能 (USRFL)	438
回復限界 (CMNRCYLMT)	438
MSG 待ち行列 (MSGQ)	439
テキスト'記述' (TEXT)	439
例	439
エラー・メッセージ	440

制御装置記述の変更(BSC)

(CHGCTLBSC) 441

パラメーター	441
制御装置記述 (CTLD)	442
IPL時のオンライン (ONLINE)	442
交換網バックアップ活動化 (ACTSNBU)	442
交換回線リスト (SWTLINLST)	443

初期接続 (INLCNN)	443
接続番号 (C>NNNBR)	444
事前ダイヤル呼び出し遅延 (PREDIALDLY)	444
再ダイヤル呼び出し遅延 (REDIALDLY)	444
ダイヤル呼び出し再試行 (DIALRTY)	445
ローカル識別コード (LCLID)	445
リモート識別コード (RMTID)	445
RJEホスト・タイプ (RJEHOST)	446
RJE ホスト・サインオン/ログオン (RJELOGON)	447
回復限界 (CMNRCYLMT)	447
テキスト'記述' (TEXT)	448
例	448
エラー・メッセージ	448

制御装置記述変更 (金融機関)

(CHGCTLFNC) 449

パラメーター	449
制御装置記述 (CTLD)	451
IPL時のオンライン (ONLINE)	451
交換網バックアップ活動化 (ACTSNBU)	451
交換回線リスト (SWTLINLST)	452
文字コード (CODE)	452
最大フレーム・サイズ (MAXFRAME)	453
SSCP識別コード (SSCPID)	454
初期接続 (INLCNN)	454
接続番号 (C>NNNBR)	455
返答番号 (ANSNBR)	455
事前ダイヤル呼び出し遅延 (PREDIALDLY)	455
再ダイヤル呼び出し遅延 (REDIALDLY)	456
ダイヤル呼び出し再試行 (DIALRTY)	456
交換回線切断 (SWTDSC)	456
SHM切断限界 (SHMDSCLMT)	457
SHM切断タイマー (SHMDSCTMR)	457
端末アドレス (STNADR)	458
SDLCポーリング優先順位 (POLLPTY)	458
SDLCポーリング限界 (POLLMT)	458
SDLC出力限界 (OUTLMT)	459
SDLC接続ポーリング再試行 (CNNPOLLRTY)	459
SDLC NDM ポーリング・タイマー (NDMPOLLTMR)	460
LAN リモート・アダプター・アドレス (ADPTADR)	460
LAN DSAP (DSAP)	460
LAN SSAP (SSAP)	461
LANフレーム再試行 (LANFRMRTY)	461
LAN接続再試行 (LANC>NNRTY)	462
LAN応答タイマー (LANRSPTMR)	462
LAN接続タイマー (LANC>NNTMR)	463
LAN肯定応答タイマー (LANACKTMR)	463
LAN非活動タイマー (LANINACTMR)	464
LAN肯定応答頻度 (LANACKFRQ)	464
LAN最大未処理フレーム数 (LANMAXOUT)	464
LANアクセス優先順位 (LANACCPTY)	465
LANウィンドウ・ステップ (LANWDWSTP)	465
X.25ネットワーク・レベル (NETLVL)	466
X.25 リンク・レベル・プロトコル (LINKPCL)	466

X.25接続パスワード (CNNPWD)	467
X.25交換回線選択 (SWTLINSLCT)	467
X.25省略時のパケット・サイズ (DFTPKTSIZE)	468
X.25省略時のウィンドウ・サイズ (DFTWDWSIZE)	469
X.25 ユーザー・グループ識別コード (USRGRPID)	470
X.25着信課金 (RVSCRG)	470
X.25フレーム再試行 (X25FRMRTY)	471
X.25接続再試行 (X25C>NNRTY)	471
X.25応答タイマー (X25RSPTMR)	471
X.25接続タイマー (X25C>NNTMR)	472
X.25遅延接続タイマー (X25DLTYTMR)	472
X.25肯定応答タイマー (X25ACKTMR)	472
X.25非活動タイマー (X25INACTMR)	473
ユーザー機能 (USRFCL)	473
回復限界 (CMNRCYLMT)	473
テキスト'記述' (TEXT)	474
例	474
エラー・メッセージ	474

制御装置記述の変更(SNA ホスト)

(CHGCTLHOST) 475

パラメーター	475
制御装置記述 (CTLD)	478
IPL時のオンライン (ONLINE)	478
交換網バックアップ活動化 (ACTSNBU)	478
APPN可能 (APPN)	479
交換回線リスト (SWTLINLST)	479
文字コード (CODE)	480
最大フレーム・サイズ (MAXFRAME)	480
リモート・ネットワーク 識別コード (RMTNETID)	481
リモート制御点 (RMTCPNAME)	481
隣接リンク端末 (ADJLNKSTN)	482
SSCP識別コード (SSCPID)	482
初期接続 (INLCNN)	483
ダイヤル開始 (DIALINIT)	483
接続番号 (C>NNNBR)	484
返答番号 (ANSNBR)	484
発信接続リスト (CNNLSTOUT)	485
接続リスト項目 (CNNLSTOUTE)	485
IDLCウィンドウ・サイズ (IDLCWDWSIZ)	485
IDLCフレーム再試行 (IDLCFRMRTY)	486
IDLC応答タイマー (IDLCRSPTMR)	486
IDLC接続再試行 (IDLCC>NNRTY)	487
事前ダイヤル呼び出し遅延 (PREDIALDLY)	487
再ダイヤル呼び出し遅延 (REDIALDLY)	488
ダイヤル呼び出し再試行 (DIALRTY)	488
交換回線切断 (SWTDSC)	488
切断タイマー (DSCTMR)	489
端末アドレス (STNADR)	489
LAN リモート・アダプター・アドレス (ADPTADR)	490
LAN DSAP (DSAP)	490
LAN SSAP (SSAP)	490
LANフレーム再試行 (LANFRMRTY)	491
LAN接続再試行 (LANC>NNRTY)	491
LAN応答タイマー (LANRSPTMR)	492

LAN接続タイマー (LANCNTMR)	492
LAN肯定応答タイマー (LANACKTMR)	493
LAN非活動タイマー (LANINACTMR)	493
LAN肯定応答頻度 (LANACKFRQ)	494
LAN最大未処理フレーム数 (LANMAXOUT)	494
LANアクセス優先順位 (LANACCPTY)	494
LANウィンドウ・ステップ (LANWDWSTP)	495
X.25ネットワーク・レベル (NETLVL)	495
X.25 リンク・レベル・プロトコル (LINKPCL)	496
X.25接続パスワード (CNNPWD)	496
X.25交換回線選択 (SWTLINSLCT)	497
X.25省略時のパケット・サイズ (DFTPKTSIZE)	497
X.25省略時のウィンドウ・サイズ (DFTWDWSIZE)	498
X.25 ユーザー・グループ識別コード (USRGRPID)	499
X.25着信課金 (RVSCRG)	500
X.25フレーム再試行 (X25FRMRTY)	500
X.25応答タイマー (X25RSPTMR)	501
X.25肯定応答タイマー (X25ACKTMR)	501
X.25非活動タイマー (X25INACTMR)	501
ユーザー機能 (USRFLC)	501
APPN CPセッション・サポート (CPSSN)	502
リモートAPPNノードのタイプ (NODETYPE)	502
分岐拡張の役割 (BEXROLE)	503
APPN/HPR使用可能 (HPR)	503
HPRパス・スイッチ (HPRTHSWT)	504
APPN伝送グループ番号 (TMSGRPNBR)	504
APPN最小交換状況 (MINSWTSTS)	505
装置の自動作成 (AUTOCRTDEV)	505
自動装置削除 (AUTODLTDEV)	506
ユーザー定義1 (USRDFN)	506
ユーザー定義2 (USRDFN)	506
ユーザー定義3 (USRDFN)	507
回復限界 (CMNRCYLMT)	507
MSG 待ち行列 (MSGQ)	508
オフへの構成変更の再接続 (RECONTACT)	508
テキスト'記述' (TEXT)	509
1次DLUS名 (PRIDLUS)	509
バックアップDLUS名 (BKUDLUS)	510
30-2550 (秒) (ACTTMR)	511
切断/再接続タイマー(T309) (RECNNTMR)	512
例	512
エラー・メッセージ	512

制御装置記述の変更(ローカル WS)

(CHGCTLLWS)	513
パラメーター	513
制御装置記述 (CTLD)	514
資源名 (RSRCNAME)	514
IPL時のオンライン (ONLINE)	514
入出力装置待ちタイマー (DEVWAITTMR)	514
自動構成制御装置 (AUTOCFG)	515
初期設定ソース・ファイル (INZFILE)	515
初期設定ソース・メンバー (INZMBR)	516
初期設定プログラム (INZPGM)	516
MSG 待ち行列 (MSGQ)	517
テキスト'記述' (TEXT)	518

例	518
エラー・メッセージ	518

制御装置記述の変更(ネットワーク)

(CHGCTLNET)	519
パラメーター	519
制御装置記述 (CTLD)	519
IPL時のオンライン (ONLINE)	519
応答タイマーの接続 (CNNRSPTMR)	520
テキスト'記述' (TEXT)	520
例	520
エラー・メッセージ	521

制御装置記述の変更(小売業)

(CHGCTLRTL)	523
パラメーター	523
制御装置記述 (CTLD)	525
IPL時のオンライン (ONLINE)	525
交換網バックアップ活動化 (ACTSNBU)	525
交換回線リスト (SWTLINLST)	526
文字コード (CODE)	526
最大フレーム・サイズ (MAXFRAME)	527
SSCP識別コード (SSCPID)	527
初期接続 (INLCNN)	527
接続番号 (CNNNBR)	528
返答番号 (ANSNBR)	528
事前ダイヤル呼び出し遅延 (PREDIALDLY)	529
再ダイヤル呼び出し遅延 (REDIALDLY)	529
ダイヤル呼び出し再試行 (DIALRTY)	529
交換回線切断 (SWTDSC)	530
端末アドレス (STNADR)	530
SDLCポーリング優先順位 (POLLPTY)	530
SDLCポーリング限界 (POLLMT)	531
SDLC出力限界 (OUTLMT)	531
SDLC接続ポーリング再試行 (CNNPOLLRTY)	532
SDLC NDM ポーリング・タイマー (NDMPOLLTMR)	532
LAN リモート・アダプター・アドレス (ADPTADR)	533
LAN DSAP (DSAP)	533
LAN SSAP (SSAP)	533
LANフレーム再試行 (LANFRMRTY)	534
LAN接続再試行 (LANCNRTY)	534
LAN応答タイマー (LANRSPTMR)	535
LAN接続タイマー (LANCNTMR)	535
LAN肯定応答タイマー (LANACKTMR)	535
LAN非活動タイマー (LANINACTMR)	536
LAN肯定応答頻度 (LANACKFRQ)	536
LAN最大未処理フレーム数 (LANMAXOUT)	537
LANアクセス優先順位 (LANACCPTY)	537
LANウィンドウ・ステップ (LANWDWSTP)	538
X.25ネットワーク・レベル (NETLVL)	538
X.25接続パスワード (CNNPWD)	539
X.25交換回線選択 (SWTLINSLCT)	539
X.25省略時のパケット・サイズ (DFTPKTSIZE)	540
X.25省略時のウィンドウ・サイズ (DFTWDWSIZE)	541

X.25 ユーザー・グループ識別コード (USRGRPID)	541
X.25着信課金 (RVSCRG)	542
X.25フレーム再試行 (X25FRMRTY)	542
X.25接続再試行 (X25CNNRTY)	543
X.25応答タイマー (X25RSPTMR)	543
X.25接続タイマー (X25CNNTMR)	543
X.25遅延接続タイマー (X25DLTYTMR)	544
ユーザー機能 (USRFCL)	544
回復限界 (CMNRCYLMT)	545
テキスト'記述' (TEXT)	545
例	546
エラー・メッセージ	546

制御装置記述の変更(リモート WS) (CHGCTLRWS) 547

パラメーター	547
制御装置記述 (CTLD)	549
IPL時のオンライン (ONLINE)	550
交換網バックアップ活動化 (ACTSNBU)	550
交換回線リスト (SWTLINLST)	551
文字コード (CODE)	551
入出力装置待ちタイマー (DEVWAITTMR)	551
最大フレーム・サイズ (MAXFRAME)	552
リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)	552
ローカル・ロケーション (LCLLOCNAME)	553
リモート・ネットワーク 識別コード (RMTNETID)	553
SSCP識別コード (SSCPID)	553
初期接続 (INLCNN)	554
ダイヤル開始 (DIALINIT)	554
接続番号 (CNNNBR)	555
返答番号 (ANSNBR)	555
発信接続リスト (CNNLSTOUT)	556
接続リスト項目 (CNNLSTOUTE)	556
IDLCウィンドウ・サイズ (IDLCWDWSIZ)	556
IDLCフレーム再試行 (IDLCFRMRTY)	557
IDLC応答タイマー (IDLCRSPTMR)	557
IDLC接続再試行 (IDLCNNRTY)	558
事前ダイヤル呼び出し遅延 (PREDIALDLY)	558
再ダイヤル呼び出し遅延 (REDIALDLY)	559
ダイヤル呼び出し再試行 (DIALRTY)	559
SHM切断限界 (SHMDSCLMT)	559
SHM切断タイマー (SHMDSCTMR)	560
端末アドレス (STNADR)	560
SDLCポーリング優先順位 (POLLPTY)	560
SDLCポーリング限界 (POLLMT)	561
SDLC出力限界 (OUTLMT)	561
SDLC接続ポーリング再試行 (CNNPOLLRTY)	562
SDLC NDM ポーリング・タイマー (NDMPOLLTMR)	562
LAN リモート・アダプター・アドレス (ADPTADR)	563
LAN DSAP (DSAP)	563
LAN SSAP (SSAP)	563
LANフレーム再試行 (LANFRMRTY)	564
LAN接続再試行 (LANCNNRTY)	564
LAN応答タイマー (LANRSPTMR)	565

LAN接続タイマー (LANCNNTMR)	565
LAN肯定応答タイマー (LANACKTMR)	566
LAN非活動タイマー (LANINACTMR)	566
LAN肯定応答頻度 (LANACKFRQ)	567
LAN最大未処理フレーム数 (LANMAXOUT)	567
LANアクセス優先順位 (LANACCPTY)	567
LANウィンドウ・ステップ (LANWDWSTP)	568
X.25ネットワーク・レベル (NETLVL)	568
X.25 リンク・レベル・プロトコル (LINKPCL)	569
X.25接続パスワード (CNNPWD)	569
X.25交換回線選択 (SWTLINLCT)	570
X.25省略時のパケット・サイズ (DFTPKTSIZE)	570
X.25省略時のウィンドウ・サイズ (DFTWDWSIZE)	571
X.25 ユーザー・グループ識別コード (USRGRPID)	572
X.25着信課金 (RVSCRG)	573
X.25フレーム再試行 (X25FRMRTY)	573
X.25接続再試行 (X25CNNRTY)	574
X.25応答タイマー (X25RSPTMR)	574
X.25接続タイマー (X25CNNTMR)	574
X.25遅延接続タイマー (X25DLTYTMR)	575
X.25肯定応答タイマー (X25ACKTMR)	575
X.25非活動タイマー (X25INACTMR)	575
ユーザー機能 (USRFCL)	576
割り振り再試行タイマー (ALCRTYTMR)	576
装置の自動作成 (AUTOCRTDEV)	576
交換回線切断 (SWTDSC)	577
回復限界 (CMNRCYLMT)	577
MSG 待ち行列 (MSGQ)	578
テキスト'記述' (TEXT)	578
例	578
エラー・メッセージ	579

制御装置記述の変更 (テープ) (CHGCTLTAP) 581

パラメーター	581
制御装置記述 (CTLD)	581
資源名 (RSRCNAME)	581
IPL時のオンライン (ONLINE)	582
自動構成制御装置 (AUTOCFG)	582
テキスト'記述' (TEXT)	583
例	583
エラー・メッセージ	583

制御装置記述の変更 (仮想WS) (CHGCTLVWS) 585

パラメーター	585
制御装置記述 (CTLD)	585
IPL時のオンライン (ONLINE)	585
入出力装置待ちタイマー (DEVWAITTMR)	586
MSG 待ち行列 (MSGQ)	586
テキスト'記述' (TEXT)	587
例	587
エラー・メッセージ	587

現行ディレクトリーの変更 (CHGCURDIR) 589

パラメーター	589
ディレクトリー (DIR)	590
例	590
エラー・メッセージ	590

現行ライブラリー変更 (CHGCURLIB) 593

パラメーター	593
現行ライブラリー (CURLIB)	593
例	593
エラー・メッセージ	594

デバッグ変更 (CHGDBG) 595

パラメーター	595
省略時のプログラム (DFTPGM)	595
最大トレース・ステートメント数 (MAXTRC)	596
トレース・データ満杯時の処理 (TRCFULL)	596
実動ファイルの更新 (UPDPROD)	597
OPMソース・レベル・デバッグ (OPMSRC)	597
例	598
エラー・メッセージ	598

DDMファイル変更 (CHGDDMF) 599

パラメーター	599
DDMファイル (FILE)	600
リモート・ファイル (RMTFILE)	600
リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)	601
レコード様式レベルの検査 (LVLCHK)	603
リレーショナル・データベース (RDB)	603
テキスト'記述' (TEXT)	603
装置 (DEV)	604
ローカル・ロケーション (LCLLOCNAME)	604
モード (MODE)	605
リモート・ネットワーク 識別コード (RMTNETID)	605
ポート番号 (PORT)	606
アクセス方式 (ACCMTH)	606
オープン・データ・パス共用 (SHARE)	608
保護された会話 (PTCCNV)	608
例	608
エラー・メッセージ	609

DDM TCP/IP属性の変更

(CHGDDMTCPA) 611

パラメーター	611
サーバーの自動開始 (AUTOSTART)	611
最低認証方式 (PWDRQD)	612
例	613
エラー・メッセージ	613

装置記述の変更(APPC)

(CHGDEVAPPC) 615

パラメーター	615
装置記述 (DEV D)	615
IPL時のオンライン (ONLINE)	616
モード (MODE)	616
MSG 待ち行列 (MSGQ)	616
ローカル・ロケーション・アドレス (LOCADR)	617

単一セッション (SNGSSN)	617
ローカル制御セッション (LCLCTLSSN)	618
事前確立セッション (PREESTSSN)	618
ロケーション・パスワード (LOCPWD)	619
保護ロケーション (SECURELOC)	619
テキスト'記述' (TEXT)	620
例	620
エラー・メッセージ	620

装置記述の変更 (非同期)

(CHGDEVASC) 621

パラメーター	621
装置記述 (DEV D)	621
IPL時のオンライン (ONLINE)	621
テキスト'記述' (TEXT)	622
例	622
エラー・メッセージ	622

装置記述の変更(ASP) (CHGDEVASP) 623

パラメーター	623
装置記述 (DEV D)	623
資源名 (RSRCNAME)	623
リレーショナル・データベース (RDB)	624
MSG 待ち行列 (MSGQ)	624
テキスト'記述' (TEXT)	625
例	625
エラー・メッセージ	625

装置記述の変更(BSC) (CHGDEVBSC) 627

パラメーター	627
装置記述 (DEV D)	629
ローカル・ロケーション・アドレス (LOCADR)	629
IPL時のオンライン (ONLINE)	629
回線争奪解消による回線獲得側 (CTNWIN)	629
ブロック化のタイプ (BLOCK)	630
区切り文字 (SEPCHAR)	631
リモートBSC (RMTBSC)	631
レコード長 (RCDLEN)	631
ブロックの長さ (BLKLEN)	632
透過モード伝送 (TRNSPY)	632
データの圧縮と圧縮解除 (DTACPR)	632
後書きブランクの切り捨て (TRUNC)	633
グループ区切りのタイプ (GRPSEP)	633
エミュレートされる入出力装置 (EMLDEV)	634
エミュレートされるキーボード (EMLKBD)	634
エミュレートされる数字ロック (EMLNUMLCK)	635
エミュレーション・ワークステーション (EMLWRKSTN)	635
テキスト'記述' (TEXT)	636
例	636
エラー・メッセージ	636

装置記述の変更 (暗号) (CHGDEVCRP) 637

パラメーター	637
装置記述 (DEV D)	637
資源名 (RSRCNAME)	638

適用業務タイプ (APPTYPE)	638
IPL時のオンライン (ONLINE)	638
MSG 待ち行列 (MSGQ)	639
PKAキー保管ファイル (PKAKEYFILE)	640
DESキー保管ファイル (DESKEYFILE)	640
テキスト'記述' (TEXT)	641
例	641
エラー・メッセージ	641

装置記述の変更 (表示装置)

(CHGDEVDSP) 643

パラメーター	643
装置記述 (DEV)	646
ポート番号 (PORT)	646
スイッチの設定値 (SWTSET)	646
共用セッション番号 (SHRSSNBR)	646
ローカル・ロケーション・アドレス (LOCADR)	647
IPL時のオンライン (ONLINE)	648
キーボード言語タイプ (KBDTYPE)	648
サインオフ時の回線切断 (DROP)	654
文字識別コード (CHRID)	654
カーソル明滅可能 (ALWBLN)	655
補助装置 (AUXDEV)	655
印刷装置 (PRTDEV)	656
出力待ち行列 (OUTQ)	656
印刷装置 (PRINTER)	657
印刷出力ファイル (PRTFILE)	657
要求単位の最大長 (MAXLENRU)	657
活動化タイマー (ACTTMR)	658
非活動タイマー (INACTTMR)	658
SNAパススルー装置記述 (SNPTDEV)	660
SNAパススルー・グループ名 (SNPTGRP)	660
ホスト・サイン・オン/ログオン・コマンド (LOGON)	660
回線速度 (LINESPEED)	661
語の長さ (WORDLEN)	661
パリティのタイプ (PARITY)	662
停止ビット (STOPBITS)	663
最大未処理フレーム数 (MAXOUT)	664
アイドル・タイマー (IDLTMR)	664
NRMポーリング・タイマー (NRMPOLLTMR)	664
フレーム再試行 (FRAMERTY)	665
リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)	665
ローカル・ロケーション (LCLLOCNAME)	665
リモート・ネットワーク 識別コード (RMTNETID)	666
DBCS機能 (IGCFEAT)	666
テキスト'記述' (TEXT)	667
ワークステーション・カスタマイズ・オブジェクト (WSCST)	667
例	668
エラー・メッセージ	668

装置記述の変更 (金融機関)

(CHGDEVFNC) 669

パラメーター	669
装置記述 (DEV)	669

ローカル・ロケーション・アドレス (LOCADR)	669
IPL時のオンライン (ONLINE)	670
要求単位の最大長 (MAXLENRU)	670
活動化タイマー (ACTTMR)	671
非活動タイマー (INACTTMR)	671
SNAパススルー装置記述 (SNPTDEV)	672
SNAパススルー・グループ名 (SNPTGRP)	672
テキスト'記述' (TEXT)	672
例	673
エラー・メッセージ	673

装置記述の変更(SNA ホスト)

(CHGDEVHOST) 675

パラメーター	675
装置記述 (DEV)	676
ローカル・ロケーション・アドレス (LOCADR)	676
IPL時のオンライン (ONLINE)	676
要求単位の最大長 (MAXLENRU)	677
エミュレートされる入出力装置 (EMLDEV)	677
エミュレートされるキーボード (EMLKBD)	678
エミュレートされる数字ロック (EMLNUMLCK)	678
エミュレーション・ワークステーション (EMLWRKSTN)	679
ホストとのセッション終了 (ENDSSNHOST)	679
テキスト'記述' (TEXT)	680
例	680
エラー・メッセージ	680

装置記述の変更(INTRA) (CHGDEVINTR) 681

パラメーター	681
装置記述 (DEV)	681
IPL時のオンライン (ONLINE)	681
テキスト'記述' (TEXT)	682
例	682
エラー・メッセージ	682

装置記述の変更 (媒体ライブラリー)

(CHGDEVMLB) 683

パラメーター	683
装置記述 (DEV)	683
装置クラス (DEVCLS)	684
資源名 (RSRCNAME)	684
IPL時のオンライン (ONLINE)	684
アンロード待機時間 (UNLOADWAIT)	685
装置待機最大時間 (MAXDEVTIME)	685
資源割り振り優先順位 (RSCALCPTY)	686
初期マウント待機時間 (INLMNTWAIT)	686
ボリューム・マウント終了待機時間 (EOVMNTWAIT)	687
カートリッジID生成 (GENCTGID)	687
ロボット装置記述 (ROBOTDEV)	688
ロボット・ホスト (ROBOTHOST)	688
ローカルIPアドレス (LCLINTNETA)	689
MSG 待ち行列 (MSGQ)	689
テキスト'記述' (TEXT)	690
例	690

エラー・メッセージ	690
装置記述の変更(ネットワーク)	
(CHGDEVNET)	691
パラメーター	691
装置記述 (DEVND)	691
IPL時のオンライン (ONLINE)	691
テキスト'記述' (TEXT)	692
例	692
エラー・メッセージ	692
装置記述の変更(NWSH)	
(CHGDEVNWSH)	693
パラメーター	693
装置記述 (DEVND)	694
資源名 (RSRCNAME)	694
ローカル (ターゲット) インターフェース (LCLIFC)	694
IPL時のオンライン (ONLINE)	697
MSG 待ち行列 (MSGQ)	698
回復限界 (CMNRCYLMT)	698
テキスト'記述' (TEXT)	699
例	699
エラー・メッセージ	699
装置記述の変更 (光ディスク)	
(CHGDEVOPT)	701
パラメーター	701
装置記述 (DEVND)	701
資源名 (RSRCNAME)	701
ローカルIPアドレス (LCLINTNETA)	702
リモートIPアドレス (RMTINTNETA)	702
ネットワーク・イメージ・ディレクトリー (NETIMGDIR)	703
ユーザーID番号 (UID)	703
グループID番号 (GID)	704
IPL時のオンライン (ONLINE)	704
MSG 待ち行列 (MSGQ)	704
テキスト'記述' (TEXT)	705
例	705
エラー・メッセージ	706
装置記述の変更 (印刷装置)	
(CHGDEVPRN)	707
パラメーター	707
装置記述 (DEVND)	711
LAN リモート・アダプター・アドレス (ADPTADR)	712
アダプター・タイプ (ADPTTYPE)	712
アダプター接続タイプ (ADPTCNNTYP)	712
拡張機能の印刷 (AFP)	713
ポート番号 (PORT)	713
スイッチの設定値 (SWTSET)	714
ローカル・ロケーション・アドレス (LOCADR)	714
IPL時のオンライン (ONLINE)	715
言語タイプ (LNGTYPE)	715

印刷品質 (PRTQLTY)	717
フォント識別コード (FONT)	718
用紙送り (FORMFEED)	719
区切り用紙入れ (SEPDRAWER)	719
セパレーター・プログラム (SEPPGM)	720
用紙入れの数 (NBRDRAWER)	721
印刷装置エラー・メッセージ (PRTRRMSG)	721
MSG 待ち行列 (MSGQ)	722
要求単位の最大長 (MAXLENRU)	723
非活動タイマー (INACTTMR)	723
SNAパススルー装置記述 (SNPTDEV)	725
SNAパススルー・グループ名 (SNPTGRP)	725
ホスト・サイン・オン/ログオン・コマンド (LOGON)	725
ペーシング値 (PACING)	726
回線速度 (LINESPEED)	726
語の長さ (WORDLEN)	727
パリティのタイプ (PARITY)	727
停止ビット (STOPBITS)	728
ホスト印刷の変換 (TRANSFORM)	729
メーカー・タイプ、型式 (MFRTPMDL)	729
用紙入れ 1 (PPSRC1)	735
用紙入れ 2 (PPSRC2)	737
エンベロープ・ソース (ENVELOPE)	738
ASCII コード・ページ 899 サポート (ASCII899)	739
イメージ構成 (IMGCFG)	739
保留中要求の最大数 (MAXPNDRQS)	742
変換中の印刷 (PRTCVT)	742
印刷要求タイマー (PRTRQSTMR)	742
書式定義 (FORMDF)	743
文字識別コード (CHRID)	743
リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)	744
ローカル・ロケーション (LCLLOCNAME)	744
モード (MODE)	744
DBCS機能 (IGCFEAT)	745
ユーザー定義オプション (USRDFNOPT)	746
ユーザー定義オブジェクト (USRDFNOBJ)	746
データ変換プログラム (USRDTATFM)	747
ユーザー定義ドライバー・プログラム (USRDRVPGM)	748
システム・ドライバー・プログラム (SYSDRVPGM)	748
保護接続 (SECURECNN)	749
妥当性検査リスト (VLDL)	750
テキスト'記述' (TEXT)	752
リモート・ネットワーク 識別コード (RMTNETID)	752
ワークステーション・カスタマイズ・オブジェクト (WSCST)	753
例	753
エラー・メッセージ	753
装置記述の変更 (小売業)	
(CHGDEVRTL)	755
パラメーター	755
装置記述 (DEVND)	755
ローカル・ロケーション・アドレス (LOCADR)	755
IPL時のオンライン (ONLINE)	756

ペーシング値 (PACING)	756
要求単位の最大長 (MAXLENRU)	756
適用業務タイプ (APPTYPE)	757
活動化タイマー (ACTTMR)	757
非活動タイマー (INACTTMR)	758
SNAパススルー装置記述 (SNPTDEV)	758
SNAパススルー・グループ名 (SNPTGRP)	758
テキスト'記述' (TEXT)	759
例	759
エラー・メッセージ	759

装置記述の変更(SNPT) (CHGDEVSNPT) 761

パラメーター	761
装置記述 (DEV)	761
ローカル・ロケーション・アドレス (LOCADR)	761
IPL時のオンライン (ONLINE)	762
活動化タイマー (ACTTMR)	762
SNAパススルー装置記述 (SNPTDEV)	762
SNAパススルー・グループ名 (SNPTGRP)	763
テキスト'記述' (TEXT)	763
例	763
エラー・メッセージ	764

装置記述の変更(SNUF)

(CHGDEVSNUF) 765

パラメーター	765
装置記述 (DEV)	766
ローカル・ロケーション・アドレス (LOCADR)	766
IPL時のオンライン (ONLINE)	766
プログラム開始要求可能 (PGMSTRRQS)	767
特別なホスト適用業務 (SPCHOSTAPP)	767
適用業務識別コード (APPID)	767
ホスト・タイプ (HOST)	768
レコード長 (RCDLEN)	768
ブロックの長さ (BLKLEN)	769
省略時のプログラム (DFTPGM)	769
HCPエミュレーション (HCPEML)	769
テキスト'記述' (TEXT)	770
例	770
エラー・メッセージ	770

装置記述の変更(テープ)

(CHGDEVTAP) 771

パラメーター	771
装置記述 (DEV)	771
資源名 (RSRCNAME)	771
IPL時のオンライン (ONLINE)	772
オンに構成変更時の装置割当て (ASSIGN)	772
オフに構成変更時の装置アンロード (UNLOAD)	773
MSG 待ち行列 (MSGQ)	773
テキスト'記述' (TEXT)	773
スイッチの設定値 (SWTSET)	774
例	774
エラー・メッセージ	774

DHCP属性の変更 (CHGDHCPA) 775

パラメーター	775
自動開始サーバー (AUTOSTART)	775
モード (MODE)	776
例	776
エラー・メッセージ	777

ディレクトリー項目変更 (CHGDIRE) 779

パラメーター	781
ユーザー識別コード (USRID)	782
ユーザー記述 (USRD)	783
ユーザー・プロファイル (USER)	783
システム名 (SYSNAME)	784
ネットワーク・ユーザーID (NETUSRID)	784
姓 (LSTNAM)	785
名 (FSTNAM)	785
ミドル・ネーム (MIDNAM)	785
優先名 (PREFNAM)	786
完全な名前 (FULNAM)	786
部門 (DEPT)	786
役職 (TITLE)	787
会社 (CMPNY)	787
電話番号1 (TELNBR1)	787
電話番号2 (TELNBR2)	788
FAX電話番号 (FAXTELNBR)	788
ロケーション (LOC)	788
ビルディング (BLDG)	788
オフィス (OFC)	789
住所行1 (ADDR1)	789
住所行2 (ADDR2)	789
住所行3 (ADDR3)	790
住所行4 (ADDR4)	790
転送元ユーザー識別コード (FWDFRM)	790
間接ユーザー (INDUSR)	791
個人用メールの印刷 (PRTPERS)	791
カバー・ページの印刷 (PRTCOVER)	791
メール通知 (NFYMAIL)	791
優先, 私用, 重要 (NFYPTYPERS)	792
メッセージ (NFYMSG)	792
テキスト (TEXT)	792
コマンド文字識別コード (CMDCHRID)	793
国または地域 (COUNTRY)	794
管理ドメイン (ADMD)	794
私用管理ドメイン (PRMD)	795
姓 (SURNAM)	795
名 (GIVENAM)	795
初期 (INITIALS)	796
生成修飾子 (GENQUAL)	796
組織名 (ORG)	796
組織単位 (ORGUNIT)	796
ドメイン定義属性 (DMNDFNATR)	797
ユーザー定義のフィールド (USRDFNFLD)	798
メール・サービス・レベル (MSFSRVLVL)	798
優先アドレス (PREFADR)	799
CC&COLON.MAILアドレス (CCMAILADR)	800
CC&COLON.MAIL注記 (CCMAILCMT)	801
同期可能 (ALWSYNC)	801

DLO所有者 (DLOOWN)	801
例	802
エラー・メッセージ	802

ディレクトリー・シャドー・システムの変更 (CHGDIRSHD) 805

パラメーター	805
システム名 (SYSNAME)	806
次のシャドー (NXTSHD)	806
スケジュール済みシャドー (SCD)	807
シャドー化頻度 (FRQ)	807
時間間隔 (HOURS)	808
スキップする曜日 (SKIPDAY)	808
月内の週 (MONTHWK)	809
データの初期設定 (REINZ)	809
リモート ロケーション名 (RMTLOCNAME)	810
モード (MODE)	810
リモート・ ネットワーク 識別コード (RMTNETID)	810
ローカル・ ロケーション 名 (LCLLOCNAME)	811
テキスト'記述' (TEXT)	811
例	812
エラー・メッセージ	812

ディレクトリー・サーバー属性の変更 (CHGDIRSVRA) 813

パラメーター	813
インスタンス (INSTANCE)	813
識別名 (DN)	814
例	814
エラー・メッセージ	815

DLO監査レベルの変更 (CHGDLOAD) 817

パラメーター	817
文書ライブラリー・オブジェクト (DLO)	817
フォルダー (FLR)	818
システム・オブジェクト名 (SYSOBJNAM)	818
DLO監査レベル (AUDDLO)	818
リストのレベル (LEVEL)	819
例	819
エラー・メッセージ	819

DLO権限の変更 (CHGDLOAUT) 821

パラメーター	821
------------------	-----

文書ライブラリー・オブジェクト (DLO)	822
フォルダー (FLR)	822
ユーザー権限 (USRAUT)	822
権限リスト (AUTL)	823
機密性 (SENSITIV)	824
参照DLO (REFDLO)	824
参照フォルダー (REFFLR)	824
システム・オブジェクト名 (SYSOBJNAM)	825
参照システム・オブジェクト (REFSYSOBJ)	825
個人 (PERSONAL)	825
例	825
エラー・メッセージ	826

DLO所有者変更 (CHGDLOOWN) 829

パラメーター	829
文書ライブラリー・オブジェクトまたは (DLO)	829
現行所有者 (OWNER)	830
新しい所有者 (NEWOWN)	830
フォルダー (FLR)	830
現行の所有者権限 (CUROWNAUT)	830
システム・オブジェクト名 (SYSOBJNAM)	830
例	831
エラー・メッセージ	831

DLO 1次グループの変更 (CHGDLOPGP) 833

パラメーター	833
文書ライブラリー・オブジェクトまたは (DLO)	833
現行1次グループ (CURPGP)	834
新しい1次グループ (NEWPGP)	834
新しい1次グループ権限 (NEWPGPAUT)	834
フォルダー (FLR)	835
古い権限の取り消し (RVKOLDAUT)	835
システム・オブジェクト名 (SYSOBJNAM)	835
例	835
エラー・メッセージ	836

付録. 特記事項 837

プログラミング・インターフェース情報	838
商標	839
使用条件	840
コードに関するライセンス情報および特記事項	840

プロファイル活動の分析 (ANZPRFACT)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

プロファイル活動分析(ANZPRFACT)コマンドは、そのプロファイルが指定された日数にわたって非活動状態であったかどうかを判別します。プロファイルが指定された日数にわたって非活動状態であった場合には、それが使用不可となります。ユーザー・プロファイルで最後に使用した日付を使用して、プロファイルが非活動状態であった日数を判別します。最後に使用した日付がブランクの場合には、復元日が使用されます。復元日がブランクの場合には、作成日が使用されます。

プロファイルが使用不可の時には、ANZPRFACTコマンドを出したユーザーのメッセージ待ち行列にメッセージが送信されます。このコマンドによって使用不可となったプロファイルを調べて、それがまだ必要であるかどうかを判別しなければなりません。これが不要な場合には、それを削除しなければなりません。

活動プロファイル・リスト変更(CHGACTPFL)コマンドを使用して、常に活動状態とみなされるプロファイルのリストにそれらを追加することによって、ユーザー・プロファイルをこの処理から除外することができます。

このリストには、アプリケーション固有のオブジェクトに対して作成し、サインオンには使用されないプロファイルをすべて追加することをお奨めします。また、使用不可としたくないIBM ("Q")プロファイル以外のものもこのリストに追加したいことがあります。次のリストのプロファイルは非活動状態とみなされないもので、追加する必要はありません。

次のユーザー・プロファイルが非活動状態であるとみなされることはありません。

- QANZAGENT
- QAUTPROF
- QCLUMGT
- QCLUSTER
- QCOLSRV
- QDBSHR
- QDBSHRDO
- QDFTOWN
- QDIRSRV
- QDLFM
- QDOC
- QDSNX
- QEJB
- QEJBSVR
- QFNC
- QGATE
- QIBMHELP

- QIPP
- QLPAUTO
- QLPINSTALL
- QMGTC
- QMSF
- QNETSPLF
- QNFSANON
- QNTP
- QPEX
- QPM400
- QSECOFR
- QSNADS
- QSPL
- QSPLJOB
- QSRV
- QSRVAGT
- QSRVBAS
- QSYS
- QTCM
- QTCP
- QTFTP
- QTMHHTTP
- QTMHHTPI
- QTSTRQS
- QYCMCIMOM
- QYPSJSVR

この情報は、活動プロファイル・リスト表示(DSPACTPRFL)コマンドを使用して表示することができます。

INACDAYSパラメーターに値を指定した場合には、指定された日数にわたって非活動状態であったプロファイルに対して、毎日チェックが行われます。

プロファイル活動分析機能をオフにするには、非活動状態の日数に*NOMAXを指定してください。

ANZPRFACTジョブは夜間実行されます。このジョブの実行の時間を変更したい場合には、ジョブ・スケジュール項目変更(CHGJOBSCDE)コマンドを使用して、QSECIDL1ジョブを変更してください。

制約事項:このコマンドを使用するには、*ALLOBJ, *SECADM,および*JOBCTLの特殊権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
INACDAYS	非活動日数	1-366, *NOMAX	必須, 定位置 1

上

非活動日数 (INACDAYS)

これは必須パラメーターです。

ユーザー・プロファイルが使用不可となる前に、それを非活動状態とすることができる日数。指定された日数にわたってプロファイルが非活動状態であった時に、このプロファイルは使用不可となります。これは1から366、または*NOMAXとすることができます。

*NOMAX

プロファイルは非活動状態とみなされません。

上

例

ANZPRFACT INACDAYS(30)

このコマンドは、直前の30日間にプロファイルが活動化されたかどうかを分析します。**30日以上非活動状態であったユーザー・プロファイルは使用不可にされます。**

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPFB304

ユーザーに必要な特殊権限がない。

上

QUERYの分析 (ANZQRY)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

QUERY分析(ANZQRY)コマンドによって、QUERY管理機能変換の問題についてQUERY 定義(QRYDFN)オブジェクトを分析することができます。このコマンドからの出力には、QUERYおよび分析されたQRYDFNオブジェクトから派生した書式情報のQUERY/400 とQUERY管理機能との間の使用上の潜在的相違点についての診断メッセージが含まれます。完了メッセージには、見つかった潜在的問題の最高の重大度が示されます。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
QRY	QUERY	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: QUERY	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
SEV	重大度コード・フィルター	0-99, <u>0</u>	オプション, 定位置 2

上

QUERY (QRY)

分析されるQUERY定義(QRYDFN)を指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: QUERY

名前 分析されるQRYDFNの名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

上

重大度コード・フィルター (SEV)

メッセージの重大度コードを指定します。重大度コードは、メッセージを送る原因となった条件の重大度レベルを示します。

0 相違点についてのすべての診断メッセージがログされます。

0から99

重大度コード・フィルターを指定してください。

上

例

例1:すべてのメッセージを表示

```
ANZQRY QRY(QRY2)
```

このコマンドは、ユーザーのライブラリー・リスト中で、名前QRY2の最初のQRYDFNを分析します。変換の問題についてのメッセージ、たとえば長すぎるテキストなどのメッセージがジョブ・ログに送信されます。分析が完了した時に、メッセージが表示されます。

例2:特定のメッセージを表示

```
ANZQRY QRY(QRY2) SEV(99)
```

このコマンドは、ユーザーのライブラリー・リスト中で、名前QRY2の最初のQUERYを分析します。完了メッセージと実行を試みる前に調べる必要がある条件を診断するメッセージだけが表示され、ログされません。

上

エラー・メッセージ

なし

上

ユーザー・オブジェクトの分析 (ANZUSROBJ)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ユーザー・オブジェクト分析(ANZUSROBJ)コマンドは、システム上のユーザー作成オブジェクトについての情報を収集または報告します。これは、ユーザー・オブジェクトの作成で使用した可能性があるソースが存在するかどうかを判別するために使用することができます。

制約事項:

1. ユーザーは、*ALLOBJ特殊権限が必要です。
2. このコマンドは、特に*COLLECT段階では実行に非常に長時間を要します。このコマンドはバッチで実行するようにお奨めします。
3. 分析され、報告されるオブジェクトには次の3つのタイプがあります。
 - システムで使用可能でないソースから作成されたと思われるオブジェクト。
 - ユーザー・データを含む場合が多いが、ソースから作成されたものでないオブジェクト。
 - アプリケーションの一部となっているソース・メンバーを含む場合が多いが、オブジェクトにコンパイルされないソース・ファイル。REXXソース・メンバーやFMTDTAソース・メンバーなどがその例です。

前にSTG(*FREE)で保管されたオブジェクトは、他のオブジェクトと同じ明細レベルに分析されないということに注意してください。これが行なわれるため、自動検索システムがオブジェクトを自動的に復元する可能性が少なくなります。

オブジェクトがリストされる時には、次の情報が報告されます。

- オブジェクト名: ユーザー・オブジェクトの名前。ソース・メンバーを含むファイルの場合には、メンバー項目に対してこれは空白になります。このメンバーは、報告書中でファイルの後に続きます。
- オブジェクト・タイプ: オブジェクトのタイプ。ソース・メンバーを含むファイルの場合には、これはメンバー項目に対するメンバー拡張になります。
- オブジェクト拡張: REXXメンバーおよびFMTDTAメンバーをリストする時に、ソース・メンバー名にも使用されます。
- テキスト: オブジェクトまたはソース・メンバーと関連したテキスト記述。
- ソース最終変更日付/時刻: 見つかったソースの最後の変更日付。空白の場合には、これは、ソースがシステムで使用可能でないか、あるいはオブジェクトがモジュールから作成され、直接ソースから作成されないILEプログラムまたはサービス・プログラムであることを示します。
- オブジェクト作成ソース日付/時刻: オブジェクトの作成に使用されたソースの最後の変更日付。空白の場合には、これは、オブジェクトがソースから作成されたものでないか、あるいはオブジェクトがモジュールから作成され、直接ソースから作成されないILEプログラムまたはサービス・プログラムであることを示します。
- 行数: 見つかったソースの行数。
- *: '1'のある欄は、オブジェクトが過去12カ月で使用されていないことを示します。

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
OPTION	オプション	値 (最大 2 回の繰り返し): *COLLECT, *REPORT	必須, 定位置 1
RPTTYPE	報告書のタイプ	値 (最大 3 回の繰り返し): *ALL, *SYSSUM, *LIBSUM, *LIBDTL	オプション
LIB	分析するライブラリー	総称名, 名前, *ALLUSR	オプション
ASPDEV	ASP装置	名前, *ALL, *SYSBAS	オプション

オプション (OPTION)

データ収集が行なわれるか、データ報告が行なわれるか、あるいはその両方が行なわれるかを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

*COLLECT

すべてのユーザー・ライブラリーのユーザー・オブジェクトのデータが後での分析のために検索され、収集されます。システムに333,000を超えるライブラリーがある場合には、収集は、最初の333,000のライブラリーに制限されます。オブジェクト数がライブラリー当たり17,000個より少ない場合に、パフォーマンスがよくなります。1つのライブラリーに333,000を超えるオブジェクトが存在する場合には、収集はライブラリー中の最初の333,000オブジェクトに制限されます。

*REPORT

指定されたライブラリー (LIBパラメーター) についてユーザー・オブジェクトのデータが分析され、報告されます。

報告書のタイプ (RPTTYPE)

生成されるユーザー・オブジェクト報告書のタイプを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***ALL** システム要約, ライブラリー要約, およびライブラリー明細のユーザー・オブジェクト分析報告書が生成されます。

*SYSSUM

システム要約報告書が生成されます。

*LIBSUM

ライブラリー要約報告書が生成されます。

*LIBDTL

ライブラリー明細報告書が生成されます。

分析するライブラリー (LIB)

報告書を生成する時に分析されるライブラリーを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

*ALLUSR

すべてのユーザー・ライブラリーが分析されます。

総称*ライブラリー名

分析されるライブラリーまたはライブラリーのグループの総称名を指定してください。総称ライブラリー名を指定するためには、分析されるすべてのライブラリーの名前に共通な文字ストリングの終わりにアスタリスク(*)を追加してください。

ライブラリー名

分析されるライブラリーの完全な名前を指定してください。

ASP装置 (ASPDEV)

報告書を生成する時に分析されるASP装置の名前を指定します。

考えられる値は、次の通りです。

*ALL すべてのASP装置が分析されます。

*SYSBAS

システムASPおよび定義された基本ユーザーASPだけが分析されます。

ASP装置名

分析されるASPの名前を指定してください。

例

例1:オブジェクト情報を収集

```
ANZUSROBJ OPTION(*COLLECT)
```

すべてのユーザー・ライブラリー中のユーザー・オブジェクトの情報が、後からの分析用に収集されます。

例2:オブジェクト情報報告書を生成

```
ANZUSROBJ OPTION(*REPORT) LIB(MYLIB*)
```

'MYLIB'で始まる名前のすべてのライブラリーについて、前にOPTION(*COLLECT)を指定したANZUSROBJの実行によって収集された情報が分析されます。システム要約、ライブラリー要約、およびライブラリー明細のユーザー・オブジェクト分析報告書が生成されることとなります。

エラー・メッセージ

なし

上

APPC接続検査 (APING)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

APPC接続検査(VFYAPPCNN)コマンド(APINGとも言われる)は、拡張プログラム間通信機能を使用して、ローカル・ロケーションと指定されたりモート・ロケーションとの間でデータ・パケットを交換し、データ・パケット交換のそれぞれの反復の往復時間を測定します。

処理するこの機能では、指定されたりモート・ロケーションがこの機能のターゲット部分、APINGD (APINGデーモン) を実行中でなければなりません。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
RMTLOCNAME	リモート・ロケーション	文字値	必須, 定位置 1
MODE	モード	通信名, *NETATR	オプション, 定位置 2
RMTUSER	リモート・ユーザーID	文字値, *NONE, *CURRENT	オプション
RMPWD	リモート・パスワード	文字値, *NONE	オプション
MSGMODE	メッセージ・モード	*VERBOSE, *QUIET	オプション
PKTLEN	パケットの長さ (バイト数)	0-32763, <u>100</u>	オプション
NBRITER	反復回数	1-32767, <u>2</u>	オプション
NBRPKT	パケット数	1-32767, <u>1</u>	オプション
ECHO	エコー	*YES, *NO	オプション
WAITTIME	待ち時間 (秒数)	2-3600, <u>10</u> , *NOMAX, *NOWAIT	オプション

上

リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)

接続するリモート・ロケーションを指定します。リモート・ロケーション名はNNNNNNNN.CCCCCCCCの形式を使用して指定し、このNNNNNNNNはネットワーク識別子(ID)であり、CCCCCCCCはリモート・ロケーション名です。リモート・ロケーション名だけが指定された場合には、ローカル・ネットワークID (LCLNETID)のネットワーク属性がネットワークID (ID)の値として使用されます。

上

モード (MODE)

APPCの会話に使用されるモードの名前を指定します。

***NETATR**

ネットワーク属性のモードが使用されます。

モード名

モード名を指定してください。8桁のブランク文字からなるモード名の場合には、BLANKを指定してください。

注: SNASVCMGおよびCPSVCMGは、予約名であり、指定することはできません。

上

リモート・ユーザーID (RMTUSER)

ターゲット・システムのユーザーID (ID)を指定します。このパラメーターにユーザーIDが指定され、パスワードによる機密保護がターゲット・システムで活動状態である場合には、RMTPWD(*NONE)は正しくありません。

***NONE**

ユーザーIDは送信されません。ターゲット・システムの機密保護でユーザーIDが必要と構成された場合には、このコマンドは正常に実行されません。

***CURRENT**

このコマンドを使用するジョブのユーザーID (サインオン・ユーザー) が送信されます。

文字値 ターゲット・システム上に存在し、使用するユーザーIDを指定します。ユーザーIDを指定し、パスワードによる機密保護がターゲット・システムで活動状態である場合には、パスワードを指定しなければなりません。

上

リモート・パスワード (RMTPWD)

ターゲット・システムに送信されるパスワードを指定します。

***NONE**

システムはパスワードを送信しません。RMTUSERパラメーターにユーザーID (ID)を指定して、パスワードによる機密保護がターゲット・システムで活動状態である場合には、コマンドは正常に実行されません。

文字値 ターゲット・システムに送られるパスワードを指定して、RMTUSERパラメーターに指定されたユーザーIDのサインオンを検査します。パスワードは、リモート・システムがパスワードの置き換えをサポートしているかどうかによって、通信回線を介した置き換えが行なわれることもあるし、行なわれないこともあります。

上

メッセージ・モード (MSGMODE)

コマンドによって表示される情報の容量を指定します。

***VERBOSE**

各反復の後に妥当性検査メッセージを表示します。

***QUIET**

初期および要約メッセージだけを表示します。

上

パケットの長さ (バイト数) (PKTLEN)

ローカルとリモートのシステム間で交換するパケットの長さ (バイト数) を指定します。

100 パケットの長さは100バイトです。

0-32763

各パケットのバイト数を指定してください。

上

反復回数 (NBRITER)

反復の回数を指定します。それぞれの反復では、ローカルとリモートのシステム間で指定されたデータ・パケット数が交換されます。

2 2回の反復が実行されます。

1から32767

反復の回数を指定します。

上

パケット数 (NBRPKT)

ターゲット・システムに送信の許可を与える前に、各反復でローカル・システムによって送信されるパケット数を指定します。

1 各反復で送信されるパケットは1つです。

1から32767

各反復で送信されるパケット数を指定します。

上

エコー (ECHO)

リモート・ロケーションがローカル・ロケーションにエコー・パケットを戻す必要があるかどうかを指定します。

***YES** パケットのエコーはリモート・ロケーションからローカル・ロケーションに戻されます。

***NO** パケットだけがローカル・ロケーションからリモート・ロケーションに送信されます。パケットのエコーはローカル・ロケーションに戻されません。

上

待ち時間 (秒数) (WAITTIME)

リモート・ロケーションに到達不能と宣言する前に戻り (エコー) を待機する時間 (秒数) を指定します。

10 システムは10秒間待機します。

*NOMAX

システムは無期限に待機します。

*NOWAIT

作動可能で使用可能な接続があると、システムは即時に戻ります。

2-3600 待機する秒数を指定してください。

上

例

例1: APPC接続の検査

```
VFYAPPCNN RMTLOCNAME(RPCNET.CHICAGO) NBRITER(3) NBRPKT(4)
          PKTLEN(500)
```

このコマンドは、リモート・ロケーションCHICAGO,ネットワークID RPCNETを指定して3回の反復のそれぞれで4つの500バイト・パケットを交換します。使用される省略時モードはネットワーク属性DFTMODEから取られます。省略時の値MSGMODE(*VERBOSE)が取られたので、各反復では反復の経過時間が示されている情報メッセージがジョブ・ログになります。

例2: APING別名コマンドの使用

```
APING RMTLOCNAME(RPCNET.CHICAGO) NBRITER(3)
      NBRPKT(4) PKTLEN(500)
```

このコマンドは、上記の例1のコマンドと同等です。

例3: 待ち時間を指定したAPINGの使用

```
APING RMTLOCNAME(RPCNET.CHICAGO) WAITTIME(20)
```

このコマンドは、リモート・ロケーションCHICAGO,ネットワークID RPCNETとの接続を検査します。リモート・ロケーションから応答を待つ最大時間は20秒です。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF91CC

コマンドは正常に完了しなかった。

上

ジャーナル処理済み変更適用 (APYJRNCHG)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ジャーナル処理済み変更の適用(APYJRNCHG)コマンドは、操作上のエラーまたはなんらかの形の損傷の後でオブジェクトを回復するために、そのオブジェクトの保管バージョンに対して特定のジャーナル処理済みオブジェクトにジャーナル処理された変更を適用します。

オブジェクトの内容が変更され、最高のオブジェクト・レベルの変更を適用することができます。オブジェクト・レベルの変更の例には、ALTER TABLEのようなSQLステートメントや多くのオペレーティング・システム・コマンド (例えば、CHGPF, RMVM, MOV OBJ, MOV, RNMOBJ,およびRNM)の結果としてのジャーナル項目が含まれます。ジャーナル項目を挿入しないオブジェクト・レベルの変更は、当然適用することができません。

通常適用される変更の内一部は次の理由により適用されない場合があります。

- 適用時に無視とマークされたジャーナル項目は適用されません。ジャーナル項目が適用時に無視とマークされているかどうかを判別するには、ジャーナル表示(DSPJRN)コマンドを使用します。
- 一部のオブジェクト・レベルの変更は、項目がV5R3以降のシステムのジャーナル・レシーバーに入れられた場合に適用されるだけです。それらのオブジェクト・レベルの変更項目には以下のものがあります。
 - D MA (メンバーが追加された)
 - D FM (ファイルが移動された)
 - D FN (ファイル名が変更された)
 - E EM (データ域が移動された)
 - E EN (データ域が名前変更された)
- データ待ち行列項目が適用されるのは、項目がV5R4以降のシステムのジャーナル・レシーバーに入れられた場合だけです。
- 論理ファイル項目が適用されるのは、その項目がV6R1以降のシステムのジャーナル・レシーバーに入れられた場合だけです。

注: V5R4以前のシステムで作成された論理ファイル項目は、OBJ(*ALLJRNOBJ)が指定された場合に適用されます。

- 一部のオブジェクト・レベルの変更は、項目がV6R1以降のシステムのジャーナル・レシーバーに入れられた場合に適用されるだけです。それらのオブジェクト・レベルの変更項目には以下のものがあります。
 - D CT (データベース・ファイルの作成)
 - E EE (作成されたデータ域)
 - E ED (削除されたデータ域)
 - Q QA (作成されたデータ待ち行列)
 - Q QD (削除されたデータ待ち行列)

注: V5R4以前のシステムで作成されたD CT (データベース・ファイルの作成) 項目は、OBJ(*ALLJRNOBJ)が指定された場合に適用されます。

適用される一部のオブジェクト・レベルの変更は、SQLステートメントからの項目です。これらの項目の再生では、ジャーナル処理済み変更の適用(APYJRNCHG)コマンドは長時間実行となる可能性があります。ALTER TABLE, REFRESH TABLEの再生または物理ファイル項目の再編成での省略時のタイムアウトは24時間です。コミット、ロールバック、またはロールバック項目取り消しの省略時のタイムアウトは12時間です。DROP TABLE項目の再生のための省略時のタイムアウトは24時間です。SQL項目からの他のオブジェクト・レベル変更項目の省略時のタイムアウトは5分です。

これらの省略時値をさらに高い値または低い値に変更したい場合には、次のように呼ばれる環境変数を追加してください。

- QIBM_JO_APPLY_ALTER_TABLE_TIMEOUT -テーブル変更(D CG)項目
- QIBM_JO_APPLY_REFRESH_TABLE_TIMEOUT -テーブル最新表示(D TQ)項目
- QIBM_JO_APPLY_DROP_TABLE_TIMEOUT -テーブル除去(F DM)項目
- QIBM_JO_APPLY_REORG_TIMEOUT -物理ファイル再編成(F RM) 項目
- QIBM_JO_APPLY_TIMEOUT -他のオブジェクト・レベル変更項目の場合
- QIBM_JO_APPLY_CM_RB_CN_TIMEOUT -コミット(C CM),ロールバック(C RB),ロールバック取り消し(C CN)項目

注: このタイムアウトは、データベース・ファイルのオブジェクト・レベルの変更項目が含まれるコミットメント制御サイクルのみに影響します。

環境変数の値はすべて秒数です。

これらの環境変数の最小値はいずれも60秒です。これらの環境変数のいずれかに60秒より小さい値が指定された場合には、60秒の値が使用されます。

環境変数はすべて大文字でなければならず、APYJRNCHGコマンドを出す前に設定されなければなりません。

注: 環境変数を取り扱うコマンドは、環境変数追加(ADDENVVAR),環境変数変更(CHGENVVAR),および環境変数処理(WRKENVVAR)です。

各種の項目の完全なリストと、コマンドを停止する可能性がある項目も含めて、このコマンドによる項目の処理方法については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「ジャーナル管理」トピック・コレクションを参照のこと。

ライブラリー・オブジェクトに対するオブジェクト・レベルの変更の適用と同様、統合ファイル・システム・オブジェクトの変更の適用には、2次スレッドが使用されます。QMLTTHDACNシステム値が3(*NORUN)に設定されていると、一部のジャーナル項目の適用は失敗する場合があります。 APYJRNCHG操作中のお勧めするQMLTTHDACNの設定は2です。2次スレッドの状況は、WRKJOBのオプション20を使用してモニターすることができます。

ジャーナル処理された変更は、指定の終了点に達するまで、指定の開始点 (オブジェクトが最後に保管された点またはジャーナル上の特定の項目のいずれか) から適用されます。 終了点は、オブジェクトですべての変更が適用された点、オブジェクトが最後に復元された点、指定の項目に達した点、指定の時刻に達した点、あるいはジョブによってファイルがオープンまたはクローズされた点とすることができます(CMTBDYパラメーターは、まだ保留中の変更を処理するために使用されます)。

回復シナリオの一部としてオブジェクトを復元する前にいずれかのオブジェクトを除去した場合は、適用するジャーナル項目の範囲を選択する時に注意が必要です。ジャーナルの以下の項目は、指定された範囲に含まれている場合に適用されることを忘れないようにしてください。

- ジャーナル・コードF項目タイプDM (メンバーの削除)
- ジャーナル・コードD項目タイプDT (ファイルの削除)
- ジャーナル・コードB項目タイプB4およびB5 (リンク解除された統合ファイル・システム・オブジェクト)
- ジャーナル・コードE項目タイプED (データ域の削除)
- ジャーナル・コードQ項目タイプQD (データ待ち行列の削除)
- ジャーナル・コードY項目タイプYD (ライブラリーの削除)

これらの場合には、特定の終了ジャーナル順序番号を指定するか、あるいは（回復ステップを開始する前の）特定の日付と時刻へ復元することをお勧めします。

注: ジャーナル表示(DSPJRN)コマンドを使用して、所要の開始点または終了点（あるいはその両方）を判別することができます。

ジャーナル処理済みオブジェクトのリストを指定できます。ジャーナル処理済み変更は、ジャーナル上でジャーナル項目が見つかった順序で適用されます。この順序はオブジェクトに変更を行った順序と同じです。

データベース・ファイルの場合には、レコード・レベル操作はコミットメント制御の下では実行されません。ただし、当初コミットメント制御の下で実行されたデータベース・ファイルのオブジェクト・レベル操作は、適用時もコミットメント制御の下で実行されます。コミットメント制御トランザクションが当初コミットされていた場合に、オブジェクト・レベル操作は、対応するコミット項目が適用された時にコミットされます。コミットメント制御トランザクションが当初ロールバックされていた場合に、オブジェクト・レベル操作は、対応するロールバック項目が適用された時にロールバックされます。コミットメント制御操作が適用されているジャーナル項目の範囲内で終了しない場合には、変更はロールバックされます。

データベースのオブジェクト・レベルの変更の適用時に、対応するコミットまたはロールバック項目が適用される前に適用が終了すると、データベース・ファイルに関する保留中のすべてのオブジェクト・レベル操作は、トランザクションが当初コミットされていたかロールバックされていたかによって、コミットされるかまたはロールバックされます。これは、データベース・ファイルのレコード・レベルの変更の場合に起こることと異なります。データベース・ファイルのレコード・レベルの変更の場合には、適用操作中にエラーが発生すると、最後に正常に適用された項目のジャーナル順序番号が戻されます。そのジャーナル順序番号までのすべての項目が確実に適用されるので、ユーザーは、戻されたジャーナル順序番号に1を加えた順序番号から適用を再度開始することができます。そのジャーナル順序番号より前の保留中のデータベース・ファイルのオブジェクト・レベル操作はロールバックされる可能性があるため、再度適用を開始する前に、ジャーナルを慎重に調べることにユーザー介入が必要となります。

すべてのオブジェクト・レベルの変更の適用時に、エラー条件のためにデータベース・ファイルに関するオブジェクト・レベル操作のROLLBACKが起こった場合、あるいは残りのジャーナル項目の1つがAPYJRNCHGコマンドの終了する原因となった場合には、システムはレコード・レベルの変更が部分的に適用された状態となる可能性があり、一部のトランザクションはコミット境界からはずれることとなります。この時点で、ジャーナルを慎重に調べることにユーザー介入が必要となります。

例えば、トランザクションには、いくつかの挿入、それに続けて桁を追加するためのALTER TABLE,さらに（新しいレコード長を持つ）いくつかの挿入が含まれているが、ROLLBACKで終了しているとします。適用操作がALTER TABLEのすぐ後で中断された場合には、システムはそのトランザクションが

ROLLBACKで終了しているものと認識し、ALTER TABLEをロールバックします。この場合に適用操作が再始動されていると、レコード長のミスマッチのために2番目の挿入のセットは失敗することになります。このシナリオはありそうもないことですが、エラーの後に適用を続行するには、適用の背後にある仕組みを理解することが重要です。

元の操作がコミットメント制御下で実行されていた場合でも、統合ファイル・システム・オブジェクトへの変更がコミットメント制御下で適用されることはありません。

新しいオブジェクトは、ジャーナル処理済み変更の適用時に作成できます。また、論理ファイルも、適用プロセスの一部としてジャーナル処理を開始できます。これらのオブジェクトへの変更を適用できるようにするには、これらのオブジェクトをオブジェクト・リストに追加して、変更が適用されるようにする必要があります。システムは、これらのオブジェクトをリストに自動的に追加しますが、これが行われるのは、システムが特定のジャーナル項目から関連したオブジェクトを見つけた場合です。例えば、ジャーナル・コードD,項目タイプCTのジャーナル項目（ファイルの作成）を適用できるようにするには、コードY,タイプYO（ライブラリーに追加されたオブジェクト）のライブラリー用の先行する項目を最初に適用する必要があります。このような項目には、他にもD MA（追加されたメンバー）およびD LF（論理ファイルの関連付け）があります。この制約事項は、OBJ(*ALLJRNOBJ)が指定された場合には適用されません。

ジャーナル・コードJ項目タイプSI (JRNSTATE(*STANDBY)入力) 項目が見つかった場合には、指定されたOBJERROPT値とは無関係に、指定されたすべてのオブジェクトに関する操作が終了します。オブジェクトは、ジャーナル項目から部分的に更新されるだけである可能性があります。

さらに、ジャーナル項目にコマンドが再生できない操作がリストされていると、コマンドは個々のオブジェクトについて適用を終了する可能性があります。この適用中にこの特定のオブジェクトに対する追加の変更が検出された場合には、それらの変更は適用されません。ただし、OBJERROPT(*CONTINUE)が使用されていれば、指定された他のオブジェクトについて操作が続行されます。例えば、次のいずれかが起こったことを示すジャーナル項目が見つかったと、オブジェクトに対するコマンドは終了します。

- オブジェクトはシステムの終了時に使用中であり、ジャーナルと同期化できなかった。
- オブジェクトが復元されていた。
- システムはすでにジャーナル処理済み変更の適用(APYJRNCHG)コマンドまたはジャーナル処理済み変更の除去(RMVJRNCHG)コマンドを通じて変更を適用または除去している。

各種の項目の完全なリストと、コマンドを停止する可能性がある項目も含めて、このコマンドによる項目の処理方法については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「ジャーナル管理」トピック・コレクションを参照のこと。その場合、「ジャーナル処理済み変更の適用または除去の処置」で検索してください。

コマンドは、以下のことを行おうとするような非論理的な条件が検出された場合も、オブジェクトに対して終了します。

- レコードをデータベース・ファイル・メンバーの既存の相対レコード番号に追加する
- レコードを次のレコード位置を超えてデータベース・ファイルの末尾の後に追加する
- データベース・ファイル・メンバーの重複キーを持つレコードを追加する
- データベース・ファイル・メンバーの削除済みのレコードを削除する
- データベース・ファイル・メンバーの存在していないレコードを更新する
- リンクを存在していないディレクトリーに追加する

最も非論理的な状態は、オブジェクトの現在の内容から考えてジャーナル中の間違った位置でジャーナル処理済み変更の適用操作を開始することによって起こります。

コマンドが非論理的条件のために終了し、適用操作を再開することが論理的に可能である場合には、新しい開始順序番号を指定してコマンドを出し直すことができます。

順序番号がリセットされている場合にも、変更を適用することは可能です。システムは通知メッセージを送って、変更の適用を続行します。

制約事項:

- このコマンドは共用*EXCLUDE権限と一緒に出荷されていて、QPGMRおよびQSRVユーザー・プロファイルにはこのコマンドを使用するための専用権限があります。FILE (ライブラリー名/*ALL)またはOBJ (ライブラリー名/*ALL)が指定された場合には、ユーザーに許可されていないオブジェクトのジャーナル項目は無視されます。
- このコマンドに指定するオブジェクトは、その変更が現在ジャーナル処理済みのものでなければなりません。
- 適用操作の前に復元操作を行う場合には、復元されるオブジェクトは保管操作する時にジャーナル処理されていなければなりません。
- コマンド上で指示されているオブジェクトは、変更が適用されている間は独占的に割り当てられています。オブジェクトを割り当てることができない場合には、コマンドは終了されて、ジャーナル処理された変更は適用されません。
- コマンドに指示された期間に対応するジャーナル項目がない場合には、コマンドは終了されて、ジャーナル処理された変更は適用されません。
- ジャーナルの順序番号が指定されたレシーバーの範囲内にリセットされていて、FROMENTLRG, FROMENT, TOENTLRG, またはTOENTパラメーターに順序番号が指定されている場合には、いずれかのパラメーターに指定されている順序番号の最初のオカレンスが使用されます。
- 指定されたレシーバー範囲内の1つまたは複数のジャーナル・レシーバーが、このデータを省略しているレシーバー・サイズ・オプション(RCVSIZOPT)または固定長データ・オプション(FIXLENDTA)が有効なジャーナルに接続されている場合には、TOJOB0およびTOJOB Cパラメーターを使用してジャーナル処理された変更の適用操作を終了する時点指定することはできません。
- 変更が適用されるオブジェクトが記録オープンおよびクローズ項目でない場合には、TOJOB0およびTOJOB Cパラメーターを使用することはできません。詳細については、STRJRN, STRJRNPF, STRJRNLIB, およびCHGJRNOBJコマンドのジャーナル項目除外(OMTJRNE)パラメーターを参照してください。
- このコマンドで変更を適用できるオブジェクトの最大数は12,000,000です。指定に12,000,000を超えるオブジェクトが含まれていると、エラー・メッセージが送られて、変更は適用されません。FILE, OBJ, またはOBJPATHパラメーターに指定された値は、この限界を超えないように変更することができます。

この限界には、ジャーナル処理済み変更を別のオブジェクトに適用した結果として作成されるすべてのオブジェクトが含まれます。この限界は、次にメンバーの作成が試みられるファイル項目を適用する場合、次にそのライブラリーでオブジェクトの作成が試みられるライブラリー項目を適用する場合、あるいは次に統合ファイル・システム・オブジェクトの作成が試みられるディレクトリー項目を適用する場合の適用操作中に起こる可能性があります。この限界に達した場合には、新規メンバーまたはオブジェクトは作成されません。APYJRNCHGは、作成操作の原因となったオブジェクトに関する適用を停止します。この時点までのファイル、ライブラリー、またはディレクトリーに対するすべての項目は適用済みのまま残ります。また、適用操作は、OBJERROPT(*CONTINUE)が指定されている場合には、12,000,000オブジェクトの限界を超える前に作成されたファイルのその他のメンバー、あるいはライブラリーまたはディレクトリー内のその他のオブジェクトについても引き続き適用されます。

データベース・ファイルに対する変更の適用時には、各メンバーと関連した1つのオブジェクト、およびファイルと関連した1つの追加オブジェクトがあります。

- OBJ(*ALLJRNOBJ)を指定した場合は、OBJPATHパラメーターを同時に指定することはできません。OBJ(*ALLJRNOBJ)には統合ファイル・システム・オブジェクトが含まれます。
- 別のリリース（前のリリースか後のリリースのいずれか）から預けられたジャーナル項目があるジャーナル・レシーバーから変更を適用するためにAPYJRNCHGを使用すると、予期しない結果の原因となる可能性があります。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
JRN	ジャーナル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: ジャーナル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
FILE	ジャーナル・ファイル識別	値 (最大 300 回の繰り返し): 要素リスト	オプション, 定位置 2
	要素 1: ジャーナルされた物理ファイル	修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: ジャーナルされた物理ファイル	名前, *ALL	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
	要素 2: メンバー	名前, *ALL, *FIRST	
OBJ	オブジェクト	単一値: *ALLJRNOBJ その他の値 (最大 300 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: オブジェクト	修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: オブジェクト	名前, *ALL	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
	要素 2: オブジェクト・タイプ	*FILE, *DTAARA, *DTAQ, *LIB, *ALL	
	要素 3: データベース・ファイルの場合にメンバー	名前, *ALL, *FIRST	
OBJPATH	オブジェクト	値 (最大 300 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: 名前	パス名	
	要素 2: 組み込みまたは除外	*INCLUDE, *OMIT	
SUBTREE	ディレクトリーのサブツリー	*ALL, *NONE	オプション
PATTERN	名前パターン	値 (最大 20 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: パターン	文字値, *	
	要素 2: 組み込みまたは除外	*INCLUDE, *OMIT	
APYLF	論理ファイルへの変更の適用	*YES, *NO	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
RCVRNG	ジャーナル・レシーバーの範囲	単一値: <u>*LASTSAVE</u> , *CURRENT その他の値: 要素リスト	オプション, 定位置 3
	要素 1: 開始ジャーナル・レシーバー	修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: 開始ジャーナル・レシーバー	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	
	要素 2: 終了ジャーナル・レシーバー	単一値: <u>*CURRENT</u> その他の値: 修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: 終了ジャーナル・レシーバー	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	
FROMENTLRG	大きい開始順序番号	文字値, <u>*LASTSAVE</u> , *FIRST	オプション
TOENTLRG	大きい終了順序番号	文字値, <u>*LASTRST</u> , *LAST	オプション
TOTIME	終了日および時刻	要素リスト	オプション
	要素 1: 終了日付	日付	
	要素 2: 終了時刻	時刻	
TOJOB0	完全に修飾されたジョブ名	修飾ジョブ名	オプション
	修飾子 1: 完全に修飾されたジョブ名	名前	
	修飾子 2: ユーザー	名前	
	修飾子 3: 番号	000000-999999	
TOJOB0C	完全に修飾されたジョブ名	修飾ジョブ名	オプション
	修飾子 1: 完全に修飾されたジョブ名	名前	
	修飾子 2: ユーザー	名前	
	修飾子 3: 番号	000000-999999	
CMTBDY	コミットメント境界	<u>*YES</u> , *NO	オプション
OPTION	オプション	<u>*NONE</u> , *IGNINQMSG	オプション
OBJERROPT	オブジェクト・エラー・オプション	<u>*CONTINUE</u> , *END	オプション
OUTPUT	出力	<u>*NONE</u> , *OUTFILE	オプション
OUTFILE	出力を受け取るファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 出力を受け取るファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	
OUTMBR	出力メンバー・オプション	要素リスト	オプション
	要素 1: 出力を受け取るメンバー	名前, <u>*FIRST</u>	
	要素 2: レコードの置き換えまたは追加	<u>*REPLACE</u> , *ADD	
DETAIL	詳細	<u>*ALL</u> , *ERR	オプション
FROMENT	開始順序番号	1-9999999999, <u>*LASTSAVE</u> , *FIRST	オプション
TOENT	終了順序番号	1-9999999999, <u>*LASTRST</u> , *LAST	オプション

上

ジャーナル (JRN)

適用するジャーナル項目と関連したジャーナルを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: ジャーナル

ジャーナル名

適用するジャーナル項目と関連したジャーナルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

上

ジャーナル・ファイル識別 (FILE)

ジャーナル項目を適用する物理データベース・ファイルの修飾名を、最大300まで指定します。

FILEパラメーターかオブジェクト・パラメーター(OBJまたはOBJPATH)のいずれかを指定する必要があります (両方は指定しないでください)。

要素1: ジャーナルされた物理ファイル

修飾子1: ジャーナルされた物理ファイル

***ALL** 指定したライブラリーに入っていて指定したジャーナルに変更が記録されているすべての物理ファイルに、そのジャーナル項目が適用されます。ライブラリー名を指定しなければなりません。

***ALL**を指定しても、ユーザーがライブラリーにあるすべてのファイルに対して必要な権限を持っていない場合には、メッセージが送信されて、ジャーナル項目の適用は終了されます。

ファイル名

そのジャーナル項目が適用されるデータベース物理ファイルの名前を指定してください。このパラメーターの最初の要素に***ALL**を指定した場合には、ライブラリー中の適用可能なすべてのファイルにメンバー名に指定された値が使用されます。例えば、***FIRST**を指定した場合には、ライブラリー中の適用可能なすべてのファイルの最初のメンバーに変更が適用されます。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

要素2: メンバー

そのジャーナル項目が適用されるファイルのメンバーの名前を指定してください。

***ALL** ファイルのすべてのメンバーにそれらのジャーナル項目が適用されます。

***FIRST**

ファイルの最初のメンバーにそのジャーナル項目が適用されます。

メンバー名

そのジャーナル項目が適用されるファイルのメンバーの名前を指定してください。メンバー名または(*ALLではなく) *FIRSTが指定された場合には、そのファイルに対するオブジェクト・レベルの変更は適用操作中に適用されません。 *ALLが指定された場合には、そのファイルに対するオブジェクト・レベルの変更が適用されます。

上

オブジェクト (OBJ)

ジャーナル項目が適用される最大300のオブジェクトか、あるいは現在ジャーナルにジャーナル処理済みのすべてのオブジェクト(*ALLJRNOBJ)を指定します。

FILEパラメーターかオブジェクト・パラメーター(OBJまたはOBJPATH)のいずれかを指定する必要があります (両方は指定しないでください)。

単一値

***ALLJRNOBJ**

現在ジャーナルにジャーナル処理済みのすべてのオブジェクトに、そのジャーナル項目が適用されます。これには、タイプ*FILE, *DTAARA, *DTAQ, *LIB, *STMF, *DIR, および*SYMLINKが含まれます。この値を使用する場合には、OBJPATHパラメーターは指定できません。

要素1: オブジェクト

修飾子1: オブジェクト

***ALL** 指定したタイプの指定したライブラリーに入っていて指定したジャーナルに対して変更がジャーナル処理されるすべてのオブジェクトに、ジャーナル項目が適用されます。ライブラリー名を指定しなければなりません。 *ALLを指定しても、ユーザーがライブラリーにあるすべてのオブジェクトに対して必要な権限を持っていない場合には、メッセージが送信されて、ジャーナル項目の適用は終了されます。

オブジェクト名

ジャーナル項目を適用するオブジェクトの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

要素2: オブジェクト・タイプ

ジャーナル項目が適用されるオブジェクトのオブジェクト・タイプを指定します。

***FILE** データベース・ファイル・メンバーの項目が適用されます。

*DTAARA

データ域の項目が適用されます。

*DTAQ

データ待ち行列の項目が適用されます。

***LIB** ライブラリーの項目が適用されます。また、適用されたジャーナル項目の範囲内にあるライブラリーのジャーナル処理の継承のためにライブラリー内で作成され、ジャーナル処理を開始されたオブジェクトもその適用の一部として作成され、これらのオブジェクトに項目が適用されます。

ALL** このオプションで使用可能なすべてのオブジェクト・タイプの項目が適用されます。ALL** オブジェクト・タイプは、オブジェクト名に***ALL**が指定された場合のみ許可されます。

要素3: データベース・ファイルの場合にメンバー

そのジャーナル項目が適用されるファイルのメンバーの名前を指定してください。このパラメーターの最初の部分に***ALL**を指定した場合には、ライブラリー中の適用可能なすべてのファイルにメンバー名に指定された値が使用されます。例えば、***FIRST**を指定した場合には、ライブラリー中の適用可能なすべてのファイルの最初のメンバーに変更が適用されます。

注: 指定のオブジェクト・タイプが***FILE**ではない場合は、メンバー名要素値は無視されます。

***ALL** ファイルのすべてのメンバーにそれらのジャーナル項目が適用されます。

*FIRST

ファイルの最初のメンバーにそのジャーナル項目が適用されます。

メンバー名

そのジャーナル項目が適用されるファイルのメンバーの名前を指定してください。メンバー名または***ALL**ではなく***FIRST**が指定された場合には、そのファイルに対するオブジェクト・レベルの変更は適用操作中に適用されません。ファイルに***ALL**が指定された場合には、そのファイルに対するオブジェクト・レベルの変更が適用されます。

上

オブジェクト (OBJPATH)

ジャーナル項目が適用される最大300のオブジェクトを指定します。「ルート」(/), QOPENSYS,およびユーザー定義ファイル・システムに入っていて、タイプが***STMF**, ***DIR**,または***SYMLNK**のオブジェクトを識別するパス名を持つオブジェクトだけがサポートされます。

FILEパラメーターかオブジェクト・パラメーター(OBJまたはOBJPATH)のいずれかを指定する必要があります(両方は指定しないでください)。OBJPATHは、OBJ(*ALLJRNOBJ)が使用される場合は使用できません。

要素1: 名前

パス名 ジャーナル項目を適用するオブジェクトの名前を指定してください。

パス名の最後の部分にパターンを指定することができます。アスタリスク(*)は任意の数の文字が突き合わされ、疑問符(?)は単一文字が突き合わされます。修飾されているパス名、パターンが入っているパス名は、アポストロフィで囲まなければなりません。パス名内の記号リンクはその限りではありません。パス名が波形記号文字で始まっている場合には、そのパスは該当するホーム・ディレクトリーに相対するものとみなされます。

パス名パターンの詳細は、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「統合ファイル・システム」トピック・コレクションを参照してください。

注: このパラメーターではUnicodeが使用可能です。詳しくは、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリに含まれる制御言語(CL)トピック・コレクションで「CLでのUnicodeサポート」を参照してください。

要素2: 組み込みまたは除外

2番目の要素は、パス名またはパターンと一致する名前を操作に含めるかまたは操作から除外するかを指定します。名前がパターンと一致するかどうかを判別する時に、相対的な名前パターンは常に現行作業ディレクトリーとの相対関係として取り扱われることに注意してください。

***INCLUDE**

*OMITの指定によって変更されない限り、オブジェクト名パターンと一致するオブジェクトは、適用されるジャーナル項目の判別に組み込まれます。

***OMIT**

オブジェクト名パターンと一致するオブジェクトは、適用されるジャーナル項目の判別に組み込まれません。これは*INCLUDEの指定を指定変更するもので、前に選択されたパターンのサブセットを除外するために使用されることになります。

上

ディレクトリーのサブツリー (SUBTREE)

ジャーナル項目を適用するオブジェクトの決定にディレクトリー・サブツリーを組み込むかどうかを指定します。

注: このパラメーターは、OBJPATHパラメーターに1つまたは複数のパス名を指定する場合にだけ有効です。

***NONE**

選択基準と一致するオブジェクトだけが処理されます。選択したディレクトリーにあるオブジェクトは、暗黙に処理されません。

***ALL** 選択基準と一致する各ディレクトリーのサブツリー全体に加えて、選択基準と合ったすべてのオブジェクトが、処理されます。このサブツリーには、すべてのサブディレクトリーおよびそのサブディレクトリー内のオブジェクトが含まれます。

コマンドが特定のディレクトリー・サブツリーをいったん処理し始めると、検出、処理されるオブジェクトは、指定されたディレクトリー・ツリー内でのオブジェクトの編成を更新する操作の影響を受ける可能性があります。影響には次のようなものがありますが、これらに限定されるわけではありません。

- オブジェクト・リンクの追加、除去、または名前変更
- ファイル・システムのマウントまたはマウント解除
- コマンドを呼び出すプロセスの有効ルート・ディレクトリーの更新
- シンボリック・リンクの内容の更新

ディレクトリー・サブツリーを処理するために、システム・コードは、処理の対象として処理中に開いておくことのできるファイル記述子の最大数を増やすことができます。これは、コマンドが記述子の不足のために失敗しないようにするために行われます。この処理対象最大値は、コマンド完了時にリセットされません。

上

名前パターン (PATTERN)

ジャーナル項目が適用されるオブジェクトを組み込むかまたは除外するために使用するパターンを、最大20まで指定します。

名前パターンの突き合わせにはパス名の終わりの部分だけが考慮されます。パス名区切り文字は名前パターンで使用できません。アスタリスク(*)は任意の数の文字が突き合わされ、疑問符(?)は単一文字が突き合わされます。修飾されているパス名、パターンが入っているパス名は、アポストロフィで囲まなければなりません。

名前パターンのパラメーターを指定しないと、省略時値によりすべてのパターンが突き合わされます。

パス名パターンの詳細は、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「統合ファイル・システム」トピック・コレクションを参照してください。

注: このパラメーターは、OBJPATHパラメーターに1つまたは複数のパス名を指定する場合にだけ有効です。

要素1: パターン

'* 入力OBJPATHパラメーターと一致するすべてのオブジェクトが組み込まれます。

名前パターン

ジャーナル項目が適用されるオブジェクトを組み込むかまたは除外するために使用するパターンを指定します。名前パターンの突き合わせにはパス名の終わりの部分だけが考慮されます。パス名区切り文字は名前パターンで使用できません。

名前パターンのパラメーターを指定しないと、省略時値によりすべてのパターンが突き合わされます。

パス名パターンの詳細は、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「統合ファイル・システム」トピック・コレクションを参照してください。

注: このパラメーターではUnicodeが使用可能です。詳しくは、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリーに含まれる制御言語(CL) トピック・コレクションで「CLでのUnicodeサポート」を参照してください。

要素2: 組み込みまたは除外

2番目の要素は、パターンと一致する名前を操作に含めるかまたは操作から除外するかを指定します。名前がパターンと一致するかどうかを判別する時に、相対的な名前パターンは常に現行作業ディレクトリーとの相対関係として取り扱われることに注意してください。

***INCLUDE**

*OMITの指定によって変更されない限り、オブジェクト名パターンと一致するオブジェクトが操作に組み込まれます。

***OMIT**

オブジェクト名パターンと一致するオブジェクトは操作に組み込まれません。これは*INCLUDEの指定を指定変更するもので、前に選択されたパターンのサブセットを除外するために使用されることとなります。

上

論理ファイルへの変更の適用 (APYLF)

適用されるオブジェクトのリストに論理ファイルを組み込むかどうかを指定します。

注: OBJ(*ALLJRNOBJ)を指定した場合には、このパラメーターは無視されます。

***YES** FILEまたはOBJパラメーターに指定した物理ファイル上で構築されたすべての論理ファイルには、ジャーナル処理された変更が適用されます。さらに、単にテーブル機能上で構築された論理ファイルについても、OBJパラメーターにそれらのライブラリーが指定されている場合は、ジャーナル処理された変更が適用されます。

***NO** 論理ファイルに、ジャーナル処理された変更は適用されません。

上

ジャーナル・レシーバーの範囲 (RCVRNG)

ジャーナル項目の適用の際に使用する開始および終了ジャーナル・レシーバーを指定します。システムは、このジャーナル・レシーバー範囲の最初のジャーナル・レシーバーにジャーナル項目を適用することによって開始し、このジャーナル・レシーバー範囲の最後のジャーナル・レシーバーにジャーナル項目を適用するまでは、レシーバーの処理を続行します。

注: レシーバーの範囲に含めることのできるレシーバーの最大数は1024です。指定された範囲の中に1024を超えるレシーバーが含まれている場合には、エラー・メッセージが送られ、変更は適用されません。このパラメーターに指定された値は、限界を超えないように変更することができます。

単一値

***LASTSAVE**

使用されるジャーナル・レシーバーの範囲は、記録した変更を適用するオブジェクトの情報を保管すると、システムによって決定されます。このパラメーター値が有効なのは、*LASTSAVEが開始順序番号 (FROMENT)パラメーターおよび大きい開始順序番号 (FROMENTLRG)パラメーターにも指定されている場合だけです。

***CURRENT**

ジャーナル項目の適用を開始する時点で接続されているジャーナル・レシーバーが使用されます。

要素1: 開始ジャーナル・レシーバー

修飾子1: 開始ジャーナル・レシーバー

開始ジャーナル・レシーバー

最初の（一番古い）レシーバーとして使用されるジャーナル・レシーバーの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジャーナル・レシーバーを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

ジャーナル・レシーバーが入っているライブラリーを指定します。

要素2: 終了ジャーナル・レシーバー

修飾子1: 終了ジャーナル・レシーバー

***CURRENT**

ジャーナル項目の適用を開始する時点で接続されているジャーナル・レシーバーが使用されます。

終了ジャーナル・レシーバー

ジャーナル項目を適用する最後の（一番新しい）レシーバーとして使用されるジャーナル・レシーバーの名前を指定してください。このレシーバーが見つかる前にレシーバー連鎖の終わりになった場合には、項目は適用されず、エスケープ・メッセージが送られます。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジャーナル・レシーバーを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

ジャーナル・レシーバーが入っているライブラリーを指定します。

上

大きい開始順序番号 (FROMENTLRG)

ジャーナル処理された変更を適用する開始点として使用する項目を指定します。

開始順序番号 (FROMENT)パラメーターか大きい開始順序番号 (FROMENTLRG)パラメーターのいずれかに値を指定することができますが、両方には指定できません。

***LASTSAVE**

ジャーナル項目は、オブジェクトが最後に保管された後で、最初のジャーナル項目から適用されま

す。システムは、このコマンドで指定されたオブジェクトのそれぞれに対して実際の開始位置を決定します。パラメーター値は、オブジェクトがシステムに復元されたことだけを示します。

復元されたオブジェクトのバージョンが活動中保管機能を使用して保管されたバージョンであった場合には、これが実際にオブジェクトの最後の保管であったかどうかとは無関係に、システムは、対応する保管の開始項目からの変更の適用を開始します。活動中保管を使用している場合には、ジャーナル処理された変更の適用に必要な情報がオブジェクトとともに保管され、復元されます。適用コマンドに指定されたすべてのオブジェクトが、活動中保管を使用した保管バージョンから復元された場合には、システムはすべてのジャーナル・レシーバーをスキャンして、オブジェクトの保管点を見つける必要がなくなります。これによって、適用処理のパフォーマンスを向上させることができます。

復元されたオブジェクトのバージョンが使用中でない時に保管されたバージョン（通常保管）であった場合には、システムは、復元の日付および時刻が最後の保管の日付および実行より後になっているかなど、指定された各オブジェクトの情報を検査します。また、ジャーナルで指示されているように、システムはシステムに保管されるオブジェクトの保管バージョンの日時がオブジェクトを最後に保管した日時と同じであることも検査します。

日時が一致しない場合には、項目は適用されず、ユーザーまたはシステム操作員に取り消しまたは無視の応答を要求する照会メッセージ(CPA7050)が送られます。メッセージに対して無視で応答した場合には、操作が試行されます。取り消し応答の場合には、操作が終了し、ジャーナル項目は適用されません。

活動時保管機能でオブジェクトの最終保管を行った場合は、各オブジェクトの保管済みコピーには、ジャーナル項目のすべての変更（対応する保管の開始ジャーナル項目まで）が入っています。この場合には、システムは変更の適用を最初のジャーナル項目で開始して、次に保管の開始項目で行います。

オブジェクトが使用中でない時に最終保管した場合（通常保管）には、各オブジェクトの保管済みコピーに、ジャーナル項目の対応するオブジェクト保管済みジャーナル項目までのすべての変更が含まれています。この場合には、システムは変更の適用を最初のジャーナル項目で開始して、次にオブジェクト保管項目で行います。

注：保管コマンドのSAVACTWAITパラメーターの2番目の要素として*NOCMTBDYを指定して保管されたデータベース・ファイル・メンバーがあり、それが現在ジャーナル処理済み変更の適用が必要な状態である場合には、*LASTSAVEを指定しなければなりません。部分トランザクションを完了するためにジャーナル処理された変更の適用を使用できない場合には、ジャーナル処理された変更の除去(RMVJRNCHG)コマンドを使用して部分トランザクションを除去することができます。APYJRNCHGもRMVJRNCHGも使用することができず、また、ファイルの他のバージョンを復元できない場合には、最後の手段としてジャーナル処理済みオブジェクトの変更(CHGJR NOBJ)コマンドを使用し、オブジェクト内の部分トランザクションを完了しないままファイルを使用できるようにすることができます。

***FIRST**

ジャーナル項目は、このコマンドに提供される最初のレシーバーの最初のジャーナル項目から適用されます。

開始順序番号

提供されたジャーナル項目から適用される最初のジャーナル項目の順序番号を指定してください。受け入れ可能な範囲は1から18,446,744,073,709,551,600です。

注：順序番号の入力時には、ジャーナル・レシーバーの範囲 (RCVRNG)パラメーターを*LASTSAVEに、また、大きい終了順序番号(TOENTLRG)パラメーターを*LASTRSTにすることはできません。

大きい終了順序番号 (TOENTLRG)

ジャーナル処理された変更を適用する終了点として使用する項目を指定します。

終了順序番号 (TOENT)パラメーターか大きい終了順序番号 (TOENTLRG)パラメーターのいずれかに値を指定することができますが、両方には指定できません。

*LASTRST

ジャーナル項目は、オブジェクトが最後に復元される前の項目まで適用されます。システムは、このコマンドで指定されたオブジェクトのそれぞれの実際の終了位置を決定します。システムは、システム上のオブジェクトの復元済みバージョンの日時が、ジャーナルに示されているそのオブジェクトの最終復元の日時と同じであることを確認します。日時が一致しない場合には、項目は適用されず、ユーザーまたはシステム操作員に照会メッセージ(CPA7075)が送られ、取り消しまたは無視の応答が要求されます。メッセージに対して無視で応答した場合には、操作が試行されます。取り消し応答の場合には、操作が終了し、ジャーナル項目は適用されません。

別のオブジェクトへの変更の適用の結果としてオブジェクトが作成された場合には、新規に作成されたオブジェクトの適用終了点は適用対象のすべてのオブジェクトの最大終了点となります。

このパラメーター値が有効なのは、*LASTSAVEが開始順序番号 (FROMENT)パラメーターまたは大きい開始順序番号 (FROMENTLRG)パラメーターにも指定されている場合だけです。次のどのパラメーターも指定されていない場合には、*LASTRSTとみなされます。

- 終了日および時刻 (TOTIME),
- 完全に修飾されたジョブ名 (TOJOB0),
- 完全に修飾されたジョブ名 (TOJOB0C).

*LAST

ジャーナル項目は、レシーバー範囲内の最後のジャーナル・レシーバーの最後の項目まで適用されます。

終了順序番号

適用される最後の項目の順序番号を指定します。受け入れ可能な範囲は1から18,446,744,073,709,551,600です。

終了日および時刻 (TOTIME)

適用される最後のジャーナル項目の日時を指定します。その時刻または次に早い時刻の最初の項目が、ジャーナル項目適用の終了点です。

時刻は、時刻区切り記号付きまたは時刻区切り記号なしの24時間形式で指定することができます。

- 時刻区切り記号を使用しない場合には、4または6桁のストリング(HHMMまたはHHMMSS)を指定します。ここで、**HH** =時、**MM** =分、および**SS** =秒です。
- 時刻区切り記号を使用する場合には、ユーザーのジョブに指定された時刻区切り記号を使用して、時、分、および秒を区切った5または8桁のストリングを指定してください。このコマンドをコマンド入力行から入力する場合には、ストリングをアポストロフィで囲まなければなりません。ジョブに指定された区切り記号以外の時刻区切り記号を使用した場合には、このコマンドは正常に実行されません。

要素1: 終了日付

日付 終了日を指定してください。

要素2: 終了時刻

時刻 終了時刻を指定してください。

上

完全に修飾されたジョブ名 (TOJOB0)

指定されたオブジェクトのオープン時に、このコマンドによってジャーナル項目の適用を終了するジョブのジョブIDを指定します。指定のオブジェクトで見つかった最初のジョブ・オープン項目が、指定されたすべてのオブジェクトの終了点です。

タイプ*FILE, *DIR,または*STMFのオブジェクトだけにジョブ・オープンと関連するジャーナル項目があります。変更が適用されるオブジェクトが記録オープンおよびクローズ項目でない場合には、TOJOB0パラメーターを使用することはできません。詳細については、STRJRN, STRJRNPf, STRJRNLIB, およびCHGJRNOBJコマンドのジャーナル項目除外(OMTJRNE)パラメーターを参照してください。

ジョブID

ジョブ名, ユーザー名, および使用するジョブのジョブ番号を指定してください。ジョブ名だけまたはジョブ名とユーザー名を使用するように指定することもできます。

ジョブ名

ジョブのジョブ名を指定してください。

ユーザー名

ジョブのユーザー名を指定してください。

ジョブ番号

システム割り当てジョブ番号を指定してください。

上

完全に修飾されたジョブ名 (TOJOBc)

このコマンドによってジャーナル項目の適用を終了するジョブのジョブID を指定します。指定されたオブジェクトのいずれの場合にも、指定されたジョブに見つかった最初のオブジェクト・クローズ項目が、指定されたすべてのオブジェクトの終了点です。次のいずれかが起こった時に、ジャーナル項目の適用が終了します。

- 指定のジョブが指定されるオブジェクトをクローズした時。
- 指定したジョブが終了した時。

タイプ*FILE, *DIR,または*STMFのオブジェクトだけがオブジェクト・クローズに関連したジャーナル項目を持っています。変更が適用されるオブジェクトが記録オープンおよびクローズ項目でない場合には、TOJOBc パラメーターを使用することはできません。詳細については、STRJRN, STRJRNPf, STRJRNLIB, およびCHGJRNOBJコマンドのジャーナル項目除外(OMTJRNE)パラメーターを参照してください。

ジョブID

ジョブ名、ユーザー名、および使用するジョブのジョブ番号を指定してください。ジョブ名だけまたはジョブ名とユーザー名を使用するように指定することもできます。

ジョブ名

ジョブのジョブ名を指定してください。

ユーザー名

ジョブのユーザー名を指定してください。

ジョブ番号

システム割り当てジョブ番号を指定してください。

上

コミットメント境界 (CMTBDY)

適用されるジャーナル項目がコミットメント制御論理単位(LUW)の一部であるときに、コミットメント境界が尊重されるかどうかを指定します。コミットメント制御の使用の詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「データベース」カテゴリを参照してください。

注: このパラメーターの記述を目的として、TOENT, TOENTLRG, TOTIME, TOJOB0,またはTOJOB0Cパラメーターのどれが指定されても、それを記述するためにTOオプションが使用されます。

***YES** ジャーナル項目は、コミットメント境界を尊重して、FROMENTまたはFROMENTLRGパラメーターに指定されている項目からTOオプションで指示された項目に適用されます。

- FROMENTまたはFROMENTLRGパラメーターに指定されているジャーナル項目が、それが関与するLUWの間にある場合には、エラー・メッセージが送られ、操作は試みられません。
- TOオプションで指示されたジャーナル項目がそのLUWの間にある場合には、そのジャーナル項目の前のコミットメント境界で操作が停止します。操作の終了時に診断メッセージが送られ、その事実が生成されるすべての出力ファイルに記録されます。

注: TOオプションで指示された項目の前で操作が終了する原因となるジャーナル項目が見つかった場合には、コミットメント境界が尊重されていない可能性があります。さらに、保留中のオブジェクト・レベル操作が存在していた場合には、それらはコミットされるかまたはロールバックされます。これは、ジャーナル内の前方をそのトランザクションのジャーナル・コードC項目タイプCMまたはRBのジャーナル項目がないかどうかを見ることによって決定されます。これにより、部分トランザクションが適用される結果となり、コミットメント境界が尊重されない可能性があります。C/CMまたはC/RB項目がジャーナルで見つからなかった場合には、オブジェクト・レベル操作はロールバックされます。

***NO** ジャーナル項目は、コミットメント境界に関係なく、FROMENTまたはFROMENTLRGパラメーターに指定されている項目からTOオプションで指示された項目に適用されます。この範囲内にあるジャーナル項目がLUWの構成要素であったとしても、操作は実行されます。

注: CMTBDY(*NO)が指定され、適用先のオブジェクトが部分トランザクションを含む保管バージョンから復元されていた場合には、それらの部分トランザクションに対する保留中の変更は、そのトランザクションが指定された範囲内で完了しなければ除去されません。適用操作の終了時には、元の保留中の変更が部分トランザクションに対する新規変更とともにオブジェクト内に残ります。オブジェクトが使用可能なのは、すべての保留中のトランザクションが指定された範囲内で完了した場合だけです。

注: データベース・オブジェクト・レベル操作の場合の適用時には、CMTBDY(*NO)が指定されても、コミットメント制御が使用されます。これは、選択されるジャーナル項目の範囲には影響せず、その範囲はまだ上記の通りです。さらに、保留中のデータベース・オブジェクト・レベル操作が存在していた場合には、それらはコミットされるかまたはロールバックされます。これは、ジャーナル内の前方をそのトランザクションのC/CMまたはC/RBのジャーナル項目がないかどうかを見ることによって決定されます。C/CMまたはC/RBジャーナル項目が見つからなかった場合には、変更はロールバックされます。

上

オプション (OPTION)

ジャーナル変更を適用する前に追加の検査を実行する必要があるかどうかを指定します。

*NONE

ジャーナル変更が適用される前に、すべての保護検査が実行されます。

*IGNINQMSG

照会メッセージを無視します。適用されるオブジェクトがオブジェクトの最後の保管または復元からのものでない場合であっても、照会メッセージCPA7050およびCPA7075はユーザーに提供されません。適用操作は続行されます。

上

オブジェクト・エラー・オプション (OBJERROPT)

エラー状態が検出された場合に、ジャーナル項目の処理をどのように進める必要があるかを指定します。

*CONTINUE

特定のオブジェクトのジャーナル項目を処理できないことが検出された場合には、そのオブジェクトのその他残りのジャーナル項目も処理されません。他のオブジェクトのジャーナル項目の処理は続行されます。そのオブジェクトのジャーナル処理済み変更の処理は正常に行われなかったことを示す診断メッセージが送られます。特定のオブジェクトについて処理が早期に終了したことを示す指示が、どの出力ファイル・レコードにも入れられます。

***END** 最初のジャーナル項目を処理できないことが検出された場合には、すべてのオブジェクトについて処理が終了します。

上

出力 (OUTPUT)

変更が適用される先のオブジェクトに関する情報のリストが作成されるかどうかを指定します。この情報はデータベース・ファイルに送ることができます。

*NONE

出力によるデータベース・ファイルは作成されません。最初の512個のオブジェクトに関するメッセージがジョブ・ログに送られます。

*OUTFILE

適用操作に関する出力情報は、出力を受け取るファイル (OUTFILE)パラメーターで指定されたデータベース・ファイルに送られます。

注: OUTPUT(*OUTFILE)が指定されている場合には、出力を受け取るファイル (OUTFILE)パラメーターにデータベース・ファイル名を指定しなければなりません。

上

出力を受け取るファイル (OUTFILE)

*OUTFILEが出力 (OUTPUT)パラメーターに指定されている場合に情報の送り先となるデータベース・ファイルを指定します。このファイルが存在しない場合には、このコマンドが指定したライブラリーにデータベース・ファイルを作成します。新規ファイルを作成する場合に、システムはモデルとしてQSYS内のQAJRNCHGを形式名QJOAPYRMで使用します。

修飾子1: 出力を受け取るファイル

データベース・ファイル名

コマンドからの出力が指示されるデータベース・ファイルの名前を指定してください。このファイルが存在していない場合には、指定したライブラリーに作成されます。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

上

出力メンバー・オプション (OUTMBR)

出力 (OUTPUT)パラメーターに*OUTFILEが指定された時に、出力を指示するデータベース・ファイル・メンバーの名前を指定します。

要素1: 出力を受け取るメンバー

*FIRST

ファイル中の最初のメンバーが出力を受け取ります。OUTMBR(*FIRST)が指定されていて、メンバーが存在していない場合には、システムが出力を受け取るファイル (OUTFILE)パラメーターに指定されたファイルの名前を使用してメンバーを作成します。

名前 出力を受け取るファイル・メンバーの名前を指定してください。OUTMBR (メンバー名) が指定され、そのメンバーが存在しない場合、システムがメンバーを作成します。

メンバーが存在している場合には、レコードを既存メンバーの終わりに追加するか、既存メンバーを消去してレコードを追加することができます。

要素2: レコードの置き換えまたは追加

*REPLACE

指定したデータベース・ファイル・メンバー中に既存のレコードは、新規レコードで置き換えられます。

***ADD** 新規レコードが指定されたデータベース・ファイル・メンバーの既存情報に追加されます。

上

詳細 (DETAIL)

出力ファイルに送られる情報のタイプを指定します。

***ALL** ファイルには、コマンドに関する情報と、適用された各コマンドごとにそれが適用コマンドの開始時に存在していたか、あるいは適用時に作成されたかを示す1つの項目が入られます。

***ERR** ファイルには、コマンドに関する情報と、正常に適用されなかった各オブジェクトに関する項目のみが入られます。オブジェクトについて適用が早期に終了した場合には、それに関する項目が含まれます。

上

開始順序番号 (FROMENT)

ジャーナル処理された変更を適用する開始点として使用する項目を指定します。

開始順序番号 (FROMENT)パラメーターか大きい開始順序番号 (FROMENTLRG)パラメーターのいずれかに値を指定することができますが、両方には指定できません。

*LASTSAVE

ジャーナル項目は、オブジェクトが最後に保管された後で、最初のジャーナル項目から適用されます。システムは、このコマンドで指定されたオブジェクトのそれぞれに対して実際の開始位置を決定します。パラメーター値は、オブジェクトがシステムに復元されたことだけを示します。

復元されたオブジェクトのバージョンが活動中保管機能を使用して保管されたバージョンであった場合には、これが実際にオブジェクトの最後の保管であったかどうかとは無関係に、システムは、対応する保管の開始項目からの変更の適用を開始します。活動中保管を使用している場合には、ジャーナル処理された変更の適用に必要な情報がオブジェクトとともに保管され、復元されます。適用コマンドに指定されたすべてのオブジェクトが、活動中保管を使用した保管バージョンから復元された場合には、システムはすべてのジャーナル・レシーバーをスキャンして、オブジェクトの保管点を見つける必要がなくなります。これによって、適用処理のパフォーマンスを向上させることができます。

復元されたオブジェクトのバージョンが使用中でない時に保管されたバージョン（通常保管）であった場合には、システムは、復元の日付および時刻が最後の保管の日付および実行より後になっているかなど、指定された各オブジェクトの情報をチェックします。また、ジャーナルで指示されているように、システムはシステムに保管されるオブジェクトの保管バージョンの日時がオブジェクトを最後に保管した日時と同じであることもチェックします。

日時が一致しない場合には、項目は適用されず、ユーザーまたはシステム操作員に取り消しまたは無視の応答を要求する照会メッセージ(CPA7050)が送られます。メッセージに対して無視で応答した場合には、操作が試行されます。取り消し応答の場合には、操作が終了し、ジャーナル項目は適用されません。

活動時保管機能でオブジェクトの最終保管を行った場合は、各オブジェクトの保管済みコピーには、ジャーナル項目のすべての変更（対応する保管の開始ジャーナル項目まで）が入っています。この場合には、システムは変更の適用を最初のジャーナル項目で開始して、次に保管の開始項目で行います。

オブジェクトが使用中でない時に最終保管した場合（通常保管）には、各オブジェクトの保管済みコピーに、ジャーナル項目の対応するオブジェクト保管済みジャーナル項目までのすべての変更が含まれています。この場合には、システムは変更の適用を最初のジャーナル項目で開始して、次にオブジェクト保管項目で行います。

注：保管コマンドのSAVACTWAITパラメーターの2番目の要素として*NOCMTBDYを指定して保管されたデータベース・ファイル・メンバーがあり、それが現在ジャーナル処理済み変更の適用が必要な状態である場合には、*LASTSAVEを指定しなければなりません。部分トランザクションを完了するためにジャーナル処理された変更の適用を使用できない場合には、ジャーナル処理された変更の除去(RMVJRNCHG)コマンドを使用して部分トランザクションを除去することができます。APYJRNCHGもRMVJRNCHGも使用することができず、また、ファイルの他のバージョンを復元できない場合には、最後の手段としてジャーナル処理済みオブジェクトの変更(CHGJR NOBJ)コマンドを使用し、オブジェクト内の部分トランザクションを完了しないままファイルを使用できるようにすることができます。

***FIRST**

ジャーナル項目は、このコマンドに提供される最初のレシーバーの最初のジャーナル項目から適用されます。

開始順序番号

提供されたジャーナル項目から適用される最初のジャーナル項目の順序番号を指定してください。受け入れ可能な範囲は1から9,999,999,999です。

注：順序番号の入力時には、**ジャーナル・レシーバーの範囲 (RCVRNG)**パラメーターを*LASTSAVEに、また、**終了順序番号(TOENT)**パラメーターを*LASTRSTにすることはできません。

上

終了順序番号 (TOENT)

ジャーナル処理された変更を適用する終了点として使用する項目を指定します。

終了順序番号 (TOENT)パラメーターか大きい終了順序番号 (TOENTLRG)パラメーターのいずれかに値を指定することができますが、両方には指定できません。

***LASTRST**

ジャーナル項目は、オブジェクトが最後に復元される前の項目まで適用されます。システムは、このコマンドで指定されたオブジェクトのそれぞれの実際の終了位置を決定します。システムは、システム上のオブジェクトの復元済みバージョンの日時が、ジャーナルに示されているそのオブジェクトの最終復元の日時と同じであることを確認します。日時が一致しない場合には、項目は適用されず、ユーザーまたはシステム操作員に照会メッセージ(CPA7075)が送られ、取り消しまたは無

視の応答が要求されます。メッセージに対して無視で応答した場合には、操作が試行されます。取り消し応答の場合には、操作が終了し、ジャーナル項目は適用されません。

別のオブジェクトへの変更の適用の結果としてオブジェクトが作成された場合には、新規に作成されたオブジェクトの適用終了点は適用対象のすべてのオブジェクトの最大終了点となります。

このパラメーター値が有効なのは、*LASTSAVEが開始順序番号 (FROMENT)パラメーターまたは大きい開始順序番号 (FROMENTLRG)パラメーターにも指定されている場合だけです。次のどのパラメーターも指定されていない場合には、*LASTRSTとみなされます。

- 終了日および時刻 (TOTIME),
- 完全に修飾されたジョブ名 (TOJOB),
- 完全に修飾されたジョブ名 (TOJOB).

*LAST

ジャーナル項目は、レシーバー範囲内の最後のジャーナル・レシーバーの最後の項目まで適用されます。

終了順序番号

適用される最後の項目の順序番号を指定します。受け入れ可能な範囲は1から9,999,999,999です。

上

例

例1:最初のメンバーへの変更の適用

```
APYJRNCHG JRN(FIN/JRNACT) FILE(FIN/RCVABLE)
```

このコマンドによってシステムは、ライブラリーFINのファイルRCVABLEの最初のメンバーに、ファイルが最後に保管されて以降にライブラリーFINのJRNACTにジャーナル処理されたすべての変更を適用します。レシーバーの範囲はシステムが決定します。変更は、ファイルが最後に保管された後のレシーバー連鎖上の最初のジャーナル処理済み変更から順に適用され、ファイルが最後に復元された時点までのすべての適用可能なジャーナル項目まで続行されます。

例2:特定のメンバーへの変更の適用

```
APYJRNCHG JRN(JRNA) FILE((LIB2/PAYROLL JAN))
           RCVRNG(RCV22 RCV25)
           FROMENT(*FIRST) TOENT(*LAST)
```

このコマンドによってシステムは、JRNAにジャーナル処理されたすべての変更を、ライブラリーLIB2のファイルPAYROLLのメンバーJANに適用します。ジャーナル処理済み変更が入っているジャーナル・レシーバーは、レシーバーRCV22から始まりレシーバーRCV25で終わるレシーバー連鎖に含まれています。変更の適用は、このレシーバー連鎖上でジャーナル処理された最初の変更から始まり、このレシーバー連鎖上でジャーナル処理された最後の変更で終了します。ジャーナルJRNAとジャーナル・レシーバーRCV22およびRCV25の検索には、ライブラリー検索リスト(*LIBL)が使用されます。

例3:統合ファイル・システム・オブジェクトへの変更の適用

```
APYJRNCHG JRN(JRNS/JRNA)
           OBJPATH((' /HRINFO/PAYROLL/JAN* ')
                  (' /HRINFO/PAYROLL/JANSUMMARY' *OMIT))
           SUBTREE(*ALL)
           PATTERN(('*.DATA') ('TEMP*.DATA' *OMIT))
           RCVRNG(*CURRENT)
           FROMENT(20) TOENT(400)
```

このコマンドによってシステムは、変更を統合ファイル・システム・オブジェクトに適用します。この変更は、現在ジャーナルJRNS/JRNAに接続されているジャーナル・レシーバー内の開始順序番号20から終了順序番号400までに適用されます。

1. 文字「JAN」で始まる統合ファイル・システム・サブツリー'/HRINFO/PAYROLL'内のすべてのオブジェクト、ただし'/HRINFO/PAYROLL/JANSUMMARY'という名前のオブジェクトは除外します。
2. 番号1を突き合わせたすべてのディレクトリーのサブツリー内の、その名前が「.DATA」で終わるすべてのオブジェクト、ただし文字「TEMP」で始まり、「.DATA」で終わる名前は除外します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF69A9

内部エラーが検出されました。エラー・コードは&2です。

CPF69AA

STG(*FREE)で保管されたオブジェクト&1を参照できない。

CPF69AB

RCVRNGパラメーターの値が正しくない。

CPFA0D4

ファイル・システム・エラーが起こった。エラー番号は&1です。

CPF70CC

ジャーナル項目&7を超えて操作を実行することはできない。

CPF70CD

ジャーナル項目&7を超えて操作を実行することはできない。

CPF70CE

ジャーナル項目&7を超えて操作を実行することはできない。

CPF70EB

メンバー&3で参照制約エラー。

CPF70EC

参照制約にエラー。理由コードは&9です。

CPF70EE

メンバー&3でエンコード・ベクトル・アクセス・パスの最大数。

CPF7002

ライブラリー&2のファイル&1が物理ファイルではない。

CPF7003

項目はジャーナル&1にジャーナル処理されなかった。理由コードは&3です。

CPF7006

メンバー&3が&2のファイル&1に見つからない。

CPF7007

&2のファイル&1のメンバー&3を割り振ることができない。

CPF701B

中断された操作のジャーナルの回復が行なわれなかった。

CPF704A

メンバー&3のレコード長が正しくない。

CPF704F

TOJOB0またはTOJOB0Cパラメーターはレシーバー範囲に正しくない。

CPF7041

ジョブ&3/&2/&1の項目が見つからない。

CPF7042

オブジェクトがジャーナル処理されていないか、あるいは別のジャーナルにジャーナル処理されている。

CPF7044

ジャーナル処理済み項目の適用または除去は正常に行なわれなかった。理由コードは&7です。

CPF7045

&2のジャーナル・レシーバー&1が部分的に損傷している。

CPF7046

メンバー&3に重複キーを使用することはできない。

CPF7047

&2のファイル&1のメンバー&3がいっぱいである。

CPF7048

メンバー&3へのジャーナル処理された変更を実行することができない。

CPF7049

ジャーナル項目&7を超えて操作を実行することはできない。

CPF705A

リモート・ジャーナルのために操作が正常に行なわれていない。

CPF7050

LASTSAVE日付が*&4オブジェクトの復元バージョンと同じでない。

CPF7051

*&6オブジェクトの保管項目が見つかりませんでした。

CPF7052

メンバー&3の論理ファイルに選択/除外の障害がある。

CPF7053

RCVRNGパラメーターの値が正しくない。理由コードは&1です。

CPF7054

FROMとTOの値が正しくない。

CPF7057

*LIBLでは*ALL, *ALLLIB,または総称名は使用できません。

CPF7058

ジャーナル処理された項目の適用または除去操作が正常に行なわれなかった。

CPF7059

&1の項目がRCVRNGに見つからない。

CPF7063

OUTFILEとしてファイル&1を使用することはできない。

CPF7067

FROMENTLRGまたはFROMENTオプションが正しくない。コミットの境界違反です。

CPF7068

適用または除去操作に必要な項目が見つからない。

CPF7069

ジャーナル&1を使用して適用または除去する項目がない。

CPF7075

*&4オブジェクトの復元日付がジャーナルの中のものと同じでない。

CPF7076

*&6オブジェクトの復元項目がRCVRNGで見つからなかった。

CPF7077

メンバー&3でキー・マッピング・エラー。

CPF7078

メンバー&3の変更を適用または除去することはできない。

CPF70A4

指定したレシーバーに対するジャーナル処理済み変更適用は許されない。

CPF70A7

少なくとも1つのオブジェクトで適用または除去されなかった項目がある。

CPF70A8

ライブラリー&2のファイル&1は使用できない。

CPF70AA

FROMENT(*LASTSAVE)を指定する必要がある。

CPF70AB

ライブラリー&2のジャーナル・レシーバー&1が見つからない。

CPF70AD

ジャーナル処理済み項目を適用できませんでした。理由コードは&7です。

CPF9801

ライブラリー&3にオブジェクト&2が見つからない。

CPF9802

&3のオブジェクト&2は認可されていない。

CPF9803

ライブラリー&3のオブジェクト&2を割り振りできません。

CPF9809

ライブラリー&1をアクセスすることができない。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9812

ライブラリー&2にファイル&1が見つからない。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF9822

ライブラリー&2のファイル&1は認可されていない。

CPF9825

装置&1は認可されていない。

CPF9860

出力ファイルの処理中にエラーが起こった。

上

ジャーナル処理済み変更拡張適用 (APYJRNCHGX)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ジャーナル処理済み変更の拡張適用(APYJRNCHGX)コマンドは、操作上のエラーまたはなんらかの形の損傷の後でオブジェクトを回復するために、そのオブジェクトの保管バージョンに対して特定のジャーナル処理済みオブジェクトにジャーナル処理された変更を適用します。

このコマンドとジャーナル処理済み変更の適用(APYJRNCHG)コマンドとの間にはわずかな相違点があります。このコマンドはデータベース・ファイルの項目に適用されるだけで、項目をライブラリーのすべてのファイルに適用する必要があります。

注: ジャーナル処理済み変更の拡張適用(APYJRNCHGX)コマンドは戦略的なソリューションであり、V6R1M0までは標準のAPYJRNCHGコマンドで提供されていなかった機能を備えています。APYJRNCHGXコマンドのサポートは、移行のリリースで廃止されます。

適用される一部のオブジェクト・レベルの変更は、SQLステートメントからの項目です。これらの項目の再生では、ジャーナル処理済み変更の適用(APYJRNCHGX)コマンドは実行に長時間を要する可能性があります。ALTER TABLE, REFRESH TABLEの再生または物理ファイル項目の再編成での省略時のタイムアウトは24時間です。コミット、ロールバック、またはロールバック項目取り消しの省略時のタイムアウトは12時間です。DROP TABLE項目の再生のための省略時のタイムアウトは24時間です。SQL項目からの他のオブジェクト・レベル変更項目の省略時のタイムアウトは5分です。

これらの省略時値をさらに高い値または低い値に変更したい場合には、次のように呼ばれる環境変数を追加してください。

- QIBM_JO_APPLY_ALTER_TABLE_TIMEOUT -テーブル変更(D CG)項目
- QIBM_JO_APPLY_REFRESH_TABLE_TIMEOUT -テーブル最新表示(D TQ)項目
- QIBM_JO_APPLY_DROP_TABLE_TIMEOUT -テーブル除去(F DM)項目
- QIBM_JO_APPLY_REORG_TIMEOUT -物理ファイル再編成(F RM)項目
- QIBM_JO_APPLY_TIMEOUT -他のオブジェクト・レベル変更項目の場合
- QIBM_JO_APPLY_CM_RB_CN_TIMEOUT -コミット(C CM),ロールバック(C RB),ロールバック取り消し(C CN)項目

環境変数の値はすべて秒数です。

これらの環境変数の最小値はいずれも60秒です。これらの環境変数のいずれかに60秒より小さい値が指定された場合には、60秒の値が使用されます。

環境変数はすべて大文字でなければならず、APYJRNCHGXコマンドを出す前に設定されなければなりません。

注: 環境変数を取り扱うコマンドは、環境変数追加(ADDENVVAR),環境変数変更(CHGENVVAR),および環境変数処理(WRKENVVAR)です。

各種の項目の完全なリストと、コマンドを停止する可能性がある項目も含めて、このコマンドによる項目の処理方法については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「ジャーナル管理」トピック・コレクションを参照のこと。その場合、「ジャーナル処理済み変更の適用または除去の処置」で検索してください。

APYJRNCHGXのパラメーター・リストは、互換性の目的からAPYJRNCHGとほぼ同様ですが、OBJおよびOBJPATHパラメーターは使用することができません。また、ファイル指定はライブラリー/*ALLに制限され、メンバー指定は* ALLに制限されます。

オブジェクト・レベルの変更の適用には、2次スレッドが使用されます。QMLTTHDACNシステム値が3(*NORUN)に設定されていると、一部のジャーナル項目の適用は失敗する場合があります。APYJRNCHGX操作中のお勧めするQ MLTTHDACNの設定は2です。2次スレッドの状況は、WRKJOBのオプション20を使用してモニターすることができます。

ジャーナル処理された変更は、指定の終了点に達するまで、指定の開始点（オブジェクトが最後に保管された点またはジャーナル上の特定の項目のいずれか）から適用されます。終了点は、オブジェクトですべての変更が適用された点、オブジェクトが最後に復元された点、指定の項目に達した点、指定の時刻に達した点、あるいはジョブによってファイルがオープンまたはクローズされた点とすることができます(CMTBDYパラメーターは、まだ保留中の変更を処理するために使用されます)。

注：回復シナリオの一部としてデータベース・ライブラリーを復元する前に、いずれかのファイルを削除した場合には、適用するジャーナル項目の範囲を選択する時に注意しなければなりません。ジャーナルの「DELETE FILE」項目は、指定された範囲に含まれている場合に適用されることを忘れないようにしてください。この場合には、特定の終了ジャーナル順序番号を指定するか、あるいは（回復ステップを開始する前の）特定の日付と時刻へ復元することをお勧めします。

注：ジャーナル表示(DSPJRN)コマンドを使用して、所要の開始点または終了点（あるいはその両方）を判別することができます。

ジャーナル処理済みオブジェクトのリストを指定できます。ジャーナル処理済み変更は、ジャーナル上でジャーナル項目が見つかった順序で適用されます。この順序はオブジェクトに変更を行った順序と同じです。

APYJRNCHGXコマンドと同様、レコード・レベル操作はコミットメント制御の下では実行されません。ただし、当初コミットメント制御の下で実行されたオブジェクト・レベル操作は、適用時もすべてコミットメント制御の下で実行されます。コミットメント制御トランザクションが当初コミットされていた場合に、オブジェクト・レベル操作は、対応するコミット項目が適用された時にコミットされます。コミットメント制御トランザクションが当初ロールバックされていた場合に、オブジェクト・レベル操作は、対応するロールバック項目が適用された時にロールバックされます。

対応するコミットまたはロールバック項目が適用される前に、適用中にエラーが発生すると、保留中のすべてのオブジェクト・レベル操作は、トランザクションが当初コミットされていたかロールバックされていたかによって、コミットされるかまたはロールバックされます。そのジャーナル順序番号より前の保留中のオブジェクト・レベル操作はロールバックされる可能性があるため、再度適用を開始する前に、ジャーナルを慎重に調べることにユーザー介入が必要となります。

エラー条件のためにオブジェクト・レベル操作のROLLBACKが起こった場合には、システムはレコード・レベルの変更が部分的に適用された状態となる可能性があり、一部のトランザクションはコミット境界からはずれることとなります。この時点で、ジャーナルを慎重に調べることにユーザー介入が必要となります。

例えば、トランザクションには、いくつかの挿入、それに続けて桁を追加するためのALTER TABLE,さらに（新しいレコード長を持つ）いくつかの挿入が含まれているが、ROLLBACKで終了しているとします。適用操作がALTER TABLEのすぐ後で中断された場合には、システムはそのトランザクションがROLLBACKで終了しているものと認識し、ALTER TABLEをロールバックします。この場合に適用操作が再始動されていると、レコード長のミスマッチのために2番目の挿入のセットは失敗することになります。このシナリオはありそうもないことですが、エラーの後に適用を続行するには、適用の背後にある仕組みを理解することが重要です。

ジャーナル・コードJ項目タイプSI (JRNSTATE(*STANDBY)入力) 項目が見つかった場合には、指定されたOBJERROPT値とは無関係に、指定されたすべてのオブジェクトに関する操作が終了します。オブジェクトは、ジャーナル項目から部分的に更新されるだけである可能性があります。

さらに、ジャーナル項目にコマンドが再生できない操作がリストされていると、コマンドは個々のオブジェクトについて適用を終了する可能性があります。この適用中にこの特定のオブジェクトに対する追加の変更が検出された場合には、それらの変更は適用されません。ただし、OBJERROPT(*CONTINUE)が指定されていれば、指定された他のオブジェクトについて操作が続行されます。例えば、次のいずれかが起こったことを示すジャーナル項目が見つかったと、オブジェクトに対するコマンドは終了します。

- 物理データベース・ファイル・メンバーが復元された。
- 物理データベース・ファイルのジャーナル処理が終了した。
- システムはすでにジャーナル処理済み変更の適用(APYJRNCHGまたはAPYJRNCHGX)コマンドまたはジャーナル処理済み変更の除去(RMVJRNCHG)コマンドを通じて変更を適用または除去している。

コマンドは、以下のことを行おうとするような非論理的な条件が検出された場合も、オブジェクトに対して終了します。

- レコードをデータベース・ファイル・メンバーの既存の相対レコード番号に追加する
- レコードを次のレコード位置を超えてデータベース・ファイルの末尾の後に追加する
- データベース・ファイル・メンバーの重複キーを持つレコードを追加する
- データベース・ファイル・メンバーの削除済みのレコードを削除する
- データベース・ファイル・メンバーの存在していないレコードを更新する

最も非論理的な状態は、オブジェクトの現在の内容から考えてジャーナル中の間違った位置でジャーナル処理済み変更の適用操作を開始することによって起こります。

コマンドが非論理的条件のために終了し、適用操作を再開することが論理的に可能である場合には、新しい開始順序番号を指定してコマンドを出し直すことができます。

順序番号がリセットされている場合にも、変更を適用することは可能です。システムは通知メッセージを送って、変更の適用を続行します。

制約事項:

- このコマンドは共用*EXCLUDE権限と一緒に出荷されていて、QPGMRおよびQSRVユーザー・プロファイルにはこのコマンドを使用するための専用権限があります。FILE (ライブラリー名/*ALL)またはOBJ (ライブラリー名/*ALL)が指定された場合には、ユーザーに許可されていないオブジェクトのジャーナル項目は無視されます。
- このコマンドに指定するオブジェクトは、その変更が現在ジャーナル処理済みのものでなければなりません。
- 適用操作の前に復元操作を行う場合には、復元されるオブジェクトは保管操作する時にジャーナル処理されていなければなりません。

- コマンド上で指示されているオブジェクトは、変更が適用されている間は独占的に割り当てられています。オブジェクトを割り当てることができない場合には、コマンドは終了されて、ジャーナル処理された変更は適用されません。
- コマンドに指示された期間に対応するジャーナル項目がない場合には、コマンドは終了されて、ジャーナル処理された変更は適用されません。
- ジャーナルの順序番号が指定されたレシーバーの範囲内にリセットされていて、FROMENT, FROMENTLRG, TOENT,またはTOENTLRGパラメーターに順序番号が指定されている場合には、いずれかのパラメーターに指定されている順序番号の最初のオカレンスが使用されます。
- 指定されたレシーバーの範囲内の1つ以上のジャーナル・レシーバーがRCVSIZEOPT (*MINFIXLEN)の有効なジャーナルに接続されている場合には、TOJOB0およびTOJOB0Cパラメーターを使用してジャーナル処理済み変更の適用操作を終了する時点指定することはできません。
- 変更が適用されるオブジェクトが記録オープンおよびクローズ項目でない場合には、TOJOB0およびTOJOB0Cパラメーターを使用することはできません。詳細については、STRJRN, STRJRNPf, STRJRNLIB, およびCHGJRNOBJコマンドのジャーナル項目除外(OMTJRNE)パラメーターを参照してください。
- このコマンドで変更を適用できるオブジェクトの最大数は12,000,000です。指定に12,000,000を超えるオブジェクトが含まれていると、エラー・メッセージが送られて、変更は適用されません。

この限界には、オブジェクト・レベル操作を適用した結果として作成されるすべてのオブジェクトが含まれます。この限界に達した場合には、新規メンバーは作成されません。その時点で作成（データベース・ファイル）の原因となったオブジェクトについては、適用は終了します（そして、その時点までのすべての項目は適用されます）。OBJERROPT(*CONTINUE)が指定されていた場合には、ファイルの内の他のメンバーおよび他のファイルで適用が続行されます。

データベース・ファイルに対する変更の適用時には、各メンバーと関連した1つのオブジェクト、およびファイルと関連した1つの追加オブジェクトがあります。

- 別のリリース（前のリリースか後のリリースのいずれか）から預けられたジャーナル項目があるジャーナル・レシーバーから変更を適用するためにAPYJRNCHGXを使用すると、予期しない結果の原因となる可能性があります。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
JRN	ジャーナル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: ジャーナル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
FILE	ジャーナル・ファイル識別	値 (最大 300 回の繰り返し): 要素リスト	必須, 定位置 2
	要素 1: ジャーナルされた物理ファイル	修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: ジャーナルされた物理ファイル	*ALL	
	修飾子 2: ライブラリー	名前	
	要素 2: メンバー	*ALL	

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
RCVRNG	ジャーナル・レシーバーの範囲	単一値: *LASTSAVE, *CURRENT その他の値: 要素リスト	オプション, 定位置 3
	要素 1: 開始ジャーナル・レシーバー	修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: 開始ジャーナル・レシーバー	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
	要素 2: 終了ジャーナル・レシーバー	単一値: *CURRENT その他の値: 修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: 終了ジャーナル・レシーバー	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
FROMENTLRG	大きい開始順序番号	文字値, *LASTSAVE, *FIRST	オプション
TOENTLRG	大きい終了順序番号	文字値, *LASTRST, *LAST	オプション
TOTIME	終了日および時刻	要素リスト	オプション
	要素 1: 終了日付	日付	
	要素 2: 終了時刻	時刻	
TOJOB0	完全に修飾されたジョブ名	修飾ジョブ名	オプション
	修飾子 1: 完全に修飾されたジョブ名	名前	
	修飾子 2: ユーザー	名前	
	修飾子 3: 番号	000000-999999	
TOJOB0C	完全に修飾されたジョブ名	修飾ジョブ名	オプション
	修飾子 1: 完全に修飾されたジョブ名	名前	
	修飾子 2: ユーザー	名前	
	修飾子 3: 番号	000000-999999	
CMTBDY	コミットメント境界	*YES, *NO	オプション
OPTION	オプション	*NONE, *IGNINQMSG	オプション
OBJERROPT	オブジェクト・エラー・オプション	*CONTINUE, *END	オプション
OUTPUT	出力	*NONE, *OUTFILE	オプション
OUTFILE	出力を受け取るファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 出力を受け取るファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
OUTMBR	出力メンバー・オプション	要素リスト	オプション
	要素 1: 出力を受け取るメンバー	名前, *FIRST	
	要素 2: レコードの置き換えまたは追加	*REPLACE, *ADD	
DETAIL	詳細	*ALL, *ERR	オプション
FROMENT	開始順序番号	1-9999999999, *LASTSAVE, *FIRST	オプション
TOENT	終了順序番号	1-9999999999, *LASTRST, *LAST	オプション

上

ジャーナル (JRN)

適用するジャーナル項目と関連したジャーナルを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: ジャーナル

ジャーナル名

適用するジャーナル項目と関連したジャーナルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

上

ジャーナル・ファイル識別 (FILE)

適用される最大300のライブラリー/*ALLの組み合わせを指定します。

これは必須パラメーターです。

要素1: ジャーナルされた物理ファイル

修飾子1: ジャーナルされた物理ファイル

***ALL** 指定したライブラリーに入っていて指定したジャーナルに変更が記録されているすべての物理ファイルに、そのジャーナル項目が適用されます。 ライブラリー名を指定しなければなりません。
***ALL**を指定しても、ユーザーがライブラリーにある少なくとも1つのファイルに対して必要な権限を持っていない場合には、メッセージが送信され、ジャーナル項目の適用は終了します。ユーザーがライブラリーにある1つ以上のファイルに対して権限を持っている場合には、ユーザーに許可されたすべてのファイルについて適用操作が実行されます。

注: 適用が開始される時点で、少なくとも1つのジャーナル処理済みファイルがライブラリーに存在し（ユーザーが必要な権限を持っている）必要があります。そうでない場合は、適用は開始されません。

修飾子2: ライブラリー

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

要素2: メンバー

そのジャーナル項目が適用されるファイルのメンバーの名前を指定してください。

***ALL** ファイルのすべてのメンバーにそれらのジャーナル項目が適用されます。

上

ジャーナル・レシーバーの範囲 (RCVRNG)

ジャーナル項目の適用の際に使用する開始および終了ジャーナル・レシーバーを指定します。システムは、このジャーナル・レシーバー範囲の最初のジャーナル・レシーバーにジャーナル項目を適用することによって開始し、このジャーナル・レシーバー範囲の最後のジャーナル・レシーバーにジャーナル項目を適用するまでは、レシーバーの処理を続行します。

注: レシーバーの範囲に含めることのできるレシーバーの最大数は1024です。指定された範囲の中に1024を超えるレシーバーが含まれている場合には、エラー・メッセージが送られ、変更は適用されません。このパラメーターに指定された値は、限界を超えないように変更することができます。

単一値

*LASTSAVE

使用されるジャーナル・レシーバーの範囲は、記録した変更を適用するオブジェクトの情報を保管すると、システムによって決定されます。このパラメーター値が有効なのは、*LASTSAVEが開始順序番号 (FROMENT)パラメーターおよび大きい開始順序番号 (FROMENTLRG)パラメーターにも指定されている場合だけです。

*CURRENT

ジャーナル項目の適用を開始する時点で接続されているジャーナル・レシーバーが使用されます。

要素1: 開始ジャーナル・レシーバー

修飾子1: 開始ジャーナル・レシーバー

開始ジャーナル・レシーバー

最初の（一番古い）レシーバーとして使用されるジャーナル・レシーバーの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

*LIBL 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジャーナル・レシーバーを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

ジャーナル・レシーバーが入っているライブラリーを指定します。

要素2: 終了ジャーナル・レシーバー

修飾子1: 終了ジャーナル・レシーバー

*CURRENT

ジャーナル項目の適用を開始する時点で接続されているジャーナル・レシーバーが使用されます。

終了ジャーナル・レシーバー

ジャーナル項目を適用する最後の（一番新しい）レシーバーとして使用されるジャーナル・レシーバーの名前を指定してください。このレシーバーが見つかる前にレシーバー連鎖の終わりになった場合には、項目は適用されず、エスケープ・メッセージが送られます。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジャーナル・レシーバーを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

ジャーナル・レシーバーが入っているライブラリーを指定します。

上

大きい開始順序番号 (FROMENTLRG)

ジャーナル処理された変更を適用する開始点として使用する項目を指定します。

開始順序番号 (FROMENT)パラメーターか大きい開始順序番号 (FROMENTLRG)パラメーターのいずれかに値を指定することができますが、両方には指定できません。

***LASTSAVE**

ジャーナル項目は、オブジェクトが最後に保管された後で、最初のジャーナル項目から適用されます。システムは、このコマンドで指定されたオブジェクトのそれぞれに対して実際の開始位置を決定します。パラメーター値は、オブジェクトがシステムに復元されたことだけを示します。

復元されたオブジェクトのバージョンが活動中保管機能を使用して保管されたバージョンであった場合には、これが実際にオブジェクトの最後の保管であったかどうかとは無関係に、システムは、対応する保管の開始項目からの変更の適用を開始します。活動中保管を使用している場合には、ジャーナル処理された変更の適用に必要な情報がオブジェクトとともに保管され、復元されます。適用コマンドに指定されたすべてのオブジェクトが、活動中保管を使用した保管バージョンから復元された場合には、システムはすべてのジャーナル・レシーバーをスキャンして、オブジェクトの保管点を見つける必要がなくなります。これによって、適用処理のパフォーマンスを向上させることができます。

復元されたオブジェクトのバージョンが使用中でない時に保管されたバージョン（通常保管）であった場合には、システムは、復元の日付および時刻が最後の保管の日付および実行より後になっているかなど、指定された各オブジェクトの情報を検査します。また、ジャーナルで指示されているように、システムはシステムに保管されるオブジェクトの保管バージョンの日時がオブジェクトを最後に保管した日時と同じであることも検査します。

日時が一致しない場合には、項目は適用されず、ユーザーまたはシステム操作員に取り消しまたは無視の応答を要求する照会メッセージ(CPA7050)が送られます。メッセージに対して無視で応答した場合には、操作が試行されます。取り消し応答の場合には、操作が終了し、ジャーナル項目は適用されません。

活動時保管機能でオブジェクトの最終保管を行った場合は、各オブジェクトの保管済みコピーには、ジャーナル項目のすべての変更（対応する保管の開始ジャーナル項目まで）が入っています。この場合には、システムは変更の適用を最初のジャーナル項目で開始して、次に保管の開始項目で行います。

オブジェクトが使用中でない時に最終保管した場合（通常保管）には、各オブジェクトの保管済みコピーに、ジャーナル項目の対応するオブジェクト保管済みジャーナル項目までのすべての変更が含まれています。この場合には、システムは変更の適用を最初のジャーナル項目で開始して、次にオブジェクト保管項目で行います。

注: 保管コマンドのSAVACTWAITパラメーターの2番目の要素として*NOCMTBDYを指定して保管されたデータベース・ファイル・メンバーがあり、それが現在ジャーナル処理済み変更の適用が必要な状態である場合には、*LASTSAVEを指定しなければなりません。部分トランザクションを完了するためにジャーナル処理された変更の適用を使用できない場合には、ジャーナル処理された変更の除去(RMVJRNCHG)コマンドを使用して部分トランザクションを除去することができます。APYJRNCHGもRMVJRNCHGも使用することができず、また、ファイルの他のバージョンを復元できない場合には、最後の手段としてジャーナル処理済みオブジェクトの変更(CHGJR NOBJ)コマンドを使用し、オブジェクト内の部分トランザクションを完了しないままファイルを使用できるようにすることができます。

***FIRST**

ジャーナル項目は、このコマンドに提供される最初のレシーバーの最初のジャーナル項目から適用されます。

開始順序番号

提供されたジャーナル項目から適用される最初のジャーナル項目の順序番号を指定してください。受け入れ可能な範囲は1から18,446,744,073,709,551,600です。

注: 順序番号の入力時には、**ジャーナル・レシーバーの範囲 (RCVRNG)**パラメーターを*LASTSAVEに、また、**大きい終了順序番号(TOENTLRG)**パラメーターを*LASTRSTにすることはできません。

注: ジャーナルのオブジェクト・レベル項目の場合に、使用されるFROMENTLRGは、適用の開始時に存在している選択リスト内のファイル・メンバーからの最も初期のFROMENTLRGです。

上

大きい終了順序番号 (TOENTLRG)

ジャーナル処理された変更を適用する終了点として使用する項目を指定します。

終了順序番号 (TOENT)パラメーターか大きい終了順序番号 (TOENTLRG)パラメーターのいずれかに値を指定することができますが、両方には指定できません。

***LASTRST**

ジャーナル項目は、オブジェクトが最後に復元される前の項目まで適用されます。システムは、このコマンドで指定されたオブジェクトのそれぞれの実際の終了位置を決定します。システムは、システム上のオブジェクトの復元済みバージョンの日時が、ジャーナルに示されているそのオブジェクトの最終復元の日時と同じであることを確認します。日時が一致しない場合には、項目は適用されず、ユーザーまたはシステム操作員に照会メッセージ(CPA7075)が送られ、取り消しまたは無視の応答が要求されます。メッセージに対して無視で応答した場合には、操作が試行されます。取り消し応答の場合には、操作が終了し、ジャーナル項目は適用されません。

別のオブジェクトへの変更の適用の結果としてオブジェクトが作成された場合には、新規に作成されたオブジェクトの適用終了点は適用対象のすべてのオブジェクトの最大終了点となります。

このパラメーター値が有効なのは、*LASTSAVEが**開始順序番号 (FROMENT)**パラメーターまたは**大きい開始順序番号 (FROMENTLRG)**パラメーターにも指定されている場合だけです。次のどのパラメーターも指定されていない場合には、*LASTRSTとみなされます。

- 終了日および時刻 (TOTIME),
- 完全に修飾されたジョブ名 (TOJOB),
- 完全に修飾されたジョブ名 (TOJOB).

*LAST

ジャーナル項目は、レシーバー範囲内の最後のジャーナル・レシーバーの最後の項目まで適用されます。

終了順序番号

適用される最後の項目の順序番号を指定します。受け入れ可能な範囲は1から18,446,744,073,709,551,600です。

注: ジャーナルのオブジェクト・レベル項目の場合に、使用されるTOENTLRGは、適用の開始時に存在している選択リスト内のファイル・メンバーからの最も初期のTOENTLRGです。

上

終了日および時刻 (TOTIME)

適用される最後のジャーナル項目の日時を指定します。その時刻または次に早い時刻の最初の項目が、ジャーナル項目適用の終了点です。

時刻は、時刻区切り記号付きまたは時刻区切り記号なしの24時間形式で指定することができます。

- 時刻区切り記号を使用しない場合には、4または6桁のストリング(HHMMまたはHHMMSS)を指定します。ここで、**HH** =時、**MM** =分、および**SS** =秒です。
- 時刻区切り記号を使用する場合には、ユーザーのジョブに指定された時刻区切り記号を使用して、時、分、および秒を区切った5または8桁のストリングを指定してください。このコマンドをコマンド入力行から入力する場合には、ストリングをアポストロフィで囲まなければなりません。ジョブに指定された区切り記号以外の時刻区切り記号を使用した場合には、このコマンドは正常に実行されません。

要素1: 終了日付

日付 終了日を指定してください。

要素2: 終了時刻

時刻 終了時刻を指定してください。

上

完全に修飾されたジョブ名 (TOJOB0)

指定のオブジェクトをオープンする時に、このコマンドによってジャーナル項目の適用を終了するジョブのジョブIDを指定します。指定のオブジェクトで見つかった最初のジョブ・オープン項目が、指定されたすべてのオブジェクトの終了点です。

変更が適用されるオブジェクトが記録オープンおよびクローズ項目でない場合には、TOJOB0パラメーターを使用することはできません。詳細については、STRJRN、STRJRNPf、STRJRNLIB、およびCHGJRNOBJコマンドのジャーナル項目除外(OMTJRNE)パラメーターを参照してください。

ジョブID

ジョブ名、ユーザー名、および使用するジョブのジョブ番号を指定してください。ジョブ名だけまたはジョブ名とユーザー名を使用するように指定することもできます。

ジョブ名

ジョブのジョブ名を指定してください。

ユーザー名

ジョブのユーザー名を指定してください。

ジョブ番号

システム割り当てジョブ番号を指定してください。

上

完全に修飾されたジョブ名 (TOJOBBC)

このコマンドによってジャーナル項目の適用を終了するジョブのジョブID を指定します。指定のオブジェクトで見つかった最初のジョブ・オープン項目が、指定されたすべてのオブジェクトの終了点です。次のいずれかが起こった時に、ジャーナル項目の適用が終了します。

- 指定のジョブが指定されるオブジェクトをクローズした時。
- 指定したジョブが終了した時。

変更が適用されるオブジェクトが記録オープンおよびクローズ項目でない場合には、TOJOBBC パラメーターを使用することはできません。詳細については、STRJRN, STRJRNPf, STRJRNLIB, およびCHGJRNOBJ コマンドのジャーナル項目除外(OMTJRNE)パラメーターを参照してください。

ジョブID

ジョブ名、ユーザー名、および使用するジョブのジョブ番号を指定してください。ジョブ名だけまたはジョブ名とユーザー名を使用するように指定することもできます。

ジョブ名

ジョブのジョブ名を指定してください。

ユーザー名

ジョブのユーザー名を指定してください。

ジョブ番号

システム割り当てジョブ番号を指定してください。

上

コミットメント境界 (CMTBDY)

ジャーナル処理された変更が適用されるジャーナル項目がコミットメント制御の論理作業単位(LUW)の一部である時に、コミットメント境界が尊重されるかどうかを指定します。コミットメント制御の使用の詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「データベース」カテゴリを参照してください。

注: このパラメーターの記述を目的として、TOENT, TOENTLRG, TOTIME, TOJOB0,またはTOJOBBCパラメーターのどれが指定されても、それを記述するためにTOオプションが使用されます。

***YES** ジャーナル項目は、コミットメント境界を尊重して、FROMENTまたはFROMENTLRGパラメーターに指定されている項目からTOオプションで指示された項目に適用されます。

- FROMENTまたはFROMENTLRGパラメーターに指定されているジャーナル項目が、それが関与するLUWの中間にある場合には、エラー・メッセージが送られ、操作は試みられません。

- TOオプションで指示されたジャーナル項目がそのLUWの間にある場合には、そのジャーナル項目の前のコミットメント境界で操作が停止します。操作の終了時に診断メッセージが送られ、その事実が生成されるすべての出力ファイルに記録されます。

注: TOオプションで指示された項目の前で操作が終了する原因となるジャーナル項目が見つかった場合には、コミットメント境界が尊重されていない可能性があります。さらに、保留中のオブジェクト・レベル操作が存在していた場合には、それらはコミットされるかまたはロールバックされます。これは、ジャーナル内の前方をそのトランザクションのジャーナル・コードC項目タイプCMまたはRBのジャーナル項目がないかどうかを見ることによって決定されます。これにより、部分トランザクションが適用される結果となり、コミットメント境界が尊重されない可能性があります。C/CMまたはC/RB項目がジャーナルで見つからなかった場合には、オブジェクト・レベル操作はロールバックされます。

***NO** ジャーナル項目は、コミットメント境界に関係なく、FROMENTまたはFROMENTLRGパラメーターに指定されている項目からTOオプションで指示された項目に適用されます。この範囲内にあるジャーナル項目がLUWの構成要素であったとしても、操作は実行されます。

注: CMTBDY(*NO)が指定され、適用先のオブジェクトが部分トランザクションを含む保管バージョンから復元されていた場合には、それらの部分トランザクションに対する保留中の変更は、そのトランザクションが指定された範囲内で完了しなければ除去されません。適用操作の終了時には、元の保留中の変更が部分トランザクションに対する新規変更とともにオブジェクト内に残ります。オブジェクトが使用可能なのは、すべての保留中のトランザクションが指定された範囲内で完了した場合だけです。

注: オブジェクト・レベル操作の場合の適用時には、CMTBDY(*NO)が指定されても、コミットメント制御が使用されます。これは、選択されるジャーナル項目の範囲には影響せず、その範囲はまだ上記の通りです。保留中のオブジェクト・レベル操作が存在していた場合には、それらはコミットされるかまたはロールバックされます。これは、ジャーナル内の前方をそのトランザクションのC/CMまたはC/RBのジャーナル項目がないかどうかを見ることによって決定されます。

上

オプション (OPTION)

ジャーナル変更を適用する前に追加の検査を実行する必要があるかどうかを指定します。

***NONE**

ジャーナル変更が適用される前に、すべての保護検査が実行されます。

***IGNINQMSG**

照会メッセージを無視します。適用されるオブジェクトがオブジェクトの最後の保管または復元からのものでない場合であっても、照会メッセージCPA7050およびCPA7075はユーザーに提供されません。適用操作は続行されます。

上

オブジェクト・エラー・オプション (OBJERROPT)

エラー状態が検出された場合に、ジャーナル項目の処理をどのように進める必要があるかを指定します。

***CONTINUE**

特定のオブジェクトのジャーナル項目を処理できないことが検出された場合には、そのオブジェクトのその他残りのジャーナル項目も処理されません。他のオブジェクトのジャーナル項目の処理は続行されます。そのオブジェクトのジャーナル処理済み変更の処理は正常に行われなかったことを示す診断メッセージが送られます。特定のオブジェクトについて処理が早期に終了したことを示す指示が、どの出力ファイル・レコードにも入れられます。

***END** 最初のジャーナル項目を処理できないことが検出された場合には、すべてのオブジェクトについて処理が終了します。

上

出力 (OUTPUT)

変更が適用される先のオブジェクトに関する情報のリストが作成されるかどうかを指定します。この情報はデータベース・ファイルに送ることができます。

***NONE**

出力によるデータベース・ファイルは作成されません。最初の512個のオブジェクトに関するメッセージがジョブ・ログに送られます。

***OUTFILE**

適用操作に関する出力情報は、出力を受け取るファイル (**OUTFILE**)パラメーターで指定されたデータベース・ファイルに送られます。

注: **OUTPUT(*OUTFILE)**が指定されている場合には、出力を受け取るファイル (**OUTFILE**)パラメーターにデータベース・ファイル名を指定しなければなりません。

上

出力を受け取るファイル (OUTFILE)

***OUTFILE**が出力 (**OUTPUT**)パラメーターに指定されている場合に情報の送り先となるデータベース・ファイルを指定します。このファイルが存在しない場合には、このコマンドが指定したライブラリーにデータベース・ファイルを作成します。新規ファイルを作成する場合に、システムはモデルとしてQSYS内のQAJRNCHGを形式名QJOAPYRMで使用します。

修飾子1: 出力を受け取るファイル

データベース・ファイル名

コマンドからの出力が指示されるデータベース・ファイルの名前を指定してください。このファイルが存在していない場合には、指定したライブラリーに作成されます。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

上

出力メンバー・オプション (OUTMBR)

出力 (OUTPUT)パラメーターに*OUTFILEが指定された時に、出力を指示するデータベース・ファイル・メンバーの名前を指定します。

要素1: 出力を受け取るメンバー

*FIRST

ファイル中の最初のメンバーが出力を受け取ります。 OUTMBR(*FIRST)が指定されていて、メンバーが存在していない場合には、システムが出力を受け取るファイル (OUTFILE)パラメーターに指定されたファイルの名前を使用してメンバーを作成します。

名前 出力を受け取るファイル・メンバーの名前を指定してください。 OUTMBR (メンバー名) が指定され、そのメンバーが存在しない場合、システムがメンバーを作成します。

メンバーが存在している場合には、レコードを既存メンバーの終わりに追加するか、既存メンバーを消去してレコードを追加することができます。

要素2: レコードの置き換えまたは追加

*REPLACE

指定したデータベース・ファイル・メンバー中に既存のレコードは、新規レコードで置き換えられます。

***ADD** 新規レコードが指定されたデータベース・ファイル・メンバーの既存情報に追加されます。

上

詳細 (DETAIL)

出力ファイルに送られる情報のタイプを指定します。

***ALL** ファイルには、コマンドに関する情報と、適用された各コマンドごとにそれが適用コマンドの開始時に存在していたか、あるいは適用時に作成されたかを示す1つの項目が入れます。

***ERR** ファイルには、コマンドに関する情報と、正常に適用されなかった各オブジェクトに関する項目のみが入れます。 オブジェクトについて適用が早期に終了した場合には、それに関する項目が含まれます。

上

開始順序番号 (FROMENT)

ジャーナル処理された変更を適用する開始点として使用する項目を指定します。

開始順序番号 (FROMENT)パラメーターか大きい開始順序番号 (FROMENTLRG)パラメーターのいずれかに値を指定することができますが、両方には指定できません。

***LASTSAVE**

ジャーナル項目は、オブジェクトが最後に保管された後で、最初のジャーナル項目から適用されません。システムは、このコマンドで指定されたオブジェクトのそれぞれに対して実際の開始位置を決定します。パラメーター値は、オブジェクトがシステムに復元されたことだけを示します。

復元されたオブジェクトのバージョンが活動中保管機能を使用して保管されたバージョンであった場合には、これが実際にオブジェクトの最後の保管であったかどうかとは無関係に、システムは、対応する保管の開始項目からの変更の適用を開始します。活動中保管を使用している場合には、ジャーナル処理された変更の適用に必要な情報がオブジェクトとともに保管され、復元されます。適用コマンドに指定されたすべてのオブジェクトが、活動中保管を使用した保管バージョンから復元された場合には、システムはすべてのジャーナル・レシーバーをスキャンして、オブジェクトの保管点を見つける必要がなくなります。これによって、適用処理のパフォーマンスを向上させることができます。

復元されたオブジェクトのバージョンが使用中でない時に保管されたバージョン（通常保管）であった場合には、システムは、復元の日付および時刻が最後の保管の日付および実行より後になっているかなど、指定された各オブジェクトの情報を検査します。また、ジャーナルで指示されているように、システムはシステムに保管されるオブジェクトの保管バージョンの日時がオブジェクトを最後に保管した日時と同じであることも検査します。

日時が一致しない場合には、項目は適用されず、ユーザーまたはシステム操作員に取り消しまたは無視の応答を要求する照会メッセージ(CPA7050)が送られます。メッセージに対して無視で応答した場合には、操作が試行されます。取り消し応答の場合には、操作が終了し、ジャーナル項目は適用されません。

活動時保管機能でオブジェクトの最終保管を行った場合は、各オブジェクトの保管済みコピーには、ジャーナル項目のすべての変更（対応する保管の開始ジャーナル項目まで）が入っています。この場合には、システムは変更の適用を最初のジャーナル項目で開始して、次に保管の開始項目で行います。

オブジェクトが使用中でない時に最終保管した場合（通常保管）には、各オブジェクトの保管済みコピーに、ジャーナル項目の対応するオブジェクト保管済みジャーナル項目までのすべての変更が含まれています。この場合には、システムは変更の適用を最初のジャーナル項目で開始して、次にオブジェクト保管項目で行います。

注：保管コマンドのSAVACTWAITパラメーターの2番目の要素として*NOCMTBDYを指定して保管されたデータベース・ファイル・メンバーがあり、それが現在ジャーナル処理済み変更の適用が必要な状態である場合には、*LASTSAVEを指定しなければなりません。部分トランザクションを完了するためにジャーナル処理された変更の適用を使用できない場合には、ジャーナル処理された変更の除去(RMVJRNCHG)コマンドを使用して部分トランザクションを除去することができます。APYJRNCHGもRMVJRNCHGも使用することができず、また、ファイルの他のバージョンを復元できない場合には、最後の手段としてジャーナル処理済みオブジェクトの変更(CHGJR NOBJ)コマンドを使用し、オブジェクト内の部分トランザクションを完了しないままファイルを使用できるようにすることができます。

***FIRST**

ジャーナル項目は、このコマンドに提供される最初のレシーバーの最初のジャーナル項目から適用されます。

開始順序番号

提供されたジャーナル項目から適用される最初のジャーナル項目の順序番号を指定してください。受け入れ可能な範囲は1から9,999,999,999です。

注: 順序番号の入力時には、ジャーナル・レシーバーの範囲 (RCVRNG)パラメーターを *LASTSAVEに、また、終了順序番号(TOENT)パラメーターを*LASTRSTにすることはできません。

注: ジャーナルのオブジェクト・レベル項目の場合に、使用されるFROMENTは、適用の開始時に存在している選択リスト内のファイル・メンバーからの最も初期のFROMENTです。

上

終了順序番号 (TOENT)

ジャーナル処理された変更を適用する終了点として使用する項目を指定します。

終了順序番号 (TOENT)パラメーターか大きい終了順序番号 (TOENTLRG)パラメーターのいずれかに値を指定することができますが、両方には指定できません。

*LASTRST

ジャーナル項目は、オブジェクトが最後に復元される前の項目まで適用されます。システムは、このコマンドで指定されたオブジェクトのそれぞれの実際の終了位置を決定します。システムは、システム上のオブジェクトの復元済みバージョンの日時が、ジャーナルに示されているそのオブジェクトの最終復元の日時と同じであることを確認します。日時が一致しない場合には、項目は適用されず、ユーザーまたはシステム操作員に照会メッセージ(CPA7075)が送られ、取り消しまたは無視の応答が要求されます。メッセージに対して無視で応答した場合には、操作が試行されます。取り消し応答の場合には、操作が終了し、ジャーナル項目は適用されません。

別のオブジェクトへの変更の適用の結果としてオブジェクトが作成された場合には、新規に作成されたオブジェクトの適用終了点は適用対象のすべてのオブジェクトの最大終了点となります。

このパラメーター値が有効なのは、*LASTSAVEが開始順序番号 (FROMENT)パラメーターまたは大きい開始順序番号 (FROMENTLRG)パラメーターにも指定されている場合だけです。次のどのパラメーターも指定されていない場合には、*LASTRSTとみなされます。

- 終了日および時刻 (TOTIME),
- 完全に修飾されたジョブ名 (TOJOB0),
- 完全に修飾されたジョブ名 (TOJOB0C).

*LAST

ジャーナル項目は、レシーバー範囲内の最後のジャーナル・レシーバーの最後の項目まで適用されます。

終了順序番号

適用される最後の項目の順序番号を指定します。受け入れ可能な範囲は1から9,999,999,999です。

注: ジャーナルのオブジェクト・レベル項目の場合に、使用されるTOENTは、適用の開始時に存在している選択リスト内のファイル・メンバーからの最も初期のTOENTです。

上

例

例:

```
APYJRNCHGX  JRN(MYCOLL/QSQJRN)  FILE(MYCOLL/*ALL)
```

このコマンドによってシステムは、すべてのジャーナル処理済み変更を、最後の保管以降のMYCOLL集合のすべてのファイルに適用します。レシーバーの範囲はシステムが決定します。変更は、各ファイルが最後に保管された後のレシーバー連鎖上の最初のジャーナル処理済み変更から順に適用され、ファイルが最後に復元された時点までのすべての適用可能なジャーナル項目まで続行されます。

MYCOLL集合のすべてのオブジェクト・レベル項目（例えば、CREATE/DROP/ALTER TABLE)が含まれます。CMTBDYパラメーターの省略時値である*YESが使用されるので、コミットメント制御境界が尊重されます。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPFA0D4

ファイル・システム・エラーが起こった。エラー番号は&1です。

CPF69A9

内部エラーが検出されました。エラー・コードは&2です。

CPF69AA

STG(*FREE)で保管されたオブジェクト&1を参照できない。

CPF69AB

RCVRNGパラメーターの値が正しくない。

CPF70A4

指定したレシーバーに対するジャーナル処理済み変更適用は許されない。

CPF70A7

少なくとも1つのオブジェクトで適用または除去されなかった項目がある。

CPF70A8

ライブラリー&2のファイル&1は使用できない。

CPF70AA

FROMENT(*LASTSAVE)を指定する必要がある。

CPF70AB

ライブラリー&2のジャーナル・レシーバー&1が見つからない。

CPF70CC

ジャーナル項目&7を超えて操作を実行することはできない。

CPF70CD

ジャーナル項目&7を超えて操作を実行することはできない。

CPF70CE

ジャーナル項目&7を超えて操作を実行することはできない。

CPF70EB

メンバー&3で参照制約エラー。

CPF70EC

参照制約にエラー。理由コードは&9です。

CPF70EE

メンバー&3でエンコード・ベクトル・アクセス・パスの最大数。

CPF7002

ライブラリー&2のファイル&1が物理ファイルではない。

CPF7003

項目はジャーナル&1にジャーナル処理されなかった。理由コードは&3です。

CPF7006

メンバー&3が&2のファイル&1に見つからない。

CPF7007

&2のファイル&1のメンバー&3を割り振ることができない。

CPF701B

中断された操作のジャーナルの回復が行なわれなかった。

CPF704A

メンバー&3のレコード長が正しくない。

CPF704F

TOJOB0またはTOJOB0Cパラメーターはレシーバー範囲に正しくない。

CPF7041

ジョブ&3/&2/&1の項目が見つからない。

CPF7042

オブジェクトがジャーナル処理されていないか、あるいは別のジャーナルにジャーナル処理されている。

CPF7044

ジャーナル処理済み項目の適用または除去は正常に行なわれなかった。理由コードは&7です。

CPF7045

&2のジャーナル・レシーバー&1が部分的に損傷している。

CPF7046

メンバー&3に重複キーを使用することはできない。

CPF7047

&2のファイル&1のメンバー&3がいっぱいである。

CPF7048

メンバー&3へのジャーナル処理された変更を実行することができない。

CPF7049

ジャーナル項目&7を超えて操作を実行することはできない。

CPF705A

リモート・ジャーナルのために操作が正常に行なわれていない。

CPF7050

LASTSAVE日付が*&4オブジェクトの復元バージョンと同じでない。

CPF7051

*&6オブジェクトの保管項目が見つかりませんでした。

CPF7052

メンバー&3の論理ファイルに選択／除外の障害がある。

- CPF7053**
RCVRNGパラメーターの値が正しくない。理由コードは&1です。
- CPF7054**
FROMとTOの値が正しくない。
- CPF7057**
*LIBLでは*ALL, *ALLLIB,または総称名は使用できません。
- CPF7058**
ジャーナル処理された項目の適用または除去操作が正常に行なわれなかった。
- CPF7059**
&1の項目がRCVRNGに見つからない。
- CPF7063**
OUTFILEとしてファイル&1を使用することはできない。
- CPF7067**
FROMENTLRGまたはFROMENTオプションが正しくない。コミットの境界違反です。
- CPF7068**
適用または除去操作に必要な項目が見つからない。
- CPF7069**
ジャーナル&1を使用して適用または除去する項目がない。
- CPF7075**
*&4オブジェクトの復元日付がジャーナルの中のものと同じでない。
- CPF7076**
*&6オブジェクトの復元項目がRCVRNGで見つからなかった。
- CPF7077**
メンバー&3でキー・マッピング・エラー。
- CPF7078**
メンバー&3の変更を適用または除去することはできない。
- CPF9801**
ライブラリー&3にオブジェクト&2が見つからない。
- CPF9802**
&3のオブジェクト&2は認可されていない。
- CPF9803**
ライブラリー&3のオブジェクト&2を割り振りできません。
- CPF9809**
ライブラリー&1をアクセスすることができない。
- CPF9810**
ライブラリー&1が見つかりません。
- CPF9812**
ライブラリー&2にファイル&1が見つからない。
- CPF9820**
ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF9822

ライブラリー&2のファイル&1は認可されていない。

CPF9825

装置&1は認可されていない。

CPF9860

出力ファイルの処理中にエラーが起こった。

上

プログラム一時修正適用 (APYPTF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

プログラム一時修正適用(APYPTF)コマンドは、プログラム一時修正(PTF)を指定のプロダクトに適用します。PTFが適用される前に、プログラム一時修正ロード (LODPTF)コマンドによって最初にこれをロードしなければなりません。

PTFの適用時に、プロダクト内で影響をうけたオブジェクトは完全に置き換えられます。PTFは、一時的に適用したり永続的に適用したりすることができます。一時的に適用した場合には、置換したオブジェクトはシステムによって保管され、後からプログラム一時修正除去 (RMVPTF)コマンドによって製品に復元することができます。PTFを永続的に適用した場合には、置換したオブジェクトはシステムから削除されます。

APYPTFコマンドは、コマンドの実行時に即時PTFを適用する場合、または次の不在時初期プログラム・ロード(IPL)時にPTFを適用するよう要求する場合に使用します。在席IPL時に、PTF処理画面を使用して、システム開始時にPTFを適用します。

一部のIPLでは、PTFを適用する場合に他のものより長い時間がかかります。PTFの適用に関する詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「i5/OS および関連ソフトウェア」カテゴリーを参照してください。

制約事項:

- このコマンドを使用するには、QSRVとしてサインオンするか、全オブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限を持っていることが必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
LICPGM	プロダクト	文字値, *ALL	必須, 定位置 1
RLS	リリース	文字値, *ONLY, *ALL	オプション
SELECT	選択するPTF番号	単一値: *ALL その他の値 (最大 300 回の繰り返し): 文字値	オプション
OMIT	除外するPTF番号	値 (最大 300 回の繰り返し): 文字値	オプション
APY	エクステント変更	*TEMP, *PERM	オプション
DELAYED	遅延PTF	*NO, *YES, *IMMDLY	オプション
IPLAPY	IPL適用オプション	単一値: *NO その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 不在時IPL時の適用	*YES	
	要素 2: 前提ライセンス内部コード	*APYPERM, *NOAPY	
APYREQ	必要PTFの適用	*NO, *YES	オプション

プロダクト (LICPGM)

PTFが適用されるプロダクトの7桁のIDを指定します。

注: LICPGM(*ALL)を使用できるのは、このコマンドにSELECT(*ALL)が指定され、OMITが指定されていない場合だけです。

これは必須パラメーターです。

***ALL** PTFは、システムに導入されているすべてのプロダクトに適用されます。

文字値 PTFの適用先の7桁のプロダクトIDを指定します。

リリース (RLS)

ソフトウェア・プロダクトのリリース・レベルを指定します。複数リリースが導入されている場合には、リリースは必須です。

*ONLY

この値が有効なのは、システムに導入されているプロダクトの基本オプションのリリースが1つの場合だけです。プロダクトのすべての導入済みオプションに対するPTFは、オプションのリリース・レベルとは無関係に適用されます。

文字値 リリース・レベルをVXRYMZの形式で指定してください。VXはバージョン番号、RYはリリース番号、MZはモディフィケーション・レベルです。変数XおよびYは0から9の数字、変数Zは0から9の数字またはAからZの文字とすることができます。

選択するPTF番号 (SELECT)

指定したプロダクトに適用されるよう、前にロードされたPTFを指定します。SELECTパラメーターに単一PTF番号が指定されている場合には、**除外するPTF番号 (OMIT)**パラメーターを指定することはできません。

単一値

***ALL** ロードされたPTFはすべてプロダクトに適用されます。すべてのPTFを適用することができない場合には、適用されなかったPTFおよびその理由（例えば、必要なPTFがまだ適用されていない）を示すメッセージが送られます。

その他の値（最大300個指定可能）

文字値 適用する各PTFの識別番号を指定します。

除外するPTF番号 (OMIT)

適用されないPTF番号を指定します。 最大300個のPTF番号を指定することができます。

注: 選択するPTF番号 (SELECT)パラメーターに単一のPTF番号を指定した場合には、OMITパラメーターを指定することはできません。

文字値 除外する各PTFの識別番号を指定します。

上

エクステント変更 (APY)

PTFを一時的に適用するか、あるいは永久的に適用するかを指定します。永久的な適用を指定されたPTFは除去することはできません。一時的な適用を指定されたPTFはプログラム一時修正除去 (RMVPTF)コマンドを使用して除去することができます。

***TEMP**

PTFは一時PTFとして適用されます。

***PERM**

PTFは永久的に適用されます。

上

遅延PTF (DELAYED)

コマンドの処理時に即時PTFが適用されるかどうか、あるいは次の不在時IPL時に即時PTFおよび遅延PTFが適用されるかどうかを指定します。

***NO** 識別された即時PTFがコマンドの処理時に適用されます。遅延PTFおよび遅延前提条件をもつ即時PTFまたは相互必要PTFはAPYPTF要求時には無視され、適用されません。前提条件が満たされない即時PTFは適用されません。適用されない各PTFについてメッセージが送られます。

***YES** 識別されたPTFは、遅延として定義されているか、即時として定義されているかに関係なく次の不在時IPLで適用されます。**不在時IPLの適用 (IPLAPY)**パラメーターは、次の不在時IPLでPTFが適用されるか、あるいは次の不在時IPLでのPTF適用の前の要求が取り消されるかを決定します。

***IMMDLY**

すべての即時PTFが適用され、遅延PTF、または遅延前提条件あるいは相互必要条件をもつPTFは、次の不在時IPLで適用されるように設定されます。前提条件が満たされない即時PTFがある場合には、これは次の不在時IPL時に適用されるように設定されます。

上

IPL適用オプション (IPLAPY)

次の不在時IPL時に遅延または即時PTFに対して行われる処置を指定します。

単一値

***NO** 識別されたPTFの次の不在時IPLでの適用の前の要求は、取り消されます。

要素1: 不在時IPL時の適用

***YES** 識別されたPTFは次の不在時IPL時に適用されます。 **エクステント変更 (APY)**パラメーターによって、この適用操作が一時的であるか永久的であるかが決定されます。

要素2: 前提ライセンス内部コード

DELAYEDパラメーターに指定された値によって、ライセンス内部コードの前提条件は即時適用されるか、あるいは次回のIPL時に適用されます。

***APYPERM**

LICPGM(*ALL)が指定されるか、またはAPYREQ(*YES)が指定されて、プロダクトのPTFが前提のライセンス内部コード修正をもっている場合には、必要なライセンス内部コード修正も、永久的に適用されるものとして識別されます。

***NOAPY**

前提ライセンス内部コード修正は、次の不在時IPLで適用されるものとして識別されません。永久的に適用されていない前提ライセンス内部コード修正が存在している場合には、このコマンドは停止します。

上

必要PTFの適用 (APYREQ)

SELECTパラメーターに指定された、同じプロダクトおよびオプション内PTFの前提条件と相互必要PTFは、SELECTパラメーター・リストに指定されたPTFと一緒に適用されます。

このパラメーターが有効なのは、SELECTパラメーターに*ALLを指定していない場合だけです。

***NO** 相互必要および前提PTFは、SELECTパラメーターと一緒に適用されません。リストに指定されたPTFがリストにないかまたはすでに適用済みの前提PTFをもっている場合には、PTFは適用されません。メッセージが、欠落している前提PTFおよびそれを必要とするPTFを識別します。

***YES** PTFは、SELECTパラメーター・リストと一緒に適用されます。

上

例

例1: PTFの一時的な適用

```
APYPTF LICPGM(5761SS1) DELAYED(*YES)
```

このコマンドは、オペレーティング・システム(5761SS1)に影響を与えるすべてのプログラミング修正を適用します。この修正は、次のIPLで一時的に適用されます。

例2: PTFの永続的な適用

```
APYPTF LICPGM(5761SS1) SELECT(SI00003 SI00008 SI00012)
      APY(*PERM) DELAYED(*YES)
```

このコマンドは、PTFのSI00003、SI00008、およびSI00012を、次のIPLでライブラリーQSYS中のオペレーティング・システムに永続的に適用します。

例3: ロードされたすべてのPTFの適用

```
APYPTF LICPGM(*ALL) DELAYED(*IMMDLY)
```

このコマンドは、即時に適用できるすべてのPTFを永続的に適用し、残りのPTFを次のIPLで適用できるように設定します。

例4:コマンド実行時の、即時PTFおよびその即時相互必要条件と前提条件の適用

```
APYPTF LICPGM(5761SS1) SELECT(SI00003 SI00008 SI00012)
        APYREQ(*YES)
```

このコマンドは、PTFおよびこれらの相互必要条件と前提条件が即時として定義されている場合に、コマンドの実行時にこの識別済みPTFおよびこれらの相互必要条件と前提条件を適用します。遅延として定義されたPTF、あるいは遅延として定義された相互必要条件または前提条件とともに定義されたPTFは、遅延必要条件とともに無視されます。

例5:次のIPLでのPTFおよびこれらの相互必要条件と前提条件の適用

```
APYPTF LICPGM(5761SS1) SELECT(SI00003 SI00008 SI00012)
        DELAYED(*YES) APYREQ(*YES)
```

このコマンドは、識別済みPTFおよびこれらの相互必要条件と前提条件が定義されているのが遅延か即時かにかかわらず、次のIPL時にこれらを適用します。

例6:可能な限り早くのPTFおよびこれらの相互必要条件と前提条件の適用

```
APYPTF LICPGM(5761SS1) SELECT(SI00003 SI00008 SI00012)
        DELAYED(*IMMDLY) APYREQ(*YES)
```

このコマンドは、PTFおよびこれらの相互必要条件と前提条件が即時として定義されている場合に、コマンドの実行時にこの識別済みPTFおよびこれらの相互必要条件と前提条件を適用します。遅延として定義されたPTF、あるいは遅延として定義された相互必要条件または前提条件とともに定義されたPTFは、遅延必要条件とともに次のIPL中に適用されます。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF0C4B

プロダクト使用可能性オブジェクト&2/&1の回復が必要である。

CPF0C4C

オブジェクト&1をライブラリー&2に割り振ることができない。

CPF0C4D

ライブラリー&2のオブジェクト&1の処理中にエラーが起こった。

CPF2150

オブジェクト情報機能に障害。

CPF2151

&1のタイプ*&3の&2に対する操作が正常に行なわれなかった。

CPF35AA

ライセンス内部コードPTF &2はすでに適用されている。

CPF35AB

ライセンス内部コード修正&2は適用されていない。

CPF35A0

ライブラリー&1を割り振ることができない。

CPF35A1

ライセンス内部コードの間違ったコピーを使用している。

CPF35A2

PTF &2に必要なハードウェア変更が導入されていない。

CPF35A3

ライセンス内部コード修正&2が一時適用されていない。

CPF35A5

ライセンス内部コード修正&2が永久適用されていない。

CPF35A9

ライセンス内部コード修正を処理中にエラーが起こった。

CPF35CF

PTF &1-&2は適用されていない。

CPF35D0

ライセンス内部コード修正&1-&2 &3が永久的除去にセットされていない。

CPF35EB

プロダクト&1の複数のリリースが導入されている。

CPF35E3

インターフェースのエラーが検出された。

CPF35E4

PTF &1-&2 &3の情報が完了していない。

CPF35FA

PTF &1-&2は適用されていない。

CPF3544

PTF &1-&2 &3のIPL適用処置を除去することはできない。

CPF3558

&3のタイプ*&2の&1を割り振ることができない。

CPF3564

PTF &1-&2に損傷がある。

CPF3583

エラーが起こったのでPTFは適用されない。

CPF3576

プロダクト&1にPTFを適用時にエラーが起こった。

CPF3596

選択／除外リストのPTF番号が許されない。

CPF3598

PTF機能はすでに処理中である。

CPF3602

PTF &2は永久適用されているので除去されなかった。

CPF3606

プロダクト&1 &2は導入されていない。

CPF361D

PTFの適用順序を決定することができない。

CPF3612

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF362C

ライセンス内部コード修正の記憶域が不十分である。

CPF362D

PTF適用が正常に完了したが、一部のPTFに追加の処置が必要である。

CPF3640

即時PTFは適用されなかった。

CPF3660

識別されたプログラム一時修正はない。

CPF3693

エラーが起こったので保守機能は終了した。

CPF3931

必要なプログラムが見つからない。PTFは完了していません。

CPF3945

ライセンス・プログラムのPTF活動のレコードが削除された。

CPF8191

&9のプロダクト定義&4に損傷があります。

CPF8193

&9のプロダクト・ロード・オブジェクト&4に損傷があります。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

上

リモート・コマンド実行 (AREXEC)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

リモート・コマンド実行(RUNRMTCMD)コマンド (リモート・ロケーション名にSNA アドレスが指定された時には、AREXECとも言われる) によって、ユーザーは、この機能のターゲット部分を実行しているリモート・システムでコマンドを実行することができます。

この機能の可能なターゲット部分は次の通りです。

- アドレス・タイプに*IPを指定した場合は、**REXECD** (リモート実行) デーモン
- アドレス・タイプに*SNAを指定した場合は、**AREXECD** (APPCリモート実行) デーモン。

コマンドをリモート・システムに送信する時には、ローカル・システムはコマンドの完了を待って、リモート・コマンドからの出力をスプール・ファイルに入れます。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
CMD	コマンド	文字値	必須, 定位置 1
RMTLOCNAME	リモート・ロケーション	文字値	必須, 定位置 2
RMTUSER	リモート・ユーザーID	文字値, *NONE, *CURRENT	オプション
RMTPWD	リモート・パスワード	文字値, *NONE	オプション
MODE	モード	通信名, *NETATR	オプション
CCSID	コード化文字セットID	1-65533, *CALC	オプション
WAITTIME	待ち時間 (秒数)	2-3600, *NOMAX, *NOWAIT	オプション

上

コマンド (CMD)

ターゲット・システムで実行されるべきコマンドを表わすために、最大2000桁までの文字ストリングを指定します。ターゲット・システムでサポートされる最大長は2000 桁以下となることがあります。 ターゲット・システムでサポートされる最大長を超えるコマンド・ストリングを指定した場合には、コマンドは正常に実行されません。

組み込みブランクまたは特殊文字がコマンドに入っている場合には、そのコマンドは単一引用符で囲まなければなりません。

これは必須パラメーターです。

注: ローカル・システムの引用符付きストリングの中では対の単一引用符とする通常の規則は、このCMDパラメーター上のリモート・システムに同じストリングを投入する際には、二重にしなければなりません。ユーザーが別の引用符付きストリングの中に1つの引用符付きストリングをコーディングするためには、これが必要となります。したがって、このパラメーターをコーディングする場合には、単一の引用符がもう1つの引用符と通常通り対になっていても、ターゲット・システムで同じ結果を得るためには、内側のセットの単一引用符内にある各オカレンスは二重にしなければなりません。

上

リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)

接続するリモート・ロケーションを指定します。リモート・ロケーション名はNNNNNNNN.CCCCCCCCの形式を使用して指定し、このNNNNNNNNはネットワーク識別子(ID)であり、CCCCCCCCはリモート・ロケーション名です。リモート・ロケーション名だけが指定された場合には、ローカル・ネットワークID (LCLNETID)のネットワーク属性がネットワークID (ID)の値として使用されます。

上

リモート・ユーザーID (RMTUSER)

ターゲット・システムのユーザーID (ID)を指定します。このパラメーターにユーザーIDが指定され、パスワードによる機密保護がターゲット・システムで活動状態である場合には、RMTPWD(*NONE)は正しくありません。

*NONE

ユーザーIDは送信されません。ターゲット・システムの機密保護でユーザーIDが必要と構成された場合には、このコマンドは正常に実行されません。

*CURRENT

このコマンドを使用するジョブのユーザーID (サインオン・ユーザー) が送信されます。

文字値 ターゲット・システム上に存在し、使用するユーザーIDを指定します。ユーザーIDを指定し、パスワードによる機密保護がターゲット・システムで活動状態である場合には、パスワードを指定しなければなりません。

上

リモート・パスワード (RMTPWD)

ターゲット・システムに送信されるパスワードを指定します。

*NONE

システムはパスワードを送信しません。RMTUSERパラメーターにユーザーID (ID)を指定して、パスワードによる機密保護がターゲット・システムで活動状態である場合には、コマンドは正常に実行されません。

文字値 ターゲット・システムに送られるパスワードを指定して、RMTUSERパラメーターに指定されたユーザーIDのサインオンを検査します。パスワードは、リモート・システムがパスワードの置き換えをサポートしているかどうかによって、通信回線を介した置き換えが行なわれることもあるし、行なわれないこともあります。

モード (MODE)

APPCの会話に使用されるモードの名前を指定します。

*NETATR

ネットワーク属性のモードが使用されます。

モード名

モード名を指定してください。8桁のブランク文字からなるモード名の場合には、BLANKを指定してください。

注: SNASVCMGおよびCPSVCMGは、予約名であり、指定することはできません。

コード化文字セットID (CCSID)

変換に使用されるコード化文字セットID (CCSID)を指定します。データをリモート・システムに送信する時には、データはジョブのCCSIDを使用して、CCSID パラメーターに指定されたCCSIDに変換されます。同様に、データをリモート・システムから受信する時には、データはCCSIDパラメーターに指定されたCCSIDからジョブのCCSIDに変換されます。

制約事項:

1. ジョブのCCSIDが65535である（変換なしを示す）場合には、ジョブの省略時のCCSIDが使用されます。
2. このコマンドでは、データをソースCCSIDからターゲットCCSIDに変換する時に、往復変換方式を使用します。CCSID変換方式の詳細については、各国語サポートの資料を参照してください。

*CALC

ターゲット・システムから送信されるCCSIDの値が使用可能な場合には、それが使用されます。ターゲット・システムから値が指定されていない場合には、省略時の値の00819(ISO 8859-1 8ビットASCII)が使用されます。

1から65533

使用するCCSID値を指定します。この値は、有効なCCSIDが要求されたことを確認するために、妥当性検査されます。

待ち時間 (秒数) (WAITTIME)

リモート・ロケーションに到達不能と宣言する前に戻り（エコー）を待機する時間（秒数）を指定します。

*NOMAX

システムは無期限に待機します。

*NOWAIT

作動可能で使用可能な接続があると、システムは即時に戻ります。

2-3600 待機する秒数を指定してください。

例

例1: SNAアドレス・タイプを使用したりリモート・コマンド(RUNRMTCMD)の実行

```
RUNRMTCMD  CMD('dir')  RMTLOCNAME(APPN.RMTSYS *SNA)
```

このコマンドは、SNAアドレス・タイプを使用した'RMTLOCNAME'で指定されたシステム上で'DIR'コマンドを実行します。

例2: SNAアドレス・タイプを使用したりリモート・コマンド(AREXEC)の実行

```
AREXEC  CMD('DIR')  RMTLOCNAME(APPN.RMTSYS)
```

このコマンドは、例1のコマンドと同等です。

例3: ターゲット・システムを指定するIPアドレスおよびホスト名を使用したりリモート・コマンドの実行

```
RUNRMTCMD  CMD('ls')  RMTLOCNAME(MYSYS.NET1.LOCAL *IP)
```

このコマンドは、ホスト名MYSYS.NET1.LOCALで指定されたシステム上で'LS'コマンドを実行します。

例4: ターゲット・システムを指定するIPアドレスおよびインターネット・アドレスを使用したりリモート・コマンドの実行

```
RUNRMTCMD  CMD('ls')  RMTLOCNAME('9.5.1.94' *IP)
```

このIPアドレス'9.5.1.94'で指定されたシステム上で'LS'コマンドを実行します。

例5: ターゲット・システムを指定するIPアドレスおよびインターネット・アドレスを使用した複数コマンドから成るリモート・コマンドの実行

```
RUNRMTCMD  CMD('ls; cat myfile; date')  
           RMTLOCNAME('9.5.1.94' *IP)
```

このコマンドは、IPアドレス'9.5.1.94'で指定されたシステム上で複数のコマンド（最初に'ls',次に'cat myfile',次に'date'）を実行します。

例6: 待ち時間満了値を指定したりリモート・コマンドの実行

```
RUNRMTCMD  CMD('dir')  RMTLOCNAME(APPN.RMTSYS *SNA)  
           WAITTIME(15)
```

このコマンドは、指定されたシステム上で'DIR'コマンドを実行します。応答するためのリモート・ロケーションの最大待ち時間は、15秒です。待ち時間が許されるのは、*SNAアドレス・タイプ値を使用する場合だけです。

例7: ターゲット・システムを指定するIPアドレス・タイプおよびIPv6アドレス・タイプを使用したりリモート・コマンドの実行

```
RUNRMTCMD  CMD('ls')  RMTLOCNAME('2001:D88::1' *IP)
```

このコマンドは、IPv6アドレス'2001:D88::1'で指定されたシステム上で'ls'コマンドを実行します。

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF91CB

コマンドに問題が起こったが、コマンドは完了した。

CPF91CC

コマンドは正常に完了しなかった。

CPF91CF

リモート・システム上のコマンドが正しく実行されなかった。

上

質問 (ASKQST)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

質問(ASKQST)コマンドは、回答の検索画面を表示します。この表示画面から、質問に対する回答を検索することができます。質問する前に、まず、データベースを検索して、回答が存在していることを判別しなければなりません。詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「システム操作の基本」トピック・コレクションを参照してください。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
QSTDB	Q/Aデータベース	名前, <u>*SELECT</u>	オプションル, 定位置 1
LIB	Q/Aデータベースが存在するライブラリー	名前, <u>*QSTLIB</u>	オプションル, 定位置 2

上

Q/Aデータベース (QSTDB)

尋ねる質問が入っている質問・回答データベースを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

*SELECT

Q&Aデータベースを指定するように要求されています。システム上に1つのQ&Aデータベースしか存在していない場合には、それが省略時の値になります。

質問データベース

尋ねる質問が入っているQ&Aデータベースの名前を指定してください。

上

Q/Aデータベースが存在するライブラリー (LIB)

Q&Aデータベースが入っているライブラリーの名前を指定します。

Q&Aデータベースの名前は、次の1つのライブラリー値によって修飾することができます。

***QSTLIB**

指定されたQ&Aデータベースが入っているライブラリーが検索されます。QSTDB パラメーターに *SELECTを指定した場合には、ユーザーに認可されたすべてのライブラリーの中の任意のQ&Aデータベースを選択することができます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。QSTDBパラメーターに*SELECTを指定した場合には、ユーザーに認可されたライブラリーの中の任意のQ&Aデータベースを選択することができます。

上

例

ASKQST

このコマンドは、回答の検索画面を表示します。

上

エラー・メッセージ

なし

上

バッチ・ジョブ (BCHJOB)

実行可能場所:

• バッチ・ジョブ (*BATCH)

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター

例

エラー・メッセージ

バッチ・ジョブ (BCHJOB)コマンドは、バッチ入力ストリーム内のバッチ・ジョブの開始を指示します。また、このジョブの属性に対して、このジョブのジョブ記述またはユーザー・プロファイルに指定された属性値とは異なる値を指定することもできます。BCHJOBコマンドでコーディングされていない大部分のパラメーターには、ジョブ記述またはそのジョブ記述に指定されたユーザー・プロファイルに含まれている値が使用されます。

制約事項:

データベース読取プログラム開始 (STRDBRDR)、データベース・ジョブ投入 (SBMDBJOB)、ディスク読取プログラム開始 (STRDKTRDR)、またはディスク・ジョブ投入 (SBMDKTJOB)コマンドを出すユーザーは、BCHJOBコマンドを出すユーザーと見なされます。

1. BCHJOBコマンドを出すユーザーは、このコマンドを使用するために以下の権限を必要とします。

- ジョブ記述(JOBD)に対する使用(*USE)権限、およびそのジョブ記述を含むライブラリーに対する実行(*EXECUTE)権限。
- ジョブ待ち行列(JOBQ)に対する使用(*USE)権限、およびそのジョブ待ち行列を含むライブラリーに対する実行(*EXECUTE)権限。
- システム値QSYSLIBL、**現行ライブラリー (CURLIB)**パラメーター、および**初期ライブラリー・リスト (INLLIBL)**パラメーターに対して指定されたすべてのライブラリーに対する使用(*USE)権限。
- メッセージ待ち行列(MSGQ)に対する使用(*USE)および追加(*ADD)権限、ならびにそのメッセージ待ち行列を含むライブラリーに対する実行(*EXECUTE)権限。
- ジョブ記述にあるユーザー・プロファイルに対する使用(*USE)権限。
- 当該ジョブのネーム・スペースの補助記憶域プール(ASP)グループにあるすべての装置記述に対する実行(*EXECUTE)権限。

2. 投入されたジョブのジョブ記述に指定されたユーザーは、以下の権限を必要とします。

- ジョブ記述(JOBD)に対する使用(*USE)権限。
- 出力待ち行列(OUTQ)に対する読み取り(*READ)権限、およびその出力待ち行列を含むライブラリーに対する実行(*EXECUTE)権限。
- システム値QSYSLIBL、**現行ライブラリー (CURLIB)**パラメーター、および**初期ライブラリー・リスト (INLLIBL)**パラメーターに対して指定されたすべてのライブラリーに対する使用(*USE)権限。
- 分類順序テーブル(SRTSEQ)に対する使用(*USE)権限、およびその分類順序テーブルを含むライブラリーに対する実行(*EXECUTE)権限。
- ジョブ記述の**初期ASPグループ (INLASPGRP)**にあるすべての装置記述に対する使用(*USE)権限。

3. BCHJOBコマンドをワークステーションから使用することはできません。

4. このコマンド名をデータ・レコードに入力する時は、//BCHJOBまたは// BCHJOBのように、コマンド名の前にスラッシュを2個入れる必要があります。(ユーザーは、これらのスラッシュとコマンド名をブランク・スペースで区切ることができます。)

5. 投入されたバッチ・ジョブの初期ASPグループ・パラメーターには、データベース・ジョブ投入 (SBMDBJOB)またはディスクット・ジョブ投入 (SBMDKTJOB)コマンドを出すスレッドの補助記憶域プール(ASP)グループの現行値が使用されます。同様に、スプール読み取りプログラム・ジョブの初期ASPグループ・パラメーターおよび投入されたバッチ・ジョブの初期ASPグループ・パラメーターには、データベース読取プログラム開始 (STRDBRDR)または ディスクット読取プログラム開始 (STRDKTRDR)コマンドを出すステップのASPグループの現行値が使用されます。ジョブ記述にある初期ASPグループ値は無視されます。BCHJOBコマンドの処理、および構文検査などのスプール読み取りプログラム機能の処理は、バッチ・ジョブが使用するネーム・スペース内で実行する必要があります。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
JOB	ジョブ名	名前, <u>*JOB</u> D	オプション, 定位置 1
JOB	ジョブ記述	修飾オブジェクト名	オプション, 定位置 2
	修飾子 1: ジョブ記述	名前, <u>QB</u> ATCH	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIB</u> L, *CURLIB	
JOBQ	ジョブ待ち行列	単一値: <u>*R</u> DR, *JOB その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション, 定位置 3
	修飾子 1: ジョブ待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIB</u> L, *CURLIB	
PRTDEV	印刷装置	名前, <u>*USR</u> PRF, *SYSVAL, *JOB	オプション
OUTQ	出力待ち行列	単一値: <u>*USR</u> PRF, *DEV, *JOB その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 出力待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIB</u> L, *CURLIB	
JOBPTY	ジョブ優先順位(JOBQでの)	1-9, <u>*JOB</u> D	オプション, 定位置 4
OUTPTY	出力優先順位(OUTQでの)	1-9, <u>*JOB</u> D	オプション, 定位置 5
PRTTXT	印刷テキスト	文字値, <u>*JOB</u> D, *BLANK, *SYSVAL	オプション
RTGDTA	経路指定データ	文字値, <u>QC</u> MDB, *JOB, *RQSDTA	オプション
RQSDTA	要求データまたはコマンド	文字値, <u>_</u> , *JOB, *NONE, *RTGDTA	オプション
SYNTAX	CL構文検査	0-99, <u>*JOB</u> D, *NOCHK	オプション
CURLIB	現行ライブラリー	名前, <u>*USR</u> PRF, *CRTDFT	オプション
INLLIBL	初期ライブラリー・リスト	単一値: <u>*JOB</u> D, *SYSVAL, *NONE その他の値 (最大 25 回の繰り返し): 名前	オプション
ENDSEV	終了重大度	0-99, <u>*JOB</u> D	オプション
LOG	メッセージのロギング	要素リスト	オプション
	要素 1: レベル	0-4, <u>*JOB</u> D	
	要素 2: 重大度	0-99, <u>*JOB</u> D	
	要素 3: テキスト	<u>*JOB</u> D, *MSG, *SECLVL, *NOLIST	
LOGCLPGM	CL プログラム・コマンドのログ	<u>*JOB</u> D, *NO, *YES	オプション
INQMSGRPY	照会メッセージ応答	<u>*JOB</u> D, *RQD, *DFT, *SYSRPYL	オプション
HOLD	ジョブ待ち行列上での保留	<u>*JOB</u> D, *NO, *YES	オプション
DATE	ジョブ日付	日付, <u>*JOB</u> D, *SYSVAL	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノート
SWS	ジョブ・スイッチ	文字値, *JOB	オプション
MSGQ	MSG 待ち行列	単一値: *NONE , *USRPRF その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: MSG 待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL , *CURLIB	
SRTSEQ	分類順序	単一値: *USRPRF , *SYSVAL , *HEX , *LANGIDUNQ , *LANGIDSHR その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 分類順序	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL , *CURLIB	
LANGID	言語識別コード	文字値, *USRPRF , *SYSVAL	オプション
CNTRYID	国別または地域ID	文字値, *USRPRF , *SYSVAL	オプション
CCSID	コード化文字セットID	1-65535, *USRPRF , *SYSVAL , *HEX	オプション
JOBMSGQMX	ジョブ・メッセージ待ち行列最大サイズ	2-64, *JOB , *SYSVAL	オプション
JOBMSGQFL	ジョブ・メッセージ待ち行列満杯処理	*JOB , *SYSVAL , *NOWRAP , *WRAP , *PRTWRAP	オプション

上

ジョブ名 (JOB)

このジョブがシステムによって処理される時にこのジョブと関連づけられる名前を指定します。

***JOB**

このジョブで使用されるジョブ記述の単純名は、このジョブの名前です。

名前 システムによる処理中に使用されるジョブの単純名を指定します。

上

ジョブ記述 (JOB)

このジョブとともに使用されるジョブ記述を指定します。

修飾子1: ジョブ記述

QBATCH

このジョブには、ライブラリーQGPLに入っているIBM提供のジョブ記述QBATCHが使用されます。(ジョブの入力を読み取るスプーリング読み取りプログラムによって使用されるQGPLライブラリーがライブラリー・リスト中に存在していなければなりません。)

名前 ジョブ記述の名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

LIBL** 一致するものが見つかるまで、ライブラリー・リスト中のすべてのライブラリーが検索されます。初期ライブラリー・リスト (INLLIBL)パラメーターがJOB**を指定している場合は、ジョブ記述の検索に使用されるライブラリー・リストは、BCHJOBコマンドの処理が実行されるスレッドのライブラリー・リストです。INLLIBLパラメーターが***JOB**以外の値を指定する場合は、ジョブ記述の

検索に使用されるライブラリー・リストは、QSYSLIBLシステム値に指定されたライブラリーと、INLLIBLパラメーターによって指定されたライブラリーから構成されます。

***CURLIB**

INLLIBLパラメーターが*JOBDDを指定する場合は、ジョブ記述の検索に使用されるライブラリー・リストは、BCHJOBコマンド処理が行われるスレッドのライブラリー・リストです。ライブラリー・リストの現行ライブラリーが検索されます。ライブラリー・リストの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。INLLIBLパラメーターが*JOBDD以外の値を指定する場合は、ジョブ記述の検索に使用されるライブラリー・リストには現行ライブラリーがないので、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 ジョブ記述が入っているライブラリーを指定してください。

上

ジョブ待ち行列 (JOBQ)

このジョブが入れられるジョブ待ち行列を指定します。

単一値

***RDR** このジョブを読み取る データベース読取プログラム開始 (STRDBRDR), データベース・ジョブ投入 (SBMDBJOB), ディスケット読取プログラム開始 (STRDKTRDR), または ディスケット・ジョブ投入 (SBMDKTJOB) コマンドに指定されたジョブ待ち行列が使用されます。

***JOBDD**

このジョブで使用されるジョブ記述に指定されているジョブ待ち行列が使用されます。

修飾子1: ジョブ待ち行列

名前 ジョブ待ち行列の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、新規ジョブのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

待ち行列を見つけるために、新規ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 そのジョブ待ち行列があるライブラリーを指定してください。

上

印刷装置 (PRTDEV)

このジョブの省略時の印刷装置の名前を指定します。

***USRPRF**

ジョブのユーザー・プロファイルに指定された印刷装置名が使用されます。このユーザー・プロファイルは、**ジョブ記述 (JOBDD)**パラメーターで指定されるジョブ記述に指定されているものです。印刷装置名は、このコマンドの実行時にプロファイルから取り出されます。

***SYSVAL**

このコマンドの実行時にシステム値QPRTDEVに指定されている値が使用されます。

***JOB**

ジョブ記述に指定されている印刷装置が使用されます。

名前 このジョブに使用する印刷装置の名前を指定します。

上

出力待ち行列 (OUTQ)

このジョブによって作成されるスプール出力に使用される省略時の出力待ち行列の名前を指定します。このパラメーターは、出力待ち行列に*JOBを指定するスプール印刷装置ファイルにのみ適用されます。

単一値

***USRPRF**

ジョブのユーザー・プロファイルに指定された出力待ち行列が使用されます。このユーザー・プロファイルは、**ジョブ記述 (JOB)**パラメーターで指定されるジョブ記述に指定されているものです。出力待ち行列名は、このコマンドの実行時にプロファイルから取り出されます。

***DEV** スプール・ファイルの印刷装置に関連した出力待ち行列が使用されます。

***JOB**

このジョブで使用されるジョブ記述に指定されている出力待ち行列が使用されます。

修飾子1: 出力待ち行列

名前 出力待ち行列の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、新規ジョブのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

待ち行列を見つけるために、新規ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 出力待ち行列が入っているライブラリーを指定してください。

上

ジョブ優先順位(JOBQでの) (JOBPTY)

ジョブ待ち行列のスケジュール優先順位を指定します。最高の優先順位は1で、最低の優先順位は9です。

***JOB**

ジョブ記述に指定されているスケジューリング優先順位が使用されます。

1から9 スケジューリング優先順位を指定します。

上

出力優先順位(OUTQでの) (OUTPTY)

このジョブによって作成されたスプール出力ファイルの出力優先順位を指定します。有効な値の範囲は、1 - 9です。最高の優先順位は1で、最低の優先順位は9です。

*JOB

ジョブ記述に指定されている出力優先順位が使用されます。

1から9 このジョブの出力ファイルの優先順位を指定してください。

上

印刷テキスト (PRTTXT)

印刷出力の各ページの下部および分離ページに印刷されるテキストを指定します。

*JOB

ジョブ記述に指定されている値が使用されます。

*BLANK

テキストは印刷されません。

*SYSVAL

印刷テキストはシステム値QPRTTXTから得られます。

文字値 各ページの最後に印刷する文字ストリングを指定してください。最大30文字まで入力することができます (必要な場合には、アポストロフィで囲んでください)。

上

経路指定データ (RTGDTA)

ジョブの次のルーティング・ステップを開始するために使用される経路指定データを指定します。この経路指定データは、ジョブが実行するプログラムを識別する経路指定項目を決めるために使用されます。

QCMDB

IBM提供のバッチ・サブシステムが、IBM提供の制御言語処理プログラムQCMDにバッチ・ジョブを経路指定するために使用するルーティング・データが使用されます。

*JOB

最初のルーティング・ステップを開始するために使用されるルーティング・データは、ジョブ記述の中に入っています。

*RQSDTA

このコマンドの**要求データまたはコマンド (RQSDTA)**パラメーターに指定された要求データの最初の80文字も、ルーティング・データとして使用されます。

文字値 最初のルーティング・ステップを開始するためのルーティング・データとして使用する文字ストリングを指定してください。最大80文字まで入力することができます (必要な場合には、アポストロフィで囲んでください)。

上

要求データまたはコマンド (RQSDTA)

このジョブのメッセージ待ち行列に最後の項目として入れられる要求データを指定します。この要求データは実行するCLコマンドまたは別のプログラムによって使用される文字ストリングとすることができます。

- * このコマンドに続くデータが、要求データとしてこのジョブのメッセージ待ち行列に挿入されません。例えば、要求データは、ジョブを構成する一連のCLコマンドである場合もあります。

*JOB

ここで使用するジョブ記述で指定されている要求データは、このジョブのメッセージ待ち行列の最後の項目となります。

*NONE

このジョブのメッセージ待ち行列には要求データは入りません。

*RTGDTA

このコマンドの経路指定データ (RTGDTA)パラメーターのルーティング・データが、このジョブのメッセージ待ち行列の最後の項目となります。

文字値 ジョブのメッセージ待ち行列の最後の項目となる文字ストリングを指定してください。最大256文字まで入力することができます (必要な場合には、アポストロフィで囲んでください)。

上

CL構文検査 (SYNTAX)

ジョブのメッセージ待ち行列に置かれた要求をCLコマンドとして構文検査するかどうかを指定します。構文検査を指定した場合には、構文エラーの診断をより早く行なうために、ジョブの実行時ではなくコマンドの投入時に、そのコマンドの構文検査が行なわれます。このパラメーターが使用されるのは、要求データまたはコマンド (RQSDTA)パラメーターにアスタリスク(*)が指定された場合だけです。

制約事項:

- データベース読取プログラム開始 (STRDBRDR)および ディスケット読取プログラム開始 (STRDKTRDR)コマンドは、構文検査をサポートします。このことにより、コマンドに対する権限を検査することができます。
- ユーザーは、当該コマンドに対する使用(*USE)権限と、そのコマンドが入っているライブラリーに対する実行(*EXECUTE)権限が必要です。

*JOB

このジョブで使用されるジョブ記述の中の値によって、要求データの構文検査を行なうかどうか、および使用されるメッセージ重大度が決まります。

*NOCHK

このジョブの要求データについてはCLコマンドの構文検査は行ないません。

0から99

ジョブの実行を抑制する最低メッセージ重大度を指定してください。要求データはCLコマンドとして構文検査されます。指定したエラー・メッセージ重大度以上の重大度をもつ構文エラーが発生すると、エラーのあるコマンドを含むジョブの実行が抑制されます。

上

現行ライブラリー (CURLIB)

実行中のジョブと関連した現行ライブラリーの名前を指定します。

*USRPRF

バッチ・ジョブが実行されるユーザー・プロファイルの中の現行ライブラリーが、バッチ・ジョブの現行ライブラリーとなります。このユーザー・プロファイルは、**ジョブ記述 (JOBDD)**パラメーターで指定されるジョブ記述に指定されているものです。

*CRTDFT

バッチ・ジョブの現行ライブラリーはありません。現行ライブラリーにオブジェクトが作成される場合には、QGPLが省略時の現行ライブラリーとして使用されます。

名前 このバッチ・ジョブの現行ライブラリーとして使用されるライブラリーを指定してください。

上

初期ライブラリー・リスト (INLLIBL)

ライブラリー修飾子なしで指定されたオブジェクト名の検索に使用されるライブラリー・リストの初期ユーザー部分を指定します。

注: ライブラリー・リスト内でのライブラリー名の重複は許されません。

単一値

*JOBDD

このジョブで使用されるジョブ記述の中のユーザー・ライブラリー・リストが、ライブラリー・リストの初期ユーザー部分として使用されます。

*SYSVAL

システムの省略時ユーザー・ライブラリー・リストが使用されます。これには、ジョブの開始時にシステム値QUSRLIBLに指定されていたライブラリー名が入っています。

*NONE

初期ライブラリー・リストのユーザー部分は空です。

その他の値 (最大25個指定可能)

名前 ライブラリー・リストのユーザー部分であり、このジョブで使用される1つまたは複数のライブラリーの名前を指定してください。これらのライブラリーの検索は、リストされている順序で行われます。

上

終了重大度 (ENDSEV)

バッチ・ジョブの終了の原因となるエスケープ・メッセージのメッセージ重大度レベルを指定します。バッチ入力ストリームが要求処理プログラムに、指定した値以上の重大度コードを持つエスケープ・メッセージを送信した時点で、バッチ・ジョブは終了します。

*JOBDD

このバッチ・ジョブとともに使用されるジョブ記述で指定された重大度の範囲によって、ジョブが終了する場合を決定します。

0から99

バッチ入力ストリーム中の要求の結果として出され、ジョブを終了させることになるエスケープ・メッセージのメッセージ重大度を指定してください。ユーザーに送られるエスケープ・メッセージは通常、最大重大度レベルが50であるので、エスケープ・メッセージの結果として終了されるジョブには50またはそれ以下の値を指定しなければなりません。指定された値より大きいか等しい重大度の処理されていないエスケープ・メッセージは、ジョブを終了させることとなります。

上

メッセージのロギング (LOG)

このジョブによってジョブ・ログに送られる情報の量およびタイプを決定するために使用されるメッセージのロギング値を指定します。このパラメーターには、メッセージ（またはロギング）レベル、メッセージ重大度、およびメッセージ・テキストのレベルという3つの要素があります。

要素1: レベル

*JOB

ジョブ記述にメッセージ・ロギング・レベルとして指定されている値が使用されます。

0から4 このジョブのメッセージに使用されるメッセージ・ロギング・レベルを指定します。使用できるロギング・レベルは次の通りです。

- 0** メッセージは記録されません。
- 1** ジョブの外部メッセージ待ち行列に送られる、重大度がメッセージ・ロギング重大度以上であるすべてのメッセージが記録されます。これには、ジョブ開始、ジョブ終了、およびジョブ完了状況の指示が含まれます。
- 2** 次の情報が記録されます。
 - ロギング・レベル1の情報
 - このメッセージ・ログ重大度より大きいか等しい重大度コードの高レベル・メッセージを出す結果となる要求メッセージです。要求メッセージと、関連したすべてのメッセージの両方が記録されます。

注: 高レベル・メッセージとは、要求メッセージを受け取るプログラムのプログラム・メッセージ待ち行列に送られるメッセージのことです。例えば、QCMDは、要求メッセージを受け取るIBM提供の要求処理プログラムです。

- 3** 次の情報が記録されます。
 - ロギング・レベル1と2の情報
 - すべての要求メッセージ
 - CLプログラムで実行されるコマンド(CLプログラム・ジョブ属性のロギングおよびCLプログラムのログ属性で許可されている場合)。
- 4** 次の情報が記録されます。
 - すべての要求メッセージと、重大度がメッセージ・ロギング重大度以上であるすべてのメッセージ（トレース・メッセージを含む)。
 - CLプログラムで実行されるコマンド(CLプログラム・ジョブ属性のロギングおよびCLプログラムのログ属性で許可されている場合)。

要素2: 重大度

*JOB

ジョブ記述にメッセージ・ロギング重大度として指定されている値が使用されます。

0から99

ジョブ・ログに記録されるエラー・メッセージを決定するために、ロギング・レベルと一緒に使用されるメッセージ重大度を指定してください。

要素3: テキスト

*JOB

ジョブ記述にメッセージ・ロギング・テキストとして指定されている値が使用されます。

***MSG** メッセージ・テキストだけがジョブ・ログに書き出されます。

*SECLVL

エラー・メッセージのメッセージ・テキストとメッセージ・ヘルプ(原因と回復)の両方がジョブ・ログに書き出されます。

*NOLIST

ジョブが異常終了した場合には、ジョブ・ログは作成されません。ジョブが異常終了した場合(ジョブ終了コードが20以上である場合)には、ジョブ・ログが作成されます。ジョブ・ログに表示されるメッセージには、メッセージ・テキストとメッセージ・ヘルプの両方が含まれています。

上

CL プログラム・コマンドのログ (LOGCLPGM)

制御言語プログラムの中で実行されるコマンドがそのCLプログラムのメッセージ待ち行列を介してジョブ・ログに記録されるかどうかを指定します。このパラメーターはジョブのロギング・フラグの状況を設定します。制御言語(CL)プログラム作成(CRTCLPGM)コマンドでメッセージのロギング (LOG)パラメーターに対して*JOBが指定された場合には、CL プログラム・コマンドのログ (LOGCLPGM)パラメーターで設定されたフラグが使用されます。メッセージのロギング (LOG)パラメーターに対するその他の値は CL プログラム・コマンドのログ (LOGCLPGM)パラメーターを一時変更します。コマンドは要求通りの仕方
で記録されます。

*JOB

ジョブ記述の中の値が使用されます。

***NO** CLプログラム中のコマンドはジョブ・ログに記録されません。

***YES** CLプログラム中のコマンドはジョブ・ログに記録されます。

上

照会メッセージ応答 (INQMSGRPY)

このジョブの実行の結果として送られる事前定義メッセージに対する応答方法を指定します。ジョブ記述から照会メッセージ応答制御が行われないこと、すべての照会メッセージに応答が必要であること、省略時の応答が出されること、あるいは事前定義照会メッセージが送られるたびにシステム応答リストで一致する
応答が調べられることを指定することができます。

***JOB**

このジョブで使用されるジョブ記述で指定された照会メッセージ応答制御が開始されます。

***RQD** このジョブの実行中に出されるすべての照会メッセージに対して、照会メッセージの受信者による応答が必要です。

***DFT** このジョブの実行中に出されるすべての照会メッセージに回答するために、省略時のメッセージ応答が使用されます。

***SYSRPLY**

このジョブの実行の結果として出される照会メッセージに、照会メッセージIDおよびメッセージ・データと一致するメッセージIDおよび比較データをもっている項目があるかどうかを調べるために、システム応答リストが検査されます。一致するものがある場合には、その項目の応答値が使用されます。そのメッセージに項目が存在していない場合には、応答が必要です。

上

ジョブ待ち行列上での保留 (HOLD)

ジョブがジョブ待ち行列に置かれた時にこのジョブを保留するかどうかを指定します。保留状態でジョブ待ち行列に置かれたジョブは、ジョブ解放(RLSJOB)コマンドによって解放されるか、あるいはジョブ終了(ENDJOB)コマンドまたはジョブ待ち行列消去(CLRJOBQ)コマンドによって終了されるまで保留されます。

***JOB**

ジョブ記述中に指定されている値によって、このジョブが、ジョブ待ち行列に入れられた時に保留されるかが決まります。

***NO** ジョブは、ジョブ待ち行列に入った時点で保留されません。

***YES** ジョブはジョブ待ち行列に入れられると保留状態になり、保留解除されるか終了されるまで保留されます。

上

ジョブ日付 (DATE)

ジョブの開始時にジョブに割り当てられる日付を指定します。

***JOB**

ジョブ記述中に指定されている日付が使用されます。

***SYSVAL**

ジョブの開始時におけるシステム値QDATEの値が使用されます。

日付 ジョブの開始時にジョブ日付として使用される値を指定してください。この値は、DATFMTジョブ属性によって指定された日付形式を使用して入力しなければなりません。

上

ジョブ・スイッチ (SWS)

このジョブで使用される8個のジョブ・スイッチ群について各スイッチの最初の設定値を指定します。これらのスイッチはCLプログラムの中で設定またはテストすることができ、これらのスイッチを使用してプログラムの流れを制御することができます。8桁の文字ストリングには0（オフ）と1（オン）しか指定することができません。

*JOB

ジョブ記述で指定された値がこのジョブのスイッチの最初の設定値となります。

文字値 このジョブの最初のスイッチの設定値として使用する、0と1による8桁の組み合わせを指定します。

上

MSG 待ち行列 (MSGQ)

投入されたジョブが正常または異常のいずれかで実行を完了した時に完了メッセージが送られるメッセージ待ち行列を指定します。異常終了が起こった場合には、完了メッセージのヘルプ情報が考えられる原因を指定します。

単一値

*NONE

完了メッセージは送られません。

*USRPRF

このジョブを投入中のユーザーのユーザー・プロファイルに指定されたメッセージ待ち行列が使用されます。

修飾子1: MSG 待ち行列

名前 完了メッセージの送り先となるメッセージ待ち行列の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、新規ジョブのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

待ち行列を見つけるために、新規ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 メッセージ待ち行列が入っているライブラリーを指定してください。

上

分類順序 (SRTSEQ)

このジョブのストリング比較に使用される分類順序テーブルを指定します。

単一値

***USRPRF**

そのジョブのユーザー・プロファイルに対して指定された分類順序テーブルが使用されます。このユーザー・プロファイルは、**ジョブ記述 (JOBDD)**パラメーターで指定されるジョブ記述に指定されているものです。

***SYSVAL**

システム値QSRTSEQが使用されます。

***HEX** 分類順序テーブルは使用されません。分類順序の決定には、その文字の16進数値が使用されます。

***LANGIDUNQ**

固有の重み分類テーブルが使用されます。

***LANGIDSHR**

共用の重み分類テーブルが使用されます。

修飾子1: 分類順序

名前 分類順序テーブルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、新規ジョブのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

新規ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 分類順序テーブルが入っているライブラリーを指定してください。

上

言語識別コード (LANGID)

このジョブと関連した言語IDを指定します。言語IDが使用されるのは、**分類順序 (SRTSEQ)**パラメーターに***LANGIDUNQ**または***LANGIDSHR**が指定されている時です。ジョブのCCSIDが65535である場合には、このパラメーターを使用して、ジョブの省略時の値CCSID (DFTCCSID)も判別します。

***USRPRF**

そのジョブのユーザー・プロファイルに対して指定された言語IDが使用されます。このユーザー・プロファイルは、**ジョブ記述 (JOBDD)**パラメーターで指定されるジョブ記述に指定されているものです。

***SYSVAL**

システム値QLANGIDが使用されます。

文字値 ジョブによって使用される言語IDを指定してください。

上

国別または地域ID (CNTRYID)

ジョブによって使用される国別または地域別のIDを指定します。

***USRPRF**

そのジョブのユーザー・プロファイルに指定された国別または地域別のIDが使用されます。このユーザー・プロファイルは、**ジョブ記述 (JOBDD)**パラメーターで指定されるジョブ記述に指定されているものです。

***SYSVAL**

システム値QCNTYIDが使用されます。

文字値 ジョブによって使用される国別または地域別のIDを指定します。

上

コード化文字セットID (CCSID)

ジョブに使用するコード化文字セットID (CCSID)を指定します。

***USRPRF**

ジョブのユーザー・プロファイルに指定されたCCSIDが使用されます。このユーザー・プロファイルは、**ジョブ記述 (JOBDD)**パラメーターで指定されるジョブ記述に指定されているものです。

***SYSVAL**

システム値QCCSIDに指定されたCCSIDが使用されます。

***HEX** CCSID 65535が使用されます。

1から65535

CCSIDを指定してください。

上

ジョブ・メッセージ待ち行列最大サイズ (JOBMSGQMX)

ジョブ・メッセージ待ち行列の最大サイズを指定します。

***JOBDD**

ジョブ記述に指定された値がジョブ・メッセージ待ち行列の最大サイズを決定します。

SYSVAL

ジョブが開始された時点でのシステム値QJOBMSGQMXの値が、ジョブ・メッセージ待ち行列の最大サイズを決定します。

2から64

ジョブ・メッセージ待ち行列の最大サイズ（メガバイト数）を指定します。

上

ジョブ・メッセージ待ち行列満杯処置 (JOBMSGQFL)

ジョブ・メッセージ待ち行列がいっぱいになった時取る処置を指定します。

***JOBDD**

ジョブ記述に指定された値が取られる処置を決定します。

***SYSVAL**

システム値QJOBMSGQFLに指定された値が使用されます。

*NOWRAP

いっぱいになった時にメッセージ待ち行列は折り返しません。この処置でジョブが終了します。

*WRAP

メッセージ待ち行列は、いっぱいになると、メッセージ待ち行列の始めに折り返し、再びメッセージが入れ始められます。

*PRTWRAP

メッセージ待ち行列は、いっぱいになると、ジョブ・メッセージ待ち行列を折り返し、折り返しのためにオーバーレイされることになるメッセージを印刷します。

上

例

例1:照会メッセージ項目があるかどうかシステム応答リストを調べる

```
BCHJOB  JOB(D(PAYROLL)  INQMSGRPY(*SYSRPLY)
```

このコマンドは、PAYROLLと呼ばれるバッチ・ジョブを開始します。システム応答リストに項目があって、（このジョブを実行した結果として）送られる照会メッセージには、その応答リスト項目内の応答に従って答えられます。応答リストに表されていない照会メッセージの場合は、応答が必要です。

ジョブ名が、このジョブで使用されるジョブ記述の名前と同じになっています。ジョブ記述PAYROLLがどこにあるかは、BCHJOBコマンドが処理されるスレッドのライブラリー検索リストによって調べられます。BCHJOBコマンドが処理されるスレッドの補助記憶域プール(ASP)グループが、新しいジョブの初期ASPグループとして使用されます。その他のジョブ属性の値は、ジョブ記述PAYROLLか、ジョブ記述PAYROLLに指定されたユーザー・プロファイルから取られます。

例2:ジョブ・スイッチを設定する

```
BCHJOB  JOB(QGPL/QBATCH)  JOB(PAYROLL)  JOBQ(BATCH2)
        INLLIBL(PAYLIB)  SWS(00101100)  DATE(010188)
```

このコマンドは、PAYROLLと呼ばれるバッチ・ジョブを開始します。このジョブは、バッチ・ジョブ用のIBM提供ジョブ記述QBATCHからの属性を使用して実行されます。このジョブはジョブ待ち行列BATCH2に入っています。ライブラリーPAYLIBは、ライブラリー・リストのユーザー部分にある唯一のライブラリーです。スイッチはこのジョブで使用されるように設定され、日付は1988年1月1日に設定されます。

例3:重大度レベルの指定

```
BCHJOB  JOB(D(COMPILE)  JOBPTY(5)  SYNTAX(10)
        INLLIBL(MYCMDS)  ENDSEV(40)
```

このコマンドは、COMPILEと呼ばれるバッチ・ジョブを開始します。このジョブは、やはりCOMPILEという名前のジョブ記述に示されているすべての属性（ただし、初期ASPグループとこのコマンドで指定されているパラメーターを除く）を使用して実行されます。ライブラリーMYCMDSは、コマンドの構文検査や実行の際に使用されるライブラリー・リストのユーザー部分にある唯一のライブラリーです。10以上の値をもつ構文エラーが検出されると、このジョブの処理は終了されます。このジョブは、5というスケジューリング優先順位を割り当てられており、重大度レベルが40以上のエスケープ・メッセージを送らせるようなエラーが検出されなければ実行されます。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF1374

BCHJOBコマンドは、現在の環境では正しくない。

上

プログラム呼び出し (CALL)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: はい

パラメーター
例
エラー・メッセージ

プログラム呼び出し(CALL)コマンドは、コマンドで指定されたプログラムを呼び出し、制御をそのプログラムに渡します。任意に、CALLコマンドを出したプログラムまたはユーザーは、パラメーターを呼び出し先プログラムに渡すことができます。CALLコマンドはバッチ・ジョブ、対話式ジョブ、コンパイルおよび解釈の両方の制御言語(CL)で使用することができます。呼び出されたプログラムが処理を終了すると、RETURNコマンドを使用して呼び出し側プログラムに制御を戻すことができます。

CALLコマンドをCLプログラムまたはILE CLプロシージャで出す時に、呼び出されるプログラムに渡される各パラメーター値は、文字ストリング定数、数値定数、論理定数、浮動小数点定数、またはCL変数とすることができます。浮動小数点定数が指定された場合には、値は倍精度形式に変換され、呼び出されるプロシージャに渡されます。パラメーターを渡す場合には、定数または変数の値は呼び出されるプログラムで使用可能となります。次の形式のパラメーターを渡すことはできません。すなわち、値のリスト、修飾名、式、ヌルのパラメーター（すなわち、その値がヌルのパラメーターで、*Nで指定される）、またはキーワード・パラメーターの形式です。呼び出されるプログラムには最大255個のパラメーターを渡すことができます。

CALLコマンドを使用してパラメーターをプログラムに渡す場合には、パラメーターの値は、その値がCALLコマンド上に示された順序で渡されます。すなわち、この順序は、呼び出し側プログラムのパラメーター・リストに示される順序と一致していなければなりません。

呼び出されるプログラム中のパラメーターは、その変数のかわりに使用することができます。しかし、呼び出されるプログラムの記憶域は、それが受け取る変数と関連付けられます。その代わりに、変数が渡される場合には、その変数の記憶域が初めにそれが宣言されたプログラム内に入っています。定数が渡される場合には、呼び出し先プログラムで定数のコピーが作成され、そのコピーが呼び出されるプログラムに渡されます。

その結果、変数が渡された場合には、呼び出されるプログラムはその値を変更することができ、その変更は呼び出し側プログラムに反映されることとなります。定数が渡され、その値は呼び出されるプログラムによって変更された場合には、変更された値は呼び出し側プログラムには通知されません。したがって、呼び出し側プログラムが同じプログラムをもう一度呼び出すと、定数の値は元の値にリセットされます。

ジョブ投入(SBMJOB)コマンド内でのCALLコマンドを使用して変数パラメーターを渡すことの説明は、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「実行管理機能」トピック・コレクションを参照。にあります。

制約事項:

- 呼び出し先のプログラムに対しては操作(*OBJOPR)および実行(*EXECUTE)権限が、またそのプログラムが入っているライブラリーに対しては*EXECUTE権限が必要です。
- CALLコマンドはスレッド・セーフです。このことは、CALLコマンドが複数のスレッドを含むジョブで実行される時にこれを使用してプログラムを呼び出せることを意味します。呼び出し先のプログラムがスレッド・セーフであるかどうかの検査は行われません。

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
PGM	プログラム	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: プログラム	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
PARM	パラメーター	値 (最大 255 回の繰り返し): 無制限	オプション, 定位置 2

プログラム (PGM)

呼び出し先のプログラムを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: プログラム

名前 呼び出すプログラムの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

プログラムを見つけるために、スレッドの現行ライブラリーが使用されます。スレッドの現行ライブラリーとして指定されているライブラリーがない場合、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 プログラムが入っているライブラリーの名前を指定してください。

パラメーター (PARM)

呼び出されたプログラムに渡す1つまたは複数のパラメーター値を指定します。最大で255個のパラメーター値を渡すことができます。

どの値も、次のいずれかの形式で指定しなければなりません。文字ストリング定数、数値定数、論理定数、倍精度浮動小数点定数、またはプログラム変数。

各パラメーターのタイプと長さは、呼び出し側プログラムと受け取り側プログラムの両方で一致していなければなりません。また、パラメーターの数と受け渡しされる順序も同じでなければなりません。CALLコマンドが対話式または非コンパイルのバッチ環境で入力された場合には、呼び出されるプログラムで必要となるタイプおよび長さは、そのコマンドで渡される各パラメーターのものと一致していなければなりません。

パラメーターは次の通り受け渡しすることができます。

- 32バイトまたはそれより小さい文字ストリング定数は、常に32バイトの長さ（右側に空白が埋め込まれる）で渡されます。文字定数が32バイトより長い場合には、その定数の長さ全体が渡されます。32バイトより多く入れるようにパラメーターが定義された場合には、呼び出し側プログラムはそのバイト数が正確に入っている定数を渡さなければなりません。32桁より長い定数は、受け取りプログラムで必要となる長さまでの埋め込みは行われません。

受け取りプログラムは渡されるバイト数より少なく受け取ることができます（この場合には、メッセージは送信されない）。たとえば、4桁を受け取れることをプログラムが指定していて、ABCDEFが渡された（26桁目に空白の埋め込み）場合には、ABCDだけがプログラムで受け入れられて、使用されます。引用符付きの文字ストリングも渡すことができます。

- 10進定数は、パック形式および(15 5)の長さで渡されます（値は15桁の長さで、そのうちの5桁は小数部です）。12345のパラメーターが渡された場合には、受け取りプログラムは(15 5)として10進数フィールドを宣言し、パラメーターは1234500000（これは12,345.00000）として受け取られます。
- 論理定数は'1'または'0'の論理値の1バイトとして渡されます。
- 浮動小数点リテラルおよび浮動小数点特殊値(*NAN, *INF, および*NEGINF)は、倍精度浮動小数点数として渡され、これは8バイトを占有し、SN.NESNの形式で指定されます。ここでSはプラス符号(+)またはマイナス符号(-)です。たとえば、-2.47E+3または3.653E24などです。単精度浮動小数点数は呼び出されるプログラムに渡すことはできません。
- CLプログラムまたはILE CLプロシージャから呼び出しを行う場合には、プログラム変数を渡すことができます。この場合、受け取りプログラムは、呼び出しCLプログラムまたはILE CLプロシージャに定義された変数と一致するようにフィールドを宣言しなければなりません。例えば、CLプログラムまたはCLプロシージャが&CHKNUMの名前の10進数変数を(5 0)として定義した場合には、受け取りプログラムは、合計5桁のパックで、小数部を持たないものとしてフィールドを宣言しなければなりません。

10進定数またはプログラム変数のいずれかを、呼び出されるプログラムに渡すことができる場合には、そのパラメーターは(15 5)として定義する必要があり、呼び出し側プログラムはその定義を支持しなければなりません。パラメーターのタイプ、数、順序、および長さが呼び出し側プログラムと受け取り側プログラムで一致しない場合（文字定数に対して前に記述された長さの例外は除く）には、予測できない結果が起こることがあります。

ヌル値を別のプログラムに渡すことができないので、値*Nを使用してヌル値を指定することはできません。

注: パラメーター値をCLプログラムまたはILE CLプロシージャによって変更するか、あるいはCLコマンドに変数として指定する場合には、それが書き込み可能記憶域になければなりません。例えば、CまたはC++では、ストリングが読み取り専用である場合があります。読み取り専用ストリングがパラメーターとしてCLプログラムまたはILE CLプロシージャに渡され、CLプロシージャが変数の値を変更したり、CLコマンドの変数を使用しようとした場合には、そのCLプログラムまたはILE CLプロシージャは正常に実行されません。

上

例

例1: プログラムの呼び出し

```
CALL PGM(PAYROLL)
```

PAYROLLという名前のプログラムが呼び出されますが、このプログラムに渡されるパラメーターはありません。ライブラリー・リストを使用して呼び出し先プログラムを見つけます。

例2:文字定数の引き渡し

```
CALL PGM(PAYROLL) PARM('1')
```

PAYROLLという名前のプログラムが呼び出され、文字定数が引用符付きストリングとして渡されます。プログラムは、最大32文字からなるフィールドを、定数を受け取るフィールドとして宣言しなければなりません。ライブラリー・リストを使用して呼び出し先プログラムを見つけます。

例3: パラメーターの引き渡し

```
CALL PGM(LIB1/PAYROLL) PARM(CHICAGO 1234 &VAR1)
```

ライブラリーLIB1に入っているPAYROLLという名前のプログラムが呼び出されます。呼び出し側プログラムは3個のパラメーター、すなわち、文字ストリング(CHICAGO)、10進値(1234.00000)、およびCL変数&VAR1の内容を渡します。変数の属性が3番目のパラメーターの属性を決定します。

例4:浮動小数点値を伴うプログラムの呼び出し

```
CALL PGM(PGM1) PARM(1.5E3 *INF)
```

PGM1という名前のプログラムが呼び出され、2つの倍精度浮動小数点値がそのプログラムに渡されます。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPD0783

パラメーター&2の変数&3はTYPE(*DEC)、LEN(&4,&5)でなければならない。

CPF0005

戻されたコマンド・ストリングが指定した長さの変数を超えている。

CPF0006

コマンドでエラーが起こった。

CPF0805

&2のプログラム&1を開始した時にエラーが見つかった。

CPF0806

プロシーチャーの開始時にエラーが見つかった。

上

結合プロシーチャーの呼び出し (CALLPRC)

実行可能場所:

- バッチ ILE CL モジュール (*BMOD)
- 対話式 ILE CL モジュール (*IMOD)

スレッド・セーフ: はい

パラメーター

例

エラー・メッセージ

バインド済みプロシーチャー呼び出し(CALLPRC)コマンドは、コマンドに指定されたバインド済みプロシーチャーを呼び出し、それに制御権を渡します。任意選択で、CALLPRCコマンドを出すプロシーチャーは、呼び出されるプロシーチャーにパラメーターを渡すことができます。CALLPRCコマンドは、コンパイルされたILE制御言語(CL)プログラムおよびモジュールで使用することができます。呼び出されるプロシーチャーがエラー・コードなどの値を戻す場合は、戻された値のCL変数 (RTNVAL)パラメーターにCL変数名を指定することによって、戻された値をそのCL変数に保管することができます。

呼び出されるプロシーチャーに渡される各値は、文字ストリング定数、数値定数、論理定数、浮動小数点定数、またはCL変数とすることができます。浮動小数点定数が指定された場合には、値は倍精度形式に変換され、呼び出されるプロシーチャーに渡されます。パラメーターを渡す場合には、定数または変数の値は呼び出されるプログラムで使用可能となります。次の形式でパラメーターを渡すことはできません。すなわち、値のリスト、修飾名、式、またはキーワード・パラメーター。呼び出されるプロシーチャーには最大300個のパラメーターを渡すことができます。

注: CALLPRCコマンドでは最大300個のパラメーターを渡すことができますが、呼び出されるプロシーチャーが受け入れることができる数は、呼び出されるプロシーチャーの言語によります。たとえば、CLプロシーチャーは、255を超えるパラメーターを受け入れることはできません。

パラメーターがCALLPRCコマンドを使用してプロシーチャーに渡される場合には、パラメーターの値が渡される順序はCALLPRCコマンドでのそれが示される順序です。この順序は、呼び出されるプロシーチャーのパラメーター・リストの順序と一致しなければなりません。

パラメーターは参照によって渡すか、値によって渡すことができます。

制約事項:

- CALLPRCコマンドはILE CLモジュール内でのみ有効です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
PRC	プロシーチャー	文字値	必須, 定位置 1
PARM	パラメーター	値 (最大 300 回の繰り返し): 要素リスト	オプション, 定位置 2
	要素 1: パラメーター	無制限	
	要素 2: 受け渡し	*BYREF, *BYVAL	
RTNVAL	戻された値のCL変数	CL 変数名, *NONE	オプション, 定位置 3

プロシージャ (PRC)

呼び出されるプロシージャの名前を指定します。

名前 呼び出されるプロシージャの名前を指定してください。プロシージャは、呼び出しプロシージャと同じプログラム内にあるか、あるいは呼び出し側プログラムの作成時に指定されたサービス・プログラム内になければなりません。プロシージャ名は、最大256バイトの長さにすることができます。プロシージャ名は、大文字・小文字を区別されます。プロシージャ名にCL変数を使用することはできません。

上

パラメーター (PARM)

呼び出されるプロシージャに渡されるパラメーター値を指定します。パラメーターを渡すことはオプションであって、パラメーターが指定されていない場合は、呼び出されるプログラムにパラメーターが渡されることはありません。最大で300個のパラメーターを指定することができます。

要素1: パラメーター

*OMIT

パラメーターは指定されていません。呼び出されるプロシージャにはヌル・ポインターが渡されます。要素1に*OMITが指定された時は、要素2に*BYVALを指定することはできません。

パラメーター値

呼び出されるプロシージャにパラメーターとして渡す値を指定してください。パラメーター値は、文字ストリング定数、数値定数、論理定数、倍精度浮動小数点定数、またはCL変数として指定することができます。

各パラメーターのタイプおよび長さは、呼び出しプロシージャと呼び出されるプロシージャの両方で同じでなければなりません。パラメーターが受け渡しされる順序も同じでなければなりません。呼び出しプロシージャによって指定されたパラメーターの数が呼び出されるプロシージャによって指定されたパラメーターの数と一致している必要はありません。呼び出しプロシージャの指定するパラメーターが呼び出されるプロシージャに定義されているパラメーターより多ければ、余分なパラメーターは無視されます。呼び出しプロシージャの指定するパラメーターが呼び出されるプロシージャに定義されているパラメーターより少なく、呼び出されるプロシージャが欠落しているパラメーターを参照していると、実行時の結果は予測不能です。

パラメーターは次の通り受け渡しすることができます。

- 文字ストリング定数は、ブランクの埋め込みも、ヌル文字の切り捨ても行われません。パラメーターの操作記述子にはストリングの長さが示されます。

呼び出されたプロシージャでは、渡されたバイト数より少ないバイト数を受け取ることができます（この場合には、メッセージは送られません）。例えば、4桁を受け取られることを呼び出されるプロシージャが指定していて、ABCDEFが渡された場合には、ABCDだけが呼び出されるプロシージャで受け入れられて、使用されます。引用符付きの文字ストリングも渡すことができます。

- 10進定数は、パック形式および(15 5)の長さで渡されます（値は15桁の長さで、そのうちの5桁は小数部です）。12345のパラメーターが渡された場合には、呼び出されたプロシージャーは(15 5)として10進数フィールドを宣言し、パラメーターは1234500000（これは12,345.00000）として受け取られます。
- 論理定数は、論理値'F1'Xまたは'F0'Xの1バイトとして渡されます。
- 浮動小数点リテラルおよび浮動小数点特殊値(*NAN,*INF,および*NEGINF)は、IEEE形式の倍精度浮動小数点数(8バイトを占めて、SN.NESNの形式で指定される)として渡されます。この場合に、Sはプラス符号(+)またはマイナス符号(-)（たとえば、-2.47E+3または3.653E24など）です。呼び出されたプロシージャーに単精度浮動小数点数を渡すことはできません。
- CL変数を渡すことができます。この場合に、呼び出されるプロシージャーでは、呼び出しプロシージャーに定義された変数と一致するようにフィールドを宣言しなければなりません。たとえば、CLプロシージャーが&CHKNU M の名前の10進数変数を(5 0)として定義した場合には、受け取りプロシージャーは、合計5桁のパックで、小数部を持たないものとしてフィールドを宣言しなければなりません。

10進定数またはプログラム変数を呼び出されるプロシージャーに渡すことができる場合には、パラメーターを(15 5)として定義しなければならず、呼び出しプロシージャーはその定義に従わなければなりません。呼び出しプロシージャーと呼び出されるプロシージャーの間で、パラメーターのタイプ、数、順序、および長さが一致しない場合（前に文字定数について説明した長さの例外は除きます）には、予測できない結果が起こります。

- PARMキーワードで渡される文字引数の場合には、操作記述子が常に作成されます。呼び出されるプロシージャーは、この記述子中の情報を使用して、引数の長さを判断することができます。文字ストリング定数の場合には、長さは定数の実際の長さです。文字変数の場合には、長さは変数の宣言された長さです。

要素2: 受け渡し

***BYREF**

パラメーターは**参照によって**渡されます。参照によってパラメーターを渡すとは、実パラメーターが呼び出しプロシージャー内の、CL変数または定数値を含む記憶域を指すポインターであることを意味します。呼び出されるプロシージャーがCLプロシージャーである場合は、すべてのパラメーターを参照によって渡す必要があります。CL変数が参照によって渡される場合は、呼び出されるプロシージャーがその値を変更でき、その変更が呼び出しプロシージャーに反映されます。定数が参照によって渡される場合は、呼び出しプロシージャーの中で定数のコピーが作成され、そのコピーが呼び出されるプロシージャーに渡されます。

***BYVAL**

パラメーターは**値によって**渡されます。値によってパラメーターを渡すとは、呼び出されるプロシージャーがパラメーターのコピーを受け取ることを意味します。パラメーターがCL変数である場合は、呼び出されるプロシージャーがパラメーターを変更しても、呼び出しプロシージャーのCL変数は変更されません。値によって渡されるパラメーターを受け取るように呼び出されるプロシージャーを定義する必要があります。

上

戻された値のCL変数 (RTNVAL)

呼び出されたプロシージャからの戻り値を入れる変数を指定します。呼び出されるプロシージャの戻り値が2進数(ILE CまたはILE C++ではタイプINTまたはSHORT)の場合は、整数CL変数(DCLステートメントでTYPE(*INT)またはTYPE(*UINT)として指定される)を指定するか、戻り値パラメーターに使用される文字CL変数(DCLステートメントでTYPE(*CHAR)として指定される)で%BINARYまたは%BIN組み込み関数を使用する必要があります。

***NONE**

呼び出されるプロシージャは値を戻しません。

CL変数名

呼び出されるプロシージャからの戻り値を入れるCL変数の名前を指定してください。これには、10進数、整数、または文字CL変数が可能です。戻り変数として使用される変数は、自動的に16バイト境界に位置合わせされます。

上

例

例1: プロシージャの呼び出し

```
CALLPRC PRC(PAYROLL)
```

PAYROLLという名前のプロシージャが呼び出されますが、このプログラムに渡されるパラメーターはありません。PAYROLLプロシージャは値を戻しません。

例2: 文字定数の引き渡し

```
CALLPRC PRC(PAYROLL) PARM('1')
```

PAYROLLという名前のプロシージャが呼び出され、文字定数が引用符付きストリングとして渡されます。PAYROLLプロシージャは値を戻しません。

例3: パラメーターの引き渡し

```
CALLPRC PRC(PAYROLL) PARM(CHICAGO 1234 &VAR1)  
RTNVAL(*NONE)
```

PAYROLLという名前のプロシージャが呼び出されます。呼び出し側プロシージャは3個のパラメーター、すなわち、文字ストリング(CHICAGO)、10進値(1234.00000)、およびCL変数&VAR1の内容を渡します。変数の属性が3番目のパラメーターの属性を決定します。PAYROLLプロシージャは値を戻しません。

例4: 浮動小数点値を伴うプロシージャの呼び出し

```
CALLPRC PRC(PRC1) PARM(1.5E3 *INF) RTNVAL(&RVAL)
```

PRC1という名前のプロシージャが呼び出され、2つの倍精度浮動小数点値がそのプログラムに渡されます。戻り値は変数&RVALに保管されます。

例5: プロシージャの戻り値の無視

```
CALLPRC PRC(PRC1) PARM(1.5E3 *INF) RTNVAL(*NONE)
```

PRC1という名前のプロシージャが呼び出され、2つの倍精度浮動小数点値がそのプログラムに渡されます。戻り値は無視されます。したがって、呼び出し側プロシージャは戻り値を取得できません。

例6: %BINを使用して2進数を戻すプロシージャの呼び出し

```
CALLPRC PRC(RTNINT) RTNVAL(%BIN(&RTNV 1 4))
```

RTNINTという名前のプロシージャが4バイトの2進値を戻します。戻り値は、変数&RTNVの最初の4バイトに保管されます。変数&RTNVのタイプは*CHARで、長さは少なくとも4です。

例7:整数CL変数を使用して2進数を戻すプロシージャの呼び出し

```
DCL VAR(&VAR2) TYPE(*INT) LEN(4)
:
CALLPRC PRC(RTNINT) RTNVAL(&VAR2)
```

RTNINTという名前のプロシージャが4バイトの2進値を戻し、戻り値は、4バイトの符号付き整数CL変数&VAR2に保管されます。

例8:値によってパラメーターを渡すプロシージャの呼び出し

```
DCL VAR(&POS) TYPE(*INT) LEN(2)
:
CALLPRC PRC(SCAN_STRING) PARM((&STR1 *BYREF) (' ' *BYVAL))
RTNVAL(&POS)
```

SCAN_STRINGという名前のプロシージャが呼び出され、2つのパラメーターが渡されます。CL変数&STR1は参照によって、定数文字ストリング' ' (1個のブランク) は値によって、それぞれSCAN_STRINGに渡されます。第1のパラメーターを文字ストリングを指すポインターとして受け取り、第2のパラメーターを1バイトの文字ストリングとして受け取るように、プロシージャSCAN_STRINGを定義する必要があります。SCAN_STRINGプロシージャは2バイトの2進値を戻し、戻り値は、2バイトの符号付き整数CL変数&POSに保管されます。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF0806

プロシージャの開始時にエラーが見つかった。

上

サブルーチンの呼び出し (CALLSUBR)

実行可能場所:

- バッチ・プログラム (*BPGM)
- 対話式プログラム (*IPGM)

スレッド・セーフ: はい

パラメーター

例

エラー・メッセージ

制御をサブルーチンに渡すために、サブルーチン呼び出し(CALLSUBR)コマンドがCLプログラムまたはILE CLプロシージャ内部で使用されます。CALLSUBRコマンドのサブルーチン名は、SUBR (サブルーチン) コマンドのサブルーチン名と一致しなければなりません。CALLSUBRコマンドは、他のサブルーチンを含めプロシージャ内のどこにでも入れることができますが、プログラム・レベルのMONMSGコマンドは除きます。呼び出されるサブルーチンがエラー・コードなどの値を戻す場合には、戻された値のCL変数 (RTNVAL)パラメーターにCL変数名を指定すれば、戻り値を4バイトの整数CL変数に入れることができます。

実行される各CALLSUBRコマンドは、戻りアドレスをサブルーチン・スタックに入れます。RTNSUBR (サブルーチンからの戻り) またはENDSUBR(サブルーチン終了) が実行されると、戻りアドレスがサブルーチン・スタックから除去されます。サブルーチン・スタックの省略時の深さは99です。CLプログラムまたはILE CLプロシージャへのサブルーチン・スタックの深さは、DCLPRCOPT (処理オプションの宣言) コマンドを使用し、サブルーチン・スタックの深さ (SUBRSTACK)パラメーターに値を指定すれば設定できます。CALLSUBRコマンドによってサブルーチン・スタックの深さの限度を超える場合には、メッセージCPF0822 が出され、サブルーチン・スタックは変更されません。

制約事項:このコマンドはCLプログラムまたはILE CLプロシージャ内でのみ有効です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
SUBR	サブルーチン	単純名	必須, 定位置 1
RTNVAL	戻された値のCL変数	CL 変数名, *NONE	オプション

上

サブルーチン (SUBR)

サブルーチン呼び出し(CALLSUBR)コマンドが処理される場合に、制御を渡されるサブルーチンを指定します。このサブルーチンは、CALLSUBRコマンドと同じプロシージャ内で定義しなければなりません。

これは必須パラメーターです。

単純名 制御が移されるサブルーチンの名前を指定してください。サブルーチン名を指定するのに、CL変数名を使用することはできません。

戻された値のCL変数 (RTNVAL)

呼び出されたサブルーチンからの戻り値を受け取る変数を指定します。

*NONE

サブルーチンによって戻される値は無視されます。

CL変数名

呼び出されるサブルーチンからの戻り値を受け取るCL変数の名前を指定してください。戻り値は省略時のゼロにするか、サブルーチンからの戻り(RTNSUBR)またはサブルーチン終了(ENDSUBR)コマンドの戻り値 (RTNVAL)パラメーターに指定された値とすることができます。変数は、4バイトの符号付き整数CL変数でなければなりません。

例

例1: RTNVALを伴うCALLSUBR

```
DCL &INT4VAR TYPE(*INT) LEN(4)
:
CALLSUBR SUBR(SUBR1) RTNVAL(&INT4VAR)
```

SUBR1という名前のサブルーチンが呼び出され、戻り値は変数&INT4VARに保管されます。

例2: IFコマンドのコマンド・パラメーターとしてのCALLSUBR

```
IF (&A *LT 30) THEN(CALLSUBR LT30)
```

&Aが30未満の場合に、LT30という名前のサブルーチンが呼び出されます。

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF0822

ステートメント&1でのサブルーチン・スタック・オーバーフロー。

現行ディレクトリーの変更 (CD)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

現行ディレクトリーの変更 (CD)コマンドは、指定されたディレクトリーを現行の作業ディレクトリーに変更します。現行ディレクトリーはディレクトリー、ライブラリー、フォルダー、またはデータベース・ファイルとすることができます。コマンドで使用されるオブジェクトを見つけるために、現行ディレクトリーが使用されます。

このコマンドは、現行ディレクトリーの変更 (CHGCURDIR)コマンドの別名で、次の代替コマンド名を使用して出すこともできます。

- CHDIR
- CHGCURDIR

統合ファイル・システム・コマンドの詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「統合ファイル・システム」トピック・コレクションを参照してください。

制約事項:

- このコマンドは1つのオブジェクトにだけ作用します。ディレクトリー (DIR)パラメーターでパターンが指定されていて、複数のオブジェクトがそのパターンと一致した場合には、対話式ジョブのリストからオブジェクトを選択することができます。これがバッチ・ジョブの場合には、このコマンドは失敗して、エラー・メッセージCPFA08E, "複数の名前がパターンと一致した。"が出されます。
- 現行ディレクトリーと現行ライブラリーは、独立した別のエンティティーです。現行ライブラリーと現行ディレクトリーは同じライブラリーに設定できますが、現行ライブラリーまたは現行ディレクトリーのいずれかに対する変更は他方には影響しません。

このコマンドで設定された現行ディレクトリーは、統合ファイル・システムのコマンドおよびAPIに影響します。現行ライブラリー変更 (CHGCURLIB)コマンドで設定された現行ライブラリーは、ライブラリー修飾子として値*CURLIBを使用する表示装置ファイル作成(CRTDSPF)コマンドなどのコマンドに影響を与えます。

- ディレクトリーに対する読み取り(*R)権限が必要です。
- パス内の各ディレクトリーに対する実行(*X)権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
DIR	ディレクトリー	パス名	必須, 定位置 1

上

ディレクトリー (DIR)

ジョブの現行作業ディレクトリーを置き換えるディレクトリーのパス名を指定します。

これは必須パラメーターです。

パス名を指定するときの詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリーに含まれる制御言語(CL) トピック・コレクションの「オブジェクトの命名規則」を参照してください。

注: このパラメーターではUnicodeが使用可能です。詳しくは、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリーに含まれる制御言語(CL) トピック・コレクションで「CLでのUnicodeサポート」を参照してください。

上

例

CDの代替コマンド名はCHGCURDIRです。次の例では代替コマンド名を使用していますが、CDはそれらのすべてで直接CHGCURDIRに置き換えることができます。

例1:現行ディレクトリーの変更

```
CHGCURDIR DIR(/DIRECTORY2)
```

このコマンドは、現行ディレクトリーDIRECTORY2という名前のディレクトリーに変更します。

例2:現行ディレクトリーの親への現行ディレクトリーの変更

```
CHGCURDIR DIR('..')
```

このコマンドは、現行ディレクトリーを、このコマンドを実行する前に現行ディレクトリーが入っていたディレクトリーの親ディレクトリーに変更します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPFA085

ユーザー&1のホーム・ディレクトリーが見つからなかった。

CPFA08E

複数の名前がパターンと一致した。

CPFA093

パターンに一致する名前が見つからなかった。

CPFA09C

オブジェクトが認可されていない。オブジェクトは&1です。

CPFA09D

プログラム&1でエラーが起こった。

CPFA0A1

入力または出力エラーが起こった。

CPFA0A3

パス名分析解決によりループしている。

CPFA0A7

パス名が長すぎる。

CPFA0A9

オブジェクトが見つからない。オブジェクトは&1です。

CPFA0AB

オブジェクトの操作が失敗しました。オブジェクトは&1です。

上

装置媒体ライブラリーの構成 (CFGDEVMLB)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

装置媒体ライブラリー構成(CFGDEVMLB)コマンドは、媒体ライブラリー装置記述を、通信インターフェースが必要な媒体ライブラリー装置の通信インターフェースと結合します。CFGDEVMLBコマンドは、コマンドへの入力にもとづいて必要な通信情報を構成し、指定された装置記述の中の必要な情報を更新し、さらに媒体ライブラリー装置記述をオンに構成変更することを試みます。媒体ライブラリー装置の構成についての詳細は、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「ストレージ・ソリューション」カテゴリーを参照してください。

LAN接続の媒体ライブラリー装置の場合は、ライブラリー管理機能コンソールについての情報も更新しなければなりません。ライブラリー管理機能に必要な情報を判別するには、LAN媒体ライブラリー表示(DSPLANMLB)コマンドを使用してください。

このコマンドは、通信インターフェースを使用する各媒体ライブラリー装置記述ごとに一度ずつ出さなければなりません。

ユーザー*PUBLICは、*USE権限を、このコマンドが作成するすべてのオブジェクト（制御装置、装置、および以下同様）に付与します。CFGDEVMLBコマンドが作成するオブジェクトには、ADPTTYPE(*RS232)のコマンドに指定された資源名と同じで、ADPTTYPE(*LAN)のリモート・ロケーション名と同じ名前が付けられます。オブジェクトの所有者は、コマンドを実行中のユーザーのユーザー・プロファイルになります。

制約事項

- このコマンドを実行するには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。
- CLコマンドのCRTDEVAPPC, CRTCTLAPPC, CRTDEVASC, CRTCTLASC, CRTLINASC, CHGDEVMLB, およびVRYCFGに対する使用(*USE)権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
DEV	ライブラリー装置	名前	必須, 定位置 1
ADPTTYPE	アダプター・タイプ	*RS232, *LAN	オプション, 定位置 2
RSRCNAME	通信資源名	名前	オプション
PROTOCOL	プロトコル	*APPC, *TCP	オプション
LIND	回線記述	値 (最大 2 回の繰り返し): 名前	オプション
RMTLOCNAME	リモート・ロケーション	値 (最大 2 回の繰り返し): 文字値	オプション
ADPTADR	LAN リモート・アダプター・アドレス	値 (最大 2 回の繰り返し): 000000000001-FFFFFFFFFFFF	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
ROBOTHOST	ロボット・ホスト	値 (最大 2 回の繰り返し): 文字値	オプション
LCLINTNETA	ローカルIPアドレス	文字値	オプション

上

ライブラリー装置 (DEV)

媒体ライブラリー装置を指定します。装置記述は、自動構成されても、装置媒体ライブラリー作成 (CRTDEVMLB) コマンドによって作成しても存在していなければなりません。

これは必須パラメーターです。

名前 媒体ライブラリー装置の名前を指定してください。

上

アダプター・タイプ (ADPTTYPE)

媒体ライブラリー装置をシステムに接続する方法を指定します。

*RS232

媒体ライブラリー装置はRS-232ポートと接続することを指示します。

***LAN** 媒体ライブラリー装置がトークンリング・ネットワークまたはイーサネット・ローカル・エリア・ネットワークに接続されることを示します。

上

通信資源名 (RSRCNAME)

RS-232ポートの資源名を指定します。どんな資源がシステム上に存在しているかを判別するためには、TYPE(*CMN)を指定したハードウェア資源処理(WRKHDWRSC)コマンドを使用してください。

注: ADPTTYPE(*RS232)が指定されている時は、このパラメーターは必須パラメーターです。

名前 資源名を指定してください。

上

プロトコル (PROTOCOL)

ロボットと通信するために使用する通信プロトコルを指定します。

注: ADPTTYPE(*LAN)が指定されている時は、このパラメーターは必須です。

*APPC

ロボットと通信するためにAPPCプロトコルが使用されることを示します。

***TCP** ロボットと通信するためにTCP/IPプロトコルが使用されることを示します。

回線記述 (LIND)

媒体ライブラリー装置が接続される回線記述を指定します。回線記述はシステム上にすでに存在していなければなりません。システム上に構成される回線記述のリストを表示するためには、CFGTYPE(*LIN)を指定した構成状況処理(WRKCFGSTS)コマンドを使用してください。

注: ADPTTYPE(*LAN)およびPROTOCOL(*APPC)が指定されている時には、このパラメーターは必須です。最大2つの回線記述を指定することができます。

名前 回線記述の名前を指定してください。

リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)

媒体ライブラリー装置が通信するライブラリー管理機能のリモート・ロケーション名を指定します。

このパラメーター情報はライブラリー管理機能コンソールから獲得する必要があります。ライブラリー管理機能でリモート・ロケーション名を判別するためには、メイン・メニューの処置バーからコマンドを選択してください。コマンド・プルダウンから、LM LANオプションを選択してから、LM LAN情報を選択してください。LM LAN情報パネルには、この媒体ライブラリー装置の正しいロケーション名およびネットワークIDが表示されます。

注: ADPTTYPE(*LAN)およびPROTOCOL(*APPC)が指定されている時には、このパラメーターは必須です。最大2つのリモート・ロケーション名を指定することができます。

文字値 リモート・ロケーション名は、NNNNNNNN.CCCCCCCCの形式を使用して指定してください。NNNNNNNNはリモート・ネットワークIDで、CCCCCCCCはリモート・ロケーション名です。ネットワークIDを指定しない場合には、ネットワーク属性は省略時のネットワークIDを判別するために使用されます。

LAN リモート・アダプター・アドレス (ADPTADR)

ライブラリー管理機能からのリモート制御装置のLANアダプター・アドレスを指定します。

このパラメーター情報はライブラリー管理機能コンソールから獲得する必要があります。ライブラリー管理機能上のアダプター・アドレスを判別するためには、メイン・メニューの処置バーからコマンドを選択してください。コマンド・プルダウンから、LM LANオプションを選択してから、LM LAN情報を選択してください。LM LAN情報パネルには、この媒体ライブラリー装置の正しいアダプター・アドレスが表示されます。

注: ADPTTYPE(*LAN)およびPROTOCOL(*APPC)が指定されている時には、このパラメーターは必須です。最大2つのアダプター・アドレスを指定することができます。

X'000000000001'から**X'FFFFFFFFFFFF'**

LANアダプター・アドレスを指定してください。

ロボット・ホスト (ROBOTHOST)

ロボット・ライブラリー・マネージャーのTCP/IPホスト名またはIPアドレスを指定します。

注: ADPTTYPE(*LAN)およびPROTOCOL(*TCP)が指定されている時には、このパラメーターは必須です。最大2つのロボット・ホスト名またはロボットIPアドレスを指定できます。

ホスト名

ロボット・ライブラリー・マネージャーの名前を指定してください。ロボット・ホスト名またはドメインで修飾したロボット・ホスト名を入力することによって、ホスト名を入力することができます。ドメインで修飾したロボット・ホスト名の場合、255バイトを入力できます。

IPアドレス

TCP/IPインターフェースのIPアドレスを指定してください。

ロボット・ホストIPアドレスはDDD.DDD.DDD.DDDの形式でなければなりません。DDDは、0から255の範囲の10進数で、先行ゼロを含んでいてはなりません。

ローカルIPアドレス (LCLINTNETA)

ロボット・ライブラリー・マネージャーに接続されているインターフェースのローカルIPアドレスを指定します。これは、媒体テープ・ライブラリーを使用するためにTCP/IPを開始する必要がある時に、オペレーティング・システムが開始するインターフェースです。

注: ADPTTYPE(*LAN)およびPROTOCOL(*TCP)が指定されている時にだけこのパラメーターを指定できます。

IPアドレス

開始されるローカルIPアドレスを指定してください。

このIPアドレスはDDD.DDD.DDD.DDDの形式でなければなりません。DDDは、0から255の範囲の10進数で、先行ゼロを含んでいてはなりません。

例

例1: RS232接続媒体ライブラリー装置の構成

```
CFGDEVMLB  MLB(TAPLIB01)  ADPTTYPE(*RS232)  RSRcname(CMN01)
```

このコマンドは、必要なRS-232通信回線、制御装置、および装置を作成し、媒体ライブラリー装置記述の必要なパラメーターを変更します。これは、また、媒体ライブラリー装置をオンに構成変更しようとしません。コマンドは、次の順序で行います。

- 回線記述の作成(ASYNC) - CMN01の資源名を指定したCRTLINASC CMN01。
- 制御装置記述の作成(ASYNC) - CRTCTLASC CMN01。
- 装置記述の作成(ASYNC) - CRTDEVASC CMN01。

- 装置記述の作成-パラメーター・ロボット装置をROBOTDEV(CMN01)に変更し、パラメーターをIPL時にオンラインでONLINE(*YES)に変更するためのCHGDEVMLB TAPLIB01。
- 構成変更-媒体ライブラリー装置をオンに構成変更するためのVRYCFG TAPLIB01。

これらのコマンドのいずれかが正常に行われないと、CFGDEVMLBコマンドは正常に行われません。複数の媒体ライブラリー装置が同じ通信回線を持つ場合があることに注意してください。この場合には、回線記述、制御装置、および装置は再作成されませんが、それでもCHGDEVMLBおよびVRYCFGコマンドは使用されます。

例2: LAN接続媒体ライブラリー装置の構成

```
CFGDEVMLB  DEV(TAPLIB02) ADPTTYPE(*LAN) LIND(TRNLIN)
            RMTLOCNAME(APPN.MLD01) ADPTADR(0123456789AB)
```

このコマンドは、必要なLAN通信制御装置および装置を作成し、媒体ライブラリー装置記述の必要なパラメーターを変更します。これは、また、媒体ライブラリー装置をオンに構成変更しようとしています。回線記述はCFGD EVMLBコマンドを使用する前に存在している必要があることに注意してください。コマンドは、次の順序で行います。

- 制御装置記述の作成(APPC) - ONLINE(*YES)を指定したCRTCTLAPPC MLD01。
- 装置記述の作成(APPC) - CRTDEVAPPC MLD01。
- 構成変更-作成されたMLD01 APPC制御装置をオンに構成変更するためのVRYCFG MLD01。
- 装置記述の変更-パラメーター・ロボット装置をROBOTDEV(MLD01)に変更し、パラメーターをIPL時にオンラインでONLINE(*YES)に変更するためのCHGDEVMLB TAPLIB02。
- 構成変更-媒体ライブラリー装置をオンに構成変更するためのVRYCFG TAPLIB02。

これらのコマンドのいずれかが正常に行われないと、CFGDEVMLBコマンドは正常に行われません。複数の媒体ライブラリー装置が同じ通信回線を持つ場合があることに注意してください。この場合には、制御装置記述および装置は再作成されませんが、それでもCHGDEVMLBおよびVRYCFGコマンドは使用されません。

例3: 2つのリモート・ロケーションを指定したLAN接続媒体ライブラリー装置の構成

```
CFGDEVMLB  DEV(TAPLIB02) ADPTTYPE(*LAN) PROTOCOL(*APPC)
            LIND(TRNLIN)
            RMTLOCNAME(APPN.MLD01A APPN.MLD01B)
            ADPTADR(0123456789AB 0123456789CD)
```

このコマンドは、必要なLAN通信制御装置および装置を作成し、媒体ライブラリー装置記述の必要なパラメーターを変更します。これは、また、媒体ライブラリー装置をオンに構成変更しようとしています。回線記述はCFGD EVMLBコマンドを使用する前に存在している必要があることに注意してください。コマンドは、次の順序で行います。

- 制御装置記述の作成(APPC) - ONLINE(*YES)を指定したCRTCTLAPPC MLD01A。
- 装置記述の作成(APPC) - CRTDEVAPPC MLD01A。
- 構成変更-作成されたMLD01A APPC制御装置をオンに構成変更するためのVRYCFG MLD01A。
- 制御装置記述の作成(APPC) - ONLINE(*YES)を指定したCRTCTLAPPC MLD01B。
- 装置記述の作成(APPC) - CRTDEVAPPC MLD01B。
- 構成変更-作成されたMLD01B APPC制御装置をオンに構成変更するためのVRYCFG MLD01B。
- 装置記述の変更-パラメーター・ロボット装置をROBOTDEV(MLD01A MLD01B)に変更し、パラメーターをIPL時にオンラインでONLINE(*YES)に変更するためのCHGDEVMLB TAPLIB02。
- 構成変更-媒体ライブラリー装置をオンに構成変更するためのVRYCFG TAPLIB02。

これらのコマンドのいずれかが正常に行われないと、CFGDEVMLBコマンドは正常に行われません。複数の媒体ライブラリー装置が同じ通信回線を持つ場合があることに注意してください。この場合には、制御装置記述および装置は再作成されませんが、それでもCHGDEVMLBおよびVRYCFGコマンドは使用されません。

例4: TCP/IPを使用した通信のためのLAN接続媒体ライブラリー装置の構成

```
CFGDEVMLB  DEV(TAPLIB02)  ADPTTYPE(*LAN)  PROTOCOL(*TCP)
            ROBOTHOST(MLD01A)  LCLINTNETA(10.1.2.3)
```

このコマンドは、装置記述のロボット情報を指定されたTCP/IP情報に変更します。これは、また、媒体ライブラリー装置をオンに構成変更しようとしています。TCP/IPはCFGDEVMLBコマンドを使用する前に構成されている必要があることに注意してください。コマンドは、次の順序で行います。

- 装置記述の変更-パラメーター・ロボット・ホストをROBOTHOST(MLD01A)に変更し、IPアドレスをLCLINTNETA(10.1.2.3)に変更するためのCHGDEVMLB TAPLIB02。
- 構成変更-媒体ライブラリー装置をオンに構成変更するためのVRYCFG TAPLIB02。

これらのコマンドのいずれかが正常に行われないと、CFGDEVMLBコマンドは正常に行われません。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF222E

&1特殊権限が必要である。

CPF6708

エラーのためにコマンドが終了した。

CPF672B

資源&1は正しくありません。

CPF672C

装置&1は使用できない。

CPF672D

ネットワークID &1が正しい形式になっていない。

CPF672E

回線記述&2は間違ったタイプです。

CPF672F

資源&1が見つからない。

CPF6745

装置&1は媒体ライブラリー装置でない。

CPF67E5

ローカル・エリア・ネットワーク情報が正しくありません。

CPF9814

装置&1が見つかりません。

CPF9825

装置&1は認可されていない。

配布サービス構成 (CFGDSTSRV)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

配布サービス構成(CFGDSTSRV)コマンドは、配布ネットワークの構成を変更します。ユーザーは、配布待ち行列テーブル、経路指定テーブル、および2次システム名テーブルからの項目を追加、変更、除去、および表示することができます。配布ネットワーク構成の詳細については、AS/400 SNA配布サービス (SD88-5031)を参照してください。

制約事項:

1. このコマンドは、共通*EXCLUDE権限と一緒に出荷され、QPGMRおよびQSYSOPRユーザー・プロファイルはこのコマンドを使用する私用認可を持ちます。
2. このコマンドを初めて実行する前に、QSNADSサブシステムを開始して、このコマンドを使用する内部システム・ネットワーク体系配布サービス(SNADS)オブジェクトを作成する必要があります。
3. システム名または配布待ち行列についてのエラーを報告するメッセージは、内部システム変換によって、ユーザーが入力したものと異なる文字を表示または印刷することがあります。システム名または配布待ち行列の内部名は、ワークステーションで使用されている言語によって、CFGDSTSRVコマンドで表示される文字と異なる場合があります。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
OPTION	メニュー・オプション	*SELECT, 1, 2, 3	オプションナル, 定位置 1

上

メニュー・オプション (OPTION)

初期メニューをバイパスして直接2次画面に進むオプションを、配布サービス構成メニューで指定します。配布サービス構成メニューを表示することによって、配布待ち行列、経路指定テーブル、または2次システム名テーブルが指定されるよう指定することができます。

考えられる値は、次の通りです。

*SELECT

メニューはバイパスされません。配布サービス構成メニューからオプションが選択されます。

- 1 配布待ち行列機能が選択されます。この機能は、ご使用のシステムに隣接するシステムのすべての配布待ち行列を識別します。
- 2 経路指定テーブル機能が選択されました。この機能は、配布待ち行列を経路指定できるSNADSネットワーク内の宛先システムに対して、明示の項目または省略時の項目を記述します。

- 3 2次システム名テーブルの機能が選択されます。この機能は、システムを識別するために使用されるすべての名前をリストします。

上

例

CFGDSTSRV OPTION(1)

このコマンドは、配布待ち行列のテーブル項目を表示します。

既存の配布待ち行列に構成変更を行うか、あるいは追加の配布待ち行列を構成することができます。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF8802

配布待ち行列&1が見つからなかった。

CPF8805

システム名/グループの特殊値が許されていないか、あるいは正しく使用されていない。

CPF8806

システム名またはシステム・グループに値&1が正しくない。

CPF8807

QSNADSジャーナルの使用中にエラーが起こった。

CPF8809

SNADS内部待ち行列でエラーが検出された。

CPF8814

待ち行列&1が見つからない。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

CPF9850

印刷装置ファイル&1の一時変更は許されない。

CPI8854

ジャーナル処理中にDSNXエラー。

上

IP OVER SNAの構成 (CFGIPS)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

IP OVER SNAインターフェースの構成(CFGIPS)コマンドは、AF_INET SOCKETS OVER SNA構成を定義または変更できるメニューを表示します。

このコマンドには、パラメーターはありません。

上

パラメーター

なし

上

例

CFGIPS

このコマンドは、**IP OVER SNA**構成メニューを表示します。

上

エラー・メッセージ

なし

上

パフォーマンス収集の構成 (CFGPFRCOL)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

パフォーマンス収集構成(CFGPFRCOL)コマンドは、特定の収集属性を変更して、収集サービスがどのようにデータ収集を管理するかを決定します。このコマンドで変更された一部の属性は即時に有効となりますが、他の属性は次回に収集オブジェクトが作成されたときに有効となります。各属性がどのように処理されるかを調べるには、パラメーターのヘルプを参照してください。収集サービス・サーバー・ジョブ (QYSPFRCOL)は、パフォーマンス収集開始(STRPFRCOL)コマンドを使用して開始または反復することができます。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
INTERVAL	省略時の間隔	*SAME, 0.25, 0.5, 1.0, 5.0, 15.0, 30.0, 60.0	オプション, 定位置 1
LIB	収集ライブラリー	名前, *SAME	オプション
DFTCOLPRF	省略時収集プロファイル	*SAME, *MINIMUM, *STANDARD, *STANDARDP, *ENHCPCPLN, *CUSTOM	オプション
CYCTIME	サイクル・タイム	時刻, *SAME	オプション
CYCITV	サイクル間隔	1-24, *SAME	オプション
RETPERIOD	収集保存期間	単一値: *SAME, *PERM その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 単位数	1-720	
	要素 2: 時間単位	*HOURS, *DAYS	
CRTDBF	データベース・ファイルの作成	*SAME, *YES, *NO	オプション
CRTPFRESUM	パフォーマンス・サマリーの作成	*SAME, *YES, *NO	オプション
CHGPMLIB	PMエージェント・ライブラリーの 変更	*SAME, *YES, *NO	オプション
STDDTARET	標準データ保存 (日数)	整数, *SAME, *PERM	オプション

上

省略時の間隔 (INTERVAL)

省略時の収集間隔 (分) を指定します。この値は、ほとんどのデータ・カテゴリで収集サンプル間隔として使用されます。カテゴリに最小または最大の間隔サイズが関連付けられているとともに、省略時の収集間隔も使用される場合には、他の設定と矛盾しない限り、省略時の収集間隔が使用されます。矛盾があると、最小または最大が使用されます。例えば、*DISK, *IOPBASE, および *IPCS では、最大間隔サイズは5分です。省略時の収集間隔が5分より大きい値に設定されていても、カテゴリでは依然として5分という収集間隔となります。この変更は即時に有効となります。

*SAME

値は変更されません。値が変更されていない場合には、この間隔は15分になります。

- 0.25 省略時の収集間隔は15秒になります。
- 0.5 省略時の収集間隔は30秒になります。
- 1.0 省略時の収集間隔は1分になります。
- 5.0 省略時の収集間隔は5分になります。
- 15.0 省略時の収集間隔は15分になります。
- 30.0 省略時の収集間隔は30分になります。
- 60.0 省略時の収集間隔は60分になります。

上

収集ライブラリー (LIB)

管理収集オブジェクト(*MGTCOL)が入られるライブラリーを指定します。この変更は、次回に収集オブジェクトが作成されたときに有効となります。収集ライブラリーを変更する場合は、PMエージェントと収集サービスは同じ収集ライブラリーを使用するという事に注目する必要があります。PMエージェントは、前のライブラリーに収集されたデータを処理できなくなります。さらに指定した標準収集ファイル保存期間に基づいて、収集は新しい収集ライブラリーから自動的に除去されます。

*SAME

値は変更されません。値が変更されていない場合には、ライブラリーはQPFRDATAになります。

名前 管理収集オブジェクトが作成されるライブラリーの名前を指定してください。

上

省略時収集プロファイル (DFTCOLPRF)

省略時の収集プロファイルを指定します。これは、システム・レベルの収集に含まれるカテゴリーを決定します。この変更は、次回に収集オブジェクトが作成されたときに有効となります。

*SAME

値は変更されません。値が変更されていない場合には、省略時の収集プロファイルは*STANDARDPになります。

*MINIMUM

推奨される最小のデータ収集。次のカテゴリーが含まれます。*SYSBUS, *POOL, *HDWCFG, *SYSCPU, *SYSLVL, *JOBMI, *JOBOS, *DISK,および*IOPBASE。

*STANDARD

標準プロファイルには、通信データを除く、通常System i5のパフォーマンス・ツールで必要となるすべてのカテゴリーが含まれます。これには、*MINIMUMプロファイルのすべてのカテゴリーだけでなく、次のカテゴリーも含まれます。*POOLTUNE, *SUBSYSTEM, *SNADS, *LCLRSP, *APPN, *SNA, *TCPBASE, *USRTNS,および*LPAR。システムにDOMINO FOR System i5プロダクトが導入されている場合には、カテゴリー*DOMINOが含まれます。システムにIBM HTTP Server for System i5プロダクト(APACHEで稼働)が導入されている場合には、カテゴリー*HTTPが含まれます。

***STANDARDP**

標準プラス・プロファイルには、通信データを含む、通常Performance Tools for System i5で必要となるすべてのカテゴリが含まれます。これには、*STANDARDプロファイルのすべてのカテゴリだけでなく次のカテゴリが含まれます。*IPCS, *CMNBASE, *CMNSTN, *CMNSAP, *TCPIFC, および*DPS。

***ENHCPCPLN**

拡張能力計画担当者プロファイルには、*INTPEXを加えた*STANDARDPプロファイルのすべてのカテゴリが含まれます。

***CUSTOM**

カスタム・プロファイルには、ユーザーが定義したカテゴリが含まれます。このプロファイルは、IBM System iナビゲーターの収集サービス機能を使用して定義しなければなりません。

上

サイクル・タイム (CYCTIME)

収集サービス・サーバー・ジョブ(QYSPFRCOL)が現行の収集を終了して、新しい管理収集オブジェクト(*MGTCOL)でデータ収集を開始する基本時間を指定します。この変更は即時に有効となります。

***SAME**

値は変更されません。値が変更されていない場合には、反復時間は真夜中になります。

時刻 データ収集機能を反復する時刻を指定してください。このCLコマンドでは秒を含む時刻値を入力できますが、収集サービスは反復する時間と分のみをサポートします。秒として入力した値は無視されます。

上

サイクル間隔 (CYCITV)

収集サービス・サーバー・ジョブ(QYSPFRCOL)が現行の収集を終了した後で、新しい管理収集オブジェクト(*MGTCOL)でデータ収集を開始するまでの時間を指定します。このパラメーターは、単一の収集オブジェクトに保管される（時間に基づいた）最大データ量を制御します。この値は、即時に有効となります。

***SAME**

値は変更されません。値が変更されていない場合には、反復間隔は24時間になります。

1から24

収集を反復する時間を指定してください。

上

収集保存期間 (RETPERIOD)

管理収集オブジェクト(*MGTCOL)をどれだけ長い間システムに入れておくかを指定します。この保存期間を使って、収集オブジェクトに保管される際の満了日時が計算されます。この保存期間が満了すると、オブジェクトは収集サービス・サーバー・ジョブ(QYSPFRCOL)によって自動的に削除されます。期限切れの収集は、収集が開始または反復されるたびにシステムから除去されます。収集オブジェクトが自動的に削除さ

れるのは、システムの構成済み収集ライブラリーに存在している場合のみです。この変更は即時に有効となり、現在および将来の収集オブジェクトに適用されます。

単一値

*SAME

値は変更されません。値が変更されていない場合には、保存期間は24時間になります。

***PERM**

オブジェクトは自動的に削除されません。

要素1: 単位数

保存時間

管理収集オブジェクトをどれだけ長い間保存するかを時間数または日数で指定してください。収集オブジェクトは最大30日まで保存することができます。

要素2: 時間単位

単位数要素に指定された保存時間の値を時間数または日数として扱うかどうかを指定してください。

***HOURS**

保存期間は時間数で指定されます。有効な時間範囲は1から720です。

***DAYS**

保存期間は日数で指定されます。有効な時間範囲は1から30です。

上

データベース・ファイルの作成 (CRTDBF)

パフォーマンス・データ作成(CRTPFRDTA)ジョブを投入するかどうかを指定します。このジョブは、パフォーマンス・データベース・ファイルを作成し、収集された現行の管理収集オブジェクト内のデータを処理します。CRTPFRDTAジョブは、収集サービス・サーバー・ジョブ(QYSPFRCOL) が終了または反復されると終了します。このオプションが*YESに設定されている場合には、作成されたすべての管理収集オブジェクト(*MGTCOL)に対してCRTPFRDTAジョブが投入されます。この変更は、次回に収集オブジェクトが作成されたときに有効となります。

*SAME

値は変更されません。値が変更されていない場合には、このオプションは*YESになります。

***YES** CRTPFRDTAジョブが投入されます。

***NO** CRTPFRDTAジョブは投入されません。

上

パフォーマンス・サマリーの作成 (CRTPFRSUM)

CRTPFRSUMコマンドでサポートされる通りに、追加のパフォーマンス・データベース要約データを作成するかどうかを指定します。このデータは、Performance Viewerなどのツールによるパフォーマンス・データベース・データの処理を迅速化します。このオプションが有効になっている場合、CRTDBF(*YES)が指定されていると、CRTPFRSUM機能は、CRTPFRDTAジョブによって作成されたデータベース収集に対して実行されます。

***SAME**

値は変更されません。値が変更されていない場合には、このオプションは*NOになります。

***YES** 要約ファイル・データが生成されます。

***NO** 要約ファイル・データが生成されません。

上

PMエージェント・ライブラリーの変更 (CHGPMLIB)

PM Agentライブラリーを、収集サービスが使用するライブラリーと一致するように変更するかどうかを指定します。

このパラメーターはもはやサポートされていません。これが存在するのは、オペレーティング・システムのバージョン5リリース5 モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を保つためだけです。

上

標準データ保存（日数）(STDDTARET)

標準ファイル・データの保存日数を指定します。標準ファイル・データは通常、パフォーマンス・データベース・ファイル(QAPM*)にエクスポートされた収集プロファイルについて継続的に作成されるデータのことです。標準ファイル・データの保存日数は、パフォーマンス・データベース・ファイル収集がシステムに保存されている期間を決定するために使用されます。構成済み収集ライブラリーの標準データが現行の保存日数より古くなると、そのデータは次回に収集プログラムが開始されるか、反復される時点で、収集サービス・サーバー・ジョブ (QYSPFRCOL)によって自動的に削除されます。保存期間は日数で指定されます。

***SAME**

値は変更されません。

***PERM**

パフォーマンス・データベース・ファイルのデータは自動的に削除されることはありません。

保存時間

データベース・ファイル・データを削除できるようになるまで保存する日数。

上

例

例1: 省略時の間隔および収集ライブラリーの構成

```
CFGPFRCOL INTERVAL(5) LIB(QMPGDATA)
```

このコマンドは、ほとんどのサンプル・データが収集される省略時の間隔を、即時に5分に変更します。さらに、データが収集されるライブラリーを、次回の管理収集オブジェクト(*MGTCOL)の作成時にQMPGDATAに変更します。

例2: 反復時刻および反復間隔の構成

```
CFGPFRCOL CYCTIME(030000) CYCITV(6)
```

このコマンドは、収集の反復時刻および反復間隔を変更します。基本反復時刻は3:00 A.M.となり、収集は基本時刻から6時間ごとに反復します。新しい管理収集オブジェクト(*MGTCOL)は次の時刻に作成されます。3:00, 9:00, 15:00, 21:00, 3:00, 9:00など。

例3: 保存期間の構成

```
CFGPFRCOL RETPERIOD(25 *DAYS)
```

このコマンドは、現在および将来の収集オブジェクトを、収集サービス・サーバー・ジョブ(QYPSFRCOL)によって自動的に削除される前に25日間システム上に保存させます。

例4: 省略時の収集プロファイルおよびデータベース・ファイルの作成の構成

```
CFGPFRCOL DFTCOLPRF(*STANDARD) CRTDBF(*YES)
```

このコマンドは、次回に管理収集オブジェクト(*MGTCOL)が作成されるときに有効となるように変更します。その時点で、収集プロファイルは*STANDARDに変更されて、パフォーマンス・データ作成(CRTPFRDTA)ジョブが投入されます。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF3CF2

&1 APIの実行中にエラーが起こった。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

上

PMエージェント構成 (CFGPM400)

実行可能場所:

- 対話式ジョブ (*INTERACT)
- QCMDEXEC, QCAEXEC, または QCAPCMD API (*EXEC) の使用

パラメーター

例
エラー・メッセージ

スレッド・セーフ: いいえ

PMエージェント構成 (CFGPMAGT)コマンドによって、PMエージェント・パフォーマンス・データの送受信を行うためのSystem iシステムのセットアップ方法に関する一連の質問が表示されます。システムをどのように使用するかに基づいて質問に答えます。

ユニバーサル・コネクションによってPMエージェント・パフォーマンス・データを送信する場合は、「IBM へのパフォーマンス・データを送信するために接続オプションを選択する」で、オプション1(「サービス・エージェントでデータを送信する」)を選択します。

ユニバーサル・コネクションによってPMエージェント・パフォーマンス・データの送信方法に関する説明については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter>)で入手可能な「ユニバーサル・コネクションを使用してPMエージェント・データをサービス・エージェントで送信する」の情報を参照してください。

以下のいずれかの方法でシステムを構成することができます。

- 他のSystem iシステム (リモート・システム) からパフォーマンス・データを受信し、そのデータをIBMに転送するセントラル・システムとして構成する場合は次のようにします。セントラル・システムは、他のシステムのリリース・レベルよりも前のものであってはなりません。つまり、セントラル・システムはリモート・システムのリリース・レベル以降である必要があります。SNAプロトコルを使用してパフォーマンス・データを送信します。
- パフォーマンス・データをセントラル・システムに送信するリモート・システムとして構成する場合は次のようにします。リモート・システムを必要とするPMエージェント構成パネルで指定して、PMエージェント・メニューからオプション5(リモートSystem iシステムの処理)を選択してリモート・システムを定義します。SNAプロトコルを使用してパフォーマンス・データを送信します。
- データを直接IBMに送信する単一システムとして構成する場合は次のようにします。

以下の値は、「パフォーマンス・データを IBM へ送信するための接続オプションを選択する」フィールドで有効です。

0 =パフォーマンス・データを送信しない

この値は、このシステムがPMエージェント・パフォーマンス・データをIBMに送信しない場合に使用します。後でパフォーマンス・データをIBMに送信する場合は、CFGPMAGTコマンドを再度実行することができます。

1 =サービス・エージェントを使用してデータを送信する

この値は、サービス・エージェントを使用してPMエージェント・パフォーマンス・データを送信する場合に使用します。

2 = SNAプロトコルを使用してデータを送信する

この値は、このシステムが必要なPMエージェント・パフォーマンス・データをSNAによってIBMに

送信する場合に使用します。システムはエレクトロニック支援モデムまたは同等のモデムを使用してデータを送信します。システムにモデムが付いている場合は、このオプションを使用する必要があります。この値は、セントラル・システムまたは、データを直接IBMに送信する単一のシステムを構成する場合に使用します。

3 =リモートSystem iでSNAを使用する

このオプションは、システムにエレクトロニック支援モデムまたは同等のモデムがない場合に使用します。ネットワーク内に、モデムをもつ別のSystem iシステムが必要です。モデム付きのシステム（またはセントラル・システム）は、モデムのないシステムに代わって、データをIBMに送信します。モデム付きのシステムを構成して、モデムのないシステムからのデータを収集する必要があります。この値は、リモート・システムを構成する場合に使用します。

以下の値は、「パフォーマンス・データの受信」フィールドで有効です。

0 =いいえ

このシステムがPMエージェント・パフォーマンス・データを受信しないことを指定します。これは、SNAを使用してリモート・システムを構成するときに、自動的に設定される値です。この値は、これがパフォーマンス・データをIBMに送信する単一システムである場合に使用します。

1 =はい

このシステムが、IBMへの送信のために他のシステムからPMエージェント・パフォーマンス・データを受信することを指定します。この値は、SANプロトコルを使用してセントラル・システムの送信を構成する場合に使用します。

「パフォーマンス・データを IBM へ送信するための接続オプションを選択する」で2または3を指定すると、適切な通信オブジェクトが存在するかどうかを示す追加情報が表示されます。PMエージェントによって、SNA送信のための通信オブジェクトが作成されます。「見つかりました」の値は、PMエージェントが既存のオブジェクトを使用することを示します。オブジェクトが見つからない場合は、PMエージェントによって新規の通信オブジェクトが作成されます。F6（作成/再作成）を押すと、PMエージェントによって既存のオブジェクトが削除され、新規のオブジェクトが作成されます。

オブジェクトの確認後は、実行キーを押して続行してください。

上

パラメーター

なし

上

例

CFGPMAGT

このコマンドは、承認パネルを示します。実行キーを押すと、「PMエージェントの構成」パネルが表示されます。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPFB020

PMエージェント構成コマンドがエラーで終了しました。

上

PMエージェント構成 (CFGPMAGT)

実行可能場所:

- 対話式ジョブ (*INTERACT)
- QCMDEXEC, QCAEXEC, または QCAPCMD API (*EXEC) の使用

パラメーター

例
エラー・メッセージ

スレッド・セーフ: いいえ

PMエージェント構成 (CFGPMAGT)コマンドによって、PMエージェント・パフォーマンス・データの送受信を行うためのSystem iシステムのセットアップ方法に関する一連の質問が表示されます。システムをどのように使用するかに基づいて質問に答えます。

ユニバーサル・コネクションによってPMエージェント・パフォーマンス・データを送信する場合は、「IBM へのパフォーマンス・データを送信するために接続オプションを選択する」で、オプション1(「サービス・エージェントでデータを送信する」)を選択します。

ユニバーサル・コネクションによってPMエージェント・パフォーマンス・データの送信方法に関する説明については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter>)で入手可能な「ユニバーサル・コネクションを使用してPMエージェント・データをサービス・エージェントで送信する」の情報を参照してください。

以下のいずれかの方法でシステムを構成することができます。

- 他のSystem iシステム (リモート・システム) からパフォーマンス・データを受信し、そのデータをIBMに転送するセントラル・システムとして構成する場合は次のようにします。セントラル・システムは、他のシステムのリリース・レベルよりも前のものであってはなりません。つまり、セントラル・システムはリモート・システムのリリース・レベル以降である必要があります。SNAプロトコルを使用してパフォーマンス・データを送信します。
- パフォーマンス・データをセントラル・システムに送信するリモート・システムとして構成する場合は次のようにします。リモート・システムを必要とするPMエージェント構成パネルで指定して、PMエージェント・メニューからオプション5(リモートSystem iシステムの処理)を選択してリモート・システムを定義します。SNAプロトコルを使用してパフォーマンス・データを送信します。
- データを直接IBMに送信する単一システムとして構成する場合は次のようにします。

以下の値は、「パフォーマンス・データを IBM へ送信するための接続オプションを選択する」フィールドで有効です。

0 =パフォーマンス・データを送信しない

この値は、このシステムがPMエージェント・パフォーマンス・データをIBMに送信しない場合に使用します。後でパフォーマンス・データをIBMに送信する場合は、CFGPMAGTコマンドを再度実行することができます。

1 =サービス・エージェントを使用してデータを送信する

この値は、サービス・エージェントを使用してPMエージェント・パフォーマンス・データを送信する場合に使用します。

2 = SNAプロトコルを使用してデータを送信する

この値は、このシステムが必要なPMエージェント・パフォーマンス・データをSNAによってIBMに

送信する場合に使用します。システムはエレクトロニック支援モデムまたは同等のモデムを使用してデータを送信します。システムにモデムが付いている場合は、このオプションを使用する必要があります。この値は、セントラル・システムまたは、データを直接IBMに送信する単一のシステムを構成する場合に使用します。

3 =リモートSystem iでSNAを使用する

このオプションは、システムにエレクトロニック支援モデムまたは同等のモデムがない場合に使用します。ネットワーク内に、モデムをもつ別のSystem iシステムが必要です。モデム付きのシステム（またはセントラル・システム）は、モデムのないシステムに代わって、データをIBMに送信します。モデム付きのシステムを構成して、モデムのないシステムからのデータを収集する必要があります。この値は、リモート・システムを構成する場合に使用します。

以下の値は、「パフォーマンス・データの受信」フィールドで有効です。

0 =いいえ

このシステムがPMエージェント・パフォーマンス・データを受信しないことを指定します。これは、SNAを使用してリモート・システムを構成するときに、自動的に設定される値です。この値は、これがパフォーマンス・データをIBMに送信する単一システムである場合に使用します。

1 =はい

このシステムが、IBMへの送信のために他のシステムからPMエージェント・パフォーマンス・データを受信することを指定します。この値は、SANプロトコルを使用してセントラル・システムの送信を構成する場合に使用します。

「パフォーマンス・データを IBM へ送信するための接続オプションを選択する」で2または3を指定すると、適切な通信オブジェクトが存在するかどうかを示す追加情報が表示されます。PMエージェントによって、SNA送信のための通信オブジェクトが作成されます。「見つかりました」の値は、PMエージェントが既存のオブジェクトを使用することを示します。オブジェクトが見つからない場合は、PMエージェントによって新規の通信オブジェクトが作成されます。F6（作成/再作成）を押すと、PMエージェントによって既存のオブジェクトが削除され、新規のオブジェクトが作成されます。

オブジェクトの確認後は、実行キーを押して続行してください。

上

パラメーター

なし

上

例

CFGPMAGT

このコマンドは、承認パネルを示します。実行キーを押すと、「PMエージェントの構成」パネルが表示されます。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF020

PMエージェント構成コマンドがエラーで終了しました。

上

PMエージェント行の構成 (CFGPMLIN)

実行可能場所:

• 対話式ジョブ (*INTERACT)

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター

例

エラー・メッセージ

PMエージェント行の構成 (CFGPMLIN)コマンドによって、PMエージェントは「接続保留中」状態の回線をオフに構成変更し、PMエージェント・パフォーマンス・データを送信し、その回線を「接続保留中」状態に戻すことが許可されます。

このコマンドを使用するときに、PMエージェント送信タスクを変更(Q1PCM1)して回線状態を確認し、適切な回線をオフに構成変更(Q1PMOFF)します。送信が完了すると、同じ回線は「接続保留中」状態に入られます(Q1PMON)。

1. 最初の画面に表示される警告を読み、実行キーを押します。
2. この機能のマスター制御スイッチとして、プロンプトの「PM エージェント自動回線制御を活動状態にしますか?」を使用します。「はい」を指定すると、PMエージェント機能が活動状態になります。「いいえ」を指定すると、この機能は使用不可に設定されます。

「いいえ」を指定すると、「はい」を指定するときに回線制御リストを再度定義する必要はありません。

回線のみを指定することによって、その回線をオフまたはオンに構成変更することができます。回線、制御装置、および装置の3つの記述をすべて指定することによって、これらをオフおよびオンに構成指定することができます。

3. 定義した回線、制御装置、装置を確認します。実行キーを押して選択項目の要約を確認します。
4. 実行キーを押して選択項目を確認するか、あるいはF12を押して前の画面に戻り、入力を変更してください。F3を押すと、回線制御パネルが終了します。

上

パラメーター

なし

上

例

CFGPMLIN

このコマンドは、警告パネルを表示し、実行キーを押すと、PMエージェント回線制御パネルを表示します。

上

エラー・メッセージ

なし

上

システム機密保護の構成 (CFGSYSSEC)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

システム機密保護構成(CFGSYSSEC)コマンドは、機密保護監査をオンにし、システム値を変更し、システム提供ユーザー・プロファイルを変更することによって、システムの機密保護機能を活動化します。どの機能をオンにするかを判別するには、プログラムQSECCFGSに対してCLソース仕様検索(RTVCLSRC)コマンドを出して、RTVCLSRC コマンドによって作成されたソース・ファイルを調べてください。

制約事項:このコマンドを使用するには、*ALLOBJ, *SECADM,および*AUDITの特殊権限が必要です。

このコマンドは、次のステップによって機密保護管理者がカスタマイズすることができます。

1. プログラムQSECCFGSに対してCLソース仕様検索(RTVCLSRC)コマンドを出します。
2. RTVCLSRCコマンドから作成したソース・コードを編集し、新しいプログラムをコンパイルします。そのプログラムに新しい名前が指定されていて、QSYS以外のライブラリー中に作成され、*PUBLIC権限が*EXCLUDEに設定されていることを確認してください。
3. システム機密保護構成コマンドに対してコマンド変更(CHGCMD)を出して、PGMパラメーターにユーザーの新しいプログラムを指定します。この1つの例は次にリストされています。

CHGCMD CMD(QSYS/CFGSYSSEC) PGM(ライブラリー名/新規プログラム名)

注: プロダクトのアップグレードが行われたか、CFGSYSSECコマンドが再導入されたか、あるいはCFGSYSSECコマンドに対して保守が適用された場合には、コマンドのカスタマイズのためにCHGCMDを再び発行する必要があります。

特記事項: IBM社は、検索されたQSECCFGSソース・コードおよびいかなるプログラムについて、その信頼性、保守容易性、パフォーマンス、または機能を保証または暗示するものではありません。特殊な目的での商品性および可用性の暗黙の保証は明示的に放棄するものです。

上

パラメーター

なし

上

例

CFGSYSSEC

このコマンドは、システムの機密保護機能を構成できるようにします。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF304

ユーザーに必要な特殊権限がない。

上

TCP/IPの構成 (CFGTCP)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

TCP/IPの構成 (CFGTCP)コマンドを使用して、ユーザーが伝送制御プロトコル/インターネット・プロトコル(TCP/IP)構成を定義または変更できるメニューを表示します。

上

パラメーター

なし

上

例

CFGTCP

このコマンドは、「TCP/IPの構成」メニューを表示します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

TCP1D03

&1メンバーのレコード長が正しくない。

TCP1D04

&2/&3のメンバー&1の処理でエラーが起こった。

TCP9999

プログラム&1でシステムの内部エラーが起こった。

上

TCP/IPアプリケーションの構成 (CFGTCPAPP)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

TCP/IPアプリケーションの構成 (CFGTCPAPP) コマンドを使用して、適用業務構成を伝送制御プロトコル / インターネット・プロトコル(TCP/IP)用に定義または変更します。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
APP	アプリケーション	*SELECT, *SNMP, *ROUTED, *ROUTING, *TFTP, *BOOTP, *DDM, *DHCP, *TELNET, *FTP, *SMTP, *LPD, *HTTP, *POP, *REXEC, *DNS, *NTP	オプション, 定位置 1

上

アプリケーション (APP)

構成するアプリケーションを指定します。

***SELECT**

TCP/IPアプリケーションの構成選択メニューを表示します。このメニューで、構成したいTCP/IPアプリケーションを選択することができます。TCP/IPライセンス・プログラム・プロダクトが導入されている場合には、すべてのアプリケーション構成オプションが表示されます。そうでない場合には、SNMP構成オプションだけが表示されます。

***SNMP**

SIMPLE NETWORK MANAGEMENT PROTOCOL (SNMP)のエージェント・アプリケーションを構成します。これはTCP/IP SNMPの構成(CFGTCPASNMP)コマンドを直接呼び出します。

***BOOTP**

ブートストラップ・プロトコル(BOOTP)を構成します。これは、TCP/IP BOOTP 構成(CFGTCPBP)コマンドを直接呼び出します。

***DDM** 分散データ管理機能(DDM)を変更します。これにより、DDM TCP/IP属性の変更 (CHGDDMTCPA)コマンドが直接呼び出されます。

***DHCP**

動的ホスト構成プロトコル(DHCP)を変更します。これは、DHCP属性変更(CHGDHCPA)コマンドを直接呼び出します。

***DNS** ドメイン・ネーム・システム(DNS)を変更します。これは、DNS属性変更(CHGDNSA)コマンドを直接呼び出します。

***FTP** ファイル転送プロトコル(FTP)の属性を変更します。これは、FTP属性変更(CHGFTP)コマンドを直接呼び出します。この値は、TCP/IPライセンス・プログラム・プロダクトが導入されている場合にだけ有効です。

***HTTP**

WORLD WIDE WEBのHTTPサーバーを構成します。(このサーバーは、IBM HTTP SERVER FOR I5/OSとしても知られています)。これはTCP/IP HTTPの構成(CFGTCPHTTP)コマンドを直接呼び出します。この値が有効なのは、TCP/IPライセンス・プログラム・プロダクトが導入されている場合だけです。

***LPD** ライン・プリンター・デーモン(LPD)の属性を変更します。これはLPD属性変更(CHGLPDA)コマンドを直接呼び出します。この値は、TCP/IPライセンス・プログラム・プロダクトが導入されている場合にだけ有効です。

***NTP** SIMPLE NETWORK TIME PROTOCOL (SNTP)属性を変更します。これはSNTP属性変更(CHGNTPA)コマンドを直接呼び出します。

***POP** POST OFFICE PROTOCOL (POP)バージョン3メール・サーバーを構成します。この値が有効なのは、TCP/IPライセンス・プログラム・プロダクトが導入されている場合だけです。

***REXEC**

TCP/IPリモート実行(REXEC)サーバーの属性を変更します。これは、REXEC属性変更(CHGRXCA)コマンドを直接呼び出します。この値が有効なのは、TCP/IPライセンス・プログラム・プロダクトが導入されている場合だけです。

***ROUTED**

ROUTEDサーバーを構成します。これは、TCP/IP ROUTED構成(CFGTCPRTD)コマンドを直接呼び出します。

***ROUTING**

OMPROUTEDサーバーを構成します。これにより、経路プロトコルの構成(CFGRTG)コマンドが直接呼び出されます。

***SMTP**

SIMPLE MAIL TRANSFER PROTOCOL (SMTP)のアプリケーションを構成します。これは、TCP/IP SMTPの構成(CFGTCPSMTP)コマンドを直接呼び出します。この値は、TCP/IPライセンス・プログラム・プロダクトが導入されている場合にだけ有効です。

***TELNET**

TELNETアプリケーションを構成します。これはTCP/IP TELNETの構成(CFGTCPTELN)コマンドを直接呼び出します。この値は、TCP/IPライセンス・プログラム・プロダクトが導入されている場合にだけ有効です。

***TFTP**

簡易ファイル転送プロトコル(TFTP)の属性を変更します。これは、TFTP属性変更(CHGTFTP)コマンドを直接呼び出します。

上

例

例1: TCP/IPアプリケーションの構成

```
CFGTCPAPP
```

このコマンドは、「TCP/IPアプリケーションの構成」メニューを表示します。

例2: TCP/IP TELNETアプリケーションの構成

```
CFGTCPAPP APP(*TELNET)
```

このコマンドは、「TCP/IP TELNETアプリケーションの構成」メニューを表示します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

TCP9999

プログラム&1でシステムの内部エラーが起こった。

上

TCP/IP BOOTPの構成 (CFGTCPBP)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター

例

エラー・メッセージ

TCP/IP BOOTP構成(CFGTCPBP)コマンドによって、ブートストラップ・プロトコル(BOOTP)構成コマンドを処理することができます。

このコマンドには、パラメーターはありません。

上

パラメーター

なし

上

例

CFGTCPBP

このコマンドは、「TCP/IP BOOTPの構成」メニューを表示します。

上

エラー・メッセージ

なし

上

POINT-TO-POINT TCPIPの構成 (CFGTCPPTP)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IMOD *IREXX
*EXEC)

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター

例

エラー・メッセージ

POINT-TO-POINT TCPIPの構成 (CFGTCPPTP)コマンドは、TCP/IP POINT-TO-POINT構成を定義、変更、または表示できるメニューの表示に使用されます。

*PPP回線タイプ・プロファイルでは次のオプションを使用することができません。

- 変更
- コピー
- 除去
- 明細表示

*PPP回線タイプ・プロファイルでは次のオプションを使用することができます。

- 開始
- 終了
- 回線状況処理
- セッション・ジョブ処理

*PPPスリップまたはPOINT-TO-POINTプロファイルを構成するためには、System iナビゲーター・インターフェースを使用してください。

このコマンドには、パラメーターはありません。

上

パラメーター

なし

上

例

CFGTCPPTP

このコマンドは、「POINT-TO-POINT TCP/IPの構成」メニューを表示します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

TCP1A1F

3/2/1が6を使用中に、要求を処理することはできない。

上

TCP/IP ROUTEDの構成 (CFGTCPRTD)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

TCP/IP ROUTED構成(CFGTCPRTD)コマンドは、ユーザーがROUTED構成を定義または変更できるメニューを表示するために使用されます。

このコマンドには、パラメーターはありません。

制約事項:

このコマンドを使用するには、*IOSYSCFG特殊権限が必要です。

上

パラメーター

なし

上

例

CFGTCPRTD

このコマンドは、「TCP/IP ROUTED構成」メニューを表示します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF6A50

表示装置ファイルまたは印刷装置ファイルの操作中にエラーが見つかった。

上

TCP/IP SNMPの構成 (CFGTCPSNMP)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

TCP/IP SNMP構成(CFGTCPSNMP)コマンドは、ユーザーがシンプル・ネットワーク管理プロトコル(SNMP)構成を定義または変更できるメニューを表示するために使用します。メニュー・オプションには次のものがあります。

- SNMP属性の変更
- SNMP用コミュニティの処理

SNMPエージェントを使用する前にCFGTCPSNMPコマンドを実行する必要はありません。SNMPエージェントは、次の特性をもったコミュニティと一緒に出荷されています。

コミュニティ名
公用

ASCIICOM
*YES

INTNETADR
*ANY

OBJACC
*READ

LOGSET
*NO

LOGGET
*NO

SNMP属性の省略時の値については、SNMP属性変更(CHGSNMPA)コマンドのヘルプを参照してください。

このコマンドには、パラメーターはありません。

上

パラメーター

なし

上

例

CFGTCPSNMP

このコマンドは、「TCP/IP SNMP構成」メニューを表示します。

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

TCP4001

SNMP構成情報のアクセス中にエラーが起こった。

現行ディレクトリーの変更 (CHDIR)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

現行ディレクトリーの変更 (CHDIR)コマンドは、指定されたディレクトリーを現行の作業ディレクトリーに変更します。現行ディレクトリーはディレクトリー、ライブラリー、フォルダー、またはデータベース・ファイルとすることができます。コマンドで使用されるオブジェクトを見つけるために、現行ディレクトリーが使用されます。

このコマンドは、現行ディレクトリーの変更 (CHGCURDIR)コマンドの別名で、次の代替コマンド名を使用して出すこともできます。

- CD
- CHGCURDIR

統合ファイル・システム・コマンドの詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「統合ファイル・システム」トピック・コレクションを参照してください。

制約事項:

- このコマンドは1つのオブジェクトにだけ作用します。ディレクトリー (DIR)パラメーターでパターンが指定されていて、複数のオブジェクトがそのパターンと一致した場合には、対話式ジョブのリストからオブジェクトを選択することができます。これがバッチ・ジョブの場合には、このコマンドは失敗して、エラー・メッセージCPFA08E, "複数の名前がパターンと一致した。"が出されます。
- 現行ディレクトリーと現行ライブラリーは、独立した別のエンティティーです。現行ライブラリーと現行ディレクトリーは同じライブラリーに設定できますが、現行ライブラリーまたは現行ディレクトリーのいずれかに対する変更は他方には影響しません。

このコマンドで設定された現行ディレクトリーは、統合ファイル・システムのコマンドおよびAPIに影響します。現行ライブラリー変更 (CHGCURLIB)コマンドで設定された現行ライブラリーは、ライブラリー修飾子として値*CURLIBを使用する表示装置ファイル作成(CRTDSPF)コマンドなどのコマンドに影響を与えます。

- ディレクトリーに対する読み取り(*R)権限が必要です。
- パス内の各ディレクトリーに対する実行(*X)権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
DIR	ディレクトリー	パス名	必須, 定位置 1

上

ディレクトリー (DIR)

ジョブの現行作業ディレクトリーを置き換えるディレクトリーのパス名を指定します。

これは必須パラメーターです。

パス名を指定するときの詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリーに含まれる制御言語(CL) トピック・コレクションの「オブジェクトの命名規則」を参照してください。

注: このパラメーターではUnicodeが使用可能です。詳しくは、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリーに含まれる制御言語(CL) トピック・コレクションで「CLでのUnicodeサポート」を参照してください。

上

例

CHDIRの代替コマンド名はCHGCURDIRです。次の例では代替コマンド名を使用していますが、CHDIRはそれらのすべてで直接CHGCURDIRに置き換えることができます。

例1:現行ディレクトリーの変更

```
CHGCURDIR DIR(/DIRECTORY2)
```

このコマンドは、現行ディレクトリーDIRECTORY2という名前のディレクトリーに変更します。

例2:現行ディレクトリーの親への現行ディレクトリーの変更

```
CHGCURDIR DIR('..')
```

このコマンドは、現行ディレクトリーを、このコマンドを実行する前に現行ディレクトリーが入っていたディレクトリーの親ディレクトリーに変更します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPFA085

ユーザー&1のホーム・ディレクトリーが見つからなかった。

CPFA08E

複数の名前がパターンと一致した。

CPFA093

パターンに一致する名前が見つからなかった。

CPFA09C

オブジェクトが認可されていない。オブジェクトは&1です。

CPFA09D

プログラム&1でエラーが起こった。

CPFA0A1

入力または出力エラーが起こった。

CPFA0A3

パス名分析解決によりループしている。

CPFA0A7

パス名が長すぎる。

CPFA0A9

オブジェクトが見つからない。オブジェクトは&1です。

CPFA0AB

オブジェクトの操作が失敗しました。オブジェクトは&1です。

上

アカウント・コード変更 (CHGACGCDE)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: 条件付き

パラメーター
例
エラー・メッセージ

アカウント・コード変更 (CHGACGCDE)コマンドは、ジョブの会計コードを変更します。ジョブはジョブ待ち行列上にあっても、あるいはサブシステム内で活動中であってもかまいません。このコマンドは、ジョブが出力待ち行列上にある場合には影響を与えません。システム値QACGLVLがジョブ会計(*JOB)実行の必要性を示している時にこのコマンドが入力されると、会計情報がジャーナル処理されて、そのジョブの新しい会計セグメントが開始されます。システム値QACGLVLがジョブ会計実行の必要性を示していない時にこのコマンドが入力されると、会計コードは変更されますが、ジャーナル入力を行われません。詳細な情報は、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「実行管理機能」トピック・コレクションを参照。にあります。

制約事項:

1. このコマンドを変更するジョブ内部から出すか、このコマンド発行側が変更するジョブのジョブ・ユーザー識別と同じユーザー・プロファイルのもとで実行しているか、あるいはこのコマンド発行側がジョブ制御(*JOBCTL)特殊権限をもつユーザー・プロファイルのもとで実行していなければなりません。

ジョブ・ユーザー識別はユーザー・プロファイルの名前であり、これによってジョブは他のジョブに認識されます。ジョブ・ユーザー識別の詳細は、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「実行管理機能」トピック・コレクションを参照。にあります。

2. このコマンドは条件付きでスレッド・セーフです。変更しようとしているジョブに活動中の2次スレッドがあると、アクセスは拒否されます。このコマンドは、ターゲット・ジョブが単一スレッドの場合は、マルチスレッド・ジョブの初期スレッドまたは2次スレッドから出されます。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
JOB	ジョブ名	単一値: * その他の値: 修飾ジョブ名	オプションル, 定位置 1
	修飾子 1: ジョブ名	名前	
	修飾子 2: ユーザー	名前	
	修飾子 3: 番号	000000-999999	
ACGCDE	アカウント・コード	文字値, *SAME, *BLANK, *USRPRF	オプションル, 定位置 2
DUPJOB OPT	重複ジョブ・オプション	*SELECT, *MSG	オプションル

上

ジョブ名 (JOB)

変更される会計コードをもつジョブの名前を指定します。

単一値

* 会計コードが変更されるジョブは、このコマンドが出されるジョブです。

修飾子1: ジョブ名

名前 会計コードが変更されるジョブの修飾名を指定します。

修飾子2: ユーザー

名前 そのもとでジョブが開始されるユーザー・プロファイルを識別するユーザー名を指定してください。

修飾子3: 番号

000000から999999

システム割り当てジョブ番号を指定してください。

注: ユーザー名またはジョブ番号を指定しないと、システムに現在あるすべてのジョブのジョブ名が検索されます。指定した名前が複数個見つかった場合は、修飾ジョブ名は明示的に、または選択表示を介して提供する必要があります。詳細については、**重複ジョブ・オプション (DUPJOB OPT)**パラメーターを参照してください。

上

アカウント・コード (ACGCDE)

このジョブに使用する会計コードを指定します。

*SAME

会計コードは変更されません。すなわち、会計情報はジャーナルに記録され、新しい会計セグメントが開始されます。

*BLANK

会計コードはすべてブランクに変更されました。

*USRPRF

次の会計セグメントの会計コードは、会計コードが変更されたジョブと関連する現行のユーザー・プロファイルから獲得されます。

文字値 次の会計セグメントに使用する15文字の会計コードを指定します。会計コードには、英字または数字を含めることができます。会計コードをアポストロフィで囲んだ場合には、ブランクも使用することができます。

上

重複ジョブ・オプション (DUPJOB OPT)

このコマンドで重複ジョブが見つかった時に取られる処置を指定します。

***SELECT**

対話式セッション中に重複しているジョブが見つかった時には、選択画面が表示されます。そうでない場合には、メッセージが出されます。

***MSG** 重複しているジョブが見つかった時には、メッセージが出されます。

上

例

CHGACGCDE JOB(123581/USER47/WS1) ACGCDE(123456789)

このコマンドは、ユーザー・プロファイルがUSER47で、ジョブ番号が123581であるジョブWS1の会計コードを、次の会計セグメントで会計コード123456789に変更します。ジョブ資源利用ジャーナル項目がシステム会計ジャーナルQSYS/QACGJRNに書き込まれます。

上

エラー・メッセージ

***ESCAPE** メッセージ

CPF1314

パラメーター&2の値&1を使用することはできない。

CPF1317

ジョブ&3/&2/&1に対して、サブシステムから応答がない。

CPF1321

ジョブ&1ユーザー&2ジョブ番号&3が見つからない。

CPF1332

重複したジョブ名の終わり。

CPF1334

要求した変更の場合には、対話式ジョブでなければならない。

CPF1336

ジョブ&3/&2/&1に対するCHGJOBコマンドにエラーがある。

CPF1337

&3/&2/&1には、パラメーターの変更が認可されていない。

CPF1340

ジョブ制御機能は実行されなかった。

CPF1341

読み取りプログラムまたは書き出しプログラム&3/&2/&1は、ジョブ名として使用できない。

CPF1343

ジョブ&3/&2/&1は、この機能に対して正しくないジョブ・タイプである。

CPF1344

ジョブ&3/&2/&1を制御する権限がない。

CPF1351

ジョブ&3/&2/&1のサブシステムで機能チェックが起こった。

CPF1352

この機能は実行されなかった。&3/&2/&1は移行状態である。

CPF180B

機能&1は使用できない。

上

活動プロファイル・リスト変更 (CHGACTPRFL)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

活動プロファイル・リスト変更(CHGACTPRFL)コマンドは、活動プロファイル分析(ANZPRFACT)コマンドによって常に活動状態とみなされるプロファイルのリストとの間で、ユーザーの追加または除去を行います。これらのプロファイルは指定された日数にわたって非活動状態であった場合でも、これは使用不可とはなりません。

このリストには、アプリケーション固有のオブジェクトに対して作成し、サインオンには使用されないプロファイルをすべて追加することをお奨めします。また、使用不可としたくないIBM ("Q")プロファイル以外のものもこのリストに追加したいことがあります。次のリストのプロファイルは非活動状態とみなされないため、追加する必要はありません。

次のユーザー・プロファイルが非活動状態であるとみなされることはありません。

- QANZAGENT
- QAUTPROF
- QCLUMGT
- QCLUSTER
- QCOLSRV
- QDBSHR
- QDBSHRDO
- QDFTOWN
- QDIRSRV
- QDLFM
- QDOC
- QDSNX
- QEJB
- QEJBSVR
- QFNC
- QGATE
- QIBMHELP
- QIPP
- QLPAUTO
- QLPINSTALL
- QMGTC
- QMSF
- QNETSPLF
- QNFSANON

- QNTP
- QPEX
- QPM400
- QSECOFR
- QSNADS
- QSPL
- QSPLJOB
- QSRV
- QSRVAGT
- QSRVBAS
- QSYS
- QTCM
- QTCP
- QTFTP
- QTMHHTTP
- QTMHHTTP1
- QTSTRQS
- QYCMCIMOM
- QYPSJSVR

プロフィールがユーザー・プロフィール削除(DLTUSRPRF)コマンドを介して削除された時に、そのプロフィールが活動プロフィール・リストから自動的に除去されます。

この情報は、活動プロフィール・リスト表示(DSPACTPRFL)コマンドによって表示することができます。

制約事項:このコマンドを実行するためには、全オブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
USRPRF	ユーザー・プロフィール	値 (最大 10 回の繰り返し): 単純名	必須, 定位置 1
ACTION	処置	*ADD, *REMOVE	オプション, 定位置 2

上

ユーザー・プロフィール (USRPRF)

これは必須パラメーターです。

活動ユーザーのリストとの間で追加または除去を行うユーザー・プロフィールの名前。

このパラメーターには複数の値を入力できます。

処置 (ACTION)

常に活動状態とみなされ、したがって、プロファイル活動分析(ANZPRFACT)コマンド機能によって使用不可にならない、ユーザーのリストを含むファイルとの間でユーザー・プロファイルの追加または除去を行うかどうかを指定します。

***ADD** そのプロファイルはリストに追加されます。これは非活動状態とはみなされません。

***REMOVE**

そのプロファイルはリストから削除されます。これは、この時点で、指定された日数の後に非活動状態となると見なされます。

例

```
CHGACTPRFL  USRPRF(JMBLOCK GARRY)  ACTION(*ADD)
```

このコマンドは、常に活動状態であるとみなされるユーザー・プロファイルのリストを変更します。ユーザー・プロファイルJMBLOCKおよびGARRYが、プロファイル活動分析(ANZPRFACT)コマンドによって常に活動状態であるとみなされるプロファイルのリストに追加されます。

エラー・メッセージ

***ESCAPE** メッセージ

CPDB305

ユーザー&1がリストに見つからない。

CPF304

ユーザーに必要な特殊権限がない。

活動化スケジュール項目の変更 (CHGACTSCDE)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

活動化スケジュール項目変更(CHGACTSCDE)コマンドによって、特定日の特定の時間だけにサインオンするためのユーザー・プロファイルを使用開始にすることができます。

ユーザー・プロファイルの新しいスケジュールを指定した（そのユーザーに対してCHGACTSCDEを再び使用する）場合には、システムはそのプロファイルの既存のスケジュールを、新しい情報と置き換えます。

プロファイルが使用開始または使用終了の場合には、CHGACTSCDEコマンドを出したユーザーのメッセージ待ち行列にメッセージを送信します。

使用開始または使用終了の時間が同じ日に起こるように設定されます。例えば、07:00の使用開始時、18:00の使用終了時、および*MONの曜日を指定した場合には、そのプロファイルは月曜日の7:00に使用開始になり、月曜日の18:00時に使用終了になります。プロファイルが月曜日の23:00時に使用開始になり、火曜日の07:00時に使用終了にするように広げたい場合には、その日に*ALLを指定しなければなりません。（プロファイルは毎日23:00時から07:00まで使用可能となります。）

ユーザー・プロファイルが使用開始および使用終了にならないように、それをファイルから除去するには、ENBTIME(*NONE) DSBTIME(*NONE)を指定してください。

活動化スケジュールは、活動化スケジュール表示(DSPACTSCD)コマンドによって表示することができます。

制約事項:このコマンドを使用するには、*ALLOBJ, *SECADM,および*JOBCTLの特殊権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
USRPRF	ユーザー・プロファイル	名前	必須, 定位置 1
ENBTIME	時刻の活動化	時刻, *NONE	必須, 定位置 2
DSBTIME	時刻の非活動化	時刻, *NONE	必須, 定位置 3
DAYS	日数	単一値: <u>*ALL</u> その他の値 (最大 7 回の繰り返し): *MON, *TUE, *WED, *THU, *FRI, *SAT, *SUN	オプション

上

ユーザー・プロフィール (USRPRF)

これは必須パラメーターです。

ある期間活動化されるユーザー・プロフィールの名前。

上

時刻の活動化 (ENBTIME)

これは必須パラメーターです。

ユーザー・プロフィールを使用可能にするためのジョブが投入される特定日の時刻。

有効でないサインオン試行回数の最大数に達した場合には、指定されたその時刻にプロフィールは使用開始になりません。

注: 時刻は秒単位まで指定できますが、ジョブの投入に関する活動およびシステム上の負荷が、ジョブの投入される正確な時刻に影響することがあります。

*NONE

プロフィールが使用終了になりません。

使用可能時刻

ユーザー・プロフィールが使用可能になる日の時刻。

上

時刻の非活動化 (DSBTIME)

これは必須パラメーターです。

ユーザー・プロフィールを使用不能にするためのジョブが投入される特定日の時刻。

注: 時刻は秒単位まで指定できますが、ジョブの投入に関する活動およびシステム上の負荷が、ジョブの投入される正確な時刻に影響することがあります。

*NONE

プロフィールが使用終了になりません。

使用不能時刻

ユーザー・プロフィールが使用不能になる日の時刻。

上

日数 (DAYS)

ユーザー・プロフィールを使用可能および/または使用不能にするためのジョブが投入される曜日。

***ALL** ジョブは毎日投入されます。

***MON** ジョブは月曜日に投入されます。

***TUE** ジョブは火曜日に投入されます。

*WED ジョブは水曜日に投入されます。

*THU ジョブは木曜日に投入されます。

*FRI ジョブは金曜日に投入されます。

*SAT ジョブは土曜日に投入されます。

*SUN ジョブは日曜日に投入されます。

このパラメーターには複数の値を入力できます。

上

例

```
CHGACTSCDE  USRPRF(GARRY) ENBTIME('07:00:00')
             DSBTIME('18:00:00')
             DAYS(*MON,*TUE,*WED,*THU,*FRI)
```

このコマンドは、ユーザー・プロファイルGARRYの活動化スケジュールを変更します。ユーザー・プロファイルGARRYは、月曜日、火曜日、水曜日、木曜日、および金曜日の7:00 AMに使用可能にされ、月曜日、火曜日、水曜日、木曜日、および金曜日の6:00 PMに使用不可にされます。ユーザー・プロファイルは週末の間は使用不可のままとされます。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPDB305

ユーザー&1がリストに見つからない。

CPFB304

ユーザーに必要な特殊権限がない。

上

自動開始ジョブ項目変更 (CHGAJE)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

自動開始ジョブ項目変更 (CHGAJE)コマンドは、指定されたサブシステム記述中の前に定義された自動始動ジョブ項目について別のジョブ記述を指定するために使用されます。

制約事項:

- このコマンドを使用するには、以下が必要です。
 - 指定されたサブシステム記述に対するオブジェクト操作(*OBJOPR),オブジェクト管理(*OBJMGT),および読み取り(*READ)権限と、そのサブシステム記述が入っているライブラリーに対する実行(*EXECUTE)権限。
 - ジョブ記述に対するオブジェクト操作(*OBJOPR)および読み取り(*READ)権限と、そのジョブ記述が入っているライブラリーに対する実行(*EXECUTE)権限。
- ジョブ記述が存在していない項目の変更は、全オブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限をもつユーザーだけに許可されます。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
SBSD	サブシステム記述	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: サブシステム記述	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
JOB	ジョブ名	名前	必須, 定位置 2
JOBID	ジョブ記述	単一値: *SAME, *SBSD その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ジョブ記述	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	

上

サブシステム記述 (SBSD)

変更する自動始動ジョブ項目が入っているサブシステム記述の名前およびライブラリーを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: サブシステム記述

名前 自動始動ジョブ項目が変更されるサブシステム記述の名前を指定します。

注:IBM提供オブジェクトQSYSSBSDはこのパラメーターには正しくありません。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 一致が見つかるまで、スレッドのライブラリー・リストの中のすべてのライブラリーが検索されません。

*CURLIB

オブジェクトを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 サブシステム記述が入っているライブラリーを指定します。

上

ジョブ名 (JOB)

サブシステム記述 (SBSD)パラメーターに指定されたサブシステム記述を使用してサブシステムが開始された時に自動始動されるジョブの単純名を指定します。

これは必須パラメーターです。

名前 自動始動されるジョブの単純名を指定します。

上

ジョブ記述 (JOBID)

この自動始動ジョブ項目によって開始されるジョブで使用するジョブ記述の名前を指定します。項目の追加または変更時にジョブ記述が存在していない場合には、ライブラリー修飾子を指定しなければなりません（修飾されたジョブ記述名がサブシステム記述に保管されるため）。

注: ジョブ記述が存在していない項目の追加または変更は、全オブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限をもつユーザーだけに許可されます。

単一値

***SAME**

既存の自動始動ジョブ項目の中で指定されているジョブ記述が使用されます。

***SBSD** **サブシステム記述 (SBSD)**パラメーターに指定されたサブシステム記述と同じ修飾名のジョブ記述が、開始されるジョブに使用されます。

修飾子1: ジョブ記述

名前 この自動始動ジョブ項目によって開始されるジョブに使用されるジョブ記述の名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 一致が見つかるまで、スレッドのライブラリー・リストの中のすべてのライブラリーが検索されません。

*CURLIB

オブジェクトを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 ジョブ記述が入っているライブラリーを指定してください。

上

例

CHGAJE SBS(DQGPL/PAYROLL) JOB(INIT) JOBD(MANAGER)

このコマンドは、ジョブ記述MANAGERを使用するようにジョブINITの自動始動ジョブ項目を変更します。自動始動ジョブ項目は、QGPLライブラリーのPAYROLLサブシステム記述にあります。ジョブ記述MANAGERを見つけるためにライブラリー・リストが使用されます。正しいライブラリーが判別された場合には、この自動始動ジョブ項目のために修飾ジョブ記述名がサブシステム記述に入れられます。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF1619

ライブラリー&2のサブシステム記述&1に損傷がある。

CPF1697

サブシステム記述&1は変更されなかった。

上

警報処置項目の変更 (CHGALRACNE)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

警報処置項目変更(CHGALRACNE)コマンドによってユーザーは、指定した警報フィルター中の処置項目を変更することができます。警報の詳細については、AS/400 ALERT SUPPORT (SC41-5413)を参照してください。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
FILTER	フィルター	修飾オブジェクト名	必須, キー, 定位置 1
	修飾子 1: フィルター	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
GROUP	グループ	名前, *DEFAULT	必須, キー, 定位置 2
LOG	警報の記録	*YES, *NO, *NETATR, *SAME	オプション
ASNUSER	ユーザー割り当て	文字値, *NONE, *SAME	オプション
SEND	システムへ送信	単一値: *NONE, *SAME その他の値 (最大 5 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: ネットワーク識別コード	通信名, *NETATR, *FOCALPT	
	要素 2: 制御点	通信名	
SNDDTAQ	データ待ち行列に送信	単一値: *NONE, *SAME その他の値 (最大 5 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: データ待ち行列名	修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: データ待ち行列名	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
	要素 2: データ待ち行列キー	文字値, *NONE, X'	
GENTRAP	SNMPトラップの生成	*SAME, *NO, *YES	オプション

上

フィルター (FILTER)

変更しようとしている処置項目が入っているフィルターを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: フィルター

名前 フィルターの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、ジョブのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

フィルターを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 フィルターが入っているライブラリーの名前を指定してください。

上

グループ (GROUP)

変更されている処置のグループを指定します。

***DEFAULT**

フィルターの作成時に自動的に追加された省略時の処置項目が変更されます。

名前 定義された処置を適用するグループの名前を指定してください。

上

警報の記録 (LOG)

警報を記録するかどうかを指定します。

***SAME**

LOG処置は変更されません。

***NETATR**

この警報のロギングをALRLOGSTSネットワーク属性が制御します。

***YES** 警報が記録されます。

***NO** 警報は記録されません。

上

ユーザー割り当て (ASNUSER)

警報へのユーザー割り当てを指定します。

***SAME**

ASNUSER処置は変更されません。

***NONE**

ユーザーは警報に割り当てられません。

文字値 ユーザー名を指定してください。

上

システムへ送信 (SEND)

警報を送信する宛先を指定します。

単一値

*SAME

宛先は変更されません。

*NONE

警報は送信されません。

その他の値（最大5個指定可能）

要素1: ネットワーク識別コード

*NETATR

ローカル・ネットワークIDのネットワーク属性が使用されます。

*FOCALPT

警報は、システムのフォーカル・ポイントに送信されます。フォーカル・ポイント・システムは、送信時に判別されます。

通信名 宛先システムのネットワークIDを指定してください。

要素2: 制御点

通信名 宛先システムの制御点名を指定してください。

上

データ待ち行列に送信 (SNDDTAQ)

警報通知レコードが入っているデータ待ち行列を指定します。キー順データ待ち行列がサポートされています。

単一値

*SAME

データ待ち行列は変更されません。

*NONE

データ待ち行列は使用されません。

その他の値（最大5個指定可能）

要素1: データ待ち行列名

修飾子1: データ待ち行列名

名前 データ待ち行列の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、ジョブのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

データ待ち行列を見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 データ待ち行列が入っているライブラリーの名前を指定してください。

要素2: データ待ち行列キー

***NONE**

データ待ち行列でキーは使用されません。

文字値 データ待ち行列キーを指定してください。

上

SNMPトラップの生成 (GENTRAP)

警報によってSNMPトラップが生成されるかどうかを指定します。

***SAME**

GENTRAP処置は変更されません。

***NO** この警報からSNMPトラップは生成されません。

***YES** この警報からSNMPトラップが生成されます。

上

例

```
CHGALRACNE FILTER(MYLIB/MYFILTER) GROUP(CHICAGO)
LOG(*SAME) ASNUSER(CHICAGOOPR)
SEND((*FOCALPT) (*NETATR.MILWKEE)) SNDDTAQ(*SAME)
```

このコマンドは、グループCHICAGOの処置を以下に変更します。

1. 同じLOG処置を使用します。
2. 警報をこのシステムのフォーカル・ポイントに送信します。
3. 制御点名MILWKEEおよびシステム・ネットワーク属性で指定されたLCLNETID値を基にしたネットワークIDをもつシステムに警報を送信します。
4. 同じSNDDTAQ処置を使用します。
5. 警報をユーザーCHICAGOOPRに割り当てます。

上

エラー・メッセージ

***ESCAPE**メッセージ

CPF812F

フィルターに損傷がある。

CPF91DD

グループ&4の処置項目が見つからなかった。

CPF91DE

フィルター&1&2が最大サイズの限界に達した。

CPF91EB

フィルター・タイプ&3はこの操作には正しくありません。

CPF91EC

内部処理エラーが起こった。

CPF91E8

内部処理エラーが起こった。

CPF9802

&3のオブジェクト&2は認可されていない。

CPF9803

ライブラリー&3のオブジェクト&2を割り振りできません。

CPF9807

ライブラリー・リストの1つまたは複数のライブラリーが削除された。

CPF9808

ライブラリー・リストの1つまたは複数のライブラリーを割り振ることができない。

CPF9830

ライブラリー&1を割り当てることができない。

上

警報記述の変更 (CHGALRD)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

警報記述変更(CHGALRD)コマンドによって、ユーザーは、警報記述追加コマンドによって前に追加された警報記述を変更することができます。警報の詳細については、AS/400 ALERT SUPPORT (SC41-5413)を参照してください。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
MSGID	メッセージ識別コード	名前	必須, キー, 定位置 1
ALRTBL	警報テーブル	修飾オブジェクト名	必須, キー, 定位置 2
	修飾子 1: 警報テーブル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
ALRTYPE	警報タイプ	00-F0, *SAME, *NONE	オプション
ALRD	警報記述コード・ポイント	0000-FFFF, *SAME, *NONE	オプション
PBLCAUSE	推定原因コード・ポイント	単一値: *SAME, *NONE その他の値 (最大 99 回の繰り返し): 0000-FFFF	オプション
CAUSE	原因	単一値: *SAME, *NONE その他の値 (最大 99 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: 原因タイプ	*USER, *INSTALL, *FAILURE	
	要素 2: 原因コード・ポイント	16 進値	
	要素 3: 詳細データ識別コード 1	16 進値, *NONE	
	要素 4: 詳細データ 1	文字値, *NODATA	
	要素 5: 詳細データ識別コード 2	16 進値, *NONE	
	要素 6: 詳細データ 2	文字値, *NODATA	
	要素 7: 詳細データ識別コード 3	16 進値, *NONE	
	要素 8: 詳細データ 3	文字値, *NODATA	
	要素 9: プロダクト識別コード	*NONE, *SNDHDW, *SNDSPW, *RSCHDW	
ACTION	好ましい処置	単一値: *SAME, *NONE その他の値 (最大 99 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: 処置タイプ	*USER, *INSTALL, *FAILURE, *UNKNOWN	
	要素 2: 処置コード・ポイント	16 進値	
	要素 3: 詳細データ識別コード 1	16 進値, *NONE	
	要素 4: 詳細データ 1	文字値, *NODATA	
	要素 5: 詳細データ識別コード 2	16 進値, *NONE	
	要素 6: 詳細データ 2	文字値, *NODATA	
	要素 7: 詳細データ識別コード 3	16 進値, *NONE	
	要素 8: 詳細データ 3	文字値, *NODATA	
	要素 9: プロダクト識別コード	*NONE, *SNDHDW, *SNDSPW, *RSCHDW	

メッセージ識別コード (MSGID)

この警報記述に対応するメッセージIDを指定します。

これは必須パラメーターです。

名前 メッセージIDを指定してください。

警報テーブル (ALRTBL)

警報記述が存在している警報テーブルを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: 警報テーブル

名前 使用される警報テーブルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、ジョブのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

警報テーブルを見つけるために、現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 警報テーブルを見つけるために検索されるライブラリーの名前を指定してください。

警報タイプ (ALRTYPE)

警報タイプのコード点を指定します。

***SAME**

警報タイプのコード点は変わりません。

***NONE**

この警報記述には警報タイプ・コード点がありません。

X'00'からX'F0'

警報タイプ・コード点を指定してください。

警報記述コード・ポイント (ALRD)

警報記述のコード点を指定します。

*SAME

警報記述コード点は変わりません。

*NONE

この警報記述には、警報記述コード点がありません。

*X'0000'*から*X'FFF0'*

使用される警報記述コード点を指定してください。

上

推定原因コード・ポイント (PBLCAUSE)

起こり得る原因について最大99のコード点を指定し、起こり得る可能性の降順でリストされます。

単一値

*SAME

起こり得る原因のコード点は変わりません。

*NONE

この警報記述には起こり得る原因のコード点がありません。

その他の値 (最大99個指定可能)

*X'0000'*から*X'FFF0'*

起こり得る原因コード点を指定してください。

上

原因 (CAUSE)

ユーザーに起因する項目、導入に起因する項目、または障害に起因する項目であるかを指定します。最大99個の起因項目を指定することができます。

コード点について、最大3つの詳細データ修飾子または1つのプロダクトID修飾子を指定することができますが、これはコード点によって異なります。詳細なデータ修飾子の場合には、詳細データIDおよび詳細データを指定してください。

単一値

*SAME

原因コード点は変わりません。

*NONE

この警報記述には原因コード点がありません。

その他の値 (最大99個指定可能)

要素1: 原因タイプ

***USER**

ユーザーに起因する問題のコード・ポイントが続きます。

***INSTALL**

導入に起因する問題のコード点が続きます。

***FAILURE**

障害に起因する問題のコード点が続きます。

要素2: 原因コード・ポイント

16進値 原因コード点を指定してください。

要素3: 詳細データ識別コード 1

***NONE**

このコード点には詳細データIDコード点がありません。

16進値 データの識別に使用される詳細データIDコード点を指定してください。詳細データIDは、各セッションごとに最高3回まで指定することができます。

要素4: 詳細データ 1

***NODATA**

このコード点には詳細データはありません。

文字値 最大40桁の詳細データを指定します。対応するメッセージ記述からの置換変数を指定することができます。この場合には、警報が作成される時にメッセージ・データが警報記述に置き換えられます。

要素5: 詳細データ識別コード 2

***NONE**

このコード点には詳細データIDコード点がありません。

16進値 データの識別に使用される詳細データIDコード点を指定してください。詳細データIDは、各セッションごとに最高3回まで指定することができます。

要素6: 詳細データ 2

***NODATA**

このコード点には詳細データはありません。

文字値 最大40桁の詳細データを指定します。対応するメッセージ記述からの置換変数を指定することができます。この場合には、警報が作成される時にメッセージ・データが警報記述に置き換えられます。

要素7: 詳細データ識別コード 3

***NONE**

このコード点には詳細データIDコード点がありません。

16進値 データの識別に使用される詳細データIDコード点を指定してください。詳細データIDは、各セッションごとに最高3回まで指定することができます。

要素8: 詳細データ 3

***NODATA**

このコード点には詳細データはありません。

文字値 最大40桁の詳細データを指定します。対応するメッセージ記述からの置換変数を指定することができます。この場合には、警報が作成される時にメッセージ・データが警報記述に置き換えられます。

要素9: プロダクト識別コード

*NONE

このコード点にはプロダクトIDがありません。

*SNDHDW

送信側のハードウェア（常にSystem i5）を示します。

*SNDSFW

警報に責任がある送信元ソフトウェア・コードを示します。これは、警報テーブル作成 (CRTALRTBL) コマンドからのLICPGM値からのものです。

*RSCHDW

障害のある資源ハードウェアを示します。これはメッセージ記述中の資源階層によって判別されます。

上

好ましい処置 (ACTION)

ユーザー、導入、または障害に起因する項目に対する好ましい処置を指定します。最大99個の処置をリストすることができます。

単一値

*SAME

好ましい処置コード点は変更されません。

*NONE

この警報記述には好ましい処置コード点がありません。

その他の値 (最大99個指定可能)

要素1: 処置タイプ

*USER

ユーザーに起因する問題のコード・ポイントが続きます。

*INSTALL

導入に起因する項目の好ましい処置コード点が続きます。

*FAILURE

障害に起因する項目の好ましい処置のコード点が続きます。

*UNKNOWN

原因不明エラーについての好ましい処置のコード点が続きます。

要素2: 処置コード・ポイント

16進値 好ましい処置コード点を指定してください。

コード点について、最大3つの詳細データ修飾子または1つのプロダクトID修飾子を指定することができますが、これはコード点によって異なります。詳細なデータ修飾子の場合には、詳細データIDおよび詳細データを指定してください。

要素3: 詳細データ識別コード 1

*NONE

このコード点には詳細データIDコード点がありません。

16進値 データの識別に使用される詳細データIDコード点を指定してください。詳細データIDは、各セッションごとに最高3回まで指定することができます。

要素4: 詳細データ 1

*NODATA

このコード点には詳細データはありません。

文字値 最大40桁の詳細データを指定します。対応するメッセージ記述からの置換変数を指定することができます。この場合には、警報が作成される時にメッセージ・データが警報記述に置き換えられます。

要素5: 詳細データ識別コード 2

*NONE

このコード点には詳細データIDコード点がありません。

16進値 データの識別に使用される詳細データIDコード点を指定してください。詳細データIDは、各セッションごとに最高3回まで指定することができます。

要素6: 詳細データ 2

*NODATA

このコード点には詳細データはありません。

文字値 最大40桁の詳細データを指定します。対応するメッセージ記述からの置換変数を指定することができます。この場合には、警報が作成される時にメッセージ・データが警報記述に置き換えられます。

要素7: 詳細データ識別コード 3

*NONE

このコード点には詳細データIDコード点がありません。

16進値 データの識別に使用される詳細データIDコード点を指定してください。詳細データIDは、各セッションごとに最高3回まで指定することができます。

要素8: 詳細データ 3

*NODATA

このコード点には詳細データはありません。

文字値 最大40桁の詳細データを指定します。対応するメッセージ記述からの置換変数を指定することができます。この場合には、警報が作成される時にメッセージ・データが警報記述に置き換えられます。

要素9: プロダクト識別コード

*NONE

このコード点にはプロダクトIDがありません。

*SNDHDW

送信側のハードウェア（常にSystem i5）を示します。

*SNDSFW

警報に責任がある送信元ソフトウェア・コードを示します。これは、警報テーブル作成 (CRTALRTBL) コマンドからのLICPGM値からのものです。

*RSCHDW

障害のある資源ハードウェアを示します。これはメッセージ記述中の資源階層によって判別されます。

上

例

```
CHGALRD  MSGID(USR1234)  ALRTBL(USER/USRMSG)
          ALRTYPE(*SAME) ALRD(*SAME)  PBLCAUSE(1000 3121 6302)
          CAUSE(*SAME)  ACTION(*SAME)
```

このコマンドは、警報記述追加(ADDALRD)コマンドで例示される警報記述に推定原因6302を追加します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF1A01

&2の警報テーブル&1を拡張することはできない。

CPF1A02

警報コード&1はすでに警報テーブル&2にある。

CPF1A03

警報識別コード&1はすでに警報テーブル&2にある。

CPF1A05

&2の警報テーブル&1に損傷がある。

CPF2499

メッセージ識別コード&1が正しくない。

CPF7BB1

警報記述が見つからない。

CPF7BB5

ライブラリー&3の警報テーブル&2に警報記述&1を追加することはできない。

CPF9801

ライブラリー&3にオブジェクト&2が見つからない。

CPF9802

&3のオブジェクト&2は認可されていない。

CPF9803

ライブラリー&3のオブジェクト&2を割り振りできません。

CPF9807

ライブラリー・リストの1つまたは複数のライブラリーが削除された。

CPF9808

ライブラリー・リストの1つまたは複数のライブラリーを割り振ることができない。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9811

ライブラリー&2でプログラム&1が見つからない。

CPF9812

ライブラリー&2にファイル&1が見つからない。

CPF9814

装置&1が見つかりません。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF9821

ライブラリー&2のプログラム&1は認可されていない。

CPF9822

ライブラリー&2のファイル&1は認可されていない。

CPF9825

装置&1は認可されていない。

CPF9830

ライブラリー&1を割り当てることができない。

CPF9831

装置&1を割り当てることができない。

CPF9899

コマンドの処理中にエラーが起こった。

上

警報選択項目の変更 (CHGALRSLTE)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

警報選択項目変更(CHGALRSLTE)コマンドによってユーザーは、前に警報選択項目追加(ADDALRSLTE)コマンドを使用して追加された警報選択項目を変更することができます。警報の詳細については、AS/400 ALERT SUPPORT (SC41-5413)を参照してください。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
FILTER	フィルター	修飾オブジェクト名	必須, キー, 定位置 1
	修飾子 1: フィルター	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
SEQNBR	順序番号	1-9999, *LAST	必須, キー, 定位置 2
SELECT	選択データ	単一値: *SAME, *ANY その他の値 (最大 10 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: 関係	*IF, *AND, *OR	
	要素 2: 属性	*ORIGIN, *RSCNAME, *RSCTYPE, *HIERNAME, *HIERTYPE, *MSGID, *MSGSEV, *ALRID, *ALRTYPE, *ALRDSC, *PBLCSE, *USRCSE, *INSCSE, *FLRCSE, *RSCHDW, *SNDHDW, *RSCSFW, *SNDSEFW	
	要素 3: 比較演算子	*EQ, *GT, *LT, *NE, *GE, *LE, *CT	
要素 4: 値	文字値		
GROUP	グループ	名前, *SAME, *DEFAULT	オプション

上

フィルター (FILTER)

選択項目が変更されているフィルターの修飾名を指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: フィルター

名前 フィルターの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、ジョブのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

フィルターを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 フィルターが入っているライブラリーの名前を指定してください。

上

順序番号 (SEQNBR)

警報選択項目の順序番号を指定します。選択項目は、順序番号の順に評価されます。

*LAST

ユーザーは最後の選択項目を変更することができます。この項目は、フィルターの作成時に自動的に追加され、すべての警報と突き合わされます。

1から9999

使用する順序番号を指定してください。

上

選択データ (SELECT)

警報が指定されたグループに属しているかどうかを判別するために行なわれる比較を指定します。警報中のデータがSELECTパラメーターに指定された関係を満たしている場合には、この選択項目の結果として、警報との正常な一致が得られます。最高10個までの属性値を警報と比較することができます。

単一値

*SAME

値は変更されません。

***ANY** すべての警報がこの選択レコードと突き合わされます。

その他の値 (最大10個指定可能)

警報が選択項目と一致する条件を指定してください。各条件には、次の4つの要素が入っていなければなりません。

1. 論理演算子*IF, *AND,または*ORの1つ
2. 比較属性
3. 比較演算子の1つ
4. 属性値

要素1: 関係

***IF** 満たさなければならない最初の条件を識別します。

***AND** *ANDの両側の条件が満たされなければなりません。

***OR** *ORの両側のどちらか1つの条件が満たされなければなりません。

条件には、1つのセットまたは複数のセットがあります。*IFの値は、比較値の最初のセットの最初の値として指定しなければなりません。複数セットの条件を指定する場合には、最初のセットに続く各セットの最初の値として*ANDまたは*ORを指定する必要があります。各条件は括弧で囲まなければなりません。*ANDは*ORより前に評価されます。

要素2: 属性

***ORIGIN**

警報が生成されるかまたは受け取られるかを指定します。この属性に有効な値は、L（ローカル生成）またはR（受け取り）です。

***RSCNAME**

障害のある資源の名前を指定します。この属性の値は、8文字の名前でなければなりません。

***RSCTYPE**

障害のある資源のタイプを指定します。この属性の値は、3文字の資源タイプ（例えば、TAPまたはDKT）でなければなりません。

***HIERNAME**

警報資源階層内のすべての資源を指定します。警報資源階層とは、警報処理(WRKALR)コマンドの詳細データ画面に、ブランクで分けて表示される資源のリストです。この属性の値は、*CT比較演算子に使用した値でなければ、ブランクで分けた最高5つまでの資源名のリストにすることができます。*CTの値を使用した場合には、指定した資源名が階層中のどこかにないかどうかを調べるために、選択項目の関係をテストすることができます。この属性には、階層からの資源名だけが含まれます。

***HIERTYPE**

警報資源階層内のすべての資源タイプを指定します。資源タイプは、*HIERNAME 属性に指定された資源名と一致します。この属性の値は、*CT比較演算子に使用した値でなければ、ブランクで分けた最高5つまでの1から3文字の資源タイプのリストにすることができます。*CTの値を使用した場合には、指定した資源タイプが階層中のどこかにないかどうかを調べるために、選択項目の関係をテストすることができます。

***MSGID**

メッセージIDを指定します。

***MSGSEV**

メッセージ重大度を指定します。この値(00から99まで)はメッセージの重大度レベルを表します(99が最高の重大度レベルです)。

***ALRID**

警報IDを指定します。警報IDは、警報処理(WRKALR)コマンドの詳細データ画面に表示されます。この属性の値は、*CT比較演算子に使用されていなければ、8桁の16進数でなければなりません。*CT演算子またはワイルドカード文字を使用する場合には、この属性は最高8桁までの偶数の桁数でなければなりません。警報IDは、問題分析の後に作成された警報の場合には、正しい比較とならないことがあります。

***ALRTYPE**

警報の中にある警報タイプ・コード点を指定します。この属性の値は、2桁の16進数でなければなりません。

*ALRDSC

警報の中の警報記述コード点を指定します。この属性の値は、*CT比較演算子に使用されていなければ、4桁の16進数でなければなりません。*CT 演算子またはワイルドカード文字を使用する場合には、この属性は最高4桁までの偶数の桁数でなければなりません。

*PBLCSE

警報の中の起こり得る原因コード点を指定します。この属性の値は、*CT比較演算子に使用されていなければ、4桁の16進数でなければなりません。*CT 演算子またはワイルドカード文字を使用する場合には、この属性は最高4桁までの偶数の桁数でなければなりません。

*USRCSE

警報の中の最初のユーザー原因コード点を指定します。この属性の値は、*CT比較演算子に使用されていなければ、4桁の16進数でなければなりません。*CT 演算子またはワイルドカード文字を使用する場合には、この属性は最高4桁までの偶数の桁数でなければなりません。

*INSCSE

警報の中の最初の導入に起因する問題のコード点を指定します。この属性の値は、*CT比較演算子に使用されていなければ、4桁の16進数でなければなりません。*CT 演算子またはワイルドカード文字を使用する場合には、この属性は最高4桁までの偶数の桁数でなければなりません。

*FLRCSE

警報の中の最初の障害に起因する問題のコード点を指定します。この属性の値は、*CT比較演算子に使用されていなければ、4桁の16進数でなければなりません。*CT 演算子またはワイルドカード文字を使用する場合には、この属性は最高4桁までの偶数の桁数でなければなりません。

*RSCHDW

警報の中の障害のあるハードウェア資源の情報を指定します。この情報は、警報処理(WRKALR)コマンドの詳細データ画面に表示されます。次の書式を使用して、この属性の値を指定してください。

```
'TTTT MMM SS-SSSSSS'  
'TTTT MMM SS-SSSS'  
'TTTT MMM SSSSSSS'  
'TTTT MMM SSSSS'
```

ここで、TTTTは機械タイプ、MMMは型式番号、およびSSSSSSSSは製造番号です。この様式を使用して、特定のハードウェア資源を突き合わせるか、あるいはハードウェア値の一部を*CT比較演算子に使用して、部分的な突き合わせを行なってください。

*SNDHDW

警報の中の送信ハードウェア資源の情報を指定します。この情報は、警報処理(WRKALR)コマンドの詳細データ画面に表示されます。次の書式を使用して、この属性の値を指定してください。

```
'TTTT MMM SS-SSSSSS'  
'TTTT MMM SS-SSSS'  
'TTTT MMM SSSSSSS'  
'TTTT MMM SSSSS'
```

ここで、TTTTは機械タイプ、MMMは型式番号、およびSSSSSSSSは製造番号です。この様式を使用して、特定のハードウェア資源を突き合わせるか、あるいはハードウェア値の一部を*CT比較演算子に使用して、部分的な突き合わせを行なってください。

*RSCSFW

警報の中の障害のあるソフトウェア資源の情報を指定します。この情報は、警報処理(WRKALR)コマンドの詳細データ画面に表示されます。次の書式を使用して、この属性の値を指定してください。

```
'PPPPPPP VV RR MM'
```

ここでPPPPPPPはライセンス・プログラムID, VVはバージョン番号, RRはリリース番号, そしてMMはモディフィケーション・レベルです。この様式を使用して、特定のソフトウェア資源を突き合わせるか、あるいはソフトウェア値の一部を*CT比較演算子に使用して、部分的な突き合わせを行なってください。

*SNDSFW

警報の中の送信ソフトウェア資源の情報を指定します。この情報は、警報処理(WRKALR)コマンドの詳細データ画面に表示されます。次の書式を使用して、この属性の値を指定してください。

```
'PPPPPPP VV RR MM'
```

ここでPPPPPPPはライセンス・プログラムID, VVはバージョン番号, RRはリリース番号, そしてMMはモディフィケーション・レベルです。この様式を使用して、特定のソフトウェア資源を突き合わせるか、あるいはソフトウェア値の一部を*CT比較演算子に使用して、部分的な突き合わせを行なってください。

要素3: 比較演算子

- *EQ 属性中の属性は、属性値に指定された値と等しくなければなりません。
- *GT 属性中の属性は、属性値に指定された値より大きくなければなりません。
- *LT 属性中の属性は、属性値に指定された値より小さくなければなりません。
- *NE 属性中の属性は、属性値に指定された値と等しくてはなりません。
- *GE 属性中の属性は、属性値に指定された値より大きいか等しくなければなりません。
- *LE 属性中の属性は、属性値に指定された値より小さいか等しくなければなりません。
- *CT 属性中の属性には、属性値に指定された値が入っていなければなりません。

要素4: 値

属性値 指定した属性の内容と比較する値（最大60文字）を指定してください。ブランクまたは特殊文字を含み、文字様式にする必要がある場合には、値をアポストロフィで囲んで指定しなければなりません。値にCL変数を指定する場合には、それを文字変数としなければなりません。

総称*属性値

総称属性値を指定してください。総称値は、1つ以上の文字の後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリング（例えば、ABC*）です。総称名を指定した場合には、その総称値で始まるすべての値が突き合されます。総称（接頭部）値にアスタリスクが含まれていない場合には、システムはそれを完全な値と見なします。総称属性値は、*EQおよび*NE演算子と一緒にの場合にだけ使用することができます。

上

グループ (GROUP)

警報がSELECTパラメーターに指定された基準と一致した場合に、その警報が割り当てられるグループを指定します。

*SAME

値は変更されません。

*DEFAULT

警報は*DEFAULTグループに割り当てられます。*DEFAULTグループは、フィルターの作成時に自動的に追加されます。

名前 警報を割り当てるグループ名を指定してください。

上

例

```
CHGALRSLTE  FILTER(MYLIB/MYFILTER)  SEQNBR(10)
              SELECT(*SAME)  GROUP(NEWSTUFF)
```

このコマンドは、ライブラリーMYLIB内のフィルターMYFILTER内の選択項目10に対するGROUPをNEWSTUFFに変更します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPD91CB

数値と一緒に*CTを使用することはできない。

CPF2150

オブジェクト情報機能に障害。

CPF2151

&1のタイプ*&3の&2に対する操作が正常に行なわれなかった。

CPF812F

フィルターに損傷がある。

CPF91DC

順序番号&4の選択項目が見つからなかった。

CPF91DE

フィルター&1/&2が最大サイズの限界に達した。

CPF91DF

*LAST項目のSELECTキーワードを変更することはできない。

CPF91EA

*IF関係が正しい位置にない。

CPF91EB

フィルター・タイプ&3はこの操作には正しくありません。

CPF91EC

内部処理エラーが起こった。

CPF91E6

総称値は、*EQまたは*NEでしか使用可能でない。

CPF91E7

指定された値の位置&4の文字が正しくない。

CPF91E8

内部処理エラーが起こった。

CPF9802

&3のオブジェクト&2は認可されていない。

CPF9803

ライブラリー&3のオブジェクト&2を割り振りできません。

CPF9807

ライブラリー・リストの1つまたは複数のライブラリーが削除された。

CPF9808

ライブラリー・リストの1つまたは複数のライブラリーを割り振ることができない。

上

警報テーブルの変更 (CHGALRTBL)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

警報テーブル変更(CHGALRTBL)コマンドを使用して、警報テーブル作成(CRTALRTBL)コマンドによって定義された値の1つを変更します。警報テーブルには、ネットワーク内の問題通知である警報が定義されません。CHGALRTBLコマンドを使用して、警報テーブルのプロダクトID、プロダクト・テキスト、またはオブジェクト・テキストを変更することができます。CHGALRTBLコマンドの代表的なユーザーは、システム・プログラマーまたはネットワーク・プログラマー、あるいはネットワーク管理の責任があるオペレーターです。警報の詳細については、AS/400 ALERT SUPPORT (SC41-5413)にあります。

注: ユーザーは警報テーブルに対するCHANGE権限をもっていなければなりません。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
ALRTBL	警報テーブル	修飾オブジェクト名	必須, キー, 定位置 1
	修飾子 1: 警報テーブル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
LICPGM	プロダクト	文字値, *SAME, *NONE	オプション
LICPGMTXT	ライセンス・プログラムのテキスト	文字値, *SAME, *BLANK	オプション
TEXT	テキスト記述	文字値, *SAME, *BLANK	オプション

上

警報テーブル (ALRTBL)

変更する警報テーブルの修飾名を指定します。各警報テーブルには、警報の作成に使用される警報記述が入っています。

これは必須パラメーターです。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

警報テーブルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目がない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

警報テーブルが入っているライブラリーを指定してください。指定したライブラリーだけが検索されます。ユーザーは指定したライブラリーに対するREAD権限をもっていなければなりません。

上

プロダクト (LICPGM)

この警報テーブルに対応したライセンス・プログラムを指定します。このプログラムは、警報送信元のソフトウェア・プロダクト識別として警報中に組み込まれます。

*SAME

LICPGM値は変更されません。

*NONE

ライセンス・プログラムは指定されません。

ライセンス・プログラム

ライセンス・プログラム用の7桁のプロダクトIDを指定してください。警報管理機能はこのIDを使用して、ソフトウェア資源管理データベースにアクセスし、リリースおよびレベル情報を取得します。

注: このパラメーターは必ずしも弊社のライセンス・プログラムである必要はありません。警報処理コマンドの使用にとって意味のある任意の7桁のIDを指定できます。LICPGMパラメーターに指定された値がシステムに定義されている場合は、IDと、リリースおよびレベル情報が警報中に組み込まれます。

上

ライセンス・プログラムのテキスト (LICPGMTXT)

警報テーブル・ライセンス・プログラム・パラメーターについての説明的なテキストを指定します (例えば、'IBM i5/OS')。このテキストは、警報送信元のプロダクト識別として警報中に組み込まれます。

*SAME

テキストは変更されません。

*NONE

テキストは指定されません。

'ライセンス・プログラムのテキスト'

ライセンス・プログラムを記述する最大30文字までのテキストを指定してください。

上

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

*SAME

テキストは変更されません。

*BLANK

テキストは指定されません。

'記述' 50文字以内をアポストロフィで囲んで指定してください。

上

例

```
CHGALRTBL ALRTBL(ALRTBLLIB/ALRTBLNBR1)
          LICPGMTXT('i5/OS--customer defined')
```

このコマンドは、ライブラリーALRTBLLIBのALRTBLNBR1という警報テーブル用にライセンス・プログラムを変更します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF9801

ライブラリー&3にオブジェクト&2が見つからない。

CPF9802

&3のオブジェクト&2は認可されていない。

CPF9803

ライブラリー&3のオブジェクト&2を割り振りできません。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

上

ASP属性の変更 (CHGASPA)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

補助記憶域プール属性変更(CHGASPA)コマンドにより、ユーザーは補助記憶域プール(ASP)の動作を制御する属性を変更することができます。

制約事項:

- このコマンドを実行するためには、全オブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
ASP	ASP番号	単一値: *ALLUSR その他の値 (最大 31 回の繰り返し): 2-32	オプション, 定位置 1
ASPDEV	ASP装置	単一値: *ALLAVL その他の値 (最大 32 回の繰り返し): 名前	オプション
CPRRCYPCY	圧縮回復ポリシー	*SAME, *OVERFLOW, *RETRY, *WAIT	オプション

上

ASP番号 (ASP)

ASP属性が変更される補助記憶域プール(ASP)を指定します。

注: ASP番号 (ASP)パラメーターまたはASP装置 (ASPDEV)パラメーターのいずれかに値を指定する必要があります。

単一値

*ALLUSR

定義済みのすべての基本ASP(ASP番号2から32)の指定された属性が変更されます。 システムASP (ASP番号1)は変更されません。

その他の値 (最大31個指定可能)

2から32

指定した属性が変更される基本ASPの番号を指定してください。

上

ASP装置 (ASPDEV)

属性が変更される補助記憶域プール(ASP)装置の名前を指定します。

注: ASP番号 (ASP)パラメーターまたはASP装置 (ASPDEV)パラメーターのいずれかに値を指定する必要があります。

単一値

*ALLAVL

現在「使用可能」の状態になっているすべてのASP装置の指定された属性が変更されます。

その他の値 (最大32個指定可能)

名前 特定の属性が変更される独立ASP装置の名前を指定してください。

上

圧縮回復ポリシー (CPRRCYPCY)

補助記憶域プール(ASP)の圧縮回復ポリシーが何であるかを指定します。このポリシーは、ASPが圧縮された装置をもっている時にシステムがASPオーバーフロー状況をどのように処理するかを示します。圧縮回復ポリシーの詳細については、Recovering your system book (SD88-5008)を参照してください。

*SAME

圧縮回復ポリシーは変更されません。

*OVERFLOW

ASPの許容量を超えそうになった状態をシステムが検出すると、データは直ちにシステムASP中にオーバーフローします。システムの省略時の圧縮回復ポリシーは*OVERFLOWです。

注: このパラメーター値はASP装置には指定できません。

*RETRY

ASPの許容量を超えそうになっている状態をシステムが検出すると、システムはシステム・コントロール・パネルにシステム参照コード(SRC) **A6XX 0277**を記入し、ASP中のスペースが使用可能になるのを待ちます。スペースが使用可能になると、SRCがシステム・コントロール・パネルから取り除かれ、そのASPに対する通常の操作が再開されます。

ASPのスペースを使用可能にできなくて、ASPが基本ユーザーASP (ASP番号2から32)である場合は、システム・コントロール・パネルからSRCが除去され、データがシステムASP (ASP番号1)にオーバーフローし、通常の操作が再開されます。ASP装置の場合は、スペースを使用可能にできなければ操作は失敗します。

*WAIT

ASPの許容量を超えそうになっている状態をシステムが検出すると、システムはシステム・コントロール・パネルにSRC **A6XX 0277**を記入し、スペースが使用可能になるまでいつまでも待ちます。このASPに対する通常の操作は、ユーザーが処置を取るまで再開されません。ユーザーが取り得る処置としては、ASPがオーバーフローできるように圧縮回復ポリシーを変更したり、あるいはASP中のオブジェクトを削除することなどがあります。

上

例

例1:すべてのユーザーASPを変更する

```
CHGASPA ASP(*ALLUSR) CPRRCYPCY(*WAIT)
```

このコマンドは、すべてのユーザー補助記憶域プールの圧縮回復ポリシーを*WAITに変更します。

例2:特定のASPを変更する

```
CHGASPA ASP(2 5) CPRRCYPCY(*RETRY)
```

このコマンドは、補助記憶域プール2と5の圧縮回復ポリシーを*RETRYに変更します。

例3:特定のASP装置を変更する

```
CHGASPA ASPDEV(MYASP1) CPRRCYPCY(*RETRY)
```

このコマンドは、補助記憶域プールASP装置MYASP1の圧縮回復ポリシーを変更します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF9829

補助記憶域プール&1が見つからない。

CPF1890

要求された操作には*ALLOBJ権限が必要である。

上

ASP 活動の変更 (CHGASPACT)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ASP 活動の変更 (CHGASPACT)コマンドを使用して次のことができます。

- 構成された基本補助記憶域プール(ASP)または独立ASP, およびシステムASPに対する, データベース・トランザクション, データベースおよび統合ファイル・システムのファイル変更操作を中断する。
- 構成された基本補助記憶域プール(ASP)または独立ASP, およびシステムASPに対する, 中断されているトランザクションおよびファイル操作を再開する。
- 構成された基本補助記憶域プール(ASP)または独立ASP, およびシステムASPに関連する変更されたページをディスクに強制的に書き込む。

フラッシュ・コピー実行後のオンに変更, または, 地理的ミラー切り離しの後のオンに変更を容易にするため, ASPを中断状態にできます。オンに変更は, リカバリー手順 (未完了トランザクションのロールバック, アクセス・パスの再作成, ジャーナル・ファイルのデータベース・レコードの更新, およびその他のリカバリー処理が実行されます) を通過します。切り替え進行中に発生する変更内容はトラッキングされません。

制約事項:

- このコマンドを実行するには, ジョブ制御(*JOBCTL)特殊権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
ASPDEV	ASP装置	名前, *SYSBAS	必須, 定位置 1
OPTION	オプション	*SUSPEND, *RESUME, *FRCWRT	必須, 定位置 2
SSPTIMO	延期タイムアウト	整数	オプション
SSPTIMOACN	延期タイムアウト処置	*CONT, *END	オプション

上

ASP装置 (ASPDEV)

コマンドが実行される補助記憶域プール(ASP)装置を指定します。

これは必須パラメーターです。

*SYSBAS

システムASP (ASP番号1)および構成されたすべての基本ASP (ASP番号2から32)で操作が実行されます。

名前 操作が実行される独立ASP装置の名前を指定してください。

上

オプション (OPTION)

実行するオプションを指定します。これは必須パラメーターです。

*SUSPEND

ASP装置(ASPDEV)パラメーターに指定された補助記憶域プール(ASP)に対するアクティビティーは中断され、指定されたASPは静止されます。100%静止は不要です。新規トランザクションまたは新規ファイル（データベースまたは統合ファイル・システム）操作の開始は一時的に停止されます。

*RESUME

指定された装置に対するアクティビティーが再開されます。このパラメーター値は、現在中断状態のASPに対してのみ有効です。開始が現在一時停止されているトランザクションまたは操作要求が開始します。新規トランザクションまたは操作要求は中断されません。

*FRCWRT

指定されたASPのデータは強制的にディスクに書き込まれます。この操作の間、ASPは活動状態のままになります。変更されたデータをディスクに強制的に書き込むと、ASPをオフに変更するのに要する時間、またはASPをあるシステムから別のシステムに切り替えるのに要する時間が削減されます。

上

延期タイムアウト (SSPTIMO)

中断状態の操作に対するタイムアウト値を指定します。

注: OPTION(*SUSPEND)が指定されている場合、これは必須パラメーターです。それ以外のOPTION値が指定されている場合、このパラメーターは無視されます。タイムアウトになった後も中断は継続することに注意してください。タイムアウトは、コマンドが完了するまでの時間の最大値です。

数値 操作の完了までに許容される秒数を指定します。

上

延期タイムアウト処置 (SSPTIMOACN)

SSPTIMOパラメーターに指定された中断タイムアウト値に達した場合の処置を指定します。

*CONT

指定された時間内にASPを静止できない場合でも、中断を続行します。

***END** 指定された時間内にASPを静止できない場合、中断操作を取り消します。

上

例

例1: システムおよび基本ユーザーASPの活動を中断する

206 System i: プログラミング i5/OS コマンド ANZPRFACT (プロファイル活動の分析) ~

```
CHGASPACT ASPDEV(*SYSBAS) OPTION(*SUSPEND)
          SSPTIMO(30) SSPTIMOACN(*CONT)
```

このコマンドは、システム補助記憶域プール(ASP)および構成済み基本ユーザーASPへの活動を中断し、静止が30秒以内に完了できない場合は使用停止の処理が続行されます。

例2:中断状態のシステムおよび基本ユーザーASPを再開する

```
CHGASPACT ASPDEV(*SYSBAS) OPTION(*RESUME)
```

このコマンドは、すでに中断されたシステムASPおよび構成済み基本ユーザーASPへの活動を再開します。

例3:独立 ASPへの活動を中断する

```
CHGASPACT ASPDEV(MYASP) OPTION(*SUSPEND)
          SSPTIMO(60) SSPTIMOACN(*END)
```

このコマンドは、ASP装置MYASPに関連する独立ASPへの活動を中断します。独立ASPが60秒以内に静止しない場合は、中断要求が終了します。

例4:独立 ASPの変更済みページを主記憶域からディスクへ強制的に処理する

```
CHGASPACT ASPDEV(MYASP) OPTION(*FRCWRT)
```

このコマンドは、独立 ASP MYASPのすべての変更済みページがディスクに強制的に書き込まれるようにします。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF222E

&1特殊権限が必要である。

CPFB717

延期アクセスはタイムアウトして正常に完了しなかった。

CPFBA44

操作またはアクション・キーが正しくない。

CPFB8ED

装置記述&1はこの操作には正しくありません。

CPF9801

ライブラリー&3にオブジェクト&2が見つからない。

CPF9814

装置&1が見つかりません。

CPF9825

装置&1は認可されていない。

CPF9899

コマンドの処理中にエラーが起こった。

上

属性変更 (CHGATR)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: 条件付き

パラメーター
例
エラー・メッセージ

属性変更 (CHGATR)コマンドによって、単一の属性を単一オブジェクトまたはオブジェクト・グループの属性として変更することができます。オブジェクト名のパターンを使用して、関連オブジェクトのグループの単一属性を変更することができます。

また、CHGATRコマンドを使用して、指定されたディレクトリー、その内容、およびそのすべてのサブディレクトリーの内容に変更される属性があるディレクトリー・ツリーの属性を変更することもできます。SUBTREE(*ALL)が指定されている場合には、コマンドは、サブツリー内の可能な限りのオブジェクトの属性を変更しようとしています。その属性が変更できない各オブジェクトに対して、診断メッセージが送信されます。すべてのオブジェクトの処理が行われた時、エラーがあった場合にエスケープ・メッセージが送信されます。すべてのオブジェクトでエラーなしで属性が変更された場合には、完了メッセージが送信されます。

統合ファイル・システム・コマンドの詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「統合ファイル・システム」トピック・コレクションを参照してください。

制約事項:

- *CRTOBJAUD属性の変更時を除いて、パス名接頭部のディレクトリーに対する実行(*X)権限が必要です。
- サブツリー処理の実行時には、*CRTOBJAUD属性の変更時を除いて、パス名およびそのパス内のすべてのサブディレクトリーに対する読み取り(*R)および*X権限が必要です。
- *CRTOBJSCANまたは*SCAN属性の変更時には、全オブジェクト(*ALLOBJ)および機密保護管理者(*SECADM)特殊権限が必要です。
- オブジェクトに*RSTDRNMUNL, *SETUID,および*SETGID属性を設定するためには、そのオブジェクトを所有するか、あるいは全オブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限を持っている必要があります。
- ディレクトリー・オブジェクトの*CRTOBJAUD属性を設定するには、監査(*AUDIT)特殊権限が必要です。
- QSYS.LIB,独立ASP QSYS.LIB,およびQDLSを除くすべてのファイル・システムで、*ALWCKPWRT, *ALWSAV, *USECOUNT, *DISKSTGOPT,または*MAINSTGOPT属性を変更する場合には、オブジェクトに対するオブジェクト管理(*OBJMGT)権限が必要です。
- QSYS.LIB,独立ASP QSYS.LIB,およびQDLSを除くすべてのファイル・システムでは、別に注記されない限り、属性を変更する時にオブジェクトに対する書き込み(*W)権限が必要です。
- ディレクトリー・オブジェクトの属性*ALWCKPWRTを変更すると、失敗して、エラー・メッセージCPFA0ADおよびCPFB414が戻されます。
- QSYS.LIBおよび独立ASP QSYS.LIBファイル・システムでは、オブジェクト・タイプは*FILEの場合には*USECOUNT属性を変更するためのオブジェクト操作(*OBJOPR)およびオブジェクト管理(*OBJMGT)権限が必要で、オブジェクトがデータベース・ファイル・メンバーである場合には*USECOUNTを変更するための*Xおよび*OBJMGT権限が必要であり、オブジェクトが*FILEでもデータベース・メンバーでもない場合には*USECOUNTを変更するための*OBJMGT権限が必要です。

- QDLSファイル・システムでは、*USECOUNT属性を変更するための*Wおよび*OBJMGT権限が必要です。
- このコマンドは条件付きのスレッド・セーフです。 次の制約事項が適用されます。

このコマンドは、この機能が操作されているオブジェクトがスレッド・セーフでないファイル・システムに存在する場合には、スレッド・セーフではありません。以下のファイル・システムだけがこの機能でスレッド・セーフです。

- "ルート" (l)
- QOPENSYS
- ユーザー定義
- QNTC
- QSYS.LIB
- 独立ASP QSYS.LIB
- QOPT
- ネットワーク・ファイル・システム
- QFILESVR.400

"ルート" (l), QOPENSYS,およびユーザー定義ファイル・システムの相違点

- *USECOUNT属性は、タイプ*STMFのオブジェクトの場合にのみサポートされます。これらを他のオブジェクトに設定しようとすると、操作障害が起こります。
- /DEV/NULL, /DEV/ZERO,またはタイプ*SOCKETのオブジェクトの*ALWSAV属性に*YESの値を指定することはできません。これらのオブジェクトにこれを設定しようとすると、操作障害が起こります。
- ディレクトリーの*SETGID属性は、そのディレクトリーで作成されるオブジェクトのグループID (GID)に影響します。親ディレクトリーの*SETGID属性がオフの場合には、GIDはオブジェクトを作成するスレッドの有効なGIDに設定されます。親ディレクトリーの*SETGIDがオンの場合には、新規オブジェクトのGIDは親ディレクトリーのGIDに設定されます。他のすべてのファイル・システムの場合には、新規オブジェクトのGIDは親ディレクトリーのGIDに設定されます。
- 1次グループを持つオブジェクトに*RSTDRNMUNL, *SETUID,または*SETGID属性を設定する場合には、1次グループIDまたはこのコマンドの呼び出し元の補足グループIDと一致しなければならず、そうでない場合には*SETGID属性は*NOに設定されます。

QSYS.LIBと独立ASP QSYS.LIBファイル・システムの相違点

- これらのファイル・システムのオブジェクトには、次の属性を設定することができます。
 - *CRTOBJAUD
 - *USECOUNT

データベース・ファイルの*USECOUNT属性が設定されている場合には、そのファイルのすべてのメンバーもその使用日数カウントを0にリセットされます。

- QSYS.LIBおよび独立ASP QSYS.LIBは、*SETUIDまたは*SETGID属性の設定をサポートしません。これらは指定しても無視されます。
- 他の属性を設定しようとすると、操作障害が起こります。

ネットワーク・ファイル・システムの相違点

- ネットワーク・ファイル・システムのオブジェクトに次の属性が指定されている場合には、属性が次の属性値に設定されていなければ操作は失敗します。

- 設定されている場合に、*READONLYは属性値*NOに設定されなければなりません。
- 設定されている場合に、*HIDDENは属性値*NOに設定されなければなりません。
- 設定されている場合に、*PCSYSTEMは属性値*NOに設定されなければなりません。
- 設定されている場合に、*PCARCHIVEは属性値*NOに設定されなければなりません、オブジェクトがタイプ*STMFの場合には属性値は*YESでなければなりません。
- 設定されている場合に、*SYSARCHIVEは属性値*NOに設定されなければなりません。

*USECOUNT, *CCSID, *ALWSAV, *ALWCKPWRT, *DISKSTGOPT, *MAINSTGOPT, *CRTOBJAUD属性は、ネットワーク・ファイル・システム内のオブジェクトに設定することはできません。設定すると、操作障害が起こります。

- NFSクライアントは、ネットワークを介して*SETUID, *SETGID,および*RSTDRNMUNL属性を介してサーバーに渡し、呼び出し元に示すことによってこれらをサポートします。特定のネットワーク・ファイル・システムがこれらの属性の設定をサポートするかどうかは、サーバーによって決まります。ほとんどのサーバーは、エクスポートでNOSUIDオプションが指定されていれば、*SETUIDおよび*SETGID属性をマスクオフする機能を持っています。しかし、省略時の値ではこれらの属性がサポートされます。

QOPTファイル・システムの相違点

- *ALWSAV属性に*YESが指定されていると、操作は失敗します。
- QOPTは、光ディスク媒体形式の*SETUID, *SETGID, *RSTDRNMUNLおよび*CRTOBJAUD属性の設定をサポートしません。これらの属性を指定すると、操作は失敗します。

QDLSファイル・システムの相違点:

- このファイル・システムのオブジェクトには、次の属性を設定することができます。
 - *CCSID
 - *HIDDEN
 - *PCARCHIVE
 - *READONLY
 - *SYSARCHIVE
 - *USECOUNT (文書のみ)

*SETUIDまたは*SETGID以外の他の属性を設定しようとすると、操作障害が起こります。

- QDLSは、*SETUIDまたは*SETGID属性の設定をサポートしません。これらは指定しても無視されます。

QFILESVR.400の相違点

- このファイル・システムのオブジェクトには、次の属性を設定することができます。
 - *CCSID
 - *CRTOBJAUD

注: ソースとターゲット・システム上のQSECOFRユーザー・プロファイルが使用可能であり、*CRTOBJAUD属性の変更を成功させるためにはそのパスワードが一致していなければなりません。

- *CRTOBJSCAN
- *HIDDEN
- *PCARCHIVE
- *PCSYSTEM
- *READONLY

- *SCAN
- *SYSARCHIVE

*SETUID, *SETGID, および*RSTDRNMUNL以外の他の属性を設定しようとすると、操作障害が起こります。

- QFILESVR.400は、*SETUID, *SETGID, および*RSTDRNMUNL属性をサーバーに渡し、呼び出し元を示すことによって、これらをサポートします。

QNTCの相違点

- QNTCは、以下の属性をサーバーに渡し、それを呼び出し元を示すことによって、それらの属性の設定をサポートします。

- *HIDDEN
- *PCARCHIVE
- *PCSYSTEM
- *READONLY

*SETUIDまたは*SETGID以外の他の属性を設定しようとすると、操作障害が起こります。

- QNTCは*SETUIDまたは*SETGID属性の設定をサポートしません。これらは指定しても無視されます。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
OBJ	オブジェクト	パス名	必須, 定位置 1
ATR	属性	*READONLY, *HIDDEN, *PCSYSTEM, *PCARCHIVE, *SYSARCHIVE, *CCSID, *ALWCKPWRT, *USECOUNT, *DISKSTGOPT, *MAINSTGOPT, *CRTOBJSCAN, *SCAN, *ALWSAV, *RSTDRNMUNL, *SETUID, *SETGID, *CRTOBJAUD	必須, 定位置 2
VALUE	新しい値	1-65533, *YES, *NO, *RESET, *NORMAL, *MINIMIZE, *DYNAMIC, *CHGONLY, *SYSVAL, *NONE, *USRPRF, *ALL, *CHANGE	必須, 定位置 3
SUBTREE	ディレクトリーのサブツリー	*NONE, *ALL	オプション
SYMLNK	シンボリック・リンク	*NO, *YES	オプション

上

オブジェクト (OBJ)

属性を変更したオブジェクトの名前と一致するオブジェクトのパス名またはパターンを指定します。 オブジェクト・パス名は、単純名、またはオブジェクトが入っているディレクトリーの名前で修飾された名前とすることができます。パス名の最後の部分にパターンを指定することができます。アスタリスク(*)は任意の数の文字が突き合わされ、疑問符(?)は単一文字が突き合わされます。パス名が修飾されているか、あるいはパターンを含んでいる場合には、パス名をアポストロフィで囲まなければなりません。

パス名を指定するときの詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリーに含まれる制御言語(CL) トピック・コレクションの「オブジェクトの命名規則」を参照してください。

注: このパラメーターではUnicodeが使用可能です。詳しくは、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリーに含まれる制御言語(CL) トピック・コレクションで「CLでのUnicodeサポート」を参照してください。

上

属性 (ATR)

変更する属性を指定します。

*READONLY

オブジェクトが書き込みまたは削除できるか、拡張属性が変更または削除されたか、あるいはそのサイズが変更されたかどうか。

新しい値 (VALUE)パラメーターに使用できる値は、次のとおりです。

*YES オブジェクトを変更または削除できません。

*NO オブジェクトを変更または削除できます。

*HIDDEN

通常ディレクトリー・リストを使用してオブジェクトを表示できるかどうか。

VALUEパラメーターに指定できる値は次の通りです。

*YES オブジェクトは隠されたままで、通常ディレクトリー・リストを使用して表示できません。

*NO オブジェクトは隠されず、通常ディレクトリー・リストを使用して表示できます。

*PCSYSTEM

オブジェクトがPCシステム・ファイルで、通常ディレクトリー検索から除外されるかどうか。

VALUEパラメーターに指定できる値は次の通りです。

*YES オブジェクトはPCシステム・ファイルです。

*NO オブジェクトはPCシステム・ファイルではありません。

*PCARCHIVE

PCクライアントによって最後に保管または再設定されてから、オブジェクトが変更されたかどうか。

VALUEパラメーターに指定できる値は次の通りです。

***YES** オブジェクトは変更されました。

***NO** オブジェクトは変更されていません。

*SYSARCHIVE

オブジェクトが変更され、保管する必要があるかどうか。オブジェクトの変更時刻が更新された時にオンに設定され、オブジェクトが保管された時にオフに設定されます。

VALUEパラメーターに指定できる値は次の通りです。

***YES** オブジェクトが変更され、保管する必要があります。

***NO** オブジェクトが変更されておらず、保管する必要がありません。

*CCSID

データのコード化文字セットID (CCSID)およびオブジェクトの拡張属性。

注: CCSIDを変更しても、データまたは拡張属性は変換されません。CCSIDの変更では、オブジェクトに関連した値が変更されるだけです。これは、オブジェクトに関連した拡張属性に含まれているデータにも適用されます。

VALUEパラメーターに指定できる値は次の通りです。

1から65533

オブジェクトのデータおよび拡張属性のCCSID。

*ALWCKPWRT

活動時保管チェックポイントの処理中に、ストリーム・ファイル(*STMF)を読み取りプログラムおよび書き出しプログラムと共用できるかどうか。この属性の現行値を変更すると、予期しない結果になる可能性があります。この属性の詳細については、Recovering your system book (SD88-5008)を参照してください。

VALUEパラメーターに指定できる値は次の通りです。

***YES** オブジェクトを読み取りプログラムおよび書き出しプログラムと共用できます。

***NO** オブジェクトは読み取りプログラムとしか共用できません。

*USECOUNT

オブジェクトが使用された日数のカウント。ファイル・システムによって、およびファイル・システム内でサポートされる個々のオブジェクト・タイプによって、使用状況は異なる意味をもちます。使用状況は、ファイルのオープンまたはクローズを示すことがあり、リンクの追加、オブジェクトの名前変更、復元、またはチェックアウトを指す場合があります。この属性が変更されると、使用された日数のカウントは、ゼロにリセットされ、使用カウント日付は現在日付に設定されます。

VALUEパラメーターに使用できる値は、次のとおりです。

***RESET**

使用された日数のカウン트는、ゼロにリセットされ、使用カウント日付は現在日付に設定されます。

***DISKSTGOPT**

これは、指定されたオブジェクトに対してシステムが補助記憶域を割り振る方法を決定します。このオプションはただちに有効となり、オブジェクトの次の補助記憶域割り振りの一部となります。このオプションを指定できるのは、“ルート” (/), QOPENSYS,およびユーザー定義ファイル・システムのストリーム・ファイルの場合だけです。このオプションは、*TYPE1ストリーム・ファイルの場合は無視されます。

VALUEパラメーターに指定できる値は次の通りです。

***NORMAL**

補助記憶域が通常通り割り振られます。すなわち、追加の補助記憶域が必要になると、現行のスペース所要量を入れるために論理的にサイズ決めされたエクステントに割り振られ、ディスク入出力(I/O)操作の数を最小にした将来の所要量が予測されます。オブジェクトに*DISKSTGOPT属性が指定されていない場合には、この値が省略時の値となります。

***MINIMIZE**

補助記憶域は、オブジェクトによって使用されるスペースを最小化するために割り振られます。すなわち、追加の補助記憶域が必要になると、それは現行のスペース所要量を入れるための小さいサイズのエクステントに割り振られます。多くの小さなエクステントから成るオブジェクトにアクセスすると、そのオブジェクトのディスク入出力操作の回数が多くなる場合があります。

***DYNAMIC**

システムは、使用されるスペースとディスク入出力操作回数とのバランスをとりながら、オブジェクトに対して最適な補助記憶域の割り振りを動的に決定します。例えば、ファイルの中に多くの小さなエクステントがあり、さらに読み取りおよび書き込みが頻繁に行われる場合には、ディスク入出力操作の回数を最小化するために、将来の補助記憶域の割り振りはより大きいエクステントとなります。あるいは、ファイルが頻繁に切り捨てられる場合は、将来の補助記憶域の割り振りは、使用されるスペースを最小化するように、小さいエクステントとなります。さらに、このシステムおよびその活動の情報は、ストリーム・ファイル・サイズで保守されます。このファイル・サイズ情報は、このオブジェクトが他のオブジェクト・サイズと関連している時に、このオブジェクトの最適な補助記憶域割り振りを決定するのに役立つために使用することもできます。

***MAINSTGOPT**

これは、指定されたオブジェクトについて、主記憶域がシステムによってどのように割り振られ、使用されるかを決定します。このオプションは指定されたオブジェクトが次回にオープンされる時に有効となります。このオプションを指定できるのは、“ルート” (/), QOPENSYS,およびユーザー定義ファイル・システムのストリーム・ファイルの場合だけです。

VALUEパラメーターに指定できる値は次の通りです。

***NORMAL**

主記憶域が通常通り割り振られます。すなわち、できるだけ多くの主記憶域が割り振ら

れ、使用されます。情報は主記憶域にキャッシュされるので、これはディスク入出力操作の回数を最小化します。オブジェクトに*MAINSTGOPT属性が指定されていない場合には、この値が省略時の値となります。

*MINIMIZE

主記憶域は、オブジェクトによって使用されるスペースを最小化するように割り振られます。すなわち、できるだけ少ない主記憶域が割り振られ、使用されます。少ない情報が主記憶域にキャッシュされるので、これは主記憶域使用量を最小化し、一方でディスク入出力操作の回数を増やします。

*DYNAMIC

システムは、他のシステム活動および主記憶域の競合に応じて、オブジェクトに対する最適な主記憶域の割り振りを動的に決定します。すなわち、主記憶域の競合がほとんどない時は、ディスク入出力操作の回数を最小化するために、できるだけ多くの記憶域が割り振られて使用されます。著しい主記憶域の競合がある時は、主記憶域の競合を最小化するために、より少ない主記憶域が割り振られて使用されます。このオプションは、記憶域プールのページング・オプションが*CALCの時のみ効果があります。記憶域プールのページング・オプションが*FIXEDである時は、動作は*NORMALの場合と同じになります。オブジェクトがファイル・サーバーを通じてアクセスされる時は、このオプションは効果がありません。代わりに、その動作は*NORMALと同じになります。

*CRTOBJSCAN

出口プログラムが統合ファイル・システムのスキャン関連出口点で登録されるときに、ディレクトリーに作成されたオブジェクトがスキャンされるかどうかを指定します。

統合ファイル・システムの走査関連出口点は、以下のとおりです。

- QIBM_QPOL_SCAN_OPEN -オープン出口プログラムでの統合ファイル・システム走査
- QIBM_QPOL_SCAN_CLOSE -クローズ出口プログラムでの統合ファイル・システム走査

これらの出口点の詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリーに含まれるAPIトピック・コレクションを参照してください。

このオプションを指定できるのは、“ルート”(/)、QOPENSYS、およびユーザー定義ファイル・システムのディレクトリーの場合だけです。この属性は*TYPE1および*TYPE2ディレクトリーに設定できますが、この属性に設定されている値に関係なく、実際には*TYPE2ディレクトリーにあるオブジェクトだけがスキャンされます。

VALUEパラメーターに指定できる値は次の通りです。

***YES** ディレクトリーにオブジェクトが作成された後で、オブジェクトが変更されているかあるいは最後にオブジェクトがスキャンされた後でスキャン・プログラムが更新されている場合には、そのオブジェクトはスキャン関連出口プログラムに記述されている規則に従ってスキャンされます。ディレクトリーに*CRTOBJSCAN属性が指定されていない場合には、この値は省略時の値となります。

***NO** ディレクトリーにオブジェクトが作成された後で、そのオブジェクトはスキャン関連出口プログラムによってスキャンされません。

注：この属性を持つオブジェクトが復元されたときにスキャン・ファイル・システム制御(QSCANFCTL)値*NOPOSTRSTが指定されていない場合には、オブジェクトは復元後に少なくとも1回スキャンされます。

*CHGONLY

ディレクトリーにオブジェクトが作成された後で、最後のオブジェクトのスキャン以降にオブジェクトが変更されている場合に限り、オブジェクトは、スキャン関連の出口プログラムに記述された規則に従ってスキャンされます。スキャン・ソフトウェアが更新されても、オブジェクトはスキャンされません。この属性が有効となるのは、スキャン・ファイル・システム制御(QSCANFCTL)システム値に*USEOCOATRが指定されている場合だけです。そうでない場合には、属性が*YESの場合と同様に処理されます。

注: この属性を持つオブジェクトが復元されたときにスキャン・ファイル・システム制御(QSCANFCTL)値*NOPOSTRSTが指定されていない場合には、オブジェクトは復元後に少なくとも1回スキャンされます。

*SCAN

出口プログラムが統合ファイル・システムのスキャン関連出口点で登録されるときにオブジェクトがスキャンされるかどうかを指定します。

統合ファイル・システムの走査関連出口点は、以下のとおりです。

- QIBM_QPOL_SCAN_OPEN -オープン出口プログラムでの統合ファイル・システム走査
- QIBM_QPOL_SCAN_CLOSE -クローズ出口プログラムでの統合ファイル・システム走査

これらの出口点の詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリーに含まれるAPIトピック・コレクションを参照してください。

このオプションを指定できるのは、“ルート” (/), QOPENSYS,および仮想ボリュームまたはネットワーク・サーバー・ストレージ・スペースでないユーザー定義ファイル・システムのストリーム・ファイルの場合だけです。この属性は*TYPE1および*TYPE2ディレクトリーに設定できますが、この属性に設定されている値に関係なく、実際には*TYPE2ディレクトリーにあるオブジェクトだけがスキャンされます。

VALUEパラメーターに指定できる値は次の通りです。

***YES** オブジェクトが変更されているか、あるいは最後にオブジェクトがスキャンされてから後でスキャン・ソフトウェアが更新されている場合には、オブジェクトはスキャン関連出口プログラムに記述されている規則に従ってスキャンされます。オブジェクトに*SCAN属性が指定されていない場合は、この値は省略時値となります。

***NO** オブジェクトは、スキャン関連出口プログラムによってスキャンされません。

注: この属性を持つオブジェクトが復元されたときにスキャン・ファイル・システム制御(QSCANFCTL)値*NOPOSTRSTが指定されていない場合には、オブジェクトは復元後に少なくとも1回スキャンされます。

*CHGONLY

オブジェクトが最後にスキャンされてから後で変更されている場合に限り、オブジェクトはスキャン関連出口プログラムに記述されている規則に従ってスキャンされます。スキャン・ソフトウェアが更新されても、オブジェクトはスキャンされません。この属性が有効となるのは、スキャン・ファイル・システム制御(QSCANFCTL)システム値に*USEOCOATRが指定されている場合だけです。そうでない場合には、属性が*YESの場合と同様に処理されます。

注: この属性を持つオブジェクトが復元されたときにスキャン・ファイル・システム制御 (QSCANFSCTL)値*NOPOSTRSTが指定されていない場合には、オブジェクトは復元後に少なくとも1回スキャンされます。

*ALWSAV

オブジェクトを保管できるかどうかを指定します。

注: システム作成オブジェクトの場合には、この属性を変更しないことを強くお奨めします。

VALUEパラメーターに指定できる値は次の通りです。

***YES** このオブジェクトは、オブジェクトの保管 (SAV)コマンドまたはQSRSAVE() APIの使用時に保管されます。オブジェクトに*ALWSAV属性が指定されていない場合には、この値は省略時の値となります。

***NO** このオブジェクトはSAVコマンドまたはQSRSAVE() APIの使用時に保管されません。

さらに、このオブジェクトがディレクトリーの場合には、ディレクトリーのサブツリーのオブジェクトは、保管するオブジェクトとして明示的に指定されていない限り、いずれも保管されません。このサブツリーには、すべてのサブディレクトリーおよびそのサブディレクトリー内のオブジェクトが含まれます。

注: 関連した専用権限を持つオブジェクトにこの属性が選択された場合、または関連する専用権限を持つオブジェクトのディレクトリーにこの属性が選択された場合には、次の考慮事項が適用されます。専用権限が保管される場合には、オブジェクトが「いいえ」の*ALWSAV属性を持っているという事実は考慮されません。(専用権限は、システム保管 (SAVSYS)または機密保護データ保管(SAVSECDDTA)コマンド、あるいはオブジェクト・リスト保管(QSRSAVO) APIのいずれかを使用して保管することができます。)したがって、権限復元(RSTAUT)コマンドを使用して専用権限が復元される場合には、「いいえ」と指定された*ALWSAV属性を持っているか、あるいはオブジェクトが保管に指定されていないで「いいえ」と指定された*ALWSAV属性を持つディレクトリーに入っているかのいずれかのために保管されなかったそれぞれのオブジェクトに対してメッセージCPD3776が表示されます。

*RSTDRNMUNL

ディレクトリー内のオブジェクトの名前変更およびリンク解除が制限されます。オブジェクトはこの属性がオンに設定されているディレクトリーにリンクできますが、操作を実行するユーザーに対して次の1つ以上が真でない場合には、名前変更またはリンク解除することはできません。

1. ユーザーがオブジェクトの所有者である。
2. ユーザーがディレクトリーの所有者である。
3. ユーザーが全オブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限を持っている。

この制約事項はディレクトリーだけに適用されます。その他のタイプのオブジェクトは、この属性をオンに設定できますが、それは無視されます。さらに、この属性を指定できるのは、ネットワーク・ファイル・システム(NFS)、QFILESVR.400、"ルート" (/)、QOPENSYS、またはユーザー定義ファイル・システム内のオブジェクトの場合だけです。NFSとQFILESVR.400の両方のファイル・システムは、属性をサーバーに渡し、呼び出し元を示すことによって、この属性をサポートします。またこの属性は、オブジェクトのS_ISVTXモード・ビットとも同じです。

VALUEパラメーターに指定できる値は次の通りです。

***YES** 名前変更およびリンク解除操作の追加の制約事項。

***NO** 名前変更およびリンク解除操作の追加の制約事項なし。

***SETUID**

実行時に有効ユーザーID (UID)を設定します。指定されたオブジェクトがディレクトリーの場合は、この値は無視されます。

VALUEパラメーターに指定できる値は次の通りです。

***YES** オブジェクト所有者は、実行時に有効なUIDとなります。

***NO** 実行時にUIDは設定されません。

***SETGID**

実行時に有効グループID (GID)を設定します。

VALUEパラメーターに指定できる値は次の通りです。

***YES** オブジェクトがファイルの場合には、GIDは実行時に設定されます。オブジェクトがディレクトリーの場合には、ディレクトリーに作成されたオブジェクトのGIDは、親ディレクトリーのGIDに設定されます。

***NO** オブジェクトがファイルの場合には、実行時にGIDは設定されません。オブジェクトが"ルート" (/), QOPENSYS,およびユーザー定義ファイル・システム内のディレクトリーの場合には、ディレクトリーに作成されたオブジェクトのGIDは、オブジェクトを作成するスレッドの有効なGIDに設定されます。

***CRTOBJAUD**

このディレクトリーに作成されるオブジェクトの監査値を指定します。

この属性を指定できるのは、"ルート" (/), QOPENSYS, QSYS.LIB,独立ASP QSYS.LIB, QFILESVR.400およびユーザー定義ファイル・システム中のディレクトリーの場合だけです。

VALUEパラメーターに指定できる値は次の通りです。

***SYSVAL**

ディレクトリー内に作成されたオブジェクトのオブジェクト監査値は、オブジェクト作成監査(QCRTOBJAUD)システム値によって決まります。

***NONE**

このオブジェクトを使用しあるいは変更しても、監査項目は機密保護ジャーナルに送られません。

***USRPRF**

このオブジェクトにアクセスするユーザーのユーザー・プロファイルを使用して、このアクセスについての監査レコードを送るかどうかを決定します。ユーザー監査の変更(CHGUSRAUD)コマンドのOBJAUDパラメーターは、特定ユーザーに対する監査を変更するために使用されます。

***CHANGE**

すべてのユーザーによるこのオブジェクトへのすべての変更アクセスが記録されます。

***ALL** すべてのユーザーによるこのオブジェクトへのすべての変更または読み取りアクセスが記録されます。

新しい値 (VALUE)

指定されたオブジェクトで属性を変更するのに使用される値。

***YES** *READONLY, *HIDDEN, *PCSYSTEM, *PCARCHIVE, *SYSARCHIVE, *ALWCKPWRT, *ALWSAV, *CRTOBJSCAN, *SCAN, *RSTDRNMUNL, *SETUID, および *SETGID 属性で使用できます。それぞれの属性に対するこの値の意味については、属性 (ATR) パラメーターの対応する属性を参照してください。

***NO** *READONLY, *HIDDEN, *PCSYSTEM, *PCARCHIVE, *SYSARCHIVE, *ALWCKPWRT, *ALWSAV, *CRTOBJSCAN, *SCAN, *RSTDRNMUNL, *SETUID, および *SETGID 属性で使用できます。属性ごとのこの値の意味の記述については、ATR パラメーターで対応する属性を参照してください。

***RESET**
*USECOUNT 属性で使用できます。使用された日数のカウントは、ゼロにリセットされ、使用カウント日付は現在日付に設定されます。

***NORMAL**
*DISKSTGOPT および *MAINSTGOPT 属性で使用できます。属性ごとのこの値の意味の記述については、ATR パラメーターで対応する属性を参照してください。

***MINIMIZE**
*DISKSTGOPT および *MAINSTGOPT 属性で使用できます。属性ごとのこの値の意味の記述については、ATR パラメーターで対応する属性を参照してください。

***DYNAMIC**
*DISKSTGOPT および *MAINSTGOPT 属性で使用できます。属性ごとのこの値の意味の記述については、ATR パラメーターで対応する属性を参照してください。

***CHGONLY**
*CRTOBJSCAN および *SCAN 属性で使用できます。属性ごとのこの値の意味の記述については、ATR パラメーターで対応する属性を参照してください。

***SYSVAL**
*CRTOBJAUD 属性で使用できます。属性ごとのこの値の意味の記述については、ATR パラメーターで対応する属性を参照してください。

***NONE**
*CRTOBJAUD 属性で使用できます。属性ごとのこの値の意味の記述については、ATR パラメーターで対応する属性を参照してください。

***USRPRF**
*CRTOBJAUD 属性で使用できます。属性ごとのこの値の意味の記述については、ATR パラメーターで対応する属性を参照してください。

***CHANGE**
*CRTOBJAUD 属性で使用できます。属性ごとのこの値の意味の記述については、ATR パラメーターで対応する属性を参照してください。

***ALL** *CRTOBJAUD 属性で使用できます。属性ごとのこの値の意味の記述については、ATR パラメーターで対応する属性を参照してください。

*CCSID属性で使用できます。データのコード化文字セットID (CCSID)およびオブジェクトの拡張属性を指定してください。

上

ディレクトリーのサブツリー (SUBTREE)

オブジェクト (OBJ)パラメーターで指定されたオブジェクトがディレクトリーの場合に、サブツリー内のオブジェクトの指定された属性を変更するかどうかを指定します。

*NONE

OBJで指定されたオブジェクトで、属性が変更されています。オブジェクトがディレクトリーの場合には、属性は変更されていますが、その内容では属性は変更されていません。

***ALL** OBJで指定されたオブジェクトで、属性が変更されています。オブジェクトがディレクトリーの場合には、その内容とそのすべてのサブディレクトリーの内容で属性が変更されています。

注: OBJパラメーターからのパターン・マッチングだけが第1レベルのオブジェクトに適用されます。第1レベルのオブジェクトがディレクトリーの場合には、そのパターン・マッチングは、その内容またはすべてのそのサブディレクトリーの内容に適用されません。

コマンドが特定のディレクトリー・サブツリーをいったん処理し始めると、検出、処理されるオブジェクトは、指定されたディレクトリー・ツリー内のオブジェクトの編成を更新する操作の影響を受ける可能性があります。影響には次のようなものがありますが、これらに限定されるわけではありません。

- オブジェクト・リンクの追加、除去、または名前変更
- ファイル・システムのマウントまたはマウント解除
- コマンドを呼び出すプロセスの有効ルート・ディレクトリーの更新
- シンボリック・リンクの内容の更新

ディレクトリー・サブツリーを処理するために、システム・コードは、処理の対象として処理中に開いておくことのできるファイル記述子の最大数を増やすことができます。これは、コマンドが記述子の不足のために失敗しないようにするために行われます。この処理対象最大値は、コマンド完了時にリセットされません。

上

シンボリック・リンク (SYMLNK)

パス名の最後の構成要素がシンボリック・リンクの場合には、シンボリック・リンクの属性またはそのシンボリック・リンクで指示されるオブジェクトの属性を変更するかどうかを指定します。

***NO** シンボリック・リンク・オブジェクトの属性は変更されません。そのシンボリック・リンクによって指示されるオブジェクトの属性は変更されます。

***YES** オブジェクトがシンボリック・リンクの場合には、シンボリック・リンクの属性が変更されます。そのシンボリック・リンクによって指示されるオブジェクトの属性は変更されません。

上

例

例1:ディレクトリーのサブツリーの属性の変更

```
CHGATR OBJ('/MYINFO') ATR(*HIDDEN) VALUE(*YES)
        SUBTREE(*ALL)
```

オブジェクトMYINFOは、その*HIDDEN属性を変更して、隠しオブジェクトになります。MYINFOがディレクトリーの場合には、このディレクトリーに入っているすべてのオブジェクトと、サブディレクトリーに入っているすべてのオブジェクトは、SUBTREEパラメーターに*ALLが指定されているので、そのPC隠し属性を変更します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPFA0AD

機能がファイル・システムによってサポートされていない。

CPFB414

&1オブジェクトの属性が変更された。&2オブジェクトは変更されていません。

上

監査値変更 (CHGAUD)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

監査値変更(CHGAUD)コマンドによって、オブジェクトまたはオブジェクトのグループに対する監査をセットアップまたは変更することができます。オブジェクト名のパターンを使用して、関連オブジェクトのグループの権限を変更することができます。

また、CHGAUDコマンドを使用して、ディレクトリー、その内容、およびそのすべてのサブディレクトリーの内容が監査を変更されることになるディレクトリー・ツリーの監査を変更することもできます。SUBTREE(*ALL)が指定されている場合には、このコマンドは、サブツリー内のすべてのオブジェクトの監査を変更しようとしています。診断メッセージが、監査を変更できなかった各オブジェクトに送信され、すべてのオブジェクトが試行されると、エスケープ・メッセージが送信されます。すべてのオブジェクトでエラーなしで監査が変更された場合には、完了メッセージが送信されます。

オブジェクト (OBJ)パラメーターで指定されたか、あるいはサブツリーの処理中に見つかったシンボリック・リンク・オブジェクトを見つけた場合には、**シンボリック・リンク (SYMLNK)**パラメーターに指定した値がそのシンボリック・リンク・オブジェクトに適用されます。サブツリーの処理中の場合には、シンボリック・リンク・オブジェクト自身がサブツリーをもつことはできないので、サブツリーのその枝の処理が停止します。

統合ファイル・システム・コマンドの詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「統合ファイル・システム」トピック・コレクションを参照してください。

制約事項:

このコマンドを使用するには、監査(*AUDIT)特殊権限が必要です。*AUDIT特殊権限をもつユーザーは、そのオブジェクトに対する権限の有無に関係なく、監査をオンまたはオフにすることができます。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
OBJ	オブジェクト	パス名	必須, 定位置 1
OBJAUD	オブジェクト監査値	*NONE , *USRPRF, *CHANGE, *ALL	オプション, 定位置 2
SUBTREE	ディレクトリーのサブツリー	*NONE , *ALL	オプション
SYMLNK	シンボリック・リンク	*NO , *YES	オプション

上

オブジェクト (OBJ)

監査値が変更されるオブジェクト、あるいは複数オブジェクトと一致するパターンを指定します。

パス名を指定するときの詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリに含まれる制御言語(CL) トピック・コレクションの「オブジェクトの命名規則」を参照してください。

これは必須パラメーターです。

注: このパラメーターではUnicodeが使用可能です。詳しくは、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリに含まれる制御言語(CL) トピック・コレクションで「CLでのUnicodeサポート」を参照してください。

パス名 監査値が変更されるオブジェクトのパス名を指定します。

オブジェクト・パス名は、単純名かあるいはオブジェクトが入っているディレクトリーの名前で修飾された名前とすることができます。パス名の最後の部分にパターンを指定することができます。アスタリスク(*)は任意の数の文字が突き合わされ、疑問符(?)は単一文字が突き合わされます。パス名が修飾されているか、あるいはパターンを含んでいる場合には、パス名をアポストロフィで囲まなければなりません。

上

オブジェクト監査値 (OBJAUD)

オブジェクトと対応したオブジェクト監査値を指定します。

*NONE

このオブジェクトを使用しても、変更しても、監査項目は機密保護ジャーナルに送られません。

*USRPRF

このオブジェクトにアクセスするユーザーのユーザー・プロファイルを使用して、このアクセスについての監査レコードを送るかどうかを決定します。特定のユーザーの監査をオンに変更するためには、CHGUSRAUDコマンドのOBJAUDパラメーターを使用します。

*CHANGE

すべてのユーザーによるこのオブジェクトへのすべての変更アクセスが記録されます。

***ALL** すべてのユーザーによるこのオブジェクトへのすべての変更または読み取りアクセスが記録されます。

上

ディレクトリーのサブツリー (SUBTREE)

オブジェクト (OBJ)パラメーターで指定されたオブジェクトがディレクトリーまたはライブラリーの場合に、サブツリー内のオブジェクトを変更するかどうかを指定します。

*NONE

OBJパラメーターで指定されたオブジェクトが変更されます。オブジェクトがディレクトリーまたはライブラリーの場合には、これは変更されますが、そのディレクトリーまたはライブラリー内容は変更されません。

***ALL** OBJパラメーターで指定されたオブジェクトが変更されます。オブジェクトがディレクトリーまたはライブラリーの場合には、これはそのディレクトリーまたはライブラリーの内容およびすべてのサブディレクトリーの内容と同様に検査されます。

注: OBJパラメーターからのパターン・マッチングだけが第1レベルのオブジェクトに適用されます。第1レベルのオブジェクトがディレクトリーまたはライブラリーの場合には、そのパターン・マッチングは、そのディレクトリーまたはライブラリーの内容またはそのサブディレクトリーの内容に適用されません。

注: 処理するサブディレクトリーがたくさんある場合には、SUBTREE(*ALL)を指定するとこのコマンドの実行に長時間かかることがあります。

コマンドが特定のディレクトリー・サブツリーをいったん処理し始めると、検出、処理されるオブジェクトは、指定されたディレクトリー・ツリー内のオブジェクトの編成を更新する操作の影響を受ける可能性があります。影響には次のようなものがありますが、これらに限定されるわけではありません。

- オブジェクト・リンクの追加、除去、または名前変更
- ファイル・システムのマウントまたはマウント解除
- コマンドを呼び出すプロセスの有効ルート・ディレクトリーの更新
- シンボリック・リンクの内容の更新

ディレクトリー・サブツリーを処理するために、システム・コードは、処理の対象として処理中に開いておくことのできるファイル記述子の最大数を増やすことができます。これは、コマンドが記述子の不足のために失敗しないようにするために行われます。この処理対象最大値は、コマンド完了時にリセットされません。

上

シンボリック・リンク (SYMLNK)

オブジェクトがシンボリック・リンクの場合には、シンボリック・シンボリック・リンクまたはそのシンボリック・リンクで指示されるオブジェクトを変更するかどうかを指定します。

***NO** シンボリック・リンク・オブジェクトは変更されません。そのシンボリック・リンクによって指示されるオブジェクトは変更されます。

***YES** オブジェクトがシンボリック・リンクの場合には、シンボリック・リンクが変更されます。そのシンボリック・リンクによって指示されるオブジェクトは変更されません。

上

例

例1:ファイルのオブジェクト監査値の変更

```
CHGAUD OBJ('/QSYS.LIB/PAYROLL.LIB/PAYFILE.FILE')
        OBJAUD(*CHANGE)
```

このコマンドは、PAYROLLライブラリー内のPAYFILEファイルのオブジェクト監査値を変更します。すべてのユーザーによるPAYFILEファイルへのすべての変更アクセスがシステムによってログに記録されるように、そのファイルの監査値は変更されます。

次の例では以下の図表を使用しています。

```
*          SYM1 (DIR1へのシンボリック・リンク)
*
*
*          DIR1
```

```

*
*      * * *
*      * * *
*      * * *
*      DIR2.1 DIR2.2 DIR2.3
*      * * *
*      * * *
*      DIR3.1 DIR3.2 SYM3.3(DIRAへのシンボリック・リンク)
*
*
*      DIRA
*      * * *
*      * * *
*      * * *
*      DIRB.1 DIRB.2 DIRB.3
*
*

```

例2: SYMLNK(*NO)の場合のシンボリック・リンクのオブジェクト監査値の変更

```
CHGAUD OBJ('/SYM1') OBJAUD(*CHANGE) SUBTREE(*ALL) SYMLNK(*NO)
```

このコマンドは、まず処理するサブツリーあるかどうかを判断します。OBJパラメーターに指定されたオブジェクトがシンボリック・リンクであり、シンボリック・リンク・オブジェクトはサブツリーを持たないので、SUBTREEパラメーターは無視されます。次に、SYMLNKパラメーターによってシンボリック・リンク・オブジェクトが変更されないことが指定されているので、シンボリック・リンクSYM1によって示されたオブジェクト(DIR1)が変更されます。

この例では、すべてのユーザーによるDIR1へのすべての変更アクセスがシステムによってログに記録されるように、このディレクトリーのオブジェクト監査値が変更されます。シンボリック・リンク・オブジェクト(SYM1)のオブジェクト監査値は変更されず、またDIR1の内容のオブジェクト監査値も変更されません。

例3: SYMLNK(*YES)の場合のシンボリック・リンクのオブジェクト監査値の変更

```
CHGAUD OBJ('/SYM1') OBJAUD(*CHANGE) SUBTREE(*ALL) SYMLNK(*YES)
```

このコマンドは、まず処理するサブツリーあるかどうかを判断します。OBJパラメーターに指定されたオブジェクトがシンボリック・リンクであり、シンボリック・リンク・オブジェクトはサブツリーを持たないので、SUBTREEパラメーターは無視されます。次に、SYMLNKパラメーターによってシンボリック・リンク・オブジェクトが変更されることが指定されているので、シンボリック・リンク・オブジェクト(SYM1)が変更されます。

この例では、すべてのユーザーによるSYM1へのすべての変更アクセスがシステムによってログに記録されるように、このシンボリック・リンクのオブジェクト監査値が変更されます。このシンボリック・リンクによって示されたオブジェクト(DIR1)のオブジェクト監査値は変更されず、またDIR1の内容のオブジェクト監査値も変更されません。

例4: SUBTREE(*ALL)およびSYMLNK(*NO)の場合のディレクトリーのオブジェクト監査値の変更

```
CHGAUD OBJ('/DIR1') OBJAUD(*CHANGE) SUBTREE(*ALL) SYMLNK(*NO)
```

このコマンドは、まず処理するサブツリーあるかどうかを判断します。OBJパラメーターに指定されたオブジェクトがディレクトリーであるため、サブツリーが処理されます。ツリーの処理で*SYMLNKオブジェクトが見つかったら、SYMLNKパラメーターの値がその*SYMLNKオブジェクトに適用されます。SYMLNKパラメーターが*NOであると、シンボリック・リンクで示されるオブジェクトが変更されます。*SYMLNKオブジェクト自体はサブツリーを持たないので、ツリーの枝の処理はここで停止します。

この例では、すべてのユーザーによるDIR1, DIR2.1, DIR2.2, DIR2.3, DIR3.1, DIR3.2, DIRAへのすべての変更アクセスがシステムによってログに記録されるように、これらのディレクトリーのオブジェクト監査値が変更されます。SYM3.3, DIRB.1, DIRB.2, DIRB.3のオブジェクト監査値は変更されません。

例5: SUBTREE(*ALL)およびSYMLNK(*YES)の場合のディレクトリーのオブジェクト監査値の変更

```
CHGAUD OBJ('/DIR1') OBJAUD(*CHANGE) SUBTREE(*ALL) SYMLNK(*YES)
```

このコマンドは、まず処理するサブツリーあるかどうかを判断します。OBJパラメーターに指定されたオブジェクトがディレクトリーであるため、サブツリーが処理されます。ツリーの処理で*SYMLNKオブジェクトが見つかったら、SYMLNKパラメーターの値がその*SYMLNKオブジェクトに適用されます。SYMLNKパラメーターが*YESであると、シンボリック・リンク・オブジェクトが変更されます。*SYMLNKオブジェクト自体はサブツリーを持たないので、ツリーの枝の処理はここで停止します。

この例では、すべてのユーザーによるDIR1, DIR2.1, DIR2.2, DIR2.3, DIR3.1, DIR3.2, SYM3.3へのすべての変更アクセスがシステムによってログに記録されるように、こうしたディレクトリーおよびシンボリック・リンクのオブジェクト監査値が変更されます。DIRA, DIRB.1, DIRB.2, DIRB.3のオブジェクト監査値は変更されません。

例6: SUBTREE(*NONE)およびSYMLNK(*NO)の場合のディレクトリーのオブジェクト監査値の変更

```
CHGAUD OBJ('/DIR1') OBJAUD(*CHANGE) SUBTREE(*NONE) SYMLNK(*NO)
```

このコマンドは、サブツリーを処理しません。OBJパラメーターに指定されたオブジェクトがシンボリック・リンクでないので、SYMLNKパラメーターは無視されます。

すべてのユーザーによるDIR1へのすべての変更アクセスがシステムによってログに記録されるように、このディレクトリーのオブジェクト監査値が変更されます。

注:

DIRB.1, DIRB.2,およびDIRB.3を変更する唯一の方法は、変更コマンドのOBJパラメーターに個別にそれらを指定するか、OBJ(DIRA)およびSUBTREE(*ALL)のある変更コマンドを指定することです。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPE3526

ジャーナルが損傷している。

CPE3527

ジャーナルが活動状態でない。

CPE3528

ジャーナル・スペースまたはシステム記憶域エラー。

CPE3529

ジャーナルがリモートである。

CPE3530

新しいジャーナル・レシーバーが必要である。

CPE3531

新しいジャーナルが必要である。

CPE3532

オブジェクトはすでにジャーナル処理されている。

CPE3450

記述子が正しくない。

CPFA0AA

スペースを獲得しようとしている時にエラーが起こった。

CPFA0AB

オブジェクトの操作が失敗しました。オブジェクトは&1です。

CPFA0AD

機能がファイル・システムによってサポートされていない。

CPFA0A2

この操作に渡された情報が正しくない。

CPFA0A3

パス名分析解決によりループしている。

CPFA0A4

処理するにはオープンされているファイルが多すぎる。

CPFA0A7

パス名が長すぎる。

CPFA0A9

オブジェクトが見つからない。オブジェクトは&1です。

CPFA0B1

要求された操作は使用できない。アクセスの問題です。

CPFA0DE

要求に対してオブジェクト・タイプが正しくない。オブジェクトは&1です。

CPFA0D4

ファイル・システム・エラーが起こった。エラー番号は&1です。

CPFA08B

パス名を*で始めることはできない。

CPFA08C

パス名ディレクトリーにはパターンを使用できない。

CPFA085

ユーザー&1のホーム・ディレクトリーが見つからなかった。

CPFA086

パス名で対応する引用符が見つからなかった。

CPFA087

パス名にヌル文字が入っている。

CPFA088

パス名パターンが正しくない。

CPFA089

パス名にパターンは使用できない。

CPFA091

ユーザー名ではパターンは使用できない。

CPFA092

パス名が変換されなかった。

CPFA094

パス名が指定されていない。

CPFBC50

1つまたは複数のパス名が見つからない。

CPF22B0

監査値の変更は認可されていない。

CPF223A

&1個のオブジェクトが変更され、&2個のオブジェクトが変更されていません。

CPF22F0

処理時に予期しないエラーが起きました。

上

権限の変更 (CHGAUT)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: はい

パラメーター
例
エラー・メッセージ

権限変更(CHGAUT)コマンドは、このコマンドで名前を付けたオブジェクトまたはオブジェクトのグループに対するユーザーの権限を変更するために使用します。オブジェクト名のパターンを使用して、関連オブジェクトのグループの権限を変更することができます。

また、CHGAUTコマンドを使用して、ディレクトリー、その内容、およびそのすべてのサブディレクトリーの内容が権限を変更されることになるディレクトリー・ツリーの権限を変更することもできます。SUBTREE(*ALL)が指定されている場合には、このコマンドは、サブツリー内のすべてのオブジェクトの権限を変更しようとします。診断メッセージが、権限を変更できなかった各オブジェクトに送信され、すべてのオブジェクトが試行されると、エスケープ・メッセージが送信されます。すべてのオブジェクトでエラーなしで権限が変更された場合には、完了メッセージが送信されます。

オブジェクト (OBJ)パラメーターで指定されたか、あるいはサブツリーの処理中に見つかったシンボリック・リンク・オブジェクトを見つけた場合には、**シンボリック・リンク (SYMLNK)**パラメーターに指定した値がそのシンボリック・リンク・オブジェクトに適用されます。サブツリーの処理中の場合には、シンボリック・リンク・オブジェクト自身がサブツリーをもつことはできないので、サブツリーのその枝の処理が停止します。

次に対して権限を認可することができます。

- 指定されたユーザー
- オブジェクトまたは権限リストのいずれかで特に権限が指定されていないPUBLIC ユーザー。
- ファイルのNETWARE継承権限フィルター(QNETWAREファイル・システムでのみ使用される)。
- オブジェクトに対する権限を持っていないか、あるいはオブジェクトを保護する権限リストにないユーザー・グループ。
- 確立された権限リストにあるユーザー。

DTAAUTパラメーターのAUTL値は、次のユーザーの権限を指定します。

- オブジェクトに対して特定権限を認可されていないユーザー
- オブジェクトを保護する権限リストにないユーザー
- そのユーザー・グループに特定権限が認可されていないユーザー
- そのユーザー・グループがオブジェクトを保護する権限リストにないユーザー

DTAAUT (*AUTL)を使用できるのはUSER(*PUBLIC)だけです。権限リストによってユーザー・プロファイルを保護することはできません。

このコマンドを使用するのに必要な権限については、System i機密保護解説書(SD88-5027)の付録Dを参照してください。

統合ファイル・システム・コマンドの詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「統合ファイル・システム」トピック・コレクションを参照してください。

制約事項:

- サブツリー処理の実行時には、パス名およびそのパス内のすべてのサブディレクトリーに対する読み取り(*R)および実行(*X)権限も必要です。
- QSYS.LIBファイル・システムまたは独立ASP QSYS.LIBファイル・システム内のオブジェクトの権限を変更している場合：
 1. ユーザーはそのオブジェクトの所有者であるか、あるいはオブジェクトに対してこのコマンドを使用する全オブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限をもっていなければなりません。
 2. ユーザーに読み取りまたはオブジェクト操作権限を与える前に、このコマンドはデータベース・ファイルで排他ロックを行わなければなりません。
 3. 認可された別のユーザーが現在使用中の装置に対して、他に指定されたユーザーの権限をユーザーが要求した場合には、その装置に対する権限は与えられません。
 4. 権限リスト・オブジェクト(/QSYS.LIB/権限リスト名.AUTL)に対する権限を変更するためにこのコマンドを使用してはいけません。
 5. DTAAUT(*AUTL)が有効なのは、USER(*PUBLIC)の場合だけです。
 6. 装置、制御装置、または回線記述の使用権限を与える前に、それと対応した装置、制御装置、または回線がオンに構成変更されていなければなりません。
 7. 表示装置の場合またはその表示装置と関連したワークステーション・メッセージ待ち行列の場合は、以下のいずれかを実行することができます。(1)権限が認可されることになる装置からこのコマンドを入力すること。または(2)オブジェクト割り振り(ALCOBJ)コマンドの前にこのコマンドを実行し、オブジェクト割り振り解除(DLCOBJ)の後にこのコマンドを実行すること。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
OBJ	オブジェクト	パス名	必須, 定位置 1
USER	ユーザー	単一値: *PUBLIC その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 名前	オプション, 定位置 2
DTAAUT	新しいデータ権限	*SAME, *NONE, *RWX, *RX, *RW, *WX, *R, *W, *X, *EXCLUDE, *AUTL	オプション, 定位置 3
OBJAUT	新しいオブジェクト権限	単一値: *SAME, *NONE, *ALL その他の値 (最大 4 回の繰り返し): *OBJEXIST, *OBJMGT, *OBJALTER, *OBJREF	オプション, 定位置 4
AUTL	権限リスト	名前, *NONE	オプション
SUBTREE	ディレクトリーのサブツリー	*NONE, *ALL	オプション
SYMLNK	シンボリック・リンク	*NO, *YES	オプション

上

オブジェクト (OBJ)

特定権限が1人以上のユーザーまたは権限リストに付与されるオブジェクト、あるいは複数オブジェクトと一致するパターンを指定します。

パス名を指定するときの詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリーに含まれる制御言語(CL) トピック・コレクションの「オブジェクトの命名規則」を参照してください。

これは必須パラメーターです。

注: このパラメーターではUnicodeが使用可能です。詳しくは、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリーに含まれる制御言語(CL) トピック・コレクションで「CLでのUnicodeサポート」を参照してください。

パス名 特定権限が変更されるオブジェクトのパス名を指定します。

オブジェクト・パス名は、単純名かあるいはオブジェクトが入っているディレクトリーの名前で修飾された名前とすることができます。パス名の最後の部分にパターンを指定することができます。アスタリスク(*)は任意の数の文字が突き合わされ、疑問符(?)は単一文字が突き合わされます。パス名が修飾されているか、あるいはパターンを含んでいる場合には、パス名をアポストロフィで囲まなければなりません。

上

ユーザー (USER)

オブジェクト (OBJ)パラメーターに指定されたオブジェクトに対する権限が変更されるユーザーを指定します。ユーザー名を指定した場合には、権限はそれらのユーザーに個々に変更されます。

注: このパラメーターまたは**権限リスト (AUTL)**パラメーターのいずれかを指定しなければなりません。

単一値

*PUBLIC

オブジェクトに対する特定権限を認可されていないか、権限リストにないか、そのユーザー・グループに権限がないか、あるいはそのユーザー・グループが権限リストにないユーザーは、すべて**新しいデータ権限 (DTAAUT)**および**新しいオブジェクト権限 (OBJAUT)**パラメーターに指定されたオブジェクトの使用を認可されます。

その他の値 (最大50個指定可能)

名前 オブジェクトに対する特定権限を有するユーザーのユーザー・プロファイル名を指定します。最大50のユーザー・プロファイル名を指定することができます。

上

新しいデータ権限 (DTAAUT)

ユーザー (USER)パラメーターに指定されたユーザーに付与するデータ権限を指定します。*SAME以外の値が指定された場合には、この値は、そのオブジェクトに対して現在ユーザーがもっているデータ権限を置き換えます。

***SAME**

オブジェクトに対するユーザーのデータ権限は変更されません。

***NONE**

ユーザーには、オブジェクトに対するデータ権限がありません。

RWX** ユーザーには、オブジェクトに対するRWX**権限が与えられます。***RWX**権限によって、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限、オブジェクト管理権限、オブジェクト変更権限、およびオブジェクト参照権限によって管理されるものを除く、オブジェクトに対するすべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更し、オブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。***RWX** 権限は、オブジェクト操作権限およびすべてのデータ権限を提供します。

RX** ユーザーには、オブジェクトに対して基本操作（プログラムの実行やファイルの内容の表示など）を実行するRX**権限が与えられます。ユーザーはオブジェクトを変更することができません。***RX**権限は、オブジェクト操作権限と、読み取りおよび実行の権限を提供します。

RW** ユーザーには、オブジェクトの内容を表示し、オブジェクトの内容を変更するRW** 権限が与えられます。***RW**権限は、オブジェクト操作権限、およびデータの読み取り、追加、更新、および削除権限を提供します。

WX** ユーザーには、オブジェクトの内容を変更し、プログラムを実行し、あるいはライブラリーやディレクトリーを検索するWX**権限が与えられます。***WX**権限は、オブジェクト操作権限、およびデータの追加、更新、削除、および実行権限を提供します。

R** ユーザーには、オブジェクトの内容を表示するR**権限が与えられます。***R**権限は、オブジェクト操作権限およびデータ読み取り権限を提供します。

W** ユーザーには、オブジェクトの内容を変更するW**権限が与えられます。***W**権限は、オブジェクト操作権限、およびデータの追加、更新、削除権限を提供します。

X** ユーザーには、プログラムを実行し、あるいはライブラリーやディレクトリーを検索するX**権限が与えられます。***X**権限は、オブジェクト操作権限およびデータ実行権限を提供します。

***EXCLUDE**

排他権限は、ユーザーがオブジェクトをアクセスできないようにします。

***AUTL**

AUTLパラメーターに指定された権限リストの一般ユーザー権限は、オブジェクトの共通権限のために使用されます。

上

新しいオブジェクト権限 (OBJAUT)

ユーザー (USER)パラメーターに指定されたユーザーに付与するオブジェクト権限を指定します。***SAME**以外の値が指定された場合には、この値は、そのオブジェクトに対して現在ユーザーが持っているオブジェクト権限(***OBJEXIST**, ***OBJMGT**, ***OBJALTER**,および***OBJREF**)を置き換えます。

単一値

***SAME**

そのオブジェクトに対するユーザーのオブジェクト権限は変更されません。

***NONE**

ユーザーには、その他のオブジェクト権限（存在、管理、変更、または参照）はありません。DTAAUTパラメーターに*EXCLUDEまたは*AUTLが指定された場合には、この値を指定しなければなりません。

***ALL** ユーザーには、その他のすべてのオブジェクト権限（存在、管理、変更、または参照）が与えられます。

その他の値（最大4個指定可能）

***OBJEXIST**

ユーザーには、そのオブジェクトに対するオブジェクト存在権限が与えられます。

***OBJMGT**

ユーザーには、そのオブジェクトに対するオブジェクト管理権限が与えられます。

***OBJALTER**

ユーザーには、そのオブジェクトに対するオブジェクト変更権限が与えられます。

***OBJREF**

ユーザーには、そのオブジェクトに対するオブジェクト参照権限が与えられます。

上

権限リスト (AUTL)

ユーザーに**オブジェクト (OBJ)**パラメーターに指定されたオブジェクトに対する権限を付与する権限リストを指定します。

注: このパラメーターまたは**ユーザー (USER)**パラメーターのいずれかを指定しなければなりません。このパラメーターを指定すると、DTAAUTおよびOBJAUTパラメーターは無視されます。

***NONE**

現行の権限リストはオブジェクトから除去されます。

名前 オブジェクトを保護するのに使用する権限リストの名前を指定してください。オブジェクトが現在権限リストによって保護されている場合には、ここでは指定した権限リストがオブジェクトの保護に使用されます。

上

ディレクトリーのサブツリー (SUBTREE)

オブジェクト (OBJ)パラメーターで指定されたオブジェクトがディレクトリーまたはライブラリーの場合に、サブツリー内のオブジェクトを変更するかどうかを指定します。

***NONE**

OBJパラメーターで指定されたオブジェクトが変更されます。オブジェクトがディレクトリーまたはライブラリーの場合には、これは変更されますが、そのディレクトリーまたはライブラリー内容は変更されません。

***ALL** OBJパラメーターで指定されたオブジェクトが変更されます。オブジェクトがディレクトリーまたはライブラリーの場合には、これはそのディレクトリーまたはライブラリーの内容およびすべてのサブディレクトリーの内容と同様に検査されます。

注: OBJパラメーターからのパターン・マッチングだけが第1レベルのオブジェクトに適用されません。第1レベルのオブジェクトがディレクトリーまたはライブラリーの場合には、そのパターン・マッチングは、そのディレクトリーまたはライブラリーの内容またはそのサブディレクトリーの内容に適用されません。

注: 処理するサブディレクトリーがたくさんある場合には、SUBTREE(*ALL)を指定するとこのコマンドの実行に長時間かかることがあります。

コマンドが特定のディレクトリー・サブツリーをいったん処理し始めると、検出、処理されるオブジェクトは、指定されたディレクトリー・ツリー内のオブジェクトの編成を更新する操作の影響を受ける可能性があります。影響には次のようなものがありますが、これらに限定されるわけではありません。

- オブジェクト・リンクの追加、除去、または名前変更
- ファイル・システムのマウントまたはマウント解除
- コマンドを呼び出すプロセスの有効ルート・ディレクトリーの更新
- シンボリック・リンクの内容の更新

ディレクトリー・サブツリーを処理するために、システム・コードは、処理の対象として処理中に開いておくことのできるファイル記述子の最大数を増やすことができます。これは、コマンドが記述子の不足のために失敗しないようにするために行われます。この処理対象最大値は、コマンド完了時にリセットされません。

上

シンボリック・リンク (SYMLNK)

オブジェクトがシンボリック・リンクの場合には、シンボリック・シンボリック・リンクまたはそのシンボリック・リンクで指示されるオブジェクトを変更するかどうかを指定します。

***NO** シンボリック・リンク・オブジェクトは変更されません。そのシンボリック・リンクによって指示されるオブジェクトは変更されます。

***YES** オブジェクトがシンボリック・リンクの場合には、シンボリック・リンクが変更されます。そのシンボリック・リンクによって指示されるオブジェクトは変更されません。

上

例

例1:すべてのユーザーへの権限の変更

```
CHGAUT OBJ('/QSYS.LIB/USERLIB.LIB/PROGRAM1.PGM')
        USER(*PUBLIC) DTAUT(*RW)
```

このコマンドは、PROGRAM1という名前のオブジェクトを使用および変更する権限を、権限が特に付与されていないか、権限リスト上にないか、ユーザー・グループにはそのオブジェクトに対する権限がないか、あるいはユーザー・グループが権限リスト上にないすべてのシステムのユーザーに付与します。このオブジェクトは、USERLIBという名前のライブラリー名内にあるプログラム(*PGM)です。OBJAUTパラメーターが指定されていないので、任意のオブジェクト権限*PUBLICはすでに残っています。

例2:権限リストに対するユーザーへの権限の変更

```
CHGAUT OBJ('/QSYS.LIB/MYLIB.LIB/PRGM3.PGM') AUTL(KLIST)
```


このコマンドは、PRGM3という名前のオブジェクト名に対する権限リストで指定された権限をユーザーに付与します。このオブジェクトは、ライブラリーMYLIB内にあるプログラムです。

次の例では以下の図表を使用しています。

```

*           SYM1 (DIR1へのシンボリック・リンク)
*
*
*           DIR1
*           * * *
*           * * *
*           * * *
*
*           DIR2.1 DIR2.2 DIR2.3
*           * * *
*           * * *
*           DIR3.1 DIR3.2 SYM3.3(DIRAへのシンボリック・リンク)
*
*
*           DIRA
*           * * *
*           * * *
*           * * *
*
*           DIRB.1 DIRB.2 DIRB.3
*
*

```

例3: SYMLNK(*NO)の場合のシンボリック・リンクの権限の変更

```

CHGAUT  OBJ('/SYM1')  USER(JOEUSER) DTAUT(*RX)
          SUBTREE(*ALL) SYMLNK(*NO)

```

このコマンドは、まず処理するサブツリーあるかどうかを判断します。OBJパラメーターに指定されたオブジェクトがシンボリック・リンクであり、シンボリック・リンク・オブジェクトはサブツリーを持たないので、SUBTREEパラメーターは無視されます。次に、SYMLNKパラメーターによってシンボリック・リンク・オブジェクトが変更されないことが指定されているので、シンボリック・リンクSYM1によって示されたオブジェクト(DIR1)が変更されます。

この例では、DIR1に対するJOEUSERの権限が変更されます。シンボリック・リンク・オブジェクト(SYM1)に対するJOEUSERの権限は変更されず、またDIR1の内容に対するJOEUSERの権限も変更されません。

例4: SYMLNK(*YES)の場合のシンボリック・リンクの権限の変更

```

CHGAUT  OBJ('/SYM1')  USER(JOEUSER) DTAUT(*R) OBJAUT(*OBJMGT)
          SUBTREE(*ALL) SYMLNK(*YES)

```

このコマンドは、まず処理するサブツリーあるかどうかを判断します。OBJパラメーターに指定されたオブジェクトがシンボリック・リンクであり、シンボリック・リンク・オブジェクトはサブツリーを持たないので、SUBTREEパラメーターは無視されます。次に、SYMLNKパラメーターによってシンボリック・リンク・オブジェクトが変更されることが指定されているので、シンボリック・リンク・オブジェクト(SYM1)が変更されます。

この例では、SYM1に対するJOEUSERの権限が変更されます。このシンボリック・リンクによって示されたオブジェクト(DIR1)に対するJOEUSERの権限は変更されず、またDIR1の内容に対するJOEUSERの権限も変更されません。

例5: SUBTREE(*ALL)およびSYMLNK(*NO)の場合のディレクトリーの権限の変更

```

CHGAUT  OBJ('/DIR1')  USER(JOEUSER) DTAUT(*R) OBJAUT(*OBJMGT)
          SUBTREE(*ALL) SYMLNK(*NO)

```

このコマンドは、まず処理するサブツリーあるかどうかを判断します。OBJパラメーターに指定されたオブジェクトがディレクトリーであるため、サブツリーが処理されます。ツリーの処理で*SYMLNKオブジェクトが見つかり、SYMLNKパラメーターの値がその*SYMLNKオブジェクトに適用されます。SYMLNKパラメーターが*NOであると、シンボリック・リンクで示されるオブジェクトが変更されます。*SYMLNKオブジェクト自体はサブツリーを持たないので、ツリーの枝の処理はここで停止します。

この例では、DIR1, DIR2.1, DIR2.2, DIR2.3, DIR3.1, DIR3.2, DIRAに対するJOEUSERの権限が変更されます。SYM3.3, DIRB.1, DIRB.2, DIRB.3に対するJOEUSERの権限は変更されません。

例6: SUBTREE(*ALL)およびSYMLNK(*YES)の場合のディレクトリーの権限の変更

```
CHGAUT  OBJ('/DIR1')  USER(JOEUSER) DTAUT(*R) OBJAUT(*OBJMGT)
          SUBTREE(*ALL) SYMLNK(*YES)
```

このコマンドは、まず処理するサブツリーあるかどうかを判断します。OBJパラメーターに指定されたオブジェクトがディレクトリーであるため、サブツリーが処理されます。ツリーの処理で*SYMLNKオブジェクトが見つかり、SYMLNKパラメーターの値がその*SYMLNKオブジェクトに適用されます。SYMLNKパラメーターが*YESであると、シンボリック・リンク・オブジェクトが変更されます。*SYMLNKオブジェクト自体はサブツリーを持たないので、ツリーの枝の処理はここで停止します。

この例では、DIR1, DIR2.1, DIR2.2, DIR2.3, DIR3.1, DIR3.2, SYM3.3に対するJOEUSERの権限が変更されます。DIRA, DIRB.1, DIRB.2, DIRB.3に対するJOEUSERの権限は変更されません。

例7: SUBTREE(*NONE) および SYMLNK(*NO)の場合のディレクトリーの権限の変更

```
CHGAUT  OBJ('/DIR1')  USER(JOEUSER) DTAUT(*R) OBJAUT(*OBJMGT)
          SUBTREE(*NONE) SYMLNK(*NO)
```

このコマンドは、サブツリーを処理しません。OBJパラメーターに指定されたオブジェクトがシンボリック・リンクでないので、SYMLNKパラメーターは無視されます。

DIR1に対するJOEUSERの権限が変更されます。

注:

DIRB.1, DIRB.2,およびDIRB.3を変更する唯一の方法は、変更コマンドのOBJパラメーターに個別にそれらを指定するか、OBJ(DIRA)およびSUBTREE(*ALL)のある変更コマンドを指定することです。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPE3101

回復可能でない入出力エラーが起こった。

CPE3408

引き数に使用されたアドレスが正しくない。

CPE3418

考えられるAPAR条件またはハードウェア障害。

CPE3474

不明なシステム状態。

CPFA0AA

スペースを獲得しようとしている時にエラーが起こった。

CPFA0AB

オブジェクトの操作が失敗しました。オブジェクトは&1です。

CPFA0AD

機能がファイル・システムによってサポートされていない。

CPFA0A2

この操作に渡された情報が正しくない。

CPFA0A3

パス名分析解決によりループしている。

CPFA0A4

処理するにはオープンされているファイルが多すぎる。

CPFA0A7

パス名が長すぎる。

CPFA0A9

オブジェクトが見つからない。オブジェクトは&1です。

CPFA0B1

要求された操作は使用できない。アクセスの問題です。

CPFA0C1

CCSID &1は正しくない。

CPFA0DD

機能が中断した。

CPFA0D4

ファイル・システム・エラーが起こった。エラー番号は&1です。

CPFA08B

パス名を*で始めることはできない。

CPFA08C

パス名ディレクトリーにはパターンを使用できない。

CPFA085

ユーザー&1のホーム・ディレクトリーが見つからなかった。

CPFA086

パス名で対応する引用符が見つからなかった。

CPFA087

パス名にヌル文字が入っている。

CPFA088

パス名パターンが正しくない。

CPFA089

パス名にパターンは使用できない。

CPFA09C

オブジェクトが認可されていない。オブジェクトは&1です。

CPFA09D

プログラム&1でエラーが起こった。

CPFA09E

オブジェクトが使用中。オブジェクトは&1です。

CPFA091

ユーザー名ではパターンは使用できない。

CPFA092

パス名が変換されなかった。

CPFA094

パス名が指定されていない。

CPFBC50

1つまたは複数のパス名が見つからない。

CPF223A

&1個のオブジェクトが変更され、&2個のオブジェクトが変更されていません。

CPF22F0

処理時に予期しないエラーが起こりました。

CPF3BF6

パス・タイプの値が正しくない。

上

権限リスト項目の変更 (CHGAUTLE)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

権限リスト項目変更(CHGAUTLE)コマンドは、権限リスト上のユーザーの権限を変更します。権限リスト上でユーザーが持っている権限が、このコマンドで指定された権限と置き換えられます。権限リストがすでに存在していなければならず、ユーザーがこのリスト上にいなければなりません。指定されたユーザーがこのリスト上にない場合には、メッセージが出されます。

このコマンドを使用して権限リストを変更できるユーザーは、権限リストの所有者、リスト上で権限リスト管理(*AUTLMGT)権限をもつユーザー、または全オブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限をもつユーザーです。

ユーザーの権限を変更するには、権限リストの名前、ユーザーのリスト、および権限のリストを指定しなければなりません。リストに指定されているユーザーにはすべて同じ権限が与えられます。リスト上の各ユーザーの権限が、指定される権限に変更されます。権限は、USER(*PUBLIC)を指定することにより、特定権限を持っていないすべてのユーザー、権限リスト上にないすべてのユーザー、およびそのグループが権限を持っていないすべてのユーザーに対して指定することができます。

制約事項:

- リストの所有者、または全オブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限をもつユーザーだけが、権限リスト管理(*AUTLMGT)権限でユーザーを追加することができます。
- *AUTLMGT権限をもつユーザーはユーザーの権限を変更することができます。また、これらのユーザーは追加または除去される特定権限も持っていなければなりません。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
AUTL	権限リスト	総称名, 名前	必須, 定位置 1
USER	ユーザー	単一値: *PUBLIC その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 名前	必須, 定位置 2
AUT	権限	単一値: *EXCLUDE その他の値 (最大 11 回の繰り返し): *CHANGE, *ALL, *USE, *OBJALTER, *OBJEXIST, *OBJMGT, *OBJOPR, *OBJREF, *ADD, *DLT, *EXECUTE, *READ, *UPD, *AUTLMGT	オプション, 定位置 3

上

権限リスト (AUTL)

ユーザーの権限が変更される権限リストを指定します。権限リストはすでに存在していなければなりません。

これは必須パラメーターです。

総称名 変更する権限リストの総称名を指定してください。

総称名は1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)を付けた文字ストリングです。例えば、ABC*など。アスタリスクは任意の有効な文字で置き換えられます。総称名は、ユーザーが権限をもち、総称接頭部で始まる名前をもつすべてのオブジェクトを指定します。総称（接頭部）名にアスタリスクが入っていないと、システムはその名前を完全なオブジェクト名と見なします。

名前 変更する権限リストの名前を指定してください。

上

ユーザー (USER)

権限リスト上の権限が変更されるユーザー・プロファイルを1つ以上指定します。ユーザー・プロファイル名が権限リストにない場合には、メッセージが出されます。

これは必須パラメーターです。

単一値

***PUBLIC**

特定権限をもっていないユーザー、権限リスト上にないユーザー、およびそのグループ・プロファイルが何の権限ももっていないユーザーのすべてに対して、権限が与えられます。

その他の値（最大50個指定可能）

名前 権限を変更するプロファイルの名前を指定してください。最大50のユーザー・プロファイル名を指定することができます。

上

権限(AUT)

ユーザー (USER)パラメーターで指定されたユーザーに付与する権限を指定します。

単一値

***EXCLUDE**

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

その他の値（最大11個指定可能）

***CHANGE**

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限では、オブジェクト操作(*OBJOPR)および全データ権限が提供されます。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

*ALL ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

*USE ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

*AUTLMGT

権限リスト管理権限は、権限リストにユーザーを追加するか、権限リストのユーザーの権限を変更するか、権限リストからユーザー名を除去するか、権限リストからユーザーを除去するか、権限リストを名前変更するか、あるいは権限リストの複写を作成する権限を提供します。

*OBJALTER

オブジェクト変更権限は、オブジェクトの属性を変更するために必要な権限を提供します。ユーザーがデータベース・ファイルに対してこの権限を持っている場合には、そのユーザーはトリガーを追加および除去し、参照および固有の制約を追加および除去し、データベース・ファイルの属性を変更することができます。ユーザーがSQLパッケージでこの権限をもっている場合には、ユーザーはSQLパッケージの属性を変更することができます。この権限は現在データベース・ファイルとSQLパッケージにしか使用されません。

*OBJEXIST

オブジェクト存在権は、オブジェクトの存在および所有権を制御する権限を提供します。これらの権限は、オブジェクトを削除するか、オブジェクト用の記憶域を解放するか、オブジェクトの保管および復元操作を実行するか、あるいはオブジェクトの所有権を移動するユーザーには必要です。システム保管(*SAVSYS)特殊権限をもつユーザーには、オブジェクトを保管または復元するための存在権の必要はありません。既存の権限ホルダーのあるオブジェクトを作成するには、オブジェクト存在権が必要で

*OBJMGT

オブジェクト管理権限は、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを移動または名前変更し、メンバーをデータベース・ファイルに追加するための権限を提供します。

*OBJOPR

オブジェクト操作権限は、オブジェクトの記述を調べたり、ユーザーがオブジェクトに対してもつデータ権限によって決められた通りにオブジェクトを使用したりする権限を提供します。

*OBJREF

オブジェクト参照権限は、そのオブジェクトでの操作が他のオブジェクトによって制限されているなど、他のオブジェクトからオブジェクトを参照するために必要な権限を提供します。ユーザーが物理ファイルに対してこの権限を持っている場合には、そのユーザーはその物理ファイルが親である時に参照制約を追加することができます。この権限は現在データベース・ファイルにしか使用されません。

データ権限

*ADD 追加権限は、オブジェクトに項目を（例えば、待ち行列にジョブ項目を、あるいはファイルにレコードを）追加する権限を提供します。

***DLT** 削除権限によって、ユーザーは、オブジェクトから項目を除去（例えば、メッセージ待ち行列からメッセージを、ファイルからレコードを除去）することができます。

***EXECUTE**

実行権限は、プログラムを実行し、あるいはライブラリー内のオブジェクトを見つけるために必要な権限を提供します。

***READ**

読み取り権限は、オブジェクトの内容を表示するために必要な権限を提供します。

***UPD** 更新権限は、オブジェクトの項目を変更する権限を提供します。

上

例

```
CHGAUTLE  AUTL(DEPT48X)  USER(KARENG KARENS JEFF JULIE DARL)
           AUT(*CHANGE)
```

このコマンドは、ユーザーKARENG, KARENS, JEFF, JULIE,およびDARLが権限リストで指定されている権限を*CHANGEに変更します。*CHANGEは、権限リストによって保護されたオブジェクトに対するユーザー・オブジェクト操作権および全データ権限をユーザーに付与します。

上

エラー・メッセージ

***ESCAPE** メッセージ

CPF22AA

*ALL権限と一緒に指定できるのは*AUTLMGT権限だけである。

CPF22AB

*CHANGE権限と一緒に指定できるのは*AUTLMGTだけである。

CPF22AC

*USE権限と一緒に指定できるのは*AUTLMGT権限だけである。

CPF2253

ライブラリー&2に&1のオブジェクトが見つからなかった。

CPF2281

指定したユーザーはシステム上に存在しない。

CPF2283

権限リスト&1が存在していない。

CPF2284

権限リスト&1の変更は認可されていない。

CPF2286

*PUBLICに*AUTLMGT権限を与えることはできない。

CPF2287

ユーザーの変更時に&1個のエラーが起こり、&2個の権限リストが処理された。

CPF2289

権限リスト&1を割り振ることができない。

CPF2290

*EXCLUDEを別の権限と一緒に指定することはできない。

上

バックアップ・オプション変更 (CHGBCKUP)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

バックアップ・オプション変更(CHGBCKUP)コマンドにより、ユーザーは事前定義バックアップの1つにあるオプションを変更することができます。バックアップの詳細は、Recovering your system book (SD88-5008)にあります。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
BCKUPOPT	バックアップ・オプション	*DAILY, *WEEKLY, *MONTHLY	必須, キー, 定位置 1
DEV	装置	単一値: *SAME その他の値 (最大 4 回の繰り返し): 名前	オプション
TAPSET	テープ・セット	単一値: *SAME, *ANY その他の値 (最大 7 回の繰り返し): 文字値	オプション
CLRTAP	テープの消去	*SAME, *YES, *NO	オプション
SBMJOB	バッチへの投入	*SAME, *YES, *NO	オプション
CHGONLY	変更済みオブジェクトのみ	*SAME, *YES, *NO	オプション
PRTRPT	詳細報告書の印刷	*SAME, *YES, *NO	オプション
LIB	ライブラリー	*SAME, *ALLUSR, *FROMLIST, *NONE	オプション
FLR	フォルダー	*SAME, *ALL, *FROMLIST, *NONE	オプション
DIR	ディレクトリー	*SAME, *ALLUSR, *NONE	オプション
SECDTA	機密保護データの保管	*SAME, *YES, *NO	オプション
CFG	構成データの保管	*SAME, *YES, *NO	オプション
MAIL	メールの保管	*SAME, *YES, *NO	オプション
CAL	予定表データの保管	*SAME, *YES, *NO	オプション
EXITPGM	ユーザー出口プログラム	単一値: *SAME, *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ユーザー出口プログラム	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	

上

バックアップ・オプション (BCKUPOPT)

変更するバックアップ・オプションを指定します。

これは必須パラメーターです。

*DAILY

日次バックアップのオプションが変更されます。

*WEEKLY

週次バックアップのオプションが変更されます。

*MONTHLY

月次バックアップのオプションが変更されます。

上

装置 (DEV)

バックアップに使用するテープ装置を指定します。

単一値

*SAME

指定されたオプションに記憶されているテープ装置名は変更されていません。

その他の値 (最大4個指定可能)

名前 指定されたバックアップ・オプションで使用するテープ装置名のリストを指定してください。仮想テープ装置を使用している場合には、1つの装置名だけを指定することができます。

上

テープ・セット (TAPSET)

使用するテープ・セットの名前を指定します。

単一値

*SAME

指定されたオプションに記憶されているテープ・セット名は変更されていません。

***ANY** バックアップ装置に取り付けられているテープがバックアップに使用されます。テープ・ボリュームIDは検査されません。

その他の値 (最大7個指定可能)

文字値 バックアップ用に循環するテープ・ボリューム・セットの4桁の名前のリストを指定してください。バックアップ用のテープ・ボリュームIDは、'01'で始まる順序番号を指定された接頭部に連結することによって生成されます。

上

テープの消去 (CLRTAP)

テープを消去して順序番号1で保管を開始するかどうかを指定します。

*SAME

指定されたオプションに記憶されているテープ消去標識は変更されていません。

- *YES テープは消去され、保管は順序番号1で開始されます (SAVXXXコマンドのCLEAR(*ALL) SEQNBR(1)と等価)。
- *NO テープは消去されず、保管はテープ上の最後の活動ファイルの後で開始されます (SAVXXXコマンドのCLEAR(*NONE) SEQNBR(*END)と等価)。

上

バッチへの投入 (SBMJOB)

これらのオプションを使用してバックアップを実行するためにRUNBCKUPメニューが使用された時にバックアップをバッチ・ジョブとして投入するかどうかを指定します。

注: バックアップの実行にRUNBCKUPコマンドが使用された時には、このパラメーターは無視されます。

*SAME

指定されたオプションに記憶されているジョブ投入標識は変更されていません。

- *YES バックアップの実行にメニューが使用された時に、バックアップはバッチ・ジョブとして投入されます。
- *NO バックアップの実行にメニューが使用された時に、バックアップは対話式に実行されます。

上

変更済みオブジェクトのみ (CHGONLY)

バックアップされるライブラリーおよびフォルダー中の変更されたオブジェクトのみを保管するかどうかを指定します。

*SAME

指定されたオプションに記憶されている「変更されたものだけの保管」標識は変更されていません。

- *YES 最後のバックアップ以後に変更されたオブジェクトのみが保管されます。
- *NO 要求したライブラリーおよびフォルダー中のすべてのオブジェクトがバックアップされます。

上

詳細報告書の印刷 (PRTRPT)

保管したオブジェクトの明細リストが印刷されるかどうかを指定します。要約報告書は常に印刷されます。

*SAME

指定されたオプションに記憶されている「報告書の印刷」標識は変更されていません。

- *YES 保管したオブジェクトの明細リストおよび要約報告書が印刷されます。
- *NO 要約報告書が印刷されます。

上

ライブラリー (LIB)

バックアップされるライブラリーを指定します。

*SAME

オプションに指定されたライブラリーは変更されていません。

***ALLUSR**

すべてのユーザー・ライブラリーのバックアップを実行します。次のライブラリーを除き、文字Qで始まらない名前をもつすべてのライブラリーがバックアップされます。

```
#CGULIB      #DSULIB      #SEULIB
#COBLIB      #RPGLIB
#DFULIB      #SDALIB
```

次のQXXXライブラリーは弊社提供のものですが、これらには一般的によく変更されるユーザー・データが収められます。したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」と見なされ、これらもバックアップされます。

```
QDSNX      QRCLxxxxx   QUSRDIRDB  QUSRVI
QGPL       QSRVAGT    QUSRIJS    QUSRVxRxMx
QGPL38     QSYS2      QUSRINFSKR
QMGTC      QSYS2xxxxx QUSRNOTES
QMGTC2     QS36F      QUSROND
QMPGDATA   QUSER38    QUSRPOSGS
QMOMDATA   QUSRADSM   QUSRPOSSA
QMOMPROC   QUSRBRM    QUSRPYMSVR
QPFRDATA   QUSRDIRCF  QUSRDRARS
QRCL       QUSRDIRCL  QUSRSYS
```

注: 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVXRXMXの形式の別のライブラリー名を作成することができます。QUSRVXRXMXユーザー・ライブラリーのVXRXMXは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

***FROMLIST**

ライブラリー・バックアップ・リスト中のバックアップ用に選択されたライブラリーがバックアップされます。

***NONE**

バックアップされるライブラリーはありません。

上

フォルダー (FLR)

バックアップされるフォルダーを指定します。

*SAME

オプションに指定されたフォルダーは変更されていません。

***ALL** すべてのフォルダーがバックアップされます。

***FROMLIST**

フォルダー・バックアップ・リスト中のバックアップ用に選択されたフォルダーがバックアップされます。

***NONE**

バックアップされるフォルダーはありません。

ディレクトリー (DIR)

バックアップされるユーザー・ディレクトリーを指定します。

*SAME

オプションに指定されたディレクトリーは変更されません。

*ALLUSR

すべてのユーザー・ディレクトリーがバックアップされます。

*NONE

ディレクトリーはバックアップされません。

上

機密保護データの保管 (SECDTA)

システム機密保護データを保管するかどうかを指定します。

*SAME

指定されたオプションに記憶されている機密保護データ標識は変更されていません。

***YES** このバックアップの実行時に機密保護データが保管されます。

***NO** 機密保護データは保管されません。

上

構成データの保管 (CFG)

システム構成データを保管するかどうかを指定します。

*SAME

指定されたオプションに記憶されている「構成データ」標識は変更されていません。

***YES** このバックアップの実行時に構成データが保管されます。

***NO** 構成データは保管されません。

上

メールの保管 (MAIL)

OFFICEVISIONメールを保管するかどうかを指定します。FLR(*ALL)が指定された場合には、このパラメーターは無視されます。

*SAME

指定されたオプションに記憶されているメール標識は変更されていません。

***YES** このバックアップの実行時にメールが保管されます。

***NO** メールは保管されません。

予定表データの保管 (CAL)

OFFICEVISION 予定表データを保管するかどうかを指定します。QUSRSYSが保管される時に、OFFICEVISION 予定表も保管されます。

*SAME

指定されたオプションに記憶されている予定表標識は変更されていません。

***YES** このバックアップの実行時に予定表が保管されます。

***NO** 予定表は保管されません。

ユーザー出口プログラム (EXITPGM)

バックアップが開始される前に呼び出し、バックアップが完了した後に再び呼び出すユーザー・プログラムを指定します。

単一値

*SAME

指定されたオプションに記憶されているプログラム名は変更されていません。

*NONE

呼び出される出口プログラムはありません。

修飾子1: ユーザー出口プログラム

名前 バックアップの前後に呼び出すプログラムの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

プログラムを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 プログラムが入っているライブラリーの名前を指定してください。

例

例1: 日次バックアップ・オプションの変更

```
CHGBCKUP BCKUPOPT(*DAILY) MAIL(*YES) CAL(*YES)
```

このコマンドは、OFFICEVISION メールおよびカレンダー・データを保管するよう日次バックアップを変更します。

例2:月次バックアップ・オプションの変更

```
CHGBCKUP  BCKUPOPT(*MONTHLY) DEV(TAP01 TAP02)  
          TAPSET(RED GRN BLU)
```

このコマンドは、使用装置TAP01とTAP02,そしてテープ・セットRED, GRN,およびBLUを使用するよう月次バックアップを変更します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF1EEA

ライブラリー・バックアップ・リストが認可されていない。

CPF1EEB

フォルダー・バックアップ・リストが認可されていない。

CPF1EE0

装置&1が複数回指定された。

CPF1EE1

テープ・セット名&1が複数回指定された。

CPF1EE2

*ANYとテープ・セット名は指定できない。

CPF1EE3

バックアップ・オプションは認可されていない。

CPF1EE4

バックアップの実行は認可されていない。

CPF1EE5

装置&1はテープ装置でない。

CPF1E6C

バックアップ・オプションは使用中である。

CPF1E6E

バックアップ用に選択されていない。

CPF1E6F

テープ・セット名&1は正しくない

CPF1E67

バックアップ・オプションおよびライブラリー・バックアップ・リストに損傷がある。

CPF1E99

予期しないエラーが起こった。

上

BOOTP属性の変更 (CHGBPA)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

BOOTPサーバー属性変更(CHGBPA)コマンドは、ブートストラップ・プロトコル(BOOTP)の属性を変更するために使用されます。変更は、TCP/IP開始(STRTCP)コマンドかTCP/IPサーバー開始(STRTCPSVR)コマンドのいずれかによってBOOTPサーバーが次に開始された時に有効となります。

制約事項:

このコマンドを使用するには、*IOSYSCFG特殊権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
AUTOSTART	自動開始サーバー	*YES, *NO, <u>*SAME</u>	オプションル, 定位置 1

上

自動開始サーバー (AUTOSTART)

AUTOSTART属性は、STRTCPコマンドを使用してTCP/IPが開始された時にBOOTPサーバーが開始されるかどうか、あるいはSTRTCPSVR SERVER(*AUTOSTART)コマンドが出される時点を決めます。

この属性は、STRTCPSVR *AUTOSTARTが指定された場合にSTRTCPSVRコマンドによってのみ使用されます。STRTCPSVR *BOOTPまたはSTRTCPSVR *ALLでは、AUTOSTART属性の値とは無関係に、BOOTPサーバーの開始が試みられます。

注: DHCP AUTOSTARTが*YESに設定されている場合には、BOOTP AUTOSTART属性を*YESに設定することはできません。BOOTPサーバーとDHCPサーバーを同じマシンで同時に実行することはできません。BOOTP値とDHCP AUTOSTART値の両方を*YES に設定しようとする、エラー・メッセージを受け取ります。

*SAME

AUTOSTART値は、前に設定されている場合には変更されません。そうでない場合には、*NOが使用されます。

***YES** STRTCPコマンドによってTCP/IPが開始されるたびに、あるいはTCP/IPサーバーがSTRTCPSVR *AUTOSTART コマンドによって開始されるたびにBOOTPサーバーを自動始動したい場合には、*YESの値を指定してください。

***NO** STRTCPコマンドによってTCP/IPが開始されるたびに、あるいはTCP/IPサーバーがSTRTCPSVR *AUTOSTARTコマンドによって開始されるたびにBOOTPサーバーを自動的に開始したくない場合には、*NOの値を指定してください。

この値を*NOに設定した場合には、STRTCPSVR *BOOTPコマンドまたはSTRTCPSVR *ALL コマンドによってのみBOOTPサーバーが開始されます。

BOOTPサーバーを使用する予定がない場合には、AUTOSTARTを*NOに設定してください。

上

例

CHGBPA AUTOSTART(*YES)

このコマンドは、次回にSTRTCPコマンドが出されてTCP/IPが開始され、TCP/IPアプリケーションが自動始動された時に、BOOTPサーバーが自動始動されることを指示します。

上

エラー・メッセージ

なし

上

コード化フォントの変更 (CHGCDEFNT)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

コード化フォントの変更(CHGCDEFNT)コマンドによって、ユーザーはコード化フォントに印刷装置常駐として参照されたフォント文字セットとコード・ページの対にマークを付けることができます。3130印刷装置に常駐としてフォント文字セットとコード・ページにマークを付けることについては、印刷装置プログラミング(SD88-5073)を参照してください。

制約事項

- このコマンドを使用するためには、印刷サービス機能(PSF)フィーチャーが必要です。
- 常駐としてマークされたフォント文字セットとコード・ページの対は、常駐DBCS ラスター・フォントをサポートしない印刷装置にダウンロードされます。
- フォントにマーク付けする場合には、印刷書き出しプログラムを停止して再開始しなければなりません。書き出しプログラムが活動状態の時にフォントにマークを付けると、その変更は次の書き出しプログラムの開始時まで有効とはなりません。PSFが変更されたコード化フォントを使用するようにするためには、最初に印刷書き出しプログラムを終了しなければなりません。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
CDEFNT	コード化フォント	修飾オブジェクト名	必須、定位置 1
	修飾子 1: コード化フォント	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
FNTCHRSET	フォント文字セット	総称名, 名前, *ALL	必須、定位置 2
RESFNT	常駐フォント	*YES, *NO	オプション

上

コード化フォント (CDEFNT)

マークされるコード化フォントを指定します。

修飾子1: コード化フォント

名前 マーク付けするコード化フォントの名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、ジョブのライブラリー・リストのすべてのライブラリーを検索します。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーだけを検索します。ジョブの現行ライブラリーとして指定されているライブラリーがない場合には、QGPLが使用されます。

名前 指定したライブラリーを検索します。

上

フォント文字セット (FNTCHRSET)

指定されたコード化フォントの中のどの1つまたは複数のフォント文字セットに常駐または非常駐のマークを付けるかを指定します。

***ALL** コード化フォントに参照されたすべてのフォント文字セットにマークを付けるように指定します。

総称名 マーク付けするフォント文字セットの総称名を指定します。総称名は、後にアスタリスク(*)が続く1文字または数文字の文字ストリング (例えば, C0S0*)です。このアスタリスクは有効な文字と置き換えられます。総称名は、名前が総称接頭部で始まるすべてのフォント文字セットを示します。名前にアスタリスクが組み込まれていない場合には、システムはそれを完全なフォント文字セット名と見なします。一定の範囲 (例えば, C0G16F70 - C0G16F7F)内にあるすべてのフォント文字セットを変更するためには、そのフォント文字セット名にC0G16F7*を指定する必要があります。C0G16F*を指定するのは*ALLと同じで、コード化フォントのすべてのフォント文字セットが変更されます (すべてのフォント文字セット名がC0G16F0で始まっていると仮定して)。

名前 マーク付けするフォント文字セットの名前を指定します。

上

常駐フォント (RESFNT)

フォント文字セットが印刷装置に常駐しているかどうか、また印刷装置に常駐していない場合にシステムがダウンロードする必要があるかどうかを指定します。

***NO** フォント文字セットは印刷装置に常駐していないのでシステムが印刷装置にダウンロードする必要があります。また、このフォント文字セットは印刷装置に常駐していることもありますが、ユーザーによって変更されています。この場合には、*NOを指定しなければなりません。

***YES** フォント文字セットは印刷装置に常駐しているので、システムが印刷装置にダウンロードする必要はありません。

上

例

例1:常駐としてすべてをマーク付け

```
CHGCDEFNT QFNT61/X0G16F FNTCHRSET(*ALL) RESFNT(*YES)
```

このコマンドは、すべてのフォント文字セット/コード・ページの対をライブラリーQFNT61のコード化フォントX0G16Fの印刷装置で常駐としてマークを付けます。ユーザー定義セクションはダウンロードされません。

例2:常駐としてセクションをマーク付け

```

CHGCDEFNT QFNT61/X0G16B FNTCHRSET(C0G16F4*) RESFNT(*YES)
CHGCDEFNT QFNT61/X0G16B FNTCHRSET(C0G16F50) RESFNT(*YES)
CHGCDEFNT QFNT61/X0G16B FNTCHRSET(C0G16F51) RESFNT(*YES)
CHGCDEFNT QFNT61/X0G16B FNTCHRSET(C0G16F52) RESFNT(*YES)
CHGCDEFNT QFNT61/X0G16B FNTCHRSET(C0G16F53) RESFNT(*YES)
CHGCDEFNT QFNT61/X0G16B FNTCHRSET(C0G16F54) RESFNT(*YES)
CHGCDEFNT QFNT61/X0G16B FNTCHRSET(C0G16F55) RESFNT(*YES)

```

このCHGCDEFNTコマンドのセットは、セクション41 - 4F中のすべてのフォント文字セット/コード・ページの対を常駐としてマーク付けしてから、セクション50 - 55を常駐としてマーク付けします。

例3: 総称および特定フォント文字セットとコード・ページの対のマーク付け

```

CHGCDEFNT QFNT61/X0G16F FNTCHRSET(C0G16F4*) RESFNT(*YES)
CHGCDEFNT QFNT61/X0G16F FNTCHRSET(C0G16F48) RESFNT(*NO)
CHGCDEFNT QFNT61/X0G16F FNTCHRSET(C0G16F5*) RESFNT(*YES)
CHGCDEFNT QFNT61/X0G16F FNTCHRSET(C0G16F60) RESFNT(*YES)
CHGCDEFNT QFNT61/X0G16F FNTCHRSET(C0G16F61) RESFNT(*YES)
CHGCDEFNT QFNT61/X0G16F FNTCHRSET(C0G16F62) RESFNT(*YES)
CHGCDEFNT QFNT61/X0G16F FNTCHRSET(C0G16F63) RESFNT(*YES)
CHGCDEFNT QFNT61/X0G16F FNTCHRSET(C0G16F64) RESFNT(*YES)
CHGCDEFNT QFNT61/X0G16F FNTCHRSET(C0G16F65) RESFNT(*YES)
CHGCDEFNT QFNT61/X0G16F FNTCHRSET(C0G16F66) RESFNT(*YES)
CHGCDEFNT QFNT61/X0G16F FNTCHRSET(C0G16F67) RESFNT(*YES)
CHGCDEFNT QFNT61/X0G16F FNTCHRSET(C0G16F68) RESFNT(*YES)

```

このCHGCDEFNTコマンドのセットは、セクション41 - 4F中のすべてのフォント文字セットとコード・ページの対を常駐としてマーク付けしてから、ダウンロードされるようセクション48をマーク付けします。セクション50 - 5Fが常駐としてマーク付けされ、セクション60 - 68が常駐としてマーク付けされます。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

PQT0100

ライブラリー&2のコード化フォント&1が変更されなかった。

PQT0101

フォント文字セットまたはコード・ページ&1がコード化フォント&2に見つからなかった。

PQT0102

常駐フォント・パラメーターに正しくない値&1が指定されました。

上

構成リスト変更 (CHGCFGL)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

構成リスト変更(CHGCFGL)コマンドにより、構成リストが変更されます。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
TYPE	構成リスト・タイプ	*APPNDIR, *APPNLCL, *APPNRMT, *APPNSSN, *ASYNCADR, *ASYNCLC, *RTLPASTR, *SNAPASTHR	必須, キー, 定位置 1
CFGL	構成リスト	名前	オプション, キー
DFTFTRACN	省略時のフィルター処置	*SAME, *ACCEPT, *REJECT	オプション
APPNRMIFTR	APPN リモート CFGL フィルター	*SAME, *ACCEPT, *NONE	オプション
TEXT	テキスト記述	文字値, *SAME, *BLANK	オプション
APPNLCL	APPN ローカル・ロケーション項目	単一値: *PROMPT その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: ローカル・ロケーション名	通信名	
	要素 2: 項目記述	文字値, *BLANK	

キーワード	記述	選択項目	ノート
APPNRMTE	APPN リモート・ロケーション項目	単一値: *PROMPT その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: リモート ロケーション名	総称名, 名前, *ANY	
	要素 2: リモート・ネットワーク 識別コード	通信名, *NETATR , *NONE	
	要素 3: ローカル・ロケーション名	通信名, *NETATR	
	要素 4: リモート制御点	通信名, *NONE	
	要素 5: 制御点ネットワークID	通信名, *NETATR , *NONE	
	要素 6: ロケーション・パスワード	文字値, *NONE	
	要素 7: 保護ロケーション	*YES , *NO , *VFYENCPWD	
	要素 8: 単一セッション	*YES , *NO	
	要素 9: ローカル制御セッション	*YES , *NO	
	要素 10: 事前確立セッション	*YES , *NO	
	要素 11: 項目 '記述'	文字値, *BLANK	
	要素 12: 会話の数	1-512, 10	
ASYNCADRE	非同期ネットワーク・アドレス項目	単一値: *PROMPT その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: ネットワーク・アドレス	文字値	
	要素 2: ダイアル呼び出し再試行	1-255, 2	
	要素 3: 項目 '記述'	文字値, *BLANK	
ASYNCLOCE	非同期リモート・ロケーション項目	単一値: *PROMPT その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: リモート ロケーション名	通信名	
	要素 2: リモート・ロケーション識別コード	名前	
	要素 3: 項目 '記述'	文字値, *BLANK	
RTLPAsthRE	小売業パススルー項目	単一値: *PROMPT その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: 小売業装置	名前	
	要素 2: SNUF装置	名前	
	要素 3: 省略時のホスト・プログラム	名前	
	要素 4: 項目 '記述'	文字値, *BLANK	

上

構成リスト・タイプ (TYPE)

変更される構成リストのタイプを指定します。

*APPNDIR

拡張対等通信ネットワーク機能(APPN)ディレクトリー検索フィルター構成リストが使用されます。このコマンドを使用して指定できるのは、テキスト記述(TEXT)パラメーターおよび省略時処置(DFTACN)パラメーターだけです。

注: APPNディレクトリー構成リスト中の項目を変更するためには、構成リスト項目変更(CHGCFGLE)コマンドを使用してください。

*APPNLCL

APPNローカル構成リストが使用されます。構成リストには、最高476個までのAPPNローカル・ロケーション項目を使用することができます。

*APPNRMT

APPNリモート構成リストが使用されます。構成リストには、最高1898個までのAPPNリモート・ロケーション項目を使用することができます。

*APPNSSN

APPNセッション・エンドポイント・フィルター構成リストが使用されます。このコマンドを使用して指定できるのは、テキスト記述(TEXT)パラメーターおよび省略時処置(DFTACN)パラメーターだけです。

注: APPNセッション構成リスト中の項目を変更するためには、構成リスト項目変更(CHGCFGLE)コマンドを使用してください。

*ASYNCADR

非同期ネットワーク・アドレス構成リストが使用されます。構成リストには、最高294個までの非同期ネットワーク・アドレス項目を使用することができます。

*ASYNCLC

非同期リモート・ロケーション構成リストが使用されます。構成リストには非同期リモート・ロケーション項目を最大で32000個まで入れることができます。

*RTLPASTR

小売業パススルー・リストが使用されます。構成リストには、最高450個までの小売業パススルー項目を指定することができます。

*SNAPASTHR

SNAパススルー・リストが使用されます。構成リスト変更(CHGCFGLE)コマンドを使用して、SNA構成リスト用のテキスト記述のみを変更することができます。

注: SNA構成リスト中の項目を変更するためには、構成リスト項目変更(CHGCFGLE)コマンドを使用してください。

上

構成リスト (CFGL)

構成リストの名前を指定します。この値は、必要ですが、構成リストが非同期ネットワーク・アドレス・リスト(構成リスト・タイプ (TYPE)パラメーターに*ASYNCADRが指定された)の時にだけ有効です。リスト・タイプにはシステム提供の名前、QAPPNLCL, QAPPNRMT, QASYNCADR, QASYNCLC, QRTLPASTR,およびQSNAPASTHRがあります。

これは必須パラメーターです。

上

省略時のフィルター処置 (DFTFTRACN)

ローカル・システムによって処理されるAPPN要求の省略時のフィルター処置を指定します。このフィルター処置は、構成リストに特にリストされていないすべてのディレクトリー検索要求およびセッション・エンドポイント要求に適用されます。

注: このパラメーターが有効なのは、TYPE(*APPNDIR)またはTYPE(*APPNSSN)が指定された場合だけです。

*SAME

省略時のフィルター処置は変更されません。

*ACCEPT

要求は受け入れられます。

*REJECT

要求は拒否されます。

上

APPN リモート CFGL フィルター (APPNRMTFTR)

セッション・エンドポイント要求のフィルター操作が行なわれる時に、APPNリモート構成リスト項目が使用されるかどうかを指定します。

注: このパラメーターが有効なのは、TYPE(*APPNSSN)が指定された場合だけです。

*SAME

APPNリモートCFGLフィルター処置は変更されません。

*ACCEPT

APPNリモート構成リストに指定された項目のセッション・エンドポイント要求が受け入れられます。

*NONE

セッション・エンドポイント要求は、APPNリモート構成リスト中に指定された項目を使用してフィルター操作されません。

上

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

*BLANK

テキストは指定されません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

***SAME**

値は変更されません。

上

APPN ローカル・ロケーション項目 (APPNLCL)

APPNローカル・ロケーション項目を指定します。構成リスト・タイププロンプト(TYPEパラメーター)に*APPNLCLが指定されている場合には、この値の入力は必須です。

このパラメーターには複数の値を入力できます。

***PROMPT**

特殊値*PROMPTによって、全画面入力パネルを使用して項目を追加、除去、および変更することができます。

注: すでに構成リストに入っている項目に影響を与えたくない場合には、*PROMPTを指定しなければなりません。CHGCFGLコマンドから直接項目を指定すると、すべての項目が除去され、新しい項目に置き換えられます。

このパラメーターに、最大50個の記入項目を直接指定することができます。項目は次の要素のそれぞれからの値から成っています。

ローカル・ロケーション名

ローカル・システムに存在しているロケーション名を指定してください。この名前は、送られてくる要求がこのシステム用のものか、あるいはネットワーク中の別のシステム用のものかを判別するためにAPPNによって使用されます。ローカル・ロケーション名は固有としなければならず、構成リストQAPPNRMTで使用されるリモート・ロケーション名としてすでに存在してはならず、あるいは同じAPPNネットワーク中のローカル・ロケーションとして別のシステムに指定されてはいけません。

項目記述

各ローカル項目の20文字以下の短い記述を指定してください。

上

APPN リモート・ロケーション項目 (APPNRMT)

APPNリモート・ロケーション項目を指定します。構成リスト・タイププロンプト(TYPEパラメーター)に*APPNRMTが指定されている場合には、この値の入力は必須です。

このパラメーターには複数の値を入力できます。

***PROMPT**

特殊値*PROMPTによって、全画面入力パネルを使用して項目を追加、除去、および変更することができます。

注:すでに構成リストに入っている項目に影響を与えたくない場合には、*PROMPTを指定しなければなりません。CHGCFGLコマンドから直接項目を指定すると、すべての項目が除去され、新しい項目に置き換えられます。

このパラメーターに、最大50個の記入項目を直接指定することができます。項目は次の要素のそれぞれからの値から成っています。

リモート・ロケーション名

リモート・ロケーションの完全な名前、あるいはアスタリスク(*)で終る総称名を指定してください。総称ロケーション名は、名前がアスタリスクの前の文字と一致している単一制御点で、すべてのロケーションに対して1つのディレクトリー項目を定義できるようにするために使用されます。また、*ANYを指定することができ、システムはこれを通して送られてくるすべての要求を受け入れることができます。総称記入項目は、ネットワーク・ノードからのみ使用することができます。

リモート・ネットワークID

リモート・ロケーションが入っているネットワークのネットワークIDを指定してください。省略時の値*NETATRは、システム・ネットワーク属性からのLCLNETID値を使用します。

ローカル・ロケーション名

ローカル・システムに存在しているロケーション名を指定してください。APPNはこの名前を使用して、ローカルとリモートの対になるロケーションの項目を突き合わせます。省略時の値*NETATRは、システム属性からのLCLLOCNAMEを使用します。

制御点名

リモート・ロケーションのネットワーク機能を備えている制御点を指定してください。この制御点名(リモート・ロケーションのディレクトリー項目)を使用することによって、ロケーションを見つけるために、ネットワークがより効果的に検索されます。リモート・ロケーション名が総称の場合には、このフィールドは必須です。省略時の値は*NONEです。

制御点ネットワークID

制御点が入っているネットワークのネットワークIDを指定してください。省略時の値*NETATRは、システム・ネットワーク属性からのLCLNETID値を使用します。

ロケーション・パスワード

ローカル・ロケーション/リモート・ロケーション名の対にセッションを確立するとき使用するパスワードを指定します。この値には、偶数個の16進文字が含まれていなければなりません。省略時の値は*NONEです。

機密保護ロケーション

リモート・システムから受け取られたプログラム開始要求で機密保護情報がどのように扱われるかを指定します。セッションが確立された時に、この値がリモート・システムに送られます。これは、割り振りまたは呼び出し要求の作成方法を決定する時に使用されます。この値は、SECURITY(SAME)レベルの機密保護で開始された会話にのみ適用されます。

***NO** リモート・システムは保護ロケーションではありません。リモート・システムによって行なわれる機密保護の妥当性検査は受け入れられません。SECURITY(SAME)会話はSECURITY(NONE)として扱われます。割り振りまたは呼び出し要求で機密保護情報は送られません。

***YES** リモート・システムは保護ロケーションで、ローカル・システムはリモート・システムによって行なわれる機密保護妥当性検査を受け入れます。SECURITY(SAME)会話の場合には、ローカル・システムによって、リモート・システムはユーザー・パスワードを検査す

ことができます。リモート・システムでは、ユーザーIDはオペレーティング・システムから検索されます。次に、ユーザーIDは、割り振りですでに検査済みの標識と一緒に送信されるか、要求を呼び出します。

***VFYENCPWD**

リモート・システムは保護ロケーションではありません。SECURITY(SAME)会話の場合には、リモート・システムは検査済み標識を送ることはできません。リモート・システムでは、ユーザーIDおよびパスワードはオペレーティング・システムから検索されます。次に、パスワードは暗号化され、ローカル・システムによって検査するために、割り振り時のユーザーIDと一緒に送信されるか、要求を呼び出します。この値は、リモート・システムがI5/OS V3R2M0以降を使用している場合にのみ使用してください。リモート・システムがパスワード保護をサポートしていない場合には、セッション確立は許可されないこととなります。パスワード保護をサポートしているが、暗号化されたパスワードの検証(VFYENCPWD)をサポートしていないリモート・システムの場合には、会話はSECURITY(NONE)として取り扱われることとなります。

会話の数

単一セッション接続の会話の数を指定してください。省略時の会話の数は10です。単一セッションが*NOの場合には、省略時の値を使用しなければなりません。会話の数の有効な範囲は1から512です。

ローカル制御セッション

ローカル制御セッションが、このローカル・ロケーション名/リモート・ロケーション名の対に使用できるかどうかを示すために、YESまたはNOを指定してください。省略時の値は*NOです。

事前確立セッション

ローカルおよびリモート・ロケーションとの間で接続が行なわれた時に、セッションが自動的に結合されるかどうかを示すために、YESまたはNOを指定してください。省略時の値は*NOです。

項目記述

各リモート項目に短い記述を指定します。省略時の値は*BLANKです。

注: リモート・ロケーション名、ネットワークID,およびローカル・ロケーション名の組み合わせは固有のものでなければなりません。また、リモート・ロケーション名は、構成リストQAPPNLCL内のローカル・ロケーション名として、あるいはLCLLOCNAMEまたはLCLCPNAMEネットワーク属性の現行値としてすでに存在するものであってはなりません。

上

非同期ネットワーク・アドレス項目 (ASYNCADRE)

非同期ネットワーク・アドレス項目を指定します。構成リスト・タイププロンプト(TYPEパラメーター)に*ASYNCADRが指定されている場合には、この値の入力は必須です。

このパラメーターには複数の値を入力できます。

***PROMPT**

特殊値*PROMPTによって、全画面入力パネルを使用して項目を追加、除去、および変更することができます。

注:すでに構成リストに入っている項目に影響を与えたくない場合には、*PROMPTを指定しなければなりません。CHGCFGLコマンドから直接項目を指定すると、すべての項目が除去され、新しい項目に置き換えられます。

このパラメーターに、最大50個の記入項目を直接指定することができます。項目は次の要素のそれぞれからの値から成っています。

ネットワーク・アドレス

X.25ネットワーク・アドレスを指定します。この値には数字0から9しか入れることができません。

ダイヤル呼び出し再試行

ダイヤル呼び出し中にエラーが起こった時に、リストの次の番号のダイヤル呼び出しが試みられる前にダイヤル呼び出しが再試行される回数を指定してください。ダイヤル呼び出しの再試行回数の有効な範囲は1から255です。

項目記述

各ネットワーク・アドレス項目の短い記述を指定してください。

上

非同期リモート・ロケーション項目 (ASYNCLOC)

非同期リモート・ロケーション項目を指定します。構成リスト・タイププロンプト(TYPEパラメーター)に*ASYNCLOCが指定されている場合には、この値の入力は必須です。

このパラメーターには複数の値を入力できます。

*PROMPT

特殊値*PROMPTによって、全画面入力パネルを使用して項目を追加、除去、および変更することができます。

注:すでに構成リストに入っている項目に影響を与えたくない場合には、*PROMPTを指定しなければなりません。CHGCFGLコマンドから直接項目を指定すると、すべての項目が除去され、新しい項目に置き換えられます。

このパラメーターに、最大50個の記入項目を直接指定することができます。項目は次の要素のそれぞれからの値から成っています。

リモート・ロケーション名

リモート・ロケーションIDと結合された時に、着信呼び出しを受け入れるかどうかを決定する名前を指定してください。これは、ローカル名としてリモート・システムで使用された名前と同じです。この値は固有でなければなりません。

リモート・ロケーションID

リモート・ロケーション名と結合された時に、着信呼び出しを受け入れるかどうかを決定するIDを指定してください。このIDは、ローカルIDとしてリモート・システムで使用されたものと同じでなければなりません。

項目記述

各リモート・ロケーション項目の短い記述を指定してください。省略時の値は*BLANKです。

小売業パススルー項目 (RTLPAsthRE)

小売業パススルー項目を指定してください。この値は、構成リスト・タイププロンプト(TYPEパラメータ)に*RTLPAsthRを指定した場合に必要です。

このパラメータには複数の値を入力できます。

*PROMPT

特殊値*PROMPTによって、全画面入力パネルを使用して項目を追加、除去、および変更することができます。

注: すでに構成リストに入っている項目に影響を与えたくない場合には、*PROMPTを指定しなければなりません。CHGCFGLコマンドから直接項目を指定すると、すべての項目が除去され、新しい項目に置き換えられます。

このパラメータに、最大50個の記入項目を直接指定することができます。項目は次の要素のそれぞれからの値から成っています。

小売業装置名

ホストと通信する小売業装置の名前を指定してください。この値は固有でなければなりません。

SNUF装置名

小売業装置がホストと通信するためのSNUF装置の名前を指定してください。この値は固有でなければなりません。

省略時のホスト・プログラム名

セッションの開始を要求するSNAコマンド(INIT-SELF)にプログラム名が示されていない場合には、ホストで開始するプログラムの名前を指定してください。

項目記述

各小売業パススルー項目ごとの短い記述を指定してください。省略時の値は*BLANKです。

例

```
CHGCFGL TYPE(*ASYNCAADR) CFGL(CFGL01)
```

このコマンドは、構成リストCFGL01の既存の項目を示す全画面の入力画面を表示します。この入力画面からは、ユーザーは項目を追加、変更、および除去できます。

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF260F

構成リスト&1は見つからなかった。

CPF261C

構成リスト&1の索引は変更されなかった。

CPF261D

構成リスト&1の索引は変更されなかった。

CPF261F

構成リスト&1が削除された。

CPF2625

オブジェクト&1を割り振ることができない。

CPF263A

CFGLタイプ&1が既存のタイプ&2と一致していない。

CPF2634

オブジェクト&1は認可されていない。

CPF2663

構成リスト&1は前に削除されている。

CPF9838

ユーザー・プロファイルの記憶域限界を超えた。

上

構成リスト項目の変更 (CHGCFGLE)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

構成リスト項目変更(CHGCFGLE)コマンドは、SNAパススルー構成リストの中の1つの項目を変更します。1つの項目は、グループ名、項目の説明、およびアップストリームSNAパススルー装置名から構成されます。ユーザーは、グループ名によって示される各項目と関連したSNAパススルー装置名を追加、除去、または変更することができます。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
TYPE	構成リスト・タイプ	*SNAPASTHR	必須, キー, 定位置 1
GRPNAME	SNAパススルー・グループ名	名前, *SAME	オプション, キー, 定位置 2
DEV	SNAパススルー装置記述	単一値: *SAME その他の値 (最大 254 回の繰り返し): 名前	オプション
TEXT	項目 '記述'	文字値, *SAME, *BLANK	オプション
SNAPASTHRE	SNAパススルー項目	単一値: *SAME その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: SNAパススルー・グループ名	通信名	
	要素 2: SNAパススルー装置記述	単一値: *SAME その他の値 (最大 254 回の繰り返し): 通信名	
	要素 3: 項目 '記述'	文字値, *SAME, *BLANK	

上

構成リスト・タイプ (TYPE)

変更中の構成リスト項目のタイプを指定します。

これは必須パラメーターです。

*SNAPASTHR

SNAパススルー・リストが使用されます。構成リスト中の変更される1つのSNAパススルー項目を指定することができます。

上

SNAパススルー・グループ名 (GRPNAME)

変更中の構成リスト項目のSNAパススルー・グループ名を指定します。

*SAME

値は変更されません。

グループ名

変更されている項目の名前を指定してください。項目はグループ名によって識別されます。このグループ名は、構成リスト中にすでに存在していなければなりません。グループ名には、それと関連したアップストリームSNAパススルー装置名が含まれます。

上

SNAパススルー装置記述 (DEV)

GRPNAMEパラメーターに指定されたグループ名と関連したアップストリームSNAパススルー装置の名前を指定します。

*SAME

値は変更されません。

装置名 パススルー・セッションに使用する装置の名前を指定してください（複数も可）。

上

項目 '記述' (TEXT)

SNAパススルー・グループを簡単に記述するテキストを指定します。

注: このパラメーターが有効なのは、TYPE(*SNAPASTHR)が指定されている場合だけです。

*SAME

値は変更されません。

*BLANK

テキストは指定しません。

'項目の説明'

変更されているSNAパススルー項目について最高50文字までの説明を指定してください。

上

SNAパススルー項目 (SNAPASTHRE)

SNAパススルー項目を指定します。このパラメーターは、TYPE(*SNAPASTHR)が指定されている場合に指定することができます。しかし、このパラメーターは今後のリリースでは除去されることがあるので、使用可能な場合にはいつでもGRPNAME、DEV、およびTEXTパラメーターを使用してください。

上

例

```
CHGCFGLE TYPE(*SNAPASTHR) GRPNAME(CICSGROUP)
          DEV(HOSTDEV1 HOSTDEV2)
          TEXT('CHICAGO HOST CICS GROUP')
```

このコマンドは、現在SNA構成グループCICSGROUPと関連した装置名をHOSTDEV1およびHOSTDEV2に変更します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF260F

構成リスト&1は見つからなかった。

CPF261C

構成リスト&1の索引は変更されなかった。

CPF2625

オブジェクト&1を割り振ることができない。

CPF2634

オブジェクト&1は認可されていない。

CPF2663

構成リスト&1は前に削除されている。

CPF9838

ユーザー・プロファイルの記憶域限界を超えた。

上

クリーンアップの変更 (CHGCLNUP)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

クリーンアップ変更(CHGCLNUP)コマンドによって、システム上のオブジェクトを自動的に削除することを制御するクリーンアップ・オプションを指定することができます。クリーンアップ・オプションは次のことを制御します。

- クリーンアップ操作が可能かどうか
- 毎日のクリーンアップ操作をいつ行うか
- どのオブジェクトのクリーンアップを行うか

クリーンアップされるオブジェクトのリストについては、次のパラメーターの説明を参照してください。

- ユーザー・メッセージ (USRMSG)
- システムおよびワークスション・メッセージ (SYSMSG)
- 重大なシステム・メッセージ (CRITSYSMSG)
- ジョブ・ログおよびシステム出力 (SYSPRT)
- システムのジャーナルおよびログ (SYSLOG)

このコマンドを使用した時にクリーンアップが活動状態である場合には、クリーンアップの進み具合によって、新しい値が使用されることもあれば使用されないこともあります。このコマンドを入力した時にクリーンアップが非活動状態である場合は、このコマンドで指定された新しい値は、次回にクリーンアップを、クリーンアップ開始(STRCLNUP)コマンドで開始するか、あるいはi5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「システム操作の基本」トピック・コレクションに説明されている通りに開始した時に、使用されます。

制約事項:このコマンドを使用するには、全オブジェクト(*ALLOBJ)、機密保護管理者(*SECADM)、およびジョブ制御(*JOBCTL)特殊権限をもっていなければなりません。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
ALWCLNUP	クリーンアップ可能	*SAME, *YES, *NO	オプション
STRTIME	毎日のクリーンアップ開始時刻	時刻, *SAME, *SCDPWROFF, *NONE	オプション
USRMSG	保存する日数	要素リスト	オプション
	要素 1: ユーザー・メッセージ	1-366, *SAME, *KEEP	
SYSMSG	システムおよびワークスション・メッセージ	1-366, *SAME, *KEEP	オプション
CRITSYSMSG	重大なシステム・メッセージ	1-366, *SAME, *KEEP	オプション
SYSPRT	ジョブ・ログおよびシステム出力	1-366, *SAME, *KEEP	オプション
SYSLOG	システムのジャーナルおよびログ	1-366, *SAME, *KEEP	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノート
JOBQ	ジョブ待ち行列	単一値: <u>*SAME</u> その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ジョブ待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
JRNRCVSIZ	ジャーナル・レシーバー・サイズ	1-1919999, <u>*SAME</u> , *KEEP	オプション
CALITM	オフィス予定表項目	1-366, <u>*SAME</u> , *KEEP	オプション
RUNPTY	実行優先順位	1-99, <u>*SAME</u>	オプション

上

クリーンアップ可能 (ALWCLNUP)

このシステムでクリーンアップ操作を実行できるかどうかを指定します。**ALWCLNUP(*YES)**が指定された場合には、クリーンアップ開始(STRCLNUP)コマンドを使用して、あるいはi5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「システム操作の基本」トピック・コレクションに説明されている通りに、クリーンアップを開始することができます。また、**ALWCLNUP(*YES)**が指定された場合には、CLソース仕様検索(RTVCLSRC)コマンドでプログラムQEZUSRCLNPを検索し、ソース仕様を変更し、CLプログラム作成(CRTCLPGM)コマンドでCLプログラムをコンパイルすることによって、クリーンアップを変更することもできます。

*SAME

既存の値は変更されません。初期値は*NOですが、スクラッチ導入中は*YESに設定されます。

***YES** このシステムでクリーンアップを実行することができます。

***NO** このシステムでクリーンアップを実行することはできません。

上

毎日のクリーンアップ開始時刻 (STRTIME)

クリーンアップ操作が毎日開始する時刻を指定します。

*SAME

時刻は変更されません。初期値は220000です。

***SCDPWROFF**

スケジュールされた電源オフの時間にクリーンアップが開始します。クリーンアップが正常に完了したかどうかに関係なく、クリーンアップが終了した時点で電源はオフになります。

***NONE**

クリーンアップの開始時刻がスケジュールされていません。クリーンアップ・バッチ・ジョブは投入されません。

時刻 毎日のクリーンアップを開始する時刻をHHMMSS形式で指定してください。ここで、**HH =時間**、**MM =分**、および**SS=秒**です。

時刻は、時刻区切り記号つきまたはなしで指定することができます。

- 時刻区切り記号を使用しない場合には、4または6桁のストリング(HHMMまたはHHMMSS)を指定します。ここで、HH =時、MM =分、およびSS =秒です。

- 時刻区切り記号を使用する場合には、ユーザーのジョブに指定された時刻区切り記号を使用して、時、分、および秒を区切った5または8桁のストリングを指定してください。このコマンドをコマンド入力行から入力する場合には、ストリングをアポストロフィで囲まなければなりません。ジョブに指定された区切り記号以外の時刻区切り記号を使用した場合には、このコマンドは正常に実行されません。

上

ユーザー・メッセージ (USRMSG)

ユーザー・プロファイル・メッセージ待ち行列のメッセージをクリーンアップするかどうかを指定します。この機能は、指定された日数より長くシステムに残っているユーザー・メッセージ待ち行列上のメッセージを削除します。

*SAME

日数は変更されません。初期値は7日です。

***KEEP**

メッセージは削除されずに、保存されます。

1から366

メッセージを削除しないで保存しておく日数を指定してください。

上

システムおよびワークステーション・メッセージ (SYSMSG)

QSYSOPRメッセージ待ち行列およびワークステーション・メッセージ待ち行列のメッセージをクリーンアップするかどうかを指定します。クリーンアップ機能は、指定された日数より長くシステムに残っているQSYSOPRメッセージ待ち行列およびワークステーション・メッセージ待ち行列上のメッセージを削除します。

*SAME

日数は変更されません。初期値は4日です。

***KEEP**

メッセージは削除されずに、保存されます。

1から366

メッセージが削除される前に保存しておく日数を指定してください。

上

重大なシステム・メッセージ (CRITSYSMSG)

クリーンアップ機能では、指定された日数より長くシステムに残っているQSYSMSGメッセージ待ち行列上のメッセージ（存在する場合）を削除するかどうかを指定します。

*SAME

日数は変更されません。初期値はどのメッセージも削除しません(*KEEP)。

***KEEP**

メッセージは削除されずに、保存されます。

1から366

メッセージが削除される前に保存しておく日数を指定してください。

上

ジョブ・ログおよびシステム出力 (SYSPRT)

ジョブ・ログおよび他のシステム出力をクリーンアップするかどうかを指定します。

この出力とユーザーの出力とを混同しないようにするために、ジョブ・ログ用の印刷装置ファイル (QPJOBLOG)の出力待ち行列はジョブ・ログを受け取るQUSRSYS/QEZJOBLOGに変更されます。印刷ファイルQPSRVDMP, QPPGMDMP,およびQPBASDMPの出力待ち行列は, QUSRSYS/QEZDEBUGに変更されます。 QEZJOBLOGおよびQEZDEBUGの項目のうち, このパラメーターで指定された日数より古いものはすべて削除されます。これによって, また, 指定された日数より前に完了しているジョブの保留中のジョブ・ログも除去されます。

クリーンアップ操作が終了した場合には, QEZJOBLOGおよびQEZDEBUGという名前の出力待ち行列がジョブ・ログ, 保守ダンプ, およびプログラム・ダンプ用に引き続き使用されます。

***SAME**

日数は変更されません。初期値は7日です。

***KEEP**

ジョブ・ログおよび他のシステム出力は削除されません。これらは保存されます。

1から366

ジョブ・ログおよび他のシステム出力が削除される前に保存しておく日数を指定してください。これは, スプール・ジョブ・ログだけでなく保留中のジョブ・ログにも影響します。

上

システムのジャーナルおよびログ (SYSLOG)

システム・ジャーナル, ヒストリー・ファイル, 問題ログ・ファイル, および警報データベースがクリーンアップ (削除) されることを指定します。

クリーンアップされるジャーナル・レシーバー:

次のシステム・ジャーナルの1つで使用され, このパラメーターで指定された日数より前のジャーナル・レシーバーは削除されます。

QAOSDIAJRN

DIAファイル用ジャーナル

QDSNX

DSNXログ用ジャーナル

QSNADS

SNADSファイル用ジャーナル

QSXJRN

問題データベース用ジャーナル

QPFRADJ

パフォーマンス調整データ用ジャーナル

QACGJRN

ジョブ会計データ用ジャーナル

QX400 OSIメッセージ・サービス**QCQJMJRN**

管理されるシステム・サービス用ジャーナル

QO1JRN

APPLICATION ENABLER OFCファイル用ジャーナル

ADJRNLO

アプリケーション・プログラム・ドライバ・ファイル用のジャーナル

QSNMP

SNMP用ジャーナル

QLYJRN

アプリケーション開発管理トランザクション用ジャーナル

QLYPRJLOG

プロジェクト・ログ用ジャーナル

QMAJRN

作業順序要求用ジャーナル

QZMF QMSFジョブ用ジャーナル**QASOSCFG**

SOCKS構成ファイル用ジャーナル。

QSZRAIR

登録済みアプリケーション情報リポジトリ用ジャーナル。

QLZALOG

ライセンス管理用ジャーナル。

注: ジョブ会計用のジャーナル・レシーバ(QACGJRN)がクリーンアップされるのは、操作援助機能がジャーナルを作成する場合だけです。

クリーンアップされたヒストリー・ファイル:

次の条件を両方とも満たすヒストリー・ファイルが削除されます。

- このパラメーターで指定された日数より前のヒストリー・ファイル
- QSYS/QHST*という名前のヒストリー・ファイル。

クリーンアップされた問題ログ・ファイルおよび項目:

このパラメーターで指定された日数より前の問題ログ項目は削除されます。問題削除(DLTPRB)コマンドを実行して、問題ログの項目を削除します。DLTPRBコマンドの実行時に、このパラメーターで指定された日数がDLTPRBコマンドの日数(DAYS)パラメーターに使用されます。

注: このパラメーターで指定された日数がシステム値QPRBHLDTV(問題ログ保留間隔)に指定された日数より小さい場合には、問題ログのクリーンアップ用にQPRBHLDTVの値が使用されます。

問題ログ項目が削除されるほかに、QUSRSYSライブラリー中の次の問題ログ・ファイルが再編成されます。

注: 次のファイルはライブラリーQUSRSYSに入っています。

QASXCALL	QASXFRU	QASXNOTE
QASXPROB	QASXPTF	QASXYMP
QASXEVT		

クリーンアップされた警報データベース項目:

このパラメーターで指定された日数より前の警報データベース項目は削除されます。警報削除(DLTALR)コマンドを実行して、警報データベース項目を削除します。DLTALRコマンドの実行時に、このパラメーターで指定された日数がDLTALRコマンドの**日数 (DAYS)**パラメーターに使用されます。

警報データベース項目が削除されるほかに、ファイルQUSRSYS/QAALERTが再編成されます。

クリーンアップされるプログラム一時修正(PTF):

注: ライブラリーQSMUがシステムに存在している場合には、どのPTF保管ファイルも終結処置されません。ライブラリーQSMUがシステムに存在していない場合には、リリース前のすべてのリリースに対するPTFがクリーンアップされます。

- 次の名前の一時的オブジェクト:
 - QPZA000000からQPZA999999
 - QPZI000000からQPZI999999
 - QPZR000000からQPZR999999
 - QSCA000000からQSCA999999
 - QSCR000000からQSCR999999
- PTFと一緒に出荷される出口プログラム
- QUSRSYS中の物理ファイル
- QAPZPTF
- QAPZREQ
- QAPZSYM

***SAME**

日数は変更されません。初期値は30日です。

***KEEP**

システム・ジャーナルおよびシステム・ログは削除されません。

1から366

システム・ジャーナルおよびシステム・ログを削除する前に、それらを保存する日数を指定してください。

上

ジョブ待ち行列 (JOBQ)

クリーンアップ・バッチ・ジョブを投入するジョブ待ち行列の名前およびライブラリーを指定します。

単一値

*SAME

ジョブ待ち行列は変更されません。初期値は*LIBL/QCTLです。

修飾子1: ジョブ待ち行列

名前 クリーンアップ・バッチ・ジョブを投入するジョブ待ち行列の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、ジョブのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブ待ち行列を見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 ジョブ待ち行列が入っているライブラリーの名前を指定してください。

上

ジャーナル・レシーバー・サイズ (JRNRCVSIZ)

記憶域のキロバイト(KB)数を指定します。各1000 KBは1,024,000バイトの記憶域スペースを指定します。ジャーナル・レシーバー用のスペースのサイズがこの値によって指定されたサイズより大きい場合には、操作援助機能(OA)の自動クリーンアップ機能がそれを切り離します。

OAは、また、システムのジャーナルおよびログ (SYSLOG)パラメーターに指定された日数より古いレシーバーを自動的に切り離します。

ジャーナル・レシーバーは、SYSLOGパラメーターに指定された日数より長く切り離されていた後にのみ削除されます。

*SAME

ジャーナル・レシーバー・サイズは変更しません。初期値は5000 KBです。

1から1919999

記憶域のジャーナル・レシーバー・サイズをキロバイト(KB)で指定します。OAの自動クリーンアップの実行時にこの値を超えた場合には、ジャーナル・レシーバーは切り離されます。

上

オフィス予定表項目 (CALITM)

V5R1以降のリリースでは、このパラメーターはサポートされていません。

上

実行優先順位 (RUNPTY)

ジョブの実行優先順位を指定します。実行優先順位は1（最高の優先順位）から99（最低の優先順位）までの範囲の値で、ジョブが機械資源について他のジョブと競合した場合のそのジョブの重要度を表します。この値は、ジョブの相対的（絶対的でない）重要度を表します。例えば、実行優先順位25の経路指定ステップが、実行優先順位50の経路指定ステップより2倍重要なわけではありません。

*SAME

実行優先順位に変更はありません。初期値は55です。

1から99

経路指定ステップが使用する実行優先順位を指定します。

上

例

例1:クリーンアップ中のユーザー・メッセージの保持

```
CHGCLNUP ALWCLNUP(*YES) USRMSG(*KEEP) STRTIME(0700)
```

このコマンドは、クリーンアップの実行時にメッセージが保持され削除されないよう、クリーンアップ・オプションを変更します。このコマンドは、クリーンアップ開始時刻を7:00 A.M.に設定します。

例2:システム・ジャーナルおよびシステム・ログのクリーンアップ

```
CHGCLNUP ALWCLNUP(*YES) SYSMMSG(10) SYSLOG(3)
```

このコマンドは、システム・メッセージが10日間、およびシステム・ジャーナルとシステム・ログが3日間、削除される前に保持されるようクリーンアップ・オプションを変更します。

例3:クリーンアップ・ジョブの実行優先順位の変更

```
CHGCLNUP RUNPTY(50)
```

このコマンドは、実行優先順位を50に変更します。

例4:ジャーナル・レシーバー・サイズの変更

```
CHGCLNUP JRNRCVSIZ(6000)
```

これは、ジャーナル・レシーバー・サイズ限界を記憶域の6000 KB (6144000バイト)に変更します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF1E2A

QSYSSCDジョブで予期しないエラーが起こった。

CPF1E2B

電源スケジューラーおよびクリーンアップ・オプションが見つからない。

CPF1E3C

ジョブ待ち行列&2/&1が見つからない。

CPF1E3D

JOBQパラメーターのライブラリー&1が見つからない。

CPF1E32

クリーンアップ・オプションの変更は認可されていない。

CPF1E33

クリーンアップ・オプションまたは電源スケジュールは別のユーザーが使用中である。

CPF1E99

予期しないエラーが起こった。

上

クラスの変更 (CHGCLS)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

クラスの変更 (CHGCLS)コマンドは、クラス作成 (CRTCLS)コマンドを使用して作成されたクラス・オブジェクトの属性を変更します。クラスはそのクラスを使用するジョブの処理属性を定義します。ジョブによって使用されるクラスは、そのジョブを開始するために使用されるサブシステム記述ルーティング項目に指定されています。ジョブが複数のルーティング・ステップから成っている場合には、後続の各ルーティング・ステップによって使用されるクラスはそのルーティング・ステップを開始するために使用されるルーティング項目に指定されています。

共通権限属性を除いてどの属性でも変更することができます。オブジェクト権限の変更の詳細については、オブジェクト権限取り消し (RVKOBJAUT)コマンドおよびオブジェクト権限認可 (GRTOBJAUT)コマンドを参照してください。

制約事項

- このコマンドを使用するには、以下が必要です。
 - クラスに対するオブジェクト管理(*OBJMGT)権限およびオブジェクト操作(*OBJOPR)権限。
 - クラスが入っているライブラリーに対する実行(*EXECUTE)権限。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
CLS	クラス	修飾オブジェクト名	必須, キー, 定位置 1
	修飾子 1: クラス	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
RUNPTY	実行優先順位	1-99, *SAME	オプション
TIMESLICE	タイム・スライス	0-9999999, *SAME	オプション
PURGE	除去適格	*SAME, *YES, *NO	オプション
DFTWAIT	省略時の待ち時間	0-9999999, *SAME, *NOMAX	オプション
CPUTIME	最大CPU時間	1-9999999, *SAME, *NOMAX	オプション
MAXTMPSTG	最大一時記憶域	1-2147483647, *SAME, *NOMAX	オプション
MAXTHD	最大スレッド数	1-32767, *SAME, *NOMAX	オプション
TEXT	テキスト記述	文字値, *SAME, *BLANK	オプション

上

クラス (CLS)

クラスの修飾名を指定します。

注:次のIBM提供のクラスはこのパラメーターには無効です。

- QARBCLS
- QLPINSTALL
- QMONCLS

これは必須パラメーターです。

修飾子1: クラス

名前 クラスの名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 一致が見つかるまで、スレッドのライブラリー・リストの中のすべてのライブラリーが検索されません。

***CURLIB**

オブジェクトを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 クラスが入っているライブラリーを指定してください。

上

実行優先順位 (RUNPTY)

クラスを使用するジョブの実行優先順位を指定します。実行優先順位は1（最高の優先順位）から99（最低の優先順位）の範囲の値であり、同時に活動状態である他のジョブに関連した処理装置をジョブが競合する時の優先順位を表します。マルチスレッド・ジョブの場合には、実行優先順位はジョブ内のスレッドに許される最高の実行優先順位でもあります。ジョブ内の個々のスレッドはこれより低い優先順位をもつことができます。

この値はジョブの相対的な重要度を表し、絶対的な重要度ではありません。例えば、実行優先順位が25のジョブは実行優先順位が50のジョブの2倍重要であるということではありません。

***SAME**

実行優先順位は変更されません。

1から99

この指定されたクラスを使用するジョブの実行優先順位を指定します。

上

タイム・スライス (TIMESLICE)

このジョブの他のスレッドまたは他のジョブに実行の機会が与えられるまでに、このクラスを使用するジョブの各スレッドに与えられる最大プロセッサ時間（ミリ秒）を指定します。タイム・スライスは、意味のある量の処理を行うためにジョブ内のスレッドに必要な時間の量を確立します。タイム・スライスの終わりにスレッドを非活動状態にすると、他のスレッドを記憶域プール内で活動状態にできます。

*SAME

タイム・スライスは変更されません。

0から9999999

このクラスを使用するジョブの各スレッドで実行しなければならない最大時間（ミリ秒）を指定します。

注: 8より小さい値を指定することができますが、システムは処理を実行するのに最小でも8ミリ秒を要します。ジョブの実行属性を表示する場合には、タイム・スライス値が8以下になることはありません。

上

除去適格 (PURGE)

タイム・スライスの終了時または長時間待機（例えば、ワークステーション・ユーザーの応答の待機）がある時に、このジョブが主記憶域から取り出して補助記憶域に移すのに適格となるかどうかを指示します。オペレーティング・システムは、すでにこのパラメーターを使用しません。

*SAME

値は変更されません。

***YES** ジョブは、主記憶域から取り出され、補助記憶装置に入れられるのに適格となります。ただし、複数のスレッドをもつジョブが主記憶域から除去されることはありません。

***NO** ジョブは主記憶域から取り出して補助記憶域に入れるには適格ではありません。ただし、主記憶域が必要な時には、このジョブ内のスレッドに属するページを補助記憶域に移動できます。その後、このジョブ内のスレッドが再び実行される時に、そのページは必要に応じて主記憶域に戻されます。

上

省略時の待ち時間 (DFTWAIT)

ジョブ中のスレッドが資源を獲得するためにシステム命令(LOCKマシン・インターフェース(MI)命令など)を待機する省略時の最大時間（秒数）を指定します。この省略時の待機時間は、与えられた状況下で待機時間が指定されていない時に使用されます。通常は、これは要求の終了までにシステム・ユーザーがシステムを待機する時間の量となります。

命令の待機時間を超えた場合には、エラー・メッセージを表示するか、メッセージ・モニター (MONMSG) コマンドによって自動的に処理することができます。

*SAME

省略時の待機時間は変更されません。

***NOMAX**

最大待ち時間はありません。

0から9999999

システム命令が資源を獲得するまでシステムが待機する最大時間（秒数）を指定します。

注：省略時の待機時間である0を使用できますが、これはお奨めできません。一部のシステム命令には、使用中の場合があるシステム資源の使用が必要であり、省略時の時間である0を使用すると、命令が正常に実行されない原因となります。システム命令が正常に実行されない（省略時の待機時間を超えた）場合には、スレッドに対して予期しない結果が起こる可能性があります。多くのシステム資源が使用中となるのは短時間だけであるため、省略時の待機時間が少なくても、スレッドのパフォーマンスが著しく低下することはありません。

上

最大CPU時間 (CPUTIME)

ジョブが使用できる最大処理装置時間（ミリ秒）を指定します。ジョブが複数のルーティング・ステップから成っている場合には、各ルーティング・ステップでこの処理装置時間を使用できます。最大時間を超えた場合には、ジョブは終了します。

***SAME**

最大処理装置時間は変更されません。

***NOMAX**

使用する処理装置時間に制限はありません。

1から9999999

使用できる最大処理装置時間（ミリ秒）を指定してください。

上

最大一時記憶域 (MAXTMPSTG)

ジョブが使用できる最大一時（補助）記憶域の容量（キロバイト数）を指定します。ジョブに複数のルーティング・ステップがある場合には、これはルーティング・ステップが使用できる最大一時記憶域となります。この一時記憶域は、プログラム自身に必要な記憶域用、またはジョブをサポートするために使用する暗黙に作成された内部システム・オブジェクトに必要な記憶域用に使用されます。これには、QTEMPライブラリー中の記憶域は含まれません。最大一時記憶域を超えた場合には、ジョブは終了します。このパラメーターは、ユーザー・プロファイルによって制御される永続記憶域の使用には適用されません。

***SAME**

このクラスを使用するジョブの最大一時記憶域は変更されません。

***NOMAX**

システムの最大値が使用されます。

1から2147483647

使用できる一時記憶域の最大容量（キロバイト数）を指定します。

注：値はキロバイトで指定しますが、指定された値は最も近いメガバイトに四捨五入してクラスに記憶されます。

上

最大スレッド数 (MAXTHD)

このクラスを使用するジョブが任意の時に実行できるスレッドの最大数を指定します。マルチスレッドが同時に開始された場合には、この値を超えることがあります。この最大値を超えた場合には、正常に完了するまで余分なスレッドを実行することが許されています。追加のスレッドの開始は、ジョブ内のスレッドの最大数がこの最大値より低くなるまで禁止されます。

*SAME

値は変更されません。

*NOMAX

スレッドの最大数はありません。

1から32767

ジョブのスレッドの最大数を指定します。

注: スレッドによって使用される資源およびシステム上の使用可能な資源によって異なりますが、この最大値に達する前に追加のスレッドの開始が禁止されることがあります。

上

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

*BLANK

テキストは指定されません。

'記述' 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

上

例

```
CHGCLS CLS(CLASS1) RUNPTY(60) TIMESLICE(900)
```

このコマンドは、ジョブのライブラリー・リストのライブラリーのCLASS1と呼ばれるクラスを変更します。このクラスの実行優先順位は60に変更され、タイム・スライスは900ミリ秒です。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF1169

ライブラリー&2のクラス&1が変更されなかった。

上

クラスター回復の変更 (CHGCLURCY)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

クラスター回復変更(CHGCLURCY)コマンドは問題からの回復に使用されます。このコマンドは、サービス・プロバイダーによって指示された時にかぎり使用してください。これは、特定の回復アクションを実行するためにクラスター資源グループ内のノードを指図します。回復アクションでは、現行プロトコルを取り消すか、クラスター資源グループに関連付けられたクラスター資源グループ・オブジェクトの回復を強制するか、クラスター資源グループとの再結合を強制するか、そのクラスター資源グループに関連付けられているジョブを終了するか、あるいはCHGCLURCYコマンドが実行されたノードでクラスター資源グループのジョブを投入することができます。投入するクラスター資源グループのジョブは、現在実行中ではありません。

この処置は、クラスター資源グループで問題が起こった時に使用されるもので、グループでの特定の回復処置が強制されます。この問題はクラスター資源グループによるものではないことがあります。例えば、クラスター資源サービスはジョブを投入して、ユーザー出口プログラムを呼び出します。ジョブが保留された場合は、クラスター資源グループが停止されたようにユーザーには見えます。どんな出口プログラム・ジョブが投入されたかをユーザーは知らないで、クラスターの外でどのような回復も実行できません。

CHGCLURCYによって適切な回復処置を実行すると、クラスター資源サービスを満足させるので、出口プログラム・ジョブを呼び出したプロトコルを失敗して続行することができます。

制約事項:

1. このコマンドを使用するには、ジョブ制御(*JOBCTL)特殊権限が必要であり、さらに、サービス(*SERVICE)特殊権限か、またはISERIESナビゲーターのアプリケーション管理サポートによりオペレーティング・システムのサービス・トレース機能に対して許可されているか、のいずれかが必要です。また、このコマンドで処理するクラスター資源グループ・オブジェクトに対する変更(*CHANGE)権限も必要です。
2. このコマンドがリモート側で機能する（このコマンドを出しているノード以外の任意のノードで機能する）ためには、クラスターがバージョン3以上になっていなければなりません。
3. クラスター資源サービスは、このコマンドの発行元のノードで、活動状態または開始の進行中でなければなりません。
4. このコマンドに関係できるのは、所要クラスター資源グループのジョブがあるノードだけです。
5. このコマンドが成功したかどうかを判別するには、影響を受けたクラスター・ジョブのジョブ・ログで回復アクションが実行されたことを示しているCPDDB06メッセージを調べてください。

警告: 回復アクションはやり直したり取り消したりすることができないので、このコマンドは注意して使用してください。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
CLUSTER	クラスター	名前	必須, 定位置 1
CRG	クラスター資源グループ	名前, *ALL	必須, 定位置 2
NODE	ノード識別コード	名前, *ALL	必須, 定位置 3
ACTION	処置	*CANCEL, *RESTART, *REJOIN, *END, *STRCRGJOB	必須, 定位置 4

上

クラスター (CLUSTER)

操作対象のクラスターを指定します。

これは必須パラメーターです。

名前 回復アクションの実行対象のクラスターの名前を指定します。

上

クラスター資源グループ (CRG)

操作対象のクラスター資源グループを指定します。

これは必須パラメーターです。

***ALL** 全グループ (予約グループQCSTCTLおよびQCSTCRGMを含む)。

名前 クラスター資源グループの名前を指定してください。また、クラスター制御およびクラスター資源グループの予約名 (それぞれ, QCSTCTLおよびQCSTCRGM)を指定することもできます。

上

ノードID (NODE)

操作対象のクラスター・ノードを指定します。

これは必須パラメーターです。

***ALL** クラスター内の全活動ノード。

名前 クラスター・ノードの名前を指定してください。

上

処置 (ACTION)

回復アクションを、指定されたノード上の指定されたクラスター資源グループに指定します。

これは必須パラメーターです。

注:

1. NODE(*ALL)に有効な値は*ENDだけです。
2. CRG(*ALL)に有効な値は*ENDだけです。
3. QCSTCTLまたはQCSTCRGMのCRGパラメーター値の場合、アクション*RESTARTまたは*REJOINにより、クラスター化が指定されたノードで終了する原因になり、次に、そのノードは自動的に開始されます。 *ENDの場合、クラスター化はそのノードで終了し、クラスター化は自動的に開始されません。
4. *STRCRGJOBの場合、特定のクラスター資源グループ名のみを使用できます。特殊値QCSTCTLまたはQCSTCRGMは使用できません。

*CANCEL

現行プロトコル要求を取り消します。プロトコルが進行中である場合は、このアクションは無視されます。

*RESTART

指定されたクラスター資源グループ内の指定されたノードを、クラスター資源グループがノードの任意のフェイルオーバーを実行することなく、開始アクションを実行することにより再始動します。クラスター資源グループと関連付けられたクラスター資源グループ・オブジェクトは、そのグループの回復ドメイン内の別のノードから回復されます。別の活動ノードが回復ドメイン内にはない場合は、クラスター資源グループは非活動状態になり、有効なクラスター資源グループ・オブジェクトがある回復ドメイン内の別のノードが開始されるまで、それに対するそれ以上の操作は行われません。

*REJOIN

指定されたクラスター資源グループ内の指定されたノードを再結合します。最初に、クラスター資源グループはフェイルオーバーを実行してから、そのクラスター資源グループはそのクラスター資源グループのノードのみを開始します。

***END** 指定されたノードでクラスター資源グループ・ジョブを終了します。これはクラスター資源グループ内のフェイルオーバーの原因になります。クラスター資源グループはノードを自動的に開始せず、ノード上でのそれ以上のクラスター資源グループ操作は、最初にそのノード上のクラスター化を終了してから開始しない限り実行することができません。

*STRCRGJOB

このノードでのみクラスター資源グループ・ジョブを投入します。NODEパラメーターには、ローカル・ノードの名前を指定する必要があります。

上

例

例1: 1つのクラスター資源グループの1つのノードでの回復処置

```
CHGCLURCY CLUSTER(EXAMPLE) CRG(CRG1) NODE(NODE1)
          ACTION(*CANCEL)
```

このコマンドは、クラスターEXAMPLE中のノードNODE1のクラスター資源グループCRG1の現行プロトコルを取り消します。

例2: 予約されたクラスター資源グループでの回復処置

```
CHGCLURCY CLUSTER(EXAMPLE) CRG(QCSTCRGM)
          NODE(NODE1) ACTION(*RESTART)
```

このコマンドによって、クラスターEXAMPLE中のクラスター資源グループQCSTCRGMのノードNODE1がNODE1でのクラスタリングを終了することになります。NODE1のクラスタリングでは、NODE1がクラスター・ノード開始(ST RCLUNOD)コマンドを使用して開始されたかのように、それ自体の再始動を自動的に試みます。

例3: すべてのノードでの回復処置

```
CHGCLURCY CLUSTER(EXAMPLE) CRG(CRG1)
          NODE(*ALL) ACTION(*END)
```

このコマンドによって、クラスターEXAMPLE中のクラスター資源グループCRG1と関連したすべてのノード上のすべてのクラスター・ジョブを終了することになります。そのノードのクラスタリングが終了してから開始されるまでは、CRG1でのそれ以上の操作は指定されたノードでは実行できません。クラスター・ノードの終了および開始には、クラスター・ノード終了(ENDCLUNOD)およびSTRCLUNODのコマンドを使用することができます。

例4: すべてのグループでの回復処置

```
CHGCLURCY CLUSTER(EXAMPLE) CRG(*ALL)
          NODE(NODE1) ACTION(*END)
```

このコマンドによって、クラスターEXAMPLE中のノードNODE1上のすべてのクラスター・ジョブを終了することになります。これは、NODE1でのクラスタリングの終了にも有効です。NODE1でクラスター・ジョブを開始するには、そこで開始されているクラスタリングがNODE1に必要です。STRCLUNODコマンドは、クラスター・ノードの開始に使用することができます。

例5: ノードNODE1でのCRG1ジョブの開始

```
CHGCLURCY CLUSTER(EXAMPLE) CRG(CRG1)
          NODE(NODE1) ACTION(*STRCRGJOB)
```

このコマンドは、クラスター資源グループ・ジョブCRG1をノードNODE1に投入します。NODE1でクラスター資源グループ・ジョブを開始するには、NODE1でクラスター化が開始されている必要があります。STRCLUNODコマンドは、クラスター・ノードの開始に使用することができます。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF222E

&1特殊権限が必要である。

CPF98A2

&1コマンドまたはAPIは認可されていない。

CPFBB02

クラスター&1は存在していない。

CPFBB09

クラスター・ノード&1はクラスター&2の中には存在していない。

CPFBB0F

クラスター資源グループ&1はクラスター&2の中には存在していない。

CPFBB70

要求&1は現行のクラスター・バージョンと互換性がありません。

CPFBBA0

クラスター資源グループ&2のクラスター・ノード&1が応答していません。

上

コマンド変更 (CHGCMD)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

コマンド変更(CHGCMD)コマンドはコマンド定義の属性の一部を変更します。このコマンドでは、コマンドの処理に別のコマンド処理プログラムを指定することができます。また、コマンドを処理できる操作環境のタイプ(実行、デバッグ、または保守)、およびコマンドのテキスト記述を変更することができます。コマンド変更(CHGCMD)コマンドによって変更するコマンドを使用しているCLプログラムは再作成の必要はありません。コマンド変更(CHGCMD)コマンドは、コマンド定義オブジェクト中のパラメーター記述または妥当性検査情報を変更しません。

制約事項:

1. ユーザーには、変更するコマンドのオブジェクト管理権限が必要です。
2. 作成されたCLコマンドの属性だけを変更するために、CHGCMDコマンドを使用することができます。すなわち、コマンド作成(CRTCMD)コマンドに指定された属性のことです。CHGCMDコマンドを使用して、コマンド定義ステートメントなど、ステートメントの属性を変更することはできません。
3. 弊社提供のコマンドのコマンド処理プログラム(PGMパラメーター)、妥当性検査プログラム(VLDCKRパラメーター)、またはプロンプト一時変更プログラム(PMTOVRPGMパラメーター)を変更するために、CHGCMDコマンドを使用してはなりません。
4. CHGCMDコマンドを使用してコマンド処理プログラム(PGMパラメーター)、妥当性検査プログラム(VLDCKRパラメーター)、またはプロンプト一時変更プログラム(PMTOVRPGMパラメーター)を変更した場合には、コマンドのスレッド・セーフ属性が*NOにセットされます。コマンド作成(CRTCMD)コマンドを用いてスレッド・セーフ属性を*YESまたは*CONDに設定する必要があります。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
CMD	コマンド	修飾オブジェクト名	必須, キー, 定位置 1
	修飾子 1: コマンド	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
PGM	コマンドを処理するプログラム	単一値: *SAME, *REXX その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション, 定位置 2
	修飾子 1: コマンドを処理するプログラム	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	

キーワード	記述	選択項目	ノート
REXSRCFILE	REXXソース・ファイル	単一値: <u>*SAME</u> その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: REXXソース・ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	
REXSRCMBR	REXXソース・メンバー	名前, <u>*SAME</u> , *CMD	オプション
REXCMDENV	REXXコマンド環境	単一値: <u>*SAME</u> , *COMMAND, *CPICOMM, *EXECSQL その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: REXXコマンド環境	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	
REXEXITPGM	REXX出口プログラム	単一値: <u>*SAME</u> , *NONE その他の値 (最大 8 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: プログラム	修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: プログラム	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	
	要素 2: 出口コード	2, 3, 4, 5, 7, 8, 9, 10	
VLCKR	妥当性検査プログラム	単一値: <u>*SAME</u> , *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 妥当性検査プログラム	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	
MODE	有効なモード	単一値: <u>*SAME</u> , *ALL その他の値 (最大 3 回の繰り返し): *PROD, *DEBUG, *SERVICE	オプション
ALLOW	実行可能な環境	単一値: <u>*SAME</u> , *ALL その他の値 (最大 9 回の繰り返し): *BATCH, *INTERACT, *BPGM, *IPGM, *BREXX, *IREXX, *EXEC, *BMOD, *IMOD	オプション
ALWMTUSR	制限ユーザー可能	<u>*SAME</u> , *NO, *YES	オプション
HLPSELF	ヘルプ・ブックシェルフ	単純名, <u>*SAME</u> , *LIST, *NONE	オプション
HLPNLRP	ヘルプ・パネル・グループ	単一値: *NONE, <u>*SAME</u> その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ヘルプ・パネル・グループ	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	
HLPID	ヘルプ識別コード	文字値, <u>*SAME</u> , *CMD, *NONE	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
HLPSCIDX	ヘルプ検索見出し	単一値: *SAME, *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ヘルプ検索見出し	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
CURLIB	現行ライブラリー	名前, *SAME, *NOCHG, *CRTDFT	オプション
PRDLIB	実行ライブラリー	名前, *SAME, *NOCHG, *NONE	オプション
PMTOVRPGM	プロンプト一時変更プログラム	単一値: *SAME, *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: プロンプト一時変更プログラム	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
TEXT	テキスト'記述'	文字値, *SAME, *CMDPMT, *BLANK	オプション
ENBGUI	GUI使用可能	*YES, *NO, *SAME	オプション

上

コマンド (CMD)

変更するコマンドを指定します。変更するコマンドは、ユーザー定義コマンドでも、弊社提供コマンドでもかまいません。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: コマンド

名前 変更するコマンドの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

コマンドを見つけるためにジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 コマンドが入っているライブラリーの名前を指定してください。

上

コマンドを処理するプログラム (PGM)

コマンドを処理するために呼び出すコマンド処理プログラム(CPP)を指定します。

単一値

***SAME**

現行CPPは変更されません。

***REXX**

このコマンドのCPPは、**REXXソース・メンバー (REXSR CMBR)**パラメーターで識別されるREXXプロシージャーです。

修飾子1: コマンドを処理するプログラム

名前 コマンドを処理するCPPの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

プログラムを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 プログラムが入っているライブラリーの名前を指定してください。

上

REXXソース・ファイル (REXSR CFILE)

REXXプロシージャーが入っているソース・ファイルを指定します。

単一値

***SAME**

REXXソース・ファイルおよびライブラリーは変更されません。

修飾子1: REXXソース・ファイル

名前 ソース・ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ソース・ファイルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 ソース・ファイルが入っているライブラリーの名前を指定してください。

上

REXXソース・メンバー (REXSR CMBR)

見かけのコマンド処理プログラム(CPP)であるREXXプロシージャーが入っているソース・メンバーを指定します。

***SAME**

メンバー名は変更されません。

***CMD** ソース・メンバー名は、コマンド名(CMDパラメーターに指定された名前)と同じものです。

名前 REXXプロシージャが入っているソース・メンバーの名前を指定してください。

上

REXXコマンド環境 (REXCMDENV)

REXXコマンド処理プログラム(CPP)が実行を開始する時に活動状態であるコマンド環境を指定します。REXX解釈プログラムは、プロシージャに組み込まれているコマンドを処理するために、このプログラムを呼び出します。この環境はREXX ADDRESS命令によって変更することができます。

単一値

***SAME**

コマンド環境は変更されません。

***COMMAND**

制御言語(CL)コマンド環境が使用されます。

***CPICOMM**

共通プログラミング・インターフェース(CPI)環境が使用されます。

***EXECSQL**

構造化照会言語(SQL)コマンド環境が使用されます。 EXECSQLは、SQLプロシージャに組み込まれたCLコマンドに使用されるコマンド環境です。

修飾子1: REXXコマンド環境

名前 REXXプロシージャ中のコマンドを処理するためのプログラムの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

プログラムを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 プログラムが入っているライブラリーの名前を指定してください。

上

REXX出口プログラム (REXEXITPGM)

REXXコマンド処理プログラム(CPP)を開始する時に使用する出口プログラムを指定します。プログラムと出口コードの組合わせを最大8組まで指定することができます。

単一値

***SAME**

出口プログラムは変更されません。

*NONE

REXX CPPには出口プログラムがありません。

要素1: プログラム

修飾子1: プログラム

名前 出口プログラムの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

プログラムを見つけるためにジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

要素2: 出口コード

- 2 外部関数またはサブルーチンがREXXプログラムによって呼び出された時には、常に関連したプログラムが呼び出されます。その後で、要求されたルーチンの検出および呼び出しは出口プログラムの責任となります。
- 3 解釈プログラムがコマンドを呼び出そうとしている時には、常に関連したプログラムが呼び出されます。コマンド・ストリングおよび現行の環境名を指定するコマンドの検出および呼び出しは出口プログラムの責任となります。
- 4 REXX命令または関数がREXX外部データ待ち行列に対する操作を試みた時には、常に関連したプログラムが呼び出されます。
- 5 セッション入出力操作が試みられた時には、常に関連したプログラムが呼び出されます。
- 7 REXXプロシージャの各文節を停止する必要があるかどうかを判別するために、これの実行の後に、関連したプログラムが呼び出されます。
- 8 トレースをオンまたはオフにする必要があるかどうかを検査するために、REXXプログラムの各文節の実行後に、関連したプログラムが呼び出されます。
- 9 REXXプロシージャ（外部関数およびサブルーチンとして呼び出されるREXXプロシージャを含む）の最初の命令を解釈する前に、関連したプログラムが呼び出されます。
- 10 REXXプロシージャ（外部関数およびサブルーチンとして呼び出されるREXXプロシージャを含む）の最後の命令を解釈した後に、関連したプログラムが呼び出されます。

上

妥当性検査プログラム (VLDCKR)

処理中のコマンドのパラメーターに、追加の妥当性検査を実行するために呼び出すプログラムを指定します。ソース・ファイルのコマンド定義ステートメントによって指定された構文検査を超えて、さらにこれがコンパイルされる時にコマンドで実行される構文検査を超えて追加のユーザー定義の妥当性検査を実行するために、妥当性検査プログラムが呼び出されます。

単一値

*SAME

値は変更されません。

*NONE

このコマンドに対して別個の妥当性検査プログラムはありません。すべての妥当性検査は、コマンド分析プログラムおよびコマンド処理プログラムによって実行されます。妥当性検査でコマンドが処理または検査される時には常に、指定された変数および式は使用されません。

修飾子1: 妥当性検査プログラム

名前 コマンドの妥当性を検査する妥当性検査プログラムの名前およびライブラリーを指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

プログラムを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 妥当性検査プログラムが入っているライブラリーの名前を指定してください。

上

有効なモード (MODE)

コマンド変更(CHGCMD)を使用することができる操作環境のタイプを指定します。1つ以上のモードを指定することができます。

単一値

*SAME

コマンドを使用することができる操作のモードは変更されません。

***ALL** コマンドは実行、デバッグ、および保守のすべてのタイプのモードで有効です。

その他の値 (最大3個指定可能)

*PROD

コマンドは、実行モードの操作で有効です。

*DEBUG

コマンドは、デバッグ・モードの操作で有効です。

*SERVICE

コマンドは、保守モードの操作で有効です。

実行可能な環境 (ALLOW)

コマンドを処理できる環境を指定します。

単一値

*SAME

コマンドを処理できる環境は変更されません。

***ALL** コマンドは、バッチ入カストリーム、CLプログラム、REXXプロシージャー、またはCL ILEモジュール中で処理するか、あるいは対話式に処理することができます。また、処理のためにシステム・プログラムQCMDXEC（またはQCAEXEC）に渡すことができます。

その他の値（最大9個指定可能）

***BATCH**

コマンドは、コンパイルされたCLプログラムの外部でバッチ入カストリーム中で処理することができます。

***INTERACT**

コマンドは、コンパイルされたCLプログラムの外部で対話式に処理することができます。

***BPGM**

コマンドは、バッチ入力から呼び出されるコンパイル済みCLプログラムの中で処理することができます。

***IPGM**

コマンドは、対話式入力から呼び出されるコンパイル済みCLプログラムの中で処理することができます。

***BREXX**

コマンドは、バッチ・ジョブで実行されるREXXプロシージャー中で使用することができます。

***IREXX**

コマンドは、対話式ジョブで実行されるREXXプロシージャー中で使用することができます。

***BMOD**

コマンドは、バッチCL ILEプログラムでのみ使用することができます。

***IMOD**

コマンドは、対話式CL ILEプログラムでのみ使用することができます。

***EXEC**

コマンドは、CALLコマンドのパラメーターとして使用することができ、システム・プログラムQCMDXEC（またはQCAEXEC）に文字ストリングの形で渡して処理することができます。*EXECを指定した場合には、*BATCHまたは*INTERACTも指定しなければなりません。

制限ユーザー可能 (ALWLMTUSR)

プロファイルで権限が制限されている（ユーザー・プロファイル作成(CRTUSRPRF) コマンドおよびユーザー・プロファイル変更(CHGUSRPRF)コマンドのLMTCPBキーワード）ユーザーがメニューのコマンド入力行からコマンドを入力できるかどうかを指定します。

*SAME

制限されたユーザー権限は変更されません。

***NO** プロファイルで権限が制限されているユーザーは、メニューのコマンド入力行からこのコマンドを入力することはできません。

***YES** プロファイルで権限が制限されているユーザーは、メニューのコマンド入力行からこのコマンドを入力することができます。

上

ヘルプ・ブックシェルフ (HLPSHELF)

このパラメーターはもはやサポートされていません。

上

ヘルプ・パネル・グループ (HLPPNLGRP)

このコマンドのヘルプ・パネル・グループを指定します。

単一値

*SAME

パネル・グループは変更されません。

***NONE**

ヘルプ・パネル・グループは指定されません。

修飾子1: ヘルプ・パネル・グループ

名前 このコマンド用のヘルプ・パネル・グループの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

パネル・グループを見つけるためにジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 パネル・グループが入っているライブラリーの名前を指定してください。

上

ヘルプ識別コード (HLPID)

このコマンドに対するヘルプ・セクションIDのすべてのルート名を指定します。このコマンドと関連したヘルプ・パネル・グループ内のすべてのヘルプ・セクションがこの名前で始まります。

*SAME

ヘルプIDは変更されません。

*NONE

ヘルプIDは指定されません。パネル・グループ名をヘルプ・パネル・グループ (HLPPNLGRP)パラメーターに指定すると、*NONEは許されません。

***CMD** コマンドの名前は、ヘルプ・パネル・グループ内のヘルプ・セクションIDのルートとして使用するためのものです。

名前 このコマンドに対するヘルプ・セクションIDのすべてのルート名を指定してください。

上

ヘルプ検索見出し (HLPSCHIDX)

ヘルプ画面から検索索引検索機能キーが押された時に使用されるヘルプ検索索引を指定します。

単一値

*SAME

値は変更されません。

*NONE

このコマンドと関連したヘルプ検索索引はありません。

修飾子1: ヘルプ検索見出し

名前 見出し検索機能キーが押された時に使用される検索見出しの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

検索見出しを見つけるためにジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索見出しが入っているライブラリーの名前を指定してください。

上

現行ライブラリー (CURLIB)

実行中のジョブと関連した現行ライブラリーの名前を指定します。

また、このライブラリーは、コマンドの妥当性検査プログラム（ある場合）が処理される時の現行ライブラリーでもあります。

***SAME**

コマンドの現行ライブラリーは変更されません。

***NOCHG**

このコマンドの処理で現行ライブラリーは変更されません。コマンドの処理中に現行ライブラリーが変更された場合には、そのコマンドの処理が完了した後もその変更は有効となります。

***CRTDFT**

コマンドの処理中に活動状態の現行ライブラリーはありません。コマンド処理の前に活動状態であった現行ライブラリーは処理の完了時に復元されます。このコマンドの単一値または特殊値に、あるいは活動状態の現行のライブラリーがない時に処理されるコマンドに置き換え値として***CURLIB**が指定された場合には、現行ライブラリーとして**QGPL**ライブラリーが使用されます。**QGPL**は現行ライブラリーとして使用されます。

名前 現行ライブラリーとして使用するライブラリーの名前を指定してください。コマンドの作成時にはライブラリーの存在は必要ありませんが、コマンドの処理時には存在しなければなりません。コマンド処理が完了すると、現行ライブラリーがその前の値に復元されます。ライブラリー・リスト変更(**CHGLIBL**) コマンドまたは現行ライブラリー変更(**CHGCURLIB**)コマンドによってコマンドの処理中に現行ライブラリーが変更された場合には、その変更が有効となるのは、そのコマンドが処理されるまでです。現行ライブラリーに**QTEMP**を指定することはできません。

上

実行ライブラリー (PRDLIB)

コマンドの処理時に有効にするプロダクト・ライブラリーを指定します。

注: コマンドまたはメニューのプロダクト・ライブラリーは、コマンドまたはメニューが活動状態の間、別のコマンドまたはメニューでそのプロダクト・ライブラリーが変更されない限り、ライブラリー・リスト内に残されます。プロダクト・ライブラリーを変更したコマンドまたはメニューが終了すると、プロダクト・ライブラリーはそのコマンドまたはメニューを開始した時のものに復元されます。

***SAME**

コマンドのプロダクト・ライブラリーは変更されません。

***NOCHG**

コマンドの処理が開始される時点ではプロダクト・ライブラリーは変更されません。コマンドの処理中にプロダクト・ライブラリーが変更された場合には、その変更は、そのコマンド処理が完了した後も有効となります。

***NONE**

ジョブのライブラリー・リストにはプロダクト・ライブラリーがありません。プロダクト・ライブラリーはそのコマンド処理が完了した時にその前の値に復元されます。

名前 コマンドの処理時にプロダクト・ライブラリーとして使用するライブラリーの名前を指定してください。コマンドの作成時にはライブラリーの存在は必要ありませんが、コマンドの処理時には存在しなければなりません。コマンド処理が完了すると、プロダクト・ライブラリーがその前の値に復元されます。プロダクト・ライブラリーに**QTEMP**を指定することはできません。

上

プロンプト一時変更プログラム (PMTOVRPGM)

省略時の値をパラメーターに指定された現行の実際の値で（プロンプト画面で）置き換えるために呼び出すプロンプト一時変更プログラム(POP)を指定します。POPを指定した場合には、（コマンド定義ソース中のPARMステートメントでKEYPARM(*YES)として指定された）キー・パラメーターが初期プロンプト画面で見ることのできる唯一のパラメーターになります。値がキー・パラメーターに対する入力である時には、残りのパラメーターは省略時の値ではなく実際の値で画面に表示されます。

単一値

*SAME

プロンプト一時変更プログラムは変更されません。

*NONE

プロンプト一時変更プログラムは指定されません。

注: コマンド定義ソース中にキー・パラメーターが存在している（すなわち、PARMステートメントでKEYPARM(*YES)を指定している）時に*NONEを指定する場合には、コマンドの作成時に警告メッセージが出され、すべてのパラメーターについてKEYPARM(*NO)と見なされます。

修飾子1: プロンプト一時変更プログラム

名前 プロンプト一時変更プログラム(POP)の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

*LIBL 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

プロンプト一時変更プログラムを見つけるためにジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 プロンプト一時変更プログラムが入っているライブラリーの名前を指定してください。

上

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

*SAME

テキストがあっても変更されません。

*CMDPMT

テキスト記述は、コマンドのプロンプトが表示される場合に示されるコマンド・タイトルと同じになります。

*BLANK

テキストは指定されません。

文字値 50バイトを超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

上

GUI使用可能 (ENBGUI)

コマンド・プロンプト・パネルを図形ユーザー・インターフェースへの変換に使用できるかどうかを指定します。

*SAME

値は変更されません。

***NO** コマンド・プロンプト・パネルは、図形ユーザー・インターフェースへの変換には使用できなくなります。

***YES** パネルの内容に関する情報を5250データ・ストリームに組み込むことによって、コマンド・プロンプト・パネルを図形ユーザー・インターフェースへの変換に使用できるようになります。

上

例

CHGCMD CMD(PAYROLL) VLDCKR(LIB01/PAYVLDPGM)

PAYROLLコマンドに対する妥当性検査プログラムは、ライブラリーLIB01にあるPAYVLDPGMという名前のプログラムです。PAYROLLコマンドのその他の属性のすべては同じまま残ります。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF6209

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF6210

ライブラリー&2のコマンド&1が見つからない。

CPF6211

コマンド&1の変更は認可されていない。

CPF6212

コマンド&1は変更されなかった。

CPF6213

ライブラリー&2のコマンド&1を割り振ることはできない。

CPF6214

コマンド&1の変更中にエラーが検出された。

CPF6215

ライブラリー&2のコマンド&1は変更することができない。

CPF6216

コマンド&1は&2コマンドに正しくありません。

CPF6219

ライブラリー&2は認可されていない。

コマンド省略時値変更 (CHGCMDDFT)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

コマンドの省略時の値変更(CHGCMDDFT)コマンドは、コマンドのパラメーターの省略時の値を変更します。

新しい省略時の値に変更するためには、パラメーターに既存の省略時の値がなければなりません。変更されるコマンドは、弊社提供のコマンドでも、ユーザー定義のコマンドでもかまいません。

省略時の値があるコマンドのパラメーターを調べるためには、コマンド名を入力し、F4キー（プロンプト）を入力して、そのコマンドのプロンプトを出してください。そのパラメーターの省略時の値が最初のコマンド・プロンプト画面に表示されますが、すべての省略時の値が表示されるわけではありません。要素のリストまたは修飾名であるパラメーターでは、リスト全体または修飾名の省略時の値として単一値(SNGVAL)となることがあります。例えば、ジョブ表示(DSPJOB)は、JOBが要素のリストであるコマンドですが、リスト全体の省略時の値としてはSNGVALとなります。省略時の値としてのSNGVALの詳細については、「追加の考慮事項」を参照してください。

変更するパラメーターの新しいパラメーターの省略時の値は有効なものでなければなりません。どの値が有効であるかを判別するためには、カーソルを示されている省略時の値に位置付け、F4キーを押してください。「使用できる値のパラメーター・プロンプト」画面には、有効な値のリストまたはパラメーター・タイプの値（あるいはこの両方）が表示されます。有効な値のリストだけが表示される時には、新しい省略時の値としてこれらの値しか使用することができません。そうでない場合には、パラメーターの要件に従った有効な値を新しい省略時の値として使用することができます。

前の省略時の値に変更があるコマンドを処理することは、同じコマンドの変更されないコピーのパラメーターに新しい省略時の値を指定するのと同じです。そのパラメーターが明示的に指定されない時にも、新しい省略時の値は他のパラメーターの組み合わせと矛盾していることがあります。

ユーザーがシステム表示から省略時の値を変更してシステム・コマンドを実行した時には、新しい省略時の値を使用することはできません。システムは機能の処理でコマンド装置を使用できないために、これが起こります。その代わりに、システムは要求した機能を実行するためにシステム・プログラムに対してIBM内部装置を使用することができます。したがって、F4（プロンプト）キーを使用して、システム画面からコマンドを処理する時にシステム・コマンドのプロンプトを出します。ほとんどの場合、指定された省略時の値が使用されます。

弊社提供のコマンドを変更するためには、コマンドのコピーをユーザー・ライブラリーに作成して、弊社提供のコマンドではなく、コピーされたコマンドの省略時の値を変更しなければなりません。ユーザー・ライブラリーはライブラリー・リストのライブラリーQSYSの前にリストしなければなりません。その変更が後で識別できるように、CHGCMDDFTコマンドのソースを保管してください。この手順によって、必要な場合に元の弊社提供コマンドの省略時の値を使用することができ、システムに新しいリリースが導入された時に、コピーされたコマンドに対して行なった変更が重ね書きされないようにします。

新しいリリースのシステムが導入される時に、互換性の問題が起こる可能性があります。弊社提供のコマンドをユーザー・ライブラリーにコピーしていて、新しく導入された弊社提供バージョンのコマンドで、それに追加した新しいパラメーターがある場合には、そのコマンドのコピーされたコマンドは正しく実行され

ません。これは、コピーされたコマンドと、弊社提供の新しく導入されたコマンドの処理プログラムでパラメーターが不一致となります。また、コピーされたコマンドがユーザー・プロファイルの開始プログラムで使用された場合にも、旧コマンドと新しいコマンドの処理プログラムでもパラメーターの不一致となるために、このプログラムは正常に実行されません。その結果、ユーザーはそのシステムにサインオンすることはできません。これを回避するためには、開始プログラムに対して必要な変更を行う権限のあるユーザー・プロファイルがシステム上に少なくとも1つ存在していて、さらに、開始プログラムとしてQCMDがあることを確認してください。これに代わるものとしては、開始プログラムをコーディングし、すべてのエラーを検出して、コマンド入力画面（プログラムQCMD）を表示して回復する方法があります。

i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリーに含まれる制御言語(CL) トピック・コレクションには、コマンド省略時値変更(CHGCMDDFT)コマンドを使用するための推奨事項および例のリストが入っています。

追加の考慮事項

要素のリストまたは修飾名として定義され、省略時の値がSNGVALであるキーワードには、要素のリストの最初の要素または修飾名として、必要な要素または修飾子を入れることができます。省略時のSNGVALは（存在する場合）別の有効なSNGVALに変更される場合がありますが、必要な要素または修飾子には省略時の値がありません。既存の省略時の値がSNGVALではない場合には、SNGVALを新しい省略時の値として使用することができません。リスト要素または修飾名の修飾子に省略時の値があるかどうかを検索するには、SNGVALをキーワードに有効な値に変更して、残りのリスト要素または修飾子をブランクにし、実行キーを押してください。残りのリスト要素または修飾子に省略時の値がある場合には、これでリスト要素または修飾子の入力フィールドに省略時の値が表示されます。

制約事項：ユーザーは、変更されるコマンドに対するオブジェクト管理権限および*USE権限をもっていないければなりません。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
CMD	コマンド	修飾オブジェクト名	必須、定位置 1
	修飾子 1: コマンド	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
NEWDFT	新しい省略時パラメーター・ストリング	文字値	必須、定位置 2

上

コマンド (CMD)

変更するコマンドを指定します。コマンドは、ユーザー定義のコマンドでも、弊社提供コマンドでもかまいません。

修飾子1: コマンド

名前 パラメーターの省略時の値を変更したいコマンドの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

コマンドを見つけるためにジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 コマンドが入っているライブラリーを指定してください。

上

新しい省略時パラメーター・ストリング (NEWDFLT)

コマンドの実行時にユーザーが値を指定しない場合にパラメーター、要素、または修飾子に割り当てられる新しい省略時の値を含む、アポストロフィで囲んだパラメーター・ストリングを指定します。新しい省略時の値を指定できるのは、すでに省略時の値をもっているパラメーター、要素、または修飾子の場合だけです。

修飾名または値のリストでは、既存の省略時の値をもたない要素または修飾子の位置を確保する位置ホルダーとして*Nを使用しなければなりません。要素または修飾子に、新しい省略時の値に変更されない省略時の値がある場合には、値のリストまたは修飾名での位置ホルダーをして*Nまたは既存の省略時の値を使用することができます。

注: コマンドの実行時に、パラメーター相互間の検査および妥当性検査プログラムの処理が行われます。省略時の値の変更時にはどちらも行われません。

文字値 新しい省略時のパラメーター値ストリングをアポストロフィで囲んで指定してください。

上

例

次の例は、CHGCMDDFTコマンドの処理時に、コマンド・パラメーターの省略時の値における変更を示しています。

例1: AUTパラメーターの省略時の値の変更

```
CHGCMDDFT  CMD(CRTPF)  NEWDFLT('AUT(*EXCLUDE)')
```

このコマンドは、物理ファイル作成(CRTPF)コマンドでAUTの省略時の値を*CHANGEから*EXCLUDEに変更します。

例2: CRTCLPGMコマンドの省略時の値の変更

```
CHGCMDDFT  CMD(USRQSYS/CRTCLPGM)
            NEWDFLT('PGM(LIB1/*N) SRCFILE(LIB1/FILE1) LOG(*YES)')
```

このコマンドは、NEWDFLTパラメーターが上記の形式で指定されると、制御言語プログラム作成(CRTCLPGM)コマンドの省略時の値を変更します。この例では、LOGパラメーターの省略時の値は*YESです。省略時の値が存在していないので、省略時の値はPGMパラメーターの2番目の修飾子（プログラム名）には指定することができません。したがって、*Nは2番目の修飾子のプレースホルダーとして使用されません。PGMパラメーターの最初の修飾子（ライブラリー名）には省略時の値のLIB1があります。SRCFILE

パラメーターの場合は、最初の修飾子（ライブラリー名）には省略時の値のLIB1があります。 2番目の修飾子（ソース・ファイル名）には省略時の値のFILE1があります。

例3: MAXMBRSのCRTPF省略時値の変更

```
CHGCMDDFT  CMD(CRTPF)  NEWDFT('MAXMBRS(*NOMAX)')
```

このコマンドは、CRTPFコマンドでMAXMBRSキーワードの省略時の値を*NOMAXに変更します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF6216

コマンド&1は&2コマンドに正しくありません。

CPF6260

省略時の値の変更中にエラーが検出された。

CPF6261

ライブラリー&2のコマンド&1を変更することができない。

上

通信項目変更 (CHGCMNE)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

通信項目変更 (CHGCMNE)コマンドは、既存のサブシステム記述中の既存の通信項目の属性を変更するために使用されます。

注:

1. ジョブ記述 (JOB)または省略時ユーザー・プロファイル (DFTUSR)パラメーターが変更された場合には、通信項目も変更されますが、その時点で活動状態のジョブのこれらのパラメーターはいずれも変更されません。
2. 活動ジョブの最大数 (MAXACT)パラメーターの値が通信項目によって活動状態になっているジョブの合計数より小さい数まで減らされた場合には、新規のプログラム開始要求は処理されません。活動中のジョブは実行を続行しますが、活動中のジョブの数がMAXACTパラメーターに指定された値より小さくなるまで、追加のプログラム開始要求は処理されません。

制約事項:

1. このコマンドを使用するには、以下が必要です。
 - 指定されたサブシステム記述に対するオブジェクト操作(*OBJOPR),オブジェクト管理(*OBJMGT),および読み取り(*READ)権限と、そのサブシステム記述が入っているライブラリーに対する実行(*EXECUTE)権限。
 - ジョブ記述に対するオブジェクト操作(*OBJOPR)および読み取り(*READ)権限と、そのジョブ記述が入っているライブラリーに対する実行(*EXECUTE)権限。
 - ユーザー・プロファイルに対する使用(*USE)権限。
2. ジョブ記述が存在していない項目の変更は、全オブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限をもつユーザーだけに許可されます。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
SBSD	サブシステム記述	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: サブシステム記述	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
DEV	装置	総称名, 名前, *ALL, *APPC, *ASYNC, *BSCCL, *FINANCE, *INTRA, *RETAIL, *SNUF	オプション, 定位置 2
RMTLOCNAME	リモート・ロケーション	通信名	オプション, 定位置 3

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
JOBDB	ジョブ記述	単一値: <u>*SAME</u> , *USRPRF, *SBSD その他の値: 修飾オブジェクト 名	オプション, 定位置 4
	修飾子 1: ジョブ記述	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	
DFTUSR	省略時ユーザー・プロファイル	名前, <u>*SAME</u> , *NONE, *SYS	オプション
MODE	モード	通信名, <u>*ANY</u>	オプション
MAXACT	活動ジョブの最大数	0-1000, <u>*SAME</u> , *NOMAX	オプション

上

サブシステム記述 (SBSD)

変更する通信項目が入っているサブシステム記述の名前およびライブラリーを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: サブシステム記述

名前 通信項目が変更されるサブシステムの名前を指定します。

注:IBM提供オブジェクトQSYSSBSDはこのパラメーターには正しくありません。

修飾子2: ライブラリー

*LIBL 一致が見つかるまで、スレッドのライブラリー・リストの中のすべてのライブラリーが検索されま
す。

*CURLIB

オブジェクトを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。 スレッドの現行ラ
イブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されま
す。

名前 サブシステム記述が入っているライブラリーを指定します。

上

装置 (DEV)

装置記述の名前またはこの通信項目で使用される装置のタイプを指定します。

注: このパラメーターかりモート・ロケーション (RMTLOCNAME)パラメーターのいずれかに値を指定し
なければなりません、両方に指定することはできません。

***ALL** すべての通信装置タイプまたは名前をこの通信項目で使用することができます。

*APPC

すべての拡張プログラム間通信装置をこの通信項目で使用することができます。 装置記述の作成
(APPC) (CRTDEVAPPC)コマンドで作成された装置を使用することができます。

*ASYNC

この通信項目ではすべての非同期通信装置を使用することができます。 装置記述の作成 (非同

期) (CRTDEVASC)コマンドで作成された装置を使用することができます。この値が有効なのは、**モード (MODE)**パラメーターに*ANYが指定された場合だけです。

*BSCEL

この通信項目ではすべての2進同期同等リンク通信装置を使用することができます。装置記述の作成(BSC) (CRTDEVBS)コマンドで作成された装置を使用することができます。この値が有効なのは、**モード (MODE)**パラメーターに*ANYが指定された場合だけです。

*FINANCE

この通信項目ではすべての金融機関用通信装置を使用することができるということを指定します。装置記述の作成(金融機関) (CRTDEVFNC)コマンドにより作成された装置をこの通信項目で使用することができます。この値が有効なのは、**モード (MODE)**パラメーターに*ANYが指定された場合だけです。

*INTRA

この通信項目ではすべてのINTRA通信装置を使用することができます。装置作成装置記述の作成(INTRA) (CRTDEVINTR)コマンドによって作成された装置を使用することができます。この値が有効なのは、**モード (MODE)**パラメーターに*ANYが指定された場合だけです。

*RETAIL

この通信項目ではすべての小売業通信装置を使用することができます。装置記述の作成(小売業) (CRTDEVRTL)コマンドにより作成された装置をこの通信項目で使用することができます。この値が有効なのは、**モード (MODE)**パラメーターに*ANYが指定された場合だけです。

*SNUF

この通信項目ではすべてのSNAアップライン機能通信装置を使用することができます。装置記述の作成(SNUF) (CRTDEVSN)コマンドで作成された装置を使用することができます。この値が有効なのは、**モード (MODE)**パラメーターに*ANYが指定された場合だけです。

総称名 この通信項目が使用される装置記述の総称名を指定します。

名前 この通信項目で使用される装置記述を指定してください。

上

リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)

この通信項目で使用されるリモート・ロケーションの名前を指定します。関連する装置記述に指定されたリモート・ロケーション名をここで使用することができます。リモート・ロケーション名については、妥当性検査は行われません。

注: このパラメーターか**装置 (DEV)**パラメーターのいずれかに値を指定しなければなりません、両方を指定することはできません。

通信名 この通信項目で使用されるリモート・ロケーションの名前を指定します。

上

ジョブ記述 (JOBID)

プログラム開始要求を受け取った結果として開始され、この通信項目によって処理されるジョブに使用されるジョブ記述の名前およびライブラリーを指定します。項目の追加または変更時にジョブ記述が存在していない場合には、ライブラリー修飾子を指定しなければなりません（修飾されたジョブ記述名がサブシステム記述に保管されるため）。

注: ジョブ記述が存在していない項目の追加または変更は、全オブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限をもつユーザーだけに許可されます。

単一値

*SAME

このパラメーターの現行値は変更されません。

*USRPRF

プログラム開始要求を行ったユーザーのユーザー・プロファイルに指定されたジョブ記述名が、この通信項目によって開始されるジョブに使用されます。

***SBSD** プログラム開始要求を出したユーザーのユーザー・プロファイルに指定されているジョブ記述名が、この通信項目によって開始されるジョブで使用されます。

修飾子1: ジョブ記述

名前 この通信項目によって開始されるジョブに使用されるジョブ記述の名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 一致が見つかるまで、スレッドのライブラリー・リストの中のすべてのライブラリーが検索されません。

*CURLIB

オブジェクトを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 ジョブ記述のライブラリーの名前を指定します。

上

省略時ユーザー・プロファイル (DFTUSR)

機密保護情報が入っていないプログラム開始要求に使用される省略時ユーザー・プロファイルを指定します。このユーザー・プロファイルは、パスワードが入っているか、あるいはユーザー・プロファイル（有効、無効を問わず）を指定するプログラム開始要求には使用されません。

*SAME

このパラメーターの現行値は変更されません。

*NONE

省略時の値としてユーザー・プロファイルは指定されません。

***SYS** ユーザーのプログラム開始要求はすべて*NONEの場合と同じに扱われます。システム機能によって送られたプログラム要求については、プログラム開始要求でユーザー・プロファイルが指定されていない場合は、その要求は、事前に決められているユーザー・プロファイルのもとで実行されます。

名前 この通信項目によってシステムに入力され、パスワードまたはユーザー・プロファイル名が入っていないすべてのプログラム開始要求に使用されるユーザー・プロファイルの名前を指定します。

注: このパラメーターには、名前QDFTOWN, QLPINSTALL, QSECOFR, QSPL, QDOC, QDBSHR, QRJE, QTSTRQS,およびQSYSは有効な項目ではありません。

上

モード (MODE)

その通信項目が追加または変更される通信装置またはリモート・ロケーション名のモード名を指定します。

***ANY** 通信装置またはリモート・ロケーションに定義された使用可能なモードがすべて、サブシステムに割り振られます。対応するモードが通信装置に定義されていない場合には、その通信装置自体がサブシステムに割り振られます。

名前 追加または変更する通信装置またはリモート・ロケーション名のモード名を指定します。

注: このパラメーターには、名前SNASVCMGおよびCPSVCMGは有効ではありません。

上

活動ジョブの最大数 (MAXACT)

この通信項目を介して同時に活動状態にできるジョブ（受信プログラム開始要求）の最大数を指定します。

***SAME**

この属性の現行値は変更されません。

***NOMAX**

この通信項目を介して同時に活動状態にできるジョブの最大数に制限を設けません。

1から1000

この通信項目を介して同時に活動状態にできるジョブの最大数を指定してください。

上

例

CHGCMNE SBSD(QGPL/BAKER) DEV(A12) MAXACT(*NOMAX)

このコマンドは、装置A12およびモード*ANYの通信項目（サブシステム記述QGPL/BAKER中）を変更します。最大活動レベルは、通信項目は同時に活動状態にできるプログラム開始要求の数を制限しないことを意味する*NOMAXに変更されます。ただし、サブシステム記述BAKERのMAXJOBS値が、サブシステム内で活動状態にできるジョブの合計数を制限します。これには、プログラム開始要求によって作成されるジョブも含まれます。また、特定の任意の経路指定項目を通じて経路指定できる活動ジョブの数についてユーザーが指定できる限界(MAXACT)もあります。経路指定項目に指定される限界により、特定のプールを使用するジョブの数、あるいは特定のプログラムの反復レベルを制御することができます。いずれの場合にも、プログラム開始要求の処理の結果としてこれらの限界を超えることはできません。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF1619

ライブラリー&2のサブシステム記述&1に損傷がある。

CPF1691

活動サブシステム記述は変更されることも変更されないこともある。

CPF1697

サブシステム記述&1は変更されなかった。

上

連絡先情報の変更 (CHGCNTINF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

連絡先情報の変更コマンドによって、各種のサポート・センターに連絡をとる場合、またはそれらから連絡を受ける場合に役立つ変更内容保守情報を変更することができます。

制約事項:

- このコマンドを実行することによって、あるいは連絡先情報の処理(WRKCNTINF)コマンドを使用することによって、連絡先情報が以前に設定されていない場合には、*SAMEの省略時値は幾つかのコマンド・パラメーターでは無効となります。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
CMPNY	会社	文字値, *SAME	オプション
CONTACT	担当者	文字値, *SAME	オプション
CUSTOMER	カスタマー番号	値 (最大 5 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: カスタマー識別コード	文字値, *SAME	
	要素 2: カスタマー記述	文字値, *SAME	
CONTRACT	契約番号	値 (最大 5 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: 契約識別コード	文字値, *SAME	
	要素 2: 契約記述	文字値, *SAME	
TELNBR	連絡先電話番号	要素リスト	オプション
	要素 1: 基本	文字値, *SAME	
	要素 2: ヘルプ・デスクかポケットベル番号	文字値, *SAME, *NONE	
FAXTELNBR	FAX電話番号	要素リスト	オプション
	要素 1: 基本	文字値, *SAME, *NONE	
	要素 2: 代替	文字値, *SAME, *NONE	
MAILADDR	住所	要素リスト	オプション
	要素 1: 番地行1	文字値, *SAME	
	要素 2: 番地行2	文字値, *SAME, *NONE	
	要素 3: 番地行3	文字値, *SAME, *NONE	
	要素 4: 市区町村または局所性	文字値, *SAME	
	要素 5: 都道府県	文字値, *SAME, *NONE	
	要素 6: 国または地域	文字値, *SAME	
要素 7: 郵便番号	文字値, *SAME		
LNGVER	各国語バージョン	2902-2998, *SAME, *PRIMARY	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノート
EMAILADDR	電子メール・アドレス	要素リスト	オプション
	要素 1: 基本	文字値, *SAME, *NONE	
	要素 2: 代替	文字値, *SAME, *NONE	
MEDPTF	PTFの媒体	*SAME, *AUTOMATIC, *CDROM, *DVDROM	オプション
CALLCSS	セントラル・サイト・サポートの呼び出し	*SAME, *NO, *YES	オプション

上

会社 (CMPNY)

このシステムを所有または管理責任を担当する組織の名前を指定します。

*SAME

値は変更されません。

文字値 会社名をアポストロフィで囲んで指定します。

上

担当者 (CONTACT)

システムの修理およびメンテナンスを受け持つ組織の担当者の名前を指定します。この担当者は、システムの問題に関する情報または援助を提供できるサービス・プロバイダーから呼び出されることがあります。また、部品やPTFがこの担当者あてに送られることもあります。

*SAME

値は変更されません。

文字値 担当者の名前をアポストロフィで囲んで指定します。

上

カスタマー番号 (CUSTOMER)

顧客を一意的に識別するためにIBMによって割り当てられた番号を指定します。この番号は、IBMとのさまざまなビジネスおよびサービス・トランザクションに使用されます。顧客番号とそれに関連する記述テキストの組み合わせを最大5セットまで指定できます。

要素1: カスタマー識別コード

*SAME

値は変更されません。

文字値 IBMが顧客に割り当てた固有の番号を指定します。この値に空白を入れることはできず、0から9の数字のみを入れる必要があります。この顧客番号は、7または8桁です。

*NONE

担当者に顧客は存在しません。

要素2: カスタマー記述

*SAME

値は変更されません。

文字値 顧客に関する記述をアポストロフィで囲んで指定します。記述テキストは、最大256文字まで指定できます。

上

契約番号 (CONTRACT)

顧客のサービス契約を一意的に識別するためにIBMによって割り当てられた番号を指定します。この番号を使用して、特定の契約の下で顧客が購入したすべてのサービスを検索できます。契約番号とそれに関連する記述テキストの組み合わせを最大5セットまで指定できます。

要素1: 契約識別コード

*SAME

値は変更されません。

*NONE

担当者に顧客は存在しません。

文字値 IBMが顧客のサービス契約に割り当てた固有のIDを指定します。この値にブランクを入れることはできず、0から9の数字とAからZの大文字のみ入れる必要があります。この契約番号IDは、6または7文字です。

要素2: 契約記述

*SAME

値は変更されません。

文字値 契約に関する記述をアポストロフィで囲んで指定します。記述テキストは、最大256文字まで指定できます。

上

連絡先電話番号 (TELNBR)

担当者に連絡を取るための電話番号を指定します。

要素1: 基本

*SAME

値は変更されません。

文字値 **担当者 (CONTACT)**パラメーターに指定された担当者と確実に連絡を取れる完全な電話番号を指定します。この番号には、市外局番、電話番号、および内線番号が含まれていなければなりません。

要素2: ヘルプ・デスクかポケットベル番号

*SAME

値は変更されません。

*NONE

担当者の利用者窓口電話番号またはポケットベル電話番号はありません。

文字値 完全な利用者窓口番号またはポケットベル番号を指定してください。この番号には、市外局番、電話番号、および内線番号が含まれていなければなりません。

上

FAX電話番号 (FAXTELNBR)

担当者のために情報を伝送できるファクシミリ(FAX)電話番号を指定します。

要素1: 基本

*SAME

値は変更されません。

*NONE

担当者の基本FAX番号はありません。

文字値 **担当者 (CONTACT)**パラメーターに指定された担当者のために情報を送信できる完全なFAX電話番号を指定します。この番号には、市外局番、電話番号、および内線番号が含まれていなければなりません。

要素2: 代替

*SAME

値は変更されません。

*NONE

担当者の代替FAX番号はありません。

文字値 基本FAX番号を使用できない場合に、**担当者 (CONTACT)**パラメーターに指定された担当者のために情報を送信できる完全なFAX電話番号を指定します。この番号には、市外局番、電話番号、および内線番号が含まれていなければなりません。

上

住所 (MAILADDR)

担当者 (**CONTACT**)パラメーターに指定された担当者の郵送用の住所を指定します。

要素1,2,3: 町名番地

*SAME

値は変更されません。

*NONE

追加の町名番地情報は提供されません。この値は、要素2および3には有効ですが、要素1には無効です。

文字値 サービス・プロバイダーが問題を解決するための部品または援助物を送る必要がある場合の所在地の番地および町名を指定します。これを郵便局の私書箱にすることはできません。最大3行の町名番地情報を指定することができます。それぞれの行は別個のパラメーターであり、36文字までの長さとすることができますが、アポストロフィで囲む必要があります。

要素4: 市区町村または局所性

***SAME**

値は変更されません。

文字値 サービス・プロバイダーが部品または援助物を送る必要がある場合の所在地の市区町村名を指定します。

要素5: 都道府県

***SAME**

値は変更されません。

***NONE**

都道府県はありません。

文字値 サービス・プロバイダーが部品または援助物を送る必要がある場合の所在地の都道府県名を指定します。

要素6: 国または地域

***SAME**

値は変更されません。

文字値 サービス・プロバイダーが部品または援助物を送る必要がある場合の所在地の国または地域名を指定します。

要素7: 郵便番号

***SAME**

値は変更されません。

文字値 サービス・プロバイダーが部品または援助物を送る必要がある場合の所在地の郵便番号を指定します。

上

各国語バージョン (LNGVER)

プログラム一時修正(PTF)カバー・レターに使用される、希望する言語バージョンを指定します。 PTFカバー・レターは最初は米国英語で書かれています。カバー・レターの一部は他の言語に翻訳されているので他の言語で発注することができます。発注したカバー・レターがユーザーの使用する言語に翻訳されていない場合には、米国英語によるカバー・レターが送られます。

***SAME**

値は変更されません。

***PRIMARY**

システムに現在導入済みの1次各国語の言語バージョンが使用されます。

整数 PTFカバー・レターに使用される、希望する言語バージョンを指定します。

上

電子メール・アドレス (EMAILADDR)

担当者の電子メール(Eメール) アドレスを指定します。

要素1: 基本

*SAME

値は変更されません。

*NONE

担当者の基本電子メール・アドレスはありません。

文字値 担当者 (CONTACT)パラメーターに指定された担当者のために情報を送信できる電子メール・アドレスを指定してください。例えば、'JOHN.BROWN@MYCOMPANY.COM'があります。

要素2: 代替

*SAME

値は変更されません。

*NONE

担当者の代替電子メール・アドレスはありません。

文字値 基本電子メール・アドレスが使用できない場合に、担当者 (CONTACT)パラメーターに指定された担当者のために情報を送信できる電子メール・アドレスを指定してください。

上

PTFの媒体 (MEDPTF)

プログラム一時修正(PTF)に使用される媒体を指定します。

*SAME

値は変更されません。

*AUTOMATIC

システムが、PTFの送付に使用される媒体を自動的に選択します。システムが装置を検出しない場合は、省略時の値は*DVDROMになります。

*CDROM

PTFは、CD-ROM媒体で送付されます。

*DVDROM

PTFがDVD-ROM媒体で送付されます。

上

セントラル・サイト・サポートの呼び出し (CALLCSS)

顧客がIBM技術員(CE)またはプロダクト・サポート・センターによるセントラル・サイト・サポート・デスクの呼び出しを希望するかどうかを指定します。

要素1: セントラル・サイト・サポートの呼び出し

*SAME

値は変更されません。

*YES 顧客のセントラル・サイト・サポートが呼び出されます。

*NO 顧客のセントラル・サイト・サポートは呼び出されません。

上

例

例1:連絡先電話番号の変更

```
CHGCNTINF TELNBR('1-507-345-6789')
```

このコマンドは、連絡先の担当者の基本電話番号を変更します。利用者窓口またはポケットベルの電話番号は指定されないため、利用者窓口またはポケットベルの電話番号は変更されません。

例2:連絡先情報値の変更

```
CHGCNTINF CONTACT('JOHN SMITH')
          TELNBR('1-507-123-4567' '1-507-123-7654')
          FAXTELNBR('1-507-123-4444')
```

このコマンドは、連絡先担当者名、基本利用者窓口またはポケットベル電話番号、および基本ファクシミリ(FAX)電話番号を変更します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF8C84

保守サポート連絡先データの処理中にエラーが検出された。

上

SNMP用コミュニティの変更 (CHGCOMSNMP)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

SNMP用コミュニティ変更(CHGCOMSNMP)コマンドは、SNMPエージェント・コミュニティ・リスト中のSNMPコミュニティ・プロファイルを変更します。SNMPエージェントは、コミュニティ・プロファイルを使用して、SNMP管理機能から送られた要求を受け入れるかどうかを決定します。コミュニティ・プロファイルは、コミュニティ名、オブジェクト・アクセスの仕様、およびそのコミュニティの一部であるSNMP管理機能のリストから構成されています。コミュニティ名は、ASCIIコミュニティ (ASCII.COM)パラメーターと結合されて、コミュニティを定義します。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
COM	コミュニティ名	文字値	必須, キー, 定位置 1
ASCII.COM	コミュニティ名の変換	*YES, *NO	オプション, キー
INTNETADR	管理機能IPアドレス	単一値: *SAME, *ANY その他の値 (最大 300 回の繰り返し): 文字値	オプション
OBJACC	オブジェクト・アクセス	*SAME, *SNMPATR, *READ, *WRITE, *NONE	オプション
LOGSET	SET要求のログ	*SAME, *SNMPATR, *YES, *NO	オプション
LOGGET	GET要求のログ	*SAME, *SNMPATR, *YES, *NO	オプション

上

コミュニティ名 (COM)

変更されるSNMPコミュニティの名前を指定します。このコミュニティは、SNMPエージェント・コミュニティ・リスト中にすでに存在していなければなりません。ユーザーはSNMP用コミュニティ追加 (ADDCOMSNMP)コマンドを使用することによって、SNMPコミュニティを定義することができます。

考えられる値は、次の通りです。

コミュニティ名

変更しているSNMPコミュニティの名前を指定してください。この名前には、表示できない文字を含めることができます。

上

コミュニティ名の変換 (ASCIICOM)

コミュニティ名がSNMP管理機能からの要求の中に指定されているコミュニティ名と比較される前に、そのコミュニティ名がASCII文字に変換されるかどうかを指定します。このパラメーターは、変更するコミュニティを調べるためにコミュニティ名と組み合わせて使用されます。

考えられる値は、次の通りです。

- *YES** コミュニティ名は、SNMP管理機能によって指定されたコミュニティ名と比較される前に、ASCII文字に変換されます。
- *NO** コミュニティ名は、SNMP管理機能によって指定されたコミュニティ名と比較される前には、ASCII文字に変換されません。

上

管理機能IPアドレス (INTNETADR)

このコミュニティの一部であるSNMP管理機能のIPアドレス。

考えられる値は、次の通りです。

- *SAME** 値は変更されません。
- *ANY** 任意のSNMP管理機能をこのコミュニティの一部とすることができます。

管理機能IPアドレス

SNMP管理機能のIPアドレスを指定してください。インターネット・アドレスはNNN.NNN.NNN.NNNの形式で指定されます。ここでNNNは0から255の範囲の10進数です。インターネット・アドレスは、そのアドレスのネットワークID部分またはホストID部分の値がすべて2進数の1またはすべて2進数の0の場合には、正しくありません。コマンド入力行からIPアドレスを入力する場合には、そのアドレスをアポストロフィで囲まなければなりません。最大300個までの固有のIPアドレスを指定することができます。同じIPアドレスが複数のコミュニティ・プロファイルの中にあっても構いません。

上

オブジェクト・アクセス (OBJACC)

コミュニティのオブジェクト・アクセスを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

- *SAME** 値は変更されません。
- *SNMPATR** SNMP属性変更(CHGSNMPA)コマンドを使用して定義されたオブジェクト・アクセスがこのコミュニティ用に使用されます。
- *READ** このコミュニティの一部であるSNMP管理機能は、すべての基本管理機能情報(MIB)のオブジェクト読み取ることができます。SNMP管理機能によるMIBオブジェクトの変更は許されません。

***WRITE**

このコミュニティの一部であるSNMP管理機能には、すべてのMIBオブジェクトの変更が認められます。 *WRITEの指定には暗黙に*READアクセス権が含まれています。

***NONE**

このコミュニティの一部であるSNMP管理機能には、どのMIBオブジェクトのアクセスも認められません。

上

SET要求のログ (LOGSET)

このコミュニティのSNMP管理機能からのSET要求がライブラリーQUSRSYSのジャーナルQSNMPにログされるかどうかを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***SAME**

値は変更されません。

***SNMPATR**

SNMP属性変更(CHGSNMPA)コマンドを使用して定義された値がこのコミュニティ用に使用されます。

***YES** SET要求がログされます。

***NO** SET要求はログされません。

上

GET要求のログ (LOGGET)

このコミュニティのSNMP管理機能からのGET要求およびGET-NEXT要求がライブラリーQUSRSYSのジャーナルQSNMPにログされるかどうかを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***SAME**

値は変更されません。

***SNMPATR**

SNMP属性変更(CHGSNMPA)コマンドを使用して定義された値がこのコミュニティ用に使用されます。

***YES** GET要求およびGET-NEXT要求がログされます。

***NO** GET要求およびGET-NEXT要求はログされません。

上

例

CHGCOMSNMP COM(ENDICOTT) INTNETADR(*ANY) OBJACC(*READ)

このコマンドは、コミュニティENDICOTTを変更し、このシステム上のMIBオブジェクトに対する読み取りオブジェクト・アクセス権をもち、SNMPマネージャーがこれらのオブジェクトを読み取れるようにします。次のコミュニティ値はすべて変更されません。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

TCP4001

SNMP構成情報のアクセス中にエラーが起こった。

TCP4009

コミュニティが存在していない。

TCP8050

&1を使用するには*IOSYSCFG権限が必要である。

上

サービス・クラス記述変更 (CHGCOSD)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター

例

エラー・メッセージ

サービス・クラス記述変更(CHGCOSD)コマンドにより、サービス・クラス記述が変更されます。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
COSD	サービス・クラス記述	名前	必須, キー, 定位置 1
TMSPTY	送信優先順位	<u>*SAME</u> , *LOW, *MED, *HIGH	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノート
ROWILINE	回線の1行目	要素リスト	オプション
	要素 1: 回線行の重み	0-255, <u>*SAME</u>	
	要素 2: 最小リンク速度	<u>*SAME</u> , *MIN, 1200, 2400, 4800, 7200, 9600, 14400, 19200, 48000, 56000, 64000, 112000, 128000, 168000, 192000, 224000, 256000, 280000, 320000, 336000, 384000, 448000, 499000, 576000, 614000, 691000, 768000, 845000, 922000, 998000, 1075000, 1152000, 1229000, 1382000, 1536000, 1690000, 1843000, 1997000, 4M, 10M, 16M, *MAX	
	要素 3: 最大リンク速度	<u>*SAME</u> , *MIN, 1200, 2400, 4800, 7200, 9600, 14400, 19200, 48000, 56000, 64000, 112000, 128000, 168000, 192000, 224000, 256000, 280000, 320000, 336000, 384000, 448000, 499000, 576000, 614000, 691000, 768000, 845000, 922000, 998000, 1075000, 1152000, 1229000, 1382000, 1536000, 1690000, 1843000, 1997000, 4M, 10M, 16M, *MAX	
	要素 4: 最低コスト/接続時間	0-255, <u>*SAME</u>	
	要素 5: 最高コスト/接続時間	0-255, <u>*SAME</u>	
	要素 6: 最低コスト/バイト	0-255, <u>*SAME</u>	
	要素 7: 最高コスト/バイト	0-255, <u>*SAME</u>	
	要素 8: 回線用最小機密保護	<u>*SAME</u> , *NONSECURE, *PKTSWTNET, *UNDGRDCBL, *SECURECND, *GUARDCND, *ENCRYPTED, *MAX	
	要素 9: 回線用最大機密保護	<u>*SAME</u> , *NONSECURE, *PKTSWTNET, *UNDGRDCBL, *SECURECND, *GUARDCND, *ENCRYPTED, *MAX	
	要素 10: 最小伝搬遅延	<u>*SAME</u> , *MIN, *LAN, *TELEPHONE, *PKTSWTNET, *SATELLITE, *MAX	
	要素 11: 最大伝搬遅延	<u>*SAME</u> , *MIN, *LAN, *TELEPHONE, *PKTSWTNET, *SATELLITE, *MAX	
	要素 12: 最小ユーザー定義1	0-255, <u>*SAME</u>	
	要素 13: 最大ユーザー定義1	0-255, <u>*SAME</u>	
	要素 14: 最小ユーザー定義2	0-255, <u>*SAME</u>	
	要素 15: 最大ユーザー定義2	0-255, <u>*SAME</u>	
	要素 16: 最小ユーザー定義3	0-255, <u>*SAME</u>	
要素 17: 最大ユーザー定義3	0-255, <u>*SAME</u>		

キーワード	記述	選択項目	ノート
ROWINODE	ノードの1行目	要素リスト	オプション
	要素 1: ノード行の重み	0-255, <u>*SAME</u>	
	要素 2: 最小経路追加抵抗	0-255, <u>*SAME</u>	
	要素 3: 最大経路追加抵抗	0-255, <u>*SAME</u>	
	要素 4: ノードの最小渋滞	<u>*SAME</u> , *LOW, *HIGH	
	要素 5: ノードの最大渋滞	<u>*SAME</u> , *LOW, *HIGH	

キーワード	記述	選択項目	ノート
ROW2LINE	回線の2行目	要素リスト	オプション
	要素 1: 回線行の重み	0-255, <u>*SAME</u>	
	要素 2: 最小リンク速度	<u>*SAME</u> , *MIN, 1200, 2400, 4800, 7200, 9600, 14400, 19200, 48000, 56000, 64000, 112000, 128000, 168000, 192000, 224000, 256000, 280000, 320000, 336000, 384000, 448000, 499000, 576000, 614000, 691000, 768000, 845000, 922000, 998000, 1075000, 1152000, 1229000, 1382000, 1536000, 1690000, 1843000, 1997000, 4M, 10M, 16M, *MAX	
	要素 3: 最大リンク速度	<u>*SAME</u> , *MIN, 1200, 2400, 4800, 7200, 9600, 14400, 19200, 48000, 56000, 64000, 112000, 128000, 168000, 192000, 224000, 256000, 280000, 320000, 336000, 384000, 448000, 499000, 576000, 614000, 691000, 768000, 845000, 922000, 998000, 1075000, 1152000, 1229000, 1382000, 1536000, 1690000, 1843000, 1997000, 4M, 10M, 16M, *MAX	
	要素 4: 最低コスト/接続時間	0-255, <u>*SAME</u>	
	要素 5: 最高コスト/接続時間	0-255, <u>*SAME</u>	
	要素 6: 最低コスト/バイト	0-255, <u>*SAME</u>	
	要素 7: 最高コスト/バイト	0-255, <u>*SAME</u>	
	要素 8: 回線用最小機密保護	<u>*SAME</u> , *NONSECURE, *PKTSWTNET, *UNDGRDCBL, *SECURECND, *GUARDCND, *ENCRYPTED, *MAX	
	要素 9: 回線用最大機密保護	<u>*SAME</u> , *NONSECURE, *PKTSWTNET, *UNDGRDCBL, *SECURECND, *GUARDCND, *ENCRYPTED, *MAX	
	要素 10: 最小伝搬遅延	<u>*SAME</u> , *MIN, *LAN, *TELEPHONE, *PKTSWTNET, *SATELLITE, *MAX	
	要素 11: 最大伝搬遅延	<u>*SAME</u> , *MIN, *LAN, *TELEPHONE, *PKTSWTNET, *SATELLITE, *MAX	
	要素 12: 最小ユーザー定義1	0-255, <u>*SAME</u>	
	要素 13: 最大ユーザー定義1	0-255, <u>*SAME</u>	
	要素 14: 最小ユーザー定義2	0-255, <u>*SAME</u>	
	要素 15: 最大ユーザー定義2	0-255, <u>*SAME</u>	
	要素 16: 最小ユーザー定義3	0-255, <u>*SAME</u>	
要素 17: 最大ユーザー定義3	0-255, <u>*SAME</u>		

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
ROW2NODE	ノードの2行目	要素リスト	オプション
	要素 1: ノード行の重み	0-255, <u>*SAME</u>	
	要素 2: 最小経路追加抵抗	0-255, <u>*SAME</u>	
	要素 3: 最大経路追加抵抗	0-255, <u>*SAME</u>	
	要素 4: ノードの最小渋滞	<u>*SAME</u> , *LOW, *HIGH	
	要素 5: ノードの最大渋滞	<u>*SAME</u> , *LOW, *HIGH	

キーワード	記述	選択項目	ノート
ROW3LINE	回線の3行目	要素リスト	オプション
	要素 1: 回線行の重み	0-255, <u>*SAME</u>	
	要素 2: 最小リンク速度	<u>*SAME</u> , *MIN, 1200, 2400, 4800, 7200, 9600, 14400, 19200, 48000, 56000, 64000, 112000, 128000, 168000, 192000, 224000, 256000, 280000, 320000, 336000, 384000, 448000, 499000, 576000, 614000, 691000, 768000, 845000, 922000, 998000, 1075000, 1152000, 1229000, 1382000, 1536000, 1690000, 1843000, 1997000, 4M, 10M, 16M, *MAX	
	要素 3: 最大リンク速度	<u>*SAME</u> , *MIN, 1200, 2400, 4800, 7200, 9600, 14400, 19200, 48000, 56000, 64000, 112000, 128000, 168000, 192000, 224000, 256000, 280000, 320000, 336000, 384000, 448000, 499000, 576000, 614000, 691000, 768000, 845000, 922000, 998000, 1075000, 1152000, 1229000, 1382000, 1536000, 1690000, 1843000, 1997000, 4M, 10M, 16M, *MAX	
	要素 4: 最低コスト/接続時間	0-255, <u>*SAME</u>	
	要素 5: 最高コスト/接続時間	0-255, <u>*SAME</u>	
	要素 6: 最低コスト/バイト	0-255, <u>*SAME</u>	
	要素 7: 最高コスト/バイト	0-255, <u>*SAME</u>	
	要素 8: 回線用最小機密保護	<u>*SAME</u> , *NONSECURE, *PKTSWTNET, *UNDGRDCBL, *SECURECND, *GUARDCND, *ENCRYPTED, *MAX	
	要素 9: 回線用最大機密保護	<u>*SAME</u> , *NONSECURE, *PKTSWTNET, *UNDGRDCBL, *SECURECND, *GUARDCND, *ENCRYPTED, *MAX	
	要素 10: 最小伝搬遅延	<u>*SAME</u> , *MIN, *LAN, *TELEPHONE, *PKTSWTNET, *SATELLITE, *MAX	
	要素 11: 最大伝搬遅延	<u>*SAME</u> , *MIN, *LAN, *TELEPHONE, *PKTSWTNET, *SATELLITE, *MAX	
	要素 12: 最小ユーザー定義1	0-255, <u>*SAME</u>	
	要素 13: 最大ユーザー定義1	0-255, <u>*SAME</u>	
	要素 14: 最小ユーザー定義2	0-255, <u>*SAME</u>	
	要素 15: 最大ユーザー定義2	0-255, <u>*SAME</u>	
	要素 16: 最小ユーザー定義3	0-255, <u>*SAME</u>	
要素 17: 最大ユーザー定義3	0-255, <u>*SAME</u>		

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
ROW3NODE	ノードの3行目	要素リスト	オプション
	要素 1: ノード行の重み	0-255, <u>*SAME</u>	
	要素 2: 最小経路追加抵抗	0-255, <u>*SAME</u>	
	要素 3: 最大経路追加抵抗	0-255, <u>*SAME</u>	
	要素 4: ノードの最小渋滞	<u>*SAME</u> , *LOW, *HIGH	
	要素 5: ノードの最大渋滞	<u>*SAME</u> , *LOW, *HIGH	

キーワード	記述	選択項目	ノート
ROW4LINE	回線の4行目	要素リスト	オプション
	要素 1: 回線行の重み	0-255, <u>*SAME</u>	
	要素 2: 最小リンク速度	<u>*SAME</u> , *MIN, 1200, 2400, 4800, 7200, 9600, 14400, 19200, 48000, 56000, 64000, 112000, 128000, 168000, 192000, 224000, 256000, 280000, 320000, 336000, 384000, 448000, 499000, 576000, 614000, 691000, 768000, 845000, 922000, 998000, 1075000, 1152000, 1229000, 1382000, 1536000, 1690000, 1843000, 1997000, 4M, 10M, 16M, *MAX	
	要素 3: 最大リンク速度	<u>*SAME</u> , *MIN, 1200, 2400, 4800, 7200, 9600, 14400, 19200, 48000, 56000, 64000, 112000, 128000, 168000, 192000, 224000, 256000, 280000, 320000, 336000, 384000, 448000, 499000, 576000, 614000, 691000, 768000, 845000, 922000, 998000, 1075000, 1152000, 1229000, 1382000, 1536000, 1690000, 1843000, 1997000, 4M, 10M, 16M, *MAX	
	要素 4: 最低コスト/接続時間	0-255, <u>*SAME</u>	
	要素 5: 最高コスト/接続時間	0-255, <u>*SAME</u>	
	要素 6: 最低コスト/バイト	0-255, <u>*SAME</u>	
	要素 7: 最高コスト/バイト	0-255, <u>*SAME</u>	
	要素 8: 回線用最小機密保護	<u>*SAME</u> , *NONSECURE, *PKTSWTNET, *UNDGRDCBL, *SECURECND, *GUARDCND, *ENCRYPTED, *MAX	
	要素 9: 回線用最大機密保護	<u>*SAME</u> , *NONSECURE, *PKTSWTNET, *UNDGRDCBL, *SECURECND, *GUARDCND, *ENCRYPTED, *MAX	
	要素 10: 最小伝搬遅延	<u>*SAME</u> , *MIN, *LAN, *TELEPHONE, *PKTSWTNET, *SATELLITE, *MAX	
	要素 11: 最大伝搬遅延	<u>*SAME</u> , *MIN, *LAN, *TELEPHONE, *PKTSWTNET, *SATELLITE, *MAX	
	要素 12: 最小ユーザー定義1	0-255, <u>*SAME</u>	
	要素 13: 最大ユーザー定義1	0-255, <u>*SAME</u>	
	要素 14: 最小ユーザー定義2	0-255, <u>*SAME</u>	
	要素 15: 最大ユーザー定義2	0-255, <u>*SAME</u>	
	要素 16: 最小ユーザー定義3	0-255, <u>*SAME</u>	
要素 17: 最大ユーザー定義3	0-255, <u>*SAME</u>		

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
ROW4NODE	ノードの4行目	要素リスト	オプション
	要素 1: ノード行の重み	0-255, <u>*SAME</u>	
	要素 2: 最小経路追加抵抗	0-255, <u>*SAME</u>	
	要素 3: 最大経路追加抵抗	0-255, <u>*SAME</u>	
	要素 4: ノードの最小渋滞	<u>*SAME</u> , *LOW, *HIGH	
	要素 5: ノードの最大渋滞	<u>*SAME</u> , *LOW, *HIGH	

キーワード	記述	選択項目	ノート
ROWSLINE	回線の5行目	要素リスト	オプション
	要素 1: 回線行の重み	0-255, <u>*SAME</u>	
	要素 2: 最小リンク速度	<u>*SAME</u> , *MIN, 1200, 2400, 4800, 7200, 9600, 14400, 19200, 48000, 56000, 64000, 112000, 128000, 168000, 192000, 224000, 256000, 280000, 320000, 336000, 384000, 448000, 499000, 576000, 614000, 691000, 768000, 845000, 922000, 998000, 1075000, 1152000, 1229000, 1382000, 1536000, 1690000, 1843000, 1997000, 4M, 10M, 16M, *MAX	
	要素 3: 最大リンク速度	<u>*SAME</u> , *MIN, 1200, 2400, 4800, 7200, 9600, 14400, 19200, 48000, 56000, 64000, 112000, 128000, 168000, 192000, 224000, 256000, 280000, 320000, 336000, 384000, 448000, 499000, 576000, 614000, 691000, 768000, 845000, 922000, 998000, 1075000, 1152000, 1229000, 1382000, 1536000, 1690000, 1843000, 1997000, 4M, 10M, 16M, *MAX	
	要素 4: 最低コスト/接続時間	0-255, <u>*SAME</u>	
	要素 5: 最高コスト/接続時間	0-255, <u>*SAME</u>	
	要素 6: 最低コスト/バイト	0-255, <u>*SAME</u>	
	要素 7: 最高コスト/バイト	0-255, <u>*SAME</u>	
	要素 8: 回線用最小機密保護	<u>*SAME</u> , *NONSECURE, *PKTSWTNET, *UNDGRDCBL, *SECURECND, *GUARDCND, *ENCRYPTED, *MAX	
	要素 9: 回線用最大機密保護	<u>*SAME</u> , *NONSECURE, *PKTSWTNET, *UNDGRDCBL, *SECURECND, *GUARDCND, *ENCRYPTED, *MAX	
	要素 10: 最小伝搬遅延	<u>*SAME</u> , *MIN, *LAN, *TELEPHONE, *PKTSWTNET, *SATELLITE, *MAX	
	要素 11: 最大伝搬遅延	<u>*SAME</u> , *MIN, *LAN, *TELEPHONE, *PKTSWTNET, *SATELLITE, *MAX	
	要素 12: 最小ユーザー定義1	0-255, <u>*SAME</u>	
	要素 13: 最大ユーザー定義1	0-255, <u>*SAME</u>	
	要素 14: 最小ユーザー定義2	0-255, <u>*SAME</u>	
	要素 15: 最大ユーザー定義2	0-255, <u>*SAME</u>	
	要素 16: 最小ユーザー定義3	0-255, <u>*SAME</u>	
要素 17: 最大ユーザー定義3	0-255, <u>*SAME</u>		

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
ROW5NODE	ノードの5行目	要素リスト	オプション
	要素 1: ノード行の重み	0-255, <u>*SAME</u>	
	要素 2: 最小経路追加抵抗	0-255, <u>*SAME</u>	
	要素 3: 最大経路追加抵抗	0-255, <u>*SAME</u>	
	要素 4: ノードの最小渋滞	<u>*SAME</u> , *LOW, *HIGH	
	要素 5: ノードの最大渋滞	<u>*SAME</u> , *LOW, *HIGH	

キーワード	記述	選択項目	ノート
ROW6LINE	回線の6行目	要素リスト	オプション
	要素 1: 回線行の重み	0-255, <u>*SAME</u>	
	要素 2: 最小リンク速度	<u>*SAME</u> , *MIN, 1200, 2400, 4800, 7200, 9600, 14400, 19200, 48000, 56000, 64000, 112000, 128000, 168000, 192000, 224000, 256000, 280000, 320000, 336000, 384000, 448000, 499000, 576000, 614000, 691000, 768000, 845000, 922000, 998000, 1075000, 1152000, 1229000, 1382000, 1536000, 1690000, 1843000, 1997000, 4M, 10M, 16M, *MAX	
	要素 3: 最大リンク速度	<u>*SAME</u> , *MIN, 1200, 2400, 4800, 7200, 9600, 14400, 19200, 48000, 56000, 64000, 112000, 128000, 168000, 192000, 224000, 256000, 280000, 320000, 336000, 384000, 448000, 499000, 576000, 614000, 691000, 768000, 845000, 922000, 998000, 1075000, 1152000, 1229000, 1382000, 1536000, 1690000, 1843000, 1997000, 4M, 10M, 16M, *MAX	
	要素 4: 最低コスト/接続時間	0-255, <u>*SAME</u>	
	要素 5: 最高コスト/接続時間	0-255, <u>*SAME</u>	
	要素 6: 最低コスト/バイト	0-255, <u>*SAME</u>	
	要素 7: 最高コスト/バイト	0-255, <u>*SAME</u>	
	要素 8: 回線用最小機密保護	<u>*SAME</u> , *NONSECURE, *PKTSWTNET, *UNDGRDCBL, *SECURECND, *GUARDCND, *ENCRYPTED, *MAX	
	要素 9: 回線用最大機密保護	<u>*SAME</u> , *NONSECURE, *PKTSWTNET, *UNDGRDCBL, *SECURECND, *GUARDCND, *ENCRYPTED, *MAX	
	要素 10: 最小伝搬遅延	<u>*SAME</u> , *MIN, *LAN, *TELEPHONE, *PKTSWTNET, *SATELLITE, *MAX	
	要素 11: 最大伝搬遅延	<u>*SAME</u> , *MIN, *LAN, *TELEPHONE, *PKTSWTNET, *SATELLITE, *MAX	
	要素 12: 最小ユーザー定義1	0-255, <u>*SAME</u>	
	要素 13: 最大ユーザー定義1	0-255, <u>*SAME</u>	
	要素 14: 最小ユーザー定義2	0-255, <u>*SAME</u>	
	要素 15: 最大ユーザー定義2	0-255, <u>*SAME</u>	
	要素 16: 最小ユーザー定義3	0-255, <u>*SAME</u>	
要素 17: 最大ユーザー定義3	0-255, <u>*SAME</u>		

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
ROW6NODE	ノードの6行目	要素リスト	オプション
	要素 1: ノード行の重み	0-255, <u>*SAME</u>	
	要素 2: 最小経路追加抵抗	0-255, <u>*SAME</u>	
	要素 3: 最大経路追加抵抗	0-255, <u>*SAME</u>	
	要素 4: ノードの最小渋滞	<u>*SAME</u> , *LOW, *HIGH	
	要素 5: ノードの最大渋滞	<u>*SAME</u> , *LOW, *HIGH	

キーワード	記述	選択項目	ノート
ROW7LINE	回線の7行目	要素リスト	オプション
	要素 1: 回線行の重み	0-255, <u>*SAME</u>	
	要素 2: 最小リンク速度	<u>*SAME</u> , *MIN, 1200, 2400, 4800, 7200, 9600, 14400, 19200, 48000, 56000, 64000, 112000, 128000, 168000, 192000, 224000, 256000, 280000, 320000, 336000, 384000, 448000, 499000, 576000, 614000, 691000, 768000, 845000, 922000, 998000, 1075000, 1152000, 1229000, 1382000, 1536000, 1690000, 1843000, 1997000, 4M, 10M, 16M, *MAX	
	要素 3: 最大リンク速度	<u>*SAME</u> , *MIN, 1200, 2400, 4800, 7200, 9600, 14400, 19200, 48000, 56000, 64000, 112000, 128000, 168000, 192000, 224000, 256000, 280000, 320000, 336000, 384000, 448000, 499000, 576000, 614000, 691000, 768000, 845000, 922000, 998000, 1075000, 1152000, 1229000, 1382000, 1536000, 1690000, 1843000, 1997000, 4M, 10M, 16M, *MAX	
	要素 4: 最低コスト/接続時間	0-255, <u>*SAME</u>	
	要素 5: 最高コスト/接続時間	0-255, <u>*SAME</u>	
	要素 6: 最低コスト/バイト	0-255, <u>*SAME</u>	
	要素 7: 最高コスト/バイト	0-255, <u>*SAME</u>	
	要素 8: 回線用最小機密保護	<u>*SAME</u> , *NONSECURE, *PKTSWTNET, *UNDGRDCBL, *SECURECND, *GUARDCND, *ENCRYPTED, *MAX	
	要素 9: 回線用最大機密保護	<u>*SAME</u> , *NONSECURE, *PKTSWTNET, *UNDGRDCBL, *SECURECND, *GUARDCND, *ENCRYPTED, *MAX	
	要素 10: 最小伝搬遅延	<u>*SAME</u> , *MIN, *LAN, *TELEPHONE, *PKTSWTNET, *SATELLITE, *MAX	
	要素 11: 最大伝搬遅延	<u>*SAME</u> , *MIN, *LAN, *TELEPHONE, *PKTSWTNET, *SATELLITE, *MAX	
	要素 12: 最小ユーザー定義1	0-255, <u>*SAME</u>	
	要素 13: 最大ユーザー定義1	0-255, <u>*SAME</u>	
	要素 14: 最小ユーザー定義2	0-255, <u>*SAME</u>	
	要素 15: 最大ユーザー定義2	0-255, <u>*SAME</u>	
	要素 16: 最小ユーザー定義3	0-255, <u>*SAME</u>	
要素 17: 最大ユーザー定義3	0-255, <u>*SAME</u>		

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
ROW7NODE	ノードの7行目	要素リスト	オプション
	要素 1: ノード行の重み	0-255, <u>*SAME</u>	
	要素 2: 最小経路追加抵抗	0-255, <u>*SAME</u>	
	要素 3: 最大経路追加抵抗	0-255, <u>*SAME</u>	
	要素 4: ノードの最小渋滞	<u>*SAME</u> , *LOW, *HIGH	
	要素 5: ノードの最大渋滞	<u>*SAME</u> , *LOW, *HIGH	

キーワード	記述	選択項目	ノート
ROW8LINE	回線の8行目	要素リスト	オプション
	要素 1: 回線行の重み	0-255, <u>*SAME</u>	
	要素 2: 最小リンク速度	<u>*SAME</u> , *MIN, 1200, 2400, 4800, 7200, 9600, 14400, 19200, 48000, 56000, 64000, 112000, 128000, 168000, 192000, 224000, 256000, 280000, 320000, 336000, 384000, 448000, 499000, 576000, 614000, 691000, 768000, 845000, 922000, 998000, 1075000, 1152000, 1229000, 1382000, 1536000, 1690000, 1843000, 1997000, 4M, 10M, 16M, *MAX	
	要素 3: 最大リンク速度	<u>*SAME</u> , *MIN, 1200, 2400, 4800, 7200, 9600, 14400, 19200, 48000, 56000, 64000, 112000, 128000, 168000, 192000, 224000, 256000, 280000, 320000, 336000, 384000, 448000, 499000, 576000, 614000, 691000, 768000, 845000, 922000, 998000, 1075000, 1152000, 1229000, 1382000, 1536000, 1690000, 1843000, 1997000, 4M, 10M, 16M, *MAX	
	要素 4: 最低コスト/接続時間	0-255, <u>*SAME</u>	
	要素 5: 最高コスト/接続時間	0-255, <u>*SAME</u>	
	要素 6: 最低コスト/バイト	0-255, <u>*SAME</u>	
	要素 7: 最高コスト/バイト	0-255, <u>*SAME</u>	
	要素 8: 回線用最小機密保護	<u>*SAME</u> , *NONSECURE, *PKTSWTNET, *UNDGRDCBL, *SECURECND, *GUARDCND, *ENCRYPTED, *MAX	
	要素 9: 回線用最大機密保護	<u>*SAME</u> , *NONSECURE, *PKTSWTNET, *UNDGRDCBL, *SECURECND, *GUARDCND, *ENCRYPTED, *MAX	
	要素 10: 最小伝搬遅延	<u>*SAME</u> , *MIN, *LAN, *TELEPHONE, *PKTSWTNET, *SATELLITE, *MAX	
	要素 11: 最大伝搬遅延	<u>*SAME</u> , *MIN, *LAN, *TELEPHONE, *PKTSWTNET, *SATELLITE, *MAX	
	要素 12: 最小ユーザー定義1	0-255, <u>*SAME</u>	
	要素 13: 最大ユーザー定義1	0-255, <u>*SAME</u>	
	要素 14: 最小ユーザー定義2	0-255, <u>*SAME</u>	
	要素 15: 最大ユーザー定義2	0-255, <u>*SAME</u>	
	要素 16: 最小ユーザー定義3	0-255, <u>*SAME</u>	
要素 17: 最大ユーザー定義3	0-255, <u>*SAME</u>		

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
ROW8NODE	ノードの8行目	要素リスト	オプション
	要素 1: ノード行の重み	0-255, <u>*SAME</u>	
	要素 2: 最小経路追加抵抗	0-255, <u>*SAME</u>	
	要素 3: 最大経路追加抵抗	0-255, <u>*SAME</u>	
	要素 4: ノードの最小渋滞	<u>*SAME</u> , *LOW, *HIGH	
	要素 5: ノードの最大渋滞	<u>*SAME</u> , *LOW, *HIGH	
TEXT	テキスト'記述'	文字値, <u>*SAME</u> , *BLANK	オプション

上

サービス・クラス記述 (COSD)

サービス・クラス記述の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

この名前の桁数は1から8桁です。

これは必須パラメーターです。

上

送信優先順位 (TMSPTY)

このサービス・クラス記述の送信優先順位を指定します。

***LOW** このサービス・クラス記述には、最低の送信優先順位が使用されます。

***MED** このサービス・クラス記述には、中位の送信優先順位が使用されます。

***HIGH**

このサービス・クラス記述には、最高の送信優先順位が使用されます。

***SAME**

値は変更されません。

上

回線の1行目 (ROW1LINE)

サービス・クラス記述の1から8行目に使用される回線に関する基準のリストを指定します。各行は、APPN ネットワークにおける2つのノード間の回線接続の属性を記述します。ネットワーク経路指定パスを定義するために、1から8行目の順序で行が検査されます。このリストは次の各要素ごとに値を表示します。

行の重み係数

回線接続のためのこの行の相対的な重みを指定します。重みの範囲は0から255です。より好ましい回線接続に低位の重みを割り当てます。

最小リンク速度

この回線行基準によって受け入れられる回線接続のための最小リンク速度を指定します。有効な値

は、*MIN, 1200, 2400, 4800, 7200, 9600, 14400, 19200, 48000, 56000, 64000, 112000, 128000, 168000, 192000, 224000, 256000, 280000, 320000, 336000, 384000, 448000, 499000, 576000, 614000, 691000, 768000, 845000, 922000, 998000, 1075000, 1152000, 1229000, 1382000, 1536000, 1690000, 1843000, 1997000, 4M, 10M, 16M,または*MAX BPSです。

最大リンク速度

この回線行基準によって受け入れられる回線接続のための最大リンク速度を指定します。有効な値は、*MIN, 1200, 2400, 4800, 7200, 9600, 14400, 19200, 48000, 56000, 64000, 112000, 128000, 168000, 192000, 224000, 256000, 280000, 320000, 336000, 384000, 448000, 499000, 576000, 614000, 691000, 768000, 845000, 922000, 998000, 1075000, 1152000, 1229000, 1382000, 1536000, 1690000, 1843000, 1997000, 4M, 10M, 16M,または*MAX BPSです。

最少コスト／接続時間

この回線行基準によって受け入れられる最少相対コスト／接続時間を指定します。有効なコストの範囲は0から255です。0は低コストを意味し、255は高コストを意味します。

最高コスト／接続時間

この回線行基準によって受け入れられる最高相対コスト／接続時間を指定します。有効なコストの範囲は0から255です。0は低コストを意味し、255は高コストを意味します。

最少コスト／バイト

この回線行基準によって受け入れられる最少相対コスト／バイトを指定します。有効なコストの範囲は0から255です。0は低コストを意味し、255は高コストを意味します。

最高コスト／バイト

この回線行基準によって受け入れられる最高相対コスト／バイトを指定します。有効なコストの範囲は0から255です。0は低コストを意味し、255は高コストを意味します。

最小機密保護

この回線行基準によって受け入れられる最小機密保護レベルを指定します。有効な値は最小保護から最大保護の順になっています。

- *NONSECURE (機密保護なし)
- *PKTSWTNET (パケット交換網)
- *UNDGRDCBL (地下ケーブル)
- *SECURECND (保護配管)
- *GUARDCND (防護配管)
- *ENCRYPTED (暗号化回線)
- *MAX (物理的および電磁波の傍受から保護された配管)

最大機密保護

この回線行基準によって受け入れられる最大機密保護レベルを指定します。有効な値は最小保護から最大保護の順になっています。

- *NONSECURE (機密保護なし)
- *PKTSWTNET (パケット交換網)
- *UNDGRDCBL (地下ケーブル)
- *SECURECND (保護配管)
- *GUARDCND (防護配管)
- *ENCRYPTED (暗号化回線)
- *MAX (物理的および電磁波の傍受から保護された配管)

最小伝搬遅延

この回線行基準によって受け入れられる最小伝搬遅延を指定します。有効な値は最小遅延から最大遅延の順になっています。

- *MIN (最小伝搬遅延)
- *LAN (ローカル・エリア・ネットワークを使用した伝搬遅延)
- *TELEPHONE (電話回線を使用した伝搬遅延)
- *PKTSWTNET (パケット交換網を使用した伝搬遅延)
- *SATELLITE (衛星通信を使用した伝搬遅延)
- *MAX (最大伝搬遅延)

最大伝搬遅延

この回線行基準によって受け入れられる最大伝搬遅延を指定します。有効な値は最小遅延から最大遅延の順になっています。

- *MIN (最小伝搬遅延)
- *LAN (ローカル・エリア・ネットワークを使用した伝搬遅延)
- *TELEPHONE (電話回線を使用した伝搬遅延)
- *PKTSWTNET (パケット交換網を使用した伝搬遅延)
- *SATELLITE (衛星通信を使用した伝搬遅延)
- *MAX (最大伝搬遅延)

ユーザー定義のフィールド

ユーザー自身の回線接続基準を3つのユーザー定義のフィールドを使用して指定してください (各フィールドに最小および最大の範囲を指定して)。有効な値は0から255 です。

*SAME

このリスト内のいずれの要素にも有効であり、値が変わらないことを示します。

上

ノードの1行目 (ROW1NODE)

サービス・クラス記述の1から8行に使用されるノードに関する基準のリストを指定します。この行はAPPN ネットワークのノードの属性を記述します。ネットワーク経路指定パスを定義するために、1から8行目の順序で行が検査されます。このリストは次の各要素ごとに値を表示します。

ノード重み係数

ノードに対するこの行の相対的重みを指定します。重みの範囲は0から255です。より好ましいノードに低位の重みを割り当てます。

経路追加負荷係数最小値

このノード行基準によって受け入れられる最小経路追加負荷係数を指定します。有効な値の範囲は0から255です。0は低負荷係数を意味し、255は高負荷係数を意味します。

経路追加負荷係数最大値

このノード行基準によって受け入れられる最大経路追加負荷係数を指定します。有効な値の範囲は0から255です。0は低負荷係数を意味し、255は高負荷係数を意味します。

負荷過剰最小値

このノード基準によって受け入れられる最小負荷過剰レベルを指定します。有効な値は*LOW (低負荷過剰レベル) または*HIGH (高負荷過剰レベル) です。

負荷過剰最大値

このノード基準によって受け入れられる最大負荷過剰レベルを指定します。有効な値は*LOW（低負荷過剰レベル）または*HIGH（高負荷過剰レベル）です。

*SAME

このリスト内のいずれの要素にも有効であり、値が変わらないことを示します。

上

回線の2行目 (ROW2LINE)

サービス・クラス記述の1から8行目に使用される回線に関する基準のリストを指定します。各行は、APPN ネットワークにおける2つのノード間の回線接続の属性を記述します。ネットワーク経路指定パスを定義するために、1から8行目の順序で行が検査されます。このリストは次の各要素ごとに値を表示します。

行の重み係数

回線接続のためのこの行の相対的な重みを指定します。重みの範囲は0から255です。より好ましい回線接続に低位の重みを割り当てます。

最小リンク速度

この回線行基準によって受け入れられる回線接続のための最小リンク速度を指定します。有効な値は、*MIN, 1200, 2400, 4800, 7200, 9600, 14400, 19200, 48000, 56000, 64000, 112000, 128000, 168000, 192000, 224000, 256000, 280000, 320000, 336000, 384000, 448000, 499000, 576000, 614000, 691000, 768000, 845000, 922000, 998000, 1075000, 1152000, 1229000, 1382000, 1536000, 1690000, 1843000, 1997000, 4M, 10M, 16M,または*MAX BPSです。

最大リンク速度

この回線行基準によって受け入れられる回線接続のための最大リンク速度を指定します。有効な値は、*MIN, 1200, 2400, 4800, 7200, 9600, 14400, 19200, 48000, 56000, 64000, 112000, 128000, 168000, 192000, 224000, 256000, 280000, 320000, 336000, 384000, 448000, 499000, 576000, 614000, 691000, 768000, 845000, 922000, 998000, 1075000, 1152000, 1229000, 1382000, 1536000, 1690000, 1843000, 1997000, 4M, 10M, 16M,または*MAX BPSです。

最少コスト／接続時間

この回線行基準によって受け入れられる最少相対コスト／接続時間を指定します。有効なコストの範囲は0から255です。0は低コストを意味し、255は高コストを意味します。

最高コスト／接続時間

この回線行基準によって受け入れられる最高相対コスト／接続時間を指定します。有効なコストの範囲は0から255です。0は低コストを意味し、255は高コストを意味します。

最少コスト／バイト

この回線行基準によって受け入れられる最少相対コスト／バイトを指定します。有効なコストの範囲は0から255です。0は低コストを意味し、255は高コストを意味します。

最高コスト／バイト

この回線行基準によって受け入れられる最高相対コスト／バイトを指定します。有効なコストの範囲は0から255です。0は低コストを意味し、255は高コストを意味します。

最小機密保護

この回線行基準によって受け入れられる最小機密保護レベルを指定します。有効な値は最小保護から最大保護の順になっています。

- *NONSECURE（機密保護なし）

- *PKTSWTNET (パケット交換網)
- *UNDGRDCBL (地下ケーブル)
- *SECURECND (保護配管)
- *GUARDCND (防護配管)
- *ENCRYPTED (暗号化回線)
- *MAX (物理的および電磁波の傍受から保護された配管)

最大機密保護

この回線行基準によって受け入れられる最大機密保護レベルを指定します。有効な値は最小保護から最大保護の順になっています。

- *NONSECURE (機密保護なし)
- *PKTSWTNET (パケット交換網)
- *UNDGRDCBL (地下ケーブル)
- *SECURECND (保護配管)
- *GUARDCND (防護配管)
- *ENCRYPTED (暗号化回線)
- *MAX (物理的および電磁波の傍受から保護された配管)

最小伝搬遅延

この回線行基準によって受け入れられる最小伝搬遅延を指定します。有効な値は最小遅延から最大遅延の順になっています。

- *MIN (最小伝搬遅延)
- *LAN (ローカル・エリア・ネットワークを使用した伝搬遅延)
- *TELEPHONE (電話回線を使用した伝搬遅延)
- *PKTSWTNET (パケット交換網を使用した伝搬遅延)
- *SATELLITE (衛星通信を使用した伝搬遅延)
- *MAX (最大伝搬遅延)

最大伝搬遅延

この回線行基準によって受け入れられる最大伝搬遅延を指定します。有効な値は最小遅延から最大遅延の順になっています。

- *MIN (最小伝搬遅延)
- *LAN (ローカル・エリア・ネットワークを使用した伝搬遅延)
- *TELEPHONE (電話回線を使用した伝搬遅延)
- *PKTSWTNET (パケット交換網を使用した伝搬遅延)
- *SATELLITE (衛星通信を使用した伝搬遅延)
- *MAX (最大伝搬遅延)

ユーザー定義のフィールド

ユーザー自身の回線接続基準を3つのユーザー定義のフィールドを使用して指定してください (各フィールドに最小および最大の範囲を指定して)。有効な値は0から255 です。

*SAME

このリスト内のいずれの要素にも有効であり、値が変わらないことを示します。

上

ノードの2行目 (ROW2NODE)

サービス・クラス記述の1から8行目を使用されるノードに関する基準のリストを指定します。この行はAPPNネットワークのノードの属性を記述します。ネットワーク経路指定パスを定義するために、1から8行目の順序で行が検査されます。このリストは次の各要素ごとに値を表示します。

ノード重み係数

ノードに対するこの行の相対的重みを指定します。重みの範囲は0から255です。より好ましいノードに低位の重みを割り当てます。

経路追加負荷係数最小値

このノード行基準によって受け入れられる最小経路追加負荷係数を指定します。有効な値の範囲は0から255です。0は低負荷係数を意味し、255は高負荷係数を意味します。

経路追加負荷係数最大値

このノード行基準によって受け入れられる最大経路追加負荷係数を指定します。有効な値の範囲は0から255です。0は低負荷係数を意味し、255は高負荷係数を意味します。

負荷過剰最小値

このノード基準によって受け入れられる最小負荷過剰レベルを指定します。有効な値は*LOW（低負荷過剰レベル）または*HIGH（高負荷過剰レベル）です。

負荷過剰最大値

このノード基準によって受け入れられる最大負荷過剰レベルを指定します。有効な値は*LOW（低負荷過剰レベル）または*HIGH（高負荷過剰レベル）です。

*SAME

このリスト内のいずれの要素にも有効であり、値が変わらないことを示します。

上

回線の3行目 (ROW3LINE)

サービス・クラス記述の1から8行目を使用される回線に関する基準のリストを指定します。各行は、APPNネットワークにおける2つのノード間の回線接続の属性を記述します。ネットワーク経路指定パスを定義するために、1から8行目の順序で行が検査されます。このリストは次の各要素ごとに値を表示します。

行の重み係数

回線接続のためのこの行の相対的な重みを指定します。重みの範囲は0から255です。より好ましい回線接続に低位の重みを割り当てます。

最小リンク速度

この回線行基準によって受け入れられる回線接続のための最小リンク速度を指定します。有効な値は、*MIN, 1200, 2400, 4800, 7200, 9600, 14400, 19200, 48000, 56000, 64000, 112000, 128000, 168000, 192000, 224000, 256000, 280000, 320000, 336000, 384000, 448000, 499000, 576000, 614000, 691000, 768000, 845000, 922000, 998000, 1075000, 1152000, 1229000, 1382000, 1536000, 1690000, 1843000, 1997000, 4M, 10M, 16M,または*MAX BPSです。

最大リンク速度

この回線行基準によって受け入れられる回線接続のための最大リンク速度を指定します。有効な値は、*MIN, 1200, 2400, 4800, 7200, 9600, 14400, 19200, 48000, 56000, 64000, 112000, 128000, 168000, 192000, 224000, 256000, 280000, 320000, 336000, 384000, 448000, 499000, 576000, 614000, 691000, 768000, 845000, 922000, 998000, 1075000, 1152000, 1229000, 1382000, 1536000, 1690000, 1843000, 1997000, 4M, 10M, 16M,または*MAX BPSです。

最少コスト／接続時間

この回線行基準によって受け入れられる最少相対コスト／接続時間を指定します。有効なコストの範囲は0から255です。0は低コストを意味し、255は高コストを意味します。

最高コスト／接続時間

この回線行基準によって受け入れられる最高相対コスト／接続時間を指定します。有効なコストの範囲は0から255です。0は低コストを意味し、255は高コストを意味します。

最少コスト／バイト

この回線行基準によって受け入れられる最少相対コスト／バイトを指定します。有効なコストの範囲は0から255です。0は低コストを意味し、255は高コストを意味します。

最高コスト／バイト

この回線行基準によって受け入れられる最高相対コスト／バイトを指定します。有効なコストの範囲は0から255です。0は低コストを意味し、255は高コストを意味します。

最小機密保護

この回線行基準によって受け入れられる最小機密保護レベルを指定します。有効な値は最小保護から最大保護の順になっています。

- *NONSECURE (機密保護なし)
- *PKTSWTNET (パケット交換網)
- *UNDGRDCBL (地下ケーブル)
- *SECURECND (保護配管)
- *GUARDCND (防護配管)
- *ENCRYPTED (暗号化回線)
- *MAX (物理的および電磁波の傍受から保護された配管)

最大機密保護

この回線行基準によって受け入れられる最大機密保護レベルを指定します。有効な値は最小保護から最大保護の順になっています。

- *NONSECURE (機密保護なし)
- *PKTSWTNET (パケット交換網)
- *UNDGRDCBL (地下ケーブル)
- *SECURECND (保護配管)
- *GUARDCND (防護配管)
- *ENCRYPTED (暗号化回線)
- *MAX (物理的および電磁波の傍受から保護された配管)

最小伝搬遅延

この回線行基準によって受け入れられる最小伝搬遅延を指定します。有効な値は最小遅延から最大遅延の順になっています。

- *MIN (最小伝搬遅延)
- *LAN (ローカル・エリア・ネットワークを使用した伝搬遅延)
- *TELEPHONE (電話回線を使用した伝搬遅延)
- *PKTSWTNET (パケット交換網を使用した伝搬遅延)
- *SATELLITE (衛星通信を使用した伝搬遅延)
- *MAX (最大伝搬遅延)

最大伝搬遅延

この回線行基準によって受け入れられる最大伝搬遅延を指定します。有効な値は最小遅延から最大遅延の順になっています。

- *MIN (最小伝搬遅延)
- *LAN (ローカル・エリア・ネットワークを使用した伝搬遅延)
- *TELEPHONE (電話回線を使用した伝搬遅延)
- *PKTSWTNET (パケット交換網を使用した伝搬遅延)
- *SATELLITE (衛星通信を使用した伝搬遅延)
- *MAX (最大伝搬遅延)

ユーザー定義のフィールド

ユーザー自身の回線接続基準を3つのユーザー定義のフィールドを使用して指定してください (各フィールドに最小および最大の範囲を指定して)。有効な値は0から255 です。

*SAME

このリスト内のいずれの要素にも有効であり、値が変わらないことを示します。

上

ノードの3行目 (ROW3NODE)

サービス・クラス記述の1から8行に使用されるノードに関する基準のリストを指定します。この行はAPPN ネットワークのノードの属性を記述します。ネットワーク経路指定パスを定義するために、1から8行目の順序で行が検査されます。このリストは次の各要素ごとに値を表示します。

ノード重み係数

ノードに対するこの行の相対的重みを指定します。重みの範囲は0から255です。より好ましいノードに低位の重みを割り当てます。

経路追加負荷係数最小値

このノード行基準によって受け入れられる最小経路追加負荷係数を指定します。有効な値の範囲は0から255です。0は低負荷係数を意味し、255は高負荷係数を意味します。

経路追加負荷係数最大値

このノード行基準によって受け入れられる最大経路追加負荷係数を指定します。有効な値の範囲は0から255です。0は低負荷係数を意味し、255は高負荷係数を意味します。

負荷過剰最小値

このノード基準によって受け入れられる最小負荷過剰レベルを指定します。有効な値は*LOW (低負荷過剰レベル) または*HIGH (高負荷過剰レベル) です。

負荷過剰最大値

このノード基準によって受け入れられる最大負荷過剰レベルを指定します。有効な値は*LOW (低負荷過剰レベル) または*HIGH (高負荷過剰レベル) です。

*SAME

このリスト内のいずれの要素にも有効であり、値が変わらないことを示します。

上

回線の4行目 (ROW4LINE)

サービス・クラス記述の1から8行目に使用される回線に関する基準のリストを指定します。各行は、APPN ネットワークにおける2つのノード間の回線接続の属性を記述します。ネットワーク経路指定パスを定義するために、1から8行目の順序で行が検査されます。このリストは次の各要素ごとに値を表示します。

行の重み係数

回線接続のためのこの行の相対的な重みを指定します。重みの範囲は0から255です。より好ましい回線接続に低位の重みを割り当てます。

最小リンク速度

この回線行基準によって受け入れられる回線接続のための最小リンク速度を指定します。有効な値は、*MIN, 1200, 2400, 4800, 7200, 9600, 14400, 19200, 48000, 56000, 64000, 112000, 128000, 168000, 192000, 224000, 256000, 280000, 320000, 336000, 384000, 448000, 499000, 576000, 614000, 691000, 768000, 845000, 922000, 998000, 1075000, 1152000, 1229000, 1382000, 1536000, 1690000, 1843000, 1997000, 4M, 10M, 16M,または*MAX BPSです。

最大リンク速度

この回線行基準によって受け入れられる回線接続のための最大リンク速度を指定します。有効な値は、*MIN, 1200, 2400, 4800, 7200, 9600, 14400, 19200, 48000, 56000, 64000, 112000, 128000, 168000, 192000, 224000, 256000, 280000, 320000, 336000, 384000, 448000, 499000, 576000, 614000, 691000, 768000, 845000, 922000, 998000, 1075000, 1152000, 1229000, 1382000, 1536000, 1690000, 1843000, 1997000, 4M, 10M, 16M,または*MAX BPSです。

最少コスト／接続時間

この回線行基準によって受け入れられる最少相対コスト／接続時間を指定します。有効なコストの範囲は0から255です。0は低コストを意味し、255は高コストを意味します。

最高コスト／接続時間

この回線行基準によって受け入れられる最高相対コスト／接続時間を指定します。有効なコストの範囲は0から255です。0は低コストを意味し、255は高コストを意味します。

最少コスト／バイト

この回線行基準によって受け入れられる最少相対コスト／バイトを指定します。有効なコストの範囲は0から255です。0は低コストを意味し、255は高コストを意味します。

最高コスト／バイト

この回線行基準によって受け入れられる最高相対コスト／バイトを指定します。有効なコストの範囲は0から255です。0は低コストを意味し、255は高コストを意味します。

最小機密保護

この回線行基準によって受け入れられる最小機密保護レベルを指定します。有効な値は最小保護から最大保護の順になっています。

- *NONSECURE (機密保護なし)
- *PKTSWTNET (パケット交換網)
- *UNDGRDCBL (地下ケーブル)
- *SECURECND (保護配管)
- *GUARDCND (防護配管)
- *ENCRYPTED (暗号化回線)
- *MAX (物理的および電磁波の傍受から保護された配管)

最大機密保護

この回線行基準によって受け入れられる最大機密保護レベルを指定します。有効な値は最小保護から最大保護の順になっています。

- *NONSECURE (機密保護なし)
- *PKTSWTNET (パケット交換網)
- *UNDGRDCBL (地下ケーブル)
- *SECURECND (保護配管)
- *GUARDCND (防護配管)
- *ENCRYPTED (暗号化回線)
- *MAX (物理的および電磁波の傍受から保護された配管)

最小伝搬遅延

この回線行基準によって受け入れられる最小伝搬遅延を指定します。有効な値は最小遅延から最大遅延の順になっています。

- *MIN (最小伝搬遅延)
- *LAN (ローカル・エリア・ネットワークを使用した伝搬遅延)
- *TELEPHONE (電話回線を使用した伝搬遅延)
- *PKTSWTNET (パケット交換網を使用した伝搬遅延)
- *SATELLITE (衛星通信を使用した伝搬遅延)
- *MAX (最大伝搬遅延)

最大伝搬遅延

この回線行基準によって受け入れられる最大伝搬遅延を指定します。有効な値は最小遅延から最大遅延の順になっています。

- *MIN (最小伝搬遅延)
- *LAN (ローカル・エリア・ネットワークを使用した伝搬遅延)
- *TELEPHONE (電話回線を使用した伝搬遅延)
- *PKTSWTNET (パケット交換網を使用した伝搬遅延)
- *SATELLITE (衛星通信を使用した伝搬遅延)
- *MAX (最大伝搬遅延)

ユーザー定義のフィールド

ユーザー自身の回線接続基準を3つのユーザー定義のフィールドを使用して指定してください (各フィールドに最小および最大の範囲を指定して)。有効な値は0から255 です。

*SAME

このリスト内のいずれの要素にも有効であり、値が変わらないことを示します。

上

ノードの4行目 (ROW4NODE)

サービス・クラス記述の1から8行に使用されるノードに関する基準のリストを指定します。この行はAPPNネットワークのノードの属性を記述します。ネットワーク経路指定パスを定義するために、1から8行目の順序で行が検査されます。このリストは次の各要素ごとに値を表示します。

ノード重み係数

ノードに対するこの行の相対的重みを指定します。重みの範囲は0から255です。より好ましいノードに低位の重みを割り当てます。

経路追加負荷係数最小値

このノード行基準によって受け入れられる最小経路追加負荷係数を指定します。有効な値の範囲は0から255です。0は低負荷係数を意味し、255は高負荷係数を意味します。

経路追加負荷係数最大値

このノード行基準によって受け入れられる最大経路追加負荷係数を指定します。有効な値の範囲は0から255です。0は低負荷係数を意味し、255は高負荷係数を意味します。

負荷過剰最小値

このノード基準によって受け入れられる最小負荷過剰レベルを指定します。有効な値は*LOW（低負荷過剰レベル）または*HIGH（高負荷過剰レベル）です。

負荷過剰最大値

このノード基準によって受け入れられる最大負荷過剰レベルを指定します。有効な値は*LOW（低負荷過剰レベル）または*HIGH（高負荷過剰レベル）です。

*SAME

このリスト内のいずれの要素にも有効であり、値が変わらないことを示します。

上

回線の5行目 (ROW5LINE)

サービス・クラス記述の1から8行目に使用される回線に関する基準のリストを指定します。各行は、APPN ネットワークにおける2つのノード間の回線接続の属性を記述します。ネットワーク経路指定パスを定義するために、1から8行目の順序で行が検査されます。このリストは次の各要素ごとに値を表示します。

行の重み係数

回線接続のためのこの行の相対的な重みを指定します。重みの範囲は0から255です。より好ましい回線接続に低位の重みを割り当てます。

最小リンク速度

この回線行基準によって受け入れられる回線接続のための最小リンク速度を指定します。有効な値は、*MIN, 1200, 2400, 4800, 7200, 9600, 14400, 19200, 48000, 56000, 64000, 112000, 128000, 168000, 192000, 224000, 256000, 280000, 320000, 336000, 384000, 448000, 499000, 576000, 614000, 691000, 768000, 845000, 922000, 998000, 1075000, 1152000, 1229000, 1382000, 1536000, 1690000, 1843000, 1997000, 4M, 10M, 16M,または*MAX BPSです。

最大リンク速度

この回線行基準によって受け入れられる回線接続のための最大リンク速度を指定します。有効な値は、*MIN, 1200, 2400, 4800, 7200, 9600, 14400, 19200, 48000, 56000, 64000, 112000, 128000, 168000, 192000, 224000, 256000, 280000, 320000, 336000, 384000, 448000, 499000, 576000, 614000, 691000, 768000, 845000, 922000, 998000, 1075000, 1152000, 1229000, 1382000, 1536000, 1690000, 1843000, 1997000, 4M, 10M, 16M,または*MAX BPSです。

最少コスト／接続時間

この回線行基準によって受け入れられる最少相対コスト／接続時間を指定します。有効なコストの範囲は0から255です。0は低コストを意味し、255は高コストを意味します。

最高コスト／接続時間

この回線行基準によって受け入れられる最高相対コスト／接続時間を指定します。有効なコストの範囲は0から255です。0は低コストを意味し、255は高コストを意味します。

最少コスト／バイト

この回線行基準によって受け入れられる最少相対コスト／バイトを指定します。有効なコストの範囲は0から255です。0は低コストを意味し、255は高コストを意味します。

最高コスト／バイト

この回線行基準によって受け入れられる最高相対コスト／バイトを指定します。有効なコストの範囲は0から255です。0は低コストを意味し、255は高コストを意味します。

最小機密保護

この回線行基準によって受け入れられる最小機密保護レベルを指定します。有効な値は最小保護から最大保護の順になっています。

- *NONSECURE (機密保護なし)
- *PKTSWTNET (パケット交換網)
- *UNDGRDCBL (地下ケーブル)
- *SECURECND (保護配管)
- *GUARDCND (防護配管)
- *ENCRYPTED (暗号化回線)
- *MAX (物理的および電磁波の傍受から保護された配管)

最大機密保護

この回線行基準によって受け入れられる最大機密保護レベルを指定します。有効な値は最小保護から最大保護の順になっています。

- *NONSECURE (機密保護なし)
- *PKTSWTNET (パケット交換網)
- *UNDGRDCBL (地下ケーブル)
- *SECURECND (保護配管)
- *GUARDCND (防護配管)
- *ENCRYPTED (暗号化回線)
- *MAX (物理的および電磁波の傍受から保護された配管)

最小伝搬遅延

この回線行基準によって受け入れられる最小伝搬遅延を指定します。有効な値は最小遅延から最大遅延の順になっています。

- *MIN (最小伝搬遅延)
- *LAN (ローカル・エリア・ネットワークを使用した伝搬遅延)
- *TELEPHONE (電話回線を使用した伝搬遅延)
- *PKTSWTNET (パケット交換網を使用した伝搬遅延)
- *SATELLITE (衛星通信を使用した伝搬遅延)
- *MAX (最大伝搬遅延)

最大伝搬遅延

この回線行基準によって受け入れられる最大伝搬遅延を指定します。有効な値は最小遅延から最大遅延の順になっています。

- *MIN (最小伝搬遅延)
- *LAN (ローカル・エリア・ネットワークを使用した伝搬遅延)
- *TELEPHONE (電話回線を使用した伝搬遅延)
- *PKTSWTNET (パケット交換網を使用した伝搬遅延)
- *SATELLITE (衛星通信を使用した伝搬遅延)
- *MAX (最大伝搬遅延)

ユーザー定義のフィールド

ユーザー自身の回線接続基準を3つのユーザー定義のフィールドを使用して指定してください (各フィールドに最小および最大の範囲を指定して)。有効な値は0から255 です。

*SAME

このリスト内のいずれの要素にも有効であり、値が変わらないことを示します。

上

ノードの5行目 (ROW5NODE)

サービス・クラス記述の1から8行に使用されるノードに関する基準のリストを指定します。この行はAPPNネットワークのノードの属性を記述します。ネットワーク経路指定パスを定義するために、1から8行目の順序で行が検査されます。このリストは次の各要素ごとに値を表示します。

ノード重み係数

ノードに対するこの行の相対的重みを指定します。重みの範囲は0から255です。より好ましいノードに低位の重みを割り当てます。

経路追加負荷係数最小値

このノード行基準によって受け入れられる最小経路追加負荷係数を指定します。有効な値の範囲は0から255です。0は低負荷係数を意味し、255は高負荷係数を意味します。

経路追加負荷係数最大値

このノード行基準によって受け入れられる最大経路追加負荷係数を指定します。有効な値の範囲は0から255です。0は低負荷係数を意味し、255は高負荷係数を意味します。

負荷過剰最小値

このノード基準によって受け入れられる最小負荷過剰レベルを指定します。有効な値は*LOW (低負荷過剰レベル) または*HIGH (高負荷過剰レベル) です。

負荷過剰最大値

このノード基準によって受け入れられる最大負荷過剰レベルを指定します。有効な値は*LOW (低負荷過剰レベル) または*HIGH (高負荷過剰レベル) です。

*SAME

このリスト内のいずれの要素にも有効であり、値が変わらないことを示します。

上

回線の6行目 (ROW6LINE)

サービス・クラス記述の1から8行目に使用される回線に関する基準のリストを指定します。各行は、APPNネットワークにおける2つのノード間の回線接続の属性を記述します。ネットワーク経路指定パスを定義するために、1から8行目の順序で行が検査されます。このリストは次の各要素ごとに値を表示します。

行の重み係数

回線接続のためのこの行の相対的な重みを指定します。重みの範囲は0から255です。より好ましい回線接続に低位の重みを割り当てます。

最小リンク速度

この回線行基準によって受け入れられる回線接続のための最小リンク速度を指定します。有効な値は、*MIN, 1200, 2400, 4800, 7200, 9600, 14400, 19200, 48000, 56000, 64000, 112000, 128000, 168000, 192000, 224000, 256000, 280000, 320000, 336000, 384000, 448000, 499000, 576000, 614000, 691000, 768000, 845000, 922000, 998000, 1075000, 1152000, 1229000, 1382000, 1536000, 1690000, 1843000, 1997000, 4M, 10M, 16M,または*MAX BPSです。

最大リンク速度

この回線行基準によって受け入れられる回線接続のための最大リンク速度を指定します。有効な値は、*MIN, 1200, 2400, 4800, 7200, 9600, 14400, 19200, 48000, 56000, 64000, 112000, 128000, 168000, 192000, 224000, 256000, 280000, 320000, 336000, 384000, 448000, 499000, 576000, 614000, 691000, 768000, 845000, 922000, 998000, 1075000, 1152000, 1229000, 1382000, 1536000, 1690000, 1843000, 1997000, 4M, 10M, 16M,または*MAX BPSです。

最少コスト／接続時間

この回線行基準によって受け入れられる最少相対コスト／接続時間を指定します。有効なコストの範囲は0から255です。0は低コストを意味し、255は高コストを意味します。

最高コスト／接続時間

この回線行基準によって受け入れられる最高相対コスト／接続時間を指定します。有効なコストの範囲は0から255です。0は低コストを意味し、255は高コストを意味します。

最少コスト／バイト

この回線行基準によって受け入れられる最少相対コスト／バイトを指定します。有効なコストの範囲は0から255です。0は低コストを意味し、255は高コストを意味します。

最高コスト／バイト

この回線行基準によって受け入れられる最高相対コスト／バイトを指定します。有効なコストの範囲は0から255です。0は低コストを意味し、255は高コストを意味します。

最小機密保護

この回線行基準によって受け入れられる最小機密保護レベルを指定します。有効な値は最小保護から最大保護の順になっています。

- *NONSECURE (機密保護なし)
- *PKTSWTNET (パケット交換網)
- *UNDGRDCBL (地下ケーブル)
- *SECURECND (保護配管)
- *GUARDCND (防護配管)
- *ENCRYPTED (暗号化回線)
- *MAX (物理的および電磁波の傍受から保護された配管)

最大機密保護

この回線行基準によって受け入れられる最大機密保護レベルを指定します。有効な値は最小保護から最大保護の順になっています。

- *NONSECURE (機密保護なし)
- *PKTSWTNET (パケット交換網)
- *UNDGRDCBL (地下ケーブル)

- *SECURECND (保護配管)
- *GUARDCND (防護配管)
- *ENCRYPTED (暗号化回線)
- *MAX (物理的および電磁波の傍受から保護された配管)

最小伝搬遅延

この回線行基準によって受け入れられる最小伝搬遅延を指定します。有効な値は最小遅延から最大遅延の順になっています。

- *MIN (最小伝搬遅延)
- *LAN (ローカル・エリア・ネットワークを使用した伝搬遅延)
- *TELEPHONE (電話回線を使用した伝搬遅延)
- *PKTSWTNET (パケット交換網を使用した伝搬遅延)
- *SATELLITE (衛星通信を使用した伝搬遅延)
- *MAX (最大伝搬遅延)

最大伝搬遅延

この回線行基準によって受け入れられる最大伝搬遅延を指定します。有効な値は最小遅延から最大遅延の順になっています。

- *MIN (最小伝搬遅延)
- *LAN (ローカル・エリア・ネットワークを使用した伝搬遅延)
- *TELEPHONE (電話回線を使用した伝搬遅延)
- *PKTSWTNET (パケット交換網を使用した伝搬遅延)
- *SATELLITE (衛星通信を使用した伝搬遅延)
- *MAX (最大伝搬遅延)

ユーザー定義のフィールド

ユーザー自身の回線接続基準を3つのユーザー定義のフィールドを使用して指定してください (各フィールドに最小および最大の範囲を指定して)。有効な値は0から255 です。

*SAME

このリスト内のいずれの要素にも有効であり、値が変わらないことを示します。

上

ノードの6行目 (ROW6NODE)

サービス・クラス記述の1から8行に使用されるノードに関する基準のリストを指定します。この行はAPPNネットワークのノードの属性を記述します。ネットワーク経路指定パスを定義するために、1から8行目の順序で行が検査されます。このリストは次の各要素ごとに値を表示します。

ノード重み係数

ノードに対するこの行の相対的重みを指定します。重みの範囲は0から255です。より好ましいノードに低位の重みを割り当てます。

経路追加負荷係数最小値

このノード行基準によって受け入れられる最小経路追加負荷係数を指定します。有効な値の範囲は0から255です。0は低負荷係数を意味し、255は高負荷係数を意味します。

経路追加負荷係数最大値

このノード行基準によって受け入れられる最大経路追加負荷係数を指定します。有効な値の範囲は0から255です。0は低負荷係数を意味し、255は高負荷係数を意味します。

負荷過剰最小値

このノード基準によって受け入れられる最小負荷過剰レベルを指定します。有効な値は*LOW（低負荷過剰レベル）または*HIGH（高負荷過剰レベル）です。

負荷過剰最大値

このノード基準によって受け入れられる最大負荷過剰レベルを指定します。有効な値は*LOW（低負荷過剰レベル）または*HIGH（高負荷過剰レベル）です。

*SAME

このリスト内のいずれの要素にも有効であり、値が変わらないことを示します。

上

回線の7行目 (ROW7LINE)

サービス・クラス記述の1から8行目に使用される回線に関する基準のリストを指定します。各行は、APPN ネットワークにおける2つのノード間の回線接続の属性を記述します。ネットワーク経路指定パスを定義するために、1から8行目の順序で行が検査されます。このリストは次の各要素ごとに値を表示します。

行の重み係数

回線接続のためのこの行の相対的な重みを指定します。重みの範囲は0から255です。より好ましい回線接続に低位の重みを割り当てます。

最小リンク速度

この回線行基準によって受け入れられる回線接続のための最小リンク速度を指定します。有効な値は、*MIN, 1200, 2400, 4800, 7200, 9600, 14400, 19200, 48000, 56000, 64000, 112000, 128000, 168000, 192000, 224000, 256000, 280000, 320000, 336000, 384000, 448000, 499000, 576000, 614000, 691000, 768000, 845000, 922000, 998000, 1075000, 1152000, 1229000, 1382000, 1536000, 1690000, 1843000, 1997000, 4M, 10M, 16M, または*MAX BPSです。

最大リンク速度

この回線行基準によって受け入れられる回線接続のための最大リンク速度を指定します。有効な値は、*MIN, 1200, 2400, 4800, 7200, 9600, 14400, 19200, 48000, 56000, 64000, 112000, 128000, 168000, 192000, 224000, 256000, 280000, 320000, 336000, 384000, 448000, 499000, 576000, 614000, 691000, 768000, 845000, 922000, 998000, 1075000, 1152000, 1229000, 1382000, 1536000, 1690000, 1843000, 1997000, 4M, 10M, 16M, または*MAX BPSです。

最少コスト／接続時間

この回線行基準によって受け入れられる最少相対コスト／接続時間を指定します。有効なコストの範囲は0から255です。0は低コストを意味し、255は高コストを意味します。

最高コスト／接続時間

この回線行基準によって受け入れられる最高相対コスト／接続時間を指定します。有効なコストの範囲は0から255です。0は低コストを意味し、255は高コストを意味します。

最少コスト／バイト

この回線行基準によって受け入れられる最少相対コスト／バイトを指定します。有効なコストの範囲は0から255です。0は低コストを意味し、255は高コストを意味します。

最高コスト／バイト

この回線行基準によって受け入れられる最高相対コスト／バイトを指定します。有効なコストの範囲は0から255です。0は低コストを意味し、255は高コストを意味します。

最小機密保護

この回線行基準によって受け入れられる最小機密保護レベルを指定します。有効な値は最小保護から最大保護の順になっています。

- *NONSECURE (機密保護なし)
- *PKTSWTNET (パケット交換網)
- *UNDGRDCBL (地下ケーブル)
- *SECURECND (保護配管)
- *GUARDCND (防護配管)
- *ENCRYPTED (暗号化回線)
- *MAX (物理的および電磁波の傍受から保護された配管)

最大機密保護

この回線行基準によって受け入れられる最大機密保護レベルを指定します。有効な値は最小保護から最大保護の順になっています。

- *NONSECURE (機密保護なし)
- *PKTSWTNET (パケット交換網)
- *UNDGRDCBL (地下ケーブル)
- *SECURECND (保護配管)
- *GUARDCND (防護配管)
- *ENCRYPTED (暗号化回線)
- *MAX (物理的および電磁波の傍受から保護された配管)

最小伝搬遅延

この回線行基準によって受け入れられる最小伝搬遅延を指定します。有効な値は最小遅延から最大遅延の順になっています。

- *MIN (最小伝搬遅延)
- *LAN (ローカル・エリア・ネットワークを使用した伝搬遅延)
- *TELEPHONE (電話回線を使用した伝搬遅延)
- *PKTSWTNET (パケット交換網を使用した伝搬遅延)
- *SATELLITE (衛星通信を使用した伝搬遅延)
- *MAX (最大伝搬遅延)

最大伝搬遅延

この回線行基準によって受け入れられる最大伝搬遅延を指定します。有効な値は最小遅延から最大遅延の順になっています。

- *MIN (最小伝搬遅延)
- *LAN (ローカル・エリア・ネットワークを使用した伝搬遅延)
- *TELEPHONE (電話回線を使用した伝搬遅延)
- *PKTSWTNET (パケット交換網を使用した伝搬遅延)
- *SATELLITE (衛星通信を使用した伝搬遅延)
- *MAX (最大伝搬遅延)

ユーザー定義のフィールド

ユーザー自身の回線接続基準を3つのユーザー定義のフィールドを使用して指定してください（各フィールドに最小および最大の範囲を指定して）。有効な値は0から255 です。

*SAME

このリスト内のいずれの要素にも有効であり、値が変わらないことを示します。

上

ノードの7行目 (ROW7NODE)

サービス・クラス記述の1から8行に使用されるノードに関する基準のリストを指定します。この行はAPPNネットワークのノードの属性を記述します。ネットワーク経路指定パスを定義するために、1から8行目の順序で行が検査されます。このリストは次の各要素ごとに値を表示します。

ノード重み係数

ノードに対するこの行の相対的重みを指定します。重みの範囲は0から255です。より好ましいノードに低位の重みを割り当てます。

経路追加負荷係数最小値

このノード行基準によって受け入れられる最小経路追加負荷係数を指定します。有効な値の範囲は0から255です。0は低負荷係数を意味し、255は高負荷係数を意味します。

経路追加負荷係数最大値

このノード行基準によって受け入れられる最大経路追加負荷係数を指定します。有効な値の範囲は0から255です。0は低負荷係数を意味し、255は高負荷係数を意味します。

負荷過剰最小値

このノード基準によって受け入れられる最小負荷過剰レベルを指定します。有効な値は*LOW（低負荷過剰レベル）または*HIGH（高負荷過剰レベル）です。

負荷過剰最大値

このノード基準によって受け入れられる最大負荷過剰レベルを指定します。有効な値は*LOW（低負荷過剰レベル）または*HIGH（高負荷過剰レベル）です。

*SAME

このリスト内のいずれの要素にも有効であり、値が変わらないことを示します。

上

回線の8行目 (ROW8LINE)

サービス・クラス記述の1から8行目に使用される回線に関する基準のリストを指定します。各行は、APPNネットワークにおける2つのノード間の回線接続の属性を記述します。ネットワーク経路指定パスを定義するために、1から8行目の順序で行が検査されます。このリストは次の各要素ごとに値を表示します。

行の重み係数

回線接続のためのこの行の相対的な重みを指定します。重みの範囲は0から255です。より好ましい回線接続に低位の重みを割り当てます。

最小リンク速度

この回線行基準によって受け入れられる回線接続のための最小リンク速度を指定します。有効な値は、*MIN, 1200, 2400, 4800, 7200, 9600, 14400, 19200, 48000, 56000, 64000, 112000, 128000, 168000, 192000, 224000, 256000, 280000, 320000, 336000, 384000, 448000, 499000, 576000,

614000, 691000, 768000, 845000, 922000, 998000, 1075000, 1152000, 1229000, 1382000, 1536000, 1690000, 1843000, 1997000, 4M, 10M, 16M,または*MAX BPSです。

最大リンク速度

この回線行基準によって受け入れられる回線接続のための最大リンク速度を指定します。有効な値は、*MIN, 1200, 2400, 4800, 7200, 9600, 14400, 19200, 48000, 56000, 64000, 112000, 128000, 168000, 192000, 224000, 256000, 280000, 320000, 336000, 384000, 448000, 499000, 576000, 614000, 691000, 768000, 845000, 922000, 998000, 1075000, 1152000, 1229000, 1382000, 1536000, 1690000, 1843000, 1997000, 4M, 10M, 16M,または*MAX BPSです。

最少コスト／接続時間

この回線行基準によって受け入れられる最少相対コスト／接続時間を指定します。有効なコストの範囲は0から255です。0は低コストを意味し、255は高コストを意味します。

最高コスト／接続時間

この回線行基準によって受け入れられる最高相対コスト／接続時間を指定します。有効なコストの範囲は0から255です。0は低コストを意味し、255は高コストを意味します。

最少コスト／バイト

この回線行基準によって受け入れられる最少相対コスト／バイトを指定します。有効なコストの範囲は0から255です。0は低コストを意味し、255は高コストを意味します。

最高コスト／バイト

この回線行基準によって受け入れられる最高相対コスト／バイトを指定します。有効なコストの範囲は0から255です。0は低コストを意味し、255は高コストを意味します。

最小機密保護

この回線行基準によって受け入れられる最小機密保護レベルを指定します。有効な値は最小保護から最大保護の順になっています。

- *NONSECURE (機密保護なし)
- *PKTSWTNET (パケット交換網)
- *UNDGRDCBL (地下ケーブル)
- *SECURECND (保護配管)
- *GUARDCND (防護配管)
- *ENCRYPTED (暗号化回線)
- *MAX (物理的および電磁波の傍受から保護された配管)

最大機密保護

この回線行基準によって受け入れられる最大機密保護レベルを指定します。有効な値は最小保護から最大保護の順になっています。

- *NONSECURE (機密保護なし)
- *PKTSWTNET (パケット交換網)
- *UNDGRDCBL (地下ケーブル)
- *SECURECND (保護配管)
- *GUARDCND (防護配管)
- *ENCRYPTED (暗号化回線)
- *MAX (物理的および電磁波の傍受から保護された配管)

最小伝搬遅延

この回線行基準によって受け入れられる最小伝搬遅延を指定します。有効な値は最小遅延から最大遅延の順になっています。

- *MIN (最小伝搬遅延)
- *LAN (ローカル・エリア・ネットワークを使用した伝搬遅延)
- *TELEPHONE (電話回線を使用した伝搬遅延)
- *PKTSWTNET (パケット交換網を使用した伝搬遅延)
- *SATELLITE (衛星通信を使用した伝搬遅延)
- *MAX (最大伝搬遅延)

最大伝搬遅延

この回線行基準によって受け入れられる最大伝搬遅延を指定します。有効な値は最小遅延から最大遅延の順になっています。

- *MIN (最小伝搬遅延)
- *LAN (ローカル・エリア・ネットワークを使用した伝搬遅延)
- *TELEPHONE (電話回線を使用した伝搬遅延)
- *PKTSWTNET (パケット交換網を使用した伝搬遅延)
- *SATELLITE (衛星通信を使用した伝搬遅延)
- *MAX (最大伝搬遅延)

ユーザー定義のフィールド

ユーザー自身の回線接続基準を3つのユーザー定義のフィールドを使用して指定してください (各フィールドに最小および最大の範囲を指定して)。有効な値は0から255 です。

*SAME

このリスト内のいずれの要素にも有効であり、値が変わらないことを示します。

上

ノードの8行目 (ROW8NODE)

サービス・クラス記述の1から8行に使用されるノードに関する基準のリストを指定します。この行はAPPN ネットワークのノードの属性を記述します。ネットワーク経路指定パスを定義するために、1から8行目の順序で行が検査されます。このリストは次の各要素ごとに値を表示します。

ノード重み係数

ノードに対するこの行の相対的重みを指定します。重みの範囲は0から255です。より好ましいノードに低位の重みを割り当てます。

経路追加負荷係数最小値

このノード行基準によって受け入れられる最小経路追加負荷係数を指定します。有効な値の範囲は0から255です。0は低負荷係数を意味し、255は高負荷係数を意味します。

経路追加負荷係数最大値

このノード行基準によって受け入れられる最大経路追加負荷係数を指定します。有効な値の範囲は0から255です。0は低負荷係数を意味し、255は高負荷係数を意味します。

負荷過剰最小値

このノード基準によって受け入れられる最小負荷過剰レベルを指定します。有効な値は*LOW (低負荷過剰レベル) または*HIGH (高負荷過剰レベル) です。

負荷過剰最大値

このノード基準によって受け入れられる最大負荷過剰レベルを指定します。有効な値は*LOW（低負荷過剰レベル）または*HIGH（高負荷過剰レベル）です。

*SAME

このリスト内のいずれの要素にも有効であり、値が変わらないことを示します。

上

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

*BLANK

テキストは指定されません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

*SAME

値は変更されません。

上

例

```
CHGCOSD  COSD(COSD1)  ROW4LINE(80 *SAME *SAME 15)
```

このコマンドは、サービス・クラス記述COSD1で4行目の重量を80に、4行目の接続時間当たりの最小経費を15に変更します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF2621

サービス・クラス記述&1は変更されなかった。

上

CRQ記述の変更 (CHGCRQD)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

変更要求記述変更(CHGCRQD)コマンドは、変更要求記述を変更するために使用されます。変更要求記述には、指定した変更を完了するために実行される活動のリストが入っています。現行の値を提供するためにプロンプト一時変更が呼び出されます。

制約事項:

1. 変更要求記述オブジェクトに対する*CHANGE権限を持っていないとできません。
2. ユーザー・プロファイルを変更するためには、オブジェクトの所有者であるか、あるいは*ALLOBJおよび*SECADM権限を持っていないとできません。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
CRQD	要求記述の変更	修飾オブジェクト名	必須, キー, 定位置 1
	修飾子 1: 要求記述の変更	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
USRPRF	ユーザー・プロファイル	*SAME, *SBM, *OWNER	オプション
PRBID	問題識別コード	文字値, *SAME, *NONE	オプション
PRBORG	問題の起点	単一値: *SAME その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: ネットワーク識別コード	通信名, *NETATR	
	要素 2: 制御点名	通信名, *NETATR	
TEXT	テキスト記述	文字値, *SAME, *BLANK	オプション

上

要求記述の変更 (CRQD)

変更する変更要求記述の名前およびライブラリーを指定します。

変更要求記述の名前は、次のライブラリーの値の1つによって修飾することができます。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

考えられる値は次の通りです。

変更要求記述名

変更する変更要求記述の名前を指定してください。

これは必須パラメーターです。

上

ユーザー・プロフィール (USRPRF)

変更要求の投入時に使用するプロフィールを指定します。

考えられる値は次の通りです。

*SAME

値は変更されません。

***SBM** 変更要求の投入時に、投入元のユーザー・プロフィールが使用されます。

***OWNER**

変更要求の投入時に、変更要求記述を作成したユーザー・プロフィールが使用されます。

上

問題識別コード (PRBID)

この変更要求記述に対応する問題のIDを指定します。別の起点システムの問題は、同じIDを持つことができます。

考えられる値は次の通りです。

*SAME

値は変更されません。

***NONE**

この変更要求記述に対応する問題IDはありません。

問題ID

変更要求記述に対応する問題のIDを指定してください。

上

問題の起点 (PRBORG)

問題IDの起点システムを指定します。

使用できるネットワークIDの値は次の通りです。

*SAME

値は変更されません。

***NETATR**

ネットワークIDは、このシステムのネットワーク属性で定義されたものと同じです。

ネットワークID

ネットワークIDを指定してください。

使用できる制御点名の値は次の通りです。

***NETATR**

制御点名は、このシステムのネットワーク属性で定義されたローカル制御点名と同じです。

制御点名

制御点名を指定してください。

上

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトについて簡単に説明するテキストを指定します。このパラメーターの詳細はAS/400 CL（制御言語）解説書(SC88-5339)の付録Aにあります。

考えられる値は次の通りです。

***SAME**

値は変更されません。

***BLANK**

テキストは指定しません。

'記述' 最大50文字をアポストロフィで囲んで指定してください。

上

例

例1:ユーザー固有のライブラリーでのテキスト記述の変更

```
CHGCRQD CRQD(MYLIB/CHG001) TEXT('THIS IS THE CHANGE')
```

このコマンドは、名前CHG001を使用してMYLIBの要求記述のテキスト記述を変更します。

例2:関連した問題IDの変更

```
CHGCRQD CRQD(*LIBL/CHG002) PRBID(1234567890)
```

このコマンドは、CHG002という名前のライブラリー・リスト中の変更要求記述に対する関連した問題IDを変更します。

上

エラー・メッセージ

***ESCAPEメッセージ**

CPF969B

変更要求記述が変更されたが警告が存在する。

CPF969C

USRPRFの変更は認可されていない。

上

通信サイド情報の変更 (CHGCSI)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

通信サイド情報の変更(CHGCSI)コマンドを使用して、特定のライブラリーでサイド情報オブジェクトを変更します。

システムがどのようにRMTLOCNAME、DEV、LCLLOCNAME、およびRMTNETIDパラメーターを使用してAPPC装置記述を選択する方法の詳細については、AS/400 APPCプログラミング (SD88-5032)を参照してください。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
CSI	サイド情報	修飾オブジェクト名	必須, キー, 定位置 1
	修飾子 1: サイド情報	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
RMTLOCNAME	リモート・ロケーション	通信名, *SAME	オプション
TNSPGM	トランザクション・プログラム	文字値, *SAME	オプション
TEXT	テキスト'記述'	文字値, *SAME, *BLANK	オプション
DEV	装置	通信名, *SAME, *LOC	オプション
LCLLOCNAME	ローカル・ロケーション	通信名, *SAME, *LOC, *NETATR	オプション
MODE	モード	通信名, *SAME, *NETATR	オプション
RMTNETID	リモート・ネットワーク 識別コード	通信名, *SAME, *LOC, *NETATR, *NONE	オプション

上

サイド情報 (CSI)

変更するサイド情報オブジェクトの名前を指定します。オブジェクト名を指定しなければなりません。

これは必須パラメーターです。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

サイド情報オブジェクトを見つけるために、現行ライブラリーが使用されます。現行ライブラリーとしてライブラリーを指定しない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

サイド情報オブジェクトが入っているライブラリーの名前を指定してください。

サイド情報名

所要のサイド情報オブジェクトが含まれることになるオブジェクトの名前を指定してください。サイド情報オブジェクトは、会話初期設定(CMINIT)呼び出しの記号宛先名（システム宛先名）パラメーターによってアクセスされます。

上

リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)

ユーザー・プログラムが通信するリモート・ロケーションの名前を指定します。リモート・プログラムのリモート論理装置は、リモート・ネットワークIDとリモート・ロケーションから成る共通プログラミング・インターフェース(CPI)通信パートナーLU名によって決定されます。

考えられる値は次の通りです。

*SAME

リモート・ロケーション名は変更されません。

リモート・ロケーション名

記号宛先名と対応したリモート・ロケーションの名前を指定してください。

上

トランザクション・プログラム (TNSPGM)

開始するリモート・システム上のトランザクション・プログラムの名前を指定します。

考えられる値は次の通りです。

*SAME

トランザクション・プログラム名は変更されません。

トランザクション・プログラム名

最大64桁のトランザクション・プログラム名を指定してください。

注: 指定したトランザクション・プログラム名に文字セット00640にない文字が入っている場合には、トランザクション・プログラム名の16進表現が表示されます。たとえば、16進表現が21F0F0F1であるトランザクション・プログラム名はX'21F0F0F1' と表示されます。

文字セットの詳細については、CPIコミュニケーション・インターフェース解説書(SC88-7217)を参照してください。

上

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

考えられる値は次の通りです。

***SAME**

テキストは変更されません。

***BLANK**

テキストは指定されません。

'記述' 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

上

装置 (DEV)

リモート・システムに使用される装置記述の名前を指定します。

考えられる値は次の通りです。

***SAME**

この装置名は変更されません。

***LOC** 装置はシステムによって決定されます。

装置名 リモート・ロケーションと対応した装置の名前を指定してください。

上

ローカル・ロケーション (LCLLOCNAME)

ローカル・ロケーション名を指定します。

考えられる値は次の通りです。

***SAME**

ローカル・ロケーション名は変更されません。

***LOC** ロケーション名はシステムによって決定されます。

***NETATR**

システム・ネットワーク属性で指定されたLCLLOCNAME値が使用されます。

ローカル・ロケーション名

ユーザーのロケーションの名前を指定してください。リモート・ロケーションに対して特定のロケーション名を指示したい場合には、ローカル・ロケーションを指定してください。

上

モード (MODE)

セッションの制御に使用されるモードを指定します。この名前は共通プログラミング・インターフェース (CPI)の通信モード名と同じです。

考えられる値は次の通りです。

***SAME**

モード名は変更されません。

***NETATR**

ネットワーク属性のモードが使用されます。

BLANK

8つの空白文字が使用されます。

モード名

リモート・ロケーションのモード名を指定してください。

注: SNASVCMGおよびCPSVCMGは使用できません。

上

リモート・ネットワーク 識別コード (RMTNETID)

リモート・ロケーションで使用されるリモート・ネットワークIDを指定します。リモート・プログラムのリモート論理装置は、リモート・ネットワークIDとリモート・ロケーションから成る共通プログラミング・インターフェース(CPI)通信パートナーLU名によって決定されます。

考えられる値は次の通りです。

***SAME**

リモート・ネットワークIDは変更されません。

***LOC** リモート・ロケーションのリモート・ネットワークIDが使用されます。

***NETATR**

ネットワーク属性に指定されたりリモート・ネットワークIDが使用されます。

***NONE**

リモート・ネットワークは名前がありません。

リモート・ネットワークID

リモート・ネットワークIDを指定してください。

上

例

```
CHGCSI CSI(QGPL/SIDEOBJ) RMTNETID(*NETATR)
```

このコマンドは、ライブラリーQGPLにある通信サイド情報オブジェクト中でリモート・ネットワークIDを*NETATRに変更します。

上

エラー・メッセージ

***ESCAPEメッセージ**

CPF3B8B

ライブラリー&2の通信サイド情報オブジェクト&1は変更されなかった。

上

制御装置記述の変更(APPC) (CHGCTLAPPC)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

APPC制御装置記述の変更(CHGCTLAPPC)コマンドは、拡張プログラム間通信(APPC)制御装置の制御装置記述を変更します。

制御装置がLINKTYPE(*LOCAL)を指定して作成された場合には、次の制約事項が適用されます。

- 通信回線を指定することはできません。
- MAXFRAME, RMTNETID, RMTCPNAME, SSCPID, CPSSN, NODETYPE,およびTMSGRPNBRを指定してはいけません。
- SDLC, X.21短期保留モード, X.25,またはLAN構成に関連したパラメーターを指定してはいけません。

詳細は、AS/400通信構成 (SD88-5011)にあります。

制約事項: このコマンドを使用するには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
CTLD	制御装置記述	名前	必須, キー, 定位置 1
ONLINE	IPL時のオンライン	<u>*SAME</u> , *YES, *NO	オプション
ACTSNBU	交換網バックアップ活動化	<u>*SAME</u> , *YES, *NO	オプション
APPN	APPN可能	<u>*SAME</u> , *YES, *NO	オプション
RMTINTNETA	リモートIPアドレス	文字値, <u>*SAME</u>	オプション
LCLINTNETA	ローカルIPアドレス	文字値, *SYS, <u>*SAME</u>	オプション
LDLCTMR	LDLCタイマー	要素リスト	オプション
	要素 1: LDLC再試行カウント	0-255, <u>*SAME</u>	
	要素 2: LDLC再試行タイマー	0-65535, <u>*SAME</u>	
	要素 3: LDLC活性タイマー	0-65535, <u>*SAME</u>	
LDLCLNKSPD	LDLCリンク速度	1200-603979776000, <u>*SAME</u> , *CAMPUS, *WAN, 4M, 10M, 16M, 100M, *MIN, *MAX	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
LDLCTMSGRP	LDLC送信グループ	要素リスト	オプション
	要素 1: コスト/接続時間	0-255, <u>*SAME</u>	
	要素 2: コスト/バイト	0-255, <u>*SAME</u>	
	要素 3: 機密保護	<u>*SAME</u> , *NONSECURE, *PKTSWTNET, *UNDGRDCBL, *SECURECND, *GUARDCND, *ENCRYPTED, *MAX	
	要素 4: 伝搬遅延	<u>*SAME</u> , *LAN, *MIN, *TELEPHONE, *PKTSWTNET, *SATELLITE, *MAX	
SWTLINLST	交換回線リスト	単一値: <u>*SAME</u> その他の値 (最大 64 回の繰り返し): 名前	オプション
CODE	文字コード	<u>*SAME</u> , *EBCDIC, *ASCII	オプション
MAXFRAME	最大フレーム・サイズ	265-16393, 256, 265, 512, 521, 1024, 1033, 1994, 2048, 2057, 4060, 4096, 8156, 16393, <u>*SAME</u> , *LINKTYPE	オプション
RMTNETID	リモート・ネットワーク 識別コード	通信名, <u>*SAME</u> , *NETATR, *NONE, *ANY	オプション
RMTCPNAME	リモート制御点	通信名, <u>*SAME</u> , *NONE, *ANY	オプション
RMTSYSNAME	リモート・システム名	文字値, <u>*SAME</u>	オプション
SSCPID	SSCP識別コード	文字値, <u>*SAME</u> , *NONE	オプション
INLCNN	初期接続	<u>*SAME</u> , *ANS, *DIAL	オプション
DIALINIT	ダイヤル開始	<u>*SAME</u> , *LINKTYPE, *IMMED, *DELAY	オプション
CNNNBR	接続番号	文字値, <u>*SAME</u> , *DC, *ANY	オプション
ANSNBR	返答番号	<u>*SAME</u> , *CNNNBR, *ANY	オプション
CNNLSTOUT	発信接続リスト	名前, <u>*SAME</u>	オプション
CNNLSTOUTE	接続リスト項目	名前, <u>*SAME</u>	オプション
IDLCWDSIZ	IDLCウィンドウ・サイズ	1-31, <u>*SAME</u> , *LIND	オプション
IDLCFRMRTY	IDLCフレーム再試行	0-100, <u>*SAME</u> , *LIND	オプション
IDLCRSPTMR	IDLC応答タイマー	10-100, <u>*SAME</u> , *LIND	オプション
IDLCCNRTY	IDLC接続再試行	1-100, <u>*SAME</u> , *LIND, *NOMAX	オプション
PREDIALDLY	事前ダイヤル呼び出し遅延	0-254, <u>*SAME</u>	オプション
REDIALDLY	再ダイヤル呼び出し遅延	0-254, <u>*SAME</u>	オプション
DIALRTY	ダイヤル呼び出し再試行	0-254, <u>*SAME</u>	オプション
SWTDSC	交換回線切断	<u>*SAME</u> , *YES, *NO	オプション
DSCTMR	切断タイマー	単一値: <u>*SAME</u> その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 最小接続タイマー	0-65535	
	要素 2: 切断遅延タイマー	0-65535, <u>*SAME</u>	
SHMDSCLMT	SHM切断限界	1-254, <u>*SAME</u> , *NOMAX	オプション
SHMDSCTMR	SHM切断タイマー	2-3000, <u>*SAME</u>	オプション
STNADR	端末アドレス	00-FE, <u>*SAME</u>	オプション
POLLPTY	SDLCポーリング優先順位	<u>*SAME</u> , *YES, *NO	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
POLLMT	SDLCポーリング限界	0-4, <u>*SAME</u>	オプション
OUTLMT	SDLC出力限界	<u>*SAME</u> , *POLLMT, 0, 1, 2, 3, 4	オプション
CNNPOLLRTY	SDLC接続ポーリング再試行	0-65534, <u>*SAME</u> , *CALC, *NOMAX	オプション
NDMPOLLTMR	SDLC NDM ポーリング・タイマー	0-3000, <u>*SAME</u> , *CALC	オプション
ADPTADR	LAN リモート・アダプター・アドレス	000000000001-FFFFFFFFFFFF, <u>*SAME</u>	オプション
DSAP	LAN DSAP	<u>*SAME</u> , 04, 08, 0C, 10, 14, 18, 1C, 20, 24, 28, 2C, 30, 34, 38, 3C, 40, 44, 48, 4C, 50, 54, 58, 5C, 60, 64, 68, 6C, 70, 74, 78, 7C, 80, 84, 88, 8C, 90, 94, 98, 9C	オプション
SSAP	LAN SSAP	<u>*SAME</u> , 04, 08, 0C, 10, 14, 18, 1C, 20, 24, 28, 2C, 30, 34, 38, 3C, 40, 44, 48, 4C, 50, 54, 58, 5C, 60, 64, 68, 6C, 70, 74, 78, 7C, 80, 84, 88, 8C, 90, 94, 98, 9C	オプション
LANFRMRTY	LANフレーム再試行	0-254, <u>*SAME</u> , *CALC	オプション
LANCNRRTY	LAN接続再試行	0-254, <u>*SAME</u> , *CALC	オプション
LANRSPTMR	LAN応答タイマー	0-254, <u>*SAME</u> , *CALC	オプション
LANCNNTMR	LAN接続タイマー	0-254, <u>*SAME</u> , *CALC	オプション
LANACKTMR	LAN肯定応答タイマー	0-254, <u>*SAME</u> , *CALC	オプション
LANINACTMR	LAN非活動タイマー	0-255, <u>*SAME</u> , *CALC	オプション
LANACKFRQ	LAN肯定応答頻度	0-127, <u>*SAME</u> , *CALC	オプション
LANMAXOUT	LAN最大未処理フレーム数	1-127, <u>*SAME</u> , *CALC	オプション
LANACCPY	LANアクセス優先順位	0-3, <u>*SAME</u> , *CALC	オプション
LANWDWSTP	LANウィンドウ・ステップ	1-127, *NONE, <u>*SAME</u>	オプション
NETLVL	X.25ネットワーク・レベル	<u>*SAME</u> , 1980, 1984, 1988	オプション
LINKPCL	X.25 リンク・レベル・プロトコル	文字値, <u>*SAME</u> , *QLLC, *ELLC, *LLC2	オプション
CNNPWD	X.25接続パスワード	文字値, <u>*SAME</u> , *NONE	オプション
SWTLINSLCT	X.25交換回線選択	*FIRST, *CALC, <u>*SAME</u>	オプション
DFTPCKTSIZE	X.25省略時のパケット・サイズ	要素リスト	オプション
	要素 1: 送信値	<u>*SAME</u> , *LIND, 64, 128, 256, 512, 1024, 2048, 4096	
	要素 2: 受信値	<u>*SAME</u> , *LIND, *TRANSMIT, 64, 128, 256, 512, 1024, 2048, 4096	
DFTWDWSIZE	X.25省略時のウィンドウ・サイズ	要素リスト	オプション
	要素 1: 送信値	1-15, <u>*SAME</u> , *LIND	
	要素 2: 受信値	1-15, <u>*SAME</u> , *LIND, *TRANSMIT	
USRGRPID	X.25 ユーザー・グループ識別コード	文字値, <u>*SAME</u> , *NONE	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
RVSCRG	X.25着信課金	*SAME, *NONE, *REQUEST, *ACCEPT, *BOTH	オプション
X25FRMRTY	X.25フレーム再試行	0-21, *SAME	オプション
X25CNNRTY	X.25接続再試行	0-21, *SAME	オプション
X25RSPTMR	X.25応答タイマー	1-2550, *SAME	オプション
X25CNNTMR	X.25接続タイマー	1-2550, *SAME	オプション
X25DLTMR	X.25遅延接続タイマー	1-32767, *SAME, *CALC	オプション
X25ACKTMR	X.25肯定応答タイマー	0-2550, *SAME	オプション
X25INACTMR	X.25非活動タイマー	1-2550, *SAME	オプション
USRFCL	ユーザー機能	文字値, *SAME, *NONE	オプション
CPSSN	APPN CPセッション・サポート	*SAME, *YES, *NO	オプション
NODETYPE	リモートAPPNノードのタイプ	*SAME, *CALC, *NETNODE, *ENDNODE, *LENNODE	オプション
BEXROLE	分岐拡張の役割	*SAME, *NETNODE, *ENDNODE	オプション
HPR	APPN/HPR使用可能	*SAME, *YES, *NO	オプション
HPRPTHSWT	HPRパス・スイッチ	*SAME, *NO, *YES	オプション
TMSGRPNBR	APPN伝送グループ番号	1-20, *SAME, *CALC	オプション
MINSWTSTS	APPN最小交換状況	*SAME, *VRYONPND, *VRYON	オプション
AUTCRTDEV	装置の自動作成	*SAME, *ALL, *NONE	オプション
AUTODLTDEV	自動装置削除	1-10000, *NO, *SAME	オプション
USRDFN1	ユーザー定義1	0-255, *LIND, *SAME	オプション
USRDFN2	ユーザー定義2	0-255, *LIND, *SAME	オプション
USRDFN3	ユーザー定義3	0-255, *LIND, *SAME	オプション
CMNRCYLMT	回復限界	単一値: *SAME, *SYSVAL その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: カウント限界	0-99	
	要素 2: 時間間隔	0-120	
MSGQ	MSG 待ち行列	単一値: *SAME, *SYSVAL, *SYSOPR その他の値: 修飾オブジェクト 名	オプション
	修飾子 1: MSG 待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前	
MDLCTL	モデル制御装置記述	*SAME, *YES, *NO	オプション
CNNNETID	接続ネットワークID	通信名, *SAME, *NETATR, *NONE	オプション
CNNCPNAME	接続ネットワークCP	通信名, *SAME, *NONE	オプション
CTLOWN	制御所有者	*SAME, *USER	オプション
TEXT	テキスト記述	文字値, *SAME, *BLANK	オプション

上

制御装置記述 (CTLD)

これは必須パラメーターです。

制御装置記述の名前を指定します。

上

IPL時のオンライン (ONLINE)

初期プログラム・ロード(IPL)時にこのオブジェクトを自動的にオンに構成変更するかどうかを指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*YES

制御装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されます。

*NO

制御装置は、IPL時に自動的に構成変更されることはありません。

上

交換網バックアップ活動化 (ACTSNBU)

交換網バックアップ(SNBU)機構をサポートし、IBM 386X, 586X,または786X型式でないモデムの場合に、SNBU機構を活動化するかまたは非活動化するかどうかを指定します。ローカル・モデムとリモート・モデムの両方とも、それを活動化するSNBUをサポートしていなければなりません。IBM 386X, 586X,または786X型式は、ハードウェア・スイッチでだけ活動化されます。この機構により、交換接続を確立することによって切断された非交換接続（非交換回線）をバイパスすることができます。

*SAME

この値は変更されません。

*NO

SNBU機能は使用されません。

*YES

SNBU機能が活動化されます。回線について交換網バックアップ活動化(ACTSNBU)パラメーターに*YES値も指定しなければなりません。

APPN可能 (APPN)

ローカル・システムがこの制御装置と通信する時に拡張対等通信ネットワーキング(APPN)機能を使用するかどうかを指定します。 TDLC回線に接続されたAPPC制御装置の場合には*YESを指定しなければなりません。

*SAME

この値は変更されません。

*YES

この制御装置はAPPN用です。

*NO

この制御装置はAPPN用ではありません。

リモートIPアドレス (RMTINTNETA)

制御装置が応答するTCP/IPホスト名またはIPアドレスを指定します。

注: このパラメーターが有効なのは、リンク・タイプ (LINKTYPE)パラメーターに*HPRIPが指定されている場合だけです。

*SAME

この値は変更されません。

ホスト名

これは、IPアドレスに関連した有効なホスト名またはドメイン修飾ホスト名です。名前は1から255文字の範囲の長さでなければなりません。

ホストIPアドレス

IPアドレスは、IPv4、IPv6、またはIPv6にマップされたIPv4形式で指定できます。

IPv4 IPアドレスは、*nnn.nnn.nnn.nnn*の形式で指定します。ここで、*nnn*は0から255までの範囲の10進数です。ドット付き10進数のIPアドレスの各パートの先行ゼロは無効となり、除去されます。

IPv4 IPアドレスは、そのアドレスのネットワークID (ID)部分またはホストID部分がすべて2進数の1にまたは0になっている場合には正しくありません。

IPv6 IPアドレスは、`x:x:x:x:x:x:x`の形式で指定します。ここで、`x`は0からX'FFFF'までの範囲の16進数です。IPv6アドレス中で"`::`"を1回使用して、すべてゼロの16個のビットからなる1つ以上のグループを示すことができます。「`::`」は、アドレスの先行、埋め込み、または後続ゼロを圧縮する場合に使用できます。

IPv4マップのIPv6アドレスは、`::FFFF:nnn.nnn.nnn.nnn`の形式で指定します。ここで、`nnn`は0から255までの範囲の10進数です。

コマンド入力行からIPアドレスを入力する場合には、そのアドレスをアポストロフィで囲まなければなりません。

上

ローカルIPアドレス (LCLINTNETA)

リモート・システムとの通信に使用されるTCP/IPインターフェースを示します。

注: このパラメーターが有効なのは、リンク・タイプ (LINKTYPE)パラメーターに*HPRIPが指定されている場合だけです。

*SAME

この値は変更されません。

*SYS

システムは、使用するローカルIPアドレスを選択します。

IPアドレス

IPアドレスは、IPv4、IPv6、またはIPv6にマップされたIPv4形式で指定できます。

IPv4 IPアドレスは、`nnn.nnn.nnn.nnn`の形式で指定します。ここで、`nnn`は0から255までの範囲の10進数です。ドット付き10進数のIPアドレスの各パートの先行ゼロは無効となり、除去されます。

IPv4 IPアドレスは、そのアドレスのネットワークID (ID)部分またはホストID部分がすべて2進数の1にまたは0になっている場合には正しくありません。

IPv6 IPアドレスは、`x:x:x:x:x:x:x`の形式で指定します。ここで、`x`は0からX'FFFF'までの範囲の16進数です。IPv6アドレス中で"`::`"を1回使用して、すべてゼロの16個のビットからなる1つ以上のグループを示すことができます。「`::`」は、アドレスの先行、埋め込み、または後続ゼロを圧縮する場合に使用できます。

IPv4マップのIPv6アドレスは、`::FFFF:nnn.nnn.nnn.nnn`の形式で指定します。ここで、`nnn`は0から255までの範囲の10進数です。

コマンド入力行からIPアドレスを入力する場合には、そのアドレスをアポストロフィで囲まなければなりません。

別名

別名は、ADDTCPIFCおよびCHGTCPIFCコマンドの別名(ALIASNAME)パラメーターで指定したものと同じ値です。

LDLCタイマー (LDLCTMR)

LDLC（論理データリンク制御）タイマーおよび再試行回数を指定します。LDLC再試行回数およびLDLC再試行タイマーは、結合で使用されます。コマンドまたは要求が最初にリンクを通して伝送された時に、LDLC再試行回数およびLDLC再試行タイマーは初期化されます。応答を受信する前にLDLC再試行タイマーが満了した場合には、コマンドまたは要求が再伝送され、LDLC再試行回数が減らされ、LDLC再試行タイマーが再開します。LDLC再試行回数がゼロの時点でタイマーが満了した場合には、リンクは操作不可能とみなされます。LDLC活性タイマーは、RTP（高速トランスポート・プロトコル）接続のその他のエンドポイントとそのエンドポイント間のパスの両方が非活動期間後にもまだ操作可能であることを確認するのに使用されます。

詳細については、HIGH PERFORMANCE ROUTING ARCHITECTURE REFERENCE (SV40-1018)を参照してください。

[HTTP://PUBLIBZ.BOULDER.IBM.COM/CGI-BIN/BOOKMGR_OS390/BOOKS/D50H6003/CCONTENTS](http://PUBLIBZ.BOULDER.IBM.COM/CGI-BIN/BOOKMGR_OS390/BOOKS/D50H6003/CCONTENTS)

注: このパラメーターが有効なのは、リンク・タイプ (LINKTYPE)パラメーターに*HPRIPが指定されている場合だけです。

要素1: LDLC再試行カウント

*SAME

この値は変更されません。

再試行回数

LDLC再試行カウンターを指定します。有効な値の範囲は0から255です。

要素2: LDLC再試行タイマー

*SAME

この値は変更されません。

再試行タイマー

LDLC再試行タイマー間隔を指定します。有効な値の範囲は0から65535秒です。

要素3: LDLC活性タイマー

*SAME

この値は変更されません。

活性タイマー

LDLC活性タイマーを指定します。有効な値の範囲は0から65535秒です。

LDLCリンク速度 (LDLCLNKSPD)

LDLC（論理データリンク制御）リンク速度をビット／秒で指定します。

詳細については、HIGH PERFORMANCE ROUTING ARCHITECTURE REFERENCE (SV40-1018)を参照してください。

[HTTP://PUBLIBZ.BOULDER.IBM.COM/CGI-BIN/BOOKMGR_OS390/BOOKS/D50H6003/CCONTENTS](http://PUBLIBZ.BOULDER.IBM.COM/CGI-BIN/BOOKMGR_OS390/BOOKS/D50H6003/CCONTENTS)

注: このパラメーターが有効なのは、リンク・タイプ (LINKTYPE)パラメーターに*HPRIPが指定されている場合だけです。

***SAME**

この値は変更されません。

***CAMPUS**

使用されるキャンパス環境の省略時APPNリンク特性のセットを指定します。

***WAN**

使用される広域ネットワーク環境の省略時APPNリンク特性のセットを指定します。

4M

リンク速度は秒当たり400万ビットです。

10M

リンク速度は秒当たり1000万ビットです。

16M

リンク速度は秒当たり1600万ビットです。

100M

リンク速度は秒当たり1億ビットです。

***MIN**

秒当たり1200ビットより小さいリンク速度が使用されます。

***MAX**

秒当たり100メガ・ビットより速いリンク速度が使用されます。

LDLCリンク速度

LDLCリンク速度を指定します。秒当たり1200から603979776000ビットの値を指定してください。

LDLC送信グループ (LDLCTMSGRP)

コスト/接続時間, コスト/バイト, 機密保護, および伝搬遅延のLDLC (論理データリンク制御) 伝送グループ特性を指定します。

詳細については, HIGH PERFORMANCE ROUTING ARCHITECTURE REFERENCE (SV40-1018)を参照してください。

[HTTP://PUBLIBZ.BOULDER.IBM.COM/CGI-BIN/BOOKMGR_OS390/BOOKS/D50H6003/CCONTENTS](http://PUBLIBZ.BOULDER.IBM.COM/CGI-BIN/BOOKMGR_OS390/BOOKS/D50H6003/CCONTENTS)

注: このパラメーターが有効なのは, リンク・タイプ (LINKTYPE)パラメーターに*HPRIPが指定されている場合だけです。

要素1: コスト/接続時間

接続時間当たりのコストは, リンクを通して接続されている相対コストを指定します。

*SAME

この値は変更されません。

接続時間当たりのコスト

接続時間当たりのコストを指定してください。有効な値の範囲は0から255です。

要素2: コスト/バイト

バイト当たりのコストは, リンクを通してデータを送信および受信する相対コストを指定します。

*SAME

この値は変更されません。

バイト当たりのコスト

バイト当たりのコストを指定してください。有効な値の範囲は0から255です。

要素3: 機密保護

機密保護は, リンクを通じた機密保護を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*NONSECURE

リンクを通じた機密保護はありません。

*PKTSWTNET

これはパケット交換ネットワークなので, ネットワークを通じてデータが必ずしも同じパスを使用しないという点で機密保護機能があります。

*UNDGRDCBL

これは, 地下ケーブルの機密保護機能のある配管です。

*SECURECND

これは機密保護機能のある配管ですが, 保護されていません。

***GUARDCND**

リンクは保護された配管で、物理的な傍受から保護されています。

***ENCRYPTED**

データ・フローは、暗号化されます。

***MAX** これは保護された配管で、直接接続および間接接続による盗聴配線から保護されています。

要素4: 伝搬遅延

伝搬遅延は、信号がリンクの一端からもう一端へと移動するのに必要な時間を指定します。

***SAME**

この値は変更されません。

***LAN** ローカル・エリア・ネットワーク遅延を指定します(0.48ミリ秒未満)。

***MIN** 最小遅延を指定します。

***TELEPHONE**

.48ミリ秒から49.152ミリ秒の遅延を持つテレホン・ネットワークを指定します。

***PKTSWTNET**

49.152ミリ秒から245.76ミリ秒の遅延を持つパケット交換ネットワークを指定します。

***SATELLITE**

サテライト遅延を指定します(245.76ミリ秒を超える)。

***MAX** 最大遅延を指定します。

上

交換回線リスト (SWTLINLST)

この制御装置が接続している交換回線の名前を指定します。回線記述はすでに存在していなければなりません。最高64の交換回線名を指定することができます。

***SAME**

この値は変更されません。

交換回線名

この制御装置に接続される最大64の回線の名前を指定してください。同じ回線名を複数回使用することができます。指定された各回線名にはその名前が回線記述が前もって存在していなければなりません。

上

文字コード (CODE)

回線で拡張2進化10進コード(*EBCDIC)または情報交換用米国標準コード(*ASCII)文字コードを使用するかどうかを指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*EBCDIC

拡張2進化10進コード(EBCDIC)文字コードが使用されます。

*ASCII

ASCII文字コードが使用されます。

上

最大フレーム・サイズ (MAXFRAME)

制御装置が送受信できる最大フレーム (パス情報単位(PIU))サイズを指定します。この値は、要求単位 (RU)サイズを計算するために使用されます。制御装置が送信または受信できる最大PIUサイズはIDの交換時に折衝されるので、実行時に使用される最大PIUサイズは異なるものになることがあります。この値はホスト・システム側の対応する値と一致します。

*SAME

この値は変更されません。

*LINKTYPE

各種タイプでは次の値が使用されます。

- *LAN - 16393
- *SDLC - 521
- *TDLC - 4105
- *IDLC - 2048
- *X25 - 1024
- *FR - 1590
- *HPRIP - 1461

最大フレーム・サイズ

制御装置のフレーム・サイズを指定してください。使用できるフレーム・サイズは、使用中の回線のタイプによります。各回線タイプで有効なフレーム・サイズは次のとおりです。

- *FRの場合、265から8182の値を指定してください。
- *IDLCの場合、265から8196の範囲の値を指定してください。

- *LANの場合、265から16393 (DDI LAN では265から4444)の範囲の値を指定してください。
- *SDLCの場合、265, 521, 1033, または2057を指定してください。
- *X25の場合、256, 265, 512, 521, 1024, 1033, 2048, または4096を指定してください。

注: *LINKTYPEにリストされた数値が有効なのは、制御装置の作成時にTYPE(*BLANK)が指定されている場合だけです。

上

リモート・ネットワーク 識別コード (RMTNETID)

隣接した制御点があるリモート・ネットワークの名前を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*NETATR

システム・ネットワーク属性に指定されたLCLNETID値が使用されます。

*NONE

リモート・ネットワークID (ID)は使用されません。

*ANY

どのX.25ネットワーク・アドレスからの呼び出しでも受け入れられます。

リモート・ネットワークID

リモート・ネットワークIDを指定してください。

上

リモート制御点 (RMTCPNAME)

リモート・システムの制御点名を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*NONE

リモート制御点名が使用されないことを指定します。

*ANY

システムが使用されるリモート制御点の名前を決定します。

リモート制御点名

リモート制御点名を指定してください。

上

リモート・システム名 (RMTSYSNAME)

OPTICONNECTバス接続があるリモート・システムの名前を指定します。リモート・システムの現行システム名は、そのシステムに対してDSPNETAを使用して判別することができます。

注: このパラメーターが有効なのは、LINKTYPE(*OPC)が指定されている場合だけです

*SAME

この値は変更されません。

上

SSCP識別コード (SSCPID)

ホスト・システムのシステム・サービス制御点IDを指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*NONE

システム・サービス制御点IDは指定されません。

システム・サービス制御点ID

システム・サービス制御点IDを12桁の16進値として指定してください。

上

初期接続 (INLCNN)

この制御装置との接続を確立するために使用する方式を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*DIAL

システムは発信呼び出しを開始し、着信呼び出しに応答します。

***ANS**

接続は、この制御装置からの着信呼び出しにIBM System i5が応答した時に、そのISERIESシステムによって確立されます。リモート制御装置から呼び出しが受信され、必要なすべての条件が満たされると、システムは着信呼び出しに応答します。

X.25接続の場合には、制御装置が接続された回線でタイプOUTまたはBOTHのLGLCHLEパラメータでスイッチド・バーチャル・サーキット(SVC)が構成されていない限り(*SVCOUTまたは*SVCBOTH),接続は成功しません。

回線は、X.25回線記述変更(CHGLINX25)コマンドを使用して変更することができます。

上

ダイヤル開始 (DIALINIT)

システムとリモート制御装置の間の交換回線で最初にダイヤルを行うために使用される方式を指定します。

***SAME**

この値は変更されません。

***LINKTYPE**

開始する接続のタイプはLINKTYPEパラメーターに指定します。LANまたはSDLC ダイヤル短期保留モード接続の場合には、省略時の値で制御装置記述がオンに構成変更されると、ただちに接続のダイヤル呼び出しが行われます。他のすべてのリンク・タイプの場合、省略時の値ではダイヤル呼び出しが遅延されます。

***IMMED**

制御装置記述がオンに構成変更されると、ただちにダイヤル接続が開始されます。

***DELAY**

ダイヤル接続は、リモート制御装置資源の使用を要求するジョブが開始されるまで遅延されます。

上

接続番号 (C>NNNBR)

この制御装置と接続するためには、ダイヤル呼び出しする電話番号を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*DC

X.21交換接続ネットワークで直接呼び出しが使用されています。

*ANY システムはどのネットワーク・アドレスからの呼び出しでも受け入れます。

接続番号

接続番号を指定してください。

上

返答番号 (ANSNBR)

そこからの呼び出しが受け入れられるX.25ネットワーク・アドレスを指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*C>NNNBR

C>NNNBRパラメーターに指定されたX.25ネットワーク・アドレスからの呼び出しが受け入れられません。

*ANY

どのX.25ネットワーク・アドレスからの呼び出しでも受け入れられます。

上

注: このパラメーターはもはやサポートされていません。これが存在するのは、オペレーティング・システムのバージョン5リリース3 モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を保つためだけです。

発信接続リスト (CNLSTOUT)

ISDN交換接続の場合には、ISDNへのダイヤル呼び出し操作のISDN割り当て番号が入っている接続リスト・オブジェクトの名前を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

リスト・オブジェクト

接続リスト・オブジェクトの名前を指定してください。

上

注: このパラメーターはもはやサポートされていません。これが存在するのは、オペレーティング・システムのバージョン5リリース3 モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を保つためだけです。

接続リスト項目 (CNLSTOUTE)

ISDN交換接続の場合には、ISDNへの呼び出しを行うために使用する接続リストからの項目名を指定します。この接続リストは、発信接続リスト(CNLSOUT)パラメーターで識別されていなければなりません。

*SAME

この値は変更されません。

項目名

項目名を指定してください。

上

注: このパラメーターはもはやサポートされていません。これが存在するのは、オペレーティング・システムのバージョン5リリース3 モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を保つためだけです。

IDLCウィンドウ・サイズ (IDLCWDWSIZ)

IDLC回線に接続された制御装置と送受するためのウィンドウ・サイズを指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*LIND

回線記述に指定された値が省略時のウィンドウ・サイズとして使用されます。

ウィンドウ・サイズ

ウィンドウ・サイズを指定してください。有効な値の範囲は1から31です。

上

注: このパラメーターはもはやサポートされていません。これが存在するのは、オペレーティング・システムのバージョン5リリース3 モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を保つためだけです。

IDLCフレーム再試行 (IDLCFRMRTY)

エラーを報告する前にフレームの送信を試みる最大試行回数を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*LIND

回線記述に指定された試行回数が使用されます。

IDLCフレーム再試行

試行回数を指定してください。有効な値の範囲は0から100です。

上

注: このパラメーターはもはやサポートされていません。これが存在するのは、オペレーティング・システムのバージョン5リリース3 モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を保つためだけです。

IDLC応答タイマー (IDLCRSPTMR)

肯定応答が受信されない場合にフレームの再送信までの待機時間を1/10秒単位で指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*LIND

回線記述に指定された時間が使用されます。

IDLC応答タイマー

時間の長さを指定してください。有効な値の範囲は10分の1秒単位で10から100です。例えば、1秒の10分の100秒は10秒と等しくなります。

上

注: このパラメーターはもはやサポートされていません。これが存在するのは、オペレーティング・システムのバージョン5リリース3 モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を保つためだけです。

IDLCC接続再試行 (IDLCCNNRTY)

接続時に再送信を試みる回数を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*LIND

回線記述に指定された試行回数が使用されます。

*NOMAX

正常な送信が行われるまで続行することを指示します。

接続再試行

試行回数を指定してください。有効な値の範囲は1から100です。

上

事前ダイヤル呼び出し遅延 (PRELDLY)

番号をダイヤル呼び出しする前に待機する時間間隔(0.5秒間隔で)を指定します。

注: このパラメーターは、SWITCHEDかSNBUのいずれかのパラメーターに*YESを指定し、LINKTYPE(*SDLC)とSHM(*NO)の両方を指定した場合にのみ指定することができます。

*SAME

この値は変更されません。

ダイヤル前遅延

0から254の範囲の単位数値を指定してください。各単位は0.5秒を表します。遅延なしを指示するには、値0を指定してください。

上

再ダイヤル呼び出し遅延 (REDLDLY)

呼び出しの試みが正常に行われなかった時に、ダイヤル再呼び出しする前に待機する時間間隔(0.5秒間隔で)を指定します。

注: このパラメーターは、SWITCHEDかSNBUのいずれかのパラメーターに*YESを指定し、LINKTYPE(*SDLC)とSHM(*NO)の両方を指定した場合にのみ指定することができます。

*SAME

この値は変更されません。

再ダイヤル遅延

0から254の範囲の単位数値を指定してください。各単位は0.5秒を表します。遅延なしを指示するには、値0を指定してください。

上

ダイヤル呼び出し再試行 (DIALRTY)

ダイヤル呼び出しが失敗したと見なされる前に、システムによって行われる再ダイヤルの試行回数を指定します。

注: このパラメーターは、SWITCHEDかSNBUのいずれかのパラメーターに*YESを指定し、LINKTYPE(*SDLC)とSHM(*NO)の両方を指定した場合にのみ指定することができます。

*SAME

この値は変更されません。

ダイヤル呼び出し再試行

ダイヤル呼び出しが試みられる回数として0.5秒間隔の単位で0から254の範囲の値を指定してください。

上

交換回線切断 (SWTDSC)

最後の装置がオフに構成変更された時に、この制御装置に対する交換接続を除去するかどうかを指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*NO

最後の装置がオフに構成変更されても、交換接続が切断されません。

*YES

最後の装置がオフに構成変更されると、交換接続がオフに構成変更されます。

上

切断タイマー (DSCTMR)

活動のない接続が除去されるまでの時間（秒数），または自動切断を遅延させる時間量を制御するオプションを指定します。回線を除去したくない場合には，SWTDSCパラメーターに*NOを指定してください。

要素1:最小接続タイマー

*SAME

この値は変更されません。

切断タイマー

切断前の待機時間を指定してください。有効な値の範囲は0から65535秒です。

要素2:切断遅延タイマー

*SAME

この値は変更されません。

切断遅延タイマー

制御装置で最後のセッションが停止された後で，リンク解放を遅延する値を指定してください。有効な値の範囲は0から65535秒です。

上

SHM切断限界 (SHMDSCLMT)

このX.21短期保留モード接続に対して接続を保留できるようになる前に，リモート端末から要求される連続的な非生産的応答の数を指定します。このパラメーターは，短期保留モード(SHM)パラメーターに*YES，データ・リンクの役割(ROLE)パラメーターに*NEGまたは*SECを指定した場合にだけ使用します。

*SAME

この値は変更されません。

*NOMAX

切断限界はありません。

SHM切断限界

接続を中断できるようになるために，その前に受信されなければならない連続した非生産的応答の数を示す1から254の範囲の値を指定してください。

上

SHM切断タイマー (SHMDSCTMR)

このX.21短期保留モード制御装置の場合に、1次システムがリモート・システムとの接続を維持する最短時間を1/10秒単位で指定します。このパラメーターが有効なのは、短期保留モード(SHM)パラメーターに*YES、データ・リンクの役割(ROLE)パラメーターに*NEGまたは*SECを指定した場合だけです。

*SAME

この値は変更されません。

SHM切断タイマー

0.1秒間隔の単位で2から3000の範囲の値を指定してください。

上

端末アドレス (STNADR)

制御装置と通信する時に使用される端末アドレスを指定します。

有効な値の範囲は00からFEです。

注: 00は、リンク・タイプ (LINKTYPE)パラメーターに対して*TDLCが指定されている時のAPPC制御装置の場合にだけ指定することができます。

注: ROLEパラメーターに*SECを指定した場合には、これはリモート制御装置の端末アドレスです。ROLEパラメーターに*PRIまたは*NEGを指定した場合には、これはローカル端末アドレスです。

*SAME

この値は変更されません。

上

SDLCポーリング優先順位 (POLLPTY)

この制御装置がポーリング時に優先権をもつかどうかを指定します。このパラメーターを指定できるのは、SHMが*NOの場合だけです。

*SAME

この値は変更されません。

*NO

この制御装置にはポーリング優先順位はありません。

*YES

この制御装置はポーリング優先順位をもちます。

上

SDLCポーリング限界 (POLLLMT)

SDLC 2次制御装置または折衝可能制御装置の場合には、ポーリングでフレームが受信されたときに、同じ制御装置に対して連続してポーリングを行う回数を指定します。このパラメーターを指定できるのは、SHMが*NOの場合だけです。

*SAME

この値は変更されません。

0

ポーリングの省略時の回数はゼロです。

ポーリング限界

ポーリング回数を指定してください。有効な値の範囲は0から4です。

上

SDLC出力限界 (OUTLMT)

別の端末への送信を認める前に、SDLCで端末へ最大フレーム数を送信できる連続回数を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*POLLLMT

値は、SDLCポーリング限界(POLLLMT)パラメーターに指定されたものと同じです。

アウト限界

0から4の範囲の値を指定してください。

上

SDLC接続ポーリング再試行 (CNNPOLLRTY)

エラーを報告する前に、制御装置との接続をやり直す回数を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*CALC

再試行回数は、制御装置が交換の場合には7で、制御装置が非交換の場合には*NOMAXです。

*NOMAX

システムは、無制限に再試行します。

ポーリング接続再試行

再試行回数として0から65534の範囲の値を指定してください。

上

SDLC NDM ポーリング・タイマー (NDMPOLLTMR)

1次端末から2次端末へのポーリング（通常切断モード(NDM)）によって適切な応答が受信されない場合に、2次端末がポーリングされる最小間隔を指定します。

このパラメーターは、リンク・タイプが*SDLCで、制御装置の役割が2次または折衝可能で、SHMパラメーターに*NOが指定されている場合のみ有効です。

*SAME

この値は変更されません。

*CALC

ポーリング間隔は、システムによって計算されます。

NDMポーリング・タイマー

1から3000の範囲の単位数値を指定してください。各単位は0.1秒を表します。タイマーなしを指示するには、0を指定してください。

上

LAN リモート・アダプター・アドレス (ADPTADR)

リモート制御装置の12文字のアダプター・アドレスを指定します。これは、システムがリモート制御装置と通信する時にシステムがデータを送信するアドレスです。この値は、リモート制御装置の構成レコードから獲得することができます。有効な値の範囲は、16進数000000000001から16進数FFFFFFFFFFFFまでです。

*SAME

この値は変更されません。

アダプター・アドレス

リモート制御装置のアダプター・アドレスを指定してください。

上

LAN DSAP (DSAP)

宛先サービス・アクセス・ポイント(DSAP)を指定します。これは、このシステムがリモート制御装置と通信する時に送る論理アドレスです。このアドレスによって、制御装置はこのシステムからのデータを適切に経路指定することができます。宛先サービス・アクセス・ポイントの省略時の値は04です。

値は、リモート制御装置の構成レコードのソース・サービス・アクセス・ポイント(SSAP) パラメーターに指定された値と一致しなければなりません。

注: *OPC制御装置は、このフィールドに上記の値を使用します。RMTSYSNAMEとDSAP の組み合わせで固有の制御装置が定義されます。これにより、2つのシステム間で複数の制御装置が存在できるようになります。

*SAME

この値は変更されません。

宛先サービス・アクセス・ポイント

宛先サービス・アクセス・ポイントを表す04から9Cの範囲の16進値を4の増分（例えば04, 08, 0C, 10)で指定してください。

上

LAN SSAP (SSAP)

ソース・サービス・アクセス・ポイント(SSAP)を指定します。これは、ローカル・システムがデータをリモート制御装置に送信する時に使用する論理アドレスです。このアドレスによって、制御装置はローカル・システムからのデータを適切に経路指定することができます。ソース・サービス・アクセス・ポイント(SSAP)の省略時の値は04です。

これは、リモート制御装置の構成レコード中で宛先サービス・アクセス・ポイント(DSAP)に割り当てられている値と一致しなければなりません。

***SAME**

この値は変更されません。

ソース・サービス・アクセス・ポイント

ソース・サービス・アクセス・ポイントを表す04から9Cの範囲の16進値を4の増分（例えば04, 08, 0C, 10）で指定してください。

上

LANフレーム再試行 (LANFRMRTY)

LANRSPTMRパラメーターで指定された時間枠内にリモート制御装置からの肯定応答がなかったときに、送信が再試行される回数を指定します。この値が使用されるのは、接続が正常に行われた後だけです。

***SAME**

この値は変更されません。

***CALC**

システムがタイマー値を決定します。

LANフレーム再試行

肯定応答が受信されるまでフレームが送信される回数として0から254の範囲の値を指定してください。

上

LAN接続再試行 (LANCNRRTY)

肯定応答が受信されるまで、送信が試みられる回数を指定します。この値は接続時に使用されます（接続が確立された後で使用されるLANFRMRTYとは異なります）。

***SAME**

この値は変更されません。

***CALC**

システムがタイマー値を決定します。

LAN接続再試行

肯定応答が受信される前に試みられる伝送回数として0から254の範囲の値を指定してください。

上

LAN応答タイマー (LANRSPTMR)

接続時にリンクの作動不可条件を判別するために使用する時間を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*CALC

システムがタイマー値を決定します。

LAN応答タイマー

1から254の単位数値を指定してください。各単位は0.1秒を表します。タイマーなしを指示するには、0を指定してください。

上

LAN接続タイマー (LANCNTMR)

接続時にリンクの作動不可条件を判別するために使用する時間を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*CALC

システムがタイマー値を決定します。

LAN接続タイマー

非操作状態が起こるまでシステムが待機する時間の長さとして0.1秒間隔の単位で1から254の範囲の値を指定してください。タイマーなしを指示するには、0を指定してください。

上

LAN肯定応答タイマー (LANACKTMR)

受信したフレームに対する肯定応答の送信を延期する時間間隔を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*CALC

システムがタイマー値を決定します。

LAN肯定応答タイマー

1から254の範囲の単位数値を指定してください。各単位は0.1秒を表します。タイマーなしを指示するには、0を指定してください。 **LAN肯定応答頻度(LANACKFRQ)**パラメーターに0を指定した場合には、このパラメーターにも0を指定しなければなりません。 **LANACKFRQ**パラメーターにゼロ以外の数値を指定した場合には、このパラメーターにもゼロ以外の値を指定しなければなりません。

上

LAN非活動タイマー (LANINACTMR)

制御装置の非活動条件を判別するために使用する時間を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*CALC

システムがタイマー値を決定します。

LAN非活動タイマー

制御装置の非操作状態の有無を判別するために使用される時間の長さとして0.1秒間隔の単位で1から255の範囲の値を指定してください。 タイマーなしを指示するには、0を指定してください。

上

LAN肯定応答頻度 (LANACKFRQ)

制御装置に肯定応答を送る前に受け取るフレームの最大数を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*CALC

システムがLAN肯定応答頻度値を決定します。

LAN肯定応答頻度

受信フレームの数として0から127の範囲の値を指定してください。 **LAN肯定応答タイマー (LANACKTMR)**パラメーターに0を指定した場合には、このパラメーターにも0を指定しなければなりません。 LANACKTMRパラメーターにゼロ以外の数値を指定した場合には、このパラメーターにもゼロ以外の値を指定しなければなりません。

上

LAN最大未処理フレーム数 (LANMAXOUT)

リモート・システムから肯定応答が受信されるまでに、送信できるフレームの最大数を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*CALC

システムがLAN最大未処理フレーム数値を決定します。

LAN最大未処理フレーム数

肯定応答が受信されるまでに送信できるフレームの数として1から127の範囲の値を指定してください。

上

LANアクセス優先順位 (LANACCPTY)

リモート制御装置にアクセスするために使用される優先順位を指定します。 数字が大きくなるほどこの制御装置の優先順位は高くなります。このパラメーターは、制御装置がTRLANに接続されている場合にのみ使用されます。

*SAME

この値は変更されません。

***CALC**

システムがLANアクセス優先順位値を決定します。

LANアクセス優先順位

ローカル・エリア・ネットワーク(LAN)上のこの制御装置のアクセス優先順位として0から3の範囲の値を指定してください。

上

LANウィンドウ・ステップ (LANWDWSTP)

ネットワーク負荷過剰の間にリモート・システムに対する未処理のフレームの最大数を1に減らすかどうかを指定します。このパラメーター(LANウィンドウ・ステップ)は、未処理フレームの最大数を1ずつ増やそうとすることができるようになる前に、リモート・システムから正常に受け取られていなければならないフレームの数を指示します。未処理フレームの最大数がLAN最大未処理フレーム数(LANMAXOUT)パラメーターに指定された値に達するまで、このような増加が続きます。

***SAME**

この値は変更されません。

***NONE**

ネットワーク負荷過剰の時に未処理フレーム数が削減されません。

LANウィンドウ・ステップ

未処理フレームの最大数が1増えるまでに、リモート・システムによって正常に受信されなければならないフレームの数として1から127の範囲の値を指定してください。

上

X.25ネットワーク・レベル (NETLVL)

この制御装置にアクセスするために使用されるX.25ネットワークのレベルを指定します。レベルは、X.25ネットワークが何年版の標準を使用するかを指定します。

注: リモートDTEまたはネットワーク・レベルには低い値を使用するようにお奨めします。例えば、リモートDTEがCCITT標準の1980およびネットワーク1984を使用している場合には、このパラメーターに1980を指定してください。

***SAME**

この値は変更されません。

1980

1980標準が使用されます。

1984

1984標準が使用されます。

1988

1988標準が使用されます。

上

X.25 リンク・レベル・プロトコル (LINKPCL)

この制御装置と通信するためにX.25ネットワークで使用されるリンク・レベル・プロトコルを指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*QLLC

修飾論理リンク制御(QLLC)プロトコルが使用されます。

*ELLC

拡張論理リンク制御(ELLC)プロトコルが使用されます。

上

X.25接続パスワード (CNNPWD)

X.24呼び出し要求および着信呼び出しパケット（呼び出しユーザー・データ・フィールド）とのパスワード交換に使用されるX.25ネットワーク・パスワードを指定します。パーマネント・バーチャル・サーキット(PVC)接続の場合には、このパラメーターは無効です。

16進数値が40以下の文字から構成される接続パスワード使用したい場合には、そのパスワードを16進数値として指定しなければなりません。8バイト未満を指定すると、パスワード・フィールドの終わりにブランクが埋め込まれます。全桁ブランクのパスワードは無効です。接続を確立するためには、すべての着信呼び出し要求がこのパスワードと一致しなければなりません。

16進数パスワードを指定するためには、その桁数が2の倍数で、16桁以下の長さで、アポストロフィで囲み、Xが先行するものを指定しなければなりません。例えば、X'0102030405'は有効な16進数パスワードです。

注: スイッチド・バーチャル・サーキット(SVC)上の拡張論理リンク制御(ELLC)プロトコル LINKPCL(*ELLC) によって稼働する制御装置の場合には、この接続パスワードを強くお奨めします。この拡張プロトコルは、切断信号で回線を切断するネットワーク・エラーが起こった後の回線接続の再接続をサポートします。しかし、この再接続は、制御装置の固有のIDとして使用されるパスワード妥当性検査手順なしでは実行することはできません。

***SAME**

この値は変更されません。

***NONE**

接続パスワードは使用されません。

X.25接続パスワード

接続パスワードを指定してください。各制御装置のパスワードは、40からFFの範囲の16進値で表されるどの英数字からでも構成することができます。

上

X.25交換回線選択 (SWTLINSLCT)

X.25交換回線リストから回線を選択するために使用する方法を指定します。

***SAME**

この値は変更されません。

***FIRST**

交換回線リスト中の最初の回線から回線が選択されていきます。

***CALC**

システムが交換回線リスト中の選択される回線を決定します。

上

X.25省略時のパケット・サイズ (DFTPKTSIZE)

X.25ネットワークで送受信に使用される省略時のパケット・サイズを指定します。

指定できる送信の値は次の通りです。

***SAME**

この値は変更されません。

***LIND**

回線記述に指定された値が省略時の値です。

送信パケット・サイズ

送信用の省略時のパケット・サイズを指定してください。パケット・サイズの有効な値は64, 128, 256, 512, 1024, 2048, および4096 です。

指定できる受信の値は次の通りです。

***SAME**

この値は変更されません。

***LIND**

回線記述に指定された値が省略時の値です。

***TRANSMIT**

送信用の省略時のパケット・サイズとして指定された値が受信の省略時の値として使用されます。

受信パケット・サイズ

受信用の省略時のパケット・サイズを指定してください。パケット・サイズの有効な値は64, 128, 256, 512, 1024, 2048, および4096です。

上

X.25省略時のウィンドウ・サイズ (DFTWDWSIZE)

送信および受信用の省略時のウィンドウ・サイズを指定します。

要素1:送信ウィンドウ・サイズ

***SAME**

この値は変更されません。

***LIND**

回線記述に指定された値が省略時のウィンドウ・サイズとして使用されます。

送信ウィンドウ・サイズ

適切な省略時のウィンドウ・サイズを指定します。モジュラス8を指定している場合は、有効な値の範囲は1から7です。モジュラス128を指定した場合には、有効な値の範囲は1から15です。スイッチド・バーチャル・サーキット(SVC)着信呼び出しの場合には、システムは、着信呼び出しパケット機能フィールドで示されたウィンドウ・サイズを受け入れます。

要素2:受信ウィンドウ・サイズ

*SAME

この値は変更されません。

*LIND

回線記述に指定された値が省略時のウィンドウ・サイズとして使用されます。

*TRANSMIT

送信用の省略時のウィンドウ・サイズとして指定された値が受信用の省略時の値として使用されます。

受信ウィンドウ・サイズ

適切な省略時のウィンドウ・サイズを指定します。モジュラス8を指定している場合は、有効な値の範囲は1から7です。モジュラス128を指定した場合には、有効な値の範囲は1から15です。

上

X.25 ユーザー・グループ識別コード (USRGRPID)

X.25ネットワークのスイッチド・バーチャル・サーキット(SVC)制御装置用の閉域接続グループIDを指定します。

ネットワーク・サブスクリプションによって提供される00から99の2桁の10進数値を指定します。パーマネント・バーチャル・サーキット(PVC)接続の場合には、このパラメーターは無効です。これが有効となるのはSVC回線発信呼び出し操作の場合だけであり、SVC着信呼び出し接続の場合は無視されます。

*SAME

この値は変更されません。

*NONE

ユーザー・グループIDに値が指定されません。

上

X.25着信課金 (RVSCRG)

この制御装置と接続する時にコレクトコールを受け入れるかまたは要求するかどうかを指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*NONE

ネットワーク料金請求のコレクトコールは受け入れられません。

*REQUEST

発信呼び出し要求パケットで課金が要求されます。

*ACCEPT

着信要求でネットワーク料金請求のコレクトコールが受け入れられます。

*BOTH

着信と発信の両方の要求が受け入れられます。

上

X.25フレーム再試行 (X25FRMRTY)

この制御装置に接続する時に、応答タイマーが切れた後でフレームが送信される最大回数を指定します。このパラメーターの値は、ネットワークによって提供されるサービス品質およびそのネットワークへの接続形態によります。すなわちそれは、リンク・プロトコル・データ単位が失われる頻度によります。

*SAME

この値は変更されません。

X.25フレーム再試行

フレームの送信回数として0から21の範囲の値を指定してください。

上

X.25接続再試行 (X25CNNRTY)

この制御装置に接続する時に、接続応答タイマーが切れた後で論理リンク制御(LLC) プロトコル・データ単位が送信される最大回数を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

X.25接続再試行

フレームの送信回数として0から21の範囲の値を指定してください。

上

X.25応答タイマー (X25RSPTMR)

この制御装置に接続中でLLCプロトコル・データ装置を送る時に、肯定応答を戻すことのできる時間を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

X.25応答タイマー

時間の長さを0.1秒単位で指定してください。有効な値の範囲は0.1秒間隔の単位で1から2550です。

上

X.25接続タイマー (X25CNNTMR)

この制御装置に接続中でLLCプロトコル・データ装置を送る時に、肯定応答を戻すことのできる時間を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

接続タイマー

時間の長さを0.1秒単位で指定してください。有効な値の範囲は0.1秒間隔の単位で1から2550です。

上

X.25遅延接続タイマー (X25DLYTMR)

制御装置への接続を確立するための試行の時間間隔を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*CALC

接続の確立を試みる頻度および回数を決定するためには、**X.25接続タイマー(X25CNNTMR)**パラメーターおよび**X.25接続再試行(X25CNNRTY)**パラメーターに指定する値を使用してください。

X.25遅延タイマー

1から32767の範囲の単位数値を指定してください。各単位は0.1秒を表します。接続の試みはこの時間間隔で無制限に反復されます。

上

X.25肯定応答タイマー (X25ACKTMR)

受信したフレームへの肯定応答の送信を遅らせる時間の長さを指定します。

*SAME

この値は変更されません。

X.25肯定応答タイマー

有効な値の範囲は0.1秒間隔の単位で1から2550です。0は、遅延がないことを示します。

上

X.25非活動タイマー (X25INACTMR)

制御装置の非活動条件を判別するために使用する時間を指定します。有効な値は、0.1秒単位の1から2550です。

*SAME

この値は変更されません。

上

ユーザー機能 (USRFCL)

追加のサービスを要求するためには、X.25ネットワークに送信する16進文字のストリングを指定します。システムでは最高218桁の16進文字を使用することができます。

***NONE**

ユーザー機能に値が指定されません。

***SAME**

この値は変更されません。

上

APPN CPセッション・サポート (CPSSN)

この制御装置が制御点相互間のセッションをサポートするかどうかを指定します。

***SAME**

この値は変更されません。

***YES**

この制御装置は制御点間のセッションをサポートします。

***NO**

この制御装置は、制御点間のセッションをサポートしません。

上

リモートAPPNノードのタイプ (NODETYPE)

この制御装置が表すAPPNノードのタイプを指定します。

***SAME**

この値は変更されません。

***ENDNODE**

このノードは、APPNネットワーク中のエンド・ノードです。

***NETNODE**

このノードは、APPNネットワーク中のネットワーク・ノードです。

***LENNODE**

このノードは、APPNネットワーク中のローエントリー・ネットワーキング・ノードです。

***CALC**

システムがこの制御装置で表されるノードのタイプを決定します。

上

分岐拡張の役割 (BEXROLE)

構成するリモート制御装置のAPPNネットワークで、ローカル・システムの役割を指定します。このパラメーターは、*BEXNODEに設定されるネットワーク属性でNODETYPEパラメーターを介して、ローカル・システムが分岐拡張機能を使用できるようになった時にだけ使用されます。

***SAME**

この値は変更されません。

***NETNODE**

ローカル・システムは、リモート制御装置に対してネットワーク・ノードの役割をもちます。

***ENDNODE**

ローカル・システムは、リモート制御装置のエンド・ノードの役割をもちます。

上

APPN/HPR使用可能 (HPR)

この制御装置との通信時に、ローカル・システムがAPPNハイ・パフォーマンス・ルーティング(HPR)を使用できるかどうかを指定します。HPRを使用できるようにするためには、制御装置記述にAPPN(*YES)を指定しなければなりません。HPR(*YES)を指定する場合には、交換回線リストによって指定された回線のMAXFRAMEパラメーターの値が768より大きいか等しくなければなりません。そうでない場合には、この接続についてHPRは使用可能となりません。

***SAME**

この値は変更されません。

***YES**

ローカル・システムはHPRを使用することができ、HPRフローはこの制御装置で定義されたリンク上で進行することができます。

***NO**

ローカル・システムはHPRを使用することができず、HPRフローはこの制御装置の省略時のリンク上で進行することはできません。

上

HPRパス・スイッチ (HPRPTHSWT)

この制御装置がオフに構成変更された時点でこの制御装置と関連したHPR接続のパスを切り替える試みが行なわれるかどうかを指定します。パス・スイッチが試みられなかったり、あるいは使用可能なその他のパスがなかった場合には、HPR接続と関連したジョブは終了されます。

詳細については、APPN情報は、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)のネットワーク・カテゴリを参照してください。

***SAME**

この値は変更されません。

***NO**

この制御装置がオフに構成変更されると、この制御装置に関連したHPR接続に経路切り換えは行われません。HPR接続と関連したジョブは終了されます。

***YES**

この制御装置がオフに構成変更されると、この制御装置に関連したHPR接続の経路切り換えが試みられます。

上

APPN伝送グループ番号 (TMSGRPnbr)

この制御装置の伝送グループ番号を指定します。

***SAME**

この値は変更されません。

***CALC**

システムが伝送グループ番号の値を指定します。

伝送グループ番号

伝送グループ番号として1から20の範囲の値を指定してください。

上

APPN最小交換状況 (MINSWTSTS)

APPNが経路指定に使用可能な制御装置と見なすように、交換接続の最小状況を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*VRYONPND

状況が「オンに構成変更保留中」、「オンに構成変更」、または「活動状態」である場合にのみ、APPNは制御装置を経路指定用に使用可能と見なします。

*VRYON

状況が「オンに構成変更」または「活動状態」である場合にのみ、APPNは制御装置を経路指定用に使用可能と見なします。

上

装置の自動作成 (AUTOCRTDEV)

この制御装置記述で装置記述を自動的に作成できるかどうかを指定します。

注: このパラメーターは、APPC装置の自動作成には適用されません。このパラメーターは、この制御装置の従属装置にのみ適用されます。

*SAME

この値は変更されません。

*ALL

この制御装置に自動的に作成可能なすべての従属装置は、APPC装置を除いて自動的に作成されます。

*NONE

この制御装置の従属装置は自動的に作成されることはありません。

上

自動装置削除 (AUTODLTDEV)

自動的に作成された装置がアイドル状態になっていられる（その装置に対して活動状態の会話がない時）時間（分数）を指定します。この時間が経過すると、システムはその装置記述を自動的にオフに構成変更し、削除します。

*SAME

この値は変更されません。

***NO**

システムは、アイドル状態の自動構成装置記述を自動的にオフに構成変更して、削除することはありません。

待機時間

この制御装置のアイドルの自動構成装置記述を削除するまでに、待機する分数を指定してください。有効な値の範囲は1から10,000です。

上

ユーザー定義1 (USRDFN)

このフィールドは、制御したい回線の固有の特性を記述するために使用されます。このパラメーターは、システム上で拡張対等ネットワーク機能(APPN)が使用されている場合にだけ有効です。

*SAME

この値は変更されません。

***LIND**

回線記述に指定されたユーザー定義値が使用されます。

ユーザー定義

0から255の範囲の値を指定してください。

上

ユーザー定義2 (USRDFN)

このフィールドは、制御したい回線の固有の特性を記述するために使用されます。このパラメーターは、システム上で拡張対等ネットワーク機能(APPN)が使用されている場合にだけ有効です。

*SAME

この値は変更されません。

***LIND**

回線記述に指定されたユーザー定義値が使用されます。

ユーザー定義

0から255の範囲の値を指定してください。

上

ユーザー定義3 (USRDFN)

このフィールドは、制御したい回線の固有の特性を記述するために使用されます。このパラメーターは、システム上で拡張対等ネットワーク機能(APPN)が使用されている場合にだけ有効です。

***SAME**

この値は変更されません。

***LIND**

回線記述に指定されたユーザー定義値が使用されます。

ユーザー定義

0から255の範囲の値を指定してください。

上

回復限界 (CMNRCYLMT)

システム操作員に照会メッセージが送られる前にシステムによって行なわれる回復処置の試行回数を指定します。また、回復処置の試行回数がカウント限界に達したことを示す照会メッセージをシステム操作員に送る前に経過していなければならない時間（分数）も指定します。

要素1:最大回復限界

***SAME**

この値は変更されません。

***SYSVAL**

QCMNRCYLMTシステム値の値が使用されます。

カウント限界

行なわれる第2レベルの回復処置の試行回数を指定してください。有効な値の範囲は、0から99です。

要素2:回復時間間隔

時間間隔

指定された回数の第2レベルの回復が試みられる時間間隔（分数）を指定してください。有効な値の範囲は0から120です。カウント限界に指定された値が0でない場合には、値0は時間無制限の回復を指定します。

通信回復の詳細はCOMMUNICATIONS MANAGEMENT (SC41-5406)にあります。

上

MSG 待ち行列 (MSGQ)

操作メッセージが送られるメッセージ待ち行列を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*SYSVAL

メッセージは、QCFGMSGQシステム値に定義されたメッセージ待ち行列に送られます。

*SYSOPR

メッセージは、システム操作員メッセージ待ち行列(QSYS/QSYSOPR)に送られます。

修飾子1: MSG 待ち行列

名前 操作メッセージが送られるメッセージ待ち行列の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

名前 メッセージ待ち行列が入っているライブラリーの名前を指定してください。

上

モデル制御装置記述 (MDLCTL)

この制御装置が自動的に作成される制御装置記述の「モデル」であるかどうかを示します。リモート・システムとの通信が開始されるときに自動的に作成および構成される新しい制御装置記述には、タイマー遅延、再試行限界、フレーム・サイズなどのモデル記述の値が使用されます。新しい制御装置は、モデル制御装置の交換回線リスト(SWTLINLSTパラメーター)中のSINGLE回線記述の1つに接続しなければなりません。

モデル制御装置記述はどの装置にも接続されず、各回線記述には1つの制御装置記述しかオンに構成変更することができません。

モデル制御装置の詳細については、APPN情報は、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)のネットワーキング・カテゴリーを参照してください。

注: このパラメーターが有効なのは、パラメーターLINKTYPEが*LANである場合だけです。

*SAME

この値は変更されません。

***NO**

この制御装置はモデル制御装置ではありません。

***YES**

この制御装置はモデル制御装置です。

上

接続ネットワークID (CNNNETID)

この制御装置記述の接続ネットワークIDを指定します。このパラメーター（他になし）に値が指定されている場合には、この制御装置記述は、接続ネットワークに対する接続を表します。

*SAME

この値は変更されません。

***NETATR**

システム・ネットワーク属性に指定されたLCLNETID値が使用されます。

***NONE**

接続ネットワークIDはありません。

接続ネットワークNETID

ネットワークに対してこの制御装置記述を表す接続ネットワークIDを指定してください。

上

接続ネットワークCP (CNNCPNAME)

接続ネットワークの制御点の名前を指定します。

接続ネットワークは、着信または発信接続で制御装置記述を自動的に作成できるように定義されます。このパラメーターが有効なのは、MDLCTL(*YES)が指定された場合だけです。すなわち、CNNNETIDが指定された場合には必要です。

*SAME

この値は変更されません。

***NONE**

接続ネットワークの制御点名は指定されません。

接続制御点名

接続制御点名を指定してください。

上

制御所有者 (CTLOWN)

ユーザーが制御装置記述を変更できるかどうかを指定します。ユーザーが現行所有者である場合には、所有権をシステムに戻すことはできません。

***SAME**

この値は変更されません。

***USER**

ユーザーは、制御装置記述に変更を加えることができます。

上

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

***SAME**

この値は変更されません。

***BLANK**

テキストは指定されません。

文字値

50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

上

例

例1: APPC制御装置CHICAGO構成の変更

```
CHGCTLAPPC  CTLD(CHICAGO)  ONLINE(*YES)
              TEXT('CONTROLLER IN CHICAGO')
```

このコマンドは、CHICAGOという名前のAPPC制御装置を、IPL時にオンに構成変更されるように変更します。新しいテキスト記述が指定されています。

例2: APPC制御装置CJG構成の変更

```
CHGCTLAPPC  CTLD(CJG)  LCLINTNETA('9.5.5.1')
              LDLCNKSPD(*WAN)
```

このコマンドは、CJGという名前のAPPC制御装置を、ローカルIPアドレス9.5.5.1に変更し、またLDLC（論理データ・リンク制御）リンク速度を*WANに変更します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF2652

制御装置記述&1は変更されなかった。

上

制御装置記述の変更(非同期) (CHGCTLASC)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター

例

エラー・メッセージ

非同期制御装置記述の変更(CHGCTLASC)コマンドにより、非同期制御装置の制御装置記述が変更されます。

制約事項: このコマンドを使用するには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
CTLD	制御装置記述	名前	必須, キー, 定位置 1
ONLINE	IPL時のオンライン	<u>*SAME</u> , *YES, *NO	オプション
ACTSNBU	交換網バックアップ活動化	<u>*SAME</u> , *YES, *NO	オプション
SWTLINLST	交換回線リスト	単一値: <u>*SAME</u> その他の値 (最大 64 回の繰り返し): 名前	オプション
INLCNN	初期接続	<u>*SAME</u> , *ANS, *DIAL	オプション
CNNBR	接続番号	文字値, <u>*SAME</u> , *ANY	オプション
ANSNBR	返答番号	<u>*SAME</u> , *CNNBR, *ANY	オプション
PREDIALDLY	事前ダイヤル呼び出し遅延	0-254, <u>*SAME</u>	オプション
REDIALDLY	再ダイヤル呼び出し遅延	0-254, <u>*SAME</u>	オプション
DIALRTY	ダイヤル呼び出し再試行	0-254, <u>*SAME</u>	オプション
SWTDSC	交換回線切断	<u>*SAME</u> , *YES, *NO	オプション
ACKTMR	ファイル転送肯定応答タイマー	16-65535, <u>*SAME</u>	オプション
RETRY	ファイル転送再試行	1-255, <u>*SAME</u>	オプション
RMTVfy	リモート検査	<u>*SAME</u> , *YES, *NO	オプション
LCLLOCNAME	ローカル・ロケーション	名前, <u>*SAME</u>	オプション
LCLID	ローカル識別コード	名前, <u>*SAME</u>	オプション
PADEML	PADエミュレーション	<u>*SAME</u> , *YES, *NO	オプション
SWTLINSLCT	X.25交換回線選択	*FIRST, *CALC, <u>*SAME</u>	オプション
DFTPKTSIZE	X.25省略時のパケット・サイズ	要素リスト	オプション
	要素 1: 送信値	<u>*SAME</u> , *LIND, 64, 128, 256, 512, 1024, 2048, 4096	
	要素 2: 受信値	<u>*SAME</u> , *LIND, *TRANSMIT, 64, 128, 256, 512, 1024, 2048, 4096	
DFTWDWSIZE	X.25省略時のウィンドウ・サイズ	要素リスト	オプション
	要素 1: 送信値	1-15, <u>*SAME</u> , *LIND	
	要素 2: 受信値	1-15, <u>*SAME</u> , *LIND, *TRANSMIT	
USRGRPID	X.25 ユーザー・グループ識別コード	文字値, <u>*SAME</u> , *NONE	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
RVSCRG	X.25着信課金	<u>*SAME</u> , *NONE, *REQUEST, *ACCEPT, *BOTH	オプション
USRFCL	ユーザー機能	文字値, <u>*SAME</u> , *NONE	オプション
CMNRCYLMT	回復限界	単一値: <u>*SAME</u> , *SYSVAL その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: カウント限界	0-99	
	要素 2: 時間間隔	0-120	
MSGQ	MSG 待ち行列	単一値: <u>*SAME</u> , *SYSVAL, *SYSOPR その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: MSG 待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前	
TEXT	テキスト・記述	文字値, <u>*SAME</u> , *BLANK	オプション

上

制御装置記述 (CTLD)

これは必須パラメーターです。

制御装置記述の名前を指定します。

上

IPL時のオンライン (ONLINE)

初期プログラム・ロード(IPL)時にこのオブジェクトを自動的にオンに構成変更するかどうかを指定します。

*SAME

この値は変更されません。

***YES**

制御装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されます。

***NO**

制御装置は、IPL時に自動的に構成変更されることはありません。

上

交換網バックアップ活動化 (ACTSNBU)

交換網バックアップ(SNBU)機構をサポートし、IBM 386X, 586X,または786X型式でないモデムの場合に、SNBU機構を活動化するかまたは非活動化するかどうかを指定します。ローカル・モデムとリモート・モデムの両方とも、それを活動化するSNBUをサポートしていなければなりません。IBM 386X, 586X,または786X型式は、ハードウェア・スイッチでだけ活動化されます。この機構により、交換接続を確立することによって切断された非交換接続（非交換回線）をバイパスすることができます。

*SAME

この値は変更されません。

***NO**

SNBU機能は使用されません。

***YES**

SNBU機能が活動化されます。回線について交換網バックアップ活動化(ACTSNBU)パラメーターに*YES値も指定しなければなりません。

上

交換回線リスト (SWTLINLST)

この制御装置が接続している交換回線の名前を指定します。回線記述はすでに存在していなければなりません。最高64の交換回線名を指定することができます。

*SAME

この値は変更されません。

交換回線名

この制御装置に接続される最大64の回線の名前を指定してください。同じ回線名を複数回使用することができます。指定された各回線名にはその名前前の回線記述が前もって存在していなければなりません。

上

初期接続 (INLCNN)

この制御装置との接続を確立するために使用する方式を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*DIAL

システムは発信呼び出しを開始し、着信呼び出しに応答します。

*ANS

接続は、この制御装置からの着信呼び出しにIBM System i5が応答した時に、そのISERIESシステムによって確立されます。リモート制御装置から呼び出しが受信され、必要なすべての条件が満たされると、システムは着信呼び出しに応答します。

X.25接続の場合には、制御装置が接続された回線でタイプOUTまたはBOTHのLGLCHLEパラメータでスイッチド・バーチャル・サーキット(SVC)が構成されていない限り(*SVCOUTまたは*SVCBOTH),接続は成功しません。

回線は、X.25回線記述変更(CHGLINX25)コマンドを使用して変更することができます。

上

接続番号 (C>NNBR)

この制御装置と接続するためには、ダイヤル呼び出しする電話番号を指定します。

これは、制御装置が接続されている回線のタイプにより、電話番号、ネットワーク・アドレスまたはX.21接続番号のいずれかになります。

*SAME

この値は変更されません。

*ANY システムはどのネットワーク・アドレスからの呼び出しでも受け入れます。

接続番号

接続番号を指定してください。

上

返答番号 (ANSNBR)

そこからの呼び出しが受け入れられるX.25ネットワーク・アドレスを指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*C>NNBR

CNNNBRパラメーターに指定されたX.25ネットワーク・アドレスからの呼び出しが受け入れられません。

***ANY**

どのX.25ネットワーク・アドレスからの呼び出しでも受け入れられます。

上

事前ダイヤル呼び出し遅延 (PREDIALDLY)

番号をダイヤル呼び出しする前に待機する時間間隔(0.5秒間隔で)を指定します。

注: このパラメーターは、交換回線または交換網バックアップが*YESで、リンク・タイプが非同期制御装置を表す*ASYNCである場合にのみ指定することができます。

***SAME**

この値は変更されません。

ダイヤル前遅延

0から254の範囲の単位数値を指定してください。各単位は0.5秒を表します。遅延なしを指示するには、値0を指定してください。

上

再ダイヤル呼び出し遅延 (REDIALDLY)

呼び出しの試みが正常に行われなかった時に、ダイヤル再呼び出しする前に待機する時間間隔(0.5秒間隔で)を指定します。

注: このパラメーターは、交換回線または交換網バックアップが*YESで、リンク・タイプが非同期制御装置を表す*ASYNCである場合にのみ指定することができます。

***SAME**

この値は変更されません。

再ダイヤル遅延

0から254の範囲の単位数値を指定してください。各単位は0.5秒を表します。遅延なしを指示するには、値0を指定してください。

上

ダイヤル呼び出し再試行 (DIALRTY)

ダイヤル呼び出しが失敗したと見なされる前に、システムによって行われる再ダイヤルの試行回数を指定します。

注: このパラメーターは、交換回線または交換網バックアップが*YESで、リンク・タイプが非同期制御装置を表す*ASYNCである場合にのみ指定することができます。

***SAME**

この値は変更されません。

ダイヤル呼び出し再試行

ダイヤル呼び出しが試みられる回数として0.5秒間隔の単位で0から254の範囲の値を指定してください。

上

交換回線切断 (SWTDSC)

最後の装置がオフに構成変更された時に、この制御装置に対する交換接続を除去するかどうかを指定します。

***SAME**

この値は変更されません。

***NO**

最後の装置がオフに構成変更されても、交換接続が切断されません。

***YES**

最後の装置がオフに構成変更されると、交換接続がオフに構成変更されます。

上

ファイル転送肯定応答タイマー (ACKTMR)

ファイル転送サポートを使用している時、肯定応答のために使用できる時間を指定します。

有効な値は16から65535の範囲で、1秒間隔です。

***SAME**

この値は変更されません。

上

ファイル転送再試行 (RETRY)

ファイル転送サポートを使用している時に、再試行回数を指定します。

有効な値の範囲は1から255です。

*SAME

この値は変更されません。

上

リモート検査 (RMTVfy)

リモート・システムがローカル・ロケーション名およびローカルIDの妥当性検査を必要とするかどうかを指定します。総称の制御装置および装置がX.25ネットワーク・アドレスからの呼び出しを受け入れるように構成されている場合には、リモート・システムは妥当性検査を必要とします。

*SAME

この値は変更されません。

*NO

リモート・システムは、ローカル・ロケーション名およびローカルIDの妥当性検査を必要としません。

*YES

リモート・システムは、ローカル・ロケーション名およびローカルIDの妥当性検査を必要とします。

上

ローカル・ロケーション (LCLLOCNAME)

ローカルIDと結合している時に、リモート・システムに対するユーザーの制御装置を識別する名前を指定します。この名前は、リモート・システムによってそのリモート・ロケーション・リストに指定された名前と同じでなければなりません。

*SAME

この値は変更されません。

上

ローカル識別コード (LCLID)

ローカル・ロケーション名と結合している時に、リモート・システムにこの制御装置を識別するIDを指定します。このIDは、リモート・システムによってそのリモート・ロケーション・リストに指定されたIDと同じでなければなりません。

ローカルID

ローカルIDを指定してください。

*SAME

この値は変更されません。

ローカルID

ローカルIDを指定してください。

上

PADエミュレーション (PADEML)

この制御装置がX.25パケット・アセンブラー／逆アセンブラー(PAD)をエミュレートするかどうかを指定します。このPADエミュレーションはX.3,X.28,およびX.29のCCITT勧告に従います。このパラメーターは、リンク・タイプ(LINKTYPE)パラメーターに*X25が指定され、SWITCHEDが*YESで、初期接続(INLCNN)が*DIALに設定されている場合にだけ有効です。

*SAME

この値は変更されません。

*NO

この制御装置は、X.25パケット・アセンブラー／逆アセンブラー(PAD)をエミュレートしません。

*YES

この制御装置は、X.25パケット・アセンブラー／逆アセンブラー(PAD)をエミュレートします。

上

X.25交換回線選択 (SWTLINSLCT)

X.25交換回線リストから回線を選択するために使用する方法を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*FIRST

交換回線リスト中の最初の回線から回線が選択されていきます。

*CALC

システムが交換回線リスト中の選択される回線を決定します。

上

X.25省略時のパケット・サイズ (DFTPKTSIZE)

X.25ネットワークで送受信に使用される省略時のパケット・サイズを指定します。

指定できる送信の値は次の通りです。

*SAME

この値は変更されません。

*LIND

回線記述に指定された値が省略時の値です。

送信パケット・サイズ

送信用の省略時のパケット・サイズを指定してください。パケット・サイズの有効な値は64, 128, 256, 512, 1024, 2048, および4096 です。

指定できる受信の値は次の通りです。

*SAME

この値は変更されません。

*LIND

回線記述に指定された値が省略時の値です。

*TRANSMIT

送信用の省略時のパケット・サイズとして指定された値が受信の省略時の値として使用されます。

受信パケット・サイズ

受信用の省略時のパケット・サイズを指定してください。パケット・サイズの有効な値は64, 128, 256, 512, 1024, 2048, および4096です。

上

X.25省略時のウィンドウ・サイズ (DFTWDWSIZE)

送信および受信用の省略時のウィンドウ・サイズを指定します。

要素1:送信ウィンドウ・サイズ

*SAME

この値は変更されません。

*LIND

回線記述に指定された値が省略時のウィンドウ・サイズとして使用されます。

送信ウィンドウ・サイズ

適切な省略時のウィンドウ・サイズを指定します。モジュラス8を指定している場合は、有効な値の範囲は1から7です。モジュラス128を指定した場合には、有効な値の範囲は1から15です。スイッチド・バーチャル・サーキット(SVC)着信呼び出しの場合には、システムは、着信呼び出しパケット機能フィールドで示されたウィンドウ・サイズを受け入れます。

要素2:受信ウィンドウ・サイズ

*SAME

この値は変更されません。

*LIND

回線記述に指定された値が省略時のウィンドウ・サイズとして使用されます。

*TRANSMIT

送信用の省略時のウィンドウ・サイズとして指定された値が受信用の省略時の値として使用されません。

受信ウィンドウ・サイズ

適切な省略時のウィンドウ・サイズを指定します。モジュラス8を指定している場合は、有効な値の範囲は1から7です。モジュラス128を指定した場合には、有効な値の範囲は1から15です。

上

X.25 ユーザー・グループ識別コード (USRGRPID)

X.25ネットワークのスイッチド・バーチャル・サーキット(SVC)制御装置用の閉域接続グループIDを指定します。

ネットワーク・サブスクリプションによって提供される00から99の2桁の10進数値を指定します。パーマネント・バーチャル・サーキット(PVC)接続の場合には、このパラメーターは無効です。これが有効となるのはSVC回線発信呼び出し操作の場合だけであり、SVC着信呼び出し接続の場合は無視されます。

*SAME

この値は変更されません。

*NONE

ユーザー・グループIDに値が指定されません。

上

X.25着信課金 (RVSCRG)

この制御装置と接続する時にコレクトコールを受け入れるかまたは要求するかどうかを指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*NONE

ネットワーク料金請求のコレクトコールは受け入れられません。

*REQUEST

発信呼び出し要求パケットで課金が要求されます。

*ACCEPT

着信要求でネットワーク料金請求のコレクトコールが受け入れられます。

*BOTH

着信と発信の両方の要求が受け入れられます。

ユーザー機能 (USRFCL)

追加のサービスを要求するためには、X.25ネットワークに送信する16進文字のSTRINGを指定します。システムでは最高218桁の16進文字を使用することができます。

注: このフィールドに入力する値は、ネットワーク・サブスクリプションの提供者によって決定されています。パケット・サイズ、ウィンドウ・サイズ、ユーザー・グループID、およびコレクトコールのキーワードを介して示される機能は指定しないでください。

*SAME

この値は変更されません。

回復限界 (CMNRCYLMT)

システム操作員に照会メッセージが送られる前にシステムによって行なわれる回復処置の試行回数を指定します。また、回復処置の試行回数がカウント限界に達したことを示す照会メッセージをシステム操作員に送る前に経過していなければならない時間（分数）も指定します。

要素1:最大回復限界

*SAME

この値は変更されません。

*SYSVAL

QCMNRCYLMTシステム値の値が使用されます。

カウント限界

行なわれる第2レベルの回復処置の試行回数を指定してください。有効な値の範囲は、0から99です。

要素2:回復時間間隔

時間間隔

指定された回数の第2レベルの回復が試みられる時間間隔（分数）を指定してください。有効な値の範囲は0から120です。カウント限界に指定された値が0でない場合には、値0は時間無制限の回復を指定します。

通信回復の詳細はCOMMUNICATIONS MANAGEMENT (SC41-5406)にあります。

MSG 待ち行列 (MSGQ)

操作メッセージが送られるメッセージ待ち行列を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*SYSVAL

メッセージは、QCFGMSGQシステム値に定義されたメッセージ待ち行列に送られます。

*SYSOPR

メッセージは、システム操作員メッセージ待ち行列(QSYS/QSYSOPR)に送られます。

修飾子1: MSG 待ち行列

名前 操作メッセージが送られるメッセージ待ち行列の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

名前 メッセージ待ち行列が入っているライブラリーの名前を指定してください。

上

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*BLANK

テキストは指定されません。

文字値

50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

上

例

CHGCTLASC CTLD(VRTCTL325) CNNNBR(2825555)

このコマンドは、制御装置記述VRTCTL325の接続番号を2825555に変更します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF2652

制御装置記述&1は変更されなかった。

上

制御装置記述の変更(BSC) (CHGCTLBSC)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

BSC制御装置記述の変更(CHGCTLBSC)コマンドは、2進データ同期通信(BSC) 制御装置の制御装置記述を変更します。

制約事項: このコマンドを使用するには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
CTLD	制御装置記述	名前	必須, キー, 定位置 1
ONLINE	IPL時のオンライン	<u>*SAME</u> , *YES, *NO	オプション
ACTSNBU	交換網バックアップ活動化	<u>*SAME</u> , *YES, *NO	オプション
SWTLINLST	交換回線リスト	単一値: <u>*SAME</u> その他の値 (最大 64 回の繰り返し): 名前	オプション
INLCNN	初期接続	<u>*SAME</u> , *ANS, *DIAL	オプション
CNNNBR	接続番号	文字値, <u>*SAME</u>	オプション
PREDIALDLY	事前ダイヤル呼び出し遅延	0-254, <u>*SAME</u>	オプション
REDIALDLY	再ダイヤル呼び出し遅延	0-254, <u>*SAME</u>	オプション
DIALRTY	ダイヤル呼び出し再試行	0-254, <u>*SAME</u>	オプション
LCLID	ローカル識別コード	文字値, <u>*SAME</u> , *NOID	オプション
RMTID	リモート識別コード	単一値: <u>*SAME</u> その他の値 (最大 64 回の繰り返し): 文字値, *ANY, *NOID	オプション
RJEHOST	RJEホスト・タイプ	<u>*SAME</u> , *RES, *JES2, *JES3, *RSCS	オプション
RJELOGON	RJE ホスト・サインオン/ログオン	文字値, <u>*SAME</u>	オプション
CMNRCYLMT	回復限界	単一値: <u>*SAME</u> , *SYSVAL その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: カウント限界	0-99	
	要素 2: 時間間隔	0-120	
TEXT	テキスト'記述'	文字値, <u>*SAME</u> , *BLANK	オプション

上

制御装置記述 (CTLD)

これは必須パラメーターです。

制御装置記述の名前を指定します。

上

IPL時のオンライン (ONLINE)

初期プログラム・ロード(IPL)時にこのオブジェクトを自動的にオンに構成変更するかどうかを指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*YES

制御装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されます。

*NO

制御装置は、IPL時に自動的に構成変更されることはありません。

上

交換網バックアップ活動化 (ACTSNBU)

交換網バックアップ(SNBU)機構をサポートし、IBM 386X, 586X,または786X型式でないモデムの場合に、SNBU機構を活動化するかまたは非活動化するかどうかを指定します。ローカル・モデムとリモート・モデムの両方とも、それを活動化するSNBUをサポートしていなければなりません。IBM 386X, 586X,または786X型式は、ハードウェア・スイッチでだけ活動化されます。この機構により、交換接続を確立することによって切断された非交換接続(非交換回線)をバイパスすることができます。

*SAME

この値は変更されません。

*NO

SNBU機能は使用されません。

*YES

SNBU機能が活動化されます。回線について交換網バックアップ活動化(ACTSNBU)パラメーターに*YES値も指定しなければなりません。

交換回線リスト (SWTLINLST)

この制御装置が接続している交換回線の名前を指定します。回線記述はすでに存在していなければなりません。最高64の交換回線名を指定することができます。

*SAME

この値は変更されません。

交換回線名

この制御装置に接続される最大64の回線の名前を指定してください。同じ回線名を複数回使用することができます。指定された各回線名にはその名前の回線記述が前もって存在していなければなりません。

初期接続 (INLCNN)

この制御装置との接続を確立するために使用する方式を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*DIAL

システムは発信呼び出しを開始し、着信呼び出しに応答します。

*ANS

接続は、この制御装置からの着信呼び出しにIBM System i5が応答した時に、そのISERIESシステムによって確立されます。リモート制御装置から呼び出しが受信され、必要なすべての条件が満たされると、システムは着信呼び出しに応答します。

X.25接続の場合には、制御装置が接続された回線でタイプOUTまたはBOTHのLGLCHLEパラメータでスイッチド・バーチャル・サーキット(SVC)が構成されていない限り(*SVCOUTまたは*SVCBOTH),接続は成功しません。

回線は、X.25回線記述変更(CHGLINX25)コマンドを使用して変更することができます。

接続番号 (C>NNBR)

この制御装置と接続するためには、ダイヤル呼び出しする電話番号を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

接続番号

接続番号を指定してください。

上

事前ダイヤル呼び出し遅延 (PREDIALDLY)

番号をダイヤル呼び出しする前に待機する時間間隔(0.5秒間隔で)を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

ダイヤル前遅延

0から254の範囲の単位数値を指定してください。各単位は0.5秒を表します。遅延なしを指示するには、値0を指定してください。

上

再ダイヤル呼び出し遅延 (REDIALDLY)

呼び出しの試みが正常に行われなかった時に、ダイヤル再呼び出しする前に待機する時間間隔(0.5秒間隔で)を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

再ダイヤル遅延

0から254の範囲の単位数値を指定してください。各単位は0.5秒を表します。遅延なしを指示するには、値0を指定してください。

上

ダイヤル呼び出し再試行 (DIALRTY)

ダイヤル呼び出しが失敗したと見なされる前に、システムによって行われる再ダイヤルの試行回数を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

ダイヤル呼び出し再試行

ダイヤル呼び出しが試みられる回数として0.5秒間隔の単位で0から254の範囲の値を指定してください。

上

ローカル識別コード (LCLID)

リモート制御装置に対してローカル・システムを識別するために使用されるローカルIDを指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*NOID

ローカル・システムは、制御装置と通信する時にヌルのIDを送信します。

LOCAL-ID

2から30桁の16進数で、偶数の文字を含むローカルIDを指定してください。IDにはBSC制御文字を入れることはできません。

正しいBSC制御装置に電話接続が行われるように、次の指針に従われるようにお奨めします。

- ローカルIDは少なくとも4文字でなければなりません。
- このIDが4文字だけの場合には、最初の2文字と最後の2文字が同じでなければなりません（例えばF3F3や8484など）。

上

リモート識別コード (RMTID)

リモートBSC制御装置のIDを指定します。最大64個のリモート制御装置IDを指定することができます。

*SAME

この値は変更されません。

*NOID

ローカル・システムは、リモート・システムが送信したヌルのIDを受け入れます。

***ANY**

システムは、リモート制御装置が送信したどのIDでも受け入れます。

注: この値は、最後に指定された値であるか、あるいは指定された唯一の値である場合にのみ有効です。

リモートID

2から30桁の長さの16進数で、偶数の文字を含みリモート制御装置IDを指定してください。IDにはBSC制御文字を入れることはできません。

正しいBSC制御装置に電話接続が行われるように、次の指針に従われるようにお奨めします。

- リモートIDは少なくとも4文字でなければなりません。
- このIDが4文字だけの場合には、最初の2文字と最後の2文字が同じでなければなりません（例えばF1F1や8585など）。

上

RJEホスト・タイプ (RJEHOST)

RJEが接続されているホストのサブシステム・タイプを指定します。

***SAME**

この値は変更されません。

***RES**

ホストはRES (リモート入力システム) です。

***JES2**

ホストはJES2 (ジョブ入力サブシステム2)です。

***JES3**

ホストはJES3 (ジョブ入力サブシステム3)です。

***RSCS**

ホストはRSCS (リモート・スプーリング通信システム) です。

上

RJE ホスト・サインオン/ログオン (RJELOGON)

RJEホスト・システムのサインオン・テキストとして使用される最大80文字のテキストをアポストロフィで囲んで指定してください。このパラメーターが必要なのは、APPTYPE(*RJE)を指定した場合だけです。ホスト・システムが必要とするサインオン情報を指定してください。

*SAME

この値は変更されません。

上

回復限界 (CMNRCYLMT)

システム操作員に照会メッセージが送られる前にシステムによって行なわれる回復処置の試行回数を指定します。また、回復処置の試行回数がカウント限界に達したことを示す照会メッセージをシステム操作員に送る前に経過していなければならない時間（分数）も指定します。

要素1:最大回復限界

*SAME

この値は変更されません。

*SYSVAL

QCMNRCYLMTシステム値の値が使用されます。

カウント限界

行なわれる第2レベルの回復処置の試行回数を指定してください。有効な値の範囲は、0から99です。

要素2:回復時間間隔

時間間隔

指定された回数の第2レベルの回復が試みられる時間間隔（分数）を指定してください。有効な値の範囲は0から120です。カウント限界に指定された値が0でない場合には、値0は時間無制限の回復を指定します。

通信回復の詳細はCOMMUNICATIONS MANAGEMENT (SC41-5406)にあります。

上

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*BLANK

テキストは指定されません。

文字値

50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

上

例

CHGCTLBSC CTLD(VRTCTL325) LCLID(ABAB)

このコマンドは、VRTCTL325という名前の制御装置を、ローカルID ABABをもつように変更します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF2652

制御装置記述&1は変更されなかった。

上

制御装置記述変更（金融機関）(CHGCTLFNC)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

金融機関制御装置記述の変更(CHGCTLFNC)コマンドにより、金融機関用制御装置の制御装置記述が変更されます。

制約事項: このコマンドを使用するには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
CTLD	制御装置記述	名前	必須, キー, 定位置 1
ONLINE	IPL時のオンライン	<u>*SAME</u> , *YES, *NO	オプション
ACTSNBU	交換網バックアップ活動化	<u>*SAME</u> , *YES, *NO	オプション
SWTLINLST	交換回線リスト	単一値: <u>*SAME</u> その他の値 (最大 64 回の繰り返し): 名前	オプション
CODE	文字コード	<u>*SAME</u> , *EBCDIC, *ASCII	オプション
MAXFRAME	最大フレーム・サイズ	265-1033, 256, 265, 512, 521, 1033, <u>*SAME</u> , *LINKTYPE	オプション
SSCPID	SSCP識別コード	000000000001-FFFFFFFFFFFF, <u>*SAME</u>	オプション
INLCNN	初期接続	<u>*SAME</u> , *ANS, *DIAL	オプション
CNNNBR	接続番号	文字値, <u>*SAME</u> , *DC, *ANY	オプション
ANSNBR	返答番号	<u>*SAME</u> , *CNNNBR, *ANY	オプション
PREDIALDLY	事前ダイヤル呼び出し遅延	0-254, <u>*SAME</u>	オプション
REDIALDLY	再ダイヤル呼び出し遅延	0-254, <u>*SAME</u>	オプション
DIALRTY	ダイヤル呼び出し再試行	0-254, <u>*SAME</u>	オプション
SWTDSC	交換回線切断	<u>*SAME</u> , *YES, *NO	オプション
SHMDSCLMT	SHM切断限界	1-254, <u>*SAME</u> , *NOMAX	オプション
SHMDSCTMR	SHM切断タイマー	2-3000, <u>*SAME</u>	オプション
STNADR	端末アドレス	01-FE, <u>*SAME</u>	オプション
POLLPTY	SDLCポーリング優先順位	<u>*SAME</u> , *YES, *NO	オプション
POLLMT	SDLCポーリング限界	0-4, <u>*SAME</u>	オプション
OUTLMT	SDLC出力限界	<u>*SAME</u> , *POLLMT, 0, 1, 2, 3, 4	オプション
CNNPOLLRTY	SDLC接続ポーリング再試行	0-65534, <u>*SAME</u> , *CALC, *NOMAX	オプション
NDMPOLLTMR	SDLC NDM ポーリング・タイマー	0-3000, <u>*SAME</u> , *CALC	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノート
ADPTADR	LAN リモート・アダプター・アドレス	000000000001-FFFFFFFFFFFF, <u>*SAME</u>	オプション
DSAP	LAN DSAP	<u>*SAME</u> , 04, 08, 0C, 10, 14, 18, 1C, 20, 24, 28, 2C, 30, 34, 38, 3C, 40, 44, 48, 4C, 50, 54, 58, 5C, 60, 64, 68, 6C, 70, 74, 78, 7C, 80, 84, 88, 8C, 90, 94, 98, 9C	オプション
SSAP	LAN SSAP	<u>*SAME</u> , 04, 08, 0C, 10, 14, 18, 1C, 20, 24, 28, 2C, 30, 34, 38, 3C, 40, 44, 48, 4C, 50, 54, 58, 5C, 60, 64, 68, 6C, 70, 74, 78, 7C, 80, 84, 88, 8C, 90, 94, 98, 9C	オプション
LANFRMRTY	LANフレーム再試行	0-254, <u>*SAME</u> , *CALC	オプション
LANCNRRTY	LAN接続再試行	0-254, <u>*SAME</u> , *CALC	オプション
LANRSPTMR	LAN応答タイマー	0-254, <u>*SAME</u> , *CALC	オプション
LANCNTMR	LAN接続タイマー	0-254, <u>*SAME</u> , *CALC	オプション
LANACKTMR	LAN肯定応答タイマー	0-254, <u>*SAME</u> , *CALC	オプション
LANINACTMR	LAN非活動タイマー	0-255, <u>*SAME</u> , *CALC	オプション
LANACKFRQ	LAN肯定応答頻度	0-127, <u>*SAME</u> , *CALC	オプション
LANMAXOUT	LAN最大未処理フレーム数	1-127, <u>*SAME</u> , *CALC	オプション
LANACPTY	LANアクセス優先順位	0-3, <u>*SAME</u> , *CALC	オプション
LANWDWSTP	LANウィンドウ・ステップ	1-127, *NONE, <u>*SAME</u>	オプション
NETLVL	X.25ネットワーク・レベル	<u>*SAME</u> , 1980, 1984, 1988	オプション
LINKPCL	X.25 リンク・レベル・プロトコル	<u>*SAME</u> , *QLLC, *ELLC	オプション
CNNPWD	X.25接続パスワード	文字値, <u>*SAME</u> , *NONE	オプション
SWTLINSLCT	X.25交換回線選択	*FIRST, *CALC, <u>*SAME</u>	オプション
DFTPKTSIZE	X.25省略時のパケット・サイズ	要素リスト	オプション
	要素 1: 送信値	<u>*SAME</u> , *LIND, 64, 128, 256, 512, 1024, 2048, 4096	
	要素 2: 受信値	<u>*SAME</u> , *LIND, *TRANSMIT, 64, 128, 256, 512, 1024, 2048, 4096	
DFTWDWSIZE	X.25省略時のウィンドウ・サイズ	要素リスト	オプション
	要素 1: 送信値	1-15, <u>*SAME</u> , *LIND	
	要素 2: 受信値	1-15, <u>*SAME</u> , *LIND, *TRANSMIT	
USRGRPDI	X.25 ユーザー・グループ識別コード	文字値, <u>*SAME</u> , *NONE	オプション
RVSCRG	X.25着信課金	<u>*SAME</u> , *NONE, *REQUEST, *ACCEPT, *BOTH	オプション
X25FRMRTY	X.25フレーム再試行	0-21, <u>*SAME</u>	オプション
X25CNRRTY	X.25接続再試行	0-21, <u>*SAME</u>	オプション
X25RSPTMR	X.25応答タイマー	1-2550, <u>*SAME</u>	オプション
X25CNTMR	X.25接続タイマー	1-2550, <u>*SAME</u>	オプション
X25DLYTMR	X.25遅延接続タイマー	1-32767, <u>*SAME</u> , *CALC	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
X25ACKTMR	X.25肯定応答タイマー	0-2550, <u>*SAME</u>	オプション
X25INACTMR	X.25非活動タイマー	1-2550, <u>*SAME</u>	オプション
USRFLC	ユーザー機能	文字値, <u>*SAME</u> , *NONE	オプション
CMNRCYLMT	回復限界	単一値: <u>*SAME</u> , *SYSVAL その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: カウント限界	0-99	
	要素 2: 時間間隔	0-120	
TEXT	テキスト'記述'	文字値, <u>*SAME</u> , *BLANK	オプション

上

制御装置記述 (CTLD)

これは必須パラメーターです。

制御装置記述の名前を指定します。

上

IPL時のオンライン (ONLINE)

初期プログラム・ロード(IPL)時にこのオブジェクトを自動的にオンに構成変更するかどうかを指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*YES

制御装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されます。

*NO

制御装置は、IPL時に自動的に構成変更されることはありません。

上

交換網バックアップ活動化 (ACTSNBU)

交換網バックアップ(SNBU)機構をサポートし、IBM 386X, 586X,または786X型式でないモデムの場合に、SNBU機構を活動化するかまたは非活動化するかどうかを指定します。ローカル・モデムとリモート・モデムの両方とも、それを活動化するSNBUをサポートしていなければなりません。IBM 386X, 586X,または786X型式は、ハードウェア・スイッチでだけ活動化されます。この機構により、交換接続を確立することによって切断された非交換接続（非交換回線）をバイパスすることができます。

*SAME

この値は変更されません。

***NO**

SNBU機能は使用されません。

***YES**

SNBU機能が活動化されます。回線について交換網バックアップ活動化(ACTSNBU)パラメーターに*YES値も指定しなければなりません。

上

交換回線リスト (SWTLINLST)

この制御装置が接続している交換回線の名前を指定します。回線記述はすでに存在していなければなりません。最高64の交換回線名を指定することができます。

***SAME**

この値は変更されません。

交換回線名

この制御装置に接続される最大64の回線の名前を指定してください。同じ回線名を複数回使用することができます。指定された各回線名にはその名前の回線記述が前もって存在していなければなりません。

上

文字コード (CODE)

回線で拡張2進化10進コード(*EBCDIC)または情報交換用米国標準コード(*ASCII)文字コードを使用するかどうかを指定します。

***SAME**

この値は変更されません。

***EBCDIC**

拡張2進化10進コード(EBCDIC)文字コードが使用されます。

***ASCII**

ASCII文字コードが使用されます。

上

最大フレーム・サイズ (MAXFRAME)

制御装置が送受信できる最大フレーム（パス情報単位(PIU))サイズを指定します。この値は、要求単位(RU)サイズを計算するために使用されます。制御装置が送信または受信できる最大PIUサイズはIDの交換時に折衝されるので、実行時に使用される最大PIUサイズは異なるものになることがあります。この値はホスト・システム側の対応する値と一致します。

*SAME

この値は変更されません。

*LINKTYPE

各種リンク・タイプでは次の値が使用されます。

- *LAN - 521
- *SDLC - 265
- *X25 - 256

256

*X25のフレーム・サイズ。

265

*SDLC, *LAN,または*X25のフレーム・サイズ。

512

*X25のフレーム・サイズ。

521

*SDLC, *LAN,または*X25のフレーム・サイズ。

1033

*SDLCのフレーム・サイズ。

フレーム・サイズ

フレーム・サイズを指定してください。*LANの場合、265から521の範囲の値を指定してください。*SDLCの場合、265, 521,または1033を指定してください。*X25 の場合、256, 265, 512,または521を指定してください。

注: 4730, 4731, 4732, 4736,または3694制御装置の場合には, *LINKTYPEまたは265を指定することができません。

上

SSCP識別コード (SSCPID)

ホスト・システムのシステム・サービス制御点IDを指定します。

*SAME

この値は変更されません。

システム・サービス制御点ID

システム・サービス制御点IDを12桁の16進値として指定してください。

上

初期接続 (INLCNN)

この制御装置との接続を確立するために使用する方式を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*DIAL

システムは発信呼び出しを開始し, 着信呼び出しに応答します。

*ANS

接続は, この制御装置からの着信呼び出しにIBM System i5が応答した時に, そのISERIESシステムによって確立されます。リモート制御装置から呼び出しが受信され, 必要なすべての条件が満たされると, システムは着信呼び出しに応答します。

X.25接続の場合には, 制御装置が接続された回線でタイプOUTまたはBOTHのLGLCHLEパラメーターでスイッチド・バーチャル・サーキット(SVC)が構成されていない限り(*SVCOUTまたは*SVCBOTH),接続は成功しません。

回線は, X.25回線記述変更(CHGLINX25)コマンドを使用して変更することができます。

上

接続番号 (C>NNNBR)

この制御装置と接続するためには、ダイヤル呼び出しする電話番号を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*DC

X.21交換接続ネットワークで直接呼び出しが使用されています。

*ANY システムはどのネットワーク・アドレスからの呼び出しでも受け入れます。

接続番号

接続番号を指定してください。

上

返答番号 (ANSNBR)

そこからの呼び出しが受け入れられるX.25ネットワーク・アドレスを指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*C>NNNBR

C>NNNBRパラメーターに指定されたX.25ネットワーク・アドレスからの呼び出しが受け入れられます。

*ANY

どのX.25ネットワーク・アドレスからの呼び出しでも受け入れられます。

上

事前ダイヤル呼び出し遅延 (PRELDLY)

番号をダイヤル呼び出しする前に待機する時間間隔(0.5秒間隔で)を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

ダイヤル前遅延

0から254の範囲の単位数値を指定してください。各単位は0.5秒を表します。遅延なしを指示するには、値0を指定してください。

上

再ダイヤル呼び出し遅延 (REDIALDLY)

呼び出しの試みが正常に行われなかった時に、ダイヤル再呼び出しする前に待機する時間間隔(0.5秒間隔で)を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

再ダイヤル遅延

0から254の範囲の単位数値を指定してください。各単位は0.5秒を表します。遅延なしを指示するには、値0を指定してください。

上

ダイヤル呼び出し再試行 (DIALRTY)

ダイヤル呼び出しが失敗したと見なされる前に、システムによって行われる再ダイヤルの試行回数を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

ダイヤル呼び出し再試行

ダイヤル呼び出しが試みられる回数として0.5秒間隔の単位で0から254の範囲の値を指定してください。

上

交換回線切断 (SWTDSC)

最後の装置がオフに構成変更された時に、この制御装置に対する交換接続を除去するかどうかを指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*NO

最後の装置がオフに構成変更されても、交換接続が切断されません。

***YES**

最後の装置がオフに構成変更されると、交換接続がオフに構成変更されます。

上

SHM切断限界 (SHMDSCLMT)

このX.21短期保留モード接続に対して接続を保留できるようになる前に、リモート端末から要求される連続的な非生産的応答の数を指定します。このパラメーターは、**短期保留モード(SHM)**パラメーターに***YES**、**データ・リンクの役割(ROLE)**パラメーターに***NEG**または***SEC**を指定した場合にだけ使用します。

***SAME**

この値は変更されません。

***NOMAX**

切断限界はありません。

SHM切断限界

接続を中断できるようになるために、その前に受信されなければならない連続した非生産的応答の数を示す1から254の範囲の値を指定してください。

上

SHM切断タイマー (SHMDSCTMR)

このX.21短期保留モード制御装置の場合に、1次システムがリモート・システムとの接続を維持する最短時間を1/10秒単位で指定します。このパラメーターが有効なのは、**短期保留モード(SHM)**パラメーターに***YES**、**データ・リンクの役割(ROLE)**パラメーターに***NEG**または***SEC**を指定した場合だけです。

***SAME**

この値は変更されません。

SHM切断タイマー

0.1秒間隔の単位で2から3000の範囲の値を指定してください。

上

端末アドレス (STNADR)

制御装置と通信する時に使用される端末アドレスを指定します。

有効な値の範囲は00からFEです。

注: 00は、リンク・タイプ (LINKTYPE)パラメーターに対して*TDLCが指定されている時のAPPC制御装置の場合にだけ指定することができます。

注: ROLEパラメーターに*SECを指定した場合には、これはリモート制御装置の端末アドレスです。ROLEパラメーターに*PRIまたは*NEGを指定した場合には、これはローカル端末アドレスです。

*SAME

この値は変更されません。

上

SDLCポーリング優先順位 (POLLPTY)

この制御装置がポーリング時に優先権をもつかどうかを指定します。このパラメーターを指定できるのは、SHMが*NOの場合だけです。

*SAME

この値は変更されません。

*NO

この制御装置にはポーリング優先順位はありません。

*YES

この制御装置はポーリング優先順位をもちます。

上

SDLCポーリング限界 (POLLMT)

SDLC 2次制御装置または折衝可能制御装置の場合には、ポーリングでフレームが受信されたときに、同じ制御装置に対して連続してポーリングを行う回数を指定します。このパラメーターを指定できるのは、SHMが*NOの場合だけです。

*SAME

この値は変更されません。

0

ポーリングの省略時の回数はゼロです。

ポーリング限界

ポーリング回数を指定してください。有効な値の範囲は0から4です。

上

SDLC出力限界 (OUTLMT)

別の端末への送信を認める前に、SDLCで端末へ最大フレーム数を送信できる連続回数を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*POLLMT

値は、SDLCポーリング限界(POLLMT)パラメーターに指定されたものと同じです。

アウト限界

0から4の範囲の値を指定してください。

上

SDLC接続ポーリング再試行 (CNNPOLLRTY)

エラーを報告する前に、制御装置との接続をやり直す回数を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*CALC

再試行回数は、制御装置が交換の場合には7で、制御装置が非交換の場合には*NOMAXです。

*NOMAX

システムは、無制限に再試行します。

ポーリング接続再試行

再試行回数として0から65534の範囲の値を指定してください。

上

SDLC NDM ポーリング・タイマー (NDMPOLLTMR)

1次端末から2次端末へのポーリング（通常切断モード(NDM)）によって適切な応答が受信されない場合に、2次端末がポーリングされる最小間隔を指定します。

このパラメーターは、リンク・タイプが*SDLCで、制御装置の役割が2次または折衝可能で、SHMパラメーターに*NOが指定されている場合のみ有効です。

*SAME

この値は変更されません。

*CALC

ポーリング間隔は、システムによって計算されます。

NDMポーリング・タイマー

1から3000の範囲の単位数値を指定してください。各単位は0.1秒を表します。タイマーなしを指示するには、0を指定してください。

上

LAN リモート・アダプター・アドレス (ADPTADR)

リモート制御装置の12文字のアダプター・アドレスを指定します。これは、システムがリモート制御装置と通信する時にシステムがデータを送信するアドレスです。この値は、リモート制御装置の構成レコードから獲得することができます。有効な値の範囲は、16進数000000000001から16進数FFFFFFFFFまでです。

*SAME

この値は変更されません。

アダプター・アドレス

リモート制御装置のアダプター・アドレスを指定してください。

上

LAN DSAP (DSAP)

宛先サービス・アクセス・ポイント(DSAP)を指定します。これは、このシステムがリモート制御装置と通信する時に送る論理アドレスです。このアドレスによって、制御装置はこのシステムからのデータを適切に経路指定することができます。宛先サービス・アクセス・ポイントの省略時の値は04です。

値は、リモート制御装置の構成レコードのソース・サービス・アクセス・ポイント(SSAP) パラメーターに指定された値と一致しなければなりません。

注: *OPC制御装置は、このフィールドに上記の値を使用します。 RMTSYSNAMEとDSAP の組み合わせで固有の制御装置が定義されます。これにより、2つのシステム間で複数の制御装置が存在できるようになります。

*SAME

この値は変更されません。

宛先サービス・アクセス・ポイント

宛先サービス・アクセス・ポイントを表す04から9Cの範囲の16進値を4の増分（例えば04, 08, 0C, 10）で指定してください。

上

LAN SSAP (SSAP)

ソース・サービス・アクセス・ポイント(SSAP)を指定します。これは、ローカル・システムがデータをリモート制御装置に送信する時に使用する論理アドレスです。このアドレスによって、制御装置はローカル・システムからのデータを適切に経路指定することができます。ソース・サービス・アクセス・ポイント(SSAP)の省略時の値は04です。

これは、リモート制御装置の構成レコード中で宛先サービス・アクセス・ポイント(DSAP) に割り当てられている値と一致しなければなりません。

*SAME

この値は変更されません。

ソース・サービス・アクセス・ポイント

ソース・サービス・アクセス・ポイントを表す04から9Cの範囲の16進値を4の増分（例えば04, 08, 0C, 10）で指定してください。

上

LANフレーム再試行 (LANFRMRTY)

LANRSPTMRパラメーターで指定された時間枠内にリモート制御装置からの肯定応答がなかったときに、送信が再試行される回数を指定します。この値が使用されるのは、接続が正常に行われた後だけです。

*SAME

この値は変更されません。

*CALC

システムがタイマー値を決定します。

LANフレーム再試行

肯定応答が受信されるまでフレームが送信される回数として0から254の範囲の値を指定してください。

上

LAN接続再試行 (LANCNRTRY)

肯定応答が受信されるまで、送信が試みられる回数を指定します。この値は接続時に使用されます（接続が確立された後で使用されるLANFRMRTYとは異なります）。

*SAME

この値は変更されません。

*CALC

システムがタイマー値を決定します。

LAN接続再試行

肯定応答が受信される前に試みられる伝送回数として0から254の範囲の値を指定してください。

上

LAN応答タイマー (LANRSPTMR)

接続時にリンクの作動不可条件を判別するために使用する時間を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*CALC

システムがタイマー値を決定します。

LAN応答タイマー

1から254の単位数値を指定してください。各単位は0.1秒を表します。タイマーなしを指示するには、0を指定してください。

上

LAN接続タイマー (LANCNTMR)

接続時にリンクの作動不可条件を判別するために使用する時間を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*CALC

システムがタイマー値を決定します。

LAN接続タイマー

非操作状態が起こるまでシステムが待機する時間の長さとして0.1秒間隔の単位で1から254の範囲の値を指定してください。タイマーなしを指示するには、0を指定してください。

上

LAN肯定応答タイマー (LANACKTMR)

受信したフレームに対する肯定応答の送信を延期する時間間隔を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*CALC

システムがタイマー値を決定します。

LAN肯定応答タイマー

1から254の範囲の単位数値を指定してください。各単位は0.1秒を表します。タイマーなしを指示するには、0を指定してください。LAN肯定応答頻度(LANACKFRQ)パラメーターに0を指定した場合には、このパラメーターにも0を指定しなければなりません。LANACKFRQパラメーターにゼロ以外の数値を指定した場合には、このパラメーターにもゼロ以外の値を指定しなければなりません。

上

LAN非活動タイマー (LANINACTMR)

制御装置の非活動条件を判別するために使用する時間を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*CALC

システムがタイマー値を決定します。

LAN非活動タイマー

制御装置の非操作状態の有無を判別するために使用される時間の長さとして0.1秒間隔の単位で1から255の範囲の値を指定してください。 タイマーなしを指示するには、0を指定してください。

上

LAN肯定応答頻度 (LANACKFRQ)

制御装置に肯定応答を送る前に受け取るフレームの最大数を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*CALC

システムがLAN肯定応答頻度値を決定します。

LAN肯定応答頻度

受信フレームの数として0から127の範囲の値を指定してください。 **LAN肯定応答タイマー (LANACKTMR)**パラメーターに0を指定した場合には、このパラメーターにも0を指定しなければなりません。 LANACKTMRパラメーターにゼロ以外の数値を指定した場合には、このパラメーターにもゼロ以外の値を指定しなければなりません。

上

LAN最大未処理フレーム数 (LANMAXOUT)

リモート・システムから肯定応答が受信されるまでに、送信できるフレームの最大数を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*CALC

システムがLAN最大未処理フレーム数値を決定します。

LAN最大未処理フレーム数

肯定応答が受信されるまでに送信できるフレームの数として1から127の範囲の値を指定してください。

上

LANアクセス優先順位 (LANACCPTY)

リモート制御装置にアクセスするために使用される優先順位を指定します。数字が大きくなるほどこの制御装置の優先順位は高くなります。このパラメーターは、制御装置がTRLANに接続されている場合にのみ使用されます。

*SAME

この値は変更されません。

*CALC

システムがLANアクセス優先順位値を決定します。

LANアクセス優先順位

ローカル・エリア・ネットワーク(LAN)上のこの制御装置のアクセス優先順位として0から3の範囲の値を指定してください。

上

LANウィンドウ・ステップ (LANWDWSTP)

ネットワーク負荷過剰の間にリモート・システムに対する未処理のフレームの最大数を1に減らすかどうかを指定します。このパラメーター(LANウィンドウ・ステップ)は、未処理フレームの最大数を1ずつ増やすることができるようになる前に、リモート・システムから正常に受け取られていなければならないフレームの数を指示します。未処理フレームの最大数がLAN最大未処理フレーム数(LANMAXOUT)パラメーターに指定された値に達するまで、このような増加が続きます。

*SAME

この値は変更されません。

*NONE

ネットワーク負荷過剰の時に未処理フレーム数が削減されません。

LANウィンドウ・ステップ

未処理フレームの最大数が1増えるまでに、リモート・システムによって正常に受信されなければならないフレームの数として1から127の範囲の値を指定してください。

上

X.25ネットワーク・レベル (NETLVL)

この制御装置にアクセスするために使用されるX.25ネットワークのレベルを指定します。レベルは、X.25ネットワークが何年版の標準を使用するかを指定します。

注: リモートDTEまたはネットワーク・レベルには低い値を使用するようにお奨めします。例えば、リモートDTEがCCITT標準の1980およびネットワーク1984を使用している場合には、このパラメーターに1980を指定してください。

*SAME

この値は変更されません。

1980

1980標準が使用されます。

1984

1984標準が使用されます。

1988

1988標準が使用されます。

上

X.25 リンク・レベル・プロトコル (LINKPCL)

この制御装置と通信するためにX.25ネットワークで使用されるリンク・レベル・プロトコルを指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*QLLC

修飾論理リンク制御(QLLC)プロトコルが使用されます。

*ELLC

拡張論理リンク制御(ELLC)プロトコルが使用されます。

上

X.25接続パスワード (CNNPWD)

X.24呼び出し要求および着信呼び出しパケット（呼び出しユーザー・データ・フィールド）とのパスワード交換に使用されるX.25ネットワーク・パスワードを指定します。パーマネント・バーチャル・サーキット(PVC)接続の場合には、このパラメーターは無効です。

16進数値が40以下の文字から構成される接続パスワード使用したい場合には、そのパスワードを16進数値として指定しなければなりません。8バイト未満を指定すると、パスワード・フィールドの終わりに空白が埋め込まれます。全桁空白のパスワードは無効です。接続を確立するためには、すべての着信呼び出し要求がこのパスワードと一致しなければなりません。

16進数パスワードを指定するためには、その桁数が2の倍数で、16桁以下の長さで、アポストロフィで囲み、Xが先行するものを指定しなければなりません。例えば、X'0102030405'は有効な16進数パスワードです。

注: スイッチド・バーチャル・サーキット(SVC)上の拡張論理リンク制御(ELLC)プロトコル LINKPCL(*ELLC) によって稼働する制御装置の場合には、この接続パスワードを強くお奨めします。この拡張プロトコルは、切断信号で回線を切断するネットワーク・エラーが起こった後の回線接続の再接続をサポートします。しかし、この再接続は、制御装置の固有のIDとして使用されるパスワード妥当性検査手順なしでは実行することはできません。

*SAME

この値は変更されません。

*NONE

接続パスワードは使用されません。

X.25接続パスワード

接続パスワードを指定してください。各制御装置のパスワードは、40からFFの範囲の16進値で表されるどの英数字からでも構成することができます。

上

X.25交換回線選択 (SWTLINSLCT)

X.25交換回線リストから回線を選択するために使用する方法を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*FIRST

交換回線リスト中の最初の回線から回線が選択されていきます。

*CALC

システムが交換回線リスト中の選択される回線を決定します。

上

X.25省略時のパケット・サイズ (DFTPFSIZE)

X.25ネットワークで送受信に使用される省略時のパケット・サイズを指定します。

指定できる送信の値は次の通りです。

*SAME

この値は変更されません。

*LIND

回線記述に指定された値が省略時の値です。

送信パケット・サイズ

送信用の省略時のパケット・サイズを指定してください。パケット・サイズの有効な値は64, 128, 256, 512, 1024, 2048, および4096 です。

指定できる受信の値は次の通りです。

*SAME

この値は変更されません。

*LIND

回線記述に指定された値が省略時の値です。

*TRANSMIT

送信用の省略時のパケット・サイズとして指定された値が受信の省略時の値として使用されます。

受信パケット・サイズ

受信用の省略時のパケット・サイズを指定してください。パケット・サイズの有効な値は64, 128, 256, 512, 1024, 2048, および4096です。

X.25省略時のウィンドウ・サイズ (DFTWDWSIZE)

送信および受信用の省略時のウィンドウ・サイズを指定します。

要素1:送信ウィンドウ・サイズ

*SAME

この値は変更されません。

*LIND

回線記述に指定された値が省略時のウィンドウ・サイズとして使用されます。

送信ウィンドウ・サイズ

適切な省略時のウィンドウ・サイズを指定します。モジュラス8を指定している場合は、有効な値の範囲は1から7です。モジュラス128を指定した場合には、有効な値の範囲は1から15です。スイッチド・バーチャル・サーキット(SVC)着信呼び出しの場合には、システムは、着信呼び出しパケット機能フィールドで示されたウィンドウ・サイズを受け入れます。

要素2:受信ウィンドウ・サイズ

*SAME

この値は変更されません。

*LIND

回線記述に指定された値が省略時のウィンドウ・サイズとして使用されます。

*TRANSMIT

送信用の省略時のウィンドウ・サイズとして指定された値が受信用の省略時の値として使用されます。

受信ウィンドウ・サイズ

適切な省略時のウィンドウ・サイズを指定します。モジュラス8を指定している場合は、有効な値の範囲は1から7です。モジュラス128を指定した場合には、有効な値の範囲は1から15です。

X.25 ユーザー・グループ識別コード (USRGRPID)

X.25ネットワークのスイッチド・バーチャル・サーキット(SVC)制御装置用の閉域接続グループIDを指定します。

ネットワーク・サブスクリプションによって提供される00から99の2桁の10進数値を指定します。パーマネント・バーチャル・サーキット(PVC)接続の場合には、このパラメーターは無効です。これが有効となるのはSVC回線発信呼び出し操作の場合だけであり、SVC着信呼び出し接続の場合は無視されます。

*SAME

この値は変更されません。

*NONE

ユーザー・グループIDに値が指定されません。

上

X.25着信課金 (RVSCRG)

この制御装置と接続する時にコレクトコールを受け入れるかまたは要求するかどうかを指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*NONE

ネットワーク料金請求のコレクトコールは受け入れられません。

*REQUEST

発信呼び出し要求パケットで課金が要求されます。

*ACCEPT

着信要求でネットワーク料金請求のコレクトコールが受け入れられます。

*BOTH

着信と発信の両方の要求が受け入れられます。

上

X.25フレーム再試行 (X25FRMRTY)

この制御装置に接続する時に、応答タイマーが切れた後でフレームが送信される最大回数を指定します。このパラメーターの値は、ネットワークによって提供されるサービス品質およびそのネットワークへの接続形態によります。すなわちそれは、リンク・プロトコル・データ単位が失われる頻度によります。

*SAME

この値は変更されません。

X.25フレーム再試行

フレームの送信回数として0から21の範囲の値を指定してください。

上

X.25接続再試行 (X25CNNRTY)

この制御装置に接続する時に、接続応答タイマーが切れた後で論理リンク制御(LLC) プロトコル・データ単位が送信される最大回数を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

X.25接続再試行

フレームの送信回数として0から21の範囲の値を指定してください。

上

X.25応答タイマー (X25RSPTMR)

この制御装置に接続中でLLCプロトコル・データ装置を送る時に、肯定応答を戻すことのできる時間を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

X.25応答タイマー

時間の長さを0.1秒単位で指定してください。有効な値の範囲は0.1秒間隔の単位で1から2550です。

上

X.25接続タイマー (X25CNNTMR)

この制御装置に接続中でLLCプロトコル・データ装置を送る時に、肯定応答を戻すことのできる時間を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

接続タイマー

時間の長さを0.1秒単位で指定してください。有効な値の範囲は0.1秒間隔の単位で1から2550です。

上

X.25遅延接続タイマー (X25DLYTMR)

制御装置への接続を確立するための試行の時間間隔を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*CALC

接続の確立を試みる頻度および回数を決定するためには、**X.25接続タイマー(X25CNNTMR)**パラメーターおよび**X.25接続再試行(X25CNNRTY)**パラメーターに指定する値を使用してください。

X.25遅延タイマー

1から32767の範囲の単位数値を指定してください。各単位は0.1秒を表します。接続の試みはこの時間間隔で無制限に反復されます。

上

X.25肯定応答タイマー (X25ACKTMR)

受信したフレームへの肯定応答の送信を遅らせる時間の長さを指定します。

*SAME

この値は変更されません。

X.25肯定応答タイマー

有効な値の範囲は0.1秒間隔の単位で1から2550です。0は、遅延がないことを示します。

X.25非活動タイマー (X25INACTMR)

制御装置の非活動条件を判別するために使用する時間を指定します。有効な値は、0.1秒単位の1から2550です。

*SAME

この値は変更されません。

ユーザー機能 (USRFCL)

追加のサービスを要求するためには、X.25ネットワークに送信する16進文字のストリングを指定します。システムでは最高218桁の16進文字を使用することができます。

*NONE

ユーザー機能に値が指定されません。

*SAME

この値は変更されません。

回復限界 (CMNRCYLMT)

システム操作員に照会メッセージが送られる前にシステムによって行なわれる回復処置の試行回数を指定します。また、回復処置の試行回数がカウント限界に達したことを示す照会メッセージをシステム操作員に送る前に経過していなければならない時間（分数）も指定します。

要素1:最大回復限界

*SAME

この値は変更されません。

*SYSVAL

QCMNRCYLMTシステム値の値が使用されます。

カウント限界

行なわれる第2レベルの回復処置の試行回数を指定してください。有効な値の範囲は、0から99です。

要素2:回復時間間隔

時間間隔

指定された回数の第2レベルの回復が試みられる時間間隔（分数）を指定してください。有効な値の範囲は0から120です。カウント限界に指定された値が0でない場合には、値0は時間無制限の回復を指定します。

通信回復の詳細はCOMMUNICATIONS MANAGEMENT (SC41-5406)にあります。

上

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*BLANK

テキストは指定されません。

文字値

50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

上

例

```
CHGCTLFNC CTLD(FNC1) X25FRMRTY(7)
```

このコマンドは、FNC1という名前の制御装置を、X.25フレーム再試行回数が7となるように変更します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF2652

制御装置記述&1は変更されなかった。

上

制御装置記述の変更(SNA ホスト) (CHGCTLHOST)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

SNAホスト制御装置記述の変更(CHGCTLHOST)コマンドは、システム・ネットワーク体系(SNA)ホスト制御装置の制御装置記述を変更します。

制約事項: このコマンドを使用するには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
CTLD	制御装置記述	名前	必須, キー, 定位置 1
ONLINE	IPL時のオンライン	<u>*SAME</u> , *YES, *NO	オプション
ACTSNBU	交換網バックアップ活動化	<u>*SAME</u> , *YES, *NO	オプション
APPN	APPN可能	<u>*SAME</u> , *YES, *NO	オプション
SWTLINLST	交換回線リスト	単一値: <u>*SAME</u> その他の値 (最大 64 回の繰り返し): 名前	オプション
CODE	文字コード	<u>*SAME</u> , *EBCDIC, *ASCII	オプション
MAXFRAME	最大フレーム・サイズ	265-16393, 256, 265, 512, 521, 1024, 1033, 1994, 2048, 2057, 4060, 4096, 8156, 16393, <u>*SAME</u> , *LINKTYPE	オプション
RMTNETID	リモート・ネットワーク 識別コード	通信名, <u>*SAME</u> , *NETATR, *NONE, *ANY	オプション
RMTCPNAME	リモート制御点	通信名, <u>*SAME</u> , *NONE, *ANY	オプション
ADJLNKSTN	隣接リンク端末	通信名, <u>*SAME</u> , *NONE, *ANY	オプション
SSCPID	SSCP識別コード	050000000000-05FFFFFFFFF, <u>*SAME</u> , *NONE	オプション
INLCNN	初期接続	<u>*SAME</u> , *ANS, *DIAL	オプション
DIALINIT	ダイヤル開始	<u>*SAME</u> , *LINKTYPE, *IMMED, *DELAY	オプション
CNNNBR	接続番号	文字値, <u>*SAME</u> , *DC, *ANY	オプション
ANSNBR	返答番号	<u>*SAME</u> , *CNNNBR, *ANY	オプション
CNNLSTOUT	発信接続リスト	名前, <u>*SAME</u>	オプション
CNNLSTOUTE	接続リスト項目	名前, <u>*SAME</u>	オプション
IDLCWDSIZ	IDLCウィンドウ・サイズ	1-31, <u>*SAME</u> , *LIND	オプション
IDLCFRMRTY	IDLCフレーム再試行	0-100, <u>*SAME</u> , *LIND	オプション
IDLCRSPTMR	IDLC応答タイマー	10-100, <u>*SAME</u> , *LIND	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
IDLCCNNRTY	IDLC接続再試行	1-100, <u>*SAME</u> , *LIND, *NOMAX	オプション
PREDIALDLY	事前ダイヤル呼び出し遅延	0-254, <u>*SAME</u>	オプション
REDIALDLY	再ダイヤル呼び出し遅延	0-254, <u>*SAME</u>	オプション
DIALRTY	ダイヤル呼び出し再試行	0-254, <u>*SAME</u>	オプション
SWTDSC	交換回線切断	<u>*SAME</u> , *YES, *NO	オプション
DSCTMR	切断タイマー	単一値: <u>*SAME</u> その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 最小接続タイマー	0-65535	
	要素 2: 切断遅延タイマー	0-65535, <u>*SAME</u>	
STNADR	端末アドレス	01-FE, <u>*SAME</u>	オプション
ADPTADR	LAN リモート・アダプター・アドレス	000000000001-FFFFFFFFFFFF, <u>*SAME</u>	オプション
DSAP	LAN DSAP	<u>*SAME</u> , 04, 08, 0C, 10, 14, 18, 1C, 20, 24, 28, 2C, 30, 34, 38, 3C, 40, 44, 48, 4C, 50, 54, 58, 5C, 60, 64, 68, 6C, 70, 74, 78, 7C, 80, 84, 88, 8C, 90, 94, 98, 9C	オプション
SSAP	LAN SSAP	<u>*SAME</u> , 04, 08, 0C, 10, 14, 18, 1C, 20, 24, 28, 2C, 30, 34, 38, 3C, 40, 44, 48, 4C, 50, 54, 58, 5C, 60, 64, 68, 6C, 70, 74, 78, 7C, 80, 84, 88, 8C, 90, 94, 98, 9C	オプション
LANFRMRTY	LANフレーム再試行	0-254, <u>*SAME</u> , *CALC	オプション
LANCNNRTY	LAN接続再試行	0-254, <u>*SAME</u> , *CALC	オプション
LANRSPTMR	LAN応答タイマー	0-254, <u>*SAME</u> , *CALC	オプション
LANCNNTMR	LAN接続タイマー	0-254, <u>*SAME</u> , *CALC	オプション
LANACKTMR	LAN肯定応答タイマー	0-254, <u>*SAME</u> , *CALC	オプション
LANINACTMR	LAN非活動タイマー	0-255, <u>*SAME</u> , *CALC	オプション
LANACKFRQ	LAN肯定応答頻度	0-127, <u>*SAME</u> , *CALC	オプション
LANMAXOUT	LAN最大未処理フレーム数	1-127, <u>*SAME</u> , *CALC	オプション
LANACCPY	LANアクセス優先順位	0-3, <u>*SAME</u> , *CALC	オプション
LANWDWSTP	LANウィンドウ・ステップ	1-127, *NONE, <u>*SAME</u>	オプション
NETLVL	X.25ネットワーク・レベル	<u>*SAME</u> , 1980, 1984, 1988	オプション
LINKPCL	X.25 リンク・レベル・プロトコル	<u>*SAME</u> , *QLLC, *ELLC	オプション
CNNPWD	X.25接続パスワード	文字値, <u>*SAME</u> , *NONE	オプション
SWTLINSLCT	X.25交換回線選択	*FIRST, *CALC, <u>*SAME</u>	オプション
DFTPKTSIZE	X.25省略時のパケット・サイズ	要素リスト	オプション
	要素 1: 送信値	<u>*SAME</u> , *LIND, 64, 128, 256, 512, 1024, 2048, 4096	
	要素 2: 受信値	<u>*SAME</u> , *LIND, *TRANSMIT, 64, 128, 256, 512, 1024, 2048, 4096	

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
DFTWDWSIZE	X.25省略時のウィンドウ・サイズ	要素リスト	オプション
	要素 1: 送信値	1-15, *SAME, *LIND	
	要素 2: 受信値	1-15, *SAME, *LIND, *TRANSMIT	
USRGRPID	X.25 ユーザー・グループ識別コード	文字値, *SAME, *NONE	オプション
RVSCRG	X.25着信課金	*SAME, *NONE, *REQUEST, *ACCEPT, *BOTH	オプション
X25FRMRTY	X.25フレーム再試行	0-21, *SAME	オプション
X25RSPTMR	X.25応答タイマー	1-2550, *SAME	オプション
X25ACKTMR	X.25肯定応答タイマー	0-2550, *SAME	オプション
X25INACTMR	X.25非活動タイマー	1-2550, *SAME	オプション
USRFCL	ユーザー機能	文字値, *SAME, *NONE	オプション
CPSSN	APPN CPセッション・サポート	*SAME, *YES, *NO	オプション
NODETYPE	リモートAPPNノードのタイプ	*SAME, *CALC, *NETNODE, *ENDNODE, *LENNODE	オプション
BEXROLE	分岐拡張の役割	*SAME, *NETNODE, *ENDNODE	オプション
HPR	APPN/HPR使用可能	*SAME, *YES, *NO	オプション
HPRPTHSWT	HPRパス・スイッチ	*SAME, *NO, *YES	オプション
TMSGRPNBR	APPN伝送グループ番号	1-20, *SAME, *CALC	オプション
MINSWTSTS	APPN最小交換状況	*SAME, *VRYONPND, *VRYON	オプション
AUTCRTDEV	装置の自動作成	*SAME, *ALL, *DEVINIT, *NONE	オプション
AUTODLTDEV	自動装置削除	1-10000, 1440, *SAME, *NO	オプション
USRDFN1	ユーザー定義1	0-255, *SAME, *LIND	オプション
USRDFN2	ユーザー定義2	0-255, *SAME, *LIND	オプション
USRDFN3	ユーザー定義3	0-255, *SAME, *LIND	オプション
CMNRCYLMT	回復限界	単一値: *SAME, *SYSVAL その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: カウント限界	0-99	
	要素 2: 時間間隔	0-120	
MSGQ	MSG 待ち行列	単一値: *SAME, *SYSVAL, *SYSOPR その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: MSG 待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前	
RECONTACT	オフへの構成変更の再接続	*SAME, *YES, *NO	オプション
TEXT	テキスト記述	文字値, *SAME, *BLANK	オプション
PRIDLUS	1次DLUS名	単一値: *SAME, *NONE その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 制御点名	通信名	
	要素 2: ネットワーク識別コード	通信名, *NETATR	

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
BKUDLUS	バックアップDLUS名	単一値: <u>*SAME</u> , *NONE その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 制御点名	通信名	
	要素 2: ネットワーク識別コード	通信名, <u>*NETATR</u>	
ACTTMR	活動化タイマー	30-2550, <u>*SAME</u>	オプション
RECNTMR	切断/再接続タイマー(T309)	1-2550, <u>*SAME</u>	オプション

上

制御装置記述 (CTLD)

これは必須パラメーターです。

制御装置記述の名前を指定します。

上

IPL時のオンライン (ONLINE)

初期プログラム・ロード(IPL)時にこのオブジェクトを自動的にオンに構成変更するかどうかを指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*YES

制御装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されます。

*NO

制御装置は、IPL時に自動的に構成変更されることはありません。

上

交換網バックアップ活動化 (ACTSNBU)

交換網バックアップ(SNBU)機構をサポートし、IBM 386X, 586X,または786X型式でないモデムの場合に、SNBU機構を活動化するかまたは非活動化するかどうかを指定します。ローカル・モデムとリモート・モデムの両方とも、それを活動化するSNBUをサポートしていなければなりません。IBM 386X, 586X,または786X型式は、ハードウェア・スイッチでだけ活動化されます。この機構により、交換接続を確立することによって切断された非交換接続(非交換回線)をバイパスすることができます。

*SAME

この値は変更されません。

***NO**

SNBU機能は使用されません。

***YES**

SNBU機能が活動化されます。回線について交換網バックアップ活動化(ACTSNBU)パラメーターに*YES値も指定しなければなりません。

上

APPN可能 (APPN)

ローカル・システムがこの制御装置と通信する時に拡張対等通信ネットワーク(APPN)機能を使用するかどうかを指定します。TDLC回線に接続されたAPPC制御装置の場合には*YESを指定しなければなりません。

***SAME**

この値は変更されません。

***YES**

この制御装置はAPPN用です。

***NO**

この制御装置はAPPN用ではありません。

上

交換回線リスト (SWTLINLST)

この制御装置が接続している交換回線の名前を指定します。回線記述はすでに存在していなければなりません。最高64の交換回線名を指定することができます。

***SAME**

この値は変更されません。

交換回線名

この制御装置に接続される最大64の回線の名前を指定してください。同じ回線名を複数回使用することができます。指定された各回線名にはその名前の回線記述が前もって存在していなければなりません。

上

文字コード (CODE)

回線で拡張2進10進コード(*EBCDIC)または情報交換用米国標準コード(*ASCII)文字コードを使用するかどうかを指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*EBCDIC

拡張2進10進コード(EBCDIC)文字コードが使用されます。

*ASCII

ASCII文字コードが使用されます。

上

最大フレーム・サイズ (MAXFRAME)

制御装置が送受信できる最大フレーム (パス情報単位(PIU))サイズを指定します。この値は、要求単位 (RU)サイズを計算するために使用されます。制御装置が送信または受信できる最大PIUサイズはIDの交換時に折衝されるので、実行時に使用される最大PIUサイズは異なるものになることがあります。この値はホスト・システム側の対応する値と一致します。

*SAME

この値は変更されません。

*LINKTYPE

各種タイプでは次の値が使用されます。

- *FR - 1590
- *IDLC - 2048
- *LAN - 16393
- *SDLC - 521
- *X25 - 1024

最大フレーム・サイズ

制御装置のフレーム・サイズを指定してください。使用できるフレーム・サイズは、使用中の回線のタイプによります。各回線タイプで有効なフレーム・サイズは次のとおりです。

- *FRの場合、265から8182の値を指定してください。
- *IDLCの場合、265から8196の範囲の値を指定してください。
- *LANの場合、265から16393 (DDI LAN では265から4444)の範囲の値を指定してください。
- *SDLCの場合、265、521、1033、または2057を指定してください。
- *X25の場合、256、265、512、521、1024、1033、2048、または4096を指定してください。

上

リモート・ネットワーク 識別コード (RMTNETID)

隣接した制御点があるリモート・ネットワークの名前を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*NETATR

システム・ネットワーク属性に指定されたLCLNETID値が使用されます。

*NONE

リモート・ネットワークID (ID)は使用されません。

*ANY

どのX.25ネットワーク・アドレスからの呼び出しでも受け入れられます。

リモート・ネットワークID

リモート・ネットワークIDを指定してください。

上

リモート制御点 (RMTCPNAME)

リモート・システムの制御点名を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*NONE

リモート制御点名が使用されないことを指定します。

*ANY

システムが使用されるリモート制御点の名前を決定します。

リモート制御点名

リモート制御点名を指定してください。

上

隣接リンク端末 (ADJLNKSTN)

隣接したリンク端末の名前を指定します。この名前は、ホスト・システムとのリンクを確立する際に使用されるIBM System i5上の交換制御装置記述を特定するために、オペレーティング・システムで使用されます。IBM System i5の隣接したリンク端末名がリンクの活動化中にホスト・システムで指定された名前と一致していなければなりません。

*SAME

この値は変更されません。

*NONE

隣接リンク端末名は指定されません。

*ANY

システムが使用される隣接リンク端末を決定します。

隣接リンク端末名

隣接リンク端末名を指定してください。

上

SSCP識別コード (SSCPID)

ホスト・システムのシステム・サービス制御点IDを指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*NONE

システム・サービス制御点IDは指定されません。

システム・サービス制御点ID

システム・サービス制御点IDを12桁の16進値として指定してください。

上

初期接続 (INLCNN)

この制御装置との接続を確立するために使用する方式を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*DIAL

システムは発信呼び出しを開始し、着信呼び出しに応答します。

*ANS

接続は、この制御装置からの着信呼び出しにIBM System i5が応答した時に、そのISERIESシステムによって確立されます。リモート制御装置から呼び出しが受信され、必要なすべての条件が満たされると、システムは着信呼び出しに応答します。

X.25接続の場合には、制御装置が接続された回線でタイプOUTまたはBOTHのLGLCHLEパラメータでスイッチド・バーチャル・サーキット(SVC)が構成されていない限り(*SVCOUTまたは*SVCBOTH),接続は成功しません。

回線は、X.25回線記述変更(CHGLINX25)コマンドを使用して変更することができます。

上

ダイヤル開始 (DIALINIT)

システムとリモート制御装置の間の交換回線で最初にダイヤルを行うために使用される方式を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*LINKTYPE

開始する接続のタイプはLINKTYPEパラメータに指定します。LANまたはSDLC ダイヤル短期保留モード接続の場合には、省略時の値で制御装置記述がオンに構成変更されると、ただちに接続のダイヤル呼び出しが行われます。他のすべてのリンク・タイプの場合、省略時の値ではダイヤル呼び出しが遅延されます。

*IMMED

制御装置記述がオンに構成変更されると、ただちにダイヤル接続が開始されます。

***DELAY**

ダイヤル接続は、リモート制御装置資源の使用を要求するジョブが開始されるまで遅延されます。

上

接続番号 (C>NNNBR)

この制御装置と接続するためには、ダイヤル呼び出しする電話番号を指定します。

***SAME**

この値は変更されません。

***DC**

X.21交換接続ネットワークで直接呼び出しが使用されています。

***ANY** システムはどのネットワーク・アドレスからの呼び出しでも受け入れます。

接続番号

接続番号を指定してください。

上

返答番号 (ANSNBR)

そこからの呼び出しが受け入れられるX.25ネットワーク・アドレスを指定します。

***SAME**

この値は変更されません。

***C>NNNBR**

C>NNNBRパラメーターに指定されたX.25ネットワーク・アドレスからの呼び出しが受け入れられます。

***ANY**

どのX.25ネットワーク・アドレスからの呼び出しでも受け入れられます。

上

注: このパラメーターはもはやサポートされていません。これが存在するのは、オペレーティング・システムのバージョン5リリース3 モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を保つためだけです。

発信接続リスト (CNLSTOUT)

ISDN交換接続の場合には、ISDNへのダイヤル呼び出し操作のISDN割り当て番号が入っている接続リスト・オブジェクトの名前を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

リスト・オブジェクト

接続リスト・オブジェクトの名前を指定してください。

上

注: このパラメーターはもはやサポートされていません。これが存在するのは、オペレーティング・システムのバージョン5リリース3 モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を保つためだけです。

接続リスト項目 (CNLSTOUTE)

ISDN交換接続の場合には、ISDNへの呼び出しを行うために使用する接続リストからの項目名を指定します。この接続リストは、**発信接続リスト(CNLSTOUT)**パラメーターで識別されていなければなりません。

*SAME

この値は変更されません。

項目名

項目名を指定してください。

上

注: このパラメーターはもはやサポートされていません。これが存在するのは、オペレーティング・システムのバージョン5リリース3 モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を保つためだけです。

IDLCウィンドウ・サイズ (IDLCWDWSIZ)

IDLC回線に接続された制御装置と送受するためのウィンドウ・サイズを指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*LIND

回線記述に指定された値が省略時のウィンドウ・サイズとして使用されます。

ウィンドウ・サイズ

ウィンドウ・サイズを指定してください。有効な値の範囲は1から31です。

上

注: このパラメーターはもはやサポートされていません。これが存在するのは、オペレーティング・システムのバージョン5リリース3 モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を保つためだけです。

IDLCフレーム再試行 (IDLCFRMRTY)

エラーを報告する前にフレームの送信を試みる最大試行回数を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*LIND

回線記述に指定された試行回数が使用されます。

IDLCフレーム再試行

試行回数を指定してください。有効な値の範囲は0から100です。

上

注: このパラメーターはもはやサポートされていません。これが存在するのは、オペレーティング・システムのバージョン5リリース3 モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を保つためだけです。

IDLC応答タイマー (IDLCRSPTMR)

肯定応答が受信されない場合にフレームの再送信までの待機時間を1/10秒単位で指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*LIND

回線記述に指定された時間が使用されます。

IDLC応答タイマー

時間の長さを指定してください。有効な値の範囲は10分の1秒単位で10から100です。例えば、1秒の10分の100秒は10秒と等しくなります。

上

注: このパラメーターはもはやサポートされていません。これが存在するのは、オペレーティング・システムのバージョン5リリース3 モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を保つためだけです。

IDLC接続再試行 (IDLCCNNRTY)

接続時に再送信を試みる回数を指定します。

***SAME**

この値は変更されません。

***LIND**

回線記述に指定された試行回数が使用されます。

***NOMAX**

正常な送信が行われるまで続行することを指示します。

接続再試行

試行回数を指定してください。有効な値の範囲は1から100です。

上

事前ダイヤル呼び出し遅延 (PRELDLY)

番号をダイヤル呼び出しする前に待機する時間間隔(0.5秒間隔で)を指定します。

***SAME**

この値は変更されません。

ダイヤル前遅延

0から254の範囲の単位数値を指定してください。各単位は0.5秒を表します。遅延なしを指示するには、値0を指定してください。

上

再ダイヤル呼び出し遅延 (REDIALDLY)

呼び出しの試みが正常に行われなかった時に、ダイヤル再呼び出しする前に待機する時間間隔(0.5秒間隔で)を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

再ダイヤル遅延

0から254の範囲の単位数値を指定してください。各単位は0.5秒を表します。遅延なしを指示するには、値0を指定してください。

上

ダイヤル呼び出し再試行 (DIALRTY)

ダイヤル呼び出しが失敗したと見なされる前に、システムによって行われる再ダイヤルの試行回数を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

ダイヤル呼び出し再試行

ダイヤル呼び出しが試みられる回数として0.5秒間隔の単位で0から254の範囲の値を指定してください。

上

交換回線切断 (SWTDSC)

最後の装置がオフに構成変更された時に、この制御装置に対する交換接続を除去するかどうかを指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*NO

最後の装置がオフに構成変更されても、交換接続が切断されません。

*YES

最後の装置がオフに構成変更されると、交換接続がオフに構成変更されます。

上

切断タイマー (DSCTMR)

活動のない接続が除去されるまでの時間（秒数）、または自動切断を遅延させる時間量を制御するオプションを指定します。回線を除去したくない場合には、SWTDSCパラメーターに*NOを指定してください。

要素1:最小接続タイマー

*SAME

この値は変更されません。

切断タイマー

切断前の待機時間を指定してください。有効な値の範囲は0から65535秒です。

要素2:切断遅延タイマー

*SAME

この値は変更されません。

切断遅延タイマー

制御装置で最後のセッションが停止された後で、リンク解放を遅延する値を指定してください。有効な値の範囲は0から65535秒です。

上

端末アドレス (STNADR)

制御装置と通信する時に使用される端末アドレスを指定します。

有効な値の範囲は00からFEです。

注: 00は、リンク・タイプ (LINKTYPE)パラメーターに対して*TDLCが指定されている時のAPPC制御装置の場合にだけ指定することができます。

注: ROLEパラメーターに*SECを指定した場合には、これはリモート制御装置の端末アドレスです。ROLEパラメーターに*PRIまたは*NEGを指定した場合には、これはローカル端末アドレスです。

*SAME

この値は変更されません。

上

LAN リモート・アダプター・アドレス (ADPTADR)

リモート制御装置の12文字のアダプター・アドレスを指定します。これは、システムがリモート制御装置と通信する時にシステムがデータを送信するアドレスです。この値は、リモート制御装置の構成レコードから獲得することができます。有効な値の範囲は、16進数000000000001から16進数FFFFFFFFFFFFまでです。

*SAME

この値は変更されません。

アダプター・アドレス

リモート制御装置のアダプター・アドレスを指定してください。

上

LAN DSAP (DSAP)

宛先サービス・アクセス・ポイント(DSAP)を指定します。これは、このシステムがリモート制御装置と通信する時に送る論理アドレスです。このアドレスによって、制御装置はこのシステムからのデータを適切に経路指定することができます。宛先サービス・アクセス・ポイントの省略時の値は04です。

値は、リモート制御装置の構成レコードのソース・サービス・アクセス・ポイント(SSAP) パラメーターに指定された値と一致しなければなりません。

注: *OPC制御装置は、このフィールドに上記の値を使用します。RMTSYSNAMEとDSAP の組み合わせで固有の制御装置が定義されます。これにより、2つのシステム間で複数の制御装置が存在できるようになります。

*SAME

この値は変更されません。

宛先サービス・アクセス・ポイント

宛先サービス・アクセス・ポイントを表す04から9Cの範囲の16進値を4の増分（例えば04, 08, 0C, 10)で指定してください。

上

LAN SSAP (SSAP)

ソース・サービス・アクセス・ポイント(SSAP)を指定します。これは、ローカル・システムがデータをリモート制御装置に送信する時に使用する論理アドレスです。このアドレスによって、制御装置はローカル・システムからのデータを適切に経路指定することができます。ソース・サービス・アクセス・ポイント(SSAP)の省略時の値は04です。

これは、リモート制御装置の構成レコード中で宛先サービス・アクセス・ポイント(DSAP)に割り当てられている値と一致しなければなりません。

***SAME**

この値は変更されません。

ソース・サービス・アクセス・ポイント

ソース・サービス・アクセス・ポイントを表す04から9Cの範囲の16進値を4の増分（例えば04, 08, 0C, 10）で指定してください。

上

LANフレーム再試行 (LANFRMRTY)

LANRSPTMRパラメーターで指定された時間枠内にリモート制御装置からの肯定応答がなかったときに、送信が再試行される回数を指定します。この値が使用されるのは、接続が正常に行われた後だけです。

***SAME**

この値は変更されません。

***CALC**

システムがタイマー値を決定します。

LANフレーム再試行

肯定応答が受信されるまでフレームが送信される回数として0から254の範囲の値を指定してください。

上

LAN接続再試行 (LANCNRRTY)

肯定応答が受信されるまで、送信が試みられる回数を指定します。この値は接続時に使用されます（接続が確立された後で使用されるLANFRMRTYとは異なります）。

***SAME**

この値は変更されません。

***CALC**

システムがタイマー値を決定します。

LAN接続再試行

肯定応答が受信される前に試みられる伝送回数として0から254の範囲の値を指定してください。

上

LAN応答タイマー (LANRSPTMR)

接続時にリンクの作動不可条件を判別するために使用する時間を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*CALC

システムがタイマー値を決定します。

LAN応答タイマー

1から254の単位数値を指定してください。各単位は0.1秒を表します。タイマーなしを指示するには、0を指定してください。

上

LAN接続タイマー (LANCNNTMR)

接続時にリンクの作動不可条件を判別するために使用する時間を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*CALC

システムがタイマー値を決定します。

LAN接続タイマー

非操作状態が起こるまでシステムが待機する時間の長さとして0.1秒間隔の単位で1から254の範囲の値を指定してください。タイマーなしを指示するには、0を指定してください。

上

LAN肯定応答タイマー (LANACKTMR)

受信したフレームに対する肯定応答の送信を延期する時間間隔を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*CALC

システムがタイマー値を決定します。

LAN肯定応答タイマー

1から254の範囲の単位数値を指定してください。各単位は0.1秒を表します。タイマーなしを指示するには、0を指定してください。 **LAN肯定応答頻度(LANACKFRQ)**パラメーターに0を指定した場合には、このパラメーターにも0を指定しなければなりません。 **LANACKFRQ**パラメーターにゼロ以外の数値を指定した場合には、このパラメーターにもゼロ以外の値を指定しなければなりません。

上

LAN非活動タイマー (LANINACTMR)

制御装置の非活動条件を判別するために使用する時間を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*CALC

システムがタイマー値を決定します。

LAN非活動タイマー

制御装置の非操作状態の有無を判別するために使用される時間の長さとして0.1秒間隔の単位で1から255の範囲の値を指定してください。タイマーなしを指示するには、0を指定してください。

上

LAN肯定応答頻度 (LANACKFRQ)

制御装置に肯定応答を送る前に受け取るフレームの最大数を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*CALC

システムがLAN肯定応答頻度値を決定します。

LAN肯定応答頻度

受信フレームの数として0から127の範囲の値を指定してください。 **LAN肯定応答タイマー (LANACKTMR)**パラメーターに0を指定した場合には、このパラメーターにも0を指定しなければなりません。 LANACKTMRパラメーターにゼロ以外の数値を指定した場合には、このパラメーターにもゼロ以外の値を指定しなければなりません。

上

LAN最大未処理フレーム数 (LANMAXOUT)

リモート・システムから肯定応答が受信されるまでに、送信できるフレームの最大数を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*CALC

システムがLAN最大未処理フレーム数値を決定します。

LAN最大未処理フレーム数

肯定応答が受信されるまでに送信できるフレームの数として1から127の範囲の値を指定してください。

上

LANアクセス優先順位 (LANACCPTY)

リモート制御装置にアクセスするために使用される優先順位を指定します。 数字が大きくなるほどこの制御装置の優先順位は高くなります。このパラメーターは、制御装置がTRLANに接続されている場合にのみ使用されます。

*SAME

この値は変更されません。

***CALC**

システムがLANアクセス優先順位値を決定します。

LANアクセス優先順位

ローカル・エリア・ネットワーク(LAN)上のこの制御装置のアクセス優先順位として0から3の範囲の値を指定してください。

上

LANウィンドウ・ステップ (LANWDWSTP)

ネットワーク負荷過剰の間にリモート・システムに対する未処理のフレームの最大数を1に減らすかどうかを指定します。このパラメーター(LANウィンドウ・ステップ)は、未処理フレームの最大数を1ずつ増やそうとすることができるようになる前に、リモート・システムから正常に受け取られていなければならないフレームの数を指示します。未処理フレームの最大数がLAN最大未処理フレーム数(LANMAXOUT)パラメーターに指定された値に達するまで、このような増加が続きます。

***SAME**

この値は変更されません。

***NONE**

ネットワーク負荷過剰の時に未処理フレーム数が削減されません。

LANウィンドウ・ステップ

未処理フレームの最大数が1増えるまでに、リモート・システムによって正常に受信されなければならないフレームの数として1から127の範囲の値を指定してください。

上

X.25ネットワーク・レベル (NETLVL)

この制御装置にアクセスするために使用されるX.25ネットワークのレベルを指定します。レベルは、X.25ネットワークが何年版の標準を使用するかを指定します。

注: リモートDTEまたはネットワーク・レベルには低い値を使用するようにお奨めします。例えば、リモートDTEがCCITT標準の1980およびネットワーク1984を使用している場合には、このパラメーターに1980を指定してください。

***SAME**

この値は変更されません。

1980

1980標準が使用されます。

1984

1984標準が使用されます。

1988

1988標準が使用されます。

上

X.25 リンク・レベル・プロトコル (LINKPCL)

この制御装置と通信するためにX.25ネットワークで使用されるリンク・レベル・プロトコルを指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*QLLC

修飾論理リンク制御(QLLC)プロトコルが使用されます。

*ELLC

拡張論理リンク制御(ELLC)プロトコルが使用されます。

上

X.25接続パスワード (CNNPWD)

X.24呼び出し要求および着信呼び出しパケット（呼び出しユーザー・データ・フィールド）とのパスワード交換に使用されるX.25ネットワーク・パスワードを指定します。パーマネント・バーチャル・サーキット(PVC)接続の場合には、このパラメーターは無効です。

16進数値が40以下の文字から構成される接続パスワード使用したい場合には、そのパスワードを16進数値として指定しなければなりません。8バイト未満を指定すると、パスワード・フィールドの終わりにブランクが埋め込まれます。全桁ブランクのパスワードは無効です。接続を確立するためには、すべての着信呼び出し要求がこのパスワードと一致しなければなりません。

16進数パスワードを指定するためには、その桁数が2の倍数で、16桁以下の長さで、アポストロフィで囲み、Xが先行するものを指定しなければなりません。例えば、X'0102030405'は有効な16進数パスワードです。

注: スイッチド・バーチャル・サーキット(SVC)上の拡張論理リンク制御(ELLC)プロトコル LINKPCL(*ELLC) によって稼働する制御装置の場合には、この接続パスワードを強くお奨めします。この拡張プロトコルは、切断信号で回線を切断するネットワーク・エラーが起こった後の回線接続の再接続をサポートします。しかし、この再接続は、制御装置の固有のIDとして使用されるパスワード妥当性検査手順なしでは実行することはできません。

***SAME**

この値は変更されません。

***NONE**

接続パスワードは使用されません。

X.25接続パスワード

接続パスワードを指定してください。各制御装置のパスワードは、40からFFの範囲の16進値で表されるどの英数字からでも構成することができます。

上

X.25交換回線選択 (SWTLINSLCT)

X.25交換回線リストから回線を選択するために使用する方法を指定します。

***SAME**

この値は変更されません。

***FIRST**

交換回線リスト中の最初の回線から回線が選択されていきます。

***CALC**

システムが交換回線リスト中の選択される回線を決定します。

上

X.25省略時のパケット・サイズ (DFTPKTSIZE)

X.25ネットワークで送受信に使用される省略時のパケット・サイズを指定します。

指定できる送信の値は次の通りです。

***SAME**

この値は変更されません。

***LIND**

回線記述に指定された値が省略時の値です。

送信パケット・サイズ

送信用の省略時のパケット・サイズを指定してください。パケット・サイズの有効な値は64, 128, 256, 512, 1024, 2048, および4096 です。

指定できる受信の値は次の通りです。

***SAME**

この値は変更されません。

***LIND**

回線記述に指定された値が省略時の値です。

***TRANSMIT**

送信用の省略時のパケット・サイズとして指定された値が受信の省略時の値として使用されます。

受信パケット・サイズ

受信用の省略時のパケット・サイズを指定してください。パケット・サイズの有効な値は64, 128, 256, 512, 1024, 2048, および4096です。

上

X.25省略時のウィンドウ・サイズ (DFTWDWSIZE)

送信および受信用の省略時のウィンドウ・サイズを指定します。

要素1:送信ウィンドウ・サイズ

***SAME**

この値は変更されません。

***LIND**

回線記述に指定された値が省略時のウィンドウ・サイズとして使用されます。

送信ウィンドウ・サイズ

適切な省略時のウィンドウ・サイズを指定します。モジュラス8を指定している場合は、有効な値の範囲は1から7です。モジュラス128を指定した場合には、有効な値の範囲は1から15です。スイッチド・バーチャル・サーキット(SVC)着信呼び出しの場合には、システムは、着信呼び出しパケット機能フィールドで示されたウィンドウ・サイズを受け入れます。

要素2:受信ウィンドウ・サイズ

*SAME

この値は変更されません。

*LIND

回線記述に指定された値が省略時のウィンドウ・サイズとして使用されます。

*TRANSMIT

送信用の省略時のウィンドウ・サイズとして指定された値が受信用の省略時の値として使用されます。

受信ウィンドウ・サイズ

適切な省略時のウィンドウ・サイズを指定します。モジュラス8を指定している場合は、有効な値の範囲は1から7です。モジュラス128を指定した場合には、有効な値の範囲は1から15です。

上

X.25 ユーザー・グループ識別コード (USRGRPID)

X.25ネットワークのスイッチド・バーチャル・サーキット(SVC)制御装置用の閉域接続グループIDを指定します。

ネットワーク・サブスクリプションによって提供される00から99の2桁の10進数値を指定します。パーマネント・バーチャル・サーキット(PVC)接続の場合には、このパラメーターは無効です。これが有効となるのはSVC回線発信呼び出し操作の場合だけであり、SVC着信呼び出し接続の場合は無視されます。

*SAME

この値は変更されません。

*NONE

ユーザー・グループIDに値が指定されません。

上

X.25着信課金 (RVSCRG)

この制御装置と接続する時にコレクトコールを受け入れるかまたは要求するかどうかを指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*NONE

ネットワーク料金請求のコレクトコールは受け入れられません。

*REQUEST

発信呼び出し要求パケットで課金が要求されます。

*ACCEPT

着信要求でネットワーク料金請求のコレクトコールが受け入れられます。

*BOTH

着信と発信の両方の要求が受け入れられます。

上

X.25フレーム再試行 (X25FRMRTY)

この制御装置に接続する時に、応答タイマーが切れた後でフレームが送信される最大回数を指定します。このパラメーターの値は、ネットワークによって提供されるサービス品質およびそのネットワークへの接続形態によります。すなわちそれは、リンク・プロトコル・データ単位が失われる頻度によります。

*SAME

この値は変更されません。

X.25フレーム再試行

フレームの送信回数として0から21の範囲の値を指定してください。

上

X.25応答タイマー (X25RSPTMR)

この制御装置に接続中でLLCプロトコル・データ装置を送る時に、肯定応答を戻すことのできる時間を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

X.25応答タイマー

時間の長さを0.1秒単位で指定してください。有効な値の範囲は0.1秒間隔の単位で1から2550です。

上

X.25肯定応答タイマー (X25ACKTMR)

受信したフレームへの肯定応答の送信を遅らせる時間の長さを指定します。

*SAME

この値は変更されません。

X.25肯定応答タイマー

有効な値の範囲は0.1秒間隔の単位で1から2550です。0は、遅延がないことを示します。

上

X.25非活動タイマー (X25INACTMR)

制御装置の非活動条件を判別するために使用する時間を指定します。有効な値は、0.1秒単位の1から2550です。

*SAME

この値は変更されません。

上

ユーザー機能 (USRFCL)

追加のサービスを要求するためには、X.25ネットワークに送信する16進文字のストリングを指定します。システムでは最高218桁の16進文字を使用することができます。

*NONE

ユーザー機能に値が指定されません。

***SAME**

この値は変更されません。

上

APPN CPセッション・サポート (CPSSN)

この制御装置が制御点相互間のセッションをサポートするかどうかを指定します。

***SAME**

この値は変更されません。

***YES**

この制御装置は制御点間のセッションをサポートします。

***NO**

この制御装置は、制御点間のセッションをサポートしません。

上

リモートAPPNノードのタイプ (NODETYPE)

この制御装置が表すAPPNノードのタイプを指定します。

***SAME**

この値は変更されません。

***ENDNODE**

このノードは、APPNネットワーク中のエンド・ノードです。

***NETNODE**

このノードは、APPNネットワーク中のネットワーク・ノードです。

***LENNODE**

このノードは、APPNネットワーク中のローエントリー・ネットワーキング・ノードです。

***CALC**

システムがこの制御装置で表されるノードのタイプを決定します。

上

分岐拡張の役割 (BEXROLE)

構成するリモート制御装置のAPPNネットワークで、ローカル・システムの役割を指定します。このパラメーターは、*BEXNODEに設定されるネットワーク属性でNODETYPEパラメーターを介して、ローカル・システムが分岐拡張機能を使用できるようになった時にだけ使用されます。

*SAME

この値は変更されません。

*NETNODE

ローカル・システムは、リモート制御装置に対してネットワーク・ノードの役割をもちます。

*ENDNODE

ローカル・システムは、リモート制御装置のエンド・ノードの役割をもちます。

上

APPN/HPR使用可能 (HPR)

この制御装置との通信時に、ローカル・システムがAPPNハイ・パフォーマンス・ルーティング(HPR)を使用できるかどうかを指定します。HPRを使用できるようにするためには、制御装置記述にAPPN(*YES)を指定しなければなりません。HPR(*YES)を指定する場合には、交換回線リストによって指定された回線のMAXFRAMEパラメーターの値が768より大きいか等しくなければなりません。そうでない場合には、この接続についてHPRは使用可能となりません。

*SAME

この値は変更されません。

*YES

ローカル・システムはHPRを使用することができ、HPRフローはこの制御装置で定義されたリンク上で進行することができます。

*NO

ローカル・システムはHPRを使用することができず、HPRフローはこの制御装置の省略時のリンク上で進行することはできません。

HPRパス・スイッチ (HPRPTHSWT)

この制御装置がオフに構成変更された時点でこの制御装置と関連したHPR接続のパスを切り替える試みが行なわれるかどうかを指定します。パス・スイッチが試みられなかったり、あるいは使用可能なその他のパスがなかった場合には、HPR接続と関連したジョブは終了されます。

詳細については、APPN情報は、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)のネットワーク・カテゴリーを参照してください。

*SAME

この値は変更されません。

*NO

この制御装置がオフに構成変更されると、この制御装置に関連したHPR接続に経路切り換えは行われません。HPR接続と関連したジョブは終了されます。

*YES

この制御装置がオフに構成変更されると、この制御装置に関連したHPR接続の経路切り換えが試みられます。

APPN伝送グループ番号 (TMSGRPNBR)

この制御装置の伝送グループ番号を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*CALC

システムが伝送グループ番号の値を指定します。

伝送グループ番号

伝送グループ番号として1から20の範囲の値を指定してください。

APPN最小交換状況 (MINSWTSTS)

APPNが経路指定に使用可能な制御装置と見なすように、交換接続の最小状況を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*VRYONPND

状況が「オンに構成変更保留中」、
「オンに構成変更」、または「活動状態」である場合にのみ、
APPNは制御装置を経路指定用に使用可能と見なします。

*VRYON

状況が「オンに構成変更」または「活動状態」である場合にのみ、
APPNは制御装置を経路指定用に使用可能と見なします。

上

装置の自動作成 (AUTOCRTDEV)

この制御装置記述で装置記述を自動的に作成できるかどうかを指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*ALL

この制御装置に自動的に作成可能なすべての従属装置は、
APPC装置を除いて自動的に作成されます。

*DEVINIT

セッション印刷装置およびSNAホスト制御装置によって開始された
(装置開始) 表示装置だけが自動的に作成されます。

*NONE

この制御装置の従属装置は自動的に作成されることはありません。

上

自動装置削除 (AUTODLTDEV)

自動的に作成された装置がアイドル状態になっていられる（その装置に対して活動状態の会話がない時）時間（分数）を指定します。この時間が経過すると、システムはその装置記述を自動的にオフに構成変更し、削除します。

*SAME

この値は変更されません。

***NO**

システムは、アイドル状態の自動構成装置記述を自動的にオフに構成変更して、削除することはありません。

待機時間

この制御装置のアイドルの自動構成装置記述を削除するまでに、待機する分数を指定してください。有効な値の範囲は1から10,000です。

上

ユーザー定義1 (USRDFN)

このフィールドは、制御したい回線の固有の特性を記述するために使用されます。このパラメーターは、システム上で拡張対等ネットワーク機能(APPN)が使用されている場合にだけ有効です。

*SAME

この値は変更されません。

***LIND**

回線記述に指定されたユーザー定義値が使用されます。

ユーザー定義

0から255の範囲の値を指定してください。

上

ユーザー定義2 (USRDFN)

このフィールドは、制御したい回線の固有の特性を記述するために使用されます。このパラメーターは、システム上で拡張対等ネットワーク機能(APPN)が使用されている場合にだけ有効です。

*SAME

この値は変更されません。

***LIND**

回線記述に指定されたユーザー定義値が使用されます。

ユーザー定義

0から255の範囲の値を指定してください。

上

ユーザー定義3 (USRDFN)

このフィールドは、制御したい回線の固有の特性を記述するために使用されます。このパラメーターは、システム上で拡張対等ネットワーク機能(APPN)が使用されている場合にだけ有効です。

***SAME**

この値は変更されません。

***LIND**

回線記述に指定されたユーザー定義値が使用されます。

ユーザー定義

0から255の範囲の値を指定してください。

上

回復限界 (CMNRCYLMT)

システム操作員に照会メッセージが送られる前にシステムによって行なわれる回復処置の試行回数を指定します。また、回復処置の試行回数がカウント限界に達したことを示す照会メッセージをシステム操作員に送る前に経過していなければならない時間(分数)も指定します。

要素1:最大回復限界

***SAME**

この値は変更されません。

***SYSVAL**

QCMNRCYLMTシステム値の値が使用されます。

カウント限界

行なわれる第2レベルの回復処置の試行回数を指定してください。有効な値の範囲は、0から99です。

要素2:回復時間間隔

時間間隔

指定された回数の第2レベルの回復が試みられる時間間隔（分数）を指定してください。有効な値の範囲は0から120です。カウント限界に指定された値が0でない場合には、値0は時間無制限の回復を指定します。

通信回復の詳細はCOMMUNICATIONS MANAGEMENT (SC41-5406)にあります。

上

MSG 待ち行列 (MSGQ)

操作メッセージが送られるメッセージ待ち行列を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*SYSVAL

メッセージは、QCFGMSGQシステム値に定義されたメッセージ待ち行列に送られます。

*SYSOPR

メッセージは、システム操作員メッセージ待ち行列(QSYS/QSYSOPR)に送られます。

修飾子1: MSG 待ち行列

名前 操作メッセージが送られるメッセージ待ち行列の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

名前 メッセージ待ち行列が入っているライブラリーの名前を指定してください。

上

オフへの構成変更の再接続 (RECONTACT)

制御装置記述の通常のオフへの構成変更が実行された時に、ホスト・システムに再接続の要求を送るかどうかを指定します。

注: このパラメーターはX.25およびSDLC専用回線の場合にのみ有効です(LINKTYPEパラメーターに*X.25または*SDLCを指定し、SWITCHEDパラメーターに*NOを指定した場合)。

*SAME

この値は変更されません。

*YES

リモート・システムへの再接続要求が送信されます。

***NO**

リモート・システムへの再接続要求は送信されません。この値を指定すると、リモート・システムに対して非活動状態の状況が示されます。

上

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

***SAME**

この値は変更されません。

***BLANK**

テキストは指定されません。

文字値

50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

上

1 次DLUS名 (PRIDLUS)

1次従属LUサーバー(DLUS)名およびネットワークIDを指定します。

名前はXXXXXXXXX YYYYYYYYの形式です。これは、CP名となる接頭部とリモートDLUSが常駐するAPPNネットワーク（サブネット）のネットワークIDとなる接尾部からなります。DLUSがIBM System i5と同じネットワークにある場合には、ユーザーはCP名を定義するだけです。使用される省略時のネットワークIDは、ネットワーク属性に指定されたローカル・ネットワークIDです。

DLURホスト制御装置が優先的に通信するリモートDLUSシステム・サービス制御点(SSCP)のネットワークで修飾したCP名。このパラメーターを指定し、DLUR制御装置が初期接続*DIALとして構成されている場合には、IBM System i5はまず活動化要求をこのDLUSに送信します。

省略時の値は*NONEですが、初期接続が*DIAL INLCNN(*DIAL)である場合には、このパラメーターは必須パラメーターとなります。

要素1: 1次DLUS名

***SAME**

この値は変更されません。

***NONE**

1次CP名は指定されません。

1次DLUS名

1次従属LUサーバーの名前を指定してください。

要素2:ネットワークID

***SAME**

この値は変更されません。

***NETATR**

システム・ネットワーク属性に指定されたLCLNETID値が使用されます。

ネットワークID

従属LUサーバーのネットワークIDを指定してください。

上

バックアップDLUS名 (BKUDLUS)

バックアップ従属LUサーバー(DLUS)名およびネットワークIDを指定します。

名前はXXXXXXXXX YYYYYYYYの形式です。これは、CP名となる接頭部とリモートDLUSが常駐するAPPNネットワーク（サブネット）のネットワークIDとなる接尾部からなります。DLUSがIBM System i5と同じネットワークにある場合には、ユーザーはCP名を定義するだけです。使用される省略時のネットワークIDは、ネットワーク属性に指定されたローカル・ネットワークIDです。

DLURホスト制御装置が優先的に通信するリモートDLUSシステム・サービス制御点(SSCP)のネットワークで修飾したCP名。このパラメーターを指定し、DLUR制御装置が初期接続*DIALとして構成されている場合には、IBM System i5はまず活動化要求をこのDLUSに送信します。

省略時の値は*NONEですが、初期接続が*DIAL INLCNN(*DIAL)である場合には、このパラメーターは必須パラメーターとなります。

要素1:バックアップDLUS名

***SAME**

この値は変更されません。

***NONE**

バックアップCP名は指定されません。

バックアップDLUS名

バックアップ従属LUサーバーの名前を指定してください。

要素2:ネットワークID

*SAME

この値は変更されません。

*NETATR

システム・ネットワーク属性に指定されたLCLNETID値が使用されます。

ネットワークID

バックアップ従属LUサーバーのネットワークIDを指定してください。

上

30-2550 (秒) (ACTTMR)

このタイマーは、システムがリモートDLUSノード（初期接続*DIAL）とのセッションの活動化を試みる時に使用されます。これは、システムがリモートDLUSからの応答を待機する時間です。

このパラメーターは、回復限界(CMNRCYLMT)のカウント限界およびタイマー間隔と一緒に使用されます。各試みごとに（カウント限界まで）、活動化要求（活動化タイマーで時間設定）が行われます。試みと試みの間に、システムは新しい活動化要求を試みる前に、タイマー間隔の間待機します（システムが、再試行エラー・メッセージを受信する前にタイムアウトになるものと仮定した場合）。

1次DLUSに対する試みで3つのパラメーターが使用され、カウント限界を超えると、システムはリセットして、バックアップDLUS（構成されている場合）に対して同じ再試行限界カウントを試みます。構成されたすべてのDLUSノードに対する再試行限界カウントが使い果たされると、エラー・メッセージがQSYSOPRメッセージ・ログに送られますが、このメッセージには活動化手順全体をやり直すためのオプションがあります。

*SAME

この値は変更されません。

活動タイマー値

30から2550（秒数）の範囲の値を指定してください。

上

切断／再接続タイマー(T309) (RECNTMR)

このタイマーは、リモートDLUSノードに対するセッションで障害が起こった時に使用されます。これは、DLUSノードが活動化要求をホスト・システムに送り戻すのをホスト・システムDLURサポートが待機する時間です。このタイマーが切れると、ホスト・システムは次のことを行ないます。

- DLURホスト制御装置がINLCNN(*DIAL)に構成されている場合：
 1. DLURサポートは、セッション障害が起こった時点でシステムが接続されていたDLUSノードとのセッションの活動化を1回試みます。
 2. この試みが失敗した場合には、再試行オプションのあるQSYSOPRメッセージ・ログ中のエラー・メッセージが表示されます。再試行を選択した場合には、構成された1次／バックアップDLUSを介してもう一度活動化要求が送られます。
- DLURホスト制御装置がINLCNN(*ANS)に構成されている場合：
 1. DLUR制御装置はDLUSノードからの活動化の試みを待機します。

*SAME

この値は変更されません。

再接続タイマー値

30から2550（秒数）の範囲の値を指定してください。

上

例

```
CHGCTLHOST CTLD(BOSTON) SSCPID(050000000011)
```

このコマンドは、BOSTONという名前のホスト制御装置を、SSCPIDが050000000011となるように変更します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF2652

制御装置記述&1は変更されなかった。

上

制御装置記述の変更(ローカル WS) (CHGCTLLWS)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ローカル・ワークステーション制御装置記述の変更(CHGCTLLWS)コマンドにより、ローカル・ワークステーション制御装置の制御装置記述が変更されます。

注: 拡張無線制御装置構成データは、それぞれINZFILEおよびINZMBRパラメーターで指定したソース・ファイルおよびメンバーに入っています。制御装置をオンに構成変更すると、この構成データが無線アダプターにダウンロードされます。INZPGM(QZXCINZ)およびINZFILE(QEWCSRC)を使用し、INZMBRパラメーターに有効な値を指定することをお勧めします。拡張無線制御装置構成データのダウンロードの詳細については、AS/400 LAN,フレームおよびATMサポート (SD88-5012)を参照してください。

制約事項: このコマンドを使用するには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
CTLD	制御装置記述	名前	必須, キー, 定位置 1
RSRCNAME	資源名	名前, *SAME	オプション
ONLINE	IPL時のオンライン	*SAME, *YES, *NO	オプション
DEVWAITTMR	入出力装置待ちタイマー	2-600, *SAME	オプション
AUTOCFG	自動構成制御装置	*SAME, *YES, *NO	オプション
INZFILE	初期設定ソース・ファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 初期設定ソース・ファイル	名前, *SAME, *NONE	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
INZMBR	初期設定ソース・メンバー	名前, *SAME, *NONE	オプション
INZPGM	初期設定プログラム	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 初期設定プログラム	名前, *SAME, *NONE	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
MSGQ	MSG 待ち行列	単一値: *SAME, *SYSVAL, *SYSOPR その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: MSG 待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前	
TEXT	テキスト記述	文字値, *SAME, *BLANK	オプション

上

制御装置記述 (CTLD)

これは必須パラメーターです。

制御装置記述の名前を指定します。

上

資源名 (RSRCNAME)

この記述が表すハードウェアを識別する資源名を指定します。WRKHDWRSCコマンドを使用して資源名を判別してください。

*SAME

この値は変更されません。

上

IPL時のオンライン (ONLINE)

初期プログラム・ロード(IPL)時にこのオブジェクトを自動的にオンに構成変更するかどうかを指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*YES

制御装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されます。

*NO

制御装置は、IPL時に自動的に構成変更されることはありません。

上

入出力装置待ちタイマー (DEVWAITTMR)

装置待機タイムアウト値を指定します。この値を用いて、サブシステムがワークステーション入出力の完了に要する見込み時間の長さを限定します。各装置に使用されるタイムアウト値は、オンに構成変更された時点で、接続している制御装置から得られます。このパラメーター値を変更すると、接続装置が次にオンに構成変更された時点で影響が出ます。

*SAME

この値は変更されません。

装置待ちタイマー

サブシステムがこの制御装置に接続されたすべてのワークステーションでワークステーション入出力の完了を待機する最大秒数を指定する2から600の範囲の値を指定してください。

このパラメーターに値を選択する時には、制御装置に接続される装置のタイプを考慮してください。ローカルに接続されるワークステーションでは、このパラメーターは低い値(10秒以下) にしてください。

上

自動構成制御装置 (AUTOCFG)

この制御装置記述が装置の自動構成時に、その装置が接続される記述であるかどうかを指定します。各制御装置には複数の制御装置記述が存在することができますが、自動構成制御装置となることができるのは1つの記述だけです。その制御装置で新しい装置が自動的に構成されると、その装置は自動構成制御装置記述に追加されます。

*SAME

この値は変更されません。

*NO

これは、自動構成制御装置ではありません。

*YES

これは自動構成制御装置です。

上

初期設定ソース・ファイル (INZFILE)

構成初期設定データが入っているソース・ファイルの名前を指定します。

注: このコマンドの説明の始めで説明したように拡張無線制御装置構成データを無線アダプターにダウンロードする時には、INZFILEおよびINZMBRパラメーターが必要です。

*SAME

この値は変更されません。

*NONE

初期設定ファイル名は指定されません。

初期設定ファイルの名前は、次のライブラリー値の1つで修飾することができます。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

初期設定ファイル名

初期設定データが入っているソース・ファイルの名前を指定します。このパラメーターには*NONEの値が受け入れられます。この制御装置記述をオンに構成変更する前にソース・ファイル名が追加されていない場合には、現行のIOPの省略時の値が初期設定に使用されます。

上

初期設定ソース・メンバー (INZMBR)

構成初期設定データが入っているソース・ファイル・メンバーの名前を指定します(266A制御装置の場合のみ)。

注: このコマンドの説明の始めで説明したように拡張無線制御装置構成データを無線アダプターにダウンロードする時には、INZFILEおよびINZMBRパラメーターが必要です。

***SAME**

この値は変更されません。

***NONE**

ソース・ファイル・メンバーは指定されません。

初期設定メンバー名

初期設定データが入っているソース・ファイル・メンバーの名前を指定します。このパラメーターには*NONEの値が受け入れられます。この制御装置記述をオンに構成変更する前にソース・メンバー名が追加されていない場合には、現行のIOPの省略時の値が使用されます。

上

初期設定プログラム (INZPGM)

構成の初期設定データを管理するプログラムの名前を指定します。

注: 2663無線アダプターの場合は、INZPGM(QZXCINZ)を指定されるようお奨めします。INZFILEおよびINZMBRの値のこの結果は、回線がオンに構成変更された時に、拡張無線回線メンバーの変更(CHGEWLM)コマンドに渡されます。

***SAME**

この値は変更されません。

***NONE**

初期設定プログラム名は指定されません。

初期設定プログラムの名前は、次のライブラリー値の1つで修飾することができます。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

初期設定プログラム名

構成初期設定データを管理するプログラムの名前を指定してください。プログラム名を指定した場合には、この制御装置記述が作成される時に、このプログラムが呼び出されます。構成初期設定データを含むソース・ファイルおよびメンバーの名前がパラメーターとしてこのプログラムに渡されます。

上

MSG 待ち行列 (MSGQ)

操作メッセージが送られるメッセージ待ち行列を指定します。

***SAME**

この値は変更されません。

***SYSVAL**

メッセージは、QCFGMSGQシステム値に定義されたメッセージ待ち行列に送られます。

***SYSOPR**

メッセージは、システム操作員メッセージ待ち行列(QSYS/QSYSOPR)に送られます。

修飾子1: MSG 待ち行列

名前 操作メッセージが送られるメッセージ待ち行列の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

名前 メッセージ待ち行列が入っているライブラリーの名前を指定してください。

上

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

***SAME**

この値は変更されません。

***BLANK**

テキストは指定されません。

文字値

50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

上

例

```
CHGCTLLWS  CTLD(MYCTLR)  INZMBR(MBR3)
```

このコマンドは、制御装置記述MYCTLRを、ここで構成初期設定データがこの制御装置記述に始めに指定されたのと同じソース・ファイルのメンバーMBR3に含まれるように変更します。

上

エラー・メッセージ

***ESCAPEメッセージ**

CPF2652

制御装置記述&1は変更されなかった。

上

制御装置記述の変更(ネットワーク) (CHGCTLNET)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ネットワーク制御装置記述の変更(CHGCTLNET)コマンドは、ネットワーク制御装置の制御装置記述を変更します。

制約事項: このコマンドを使用するには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
CTLD	制御装置記述	名前	必須, キー, 定位置 1
ONLINE	IPL時のオンライン	<u>*SAME</u> , *YES, *NO	オプション
CNNRSPTMR	応答タイマーの接続	1-3600, <u>*SAME</u>	オプション
TEXT	テキスト記述	文字値, <u>*SAME</u> , *BLANK	オプション

上

制御装置記述 (CTLD)

これは必須パラメーターです。

制御装置記述の名前を指定します。

上

IPL時のオンライン (ONLINE)

初期プログラム・ロード(IPL)時にこのオブジェクトを自動的にオンに構成変更するかどうかを指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*YES

制御装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されます。

*NO

制御装置は、IPL時に自動的に構成変更されることはありません。

上

応答タイマーの接続 (CNNRSPTMR)

システムが送られてきた接続要求に応答する前に待つ時間の長さを指定します。

*SAME

この値は変更されません。

接続応答タイマー

システムが着信接続要求に応答する前に待機する時間の長さを指定してください。有効な値の範囲は1から 3600秒です。

上

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*BLANK

テキストは指定されません。

文字値

50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

上

例

```
CHGCTLNET CTLD(CTL0A) ONLINE(*NO)
```

このコマンドは、CTL0Aという名前のネットワーク制御装置でONLINEパラメーター値を*NOに変更します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF2652

制御装置記述&1は変更されなかった。

上

制御装置記述の変更（小売業）(CHGCTLRTL)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

小売業制御装置記述の変更(CHGCTLRTL)コマンドは、小売業制御装置の制御装置記述を変更します。

制約事項: このコマンドを使用するには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
CTLD	制御装置記述	名前	必須, キー, 定位置 1
ONLINE	IPL時のオンライン	*SAME, *YES, *NO	オプション
ACTSNBU	交換網バックアップ活動化	*SAME, *YES, *NO	オプション
SWTLINLST	交換回線リスト	単一値: *SAME その他の値 (最大 64 回の繰り返し): 名前	オプション
CODE	文字コード	*SAME, *EBCDIC, *ASCII	オプション
MAXFRAME	最大フレーム・サイズ	265-1994, 256, 265, 512, 521, 1024, 1033, 1994, *SAME, *LINKTYPE	オプション
SSCPID	SSCP識別コード	000000000001-FFFFFFFFFFFF, *SAME	オプション
INLCNN	初期接続	*SAME, *ANS, *DIAL	オプション
CNNNBR	接続番号	文字値, *SAME, *ANY	オプション
ANSNBR	返答番号	*SAME, *CNNNBR, *ANY	オプション
PREDIALDLY	事前ダイヤル呼び出し遅延	0-254, *SAME	オプション
REDIALDLY	再ダイヤル呼び出し遅延	0-254, *SAME	オプション
DIALRTY	ダイヤル呼び出し再試行	0-254, *SAME	オプション
SWTDSC	交換回線切断	*SAME, *YES, *NO	オプション
STNADR	端末アドレス	01-FE, *SAME	オプション
POLLPTY	SDLCポーリング優先順位	*SAME, *YES, *NO	オプション
POLLMT	SDLCポーリング限界	0-4, *SAME	オプション
OUTLMT	SDLC出力限界	*SAME, *POLLMT, 0, 1, 2, 3, 4	オプション
CNNPOLLRTY	SDLC接続ポーリング再試行	0-65534, *SAME, *CALC, *NOMAX	オプション
NDMPOLLTMR	SDLC NDM ポーリング・タイマー	0-3000, *SAME, *CALC	オプション
ADPTADR	LAN リモート・アダプター・アドレス	000000000001-FFFFFFFFFFFF, *SAME	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
DSAP	LAN DSAP	*SAME, 04, 08, 0C, 10, 14, 18, 1C, 20, 24, 28, 2C, 30, 34, 38, 3C, 40, 44, 48, 4C, 50, 54, 58, 5C, 60, 64, 68, 6C, 70, 74, 78, 7C, 80, 84, 88, 8C, 90, 94, 98, 9C	オプション
SSAP	LAN SSAP	*SAME, 04, 08, 0C, 10, 14, 18, 1C, 20, 24, 28, 2C, 30, 34, 38, 3C, 40, 44, 48, 4C, 50, 54, 58, 5C, 60, 64, 68, 6C, 70, 74, 78, 7C, 80, 84, 88, 8C, 90, 94, 98, 9C	オプション
LANFRMRTY	LANフレーム再試行	0-254, *SAME, *CALC	オプション
LANCNNRTY	LAN接続再試行	0-254, *SAME, *CALC	オプション
LANRSPTMR	LAN応答タイマー	0-254, *SAME, *CALC	オプション
LANCNTMR	LAN接続タイマー	0-254, *SAME, *CALC	オプション
LANACKTMR	LAN肯定応答タイマー	0-254, *SAME, *CALC	オプション
LANINACTMR	LAN非活動タイマー	0-255, *SAME, *CALC	オプション
LANACKFRQ	LAN肯定応答頻度	0-127, *SAME, *CALC	オプション
LANMAXOUT	LAN最大未処理フレーム数	1-127, *SAME, *CALC	オプション
LANACPTY	LANアクセス優先順位	0-3, *SAME, *CALC	オプション
LANWDWSTP	LANウィンドウ・ステップ	1-127, *NONE, *SAME	オプション
NETLVL	X.25ネットワーク・レベル	*SAME, 1980, 1984, 1988	オプション
CNNPWD	X.25接続パスワード	文字値, *SAME, *NONE	オプション
SWTLINSLCT	X.25交換回線選択	*FIRST, *CALC, *SAME	オプション
DFTPKTSIZE	X.25省略時のパケット・サイズ	要素リスト	オプション
	要素 1: 送信値	*SAME, *LIND, 64, 128, 256, 512, 1024, 2048, 4096	
	要素 2: 受信値	*SAME, *LIND, *TRANSMIT, 64, 128, 256, 512, 1024, 2048, 4096	
DFTWDWSIZE	X.25省略時のウィンドウ・サイズ	要素リスト	オプション
	要素 1: 送信値	1-15, *SAME, *LIND	
	要素 2: 受信値	1-15, *SAME, *LIND, *TRANSMIT	
USRGRPID	X.25 ユーザー・グループ識別コード	文字値, *SAME, *NONE	オプション
RVSCRG	X.25着信課金	*SAME, *NONE, *REQUEST, *ACCEPT, *BOTH	オプション
X25FRMRTY	X.25フレーム再試行	0-21, *SAME	オプション
X25CNNRTY	X.25接続再試行	0-21, *SAME	オプション
X25RSPTMR	X.25応答タイマー	1-2550, *SAME	オプション
X25CNTMR	X.25接続タイマー	1-2550, *SAME	オプション
X25DLYTMR	X.25遅延接続タイマー	1-32767, *SAME, *CALC	オプション
USRFCL	ユーザー機能	文字値, *SAME, *NONE	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
CMNRCYLMT	回復限界	単一値: <u>*SAME</u> , *SYSVAL その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: カウント限界	0-99	
	要素 2: 時間間隔	0-120	
TEXT	テキスト'記述'	文字値, <u>*SAME</u> , *BLANK	オプション

上

制御装置記述 (CTLD)

これは必須パラメーターです。

制御装置記述の名前を指定します。

上

IPL時のオンライン (ONLINE)

初期プログラム・ロード(IPL)時にこのオブジェクトを自動的にオンに構成変更するかどうかを指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*YES

制御装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されます。

*NO

制御装置は、IPL時に自動的に構成変更されることはありません。

上

交換網バックアップ活動化 (ACTSNBU)

交換網バックアップ(SNBU)機構をサポートし、IBM 386X, 586X,または786X型式でないモデムの場合に、SNBU機構を活動化するかまたは非活動化するかどうかを指定します。ローカル・モデムとリモート・モデムの両方とも、それを活動化するSNBUをサポートしていなければなりません。IBM 386X, 586X,または786X型式は、ハードウェア・スイッチでだけ活動化されます。この機構により、交換接続を確立することによって切断された非交換接続（非交換回線）をバイパスすることができます。

*SAME

この値は変更されません。

***NO**

SNBU機能は使用されません。

***YES**

SNBU機能が活動化されます。回線について交換網バックアップ活動化(ACTSNBU)パラメーターに*YES値も指定しなければなりません。

上

交換回線リスト (SWTLINLST)

この制御装置が接続している交換回線の名前を指定します。回線記述はすでに存在していなければなりません。最高64の交換回線名を指定することができます。

***SAME**

この値は変更されません。

交換回線名

この制御装置に接続される最大64の回線の名前を指定してください。同じ回線名を複数回使用することができます。指定された各回線名にはその名前の回線記述が前もって存在していなければなりません。

上

文字コード (CODE)

回線で拡張2進化10進コード(*EBCDIC)または情報交換用米国標準コード(*ASCII)文字コードを使用するかどうかを指定します。

***SAME**

この値は変更されません。

***EBCDIC**

拡張2進化10進コード(EBCDIC)文字コードが使用されます。

***ASCII**

ASCII文字コードが使用されます。

上

最大フレーム・サイズ (MAXFRAME)

制御装置が送受信できる最大フレーム（パス情報単位(PIU))サイズを指定します。この値は、要求単位(RU)サイズを計算するために使用されます。制御装置が送信または受信できる最大PIUサイズはIDの交換時に折衝されるので、実行時に使用される最大PIUサイズは異なるものになることがあります。この値はホスト・システム側の対応する値と一致します。

*SAME

この値は変更されません。

*LINKTYPE

フレーム・サイズは*SDLCでは521バイト、*X25では1024バイト、*LANでは1994バイトです。

最大フレーム・サイズ

この制御装置の最大フレーム・サイズとして521、1033,または1994バイトを指定してください。リンク・タイプが*X25の場合には、1024だけを指定してください。リンク・タイプが*LANの場合には、1994だけを指定してください。

上

SSCP識別コード (SSCPID)

ホスト・システムのシステム・サービス制御点IDを指定します。

*SAME

この値は変更されません。

システム・サービス制御点ID

システム・サービス制御点IDを12桁の16進値として指定してください。

上

初期接続 (INLCNN)

この制御装置との接続を確立するために使用する方式を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*DIAL

システムは発信呼び出しを開始し、着信呼び出しに応答します。

***ANS**

接続は、この制御装置からの着信呼び出しにIBM System i5が応答した時に、そのISERIESシステムによって確立されます。リモート制御装置から呼び出しが受信され、必要なすべての条件が満たされると、システムは着信呼び出しに応答します。

X.25接続の場合には、制御装置が接続された回線でタイプOUTまたはBOTHのLGLCHLEパラメータでスイッチド・バーチャル・サーキット(SVC)が構成されていない限り(*SVCOUTまたは*SVCBOTH),接続は成功しません。

回線は、X.25回線記述変更(CHGLINX25)コマンドを使用して変更することができます。

上

接続番号 (C>NNNBR)

この制御装置と接続するためには、ダイヤル呼び出しする電話番号を指定します。

***SAME**

この値は変更されません。

***ANY** システムはどのネットワーク・アドレスからの呼び出しでも受け入れます。

上

返答番号 (ANSNBR)

そこからの呼び出しが受け入れられるX.25ネットワーク・アドレスを指定します。

***SAME**

この値は変更されません。

***C>NNNBR**

C>NNNBRパラメーターに指定されたX.25ネットワーク・アドレスからの呼び出しが受け入れられます。

***ANY**

どのX.25ネットワーク・アドレスからの呼び出しでも受け入れられます。

上

事前ダイヤル呼び出し遅延 (PREDIALDLY)

番号をダイヤル呼び出しする前に待機する時間間隔(0.5秒間隔で)を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

ダイヤル前遅延

0から254の範囲の単位数値を指定してください。各単位は0.5秒を表します。遅延なしを指示するには、値0を指定してください。

上

再ダイヤル呼び出し遅延 (REDIALDLY)

呼び出しの試みが正常に行われなかった時に、ダイヤル再呼び出しする前に待機する時間間隔(0.5秒間隔で)を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

再ダイヤル遅延

0から254の範囲の単位数値を指定してください。各単位は0.5秒を表します。遅延なしを指示するには、値0を指定してください。

上

ダイヤル呼び出し再試行 (DIALRTY)

ダイヤル呼び出しが失敗したと見なされる前に、システムによって行われる再ダイヤルの試行回数を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

ダイヤル呼び出し再試行

ダイヤル呼び出しが試みられる回数として0.5秒間隔の単位で0から254の範囲の値を指定してください。

上

交換回線切断 (SWTDSC)

最後の装置がオフに構成変更された時に、この制御装置に対する交換接続を除去するかどうかを指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*NO

最後の装置がオフに構成変更されても、交換接続が切断されません。

*YES

最後の装置がオフに構成変更されると、交換接続がオフに構成変更されます。

上

端末アドレス (STNADR)

制御装置と通信する時に使用される端末アドレスを指定します。

有効な値の範囲は00からFEです。

注: 00は、リンク・タイプ (LINKTYPE)パラメーターに対して*TDLCが指定されている時のAPPC制御装置の場合にだけ指定することができます。

注: ROLEパラメーターに*SECを指定した場合には、これはリモート制御装置の端末アドレスです。ROLEパラメーターに*PRIまたは*NEGを指定した場合には、これはローカル端末アドレスです。

*SAME

この値は変更されません。

上

SDLCポーリング優先順位 (POLLPTY)

この制御装置がポーリング時に優先権をもつかどうかを指定します。このパラメーターを指定できるのは、SHMが*NOの場合だけです。

*SAME

この値は変更されません。

*NO

この制御装置にはポーリング優先順位はありません。

***YES**

この制御装置はポーリング優先順位をもちます。

上

SDLCポーリング限界 (POLLMT)

SDLC 2次制御装置または折衝可能制御装置の場合には、ポーリングでフレームが受信されたときに、同じ制御装置に対して連続してポーリングを行う回数を指定します。このパラメーターを指定できるのは、SHMが*NOの場合だけです。

***SAME**

この値は変更されません。

0

ポーリングの省略時の回数はゼロです。

ポーリング限界

ポーリング回数を指定してください。有効な値の範囲は0から4です。

上

SDLC出力限界 (OUTLMT)

別の端末への送信を認める前に、SDLCで端末へ最大フレーム数を送信できる連続回数を指定します。

***SAME**

この値は変更されません。

***POLLMT**

値は、SDLCポーリング限界(POLLMT)パラメーターに指定されたものと同じです。

アウト限界

0から4の範囲の値を指定してください。

上

SDLC接続ポーリング再試行 (CNNPOLLRTY)

エラーを報告する前に、制御装置との接続をやり直す回数を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*CALC

再試行回数は、制御装置が交換の場合には7で、制御装置が非交換の場合には*NOMAXです。

*NOMAX

システムは、無制限に再試行します。

ポーリング接続再試行

再試行回数として0から65534の範囲の値を指定してください。

上

SDLC NDM ポーリング・タイマー (NDMPOLLTMR)

1次端末から2次端末へのポーリング（通常切断モード(NDM)）によって適切な応答が受信されない場合に、2次端末がポーリングされる最小間隔を指定します。

このパラメーターは、リンク・タイプが*SDLCで、制御装置の役割が2次または折衝可能で、SHMパラメーターに*NOが指定されている場合のみ有効です。

*SAME

この値は変更されません。

*CALC

ポーリング間隔は、システムによって計算されます。

NDMポーリング・タイマー

1から3000の範囲の単位数値を指定してください。各単位は0.1秒を表します。タイマーなしを指示するには、0を指定してください。

上

LAN リモート・アダプター・アドレス (ADPTADR)

リモート制御装置の12文字のアダプター・アドレスを指定します。これは、システムがリモート制御装置と通信する時にシステムがデータを送信するアドレスです。この値は、リモート制御装置の構成レコードから獲得することができます。有効な値の範囲は、16進数000000000001から16進数FFFFFFFFFFFFまでです。

*SAME

この値は変更されません。

アダプター・アドレス

リモート制御装置のアダプター・アドレスを指定してください。

上

LAN DSAP (DSAP)

宛先サービス・アクセス・ポイント(DSAP)を指定します。これは、このシステムがリモート制御装置と通信する時に送る論理アドレスです。このアドレスによって、制御装置はこのシステムからのデータを適切に経路指定することができます。宛先サービス・アクセス・ポイントの省略時の値は04です。

値は、リモート制御装置の構成レコードのソース・サービス・アクセス・ポイント(SSAP) パラメーターに指定された値と一致しなければなりません。

*SAME

この値は変更されません。

宛先サービス・アクセス・ポイント

宛先サービス・アクセス・ポイントを表す04から9Cの範囲の16進値を4の増分（例えば04, 08, 0C, 10)で指定してください。

上

LAN SSAP (SSAP)

ソース・サービス・アクセス・ポイント(SSAP)を指定します。これは、ローカル・システムがデータをリモート制御装置に送信する時に使用する論理アドレスです。このアドレスによって、制御装置はローカル・システムからのデータを適切に経路指定することができます。ソース・サービス・アクセス・ポイント(SSAP)の省略時の値は04です。

これは、リモート制御装置の構成レコード中で宛先サービス・アクセス・ポイント(DSAP) に割り当てられている値と一致しなければなりません。

*SAME

この値は変更されません。

ソース・サービス・アクセス・ポイント

ソース・サービス・アクセス・ポイントを表す04から9Cの範囲の16進値を4の増分（例えば04, 08, 0C, 10）で指定してください。

上

LANフレーム再試行 (LANFRMRTY)

LANRSPTMRパラメーターで指定された時間枠内にリモート制御装置からの肯定応答がなかったときに、送信が再試行される回数を指定します。この値が使用されるのは、接続が正常に行われた後だけです。

*SAME

この値は変更されません。

*CALC

システムがタイマー値を決定します。

LANフレーム再試行

肯定応答が受信されるまでフレームが送信される回数として0から254の範囲の値を指定してください。

上

LAN接続再試行 (LANCNRRTY)

肯定応答が受信されるまで、送信が試みられる回数を指定します。この値は接続時に使用されます（接続が確立された後で使用されるLANFRMRTYとは異なります）。

*SAME

この値は変更されません。

*CALC

システムがタイマー値を決定します。

LAN接続再試行

肯定応答が受信される前に試みられる伝送回数として0から254の範囲の値を指定してください。

上

LAN応答タイマー (LANRSPTMR)

接続時にリンクの作動不可条件を判別するために使用する時間を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*CALC

システムがタイマー値を決定します。

LAN応答タイマー

1から254の単位数値を指定してください。各単位は0.1秒を表します。タイマーなしを指示するには、0を指定してください。

上

LAN接続タイマー (LANCNNTMR)

接続時にリンクの作動不可条件を判別するために使用する時間を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*CALC

システムがタイマー値を決定します。

LAN接続タイマー

非操作状態が起こるまでシステムが待機する時間の長さとして0.1秒間隔の単位で1から254の範囲の値を指定してください。タイマーなしを指示するには、0を指定してください。

上

LAN肯定応答タイマー (LANACKTMR)

受信したフレームに対する肯定応答の送信を延期する時間間隔を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*CALC

システムがタイマー値を決定します。

LAN肯定応答タイマー

1から254の範囲の単位数値を指定してください。各単位は0.1秒を表します。タイマーなしを指示するには、0を指定してください。 **LAN肯定応答頻度(LANACKFRQ)**パラメーターに0を指定した場合には、このパラメーターにも0を指定しなければなりません。 LANACKFRQパラメーターにゼロ以外の数値を指定した場合には、このパラメーターにもゼロ以外の値を指定しなければなりません。

上

LAN非活動タイマー (LANINACTMR)

制御装置の非活動条件を判別するために使用する時間を指定します。

***SAME**

この値は変更されません。

***CALC**

システムがタイマー値を決定します。

LAN非活動タイマー

制御装置の非操作状態の有無を判別するために使用される時間の長さとして0.1秒間隔の単位で1から255の範囲の値を指定してください。 タイマーなしを指示するには、0を指定してください。

上

LAN肯定応答頻度 (LANACKFRQ)

制御装置に肯定応答を送る前に受け取るフレームの最大数を指定します。

***SAME**

この値は変更されません。

***CALC**

システムがLAN肯定応答頻度値を決定します。

LAN肯定応答頻度

受信フレームの数として0から127の範囲の値を指定してください。 **LAN肯定応答タイマー (LANACKTMR)**パラメーターに0を指定した場合には、このパラメーターにも0を指定しなければなりません。 LANACKTMRパラメーターにゼロ以外の数値を指定した場合には、このパラメーターにもゼロ以外の値を指定しなければなりません。

上

LAN最大未処理フレーム数 (LANMAXOUT)

リモート・システムから肯定応答が受信されるまでに、送信できるフレームの最大数を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*CALC

システムがLAN最大未処理フレーム数値を決定します。

LAN最大未処理フレーム数

肯定応答が受信されるまでに送信できるフレームの数として1から127の範囲の値を指定してください。

上

LANアクセス優先順位 (LANACCPTY)

フレームを送信するために送信側システムに与えられる優先順位を指定します。 数字が大きくなるほどこの制御装置の優先順位は高くなります。

*SAME

この値は変更されません。

*CALC

システムがLANアクセス優先順位値を決定します。

LANアクセス優先順位

ローカル・エリア・ネットワーク(LAN)上のこの制御装置のアクセス優先順位として0から3の範囲の値を指定してください。

上

LANウィンドウ・ステップ (LANWDWSTP)

ネットワーク負荷過剰の間にリモート・システムに対する未処理のフレームの最大数を1に減らすかどうかを指定します。このパラメーター(LANウィンドウ・ステップ)は、未処理フレームの最大数を1ずつ増やすることができるようになる前に、リモート・システムから正常に受け取られていなければならないフレームの数を指示します。未処理フレームの最大数がLAN最大未処理フレーム数(LANMAXOUT)パラメーターに指定された値に達するまで、このような増加が続きます。

*SAME

この値は変更されません。

*NONE

ネットワーク負荷過剰の時に未処理フレーム数が削減されません。

LANウィンドウ・ステップ

未処理フレームの最大数が1増えるまでに、リモート・システムによって正常に受信されなければならないフレームの数として1から127の範囲の値を指定してください。

上

X.25ネットワーク・レベル (NETLVL)

この制御装置にアクセスするために使用されるX.25ネットワークのレベルを指定します。レベルは、X.25ネットワークが何年版の標準を使用するかを指定します。

注: リモートDTEまたはネットワーク・レベルには低い値を使用するようにお奨めします。例えば、リモートDTEがCCITT標準の1980およびネットワーク1984を使用している場合には、このパラメーターに1980を指定してください。

*SAME

この値は変更されません。

1980

1980標準が使用されます。

1984

1984標準が使用されます。

1988

1988標準が使用されます。

X.25接続パスワード (CNNPWD)

X.24呼び出し要求および着信呼び出しパケット（呼び出しユーザー・データ・フィールド）とのパスワード交換に使用されるX.25ネットワーク・パスワードを指定します。パーマネント・バーチャル・サーキット (PVC)接続の場合には、このパラメーターは無効です。

16進数値が40以下の文字から構成される接続パスワード使用したい場合には、そのパスワードを16進数値として指定しなければなりません。8バイト未満を指定すると、パスワード・フィールドの終わりに空白が埋め込まれます。全桁空白のパスワードは無効です。接続を確立するためには、すべての着信呼び出し要求がこのパスワードと一致しなければなりません。

16進数パスワードを指定するためには、その桁数が2の倍数で、16桁以下の長さで、アポストロフィで囲み、Xが先行するものを指定しなければなりません。例えば、X'0102030405'は有効な16進数パスワードです。

注: スイッチド・バーチャル・サーキット(SVC)上の拡張論理リンク制御(ELLC)プロトコル LINKPCL(*ELLC) によって稼働する制御装置の場合には、この接続パスワードを強くお奨めします。この拡張プロトコルは、切断信号で回線を切断するネットワーク・エラーが起こった後の回線接続の再接続をサポートします。しかし、この再接続は、制御装置の固有のIDとして使用されるパスワード妥当性検査手順なしでは実行することはできません。

*SAME

この値は変更されません。

*NONE

接続パスワードは使用されません。

X.25接続パスワード

接続パスワードを指定してください。各制御装置のパスワードは、40からFFの範囲の16進値で表されるどの英数字からでも構成することができます。

X.25交換回線選択 (SWTLINSLCT)

X.25交換回線リストから回線を選択するために使用する方法を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*FIRST

交換回線リスト中の最初の回線から回線が選択されていきます。

***CALC**

システムが交換回線リスト中の選択される回線を決定します。

上

X.25省略時のパケット・サイズ (DFTPKTSIZE)

X.25ネットワークで送受信に使用される省略時のパケット・サイズを指定します。

指定できる送信の値は次の通りです。

***SAME**

この値は変更されません。

***LIND**

回線記述に指定された値が省略時の値です。

送信パケット・サイズ

送信用の省略時のパケット・サイズを指定してください。パケット・サイズの有効な値は64, 128, 256, 512, 1024, 2048, および4096 です。

指定できる受信の値は次の通りです。

***SAME**

この値は変更されません。

***LIND**

回線記述に指定された値が省略時の値です。

***TRANSMIT**

送信用の省略時のパケット・サイズとして指定された値が受信の省略時の値として使用されます。

受信パケット・サイズ

受信用の省略時のパケット・サイズを指定してください。パケット・サイズの有効な値は64, 128, 256, 512, 1024, 2048, および4096です。

上

X.25省略時のウィンドウ・サイズ (DFTWDWSIZE)

送信および受信用の省略時のウィンドウ・サイズを指定します。

要素1:送信ウィンドウ・サイズ

*SAME

この値は変更されません。

*LIND

回線記述に指定された値が省略時のウィンドウ・サイズとして使用されます。

送信ウィンドウ・サイズ

適切な省略時のウィンドウ・サイズを指定します。モジュラス8を指定している場合は、有効な値の範囲は1から7です。モジュラス128を指定した場合には、有効な値の範囲は1から15です。スイッチド・バーチャル・サーキット(SVC)着信呼び出しの場合には、システムは、着信呼び出しパケット機能フィールドで示されたウィンドウ・サイズを受け入れます。

要素2:受信ウィンドウ・サイズ

*SAME

この値は変更されません。

*LIND

回線記述に指定された値が省略時のウィンドウ・サイズとして使用されます。

*TRANSMIT

送信用の省略時のウィンドウ・サイズとして指定された値が受信用の省略時の値として使用されます。

受信ウィンドウ・サイズ

適切な省略時のウィンドウ・サイズを指定します。モジュラス8を指定している場合は、有効な値の範囲は1から7です。モジュラス128を指定した場合には、有効な値の範囲は1から15です。

上

X.25 ユーザー・グループ識別コード (USRGRPID)

X.25ネットワークのスイッチド・バーチャル・サーキット(SVC)制御装置用の閉域接続グループIDを指定します。

ネットワーク・サブスクリプションによって提供される00から99の2桁の10進数値を指定します。パーマネント・バーチャル・サーキット(PVC)接続の場合には、このパラメーターは無効です。これが有効となるのはSVC回線発信呼び出し操作の場合だけであり、SVC着信呼び出し接続の場合は無視されます。

***SAME**

この値は変更されません。

***NONE**

ユーザー・グループIDに値が指定されません。

上

X.25着信課金 (RVSCRG)

この制御装置と接続する時にコレクトコールを受け入れるかまたは要求するかどうかを指定します。

***SAME**

この値は変更されません。

***NONE**

ネットワーク料金請求のコレクトコールは受け入れられません。

***REQUEST**

発信呼び出し要求パケットで課金が要求されます。

***ACCEPT**

着信要求でネットワーク料金請求のコレクトコールが受け入れられます。

***BOTH**

着信と発信の両方の要求が受け入れられます。

上

X.25フレーム再試行 (X25FRMRTY)

この制御装置に接続する時に、応答タイマーが切れた後でフレームが送信される最大回数を指定します。このパラメーターの値は、ネットワークによって提供されるサービス品質およびそのネットワークへの接続形態によります。すなわちそれは、リンク・プロトコル・データ単位が失われる頻度によります。

***SAME**

この値は変更されません。

X.25フレーム再試行

フレームの送信回数として0から21の範囲の値を指定してください。

上

X.25接続再試行 (X25CNNRTY)

この制御装置に接続する時に、接続応答タイマーが切れた後で論理リンク制御(LLC) プロトコル・データ単位が送信される最大回数を指定します。

***SAME**

この値は変更されません。

X.25接続再試行

フレームの送信回数として0から21の範囲の値を指定してください。

上

X.25応答タイマー (X25RSPTMR)

この制御装置に接続中でLLCプロトコル・データ装置を送る時に、肯定応答を戻すことのできる時間を指定します。

***SAME**

この値は変更されません。

X.25応答タイマー

時間の長さを0.1秒単位で指定してください。有効な値の範囲は0.1秒間隔の単位で1から2550です。

上

X.25接続タイマー (X25CNNTMR)

この制御装置に接続中でLLCプロトコル・データ装置を送る時に、肯定応答を戻すことのできる時間を指定します。

***SAME**

この値は変更されません。

接続タイマー

時間の長さを0.1秒単位で指定してください。有効な値の範囲は0.1秒間隔の単位で1から2550です。

上

X.25遅延接続タイマー (X25DLYTMR)

制御装置への接続を確立するための試行の時間間隔を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*CALC

接続の確立を試みる頻度および回数を決定するためには、**X.25接続タイマー(X25CNNTMR)**パラメーターおよび**X.25接続再試行(X25CNNRTY)**パラメーターに指定する値を使用してください。

X.25遅延タイマー

1から32767の範囲の単位数値を指定してください。各単位は0.1秒を表します。接続の試みはこの時間間隔で無制限に反復されます。

上

ユーザー機能 (USRFCL)

追加のサービスを要求するためには、X.25ネットワークに送信する16進文字のストリングを指定します。システムでは最高218桁の16進文字を使用することができます。

*SAME

この値は変更されません。

*NONE

ユーザー機能に値が指定されません。

文字

最大218桁の16進数からなるストリングを指定してください。

上

回復限界 (CMNRCYLMT)

システム操作員に照会メッセージが送られる前にシステムによって行なわれる回復処置の試行回数を指定します。また、回復処置の試行回数がカウント限界に達したことを示す照会メッセージをシステム操作員に送る前に経過していなければならない時間（分数）も指定します。

要素1:最大回復限界

*SAME

この値は変更されません。

*SYSVAL

QCMNRCYLMTシステム値の値が使用されます。

カウント限界

行なわれる第2レベルの回復処置の試行回数を指定してください。有効な値の範囲は、0から99です。

要素2:回復時間間隔

時間間隔

指定された回数の第2レベルの回復が試みられる時間間隔（分数）を指定してください。有効な値の範囲は0から120です。カウント限界に指定された値が0でない場合には、値0は時間無制限の回復を指定します。

通信回復の詳細はCOMMUNICATIONS MANAGEMENT (SC41-5406)にあります。

上

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*BLANK

テキストは指定されません。

文字値

50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

上

例

```
CHGCTRLTL  CTLD(CTRL05) SWTLINLST(LINE02)
            CNNBR('255-3436')
```

このコマンドは、小売業制御装置記述CTRL05を変更します。ここで交換回線リストには名前LINE02だけが含まれることになり、接続番号は255-3436に変更されています。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF2652

制御装置記述&1は変更されなかった。

上

制御装置記述の変更(リモート WS) (CHGCTLRWS)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

リモート・ワークステーション制御装置記述の変更(CHGCTLRWS)コマンドにより、リモート・ワークステーション制御装置の制御装置記述が変更されます。

制約事項: このコマンドを使用するには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
CTLD	制御装置記述	名前	必須, キー, 定位置 1
ONLINE	IPL時のオンライン	<u>*SAME</u> , *YES, *NO	オプション
ACTSNBU	交換網バックアップ活動化	<u>*SAME</u> , *YES, *NO	オプション
SWTLINLST	交換回線リスト	単一値: <u>*SAME</u> その他の値 (最大 64 回の繰り返し): 名前	オプション
CODE	文字コード	<u>*SAME</u> , *EBCDIC, *ASCII	オプション
DEVWAITMR	入出力装置待ちタイマー	2-600, <u>*SAME</u>	オプション
MAXFRAME	最大フレーム・サイズ	265-1994, 256, 261, 265, 512, 521, 1033, 1994, <u>*SAME</u> , *LINKTYPE	オプション
RMTLOCNAME	リモート・ロケーション	通信名, <u>*SAME</u>	オプション
LCLLOCNAME	ローカル・ロケーション	通信名, <u>*SAME</u> , *NETATR	オプション
RMTNETID	リモート・ネットワーク 識別コード	通信名, <u>*SAME</u> , *NETATR, *NONE	オプション
SSCPID	SSCP識別コード	000000000001-FFFFFFFFFFFF, <u>*SAME</u>	オプション
INLCNN	初期接続	<u>*SAME</u> , *ANS, *DIAL	オプション
DIALINIT	ダイヤル開始	<u>*SAME</u> , *LINKTYPE, *IMMED, *DELAY	オプション
CNNNBR	接続番号	文字値, <u>*SAME</u> , *DC, *ANY	オプション
ANSNBR	返答番号	<u>*SAME</u> , *CNNNBR, *ANY	オプション
CNNLSTOUT	発信接続リスト	名前, <u>*SAME</u>	オプション
CNNLSTOUTE	接続リスト項目	名前, <u>*SAME</u>	オプション
IDLCWDSIZ	IDLCウィンドウ・サイズ	1-31, <u>*SAME</u> , *LIND	オプション
IDLCFRMRTY	IDLCフレーム再試行	0-100, <u>*SAME</u> , *LIND	オプション
IDLCRSPTMR	IDLC応答タイマー	10-100, <u>*SAME</u> , *LIND	オプション
IDLCCNNRTY	IDLC接続再試行	1-100, <u>*SAME</u> , *LIND, *NOMAX	オプション
PREDIALDLY	事前ダイヤル呼び出し遅延	0-254, <u>*SAME</u>	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
REDIALDLY	再ダイヤル呼び出し遅延	0-254, <u>*SAME</u>	オプション
DIALRTY	ダイヤル呼び出し再試行	0-254, <u>*SAME</u>	オプション
SHMDSCLMT	SHM切断限界	1-254, <u>*SAME</u> , *NOMAX	オプション
SHMDSCTMR	SHM切断タイマー	2-3000, <u>*SAME</u>	オプション
STNADR	端末アドレス	01-FE, <u>*SAME</u>	オプション
POLLPTY	SDLCポーリング優先順位	<u>*SAME</u> , *YES, *NO	オプション
POLLMT	SDLCポーリング限界	0-4, <u>*SAME</u>	オプション
OUTLMT	SDLC出力限界	<u>*SAME</u> , *POLLMT, 0, 1, 2, 3, 4	オプション
CNNPOLLRTY	SDLC接続ポーリング再試行	0-65534, <u>*SAME</u> , *CALC, *NOMAX	オプション
NDMPOLLTMR	SDLC NDM ポーリング・タイマー	0-3000, <u>*SAME</u> , *CALC	オプション
ADPTADR	LAN リモート・アダプター・アドレス	000000000001-FFFFFFFFFFFF, <u>*SAME</u>	オプション
DSAP	LAN DSAP	<u>*SAME</u> , 04, 08, 0C, 10, 14, 18, 1C, 20, 24, 28, 2C, 30, 34, 38, 3C, 40, 44, 48, 4C, 50, 54, 58, 5C, 60, 64, 68, 6C, 70, 74, 78, 7C, 80, 84, 88, 8C, 90, 94, 98, 9C	オプション
SSAP	LAN SSAP	<u>*SAME</u> , 04, 08, 0C, 10, 14, 18, 1C, 20, 24, 28, 2C, 30, 34, 38, 3C, 40, 44, 48, 4C, 50, 54, 58, 5C, 60, 64, 68, 6C, 70, 74, 78, 7C, 80, 84, 88, 8C, 90, 94, 98, 9C	オプション
LANFRMRTY	LANフレーム再試行	0-254, <u>*SAME</u> , *CALC	オプション
LANCNRRTY	LAN接続再試行	0-254, <u>*SAME</u> , *CALC	オプション
LANRSPTMR	LAN応答タイマー	0-254, <u>*SAME</u> , *CALC	オプション
LANCNTMR	LAN接続タイマー	0-254, <u>*SAME</u> , *CALC	オプション
LANACKTMR	LAN肯定応答タイマー	0-254, <u>*SAME</u> , *CALC	オプション
LANINACTMR	LAN非活動タイマー	0-255, <u>*SAME</u> , *CALC	オプション
LANACKFRQ	LAN肯定応答頻度	0-127, <u>*SAME</u> , *CALC	オプション
LANMAXOUT	LAN最大未処理フレーム数	1-127, <u>*SAME</u> , *CALC	オプション
LANACCPY	LANアクセス優先順位	0-3, <u>*SAME</u> , *CALC	オプション
LANWDWSTP	LANウィンドウ・ステップ	1-127, *NONE, <u>*SAME</u>	オプション
NETLVL	X.25ネットワーク・レベル	<u>*SAME</u> , 1980, 1984, 1988	オプション
LINKPCL	X.25 リンク・レベル・プロトコル	<u>*SAME</u> , *QLLC, *ELLC	オプション
CNNPWD	X.25接続パスワード	文字値, <u>*SAME</u> , *NONE	オプション
SWTLINSLCT	X.25交換回線選択	*FIRST, *CALC, <u>*SAME</u>	オプション
DFTPKTSIZE	X.25省略時のパケット・サイズ	要素リスト	オプション
	要素 1: 送信値	<u>*SAME</u> , *LIND, 64, 128, 256, 512, 1024, 2048, 4096	
	要素 2: 受信値	<u>*SAME</u> , *LIND, *TRANSMIT, 64, 128, 256, 512, 1024, 2048, 4096	

キーワード	記述	選択項目	ノート
DFTWDWSIZE	X.25省略時のウィンドウ・サイズ	要素リスト	オプション
	要素 1: 送信値	1-15, <u>*SAME</u> , *LIND	
	要素 2: 受信値	1-15, <u>*SAME</u> , *LIND, *TRANSMIT	
USRGRPID	X.25 ユーザー・グループ識別コード	文字値, <u>*SAME</u> , *NONE	オプション
RVSCRG	X.25着信課金	<u>*SAME</u> , *NONE, *REQUEST, *ACCEPT, *BOTH	オプション
X25FRMRTY	X.25フレーム再試行	0-21, <u>*SAME</u>	オプション
X25CNNRTY	X.25接続再試行	0-21, <u>*SAME</u>	オプション
X25RSPTMR	X.25応答タイマー	1-2550, <u>*SAME</u>	オプション
X25CNNTMR	X.25接続タイマー	1-2550, <u>*SAME</u>	オプション
X25DLYTMR	X.25遅延接続タイマー	1-32767, <u>*SAME</u> , *CALC	オプション
X25ACKTMR	X.25肯定応答タイマー	0-2550, <u>*SAME</u>	オプション
X25INACTMR	X.25非活動タイマー	1-2550, <u>*SAME</u>	オプション
USRFCL	ユーザー機能	文字値, <u>*SAME</u> , *NONE	オプション
ALCRITYTMR	割り振り再試行タイマー	1-9999, <u>*SAME</u>	オプション
AUTOCRTDEV	装置の自動作成	<u>*SAME</u> , *ALL, *NONE	オプション
SWTDSC	交換回線切断	<u>*SAME</u> , *YES, *NO	オプション
CMNRCYLMT	回復限界	単一値: <u>*SAME</u> , *SYSVAL その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: カウント限界	0-99	
	要素 2: 時間間隔	0-120	
MSGQ	MSG 待ち行列	単一値: <u>*SAME</u> , *SYSVAL, *SYSOPR その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: MSG 待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前	
TEXT	テキスト記述	文字値, <u>*SAME</u> , *BLANK	オプション

上

制御装置記述 (CTLD)

これは必須パラメーターです。

制御装置記述の名前を指定します。

上

IPL時のオンライン (ONLINE)

初期プログラム・ロード(IPL)時にこのオブジェクトを自動的にオンに構成変更するかどうかを指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*YES

制御装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されます。

*NO

制御装置は、IPL時に自動的に構成変更されることはありません。

上

交換網バックアップ活動化 (ACTSNBU)

交換網バックアップ(SNBU)機構をサポートし、IBM 386X, 586X,または786X型式でないモデムの場合に、SNBU機構を活動化するかまたは非活動化するかどうかを指定します。ローカル・モデムとリモート・モデムの両方とも、それを活動化するSNBU をサポートしていなければなりません。IBM 386X, 586X,または786X型式は、ハードウェア・スイッチでだけ活動化されます。この機構により、交換接続を確立することによって切断された非交換接続（非交換回線）をバイパスすることができます。

*SAME

この値は変更されません。

*NO

SNBU機能は使用されません。

*YES

SNBU機能が活動化されます。回線について交換網バックアップ活動化(ACTSNBU)パラメーターに*YES値も指定しなければなりません。

上

交換回線リスト (SWTLINLST)

この制御装置が接続している交換回線の名前を指定します。回線記述はすでに存在していなければなりません。最高64の交換回線名を指定することができます。

*SAME

この値は変更されません。

交換回線名

この制御装置に接続される最大64の回線の名前を指定してください。同じ回線名を複数回使用することができます。指定された各回線名にはその名前の回線記述が前もって存在していなければなりません。

上

文字コード (CODE)

回線で拡張2進化10進コード(*EBCDIC)または情報交換用米国標準コード(*ASCII)文字コードを使用するかどうかを指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*EBCDIC

拡張2進化10進コード(EBCDIC)文字コードが使用されます。

*ASCII

ASCII文字コードが使用されます。

上

入出力装置待ちタイマー (DEVWAITTMR)

装置待ちタイムアウト値を指定します。この値を用いて、サブシステムがワークステーション入出力の完了に要する見込み時間の長さを限定します。各装置に使用されるタイムアウト値は、オンに構成変更された時点で、接続している制御装置から得られます。このパラメーター値を変更すると、接続装置が次にオンに構成変更された時点で影響が出ます。

*SAME

この値は変更されません。

装置待ちタイマー

サブシステムがこの制御装置に接続されたすべてのワークステーションでワークステーション入出力の完了を待機する最大秒数を指定する2から600の範囲の値を指定してください。

このパラメーターに値を選択する時には、制御装置に接続される装置のタイプを考慮してください。ローカルに接続されるワークステーションでは、このパラメーターは低い値(10秒以下)にしてください。

上

最大フレーム・サイズ (MAXFRAME)

制御装置が送受信できる最大フレーム (パス情報単位(PIU))サイズを指定します。この値は、要求単位 (RU)サイズを計算するために使用されます。制御装置が送信または受信できる最大PIUサイズはIDの交換時に折衝されるので、実行時に使用される最大PIUサイズは異なるものになることがあります。この値はホスト・システム側の対応する値と一致します。

*SAME

この値は変更されません。

*LINKTYPE

リンク・タイプが*ISDNの3174制御装置の場合、521という値が使用されます。リンク・タイプが*LANの3174制御装置の場合、1994という値が使用されます。リンク・タイプが*SDLCの3174制御装置の場合、265という値が使用されます。リンク・タイプが*X25の3174制御装置の場合、256という値が使用されます。リンク・タイプが*X25の5394制御装置の場合、512という値が使用されます。リンク・タイプが*SDLCの5394制御装置の場合、517という値が使用されます。

最大フレーム・サイズ

- リンク・タイプが*SDLCまたは*X25である3174制御装置の場合、265の値を指定してください。
- リンク・タイプが*X25回線である5394制御装置の場合、265 または521を指定してください。
- リンク・タイプが*SDLCである5394制御装置の場合、261または517を指定してください。

上

リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)

リモート・システムに関連したリモート・ロケーションの名前を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

上

ローカル・ロケーション (LCLLOCNAME)

ローカル・ロケーション名を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*NETATR

システム・ネットワーク属性に指定されたLCLNETID値が使用されます。

ローカル・ロケーション名

ローカル・システムがリモート・システムに識別されるために使用される名前（最大8文字）を指定してください。

上

リモート・ネットワーク 識別コード (RMTNETID)

隣接した制御点があるリモート・ネットワークの名前を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*NETATR

システム・ネットワーク属性に指定されたLCLNETID値が使用されます。

*NONE

リモート・ネットワークID (ID)は使用されません。

リモート・ネットワークID

リモート・ネットワークIDを指定してください。

上

SSCP識別コード (SSCPID)

ホスト・システムのシステム・サービス制御点IDを指定します。

*SAME

この値は変更されません。

システム・サービス制御点ID

システム・サービス制御点IDを12桁の16進値として指定してください。

上

初期接続 (INLCNN)

この制御装置との接続を確立するために使用する方式を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*DIAL

システムは発信呼び出しを開始し、着信呼び出しに応答します。

*ANS

接続は、この制御装置からの着信呼び出しにIBM System i5が応答した時に、そのISERIESシステムによって確立されます。リモート制御装置から呼び出しが受信され、必要なすべての条件が満たされると、システムは着信呼び出しに応答します。

X.25接続の場合には、制御装置が接続された回線でタイプOUTまたはBOTHのLGLCHLEパラメータでスイッチド・バーチャル・サーキット(SVC)が構成されていない限り(*SVCOUTまたは*SVCBOTH),接続は成功しません。

回線は、X.25回線記述変更(CHGLINX25)コマンドを使用して変更することができます。

上

ダイヤル開始 (DIALINIT)

システムとリモート制御装置の間の交換回線で最初にダイヤルを行うために使用される方式を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*LINKTYPE

開始する接続のタイプはLINKTYPEパラメータに指定します。LANまたはSDLC ダイヤル短期保留モード接続の場合には、省略時の値で制御装置記述がオンに構成変更されると、ただちに接続のダイヤル呼び出しが行われます。他のすべてのリンク・タイプの場合、省略時の値ではダイヤル呼び出しが遅延されます。

*IMMED

制御装置記述がオンに構成変更されると、ただちにダイヤル接続が開始されます。

***DELAY**

ダイヤル接続は、リモート制御装置資源の使用を要求するジョブが開始されるまで遅延されます。

上

接続番号 (C>NNNBR)

この制御装置と接続するためには、ダイヤル呼び出しする電話番号を指定します。

***SAME**

この値は変更されません。

***DC**

X.21交換接続ネットワークで直接呼び出しが使用されています。

***ANY** システムはどのネットワーク・アドレスからの呼び出しでも受け入れます。

接続番号

接続番号を指定してください。

上

返答番号 (ANSNBR)

そこからの呼び出しが受け入れられるX.25ネットワーク・アドレスを指定します。

***SAME**

この値は変更されません。

***C>NNNBR**

C>NNNBRパラメーターに指定されたX.25ネットワーク・アドレスからの呼び出しが受け入れられます。

***ANY**

どのX.25ネットワーク・アドレスからの呼び出しでも受け入れられます。

上

注: このパラメーターはもはやサポートされていません。これが存在するのは、オペレーティング・システムのバージョン5リリース3 モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を保つためだけです。

発信接続リスト (CNLSTOUT)

ISDN交換接続の場合には、ISDNへのダイヤル呼び出し操作のISDN割り当て番号が入っている接続リスト・オブジェクトの名前を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

リスト・オブジェクト

接続リスト・オブジェクトの名前を指定してください。

上

注: このパラメーターはもはやサポートされていません。これが存在するのは、オペレーティング・システムのバージョン5リリース3 モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を保つためだけです。

接続リスト項目 (CNLSTOUTE)

ISDN交換接続の場合には、ISDNへの呼び出しを行うために使用する接続リストからの項目名を指定します。この接続リストは、**発信接続リスト(CNLSTOUT)**パラメーターで識別されていなければなりません。

*SAME

この値は変更されません。

項目名

項目名を指定してください。

上

注: このパラメーターはもはやサポートされていません。これが存在するのは、オペレーティング・システムのバージョン5リリース3 モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を保つためだけです。

IDLCウィンドウ・サイズ (IDLCWDWSIZ)

IDLC回線に接続された制御装置と送受するためのウィンドウ・サイズを指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*LIND

回線記述に指定された値が省略時のウィンドウ・サイズとして使用されます。

ウィンドウ・サイズ

ウィンドウ・サイズを指定してください。有効な値の範囲は1から31です。

上

注: このパラメーターはもはやサポートされていません。これが存在するのは、オペレーティング・システムのバージョン5リリース3 モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を保つためだけです。

IDLCフレーム再試行 (IDLCFRMRTY)

エラーを報告する前にフレームの送信を試みる最大試行回数を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*LIND

回線記述に指定された試行回数が使用されます。

IDLCフレーム再試行

試行回数を指定してください。有効な値の範囲は0から100です。

上

注: このパラメーターはもはやサポートされていません。これが存在するのは、オペレーティング・システムのバージョン5リリース3 モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を保つためだけです。

IDLC応答タイマー (IDLCRSPTMR)

肯定応答が受信されない場合にフレームの再送信までの待機時間を1/10秒単位で指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*LIND

回線記述に指定された時間が使用されます。

IDLC応答タイマー

時間の長さを指定してください。有効な値の範囲は10分の1秒単位で10から100です。例えば、1秒の10分の100秒は10秒と等しくなります。

上

注: このパラメーターはもはやサポートされていません。これが存在するのは、オペレーティング・システムのバージョン5リリース3 モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を保つためだけです。

IDLCCNNRTY (IDLCCNNRTY)

接続時に再送信を試みる回数を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*LIND

回線記述に指定された試行回数が使用されます。

*NOMAX

正常な送信が行われるまで続行することを指示します。

接続再試行

試行回数を指定してください。有効な値の範囲は1から100です。

上

PRELDLY (PRELDLY)

番号をダイヤル呼び出しする前に待機する時間間隔(0.5秒間隔で)を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

ダイヤル前遅延

0から254の範囲の単位数値を指定してください。各単位は0.5秒を表します。遅延なしを指示するには、値0を指定してください。

上

再ダイヤル呼び出し遅延 (REDIALDLY)

呼び出しの試みが正常に行われなかった時に、ダイヤル再呼び出しする前に待機する時間間隔(0.5秒間隔で)を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

再ダイヤル遅延

0から254の範囲の単位数値を指定してください。各単位は0.5秒を表します。遅延なしを指示するには、値0を指定してください。

上

ダイヤル呼び出し再試行 (DIALRTY)

ダイヤル呼び出しが失敗したと見なされる前に、システムによって行われる再ダイヤルの試行回数を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

ダイヤル呼び出し再試行

ダイヤル呼び出しが試みられる回数として0.5秒間隔の単位で0から254の範囲の値を指定してください。

上

SHM切断限界 (SHMDSCLMT)

このX.21短期保留モード接続に対して接続を保留できるようになる前に、リモート端末から要求される連続的な非生産的応答の数を指定します。このパラメーターは、**短期保留モード(SHM)**パラメーターに*YES、**データ・リンクの役割(ROLE)**パラメーターに*NEGまたは*SECを指定した場合にだけ使用します。

*SAME

この値は変更されません。

*NOMAX

切断限界はありません。

SHM切断限界

接続を中断できるようになるために、その前に受信されなければならない連続した非生産的応答の数を示す1から254の範囲の値を指定してください。

SHM切断タイマー (SHMDSCTMR)

このX.21短期保留モード制御装置の場合に、1次システムがリモート・システムとの接続を維持する最短時間を1/10秒単位で指定します。このパラメーターが有効なのは、短期保留モード(SHM)パラメーターに*YES、データ・リンクの役割(ROLE)パラメーターに*NEGまたは*SECを指定した場合だけです。

*SAME

この値は変更されません。

SHM切断タイマー

0.1秒間隔の単位で2から3000の範囲の値を指定してください。

端末アドレス (STNADR)

制御装置と通信する時に使用される端末アドレスを指定します。

有効な値の範囲は00からFEです。

注: 00は、リンク・タイプ (LINKTYPE)パラメーターに対して*TDLCが指定されている時のAPPC制御装置の場合にだけ指定することができます。

注: ROLEパラメーターに*SECを指定した場合には、これはリモート制御装置の端末アドレスです。ROLEパラメーターに*PRIまたは*NEGを指定した場合には、これはローカル端末アドレスです。

*SAME

この値は変更されません。

SDLCポーリング優先順位 (POLLPTY)

この制御装置がポーリング時に優先権をもつかどうかを指定します。このパラメーターを指定できるのは、SHMが*NOの場合だけです。

*SAME

この値は変更されません。

*NO

この制御装置にはポーリング優先順位はありません。

*YES

この制御装置はポーリング優先順位をもちます。

上

SDLCポーリング限界 (POLLMT)

SDLC 2次制御装置または折衝可能制御装置の場合には、ポーリングでフレームが受信されたときに、同じ制御装置に対して連続してポーリングを行う回数を指定します。このパラメーターを指定できるのは、SHMが*NOの場合だけです。

*SAME

この値は変更されません。

0

ポーリングの省略時の回数はゼロです。

ポーリング限界

ポーリング回数を指定してください。有効な値の範囲は0から4です。

上

SDLC出力限界 (OUTLMT)

別の端末への送信を認める前に、SDLCで端末へ最大フレーム数を送信できる連続回数を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*POLLMT

値は、SDLCポーリング限界(POLLMT)パラメーターに指定されたものと同じです。

アウト限界

0から4の範囲の値を指定してください。

上

SDLC接続ポーリング再試行 (CNNPOLLRTY)

エラーを報告する前に、制御装置との接続をやり直す回数を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*CALC

再試行回数は、制御装置が交換の場合には7で、制御装置が非交換の場合には*NOMAXです。

*NOMAX

システムは、無制限に再試行します。

ポーリング接続再試行

再試行回数として0から65534の範囲の値を指定してください。

上

SDLC NDM ポーリング・タイマー (NDMPOLLTMR)

1次端末から2次端末へのポーリング（通常切断モード(NDM)）によって適切な応答が受信されない場合に、2次端末がポーリングされる最小間隔を指定します。

このパラメーターは、リンク・タイプが*SDLCで、制御装置の役割が2次または折衝可能で、SHMパラメーターに*NOが指定されている場合のみ有効です。

*SAME

この値は変更されません。

*CALC

ポーリング間隔は、システムによって計算されます。

NDMポーリング・タイマー

1から3000の範囲の単位数値を指定してください。各単位は0.1秒を表します。タイマーなしを指示するには、0を指定してください。

上

LAN リモート・アダプター・アドレス (ADPTADR)

リモート制御装置の12文字のアダプター・アドレスを指定します。これは、システムがリモート制御装置と通信する時にシステムがデータを送信するアドレスです。この値は、リモート制御装置の構成レコードから獲得することができます。有効な値の範囲は、16進数000000000001から16進数FFFFFFFFFFFFまでです。

*SAME

この値は変更されません。

アダプター・アドレス

リモート制御装置のアダプター・アドレスを指定してください。

上

LAN DSAP (DSAP)

宛先サービス・アクセス・ポイント(DSAP)を指定します。これは、このシステムがリモート制御装置と通信する時に送る論理アドレスです。このアドレスによって、制御装置はこのシステムからのデータを適切に経路指定することができます。宛先サービス・アクセス・ポイントの省略時の値は04です。

値は、リモート制御装置の構成レコードのソース・サービス・アクセス・ポイント(SSAP) パラメーターに指定された値と一致しなければなりません。

注: *OPC制御装置は、このフィールドに上記の値を使用します。RMTSYSNAMEとDSAP の組み合わせで固有の制御装置が定義されます。これにより、2つのシステム間で複数の制御装置が存在できるようになります。

*SAME

この値は変更されません。

宛先サービス・アクセス・ポイント

宛先サービス・アクセス・ポイントを表す04から9Cの範囲の16進値を4の増分（例えば04, 08, 0C, 10)で指定してください。

上

LAN SSAP (SSAP)

ソース・サービス・アクセス・ポイント(SSAP)を指定します。これは、ローカル・システムがデータをリモート制御装置に送信する時に使用する論理アドレスです。このアドレスによって、制御装置はローカル・システムからのデータを適切に経路指定することができます。ソース・サービス・アクセス・ポイント(SSAP)の省略時の値は04です。

これは、リモート制御装置の構成レコード中で宛先サービス・アクセス・ポイント(DSAP)に割り当てられている値と一致しなければなりません。

***SAME**

この値は変更されません。

ソース・サービス・アクセス・ポイント

ソース・サービス・アクセス・ポイントを表す04から9Cの範囲の16進値を4の増分（例えば04, 08, 0C, 10）で指定してください。

上

LANフレーム再試行 (LANFRMRTY)

LANRSPTMRパラメーターで指定された時間枠内にリモート制御装置からの肯定応答がなかったときに、送信が再試行される回数を指定します。この値が使用されるのは、接続が正常に行われた後だけです。

***SAME**

この値は変更されません。

***CALC**

システムがタイマー値を決定します。

LANフレーム再試行

肯定応答が受信されるまでフレームが送信される回数として0から254の範囲の値を指定してください。

上

LAN接続再試行 (LANCNRRTY)

肯定応答が受信されるまで、送信が試みられる回数を指定します。この値は接続時に使用されます（接続が確立された後で使用されるLANFRMRTYとは異なります）。

***SAME**

この値は変更されません。

***CALC**

システムがタイマー値を決定します。

LAN接続再試行

肯定応答が受信される前に試みられる伝送回数として0から254の範囲の値を指定してください。

上

LAN応答タイマー (LANRSPTMR)

接続時にリンクの作動不可条件を判別するために使用する時間を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*CALC

システムがタイマー値を決定します。

LAN応答タイマー

1から254の単位数値を指定してください。各単位は0.1秒を表します。タイマーなしを指示するには、0を指定してください。

上

LAN接続タイマー (LANCNNTMR)

接続時にリンクの作動不可条件を判別するために使用する時間を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*CALC

システムがタイマー値を決定します。

LAN接続タイマー

非操作状態が起こるまでシステムが待機する時間の長さとして0.1秒間隔の単位で1から254の範囲の値を指定してください。タイマーなしを指示するには、0を指定してください。

上

LAN肯定応答タイマー (LANACKTMR)

受信したフレームに対する肯定応答の送信を延期する時間間隔を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*CALC

システムがタイマー値を決定します。

LAN肯定応答タイマー

1から254の範囲の単位数値を指定してください。各単位は0.1秒を表します。タイマーなしを指示するには、0を指定してください。 **LAN肯定応答頻度(LANACKFRQ)**パラメーターに0を指定した場合には、このパラメーターにも0を指定しなければなりません。 **LANACKFRQ**パラメーターにゼロ以外の数値を指定した場合には、このパラメーターにもゼロ以外の値を指定しなければなりません。

上

LAN非活動タイマー (LANINACTMR)

制御装置の非活動条件を判別するために使用する時間を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*CALC

システムがタイマー値を決定します。

LAN非活動タイマー

制御装置の非操作状態の有無を判別するために使用される時間の長さとして0.1秒間隔の単位で1から255の範囲の値を指定してください。タイマーなしを指示するには、0を指定してください。

上

LAN肯定応答頻度 (LANACKFRQ)

制御装置に肯定応答を送る前に受け取るフレームの最大数を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*CALC

システムがLAN肯定応答頻度値を決定します。

LAN肯定応答頻度

受信フレームの数として0から127の範囲の値を指定してください。 **LAN肯定応答タイマー (LANACKTMR)**パラメーターに0を指定した場合には、このパラメーターにも0を指定しなければなりません。 LANACKTMRパラメーターにゼロ以外の数値を指定した場合には、このパラメーターにもゼロ以外の値を指定しなければなりません。

上

LAN最大未処理フレーム数 (LANMAXOUT)

リモート・システムから肯定応答が受信されるまでに、送信できるフレームの最大数を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*CALC

システムがLAN最大未処理フレーム数値を決定します。

LAN最大未処理フレーム数

肯定応答が受信されるまでに送信できるフレームの数として1から127の範囲の値を指定してください。

上

LANアクセス優先順位 (LANACCPTY)

リモート制御装置にアクセスするために使用される優先順位を指定します。 数字が大きくなるほどこの制御装置の優先順位は高くなります。このパラメーターは、制御装置がTRLANに接続されている場合にのみ使用されます。

*SAME

この値は変更されません。

***CALC**

システムがLANアクセス優先順位値を決定します。

LANアクセス優先順位

ローカル・エリア・ネットワーク(LAN)上のこの制御装置のアクセス優先順位として0から3の範囲の値を指定してください。

上

LANウィンドウ・ステップ (LANWDWSTP)

ネットワーク負荷過剰の間にリモート・システムに対する未処理のフレームの最大数を1に減らすかどうかを指定します。このパラメーター(LANウィンドウ・ステップ)は、未処理フレームの最大数を1ずつ増やそうとすることができるようになる前に、リモート・システムから正常に受け取られていなければならないフレームの数を指示します。未処理フレームの最大数がLAN最大未処理フレーム数(LANMAXOUT)パラメーターに指定された値に達するまで、このような増加が続きます。

***SAME**

この値は変更されません。

***NONE**

ネットワーク負荷過剰の時に未処理フレーム数が削減されません。

LANウィンドウ・ステップ

未処理フレームの最大数が1増えるまでに、リモート・システムによって正常に受信されなければならないフレームの数として1から127の範囲の値を指定してください。

上

X.25ネットワーク・レベル (NETLVL)

この制御装置にアクセスするために使用されるX.25ネットワークのレベルを指定します。レベルは、X.25ネットワークが何年版の標準を使用するかを指定します。

注: リモートDTEまたはネットワーク・レベルには低い値を使用するようにお奨めします。例えば、リモートDTEがCCITT標準の1980およびネットワーク1984を使用している場合には、このパラメーターに1980を指定してください。

***SAME**

この値は変更されません。

1980

1980標準が使用されます。

1984

1984標準が使用されます。

1988

1988標準が使用されます。

上

X.25 リンク・レベル・プロトコル (LINKPCL)

この制御装置と通信するためにX.25ネットワークで使用されるリンク・レベル・プロトコルを指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*QLLC

修飾論理リンク制御(QLLC)プロトコルが使用されます。

*ELLC

拡張論理リンク制御(ELLC)プロトコルが使用されます。

上

X.25接続パスワード (CNNPWD)

X.24呼び出し要求および着信呼び出しパケット（呼び出しユーザー・データ・フィールド）とのパスワード交換に使用されるX.25ネットワーク・パスワードを指定します。パーマネント・バーチャル・サーキット(PVC)接続の場合には、このパラメーターは無効です。

16進数値が40以下の文字から構成される接続パスワード使用したい場合には、そのパスワードを16進数値として指定しなければなりません。8バイト未満を指定すると、パスワード・フィールドの終わりにブランクが埋め込まれます。全桁ブランクのパスワードは無効です。接続を確立するためには、すべての着信呼び出し要求がこのパスワードと一致しなければなりません。

16進数パスワードを指定するためには、その桁数が2の倍数で、16桁以下の長さで、アポストロフィで囲み、Xが先行するものを指定しなければなりません。例えば、X'0102030405'は有効な16進数パスワードです。

注: スイッチド・バーチャル・サーキット(SVC)上の拡張論理リンク制御(ELLC)プロトコル LINKPCL(*ELLC) によって稼働する制御装置の場合には、この接続パスワードを強くお奨めします。この拡張プロトコルは、切断信号で回線を切断するネットワーク・エラーが起こった後の回線接続の再接続をサポートします。しかし、この再接続は、制御装置の固有のIDとして使用されるパスワード妥当性検査手順なしでは実行することはできません。

***SAME**

この値は変更されません。

***NONE**

接続パスワードは使用されません。

X.25接続パスワード

接続パスワードを指定してください。各制御装置のパスワードは、40からFFの範囲の16進値で表されるどの英数字からでも構成することができます。

上

X.25交換回線選択 (SWTLINSLCT)

X.25交換回線リストから回線を選択するために使用する方法を指定します。

***SAME**

この値は変更されません。

***FIRST**

交換回線リスト中の最初の回線から回線が選択されていきます。

***CALC**

システムが交換回線リスト中の選択される回線を決定します。

上

X.25省略時のパケット・サイズ (DFTPKTSIZE)

X.25ネットワークで送受信に使用される省略時のパケット・サイズを指定します。

指定できる送信の値は次の通りです。

***SAME**

この値は変更されません。

***LIND**

回線記述に指定された値が省略時の値です。

送信パケット・サイズ

送信用の省略時のパケット・サイズを指定してください。パケット・サイズの有効な値は64, 128, 256, 512, 1024, 2048, および4096 です。

指定できる受信の値は次の通りです。

***SAME**

この値は変更されません。

***LIND**

回線記述に指定された値が省略時の値です。

***TRANSMIT**

送信用の省略時のパケット・サイズとして指定された値が受信の省略時の値として使用されます。

受信パケット・サイズ

受信用の省略時のパケット・サイズを指定してください。パケット・サイズの有効な値は64, 128, 256, 512, 1024, 2048, および4096です。

上

X.25省略時のウィンドウ・サイズ (DFTWDWSIZE)

送信および受信用の省略時のウィンドウ・サイズを指定します。

要素1:送信ウィンドウ・サイズ

***SAME**

この値は変更されません。

***LIND**

回線記述に指定された値が省略時のウィンドウ・サイズとして使用されます。

送信ウィンドウ・サイズ

適切な省略時のウィンドウ・サイズを指定します。モジュラス8を指定している場合は、有効な値の範囲は1から7です。モジュラス128を指定した場合には、有効な値の範囲は1から15です。スイッチド・バーチャル・サーキット(SVC)着信呼び出しの場合には、システムは、着信呼び出しパケット機能フィールドで示されたウィンドウ・サイズを受け入れます。

要素2:受信ウィンドウ・サイズ

*SAME

この値は変更されません。

*LIND

回線記述に指定された値が省略時のウィンドウ・サイズとして使用されます。

*TRANSMIT

送信用の省略時のウィンドウ・サイズとして指定された値が受信用の省略時の値として使用されます。

受信ウィンドウ・サイズ

適切な省略時のウィンドウ・サイズを指定します。モジュラス8を指定している場合は、有効な値の範囲は1から7です。モジュラス128を指定した場合には、有効な値の範囲は1から15です。

上

X.25 ユーザー・グループ識別コード (USRGRPID)

X.25ネットワークのスイッチド・バーチャル・サーキット(SVC)制御装置用の閉域接続グループIDを指定します。

ネットワーク・サブスクリプションによって提供される00から99の2桁の10進数値を指定します。パーマネント・バーチャル・サーキット(PVC)接続の場合には、このパラメーターは無効です。これが有効となるのはSVC回線発信呼び出し操作の場合だけであり、SVC着信呼び出し接続の場合は無視されます。

*SAME

この値は変更されません。

*NONE

ユーザー・グループIDに値が指定されません。

上

X.25着信課金 (RVSCRG)

この制御装置と接続する時にコレクトコールを受け入れるかまたは要求するかどうかを指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*NONE

ネットワーク料金請求のコレクトコールは受け入れられません。

*REQUEST

発信呼び出し要求パケットで課金が要求されます。

*ACCEPT

着信要求でネットワーク料金請求のコレクトコールが受け入れられます。

*BOTH

着信と発信の両方の要求が受け入れられます。

上

X.25フレーム再試行 (X25FRMRTY)

この制御装置に接続する時に、応答タイマーが切れた後でフレームが送信される最大回数を指定します。このパラメーターの値は、ネットワークによって提供されるサービス品質およびそのネットワークへの接続形態によります。すなわちそれは、リンク・プロトコル・データ単位が失われる頻度によります。

*SAME

この値は変更されません。

X.25フレーム再試行

フレームの送信回数として0から21の範囲の値を指定してください。

上

X.25接続再試行 (X25CNNRTY)

この制御装置に接続する時に、接続応答タイマーが切れた後で論理リンク制御(LLC) プロトコル・データ単位が送信される最大回数を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

X.25接続再試行

フレームの送信回数として0から21の範囲の値を指定してください。

上

X.25応答タイマー (X25RSPTMR)

この制御装置に接続中でLLCプロトコル・データ装置を送る時に、肯定応答を戻すことのできる時間を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

X.25応答タイマー

時間の長さを0.1秒単位で指定してください。有効な値の範囲は0.1秒間隔の単位で1から2550です。

上

X.25接続タイマー (X25CNNTMR)

この制御装置に接続中でLLCプロトコル・データ装置を送る時に、肯定応答を戻すことのできる時間を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

接続タイマー

時間の長さを0.1秒単位で指定してください。有効な値の範囲は0.1秒間隔の単位で1から2550です。

上

X.25遅延接続タイマー (X25DLYTMR)

制御装置への接続を確立するための試行の時間間隔を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*CALC

接続の確立を試みる頻度および回数を決定するためには、**X.25接続タイマー(X25CNNTMR)**パラメーターおよび**X.25接続再試行(X25CNNRTY)**パラメーターに指定する値を使用してください。

X.25遅延タイマー

1から32767の範囲の単位数値を指定してください。各単位は0.1秒を表します。接続の試みはこの時間間隔で無制限に反復されます。

上

X.25肯定応答タイマー (X25ACKTMR)

受信したフレームへの肯定応答の送信を遅らせる時間の長さを指定します。

*SAME

この値は変更されません。

X.25肯定応答タイマー

有効な値の範囲は0.1秒間隔の単位で1から2550です。0は、遅延がないことを示します。

上

X.25非活動タイマー (X25INACTMR)

制御装置の非活動条件を判別するために使用する時間を指定します。有効な値は、0.1秒単位の1から2550です。

*SAME

この値は変更されません。

上

ユーザー機能 (USRFCL)

追加のサービスを要求するためには、X.25ネットワークに送信する16進文字のストリングを指定します。システムでは最高218桁の16進文字を使用することができます。

***NONE**

ユーザー機能に値が指定されません。

***SAME**

この値は変更されません。

上

割り振り再試行タイマー (ALCRTYTMR)

LU6.2セッションの接続を試行してから次に試行するまでシステムが待機する時間の長さを秒数で指定します。

***SAME**

この値は変更されません。

1から9999

1から9999秒の範囲の時間の長さを指定してください。

上

装置の自動作成 (AUTOCRTDEV)

この制御装置記述で装置記述を自動的に作成できるかどうかを指定します。

***SAME**

この値は変更されません。

***ALL**

この制御装置に自動的に作成可能なすべての従属装置は、APPC装置を除いて自動的に作成されます。

***NONE**

この制御装置の従属装置は自動的に作成されることはありません。

上

交換回線切断 (SWTDSC)

最後の装置がオフに構成変更された時に、この制御装置に対する交換接続を除去するかどうかを指定します。

*SAME

この値は変更されません。

***NO**

最後の装置がオフに構成変更されても、交換接続が切断されません。

***YES**

最後の装置がオフに構成変更されると、交換接続がオフに構成変更されます。

上

回復限界 (CMNRCYLMT)

システム操作員に照会メッセージが送られる前にシステムによって行なわれる回復処置の試行回数を指定します。また、回復処置の試行回数がカウント限界に達したことを示す照会メッセージをシステム操作員に送る前に経過していなければならない時間（分数）も指定します。

要素1:最大回復限界

*SAME

この値は変更されません。

***SYSVAL**

QCMNRCYLMTシステム値の値が使用されます。

カウント限界

行なわれる第2レベルの回復処置の試行回数を指定してください。有効な値の範囲は、0から99です。

要素2:回復時間間隔

時間間隔

指定された回数の第2レベルの回復が試みられる時間間隔（分数）を指定してください。有効な値の範囲は0から120です。カウント限界に指定された値が0でない場合には、値0は時間無制限の回復を指定します。

通信回復の詳細はCOMMUNICATIONS MANAGEMENT (SC41-5406)にあります。

上

MSG 待ち行列 (MSGQ)

操作メッセージが送られるメッセージ待ち行列を指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*SYSVAL

メッセージは、QCFGMSGQシステム値に定義されたメッセージ待ち行列に送られます。

*SYSOPR

メッセージは、システム操作員メッセージ待ち行列(QSYS/QSYSOPR)に送られます。

修飾子1: MSG 待ち行列

名前 操作メッセージが送られるメッセージ待ち行列の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

名前 メッセージ待ち行列が入っているライブラリーの名前を指定してください。

上

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*BLANK

テキストは指定されません。

文字値

50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

上

例

```
CHGCTLRWS  CTLD(CTL005) SWTLINLST(LINE01)
            CNNBR('555-5950')
```

このコマンドは、制御装置記述CTL005を変更します。ここで交換回線リストには名前LINE01だけが含まれることになり、接続番号は555-5950に変更されています。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF2652

制御装置記述&1は変更されなかった。

上

制御装置記述の変更 (テープ) (CHGCTLTAP)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

テープ制御装置記述の変更(CHGCTLTAP)コマンドは、テープ制御装置の制御装置記述を変更します。

制約事項: このコマンドを使用するには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
CTLD	制御装置記述	名前	オプションル、キー、定位置 1
RSRCNAME	資源名	名前, *SAME, *NONE	オプションル
ONLINE	IPL時のオンライン	*SAME, *YES, *NO	オプションル
AUTOCFG	自動構成制御装置	*SAME, *YES, *NO	オプションル
TEXT	テキスト記述	文字値, *SAME, *BLANK	オプションル

上

制御装置記述 (CTLD)

これは必須パラメーターです。

制御装置記述の名前を指定します。

上

資源名 (RSRCNAME)

この記述が表すハードウェアを識別する資源名を指定します。WRKHDWRSCコマンドを使用して資源名を判別してください。

*SAME

この値は変更されません。

*NONE

この時点では資源名は指定されません。装置をオンに構成変更する前に資源名を指定しなければなりません。

資源名

システム上の物理装置を識別するための名前を指定してください。TYPEパラメーターに*STGを指定したハードウェア資源処理(WRKHDWRSC)コマンドを使用すれば、資源名の判別に役立ちます。

上

IPL時のオンライン (ONLINE)

初期プログラム・ロード(IPL)時にこのオブジェクトを自動的にオンに構成変更するかどうかを指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*YES

制御装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されます。

*NO

制御装置は、IPL時に自動的に構成変更されることはありません。

上

自動構成制御装置 (AUTOCFG)

この制御装置記述が装置の自動構成時に、その装置が接続される記述であるかどうかを指定します。各制御装置には複数の制御装置記述が存在することができますが、自動構成制御装置となることができるのは1つの記述だけです。その制御装置で新しい装置が自動的に構成されると、その装置は自動構成制御装置記述に追加されます。

*SAME

この値は変更されません。

*NO

これは、自動構成制御装置ではありません。

*YES

これは自動構成制御装置です。

上

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*BLANK

テキストは指定されません。

文字値

50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

上

例

```
CHGCTLTAP  CTLD(TAP01)  ONLINE(*NO)
```

このコマンドは、TAP01という名前のテープ制御装置でONLINEパラメーター値を*NOに変更します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF2652

制御装置記述&1は変更されなかった。

上

制御装置記述の変更 (仮想WS) (CHGCTLVWS)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

仮想ワークステーション制御装置記述の変更(CHGCTLVWS)コマンドは、仮想ワークステーション (パスルー) 制御装置の制御装置記述を変更します。

制約事項: このコマンドを使用するには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
CTLD	制御装置記述	名前	必須, キー, 定位置 1
ONLINE	IPL時のオンライン	*SAME, *YES, *NO	オプション
DEVWAITTMR	入出力装置待ちタイマー	2-120, *SAME	オプション
MSGQ	MSG 待ち行列	単一値: *SAME, *SYSVAL, *SYSOPR その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: MSG 待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前	
TEXT	テキスト記述	文字値, *SAME, *BLANK	オプション

上

制御装置記述 (CTLD)

これは必須パラメーターです。

制御装置記述の名前を指定します。

上

IPL時のオンライン (ONLINE)

初期プログラム・ロード(IPL)時にこのオブジェクトを自動的にオンに構成変更するかどうかを指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*YES

制御装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されます。

***NO**

制御装置は、IPL時に自動的に構成変更されることはありません。

上

入出力装置待ちタイマー (DEVWAITTMR)

装置待ちタイムアウト値を指定します。この値を用いて、サブシステムがワークステーション入出力の完了に要する見込み時間の長さを限定します。各装置に使用されるタイムアウト値は、オンに構成変更された時点で、接続している制御装置から得られます。このパラメーター値を変更すると、接続装置が次にオンに構成変更された時点で影響が出ます。

***SAME**

この値は変更されません。

装置待ちタイマー

サブシステムがこの制御装置に接続されたすべてのワークステーションでワークステーション入出力の完了を待機する最大秒数を指定する2から600の範囲の値を指定してください。

このパラメーターに値を選択する時には、制御装置に接続される装置のタイプを考慮してください。ローカルに接続されるワークステーションでは、このパラメーターは低い値(10秒以下)にしてください。

上

MSG 待ち行列 (MSGQ)

操作メッセージが送られるメッセージ待ち行列を指定します。

***SAME**

この値は変更されません。

***SYSVAL**

メッセージは、QCFGMSGQシステム値に定義されたメッセージ待ち行列に送られます。

***SYSOPR**

メッセージは、システム操作員メッセージ待ち行列(QSYS/QSYSOPR)に送られます。

修飾子1: MSG 待ち行列

名前 操作メッセージが送られるメッセージ待ち行列の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

名前 メッセージ待ち行列が入っているライブラリーの名前を指定してください。

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

*SAME

この値は変更されません。

*BLANK

テキストは指定されません。

文字値

50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

上

例

```
CHGCTLVWS  CTLD(VRTCTL325)  TEXT('S/325 VIRTUAL CONTROLLER')
```

このコマンドは、制御装置VRTCTL325の制御装置記述を、新しいテキスト記述をもつように変更します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF2652

制御装置記述&1は変更されなかった。

上

現行ディレクトリーの変更 (CHGCURDIR)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

現行ディレクトリーの変更 (CHGCURDIR)コマンドは、指定されたディレクトリーを現行の作業ディレクトリーに変更します。現行ディレクトリーはディレクトリー、ライブラリー、フォルダー、またはデータベース・ファイルとすることができます。コマンドで使用されるオブジェクトを見つけるために、現行ディレクトリーが使用されます。

このコマンドは、次の代替ファイル・システム・コマンド名を使用して出すこともできます。

- CD
- CHDIR

統合ファイル・システム・コマンドの詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「統合ファイル・システム」トピック・コレクションを参照してください。

制約事項:

- このコマンドは1つのオブジェクトにだけ作用します。ディレクトリー (DIR)パラメーターでパターンが指定されていて、複数のオブジェクトがそのパターンと一致した場合には、対話式ジョブのリストからオブジェクトを選択することができます。これがバッチ・ジョブの場合には、このコマンドは失敗して、エラー・メッセージCPFA08E, "複数の名前がパターンと一致した。"が出されます。
- 現行ディレクトリーと現行ライブラリーは、独立した別のエンティティーです。現行ライブラリーと現行ディレクトリーは同じライブラリーに設定できますが、現行ライブラリーまたは現行ディレクトリーのいずれかに対する変更は他方には影響しません。

このコマンドで設定された現行ディレクトリーは、統合ファイル・システムのコマンドおよびAPIに影響します。現行ライブラリー変更 (CHGCURLIB)コマンドで設定された現行ライブラリーは、ライブラリー修飾子として値*CURLIBを使用する表示装置ファイル作成(CRTDSPF)コマンドなどのコマンドに影響を与えます。

- ディレクトリーに対する読み取り(*R)権限が必要です。
- パス内の各ディレクトリーに対する実行(*X)権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
DIR	ディレクトリー	パス名	必須, 定位置 1

上

ディレクトリー (DIR)

ジョブの現行作業ディレクトリーを置き換えるディレクトリーのパス名を指定します。

これは必須パラメーターです。

パス名を指定するときの詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリーに含まれる制御言語(CL) トピック・コレクションの「オブジェクトの命名規則」を参照してください。

注: このパラメーターではUnicodeが使用可能です。詳しくは、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリーに含まれる制御言語(CL) トピック・コレクションで「CLでのUnicodeサポート」を参照してください。

上

例

例1:現行ディレクトリーの変更

```
CHGCURDIR  DIR(/DIRECTORY2)
```

このコマンドは、現行ディレクトリーDIRECTORY2という名前のディレクトリーに変更します。

例2:現行ディレクトリーの親への現行ディレクトリーの変更

```
CHGCURDIR  DIR('..')
```

このコマンドは、現行ディレクトリーを、このコマンドを実行する前に現行ディレクトリーが入っていたディレクトリーの親ディレクトリーに変更します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPFA085

ユーザー&1のホーム・ディレクトリーが見つからなかった。

CPFA08E

複数の名前がパターンと一致した。

CPFA093

パターンに一致する名前が見つからなかった。

CPFA09C

オブジェクトが認可されていない。オブジェクトは&1です。

CPFA09D

プログラム&1でエラーが起こった。

CPFA0A1

入力または出力エラーが起こった。

CPFA0A3

パス名分析解決によりループしている。

CPFA0A7

パス名が長すぎる。

CPFA0A9

オブジェクトが見つからない。オブジェクトは&1です。

CPFA0AB

オブジェクトの操作が失敗しました。オブジェクトは&1です。

上

現行ライブラリー変更 (CHGCURLIB)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: はい

パラメーター
例
エラー・メッセージ

現行ライブラリー変更(CHGCURLIB)コマンドは、現行スレッドのライブラリー・リストの現行ライブラリー項目を置き換えます。

注: このコマンドを使用して、関連した現行ライブラリーをもつメニューまたはプログラムからライブラリー・リストの現行ライブラリー項目を変更した場合には、現行ライブラリーの変更が有効であるのは、その変更元になったメニューまたはプログラムの呼び出しレベルの間だけです。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
CURLIB	現行ライブラリー	名前, *CRTDFT	必須, 定位置 1

上

現行ライブラリー (CURLIB)

現行スレッドのライブラリー・リストにある現行ライブラリー項目を置き換えるライブラリーを指定します。

これは必須パラメーターです。

*CRTDFT

現行スレッドのライブラリー・リストの現行項目にはライブラリーがあってはなりません。オブジェクトが現行ライブラリーに作成される場合には、QGPLライブラリーが省略時の現行ライブラリーとして使用されます。

名前 現行スレッドのライブラリー・リスト中の現行ライブラリー項目を置き換えるライブラリーの名前を指定してください。

上

例

CHGCURLIB CURLIB(ULIB10)

このコマンドは、現行スレッドのライブラリー・リストの現行ライブラリー項目をライブラリーULIB10に変更します。

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF2106

ライブラリー・リストが使用可能でない。

CPF2110

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF2113

ライブラリー&1を割り振ることができない。

CPF2133

ライブラリー・リストの最初のプロダクト・ライブラリーが壊されている。

CPF2134

ライブラリー・リストの2番目のプロダクト・ライブラリーが壊されている。

CPF2137

ライブラリー・リストの現行ライブラリーが壊されている。

CPF2176

ライブラリー&1に損傷がある。

CPF2182

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

デバッグ変更 (CHGDBG)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

デバッグ変更(CHGDBG)コマンドは、あるジョブについて現在有効となっているデバッグ・セッションの属性を変更します。どのプログラムをデバッグするかを除いて、すべての属性を変更することができます。デバッグ・モードへのプログラムの追加、またはデバッグ・モードからのプログラムの除去を行うためには、プログラム追加(ADDPGM)コマンドまたはプログラム除去(RMVPGM)コマンドを使用してください。

制約事項:

- このコマンドは、デバッグ・モードでのみ有効です。デバッグ・モードを開始するためには、STRDBG (デバッグ開始) コマンドを参照してください。
- 現行ジョブが別のジョブをサービス中であり、そのジョブが終了中の場合には、このコマンドを使用することはできません。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
DFTPGM	省略時のプログラム	名前, *SAME, *NONE	オプション, 定位置 1
MAXTRC	最大トレース・ステートメント数	整数, *SAME	オプション
TRCFULL	トレース・データ満杯時の処理	*SAME, *STOPTRC, *WRAP	オプション
UPDPROD	実動ファイルの更新	*SAME, *NO, *YES	オプション
OPMSRC	OPMソース・レベル・デバッグ	*SAME, *NO, *YES	オプション

上

省略時のプログラム (DFTPGM)

デバッグ・モードの時に省略時のプログラムとして使用するオリジナル・プログラム・モデル(OPM)プログラムを指定します。ここで指定したプログラムは、プログラム (PGM)パラメーターに*DFTPGMが指定された他のすべてのデバッグ・プログラムの省略時のプログラムとして使用されます。すなわち、省略時のプログラムが前に指定された場合には、このパラメーターはそれを変更することができます。

このパラメーターが適用可能なのはOPM環境だけです。

*SAME

現在省略時のプログラムとして指定されているプログラムがあれば、それがそのまま使用されます。

*NONE

省略時のプログラムは指定されません。前に省略時のプログラムとして指定されているプログラム

があったとしても、そのプログラムは省略時のプログラムではなくなります。省略時のプログラムのないジョブでは、その他のデバッグ・コマンドの**プログラム (PGM)**パラメーターに*DFTPGMを指定することはできません。

名前 デバッグ・モード中に省略時のプログラムとして使用するプログラムの名前を指定してください。これと同じ名前が、デバッグ開始(STRDBG)コマンドまたはプログラム追加(ADDPGM)コマンドのPGMパラメーターに指定されていなければなりません。

上

最大トレース・ステートメント数 (MAXTRC)

システムが、トレースを終了するかまたはトレース・ファイルで折り返し（オーバーレイ）を行う前に、ジョブのトレース・ファイルに入れるトレース・ステートメントの最大数を指定します。トレース・ファイルにこの指定された最大数が含まれていると、システムは、**トレース・データ満杯時の処理 (TRCFULL)**パラメーターに指定された値によって指示された処置を行います。

注: 対話式環境でデバッグするプログラムについては、トレース・ステートメントの最大数を**1**に設定し、**トレース・データ満杯時の処理(TRCFULL)**パラメーターの値を*STOPTRCとすることにより、命令のステップ実行を行うことができます。

このパラメーターが適用可能なのはOPM環境だけです。

*SAME

ファイル内のトレース・ステートメントの最大数は変更されません。

整数 トレース・ファイルに入れることのできるトレース・ステートメントの最大数を指定してください。

上

トレース・データ満杯時の処理 (TRCFULL)

ジョブのトレース・ファイルがいっぱいになった時、すなわち、**最大トレース・ステートメント数 (MAXTRC)**パラメーターに指定された最大数のトレース・ステートメントが含まれる時に、どのような処置を行うかを指定します。

このパラメーターが適用可能なのはOPM環境だけです。

*SAME

トレース・ファイルがいっぱいになった時にとる処置は変更されません。

*STOPTRC

バッチ環境では、トレースは停止されますが、プログラムの処理は続行されます。また、対話式環境では、停止点が生じた時点でユーザーに制御権が渡されます。ユーザーが処理を続行した場合には、トレース対象のステートメントの範囲内で、以後の各ステートメントの処理の前にそれぞれ停止点が生じ、トレース・ファイルは新しい項目を入れるために拡張されます。

*WRAP

トレース・ファイルは、新しいトレース・ステートメントが発生するたびに、ファイルの先頭から折り返してオーバーレイされます。循環が生じたことを示すメッセージは出されず、プログラムは

処理を続けます。トレース・ファイルには指定された最大ステートメント数を超えるステートメントが入ることはなく、また、常に、記録された最新のステートメントが入っていることとなります。

上

実動ファイルの更新 (UPDPROD)

ジョブがデバッグ・モードになっている時に、プロダクション・ライブラリー中のデータベース・ファイルを変更のために（すなわちファイル中のレコードの追加、削除、または変更のために）オープンできるかどうかを指定します。できない場合には、ファイルを使用するプログラムの実行を試みる前にファイルをテスト・ライブラリーにコピーしなければなりません。

このパラメーターはOPM環境およびILE環境の両方で適用可能です。

*SAME

このパラメーターに対して前に指定した値は変更されません。

- *NO** プロダクション・ライブラリー中のデータベース・ファイルは、デバッグ・モードの時に変更することはできません。データベース・ファイルは読み取りのためにだけオープンすることができます。
- *YES** プロダクション・ライブラリー中のデータベース・ファイルは、ジョブがデバッグ・モードになっている時に変更することができます。

上

OPMソース・レベル・デバッグ (OPMSRC)

OPMプログラムを、システム・ソース・デバッグ・サポート（ILEソース・デバッグと同じ）を使用してデバッグするかどうかを指定します。

このパラメーターは、OPTION(*SRCDBG)を指定したCRTCLPGM, CRTRPGPGM,およびCRTCLBPGMコマンドを使用して作成したOPM CL, OPM RPG,およびOPM COBOLプログラムの場合に有効です。さらに、このパラメーターは、OPTION(*LSTDBG)を指定したCRTCLPGM, CRTRPGPGM, CRTCLBPGM, CRTSQLRPG, CRTSQLCBL,およびCRTRPTPGMの各コマンドで作成されたOPM CL, OPM RPG,およびOPM COBOLプログラムの場合にも有効です。OPMプログラムがCL, RPG,またはCOBOLではなく、有効なデバッグ・オプションを指定してコンパイルしなかった場合には、このパラメーターは無視されます。

デバッグするためにCHGDBGコマンドの前にすでに追加されたOPMプログラムは、現在活動状態になっているデバッグ環境(ILEまたはOPM)のもとで活動状態であり続けます。デバッグするためにCHGDBG追加済みの前に追加されたプログラムはOPMSRC パラメーターの影響を受けます。

このパラメーターはOPM環境およびILE環境の両方で適用可能です。

*SAME

値は変更されません。

- *NO** OPMデバッグ機能はOPMプログラム用に使用されます。
- *YES** ILEデバッグ機能はOPMプログラム用に使用されます。

上

例

```
CHGDBG  MAXTRC(400)  TRCFULL(*STOPTRC)
```

このコマンドは、トレース・ファイルに書き込むことができるトレース・ステートメントの最大数を400に変更します。ファイルがいっぱいになると、トレースは停止されます。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF1999

コマンドでエラーが起こった。

上

DDMファイル変更 (CHGDDMF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

分散データ管理(DDM)ファイル変更(CHGDDMF)コマンドは、指定された分散データ管理機能(DDM)記述のDDMファイルの1つまたは複数の属性を変更します。DDMファイルは、System i5 DDMネットワークのターゲット・システムにあるファイルにアクセスするために、System i5のプログラムで参照ファイルとして使用されます。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
FILE	DDMファイル	修飾オブジェクト名	必須, キー, 定位置 1
	修飾子 1: DDMファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
RMTFILE	リモート・ファイル	単一値: *SAME その他の値: 要素リスト	オプション, 定位置 2
	要素 1: ファイル	単一値: *NONSTD その他の値: 修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
	要素 2: 標準外ファイル'名'	文字値	
RMTLOCNAME	リモート・ロケーション	単一値: *RDB その他の値: 要素リスト	オプション, 定位置 3
	要素 1: 名前またはアドレス	文字値, *SAME, *DEV	
	要素 2: タイプ	*SAME, *SNA, *IP	
LVLCHK	レコード様式レベルの検査	*SAME, *RMTFILE, *NO	オプション
RDB	リレーショナル・データベース	名前, *SAME	オプション
TEXT	テキスト'記述'	文字値, *SAME, *BLANK	オプション
DEV	装置	要素リスト	オプション
	要素 1: APPC装置記述	名前, *SAME, *LOC	
LCLLOCNAME	ローカル・ロケーション	通信名, *SAME, *LOC, *NETATR	オプション
MODE	モード	通信名, *SAME, *NETATR	オプション
RMTNETID	リモート・ネットワーク 識別コード	通信名, *SAME, *LOC, *NETATR, *NONE	オプション
PORT	ポート番号	1-65535, *SAME, *DRDA	オプション
ACCMTH	アクセス方式	単一値: *SAME, *RMTFILE, *COMBINED その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: リモート・ファイル属性	*KEYED, *ARRIVAL	
	要素 2: ローカル・アクセス方式	*BOTH, *RANDOM, *SEQUENTIAL	
SHARE	オープン・データ・パス共用	*SAME, *NO, *YES	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノート
PTCCNV	保護された会話	*SAME, *NO, *YES	オプション

上

DDMファイル (FILE)

変更する分散データ管理機能(DDM)ファイルを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: DDMファイル

名前 DDMファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

DDMファイルを見つけるためには、現行ジョブ・ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 DDMファイルが入っているライブラリーを指定します。

上

リモート・ファイル (RMTFILE)

ターゲット・システムでコーディングされているリモート・ファイルの名前を指定します。分散データ管理機能(DDM)ファイルを変更するときには、リモート・ファイルが存在している必要はありません。

注: このファイル名はコード・ページ500に指定しなければなりません。

単一値

*SAME

リモート・ファイルの名前は変更されません。

要素1: ファイル

単一値

*NONSTD

リモート・ファイル名は標準のSystem i5ファイル名ではありません。このパラメーターの2番目の要素にアポストロフィで囲んで完全なファイル名を指定してください。

修飾子1: ファイル

名前 リモート・システムで認識されているリモート・ファイルの名前を指定してください。リモート・システムがSystem i5の場合は、ファイル名を指定してください。このファイル名は最大10桁の長さとすることができます。リモート・システムがシステム/36である場合に

は、ファイル名はそのシステム/36ファイル・ラベルと同じです。このファイル名は最大8桁の長さとしてすることができます。リモート・システムがシステム/38である場合には、単純（修飾されていない）ファイル名を指定することができます。このファイル名は最大10桁の長さとしてすることができます。他のすべてのリモート・システムのラベル（システム/38の修飾ファイル名を含む）は、*NONSTDの後にアポストロフィで囲んだりリモート・ファイル名を続けて使用する必要があります。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ファイルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 ファイルが入っているライブラリーを指定します。

注: ライブラリー名が使用されるのは、ターゲット・システムがSystem i5の場合に限ります。

要素2: 標準外ファイル名

文字値 System i5およびシステム/36で使用されている命名規則以外の規則を使用できるターゲット・システムの場合、修飾システム/38ファイル名を指定するとき、およびリモートのSystem i5またはシステム/38 ファイルのメンバー名を指定するときには、アクセスするリモート・ファイルの名前を255文字以内で指定してください。この名前はターゲット・システムが必要とする形式でコーディングしなければなりません。この名前は常にアポストロフィで囲まなければならないので、小文字、ブランク、ピリオド、または他の任意の特殊文字を含むことができます。

System i5,システム/38,およびシステム/36の名前は、大文字でなければならず、ブランクを使用することはできません。

ターゲット・システムがSystem i5またはシステム/38の場合には、ファイル名、ライブラリー名、およびメンバー名のすべてを指定できます。メンバー名を指定する場合は、完全なファイル名をアポストロフィで囲んで値*NONSTD の後に続けて示し、メンバー名は括弧で囲んで、（スペースなしで）ライブラリー名（システム/38）またはファイル名(System i5)のいずれかの直後に示す必要があります。

上

リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)

分散データ管理機能(DDM)ファイルで使用されるリモート（ターゲット）システムのロケーション名またはアドレスを指定します。複数のDDMファイルで、ターゲット・システムの同じリモート・ロケーションを使用できます。

単一値

***RDB** リモート・システムを判別するために、**リレーショナル・データベース (RDB)**パラメーターに指定されたりリレーショナル・データベース項目からのリモート・ロケーション情報が使用されます。

要素1: 名前またはアドレス

*SAME

ファイル記述に指定されたリモート・ロケーション名は変更されません。

*DEV

装置 (DEV)パラメーターに指定された装置記述で定義されているリモート・ロケーション名が使用されます。

注: DEVパラメーターに*LOCが指定されている場合には、このパラメーターにリモート・ロケーション名を指定しなければなりません。

文字値 ターゲット・システムと関連したリモート・ロケーションの名前またはアドレスを指定してください。ターゲット・システムのアクセスで使用されるリモート・ロケーションは、DDMファイルが作成される時には存在している必要はありませんが、DDMファイルがオープンされる時には存在していなければなりません。リモート・ロケーションは、次のいくつかの形式を取ることができます。

- SNAリモート・ロケーション名(LU名)。最大8文字のリモート・ロケーション名を指定してください。この形式を使用する場合には、このパラメーターのアドレス・タイプは*SNA (省略時の値) でなければなりません。
- ピリオドで区切ったSNAリモート・ネットワークIDおよびリモート・ロケーション名。最大8文字のリモート・ロケーション名および最大8文字のリモート・ネットワークIDを指定してください。この形式のパラメーターを使用する場合は、このパラメーターのアドレス・タイプは*SNA (省略時値) でなければならず、RMTNETIDパラメーターに指定する値と一致する必要があります。RMTNETIDパラメーターが指定されていない場合には、RMTLOCNAMEパラメーターと一致するようにRMTNETID値が設定されます。
- ドット10進数形式のIPアドレス。nnn.nnn.nnn.nnnの形式でインターネット・プロトコル・バージョン4アドレスを指定してください。nnnは、0-255の範囲の数値です。この形式を使用する場合、このパラメーターのアドレス・タイプは*IPとして指定しなければなりません。
- コロン付き16進形式のIPアドレス。:&ウナカホ. xxxx:xxxx:xxxx:xxxx:xxxx&ウナカホ. :xxxx:xxxxの形式のインターネット・プロトコル・バージョン6アドレスを指定します。ここで、各xxxxは0からFFFFの範囲の16進数字です。この形式を使用する場合には、このパラメーターのアドレス・タイプは*IPとして指定しなければなりません。IPバージョン6には、IPv4マップのIPv6アドレス形式 (例えば、::FFFF:1.2.3.4)があります。IPバージョン6の場合、圧縮形式のアドレスを指定できます。
- IPホスト・ドメイン名。最大254文字の長さでインターネット・ホスト・ドメイン名を指定してください。この形式を使用する場合には、このパラメーターのアドレス・タイプは*IPとして指定しなければなりません。

アドレス・タイプに*IPを指定した場合には、リモート・ロケーションのDDMサーバーは、TCP/IPの使用をサポートしなければならず、DEV, LCLLOCNAME, RMTNETID,およびMODEの各パラメーターは無視されます。

*IPを指定しない場合には、DDMサーバーは、SNA接続をサポートしていなければならず、PORTパラメーターは無視されます。

要素2: タイプ

*SAME

アドレス・タイプは変更されません。

***SNA** リモート・ロケーションは、システム・ネットワーク体系(SNA)のアドレス・タイプをもちます。

***IP** リモート・ロケーションは、インターネット・プロトコル(IP)のアドレス・タイプをもちます。

上

レコード様式レベルの検査 (LVLCHK)

分散データ管理機能(DDM)ファイルのオープン時に、プログラムのレベルIDをリモート・ファイルのレコード様式のレベルIDと照合するかどうかを指定します。両者が一致しない場合には、オープンを要求したプログラムにエラー・メッセージが送られ、DDMファイルも関連リモート・ファイルもオープンされません。このパラメーター値は、リモート・ファイルがオープンされる前に、データベース・ファイル一時変更(OVRDBF)コマンドによって一時変更することができます。

***SAME**

レベルID値は変更されません。

***RMTFILE**

リモート・ファイルのレコード様式のレベルIDは、DDMファイルのオープン時に検査されます。

注: System i5以外のシステムの場合には、DDMファイルを使用してプログラムをコンパイル（または再コンパイル）しなければなりません。コンパイル操作で、DDMファイルは、ターゲット・システムとの通信を確立し、ターゲット・システムからリモート・ファイルの属性を受け取り、レベルID値を後からのレベル検査用にコンパイル済みプログラムに組み込むことができるように作成するために使用されます。

***NO** ファイルのオープン時にレベルIDは検査されません。

上

リレーショナル・データベース (RDB)

DDMファイルのリモート・ロケーション情報の判別に使用するリレーショナル・データベース項目を指定します。

***SAME**

リレーショナル・データベース項目は変更されません。

名前 ターゲット・システムまたはターゲットASP（補助記憶域プール）グループを識別するリレーショナル・データベース項目の名前を指定してください。リレーショナル・データベース名は、リモート・システム上で構成されて使用できるリモート・システムまたはASPグループを参照できます。リレーショナル・データベース項目は、DDMファイルの作成時に存在している必要はありませんが、DDMファイルのオープン時には存在している必要があります。リモート・ロケーション名(RMTLOCNAMEパラメーター)として*RDBが使用されている場合には、このパラメーターは必須です。

上

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

***SAME**

テキストは変更されません（テキストがある場合）。

***BLANK**

テキストは指定されません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

上

装置 (DEV)

このDDMファイルと一緒に使用されるソース・システム上の拡張プログラム間通信(APPC)装置記述の名前を指定します。

リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)パラメーターに*IPが指定されている場合には、このパラメーターは無視されます。

装置名の詳細は、AS/400 APPCプログラミング (SD88-5032)にあります。

***SAME**

ファイル記述に指定された装置名は変更されません。

***LOC** リモート・ロケーションと関連した装置が使用されます。複数の装置がリモート・ロケーションと関連付けられている場合には、どの装置を使用するかをシステムが決定します。

注: リモート・ロケーションのRMTLOCNAMEパラメーターに*DEVが指定されている場合には、このパラメーターに装置名を指定しなければなりません。

名前 リモート・ロケーションと関連した通信装置の名前を指定してください。装置名がリモート・ロケーションには正しくない場合には、DDMファイルがオープンされると、エスケープ・メッセージが送られます。

上

ローカル・ロケーション (LCLLOCNAME)

ローカル・ロケーション名を指定します。

リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)パラメーターに*IPが指定されている場合には、このパラメーターは無視されます。

***SAME**

ファイル記述に指定されたローカル・ロケーション名は変更されません。

***LOC** リモート・ロケーションと対応したローカル・ロケーション名が使用されます。

***NETATR**

システム・ネットワーク属性で指定されたLCLLOCNAME値が使用されます。

通信名 リモート・ロケーション名で使用されるローカル・ロケーションの名前を指定してください。ローカル・ロケーション名は、リモート・ロケーションに対して特定のローカル・ロケーションを指示するためにだけ指定されます。

上

モード (MODE)

ターゲット・システムと通信するためにリモート・ロケーション名で使用されるモード名を指定します。

リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)パラメーターに*IPが指定されている場合には、このパラメーターは無視されます。

モード名の詳細は、AS/400 APPCプログラミング (SD88-5032)にあります。

*SAME

モード名は変更されません。

***NETATR**

ネットワーク属性のモードが使用されます。

BLANK

8桁のブランク文字からなるモード名が使用されます。

通信名 使用するモードの名前を指定してください。リモート・ロケーション名およびローカル・ロケーション名の組み合わせに対してモード名が正しくない場合には、分散データ管理機能(DDM)ファイルがオープンされた時にエスケープ・メッセージが送られます。

上

リモート・ネットワーク 識別コード (RMTNETID)

リモート・ロケーションが存在していて、ターゲット・システムと通信するために使用されるリモート・ネットワークID (リモート・ネットワークID)を指定します。

このパラメーターが指定されている場合には、**リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)**パラメーターに指定された値は、RMTNETIDパラメーターと一致していなければなりません。RMTLOCNAMEパラメーターにネットワークIDを指定する場合は、このパラメーターと一致しなければなりません (そうでないとエラー・メッセージが出されます)。RMTLOCNAMEパラメーターにいずれのネットワークIDも指定しない場合は、このパラメーターとの矛盾が存在する可能性はありません。

RMTLOCNAMEパラメーターに*IPが指定されている場合には、このパラメーターは無視されます。

リモート・ネットワークIDの詳細は、AS/400 APPCプログラミング (SD88-5032)にあります。

*SAME

ファイル記述に指定されたリモート・ネットワークIDは変更されません。

***LOC** リモート・ロケーションと関連したリモート・ネットワークIDが使用されます。

***NETATR**

ネットワーク属性に指定されたリモート・ネットワークIDが使用されます。

***NONE**

リモート・ネットワークIDは使用されません。

通信名 リモート・ロケーションと関連付けるリモート・ネットワークIDを指定してください。リモート・ネットワークIDは、ユーザーがリモート・ロケーションに対して特定のリモート・ネットワークIDを指示したい場合にだけ指定されます。リモート・ネットワークIDがリモート・ロケーションに対して正しくない場合には、分散データ管理機能(DDM)ファイルがオープンされた時にエスケープ・メッセージが送られます。

ポート番号 (PORT)

リモート・ファイルのあるシステムと通信するために、リモート・ロケーションで使用されるTCP/IPポートを指定します。

リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)パラメーターに*SNAが指定されている場合には、このパラメーターは無視されます。

*SAME

値は変更されません。

*DRDA

446という既知のDRDAポートが使用されます。これは、System i5 DDM TCP/IPサーバーがlistenするポートです。

1から65535

ポート番号を指定してください。

アクセス方式 (ACCMTH)

ターゲット・システムがSystem i5でない場合に、リモート・ファイルをオープンしてそのレコードにアクセスするために使用される分散データ管理機能(DDM)アクセス方式を指定します。このパラメーターに*RMTFILE以外の値を指定すると、リモート・ファイルに対する要求がターゲット・システムで処理される時にパフォーマンスが向上することがあります。ターゲット・システムがSystem i5システムまたはシステム/38の場合、このパラメーターは無視されます。リモート・システム・ファイルはローカル・ファイルであるかのようにアクセスされます。

単一値

*SAME

アクセス方式は変更されません。

*RMTFILE

ソース・システムは、リモート・ファイル (RMTFILE)パラメーターで識別されるリモート・ファイルの属性およびそのファイルのターゲット・システムによってサポートされるアクセス方式に対応するアクセス方式を選択します。System i5以外のターゲット・システムで、この値が使用され、ソース・システムがファイルのオープン時にアクセス方式を選択できない場合には、プログラム・ユーザーにメッセージが送られます。

*COMBINED

DDM結合アクセス方式がリモート・ファイルに対して使用されます。このアクセス方式は、次の表に示すように、キーによる結合(*KEYED *BOTH)とレコード番号による結合(*ARRIVAL *BOTH)アクセス方式のファイル処理機能を結合します。レコードはキー値またはレコード番号によって選択することができます。その位置から、キー値またはレコード番号別に相対的またはランダムに位置を設定することができます。ファイル中に重複キーがある場合には、それらは、各ターゲット・システムのDDMアーキテクチャーの実行によって定義された順序で処理されます。

要素1: リモート・ファイル属性

***KEYED**

リモート・ファイルはキー付きファイルです。

***ARRIVAL**

リモート・ファイルは非キー付きファイルです。

要素2: ローカル・アクセス方式

***BOTH**

リモート・ファイルは順次とランダム両方のレコード・アクセスができます。

***RANDOM**

リモート・ファイルはランダム・レコード・アクセスができます。

***SEQUENTIAL**

リモート・ファイルは順次レコード・アクセスができます。

アクセス方式の決定

このパラメーターの2つの要素は、リモート・ファイルへのアクセスに使用されるアクセス方式を指示します。次の表に、ACCMTHパラメーターの値の組み合わせを示します。リモート・ファイル属性（左端のカラム）は、ターゲット・システム上のファイルのタイプを示します。ローカル・アクセス方式（最後の3カラム）は、ソースSystem i5プログラムがリモート・ファイルのレコードにアクセスしようとする方法を参照しています。

表 1. 図: 値のアクセス方式の組み合わせ

リモート ファイル 属性	ローカル・アクセス方式		
	*SEQUENTIAL	*RANDOM	*BOTH
*ARRIVAL	レコード番号 での相対 キーによる 相対	レコード番号 でのランダム キーによる ランダム	レコード番号 での組み合わせ キーによる 組み合わせ

レコード番号での相対アクセス方式(*ARRIVAL *SEQUENTIAL):

この方式では、レコード番号順の現行位置に対してアクセスできます。レコードの識別にレコード番号は指定されません。

レコード番号でのランダム・アクセス方式(*ARRIVAL *RANDOM):

この方式では、要求元が決定したランダム・シーケンスでレコード番号を指定して、レコードにアクセスできます。

レコード番号での組み合わせアクセス方式(*ARRIVAL *BOTH):

この方式は、レコード番号での相対およびレコード番号でのランダム・アクセス方式の機能を組み合わせます。

キーによる相対アクセス方式(*KEYED *SEQUENTIAL):

この方式では、キー値の順序でキー付きファイルのレコードにアクセスできます。レコードには、現行レコードからキー・シーケンスで前方または後方に移動してアクセスできます。レコードの識別にキー値は指定されません。

キーによるランダム・アクセス方式(*KEYED *RANDOM):

この方式では、ランダム・シーケンスでキー付きファイルのレコードにアクセスできます。レコードは、ファイル内の位置でなく、そのキー値によって選択されます。

キーによる組み合わせアクセス方式(*KEYED *BOTH):

この方式は、キーによる相対およびキーによるランダム・アクセス方式の機能を組み合わせます。

オープン・データ・パス共用 (SHARE)

オープン・データ・パス(ODP)が同じルーティング・ステップの他のプログラムと共用するかどうかを指定します。ODPが共用される時には、ファイルをアクセス中のプログラムはファイル状況およびバッファなどの機能を共用します。

*SAME

値は変更されません。

***NO** ODPは、ルーティング・ステップ内の他のプログラムと共用されません。ファイルの新しいODPが作成され、プログラムがファイルをオープンするたびに使用されます。

***YES** ファイルをオープンする時に*YESも指定したジョブで、同じODPを各プログラムと共用することができます。

保護された会話 (PTCCNV)

DDMファイルに対して開始されるDDM会話が保護会話であるかどうかを指定します。**保護会話**とは、障害が起こった場合でもリモート・システムで行われた更新が他のリモート資源またはローカル資源に対する更新と同期することを保証するために、2フェーズ・コミット・プロトコルを使用する会話のことです。

DDMで2フェーズ・コミットメント制御を使用するには、保護会話が必要です。DDMによる2フェーズ・コミットメント制御の使用の詳細は、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「分散データベース・プログラミング」トピック・コレクションを参照のこと。にあります。**リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)**パラメーターに*IPが指定されている場合には、PTCCNV(*NO)を指定しなければなりません。

*SAME

値は変更されません。

***NO** このDDMファイルを使用して開始されるDDM会話は保護会話ではありません。

***YES** このDDMファイルを使用して開始されるDDM会話は保護会話です。このDDMファイルで2フェーズ・コミットメント制御を使用することができます。

例

次の例では、DDMファイルの変更について説明します。

例1: 通信モード・システムの変更

```
CHGDDMF FILE(SOURCE/SALES) MODE(MODEX)
```

このコマンドは、ソース・システムのSOURCEライブラリーに保管されたSALESという名前のDDMファイルの通信モードを変更します。モードはMODEXに変更されます。

例2: TCP/IPを介してファイルにアクセスするためのDDMファイルの変更

```
CHGDDMF FILE(OTHER/SALES) RMTLOCNAME(ROCHESTER.XYZ.COM *IP)
PORT(*DRDA)
```

このコマンドは、ソース・システムのOTHERライブラリーに保管されたSALESという名前のDDMファイルのリモート・ロケーション名を変更します。リモート・ロケーションは、ドメイン名ROCHESTER.XYZ.COMを持つTCP/IPホストに変更されます。このホストは標準DRDAポート446でLISTENします。

例3: ドット付き10進IPバージョン4アドレスと数値ポート番号を使用してTCP/IP経由でファイルにアクセスするためのDDMファイルの変更

```
CHGDDMF FILE(OTHER/SALES) RMTLOCNAME('9.5.36.17' *IP)
PORT(5021)
```

このコマンドは、ソース・システムのOTHERライブラリーに保管されたSALESという名前のDDMファイルのリモート・ロケーション名を変更します。リモート・ロケーションはIPアドレスが9.5.36.17のTCP/IPホストに変更されます。このホストはポート5021をLISTENします。

例4: コロン付き16進IPバージョン6アドレスと数値ポート番号を使用してTCP/IP経由でファイルにアクセスするためのDDMファイルの変更

```
CHGDDMF FILE(OTHER/SALES)
RMTLOCNAME('2001:DB8:0:&ウナカホ.
B33D:8785:0:1734:F51C'
*IP) PORT(32)
```

このコマンドは、ソース・システムのOTHERライブラリーに保管されたSALESという名前のDDMファイルのリモート・ロケーション名を変更します。リモート・ロケーションはIPアドレスが2001:DB8:0:B33D:8785:&ウナカホ. 0:1734:F51CのTCP/IPホストに変更されます。このホストはポート32をLISTENします。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF7304

&2のファイル&1は変更されなかった。

上

DDM TCP/IP属性の変更 (CHGDDMTCPA)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

DDM TCP/IP属性変更(CHGDDMTCPA)コマンドは、TCP/IP経由でDDMまたはDRDA を使用できるようにパラメーターを構成するためのインターフェースを提供します。

制約事項:

- このコマンドを実行するには、機密保護管理者(*SECADMIN)特殊権限、全オブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限、および入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
AUTOSTART	サーバーの自動開始	*SAME, *NO, *YES	オプション、定位置 1
PWDRQD	最低認証方式	*SAME, *USRID, *VLDONLY, *USRIDPWD, *USRENCPWD, *ENCUSRPWD, *KERBEROS, *NO, *YES, *ENCRYPTED	オプション

上

サーバーの自動開始 (AUTOSTART)

TCP/IP開始(STRTCP)コマンドでTCP/IPを開始する時にDDMサーバーを自動始動するかどうかを指定します。このパラメーターは、次のSTRTCPコマンドの実行時に効力をもちます。また、選択されたTCP/IPサーバーがTCP/IPサーバーの開始(STRTCPSVR)コマンドで開始され、SERVER(*AUTOSTART)が指定されている場合にも、DDMサーバーが開始されることになります。

*SAME

値は変更されません。

***YES** DDM TCP/IPサーバーを開始します。

***NO** TCP/IPの開始時またはSTRTCPSVR SERVER(*AUTOSTART)コマンドの実行時にDDM TCP/IPサーバーを開始しません。

上

最低認証方式 (PWDRQD)

クライアント・システムがサーバーとしてこのシステムと接続する時に必要なパスワード機密保護の最小レベルを指定します。このパラメーターは、TCP/IP経由の次回のDRDAまたはDDM接続要求で効力をもちます。

***SAME**

値は変更されません。

***USRID**

DDM接続要求にはパスワードが必要ありません。パスワードを送ると無視されます。

*VLDONLY記述も参照してください。

***VLDONLY**

DDM接続要求にはパスワードが必要ありません。ただし、パスワードを送る場合には、ユーザーIDに対してパスワードが有効でなければなりません。

***USRIDPWD**

DDM接続要求にユーザーIDと関連したパスワードが含まれていない場合に接続を拒否します。

***USRENCPWD**

接続しようとするリモート・クライアント・システムでは、ユーザーIDとともに暗号化されたパスワードの送信が必要となります。

***ENCUSRPWD**

接続しようとするリモート・クライアント・システムでは、暗号化されたユーザーIDおよび暗号化されたパスワードの送信が必要です。

***KERBEROS**

認証はKERBEROSを使用して行なわれます。

注: 以下の値は、バージョン5リリース5モディフィケーション0より前のリリースのオペレーティング・システムとの互換性を保つためにのみサポートされています。

***NO** DDM接続要求にはパスワードが必要ありません。パスワードを送ると無視されます。
*VLDONLY記述も参照してください。値*NOの代わりに値*USRIDを使用することをお勧めします。

***YES** DDM接続要求にユーザーIDと関連したパスワードが含まれていない場合に接続を拒否します。値*YESの代わりに値*USRIDPWDを使用することをお勧めします。

***ENCRYPTED**

接続しようとするリモート・クライアント・システムでは、ユーザーIDとともに暗号化されたパスワードの送信が必要となります。値*ENCRYPTEDの代わりに値*USRENCPWDを使用することをお勧めします。

上

例

例1: 「DDM TCP/IP属性の変更」画面を表示

```
CHGDDMTCPA
```

このコマンドは、プロンプト時に現行DDM TCP/IP属性値を表示します。

例2: DDM TCP/IPサーバーを自動始動

```
CHGDDMTCPA AUTOSTART(*YES)
```

このコマンドは、STRTCPコマンドによって次回にTCP/IPが開始された時に、DDMサーバーが自動始動されることを指示します。

例3: パスワードなしでも最小限ユーザーIDを含む場合はDDM TCP/IP接続要求が受け入れられることを許可

```
CHGDDMTCPA PWDRQD(*USRID)
```

このコマンドは、次回のDDM TCP/IP接続要求で、接続の開始にパスワードを必要としないことを指示します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

```
CPF3EC6
```

DDM TCP/IP属性変更が失敗しました。

上

装置記述の変更(APPC) (CHGDEVAPPC)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

APPC装置記述の変更(CHGDEVAPPC)コマンドは、拡張プログラム間通信機能(APPC)装置の装置記述を変更します。

制約事項: このコマンドを使用するには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
DEV D	装置記述	名前	必須, キー, 定位置 1
ONLINE	IPL時のオンライン	*SAME, *YES, *NO	オプション
MODE	モード	単一値: *SAME その他の値 (最大 14 回の繰り返し): 通信名, *NETATR	オプション
MSGQ	MSG 待ち行列	単一値: *SAME, *CTLD, *SYSOPR その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: MSG 待ち行列	名前, QSYSOPR	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
LOCADR	ローカル・ロケーション・アドレス	文字値, *SAME	オプション
SNGSSN	単一セッション	単一値: *SAME, *NO その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 単一セッション可能	*YES	
	要素 2: 会話の数	1-512	
LCLCTLSSN	ローカル制御セッション	*SAME, *YES, *NO	オプション
PREESTSSN	事前確立セッション	*SAME, *YES, *NO	オプション
LOCPWD	ロケーション・パスワード	文字値, *SAME, *NONE	オプション
SECURELOC	保護ロケーション	*SAME, *YES, *NO, *VFYENCPWD	オプション
TEXT	テキスト記述	文字値, *SAME, *BLANK	オプション

上

装置記述 (DEV D)

装置記述の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

上

IPL時のオンライン (ONLINE)

初期プログラム・ロード(IPL)時にこのオブジェクトを自動的にオンに構成変更するかどうかを指定します。

*SAME

値は変更されません。

*YES

この装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されます。

*NO

この装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されません。

上

モード (MODE)

この装置のセッションを定義するモード名を指定します。

このパラメーターには複数の値を入力できます。

*SAME

値は変更されません。

*NETATR

ネットワーク属性に指定されたりモート・ネットワークIDが使用されます。

モード名

この装置が使用するモード記述の名前を指定してください。モード名は、CPSVCMG または SNASVCMGであってはなりません。これらの名前はシステムで使用するために予約されます。

モード名を最大14個指定してください。

上

MSG 待ち行列 (MSGQ)

この装置に対する操作メッセージが送られるメッセージ待ち行列を指定します。

*SAME

値は変更されません。

*CTLD

メッセージは、接続される制御装置に定義されたメッセージ待ち行列に送られます。メッセージ待ち行列は、装置がオンに構成変更された時に決定されます。

***SYSOPR**

メッセージは、システム操作員メッセージ待ち行列(QSYS/QSYSOPR)に送られます。

メッセージ待ち行列名

操作メッセージが送られるメッセージ待ち行列の名前を指定してください。

***LIBL**

最初に一致するものが見つかるまで、ジョブのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

上

ローカル・ロケーション・アドレス (LOCADR)

この装置のローカル・ロケーション・アドレスを指定します。

指定可能な値は00からFFまでです。

***SAME**

値は変更されません。

上

単一セッション (SNGSSN)

リモート・ロケーションで単一または多重のセッションを使用するかどうかを指定します。単一セッションが使用される場合には、会話の数を指定しなければなりません。

単一値

***SAME**

値は変更されません。

***NO**

複数のセッションが使用されます。

要素1:単一セッション可能

***YES**

単一セッションが使用されます。

要素2:会話数

会話数

会話の数として1から512の範囲内で有効な値を指定してください。

上

ローカル制御セッション (LCLCTLSSN)

セッションがローカル制御セッションであるかどうかを指定します。

***SAME**

値は変更されません。

***NO**

単一セッションはリモートで制御されます。

***YES**

単一セッションはローカルで制御されます。

上

事前確立セッション (PREESTSSN)

リモート・システムとの接続が確立される時に、セッションが確立されるかどうかを指定します。

***SAME**

値は変更されません。

***NO**

接続時にセッションは自動的に確立されません。

***YES**

接続時にセッションが自動的に確立されます。

上

ロケーション・パスワード (LOCPWD)

接続の妥当性を検査するために使用するパスワードを指定します。

*SAME

値は変更されません。

*NONE

パスワードはありません。

ロケーション・パスワード

パスワードを16進文字のストリングとして指定してください。

上

保護ロケーション (SECURELOC)

リモート・システムから受け取られたプログラム開始要求で機密保護情報がどのように扱われるかを指定します。セッションが確立された時に、この値がリモート・システムに送られます。これは、割り振りまたは呼び出し要求の作成方法を決定する時に使用されます。この値は、SECURITY(SAME)レベルの機密保護で開始された会話にのみ適用されます。

*SAME

値は変更されません。

*NO

リモート・システムは保護ロケーションではありません。リモート・システムによって行なわれる機密保護の妥当性検査は受け入れられません。SECURITY(SAME)会話はSECURITY(NONE)として扱われます。割り振りまたは呼び出し要求で機密保護情報は送られません。

*YES

リモート・システムは保護ロケーションで、ローカル・システムはリモート・システムによって行なわれる機密保護妥当性検査を受け入れます。SECURITY(SAME)会話の場合には、ローカル・システムによって、リモート・システムはユーザー・パスワードを検査することができます。リモート・システムでは、ユーザーIDは機密保護管理者から入手されます。次に、ユーザーIDは、割り振りですでに検査済みの標識と一緒に送信されるか、要求を呼び出します。

*VFYENCPWD

リモート・システムは保護ロケーションではありません。SECURITY(SAME)会話の場合には、リモート・システムは検査済み標識を送ることはできません。リモート・システムでは、ユーザーIDおよびパスワードは機密保護管理者から入手されます。次に、パスワードは暗号化され、ローカル・システムによって検査するために、割り振り時のユーザーIDと一緒に送信されるか、要求を呼び出します。この値は、リモート・システムがV3R2M0オペレーティング・システム以降を使用している場合にのみ使用してください。リモート・システムがパスワード保護をサポートしていない

場合には、セッション確立は許可されないことになります。パスワード保護をサポートしているが、暗号化されたパスワードの検証(VFYENCPWD)をサポートしていないリモート・システムの場合には、会話はSECURITY(NONE)として扱われることになります。

上

テキスト'記述' (TEXT)

*SAME

テキスト（ある場合）は変更されません。

*BLANK

テキストは指定されません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

上

例

```
CHGDEVAPPC  DEVD(APPC1)  SNGSSN(*NO)
```

このコマンドは、通信装置APPC1の装置記述を単一セッションに限定されないように変更します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF2618

装置記述&1は変更されなかった。

上

装置記述の変更（非同期）(CHGDEVASC)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

非同期装置記述の変更(CHGDEVASC)コマンドは、非同期(ASYNC)装置の装置記述を変更します。

制約事項: このコマンドを使用するには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
DEVVD	装置記述	名前	必須, キー, 定位置 1
ONLINE	IPL時のオンライン	*SAME, *YES, *NO	オプション
TEXT	テキスト記述	文字値, *SAME, *BLANK	オプション

上

装置記述 (DEVVD)

装置記述の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

上

IPL時のオンライン (ONLINE)

初期プログラム・ロード(IPL)時にこのオブジェクトを自動的にオンに構成変更するかどうかを指定します。

*SAME

値は変更されません。

*YES

この装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されます。

*NO

この装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されません。

テキスト'記述' (TEXT)

*SAME

テキスト（ある場合）は変更されません。

*BLANK

テキストは指定されません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

例

```
CHGDEVASC  DEVD(ASC003)  ONLINE(*YES)
```

このコマンドは、非同期装置ASC003の装置記述を、IPL時に自動的にオンに構成変更されるように変更します。

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF2618

装置記述&1は変更されなかった。

装置記述の変更(ASP) (CHGDEVASP)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

装置記述変更(ASP) (CHGDEVASP)コマンドは、補助記憶域プール(ASP)装置の装置記述を変更します。

独立ディスク・プールの詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)を参照してください。

制約事項: このコマンドを使用するには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
DEVD	装置記述	名前	必須, キー, 定位置 1
RSRCNAME	資源名	名前, <u>*SAME</u>	オプション
RDB	リレーショナル・データベース	名前, <u>*SAME</u> , *GEN	オプション
MSGQ	MSG 待ち行列	単一値: <u>*SAME</u> , *SYSOPR その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: MSG 待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	
TEXT	テキスト記述	文字値, <u>*SAME</u> , *BLANK	オプション

上

装置記述 (DEVD)

装置記述の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

上

資源名 (RSRCNAME)

ディスクの集合が認識される補助記憶域プール(ASP)を識別する資源名を指定します。

*SAME

値は変更されません。

資源名 ディスクの集合が認識されるASPを識別する名前を指定してください。

リレーショナル・データベース (RDB)

補助記憶域プール(ASP)装置と関連するリレーショナル・データベース(RDB)名を指定します。

*SAME

値は変更されません。

***GEN** 装置を正常にオンに変更すると、オペレーティング・システムによってRDB名が生成されます。装置がASPグループの1次ASPである場合は、RDB名は装置名と同じになります。ASP装置が2次ASPの場合、あるいはユーザー定義のファイル・システム(UDFS) ASPの場合は、RDB名はブランクに設定されます。

リレーショナル・データベース名

ASP装置と関連するRDB名を指定してください。ASP装置記述が2次ASPまたはUDFS ASPの場合には、指定されたRDB名は使用されません。ASP装置記述がASPグループの1次ASPの場合に、ASPグループをオンに変更すると、指定されたRDB名はこのシステムとこのシステムに接続する他のシステム上でリレーショナル・データベースが認識されている名前になります。

MSG 待ち行列 (MSGQ)

この装置に対する操作メッセージが送られるメッセージ待ち行列を指定します。

修飾名として使用できるものは次の通りです。

*SAME

値は変更されません。

***SYSOPR**

メッセージがQSYSのQSYSOPRメッセージ待ち行列に送られます。

メッセージ待ち行列名

操作メッセージが送られるメッセージ待ち行列の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、ジョブのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

テキスト'記述' (TEXT)

*SAME

テキスト（ある場合）は変更されません。

*BLANK

テキストは指定されません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

上

例

```
CHGDEVASP  DEVD(WAREHOUSE)  RSRNAME(WAREHOUSE2)
```

このコマンドは、装置記述をWAREHOUSE2として知られているASP資源に変更します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF2618

装置記述&1は変更されなかった。

上

装置記述の変更(BSC) (CHGDEVBSC)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

BSC装置記述の変更(CHGDEVBSC)コマンドにより、2進同期通信(BSC)装置の装置記述が変更されます。

制約事項: このコマンドを使用するには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
DEV D	装置記述	名前	必須, キー, 定位置 1
LOCADR	ローカル・ロケーション・アドレス	*SAME, 00, 01, 02, 03, 04, 05, 06, 07, 08, 09, 0A, 0B, 0C, 0D, 0E, 0F, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17, 18, 19, 1A, 1B, 1C, 1D, 1E, 1F, 20, 21, 22, 23, 24, 25, 26, 27, 28, 29, 2A, 2B, 2C, 2D, 2E, 2F, 30, 31, 32, 33, 34, 35, 36, 37, 38, 39, 3A, 3B, 3C, 3D, 3E, 3F, 40, 41, 42, 43, 44, 45, 46, 47, 48, 49, 4A, 4B, 4C, 4D, 4E, 4F, 50, 51, 52, 53, 54, 55, 56, 57, 58, 59, 5A, 5B, 5C, 5D, 5E, 5F, 60, 61, 62, 63, 64, 65, 66, 67, 68, 69, 6A, 6B, 6C, 6D, 6E, 6F, 70, 71, 72, 73, 74, 75, 76, 77, 78, 79, 7A, 7B, 7C, 7D, 7E, 7F, 80, 81, 82, 83, 84, 85, 86, 87, 88, 89, 8A, 8B, 8C, 8D, 8E, 8F, 90, 91, 92, 93, 94, 95, 96, 97, 98, 99, 9A, 9B, 9C, 9D, 9E, 9F, A0, A1, A2, A3, A4, A5, A6, A7, A8, A9, AA, AB, AC, AD, AE, AF, B0, B1, B2, B3, B4, B5, B6, B7, B8, B9, BA, BB, BC, BD, BE, BF, C0, C1, C2, C3, C4, C5, C6, C7, C8, C9, CA, CB, CC, CD, CE, CF, D0, D1, D2, D3, D4, D5, D6, D7, D8, D9, DA, DB, DC, DD, DE, DF, E0, E1, E2, E3, E4, E5, E6, E7, E8, E9, EA, EB, EC, ED, EE, EF, F0, F1, F2, F3, F4, F5, F6, F7, F8, F9, FA, FB, FC, FD, FE	オプション
ONLINE	IPL時のオンライン	*SAME, *YES, *NO	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノート
CTNWIN	回線争奪解消による回線獲得側	<u>*SAME</u> , *SEC, *PRI	オプション
BLOCK	ブロック化のタイプ	<u>*SAME</u> , *NONE, *ITB, *IRS, *NOSEP, *USER, *SEP	オプション
SEPCHAR	区切り文字	<u>*SAME</u> , 00, 04, 05, 06, 07, 08, 09, 0A, 0B, 0C, 0D, 0E, 0F, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17, 18, 19, 1A, 1B, 1C, 1E, 20, 21, 22, 23, 24, 25, 27, 28, 29, 2A, 2B, 2C, 2E, 2F, 30, 31, 33, 34, 35, 36, 38, 39, 3A, 3B, 3C, 3E, 3F, 40, 41, 42, 43, 44, 45, 46, 47, 48, 49, 4A, 4B, 4C, 4D, 4E, 4F, 50, 51, 52, 53, 54, 55, 56, 57, 58, 59, 5A, 5B, 5C, 5D, 5E, 5F, 60, 61, 62, 63, 64, 65, 66, 67, 68, 69, 6A, 6B, 6C, 6D, 6E, 6F, 70, 71, 72, 73, 74, 75, 76, 77, 78, 79, 7A, 7B, 7C, 7D, 7E, 7F, 80, 81, 82, 83, 84, 85, 86, 87, 88, 89, 8A, 8B, 8C, 8D, 8E, 8F, 90, 91, 92, 93, 94, 95, 96, 97, 98, 99, 9A, 9B, 9C, 9D, 9E, 9F, A0, A1, A2, A3, A4, A5, A6, A7, A8, A9, AA, AB, AC, AD, AE, AF, B0, B1, B2, B3, B4, B5, B6, B7, B8, B9, BA, BB, BC, BD, BE, BF, C0, C1, C2, C3, C4, C5, C6, C7, C8, C9, CA, CB, CC, CD, CE, CF, D0, D1, D2, D3, D4, D5, D6, D7, D8, D9, DA, DB, DC, DD, DE, DF, E0, E1, E2, E3, E4, E5, E6, E7, E8, E9, EA, EB, EC, ED, EE, EF, F0, F1, F2, F3, F4, F5, F6, F7, F8, F9, FA, FB, FC, FD, FE, FF	オプション
RMTBSCSEL	リモートBSCSEL	<u>*SAME</u> , *NO, *YES	オプション
RCDLEN	レコード長	1-8192, <u>*SAME</u>	オプション
BLKLEN	ブロックの長さ	1-8192, <u>*SAME</u>	オプション
TRNSPY	透過モード伝送	<u>*SAME</u> , *YES, *NO	オプション
DTACPR	データの圧縮と圧縮解除	<u>*SAME</u> , *YES, *NO	オプション
TRUNC	後書きブランクの切り捨て	<u>*SAME</u> , *YES, *NO	オプション
GRPSEP	グループ区切りのタイプ	<u>*SAME</u> , *EOT, *OFCSYS, *DEV3740	オプション
EMLDEV	エミュレートされる入出力装置	<u>*SAME</u> , 3278, 3284, 3286, 3287, 3288, 3289	オプション
EMLKBD	エミュレートされるキーボード	<u>*SAME</u> , *UPPER, *LOWER	オプション
EMLNUMLCK	エミュレートされる数字ロック	<u>*SAME</u> , *YES, *NO	オプション
EMLWRKSTN	エミュレーション・ワークステーション	名前, <u>*SAME</u> , *ANY	オプション
TEXT	テキスト'記述'	文字値, <u>*SAME</u> , *BLANK	オプション

装置記述 (DEVD)

装置記述の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

上

ローカル・ロケーション・アドレス (LOCADR)

この装置のローカル・ロケーション・アドレスを指定します。

指定可能な値は00からFFまでです。

*SAME

値は変更されません。

上

IPL時のオンライン (ONLINE)

初期プログラム・ロード(IPL)時にこのオブジェクトを自動的にオンに構成変更するかどうかを指定します。

*SAME

値は変更されません。

*YES

この装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されます。

*NO

この装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されません。

上

回線争奪解消による回線獲得側 (CTNWIN)

回線争奪が発生した時点で制御を得るBSC端末を指定します。

*SAME

値は変更されません。

*SEC

ローカル・システムが2次端末であることを指定します。これは、回線争奪が起こった場合に他の端末に譲歩します。

***PRI**

ローカル・システムは1次端末であることを指定します。回線争奪が発生した場合には、この端末が制御を取ります。

上

ブロック化のタイプ (BLOCK)

システムまたはユーティリティーが伝送されたレコードをブロック化および非ブロック化するかどうかを指定します。

***SAME**

値は変更されません。

***NONE**

システムは、ブロック化または非ブロック化を行いません。

***ITB**

レコードは、中間テキスト・ブロック(ITB)制御文字のロケーションに基づいて、ブロック化または非ブロック化されます。

***IRS**

レコードは、レコード間分離(IRS)文字のロケーションに基づいてブロック化または非ブロック化されます。

***NOSEP**

装置との間を送受信される伝送ブロック内にはレコード分離文字はありません。システムは、DDS様式使用に指定された通りに、固定レコード長によりレコードのブロック化および非ブロック化を行いません。

***USER**

ユーザー・プログラムは、レコード分離文字、BSCフレーム指示文字、透過伝送文字、およびその他のすべての文字を含めて、すべての制御文字を提供します。

***SEP**

レコードは、ユーザー指定のレコード分離文字のロケーションに基づいてブロック化または非ブロック化されます。

区切り文字 (SEPCHAR)

固有の1バイトのレコード分離文字を指定します。

有効な値の範囲は00からFFです。BSC制御文字は使用できません。

*SAME

値は変更されません。

リモートBSC (RMTBSC)

リモート・システムとのBSCセッションのタイプを指定します。

*SAME

値は変更されません。

*NO

リモート・システムまたは装置がBSCコマンドを認識できません。ICF操作および戻りコードが使用されます。

*YES

リモート・システムがBSC開始コマンドおよび終了コマンド、ならびにBSC オンライン・メッセージを認識することができます。

レコード長 (RCDLEN)

この装置との通信時に使用できる最大レコード長を指定します。

有効な値の範囲は1から32767です。

値は少なくとも、送信される最も大きいレコードのサイズでなければなりません。この装置が接続される回線記述に指定されたバッファ・サイズ(MAXBUFFERパラメータ)を超えてはいけません。

*SAME

値は変更されません。

ブロックの長さ (BLKLEN)

この装置との通信時に使用できる最大ブロック長を指定します。

指定可能な値は1から32767までです。

注: このパラメーターが有効となるのは、APPTYPE(*BSCEL)またはAPPTYPE(*RPGT)が指定された場合だけです。

値は少なくとも、送信される最も大きいレコードのサイズでなければなりません。この装置が接続される回線記述に指定されたバッファ・サイズ(MAXBUFFERパラメーター)を超えてはいけません。

*SAME

値は変更されません。

ブロック長

送信されるレコードの最大ブロック長 (バイト数) を指定します。この値は、少なくとも送信される最大レコード・サイズでなければなりません。有効な値の範囲は1から32767です。

上

透過モード伝送 (TRNSPY)

ブロック化されたレコードの送信時に、テキスト透過伝送機能を使用するかどうかを指定します。この機能により、256個のすべてのEBCDIC文字コードを伝送することができます。パックまたは2進データ・フィールドを伝送する場合には、この機能を使用しなければなりません。

*SAME

値は変更されません。

*NO

テキスト透過伝送機能は使用されません。

*YES

256個のすべてのEBCDIC文字コードを伝送することのできるテキスト透過伝送機能が使用されます。

上

データの圧縮と圧縮解除 (DTACPR)

データ圧縮を実行するかどうかを指定します。

注: TRNSPY(*YES)またはTRUNC(*YES)を指定した場合には、DTACPR(*YES)を指定することはできません。このパラメーターが有効となるのは、APPTYPE(*BSCEL)またはAPPTYPE(*RPGT)が指定された場合だけです。

***SAME**

値は変更されません。

***NO**

データの圧縮または圧縮解除は行われません。

***YES**

データは出力の場合には圧縮され、入力の場合には圧縮解除されます。

上

後書きブランクの切り捨て (TRUNC)

後書きブランクを出力レコードから除去するかどうかを指定します。

***SAME**

値は変更されません。

***NO**

後書きブランクは出力レコードから除去されません。

***YES**

後書きブランクは出力レコードから除去されます。

上

グループ区切りのタイプ (GRPSEP)

データ・セットおよび文書などのデータのグループに対する区切り文字を指定します。

***SAME**

値は変更されません。

***EOT**

伝送終結(EOT)制御文字が使用されます。

***OFCSYS**

テキスト終結(ETX)制御文字を用いた伝送ブロック終了が使用されます。

***DEV3740**

ヌル・レコード(STX ETX)が使用されます。

エミュレートされる入出力装置 (EMLDEV)

このプログラム装置項目を使用して3270データ・ストリームを送信および受信することを指定します。エミュレーション装置パラメーターは、エミュレーション装置タイプおよびエミュレーション装置データ形式から構成されています。エミュレーション装置データ形式は、送受信されるタイプ3270のデータ・ストリームの形式を指定します。タイプ3270コマンドとデータ・フロー情報が入っている20バイトまたは32バイトの共通ヘッダーは、タイプ3270データ・ストリームを送受信しようとしている入出力バッファの先頭にあります。このパラメーターが適用されるのは、SNUF通信の場合だけです。このパラメーターは、2つの値（要素）のリストとしてまたは単一値(*NONE)として指定できます。

*SAME

値は変更されません。

3278

この装置は、3278表示装置をエミュレートするために使用されます。

3284

この装置は、3284印刷装置をエミュレートするために使用されます。

3286

この装置は、3286印刷装置をエミュレートするために使用されます。

3287

この装置は、3287印刷装置をエミュレートするために使用されます。

3288

この装置は、3288印刷装置をエミュレートするために使用されます。

3289

この装置は、3289印刷装置をエミュレートするために使用されます。

エミュレートされるキーボード (EMLKBD)

エミュレートされる3278表示装置キーボードのタイプを指定します。このパラメーターが有効なのは、**適用業務タイプ (APPTYPE)**パラメーターに*EMLが指定されている場合だけです。

*SAME

値は変更されません。

***UPPER**

3270表示装置キーボードは、大文字だけを使用してエミュレートされます。

***LOWER**

3270表示装置キーボードは、大文字および小文字を使用してエミュレートされます。

上

エミュレートされる数字ロック (EMLNUMLCK)

数字入力フィールドが5250キーボードの数字データにだけ使用できるかどうかを指定します。このパラメーターに値を指定できるのは、**適用業務タイプ (APPTYPE)**パラメーターに***EML**が指定されている場合だけです。

***SAME**

値は変更されません。

***NO**

3270エミュレーションによって、データを数字入力フィールドに入力することができます。

***YES**

3270エミュレーションによって、数字データだけを数字入力フィールドに入力することができます。有効な数字データには、0から9の数字、記号+-, . , およびブランクが入られます。

上

エミュレーション・ワークステーション (EMLWRKSTN)

エミュレーション・ワークステーションは、エミュレーション装置を実の表示装置または印刷装置と関連付けます。装置アドレスは、そのワークステーション専用に予約されます。装置が指定されないか、あるいは***ANY**が指定された場合には、任意のワークステーションがエミュレーション装置を使用することができます。

***SAME**

値は変更されません。

***ANY**

ワークステーションはエミュレーション装置を使用することができます。

ワークステーション

このエミュレーション装置を使用するワークステーションの名前を指定してください。

テキスト'記述' (TEXT)

*SAME

テキスト（ある場合）は変更されません。

*BLANK

テキストは指定されません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

例

```
CHGDEVBSC  DEVD(BSC001)  EMLDEV(3278)  EMLKBD(*LOWER)
```

このコマンドは、BSC001という名前のBSC装置の装置記述を、大文字と小文字の両方で3278表示装置をエミュレートするように変更します。

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF2618

装置記述&1は変更されなかった。

装置記述の変更（暗号）(CHGDEVCRP)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター

例

エラー・メッセージ

装置記述（暗号）変更(CHGDEVCRP)コマンドは、暗号装置の装置記述を変更します。

制約事項: このコマンドを使用するには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
DEV	装置記述	名前	必須, キー, 定位置 1
RSRCNAME	資源名	名前, *SAME, *NONE	オプション
APPTYPE	適用業務タイプ	*SAME, *CCA, *CCAUDX, *NONE	オプション
ONLINE	IPL時のオンライン	*SAME, *YES, *NO	オプション
MSGQ	MSG 待ち行列	単一値: *SAME, *SYSVAL, *SYSOPR その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: MSG 待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
PKAKEYFILE	PKAキー保管ファイル	単一値: *SAME, *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: PKAキー保管ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
DESKEYFILE	DESキー保管ファイル	単一値: *SAME, *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: DESキー保管ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
TEXT	テキスト記述	文字値, *SAME, *BLANK	オプション

上

装置記述 (DEV)

装置記述の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

上

資源名 (RSRCNAME)

記述が表すハードウェアを識別する資源名を指定します。

*SAME

値は変更されません。

資源名

システム上の暗号装置ハードウェアを識別する名前を指定してください。

注: 資源名を判別するためには、TYPE(*CRP)を指定してハードウェア資源処理(WRKHDWRSC)コマンドを使用してください。

上

適用業務タイプ (APPTYPE)

暗号装置でセキュア・コンピューティング環境の内側で実行するアプリケーションを指定します。

*SAME

値は変更されません。

*CCA

暗号装置のフラッシュ・メモリーは、共通暗号アーキテクチャー(CCA)アプリケーションによって初期化されます。

注: この値が有効なのは、4758および4764装置タイプの場合だけです。

*CCAUDX

暗号装置のフラッシュ・メモリーが初期化されるのは、システムが装置のフラッシュ・メモリー内にCCAアプリケーションまたはCCAユーザー定義拡張(UDX)を検出していない場合だけです。

注: この値が有効なのは、4758および4764装置タイプの場合だけです。

*NONE

暗号装置は、フラッシュ・メモリー・アプリケーションをサポートしません。

注: この値が有効なのは、2058装置タイプの場合だけです。

上

IPL時のオンライン (ONLINE)

初期プログラム・ロード(IPL)時にこのオブジェクトを自動的にオンに構成変更するかどうかを指定します。

*SAME

値は変更されません。

***YES**

この装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されます。

***NO**

この装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されません。

上

MSG 待ち行列 (MSGQ)

この装置に対する操作メッセージが送られるメッセージ待ち行列を指定します。

単一値

*SAME

メッセージが送られるメッセージ待ち行列は同じままです。

***SYSOPR**

メッセージは、システム操作員メッセージ待ち行列(QSYS/QSYSOPR)に送られます。

***SYSVAL**

メッセージは、システム値QCFGMSGQで指定されたメッセージ待ち行列に送られます。

その他の値

メッセージ待ち行列名

操作メッセージが送られるメッセージ待ち行列の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

*LIBL

最初に一致するものが見つかるまで、ジョブのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

PKAキー保管ファイル (PKAKEYFILE)

PKA (共通キー・アルゴリズム) キーが入っているデータベース・ファイルの名前を指定します。

単一値

*SAME

値は変更されません。

*NONE

省略時のPKA鍵データベースは使用されません。

その他の値

PKA鍵保管ファイル名

省略時のPKA鍵データベースの名前を指定します。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

*LIBL 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとして指定されているライブラリーがない場合、QGPLライブラリーが検索されます。

ライブラリー名

オブジェクトが入っているライブラリーを指定してください。

DESキー保管ファイル (DESKEYFILE)

この装置に使用されるDES (データ暗号化標準) が入っているデータベース・ファイルの名前を指定します。

単一値

*SAME

値は変更されません。

*NONE

省略時のDES鍵データベースは使用されません。

その他の値

DES鍵保管ファイル名

省略時のDES鍵データベースの名前を指定します。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとして指定されているライブラリーがない場合、QGPLライブラリーが検索されます。

ライブラリー名

オブジェクトが入っているライブラリーを指定してください。

上

テキスト'記述' (TEXT)

***SAME**

テキスト（ある場合）は変更されません。

***BLANK**

テキストは指定されません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

上

例

```
CHGDEVCRP  DEVD(CRP01)  ONLINE(*YES)
```

このコマンドは、CRP01という名前の暗号の装置記述を、装置がIPL時に自動的にオンに構成変更されるように変更します。

上

エラー・メッセージ

***ESCAPE**メッセージ

CPF2618

装置記述&1は変更されなかった。

上

装置記述の変更（表示装置）(CHGDEVDS)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

表示装置装置記述の変更(CHGDEVDS)コマンドにより、表示装置の装置記述が変更されます。

制約事項:このコマンドは、共用中のポートを除去するために使用することはできません（CRTDEVDSコマンドのTYPEパラメーターまたはLINESPEEDパラメーター、あるいはその両方に*CALCを指定した場合）。表示装置のために共用中のポートは、最初に、装置記述を削除してから、それを再作成することによって、除去する必要があります。

このコマンドを使用するには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
DEVDS	装置記述	名前	必須, キー, 定位置 1
PORT	ポート番号	0-17, *SAME	オプション
SWTSET	スイッチの設定値	0-6, *SAME	オプション
SHRSSNBR	共用セッション番号	*SAME, 0, 1, 2, 3	オプション
LOCADR	ローカル・ロケーション・アドレス	00-FE, *SAME	オプション
ONLINE	IPL時のオンライン	*SAME, *YES, *NO	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
KBDTYPE	キーボード言語タイプ	<u>*SAME</u> , *SYSVAL, *NONE, AGB, AGE, AGI, AGM, ALI, ALM, BGB, BGE, BLI, BLM, BRB, BRE, CAB, CAE, CAI, CAM, CLB, CLE, CSB, CSE, CYB, DMB, DME, DMI, DMM, ESB, FAB, FAE, FAI, FAM, FNB, FNE, FNI, FNM, FQB, FQI, GKB, GNB, GNE, HIB, HNB, HNE, ICB, ICE, ICI, ICM, INB, INI, IRB, ITB, ITE, ITI, ITM, JEB, JEI, JKB, JPB, JPE, JUB, KAB, KOB, LAB, LAE, LTB, LVB, MKB, MKE, NCB, NCE, NEB, NEE, NEI, NEM, NWB, NWE, NWI, NWM, PLB, PLE, PKB, PKE, PRB, PRE, PRI, PRM, RCB, RMB, RME, ROB, ROE, RUB, RUE, SFI, SFM, SGI, SGM, SKB, SKE, SPB, SPE, SPI, SPM, SQB, SQE, SSB, SSE, SSI, SSM, SWB, SWE, SWI, SWM, TAB, THB, THE, TKB, TKE, TRB, TRE, UAB, UAE, UKB, UKE, UKI, UKM, USB, USE, USI, USM, VNB, VNE, YGI, YGM	オプション
DROP	サインオフ時の回線切断	<u>*SAME</u> , *YES, *NO	オプション
CHRID	文字識別コード	単一値: *KBDTYPE, *SYSVAL, <u>*SAME</u> その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: グラフィック文字セット	1-32767	
	要素 2: コード・ページ	1-32767	
ALWBLN	カーソル明滅可能	<u>*SAME</u> , *YES, *NO	オプション
AUXDEV	補助装置	単一値: <u>*SAME</u> , *NONE その他の値 (最大 31 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: 補助装置のタイプ	6180, 6182, 6184, 6185, 6186M1, 6186M2, 7371, 7372	
	要素 2: 補助装置アドレス	1-31	
PRTDEV	印刷装置	名前, <u>*SAME</u> , *SYSVAL	オプション
OUTQ	出力待ち行列	単一値: <u>*SAME</u> , *DEV その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 出力待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	
PRINTER	印刷装置	名前, <u>*SAME</u> , *NONE	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノート
PRTFILE	印刷出力ファイル	単一値: <u>*SAME</u> その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 印刷出力ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , <u>*CURLIB</u>	
MAXLENRU	要求単位の最大長	<u>*SAME</u> , *CALC, 241, 245, 247, 256	オプション
ACTTMR	活動化タイマー	1-2550, <u>*SAME</u>	オプション
INACTTMR	非活動タイマー	1-30, <u>*SAME</u> , *ATTACH, *NOMAX, *SEC15, *SEC30	オプション
SNPTDEV	SNAパススルー装置記述	名前, *NONE, <u>*SAME</u>	オプション
SNPTGRP	SNAパススルー・グループ名	名前, *NONE, <u>*SAME</u>	オプション
LOGON	ホスト・サイン・オン/ログオン・コマンド	文字値, *NONE, <u>*SAME</u>	オプション
LINESPEED	回線速度	<u>*SAME</u> , *TYPE, 150, 300, 600, 1200, 1800, 2400, 3600, 4800, 7200, 9600, 19200, 38400	オプション
WORDLEN	語の長さ	<u>*SAME</u> , *TYPE, 7, 8	オプション
PARITY	パリティのタイプ	<u>*SAME</u> , *TYPE, *EVEN, *ODD, *NONE, *MARK, *SPACE	オプション
STOPBITS	停止ビット	<u>*SAME</u> , *TYPE, 1, 2	オプション
MAXOUT	最大未処理フレーム数	1-7, <u>*SAME</u>	オプション
IDLTMR	アイドル・タイマー	10-250, <u>*SAME</u>	オプション
NRMPOLLTMR	NRMポーリング・タイマー	2-100, <u>*SAME</u>	オプション
FRAMERTY	フレーム再試行	5-64, <u>*SAME</u>	オプション
RMTLOCNAME	リモート・ロケーション	通信名, <u>*SAME</u>	オプション
LCLLOCNAME	ローカル・ロケーション	通信名, <u>*SAME</u> , *NETATR	オプション
RMTNETID	リモート・ネットワーク 識別コード	通信名, <u>*SAME</u> , *NETATR, *NONE	オプション
IGCFEAT	DBCS機能	単一値: <u>*SAME</u> その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 装置の機構	文字値	
	要素 2: 最終コード・ポイント	4141-FFFE	
TEXT	テキスト・記述	文字値, <u>*SAME</u> , *BLANK	オプション
WSCST	ワークステーション・カスタマイズ・オブジェクト	単一値: *NONE, <u>*SAME</u> その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ワークステーション・カスタマイズ・オブジェクト	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , <u>*CURLIB</u>	

上

装置記述 (DEVD)

装置記述の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

上

ポート番号 (PORT)

ローカル装置のポート番号を指定します。

平衡型装置の場合：指定できる値の範囲は0から7です。

ASCII装置の場合：指定できる値の範囲は0から17で、この装置が接続されるASCIIワークステーションのポートを示します。12ポート拡張機構がない場合には、ポート0から5が有効です。12ポート拡張機構がある場合には、ポート6から17が追加されます。

LAN印刷装置の場合：有効な値の範囲は0から65535で、外部LANアダプターが接続されているポートを示します。

*SAME

値は変更されません。

ポート番号

ポート番号を指定してください。有効な値の範囲は0から65535です。

上

スイッチの設定値 (SWTSET)

ローカル平衡型装置のスイッチの設定値を指定します。

有効な値の範囲は0から6です。

*SAME

値は変更されません。

上

共用セッション番号 (SHRSSNNBR)

平衡型表示装置の共用セッション番号を指定します。このパラメーターが適用されるのは、3486および3487構成済み装置タイプだけです。

注：共用セッション・アドレスを付けることができるのは、2661, 6050, 9146,または915Aローカル・ワークステーション制御装置か、あるいは5494リモート・ワークステーション制御装置の場合だけであることを表示します。

*SAME

値は変更されません。

0

共用セッション番号は0です。

1

共用セッション番号は1です。

2

共用セッション番号は2です。

3

共用セッション番号は3です。

上

ローカル・ロケーション・アドレス (LOCADR)

この装置のローカル・ロケーション・アドレスを指定します。

使用できる値の範囲は00からFEです。装置を接続する制御装置のタイプによって、有効な値が決まります。

制御装置

有効な値

5251 00, 02-09

5294 00-1B

5394 00-14

5494 00-37

3174 02-41

3274 02-41

SNAホスト

01-FE

4701 02-FE

4702 02-FE

4680 02-54

4684 02-FE

FBSS 02-FE

***SAME**

値は変更されません。

上

IPL時のオンライン (ONLINE)

初期プログラム・ロード(IPL)時にこのオブジェクトを自動的にオンに構成変更するかどうかを指定します。

***SAME**

値は変更されません。

***YES**

この装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されます。

***NO**

この装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されません。

上

キーボード言語タイプ (KBDTYPE)

この表示装置の国別キーボード言語IDを指定します。

注:

1. DEVCLS(*RMT)が指定されていて、TYPE(3277)、TYPE(3278)、またはTYPE(3279)が指定されている時には、次の値を指定することができます。*SYSVAL、AGI、ALI、BGB、BLI、CAI、CSB、DMI、FNI、FAI、HNB、IRB、ITI、JPB、MKB、NWI、PLB、PRI、RMB、RUB、SKB、SPI、SQB、SSI、SWI、TRB、USB、USI、またはYGI。その他の場合には、DEVCLS(*RMT)が指定されている時は、このパラメーターは無効です。
2. TYPE(3486)またはTYPE(3487)が指定されている時には、次の値を指定することができます。*SYSVAL、AGB、AGI、ALI、BGB、BLI、CAB、CAI、CLB、CSB、DMB、DMI、FAB、FAI、FNB、FNI、GNB (またはGKB)、HNB、ICB、ICI、IRB、ITB、ITI、JPB、KAB、MKB、NCB、NEB、NEI、NWB、PLB、PRB、PRI、RMB、RUB、SFI、SGI、SKB、SPB、SPI、SQB、SSB、SSI、SWB、SWI、TKB、TRB、UKB、UKI、USB、USI、またはYGI。
3. このパラメーターは、DEVCLS(*LCL)とTYPE(5150)の組み合わせの場合には任意指定となります。

***SYSVAL**

システムにQKBDTYPEシステム値を使用するよう命令します。

キーボード言語タイプ

この表示装置の3文字の国別ID (EBCDICおよびASCIIに使用される) を指定してください。

このパラメーターの適切な値を確認するか、あるいは指定された言語で使用できるASCII表示装置を判別するためには、次の2つのテーブルを使用することができます。

- キーボード・マッピング・テーブルには、有効な国別ID、各IDによって表される言語、および各言語のASCII装置グループ（適用できる場合）が表示されます。
- ASCII表示装置および装置グループ・テーブルには、有効な表示装置とそれに関連したASCII装置グループが表示されます。

例えば、ユーザーが3101表示装置を作成したいものとしします。ASCII表示装置および装置グループ・テーブルは、3101表示装置がASCII装置グループAをサポートしていることを示しています。キーボード・マッピング・テーブルは、装置グループAで使用できる有効な言語IDにAGB, AGI, CAB, CAI, FAB, FAI, ITB, ITI, UKB, UKI, USB, およびUSIが含まれていることを示しています。

次のキーボードは、カスタマイズしているオブジェクトも使用される場合にのみASCII表示装置によって指定することができます。ALI, BGB, CSB, ESB, HNB, LTB, LVB, MKB, PKB, PLB, RMB, RUB, SKB, SQB, TRB, UAB, およびYGI。

ID 言語（国） - ASCII装置グループ

ALI	アルバニア
ALM	アルバニア・ユーロ通貨
CLB	アラビア語X/BASIC - D*
CLE	アラブX/BASICユーロ通貨
AGB	オーストリア／ドイツ- A, B
AGE	オーストリア／ドイツ・ユーロ通貨
AGI	オーストリア／ドイツ各国間- A, B
AGM	オーストリア／ドイツ各国間ユーロ通貨
BLI	ベルギー各国間- B
BLM	ベルギー各国間ユーロ通貨
BRB	ブラジル・ポルトガル語
BRE	ブラジル・ポルトガル語ユーロ通貨
BGB	ブルガリア
BGE	ブルガリア・ユーロ通貨
CAB	カナダ・フランス語- A, B
CAE	カナダ・フランス語ユーロ通貨
CAI	カナダ・フランス語各国間- A, B
CAM	カナダ・フランス各国間ユーロ通貨
SPB	カタロニア語
RCB	中国語（簡体字）
TAB	中国語（繁体字）
YGI	クロアチア
YGM	クロアチア・ユーロ通貨

CYB キリル
CSB チェコ共和国
CSE チェコ共和国ユーロ通貨
DMB デンマーク- B
DME デンマーク・ユーロ通貨
DMI デンマーク各国間- B
DMM デンマーク各国間ユーロ通貨
ESB エストニア
FNB フィンランド／スウェーデン- B
FNE フィンランド／スウェーデン・ユーロ通貨
FNI フィンランド／スウェーデン各国間- B
FNM フィンランド／スウェーデン各国間ユーロ通貨
FAB フランス(AZERTY) - A, B
FAE フランス(AZERTY)ユーロ通貨
FAI フランス(AZERTY)各国間- A, B
FAM フランス(AZERTY)各国間ユーロ通貨
FQB フランス(QWERTY)
FQI フランス(QWERTY)国際
GNB ギリシャ語 (注を参照)
GNE ギリシャ語ユーロ通貨
NCB ヘブライ語- D*
NCE ヘブライ語ユーロ通貨
HIB ヒンディ語
HNB ハンガリー
HNE ハンガリー・ユーロ通貨
ICB アイスランド
ICE アイスランド・ユーロ通貨
ICI アイスランド各国間
ICM アイスランド各国間ユーロ通貨
INB 国際
INI 国際各国間
IRB イラン (ペルシア語)
ITB イタリア- A, B
ITE イタリア・ユーロ通貨
ITI イタリア各国間- A, B
ITM イタリア各国間ユーロ通貨

JEB 日本（英語）
JEI 日本（英語）各国間
JKB 日本語漢字
JPB 日本ラテン語拡張
JPE 日本ラテン語拡張ユーロ通貨
JUB 日本米国英語基本
KAB 日本（カタカナ）
KOB 韓国
LAB ラオス人民民主共和国
LAE ラオス人民民主主義共和国ユーロ通貨
ROB ローマ字-2/ROECE（中欧，東欧）
ROE ラテン語-2/ROECEユーロ通貨
LVB ラトビア
LTB リトアニア
MKB FYRマケドニア（前ユーゴスラビア連邦）
MKE FYRマケドニア・ユーロ通貨
NEB オランダ
NEE オランダ・ユーロ通貨
NEI オランダ各国間
NEM オランダ各国間ユーロ通貨
NWB ノルウェー- B
NWE ノルウェー・ユーロ通貨
NWI ノルウェー各国間- B
NWM ノルウェー各国間ユーロ通貨
PLB ポーランド
PLE ポーランド・ユーロ通貨
PRB ポルトガル- B
PRE ポルトガル・ユーロ通貨
PRI ポルトガル各国間- B
PRM ポルトガル各国間ユーロ通貨
RMB ルーマニア
RME ルーマニア・ユーロ通貨
RUB ロシア
RUE ロシア・ユーロ通貨
SQB セルビア（キリル語）
SQE セルビア（キリル）ユーロ通貨

YGI セルビア (ラテン文字)
YGM セルビア (ラテン語) ユーロ通貨
SKB スロバキア
SKE スロバキア・ユーロ通貨
YGI スロベニア
YGM スロベニア・ユーロ通貨
SPB スペイン- B
SPE スペイン・ユーロ通貨
SPI スペイン各国間- B
SPM スペイン各国間ユーロ通貨
SSB スペイン語圏- B
SSE スペイン語圏ユーロ通貨
SSI スペイン語圏各国間- B
SSM スペイン語圏各国ユーロ通貨
SWB スウェーデン- B
SWE スウェーデン・ユーロ通貨
SWI スウェーデン各国間- B
SWM スウェーデン各国間ユーロ通貨
SFI スイス/フランス語各国間- B
SFM スイス/フランス各国ユーロ通貨
SGI スイス/ドイツ語各国間- B
THB タイ
THE タイ・ユーロ通貨
TKB トルコ(QWERTY)
TKE トルコ(QWERTY)ユーロ通貨
TRB トルコ(F)
TRE トルコ(F)ユーロ通貨
UAB ウクライナ
UAE ウクライナ・ユーロ通貨
UKB 英国- A, B
UKE 英国ユーロ通貨
UKI 英国各国間- A, B
UKM 英国各国間ユーロ通貨
USB 米国/カナダ- A, B, C
USE 米国/カナダ・ユーロ通貨
USI 米国/カナダ各国間- A, B, C

USM 米国／カナダ各国間ユーロ通貨
PKB ウルドゥー語
PKE ウルドゥー語ユーロ通貨
VNB ベトナム
VNE ベトナム・ユーロ通貨
YGI 前ユーゴスラビアの言語
YGM 前ユーゴスラビア言語ユーロ通貨

注: GNBコードはギリシャの現在のIDです。GKBコードはV2R1以前に使用されたもので引き続きサポートされますが、推奨されるGNBコードより文字数が少なくなっています。

ASCII装置および装置グループ

表示装置

ASCII装置グループ

3101 A
3151 B
3161 B
3162 B
3163 B
3164 B

次の装置は、TELEVIDEO, DEC,またはWYSEの商標であり、ASCII装置グループCまたはDの言語だけを指定しなければなりません。

表示装置

説明

D220 DATA GENERAL DASHER D220
T910 TELEVIDEO 910
T925 TELEVIDEO 925
T955 TELEVIDEO 955
V100 DEC VT-100
V220 DEC VT-220 (ASCII装置グループDおよびCをサポートする)
W30 WYSE WY30
W50 WYSE WY50
W60 WYSE WY60

*SAME

値は変更されません。

***NONE**

この表示装置には、国別キーボード言語IDはセットされません。これは、キーボード・タイプが必要でない表示装置の場合にだけ有効です。

上

サインオフ時の回線切断 (DROP)

リモート表示装置の場合に、回線上のすべての装置が使用されなくなった時に、システムによって回線が切断されるかどうかを指定します。

ユーザーがSIGNOFFコマンドでサインオフ時の回線切断 (DROP)パラメーターを指定している場合には、装置記述に指定されている値は、ユーザーがその装置でサインオフすることによって指定変更できます。

*SAME

値は変更されません。

*YES

この装置および他のすべての接続装置が使用中でなくなったときに、この装置が接続している制御装置への交換回線が切断されます。

*NO

制御装置のすべての接続装置が使用中でなくなったときに、交換回線は制御装置からは切断されません。

上

文字識別コード (CHRID)

ワークステーション表示装置がサポートする文字ID (図形文字セットおよびコード・ページ) を指定します。

*SAME

値は変更されません。

*KBDTYPE

システムは、キーボード言語タイプ (KBDTYPE)パラメーターに指定された国別キーボード言語ID値に対応する図形文字セットおよびコード・ページ値を判別します。

*SYSVAL

システムは、QCHRIDシステム値からコマンド・パラメーターの図形文字セットおよびコード・ページ値を判別します。

図形文字セットコード・ページ

この表示装置の属性に一致する図形文字セットおよびコード・ページの値を指定してください。図形文字セットおよびコード・ページの値は、1から32767の範囲内の数値でなければなりません。

上

カーソル明滅可能 (ALWBLN)

(プログラム制御の) 明滅カーソルが抑制されるかどうかを指定します。

注: 明滅カーソルの属性を変更することのできるキーボード・セットアップ機能をもつ表示装置によって、このパラメーターに指定されている値を一時変更することができます。

*SAME

値は変更されません。

*YES

3179, 3180, 3196, 3197, 3476, 3477, 3486, 3487, 5251, 5291, および5292表示装置の場合には、カーソルを明滅させることができます。

*NO

カーソルの明滅は行われません。

上

補助装置 (AUXDEV)

5292-2型装置のIEEE-488ポートに接続される追加の装置の装置タイプおよびアドレス (ある場合) を指定します。5292-2型の同じIEEE-488 AUXDEVポートには最大31のプロッターを接続することができますが、異なったIEEE-488アドレスとなります。有効な追加装置タイプは、7371 (IBM 7371作図装置), 7372 (IBM 7372作図装置), 6180 (IBM 6180作図装置), 6182 (IBM 6182作図装置), 6184 (IBM 6184作図装置), 6185 (IBM 6185作図装置), 6186M1 (IBM 6186M1作図装置), および6186M2 (IBM 6186M2作図装置) です。有効な追加装置アドレスは1から31の数値です。

このパラメーターには複数の値を入力できます。

*SAME

値は変更されません。

*NONE

補助装置がありません。

上

印刷装置 (PRTDEV)

このワークステーションの省略時の印刷装置の名前を指定します。出力を作成するために使用される印刷装置ファイルでファイルをスプールするように指定している場合には、スプール・ファイルが装置の出力待ち行列に入れられます。この出力待ち行列の名前は装置と同じです。

注: これは、省略時の値が印刷装置ファイル、ジョブ記述、ユーザー・プロファイル、およびワークステーションのOUTQパラメーターに指定されると見なされます。

*SAME

値は変更されません。

*SYSVAL

システム値QPRTDEVに指定されている省略時のシステム印刷装置が使用されます。

印刷装置名

出力を印刷するために使用する印刷装置の名前を指定してください。

上

出力待ち行列 (OUTQ)

ユーザーが使用する出力待ち行列の名前およびライブラリーを指定します。出力待ち行列はすでに存在していなければなりません。

*SAME

値は変更されません。

*DEV

印刷装置ファイルのDEVパラメーターで指定された印刷装置と関連した出力待ち行列が使用されます。出力待ち行列は印刷装置と同じ名前をもちます。(印刷装置ファイルのDEVパラメーターはCRTPRTF、CHGPRTF、またはOVRPRTFコマンドによって判別されます。)

注: これは、省略時の値が印刷装置ファイル、ジョブ記述、ユーザー・プロファイル、およびワークステーションのOUTQパラメーターに指定されていると見なされます。

出力待ち行列名

出力待ち行列の名前を指定してください。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

*LIBL 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

出力待ち行列を見つけるために、現行ライブラリーが使用されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目が存在しない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

出力待ち行列が入っているライブラリーの名前を指定してください。

上

印刷装置 (PRINTER)

リモート表示装置の場合に、表示装置に対応する印刷装置の装置名を指定します。このパラメーターに指定されているワークステーション印刷装置の装置記述は、すでに作成されて現在システム上に存在していなければなりません。印刷装置および表示装置は両方とも同じ制御装置に接続しなければなりません。

*SAME

値は変更されません。

*NONE

この表示装置に関連する印刷装置がありません。

上

印刷出力ファイル (PRTFILE)

この表示装置のページ印刷キーの処理のために代替印刷装置ファイルの使用を指定します。

印刷出力ファイルは、その修飾名（ライブラリー名／印刷ファイル名）で指定されます。

*SAME

値は変更されません。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

*LIBL 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとして指定されているライブラリーがない場合、QGPLライブラリーが検索されます。

ライブラリー名

オブジェクトが入っているライブラリーを指定してください。

上

要求単位の最大長 (MAXLENRU)

リモート表示装置と印刷装置の場合には、使用可能な最大要求単位(RU)の長さ（バイト数）を指定します。

***SAME**

値は変更されません。

***CALC**

システムが使用に最も適した値を決定します。

これは推奨値です。

最大長要求単位

241または247を指定します。この値が有効なのは、X.25ネットワークに接続された装置の場合だけです。推奨値*CALCを指定しない場合には、ELLCに241を使用し、QLLCに247を使用されるようお奨めします。245および256の値を指定できますが、この結果は*CALCを指定したのと同じです。

上

活動化タイマー (ACTTMR)

ホストIBM System i5からの活動化要求に装置が応答するのを待機する時間（秒数）を指定します。この時間内に装置が応答しない場合には、利用不能であると見なされます。

注：このパラメーターは、交換回線上的のみ、およびDEVCLSパラメーターに*SNPTが指定された場合のみ有効です。

***SAME**

値は変更されません。

活動化時間

装置が使用不能であると見なされる前の秒数を指示する1から2550の範囲の数値を指定してください。

上

非活動タイマー (INACTTMR)

表示装置の非活動タイマー（タイムアウト）値を指定します。また、このパラメーターはこのタイムアウト値を超えた時にどんなことが起こるかについても指定しますが、何が起こるかは当該装置のその他の属性によって異なります。

- ASCIIワークステーション制御装置に接続された表示装置の場合には、タイムアウト値を超える時間の間、表示装置が非活動状態（データが送信も受信もされない状態）であると、ユーザーのジョブが取り消されます。表示装置は自動的にオフに構成変更され、再びオンに構成変更されて、新しいサインオン画面が表示されます。

- SNAパススルー(SNPT)サポートを使用して接続されている表示装置の場合には、装置がホスト・アプリケーションに結合されていない時間がタイムアウト値を超えると、QSYSOPR へのメッセージによってユーザーに通知され、セッションが終了します。ユーザーは接続およびセッションを再確立しなければなりません。
- アプリケーション・タイプ値が*APPINIT, *DEVINIT,または*NRFである表示装置の場合には、タイムアウト値を超える時間の間、装置が非活動状態（装置に対してオープンされたファイルがクローズされ、装置に対するファイルのオープン要求が以後受け取られていない状態）であると、セッションが終了します。

注: サブシステムは装置に対してオープンされているファイルを常にもっているため、このタイマーはサブシステムに割り振られた装置によっては使用されません（通常の対話式使用）。このタイマーは、装置に対してファイルをオープンおよびクローズするバッチ・ジョブによって使用されます。

SNAパススルー(*SNPT)装置クラス・サポートを使用している接続の場合には、*ATTACHの省略時の値が*NOMAXにマップされます。

アプリケーション・タイプ値が*APPINIT, *CLTSSN, *DEVINIT,または*NRFである装置の場合には、*ATTACHの省略時の値が1分にマップされます。

郵便電話電信(*PTT)接続機構の場合には、有効な非活動タイマーの値は*SEC15 (15秒) , *SEC30 (30秒) , および1から10分です。*ATTACHは*SEC30 (30秒) にマップされます。

その他の接続機構の場合には、有効な非活動タイマーの値は1から30分および*NOMAX です。*ATTACHは、これらの接続機構の場合には、*NOMAXにマップされます。

*SAME

値は変更されません。

***ATTACH**

この値は、**物理的接続 (ATTACH)**パラメーターで指定された値と、**適用業務タイプ (APPTYPE)**パラメーターおよび**装置クラス (DEVCLS)**パラメーターの一定の値によって変化します。

***NOMAX**

最大非活動時間は追跡されません（非活動タイマーは実施されません）。

***SEC15**

15秒のタイムアウト期間が使用されます。

***SEC30**

30秒のタイムアウト期間が使用されます。

非活動タイマー

タイムアウト値（分）を指定します。

上

SNAパススルー装置記述 (SNPTDEV)

ホストまたは拡張プログラム間通信機能(APPC)制御装置に接続する関連したSNA パススルー装置の名前を指定します。

*SAME

値は変更されません。

*NONE

名前は指定されません。

関連装置名

ホストまたはこの装置に関連したAPPC制御装置に接続する装置の名前を指定してください。

上

SNAパススルー・グループ名 (SNPTGRP)

構成リスト中のホスト装置のグループに対して構成された名前を指定します(CRTCFLGコマンドを参照してください)。これは、この装置が使用可能なグループの任意の装置と関連していることを指示します。

*SAME

値は変更されません。

*NONE

名前は指定されません。

グループ名

この装置と関連していなければならないホスト装置のグループに対して構成された名前を指定してください。

上

ホスト・サイン・オン/ログオン・コマンド (LOGON)

サインオン (ログオン) テキストを指定します。このパラメーターは、DEVCLS(*SNPT)または APPTYPE(*NRF)を指定した場合に使用することができます。APPTYPE(*NRF)は、セッションの確立が要求された時にホスト・システムに送信されるログオン・ストリングを指定します。DEVCLS(*SNPT)は、SNAパススルー・サポートを開始した後にホスト・システムに送信されるサインオン・テキストを指定します。

このパラメーターは、ファイルが*NRF用にオープンされた時にホスト・ネットワークでシステム・サービス制御点(SSCP)に送信されるログオン・ストリングも指定します。

***SAME**

値は変更されません。

***NONE**

テキストがホスト・システムに送信されません。

ホスト・ログオン・コマンド

ホスト・システムに送信するテキストを指定してください。テキストにブランクまたは他の特殊文字が入っている場合には、そのテキストをアポストロフィで囲まなければなりません。テキスト中のすべてのアポストロフィは、2つのアポストロフィとして表す必要があります。最大256文字まで指定できます。

上

回線速度 (LINESPEED)

回線速度を1秒当たりのビット数(BPS)で指定します。

***SAME**

値は変更されません。

***TYPE**

システムは、この装置タイプに指定された設定値を使用します。

*TYPEはすべての表示装置に対して19200ビット/秒を選択しますが、3101表示装置は例外で、9600ビット/秒が選択されます。5150 A1装置または装置タイプ*CALCの場合には、*TYPEは1200ビット/秒を選択します。

回線速度

回線速度を指定してください。有効な値は150, 300, 600, 1200, 1800, 2400, 3600, 4800, 7200, 9600, 19200,または38400です。

上

語の長さ (WORDLEN)

ASCII装置の場合には、ASCIIワークステーション制御装置と装置間の接続を介した通信に使用される語の長さ(ビット/文字)を指定します。モデムおよび郵便電話電信(PTT)接続機構の場合には、語の長さはそのモデムに対して選択された語の長さと同じでなければなりません。表示装置の補助ポートに接続された補助印刷装置の場合には、語の長さはその表示装置の装置記述に指定された語の長さと同じでなければなりません。

入出力装置によっては、すべてのワード長をサポートしていないものもあります。使用したいワード長を入出力装置がサポートしているかどうか確認してください。

***SAME**

値は変更されません。

***TYPE**

システムはこの装置タイプに推奨された設定値を使用します。*TYPEは、7ビットのワード長を選択する3101およびD220表示装置以外のすべての表示装置に8ビットのワード長を選択します。

7

7ビット・ワード長を指定します。

8

8ビット・ワード長を指定します。

上

パリティのタイプ (PARITY)

ASCII装置の場合には、ASCIIワークステーション制御装置と装置間の接続を介した通信に使用されるパリティのタイプを指定します。モデムおよび郵便電話電信(PTT) 接続機構の場合には、パリティのタイプはそのモデムに対して選択したタイプと同じでなければなりません。また、表示装置の補助ポートに接続された補助印刷装置の場合には、パリティのタイプは表示装置の装置記述に指定したタイプと同じでなければなりません。

入出力装置によっては、すべてのタイプのパリティをサポートしないものもあります。使用したいタイプのパリティを入出力装置がサポートしているかどうか確認してください。

***SAME**

値は変更されません。

***TYPE**

システムは、この装置タイプに指定された設定値を使用します。

*TYPEは、*MARKを選択するD220以外のすべての表示装置用に*EVEN（偶数パリティ）を選択します。5150 A1装置の場合には、*TYPEは8ビットの語の長さには*NONEおよび7ビットの語の長さには*EVENを選択します。装置タイプ (TYPE)パラメーターに*CALCが指定されている場合には、*TYPEは*NONEを選択します。

***EVEN**

偶数パリティを指定します。

***ODD**

奇数パリティを指定します。

***NONE**

パリティ・ビットを使用しないことを指定します。

***MARK**

マーク・パリティ（パリティでは1を使用する）を指定します。

***SPACE**

スペース・パリティ（パリティでは0を使用する）を指定します。

上

停止ビット (STOPBITS)

ASCII装置の場合には、ASCIIワークステーション制御装置と装置間の接続を介した通信に使用される停止ビットの数を指定します。モデムおよび郵便電話電信(PTT)接続機構の場合には、停止ビットの数はそのモデムに対して選択された停止ビットの数と同じでなければなりません。表示装置の補助ポートに接続された補助印刷装置の場合には、停止ビットの数はその表示装置の装置記述に指定された停止ビットの数と同じでなければなりません。

入出力装置によっては、すべての停止ビットの数をサポートしないものもあります。使用したい停止ビットの数を入出力装置がサポートしているかどうか確認してください。

***SAME**

値は変更されません。

***TYPE**

システムは、この装置タイプに指定された設定値を使用します。

*TYPEを指定すると、2停止ビットの設定値が選択されるDEC VT-100表示装置を除いて、すべての表示装置に対して1停止ビットが選択されます。

1

1停止ビットを指定します。

2

2停止ビットを指定します。

上

最大未処理フレーム数 (MAXOUT)

リモート・システム(5150ワークステーション)が応答する前にそのリモート・システムに逐次的に送られるフレームの最大数を指定します。フレームの最大数は1から7でなければなりません。このパラメーターが有効なのは、装置タイプ (TYPE)パラメーターに5150が指定され、装置型式 (MODEL)パラメーターにA1が指定されている場合、あるいは、ASCIIポート共用が使用される場合だけです。

*SAME

値は変更されません。

最大未処理フレーム数

フレーム数として1から7の値を指定してください。

上

アイドル・タイマー (IDLTMR)

システムが応答を待機する時間(0.1秒間隔で)を指定します。指定した時間内に応答を受け取らない場合には、エラー回復手順が開始されます。このパラメーターは、数値が10から250の間にある場合、装置タイプ (TYPE)パラメーターに5150が指定され、装置型式 (MODEL)パラメーターにA1が指定されている場合、あるいはASCIIポートの共用を使用している場合にだけ、有効です。

*SAME

値は変更されません。

遊休タイマー

10から250の値を0.1秒間隔で指定してください。

上

NRMポーリング・タイマー (NRMPOLLTMR)

通常応答モード(NRM)の時にこの装置のポーリングの間隔(0.1秒間隔で)を指定します。このパラメーターが有効なのは、装置タイプ (TYPE)パラメーターに5150が指定されて、装置型式 (MODEL)パラメーターにA1が指定された場合、あるいはASCIIポートの共用を使用している場合だけです。

*SAME

値は変更されません。

NRMポーリング・タイマー

0.1秒間隔で2から100の値を指定します。

上

フレーム再試行 (FRAMERTY)

応答されていないコマンド・フレームまたは肯定応答されていない情報フレームに対する再試行回数を指定します。このパラメーターが有効なのは、**装置タイプ (TYPE)**パラメーターに5150が指定され、**装置型式 (MODEL)**パラメーターにA1が指定されている場合、あるいは、ASCIIポート共用が使用される場合だけです。

*SAME

値は変更されません。

フレーム再試行

再試行回数として5から64の値を指定してください。

上

リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)

このオブジェクトが通信するシステムのリモート・ロケーション名を指定します。

注: APPTYPE(*APPINIT)装置にはこのパラメーターが必要です。APPTYPE(*APPINIT)装置のリモート・ロケーション名は、物理入出力装置のVTAM/NCP (仮想リモート通信アクセス方式/ネットワーク制御プログラム) 名です。

*SAME

値は変更されません。

上

ローカル・ロケーション (LCLLOCNAME)

ローカル・ロケーション名を指定します。このパラメーターがAPPTYPE(*CTLSSN) または APPTYPE(*APPINIT)と一緒に指定されている時には、リモート・ロケーション名はネットワーク制御プログラム(NCP)中の独立論理装置(LU)の名前となります。

*SAME

値は変更されません。

*NETATR

システム・ネットワーク属性に指定されたLCLLOCNAME値が使用されます。

ローカル・ロケーション名

ローカル・ロケーション名を指定してください。

上

リモート・ネットワーク 識別コード (RMTNETID)

リモート・ネットワークID (ID)の名前を指定します。APPTYPE(*APPINIT)装置に対してこのパラメーターを指定することができます。

*SAME

値は変更されません。

*NETATR

ネットワーク属性に指定されたりリモート・ネットワークIDが使用されます。

*NONE

リモート・ネットワークID (ID)は使用されません。

リモート・ネットワークID

リモート・ネットワークのIDを指定してください。

上

DBCS機能 (IGCFEAT)

装置の機構および最終コード・ポイントの値を示すためにDBCSフィーチャー・コード形式で使用される2バイト文字セット(DBCS)テーブルを指定します。このパラメーター記述の終わりにあるテーブルには、漢字使用可能の装置の有効な装置機構および最終コード・ポイント値が示されています。

注: このパラメーターが有効なのは、漢字使用可能の装置の場合だけです。

*SAME

値は変更されません。

要素1: DBCS使用可能装置の機能

装置の機構

SSSSLRの形式を使用して、装置の文字解像度、言語、および相対バッファ・サイズの装置の機構を指定します。この場合:

SSSS =

文字の解像度 (作成するために使用される行列点の数)。例えば、2424は、文字を公式化するために使用可能な24行列点の高さと24行列点の幅です。

L = 言語コード。現在サポートされている4つの言語コードは次の通りです。

- J =日本語
- K =韓国語
- C =中国語 (繁体字)
- S =中国語 (簡体字)

R = 相対バッファ・サイズ。有効な値は0, 1, 2,および4です。

要素2:最終コード・ポイント

最終コード・ポイント

最後の漢字の4桁のコード・ポイントを指定してください。この値は空白とすることができません。

上

テキスト'記述' (TEXT)

*SAME

テキスト（ある場合）は変更されません。

*BLANK

テキストは指定されません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

上

ワークステーション・カスタマイズ・オブジェクト (WSCST)

ワークステーション・カスタマイズ・オブジェクトの修飾名を指定します。

*SAME

値は変更されません。

*NONE

ワークステーション・カスタマイズ・オブジェクトは指定されません。

ワークステーション・カスタマイズ・オブジェクト

ワークステーション・カスタマイズ・オブジェクトを指定してください。

注: WSCSTパラメーターにワークステーション・カスタマイズ・オブジェクトを指定した場合には、ASCII装置にFQB, FQI, INB, INI, JEB, JEI, JKB, JUB, KAB, KOB, RCB,およびTABを除くすべての国別キーボードIDを使用することができます。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとして指定されているライブラリーがない場合、QGPLライブラリーが検索されます。

ライブラリー名

オブジェクトが入っているライブラリーを指定してください。

例

```
CHGDEVDSP  DEVD(DSP4)  PORT(1)  SWTSET(5)
```

このコマンドは、表示装置DSP4をポート1に移動してそのアドレスを5に変更します。同じ制御装置ではこのロケーションに他の装置は存在できません。

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF2618

装置記述&1は変更されなかった。

装置記述の変更（金融機関）(CHGDEVFNC)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

金融機関装置記述の変更(CHGDEVFNC)コマンドにより、金融機関用装置の装置記述が変更されます。

制約事項: このコマンドを使用するには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
DEV D	装置記述	名前	必須, キー, 定位置 1
LOCADR	ローカル・ロケーション・アドレス	01-FF, *SAME	オプション
ONLINE	IPL時のオンライン	*SAME, *YES, *NO	オプション
MAXLENRU	要求単位の最大長	8-4096, *SAME, *CALC	オプション
ACTTMR	活動化タイマー	1-2550, *SAME	オプション
INACTTMR	非活動タイマー	1-30, *SAME, *NOMAX, *SEC15, *SEC30	オプション
SNPTDEV	SNAパススルー装置記述	名前, *NONE, *SAME	オプション
SNPTGRP	SNAパススルー・グループ名	名前, *NONE, *SAME	オプション
TEXT	テキスト'記述'	文字値, *SAME, *BLANK	オプション

上

装置記述 (DEV D)

装置記述の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

上

ローカル・ロケーション・アドレス (LOCADR)

この装置のローカル・ロケーション・アドレスを指定します。

装置を接続する制御装置のタイプによって、有効な値が決まります。

制御装置

有効な値

FBSS 01からFF

4701 01からFF

4702 01からFF
3694 01から04
4730 01から03
4731 01から02
4732 01から02
4736 01から02

LOCADR 01が使用されるのはシステム・モニター・セッションとの通信だけで、これが有効なのは**装置タイプ (TYPE)**パラメーターに*FNCICFが指定されている場合だけです。

***SAME**

値は変更されません。

上

IPL時のオンライン (ONLINE)

初期プログラム・ロード(IPL)時にこのオブジェクトを自動的にオンに構成変更するかどうかを指定します。

***SAME**

値は変更されません。

***YES**

この装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されます。

***NO**

この装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されません。

上

要求単位の最大長 (MAXLENRU)

使用できる要求単位(RU)の最大長を指定します。

***SAME**

値は変更されません。

***CALC**

システムは使用する値を計算します。

最大長要求単位

着信要求単位の最大長として8から4096バイトの範囲内の値を指定してください。

注: 3624, 3694,または4704装置タイプの場合には, *CALCが唯一の使用可能な値です。装置タイプ (TYPE)パラメーターに*FNCICFが指定されていて, 3694, 4730, 4731, 4732,または4736制御装置に接続されている場合には, 使用可能な値は*CALCまたは256だけです。

上

活動化タイマー (ACTTMR)

ホストIBM System i5からの活動化要求に装置が応答するのを待機する時間 (秒数) を指定します。この時間内に装置が応答しない場合には, 利用不能であると見なされます。

注: このパラメーターは, 交換回線上的のみ, およびDEVCLSパラメーターに*SNPTが指定された場合のみ有効です。

*SAME

値は変更されません。

活動化タイマー

装置が使用不能であると見なされる前の秒数を指示する1から2550の範囲の数値を指定してください。

上

非活動タイマー (INACTTMR)

SNAパススルー・サポートを使用して接続された装置の場合には, 装置がホスト・アプリケーションに制限されていない時間を測るタイムアウト値を指定します。タイムアウト値を超えた時に, セッションは終了します。

*SAME

値は変更されません。

*NOMAX

最大非活動時間は追跡されません (非活動タイマーは実施されません)。

*SEC15

15秒のタイムアウト期間が使用されます。

*SEC30

30秒のタイムアウト期間が使用されます。

非活動タイマー

タイムアウト値 (分) を指定します。

SNAパススルー装置記述 (SNPTDEV)

ホストまたは拡張プログラム間通信機能(APPC)制御装置に接続する関連したSNA パススルー装置の名前を指定します。

*SAME

値は変更されません。

*NONE

名前は指定されません。

関連装置名

ホストまたはこの装置に関連したAPPC制御装置に接続する装置の名前を指定してください。

SNAパススルー・グループ名 (SNPTGRP)

構成リスト中のホスト装置のグループに対して構成された名前を指定します(CRTCFLGコマンドを参照してください)。これは、この装置が使用可能なグループの任意の装置と関連していることを指示します。

このパラメーターを使用できるのは、DEVCLSパラメーターに対して*SNPTが指定されている場合だけです。

*SAME

値は変更されません。

*NONE

名前は指定されません。

グループ名

この装置と関連していなければならないホスト装置のグループに対して構成された名前を指定してください。

テキスト'記述' (TEXT)

*SAME

テキスト (ある場合) は変更されません。

*BLANK

テキストは指定されません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

上

例

```
CHGDEVFNC  DEVD(FNCDSP1)  ONLINE(*YES)
```

このコマンドは、金融機関用装置FNCDSP1の装置記述を、装置がIPL時にオンに構成変更されるように変更します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF2618

装置記述&1は変更されなかった。

上

装置記述の変更(SNA ホスト) (CHGDEVHOST)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

SNAホスト装置記述の変更(CHGDEVHOST)コマンドにより、システム・ネットワーク体系(SNA)ホスト・システム装置の装置記述が変更されます。

制約事項: このコマンドを使用するには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
DEVDD	装置記述	名前	必須, キー, 定位置 1
LOCADR	ローカル・ロケーション・アドレス	*SAME, 01, 02, 03, 04, 05, 06, 07, 08, 09, 0A, 0B, 0C, 0D, 0E, 0F, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17, 18, 19, 1A, 1B, 1C, 1D, 1E, 1F, 20, 21, 22, 23, 24, 25, 26, 27, 28, 29, 2A, 2B, 2C, 2D, 2E, 2F, 30, 31, 32, 33, 34, 35, 36, 37, 38, 39, 3A, 3B, 3C, 3D, 3E, 3F, 40, 41, 42, 43, 44, 45, 46, 47, 48, 49, 4A, 4B, 4C, 4D, 4E, 4F, 50, 51, 52, 53, 54, 55, 56, 57, 58, 59, 5A, 5B, 5C, 5D, 5E, 5F, 60, 61, 62, 63, 64, 65, 66, 67, 68, 69, 6A, 6B, 6C, 6D, 6E, 6F, 70, 71, 72, 73, 74, 75, 76, 77, 78, 79, 7A, 7B, 7C, 7D, 7E, 7F, 80, 81, 82, 83, 84, 85, 86, 87, 88, 89, 8A, 8B, 8C, 8D, 8E, 8F, 90, 91, 92, 93, 94, 95, 96, 97, 98, 99, 9A, 9B, 9C, 9D, 9E, 9F, A0, A1, A2, A3, A4, A5, A6, A7, A8, A9, AA, AB, AC, AD, AE, AF, B0, B1, B2, B3, B4, B5, B6, B7, B8, B9, BA, BB, BC, BD, BE, BF, C0, C1, C2, C3, C4, C5, C6, C7, C8, C9, CA, CB, CC, CD, CE, CF, D0, D1, D2, D3, D4, D5, D6, D7, D8, D9, DA, DB, DC, DD, DE, DF, E0, E1, E2, E3, E4, E5, E6, E7, E8, E9, EA, EB, EC, ED, EE, EF, F0, F1, F2, F3, F4, F5, F6, F7, F8, F9, FA, FB, FC, FD, FE, FF	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
ONLINE	IPL時のオンライン	*SAME, *YES, *NO	オプション
MAXLENRU	要求単位の最大長	*CALC, *SAME, 241, 245, 247, 256, 497, 501, 503, 512, 768, 1009, 1015, 1024, 1280, 1536, 1792, 2048, 2304, 2560, 2816, 3072, 3328, 3584, 3840, 4096	オプション
EMLDEV	エミュレートされる入出力装置	*SAME, 3278, 3284, 3286, 3287, 3288, 3289	オプション
EMLKBD	エミュレートされるキーボード	*SAME, *UPPER, *LOWER	オプション
EMLNUMLCK	エミュレートされる数字ロック	*SAME, *YES, *NO	オプション
EMLWRKSTN	エミュレーション・ワークステーション	名前, *SAME, *ANY	オプション
ENDSSNHOST	ホストとのセッション終了	*SAME, *UNBIND, *RSHUTD	オプション
TEXT	テキスト'記述'	文字値, *SAME, *BLANK	オプション

上

装置記述 (DEVD)

装置記述の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

上

ローカル・ロケーション・アドレス (LOCADR)

この装置のローカル・ロケーション・アドレスを指定します。

有効な値の範囲は01からFFです。

***SAME**

値は変更されません。

上

IPL時のオンライン (ONLINE)

初期プログラム・ロード(IPL)時にこのオブジェクトを自動的にオンに構成変更するかどうかを指定します。

***SAME**

値は変更されません。

***YES**

この装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されます。

*NO

この装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されません。

上

要求単位の最大長 (MAXLENRU)

使用できる要求単位(RU)の最大長を指定します。

*SAME

値は変更されません。

*CALC

システムが使用に最も適した値を決定します。

これは推奨値です。

最大長要求単位

着信要求単位の最大長として使用される値(256から4096)を256の増分値で指定してください。241, 247, 497, 503, 1009, および1015の値を指定することもできますが、これらは装置がX.25ネットワークに接続されている場合にだけ有効です。

上

エミュレートされる入出力装置 (EMLDEV)

このプログラム装置項目を使用して3270データ・ストリームを送信および受信することを指定します。エミュレーション装置パラメーターは、エミュレーション装置タイプおよびエミュレーション装置データ形式から構成されています。エミュレーション装置データ形式は、送受信されるタイプ3270のデータ・ストリームの形式を指定します。タイプ3270コマンドとデータ・フロー情報が入っている20バイトまたは32バイトの共通ヘッダーは、タイプ3270データ・ストリームを送受信しようとしている入出力バッファの先頭にあります。このパラメーターが適用されるのは、SNUF通信の場合だけです。このパラメーターは、2つの値(要素)のリストとしてまたは単一値(*NONE)として指定できます。

*SAME

値は変更されません。

3278

この装置は、3278表示装置をエミュレートするために使用されます。

3284

この装置は、3284印刷装置をエミュレートするために使用されます。

3286

この装置は、3286印刷装置をエミュレートするために使用されます。

3287

この装置は、3287印刷装置をエミュレートするために使用されます。

3288

この装置は、3288印刷装置をエミュレートするために使用されます。

3289

この装置は、3289印刷装置をエミュレートするために使用されます。

上

エミュレートされるキーボード (EMLKBD)

エミュレートされる3278表示装置キーボードのタイプを指定します。このパラメーターが有効なのは、**適用業務タイプ (APPTYPE)**パラメーターに*EMLが指定されている場合だけです。

*SAME

値は変更されません。

*UPPER

3270表示装置キーボードは、大文字だけを使用してエミュレートされます。

*LOWER

3270表示装置キーボードは、大文字および小文字を使用してエミュレートされます。

上

エミュレートされる数字ロック (EMLNUMLCK)

数字入力フィールドが5250キーボードの数字データにだけ使用できるかどうかを指定します。このパラメーターに値を指定できるのは、**適用業務タイプ (APPTYPE)**パラメーターに*EMLが指定されている場合だけです。

*SAME

値は変更されません。

*NO

3270エミュレーションによって、データを数字入力フィールドに入力することができます。

*YES

3270エミュレーションによって、数字データだけを数字入力フィールドに入力することができます。有効な数字データには、0から9の数字、記号+-、.、およびブランクが入れられます。

上

エミュレーション・ワークステーション (EMLWRKSTN)

エミュレーション・ワークステーションは、エミュレーション装置を実の表示装置または印刷装置と関連付けます。装置アドレスは、そのワークステーション専用予約されます。装置が指定されないか、あるいは*ANYが指定された場合には、任意のワークステーションがエミュレーション装置を使用することができます。

*SAME

値は変更されません。

*ANY

ワークステーションはエミュレーション装置を使用することができます。

ワークステーション

このエミュレーション装置を使用するワークステーションの名前を指定してください。

上

ホストとのセッション終了 (ENDSSNHOST)

ホスト装置がホスト・システムとのセッションをどのように終了するかを指定します。ENDSSNHOSTパラメーターはいつでも変更することができ、変更後は直ちに有効となります。

*SAME

値は変更されません。

*UNBIND

ホスト装置は、IBM System i5がセッションを終了するように要求するSNAコマンドを送信します。

*RSHUTD

ホスト装置は、ホスト・システムがセッションを終了するように要求するSNAコマンドを送信します。

上

テキスト'記述' (TEXT)

*SAME

テキスト（ある場合）は変更されません。

*BLANK

テキストは指定されません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

上

例

```
CHGDEVHOST  DEVD(COMMDSP1)  EMLDEV(3286)
```

このコマンドは、COMMDSP1という名前の装置記述を、3286印刷装置をエミュレートするように変更します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF2618

装置記述&1は変更されなかった。

上

装置記述の変更(INTRA) (CHGDEVINTR)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

システム内通信装置記述の変更(CHGDEVINTR)コマンドは、システム内通信(INTRA)装置の装置記述を変更します。

制約事項: このコマンドを使用するには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
DEVVD	装置記述	名前	必須, キー, 定位置 1
ONLINE	IPL時のオンライン	*SAME, *YES, *NO	オプション
TEXT	テキスト記述	文字値, *SAME, *BLANK	オプション

上

装置記述 (DEVVD)

装置記述の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

上

IPL時のオンライン (ONLINE)

初期プログラム・ロード(IPL)時にこのオブジェクトを自動的にオンに構成変更するかどうかを指定します。

*SAME

値は変更されません。

*YES

この装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されます。

*NO

この装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されません。

テキスト'記述' (TEXT)

*SAME

テキスト（ある場合）は変更されません。

*BLANK

テキストは指定されません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

例

```
CHGDEVINTR  DEVD(TRM5292)  ONLINE(*NO)
```

このコマンドは、ONLINEパラメータを変更して、装置がIPL時に自動的にオンに構成変更されないことを示します。

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF2618

装置記述&1は変更されなかった。

装置記述の変更 (媒体ライブラリー) (CHGDEVMLB)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

装置記述 (媒体ライブラリー) 変更(CHGDEVMLB)コマンドは、媒体ライブラリー装置の装置記述を変更します。テープの詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「ストレージ・ソリューション」カテゴリを参照してください。

制約事項: このコマンドを使用するには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
DEVVD	装置記述	名前	必須, キー, 定位置 1
DEVCLS	装置クラス	*SAME, *OPT, *TAP	オプション
RSRCNAME	資源名	名前, *SAME, *NONE	オプション
ONLINE	IPL時のオンライン	*SAME, *YES, *NO	オプション
UNLOADWAIT	アンロード待機時間	文字値, *SAME, *SYSGEN	オプション
MAXDEVTIME	装置待機最大時間	文字値, *SAME, *SYSGEN	オプション
RSCALCPTY	資源割り振り優先順位	文字値, *SAME, *JOB	オプション
INLMNTWAIT	初期マウント待機時間	文字値, *SAME, *JOB, *IMMED, *NOMAX	オプション
EOVMNTWAIT	ボリューム・マウント終了待機時間	文字値, *SAME, *JOB, *IMMED, *NOMAX	オプション
GENCTGID	カートリッジID生成	*SAME, *VOLID, *SYSGEN	オプション
ROBOTDEV	ロボット装置記述	単一値: *SAME, *NONE その他の値 (最大 2 回の繰り返し): 名前	オプション
ROBOTHOST	ロボット・ホスト	単一値: *SAME, *NONE その他の値 (最大 2 回の繰り返し): 文字値	オプション
LCLINTNETA	ローカルIPアドレス	文字値, *SAME, *NONE	オプション
MSGQ	MSG 待ち行列	単一値: *SAME, *SYSOPR その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: MSG 待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
TEXT	テキスト'記述'	文字値, *SAME, *BLANK	オプション

上

装置記述 (DEVVD)

装置記述の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

装置クラス (DEVCLS)

作成する媒体ライブラリーのクラスを指定します。

*SAME

値は変更されません。

*OPT

装置は光ディスク媒体ライブラリーです。

*TAP

装置はテープ媒体ライブラリーです。

資源名 (RSRCNAME)

記述が表すハードウェアを識別する資源名を指定します。

*SAME

値は変更されません。

*NONE

資源名は指定されません。 装置をオンに変更する前に、資源名を提供しなければなりません。

資源名

システムの媒体ライブラリー装置ハードウェアを識別する名前を指定してください。

注: 資源名を確認するためには、TYPE(*STG)を指定したハードウェア資源処理(WRKHDWRSC)コマンドを使用してください。

IPL時のオンライン (ONLINE)

初期プログラム・ロード(IPL)時にこのオブジェクトを自動的にオンに構成変更するかどうかを指定します。

*SAME

値は変更されません。

*YES

この装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されます。

***NO**

この装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されません。

上

アンロード待機時間 (UNLOADWAIT)

使用可能なドライブに対する未処理の要求がある場合に、ボリュームをアンロードする前にシステムがマウントされたボリュームを使用する別の要求を待機する時間を指定します。

注: このパラメーターが有効となるのは、DEVCLS(*OPT)が指定された場合だけです。

***SAME**

値は変更されません。

***SYSGEN**

システムの省略時の値が使用されます。

アンロード待機時間

待機する秒数を指定してください。有効な値の範囲は1から120です。

上

装置待機最大時間 (MAXDEVTIME)

他のボリュームに対する要求がある場合に、ボリュームを内部装置にマウントしたままにしておくことができる最大分数を指定します。

注: このパラメーターが有効なのは、DEVCLS(*OPT)が指定された場合だけで、*DEVCLS(*TAP)が指定された場合は無視されます。

***SAME**

値は変更されません。

***SYSGEN**

システムの省略時の値が使用されます。

これにより、ライブラリー装置のユーザーごとに同じ値を指定するのではなく、ライブラリー装置ユーザーごとに装置最大待機時間を指定することができます。

***NOMAX**

要求は、テープ資源が使用可能になるまで待機します。

注: このパラメーターは、テープ装置の場合にのみ有効です。

最大装置時間

光ディスク装置の場合に、ボリュームをマウントしたままにしておくことができる時間（分数）を指定してください。有効な値の範囲は1から60です。テープ装置の場合に、要求でテープ資源の割り振りが待機される時間（分数）を指定してください。有効な値の範囲は1から600です。

上

資源割り振り優先順位 (RSCALCPTY)

資源割り振りの優先順位を指定します。

注: このパラメーターが有効なのは、DEVCLS(*TAP)が指定された場合だけです。

*SAME

値は変更されません。

*JOB

資源割り振りの優先順位としてジョブの優先順位が使用されます。

資源割り振り優先順位

資源の要求時にこのジョブが指定される優先順位を指定してください。有効な値の範囲は1（最高）から99（最低）までです。

上

初期マウント待機時間 (INLMNTWAIT)

要求が初期マウントのテープ資源の割り振りを待機する最大時間を指定します。

注: このパラメーターが有効なのは、DEVCLS(*TAP)が指定された場合だけです。

*SAME

値は変更されません。

*JOB

割り振り待機時間は、割り振りを要求しているジョブの省略時の待機時間属性によって判別され、分単位に切り上げられます。

*IMMED

この要求はテープ資源が使用可能になるのを待機しません。

*NOMAX

この要求はテープ資源が使用可能になるまで待機します。

初期マウント待機時間

要求がテープ資源の割り振りを待機する分数を指定してください。有効な値の範囲は1から600分です。

上

ボリューム・マウント終了待機時間 (EOVMNTWAIT)

要求が、ボリュームのマウントが終わるまでの間、テープ資源の割り振りを待機する最大時間を指定します。

注: このパラメーターが有効なのは、DEVCLS(*TAP)が指定された場合だけです。

*SAME

値は変更されません。

*JOB

割り振り待機時間は、割り振りを要求しているジョブの省略時の待機時間属性によって判別され、分単位に切り上げられます。

*IMMED

この要求はテープ資源が使用可能になるのを待機しません。

ボリューム・マウント待機時間の終わり

要求がテープ資源の割り振りを待機する分数を指定してください。有効な値の範囲は1から600分です。

上

カートリッジID生成 (GENCTGID)

バー・コード読み取り機能なしでテープ・ライブラリーのそれぞれのボリュームにカートリッジIDを割り当てる方法を指定します。

注: このパラメーターが有効なのは、DEVCLS(*TAP)が指定された場合だけです。

*SAME

値は変更されません。

*VOLID

カートリッジIDとしてボリュームIDを使用するように指定します。カートリッジIDは、それぞれのボリュームをマウントしてボリュームIDを読み取ることによって割り当てることができます。

*SYSGEN

システムがそれぞれのボリュームのカートリッジIDを生成するように指定します。システム生成のIDを使用する場合には、テープ操作に生成されたカートリッジIDを使用しなければなりません。カートリッジIDは、SLT001, SLT002, SLT003などの形式で順次に割り当てられます。

上

ロボット装置記述 (ROBOTDEV)

別のロボットでライブラリー装置のロボットを表す装置記述の名前を指定します。

注: このパラメーターが有効なのは、DEVCLS(*TAP)が指定された場合だけです。

*SAME

値は変更されません。

*NONE

ロボット装置の装置記述は指定されません。

ロボット装置記述

指定された装置記述が使用されます。

上

ロボット・ホスト (ROBOTHOST)

TCP/IPホスト名またはロボット・ライブラリー・マネージャーのIPアドレスを指定します。最大2つまでのロボット・ライブラリー・マネージャーを指定できます。

注: このパラメーターが有効なのは、DEVCLS(*TAP)が指定された場合だけです。

*SAME

値は変更されません。

*NONE

この時点ではロボット・ホストは指定されません。

ホスト名

指定されたロボット・ライブラリー・マネージャーの名前。ロボット・ホスト名またはドメイン修飾ロボット・ホスト名を入力することによって、ロボット・ホスト名が入力されます。ドメイン修飾ロボット・ホスト名には、255バイトまで入力できます。

ホストIPアドレス

指定されたロボット・ライブラリー・マネージャーのアドレス。IPアドレスは、DDD.DDD.DDD.DDDの形式でなければなりません。ここでDDDは0から255の範囲の10進数です。この10進数には、先行ゼロを入れないでください。ホストIPアドレスをコマンド入力行から入力する場合には、そのアドレスをアポストロフィで囲む必要があります。

ローカルIPアドレス (LCLINTNETA)

ロボット・ライブラリー・マネージャーに接続しているインターフェースのローカルIPアドレスを指定します。これは、テープ媒体ライブラリーを使用するためにTCP/IPを開始する必要があるときにオペレーティング・システムが開始するインターフェースです。

注: このパラメーターが有効なのは、DEVCLS(*TAP)が指定された場合だけです。

*SAME

値は変更されません。

*NONE

この時点ではTCP/IPアドレスは指定されません。

ローカルIPアドレス

開始するローカルIPアドレスを指定してください。IPアドレスは、DDD.DDD.DDD.DDDの形式でなければなりません。ここでDDDは0から255の範囲の10進数です。この10進数には、先行ゼロを入れないでください。ローカルIPアドレスをコマンド入力行から入力する場合には、そのアドレスをアポストロフィで囲まなければなりません。

MSG 待ち行列 (MSGQ)

この装置に対する操作メッセージが送られるメッセージ待ち行列を指定します。

*SAME

値は変更されません。

*SYSOPR

メッセージがQSYSのQSYSOPRメッセージ待ち行列に送られます。

メッセージ待ち行列名

操作メッセージが送られるメッセージ待ち行列の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

*LIBL 最初に一致するものが見つかるまで、ジョブのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

テキスト'記述' (TEXT)

*SAME

テキスト（ある場合）は変更されません。

*BLANK

テキストは指定されません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

上

例

```
CHGDEVMLB  DEVD(LIB01)  ONLINE(*NO)
```

このコマンドは、LIB01という名前の媒体ライブラリー装置の装置記述を変更します。この装置は、IPL時に自動的にオンに構成変更されないように変更されます。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF2618

装置記述&1は変更されなかった。

上

装置記述の変更(ネットワーク) (CHGDEVNET)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ネットワーク装置記述の変更(CHGDEVNET)コマンドは、ネットワーク装置の装置記述を変更します。

制約事項: このコマンドを使用するには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
DEVN	装置記述	名前	必須, キー, 定位置 1
ONLINE	IPL時のオンライン	*SAME, *YES, *NO	オプション
TEXT	テキスト記述	文字値, *SAME, *BLANK	オプション

上

装置記述 (DEVN)

装置記述の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

上

IPL時のオンライン (ONLINE)

初期プログラム・ロード(IPL)時にこのオブジェクトを自動的にオンに構成変更するかどうかを指定します。

*SAME

値は変更されません。

*YES

この装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されます。

*NO

この装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されません。

テキスト'記述' (TEXT)

*SAME

テキスト（ある場合）は変更されません。

*BLANK

テキストは指定されません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

例

```
CHGDEVNET  DEVD(NETDEV02)  ONLINE(*NO)
```

このコマンドは、NETDEV02という名前のネットワーク装置の装置記述を、装置がIPL時に自動的にオンに構成変更されないように変更します。

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF2618

装置記述&1は変更されなかった。

装置記述の変更(NWSH) (CHGDEVNWSH)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

装置記述の変更(NWSH) (CHGDEVNWSH)コマンドは、ネットワーク・サーバー・ホスト・アダプター (NWSH)装置の装置記述を変更します。

制約事項: このコマンドを使用するには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
DEVDD	装置記述	名前	必須, キー, 定位置 1
RSRCNAME	資源名	名前, *SAME	オプション
LCLIFC	ローカル (ターゲット) インターフェース	単一値: *SAME その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: サブネット・マスク	文字値	
	要素 2: ポート速度	*AUTO	
	要素 3: 二重	*AUTO	
	要素 4: ローカル SCSI インターフェース	要素リスト	
	要素 1: IPアドレス	文字値	
	要素 2: ゲートウェイ・アドレス	文字値, *NONE	
	要素 3: SCSI TCPポート	1024-65535, 860	
	要素 5: ローカル LAN インターフェース	要素リスト	
	要素 1: IPアドレス	文字値	
	要素 2: ゲートウェイ・アドレス	文字値, *NONE	
	要素 3: 仮想イーサネット基本UDP ポート	1024-65471	
	要素 6: ケーブル接続	*NETWORK, *DIRECT	
ONLINE	IPL時のオンライン	*SAME, *NO, *YES	オプション
MSGQ	MSG 待ち行列	単一値: *SAME, *SYSOPR その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: MSG 待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
CMNRCYLMT	回復限界	単一値: *SAME, *SYSVAL その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: カウント限界	0-99	
	要素 2: 時間間隔	0-120	
TEXT	テキスト記述	文字値, *SAME, *BLANK	オプション

上

装置記述 (DEVD)

装置記述の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

上

資源名 (RSRCNAME)

ディスクの集合が認識される補助記憶域プール(ASP)を識別する資源名を指定します。

資源名を決定するには、TYPEパラメーターに*CMNを指定したハードウェア資源処理(WRKHDWRSC)コマンドを使用します。

*SAME

値は変更されません。

名前

ネットワーク・サーバー・ホスト・アダプターの資源名を指定してください。

上

ローカル (ターゲット) インターフェース (LCLIFC)

ネットワーク・サーバー・ホスト・アダプターのローカル(ターゲット)インターフェースを指定します。これは、サブネット・マスク、ポート速度、両面印刷、ローカルのSmall Computer System Interface (SCSI)構成、ローカルのローカル・エリア・ネットワーク(LAN)構成、およびケーブル接続のタイプで構成されています。

単一値

*SAME

値は変更されません。

要素1: サブネット・マスク

文字値

ローカル・インターフェースと関連したサブネット・マスクを指定してください。サブネットの概要については、*TCP/IP FASTPATH SETUP*ブックを参照してください。

サブネット化は、インターネット・ドメインを区分する機能を提供します。サブネットを定義するIPアドレスのネットワーク・サブネット・フィールドおよびホスト・アドレス・フィールドのマスクを指定してください。サブネット・マスクはNNN.NNN.NNN.NNNという形式です。ここで、NNNは、0から255の範囲の10進数です。サブネット・マスクは、IPアドレスのネットワーク・クラスのネットワークID部分のすべてのビットをオフでマスクしなければなりません。例えば、サブネット・マスク255.255.255.0は、IPアドレス（これは指定されます）のネットワーク部分のすべてのピ

ットおよびIPアドレスの3バイト目のすべてのビットから構成される、クラスBサブネットを定義します。サブネット・マスクをコマンド入力行から入力する場合には、これをアポストロフィで囲まなければなりません。

要素2: ポート速度

このローカル・インターフェースによって示される物理ポートの速度を指定します。

*AUTO

ハードウェアは自動的にポート速度を決定します。

要素3: 二重

このローカル・インターフェースによって示される物理ポートによって使用される両面印刷モードを指定します。

*AUTO

ハードウェアは自動的に両面印刷を決定します。

要素4: ローカル SCSI インターフェース

ローカルSCSIインターフェース構成を指定します。

要素1: IPアドレス

文字値

ネットワーク・サーバー・ホスト・アダプター上のSCSIインターフェースが応答する先のローカルIPアドレスを指定してください。IPアドレスは、*NNN.NNN.NNN.NNN*の形式で指定します。ここで、*NNN*は0から255の範囲の10進数です。ネットワークID (ID)部分またはホストID部分がすべて1またはすべて0の2進数値であるIPアドレスは無効です。選択するIPアドレスは、15/OS TCP/IP構成に渡って固有でなければなりません。ローカルIPアドレスをコマンド入力行から入力する場合には、そのアドレスをアポストロフィで囲まなければなりません。

要素2: ゲートウェイ・アドレス

*NONE

ゲートウェイ・アドレスはありません。

文字値

SCSIインターフェースと関連したIPアドレスの省略時ゲートウェイ・アドレスをDDD.DDD.DDD.DDDの形式で指定してください。ここで、DDDは0から255の範囲の10進数です。コマンド入力行からゲートウェイ・アドレスを入力する場合には、そのアドレスをアポストロフィで囲まなければなりません。

要素3: SCSI TCPポート

ポート番号

ローカルSCSIインターフェースがiSCSIトラフィックでLISTENするローカルSCSI TCPポートを指定します。ローカルSCSIインターフェースIPアドレスおよびTCPポートがともにiSCSIターゲット・ポータルを定義します。INTERNET ASSIGNED NUMBERS AUTHORITY (IANA)によって割り当てられたiSCSI接続の既知のTCPポート番号は3260であり、これが省略時のiSCSIポート番号です。iSCSIシステム・ポートとしてIANAによって割り当てられたTCPポートは860です。有効な値は860で、範囲は1024から65535です。

要素5: ローカル LAN インターフェース

ローカルLANインターフェース構成を指定します。

要素1: IPアドレス

文字値

ネットワーク・サーバー・ホスト・アダプター上のSCSIインターフェースが応答する先のローカルIPアドレスを指定してください。IPアドレスは、NNN.NNN.NNN.NNNの形式で指定します。ここで、NNNは0から255の範囲の10進数です。ネットワークID (ID)部分またはホストID部分がすべて1またはすべて0の2進数値であるIPアドレスは無効です。選択するIPアドレスは、i5/OS TCP/IP構成に渡って固有でなければなりません。ローカルIPアドレスをコマンド入力行から入力する場合には、そのアドレスをアポストロフィで囲まなければなりません。

要素2: ゲートウェイ・アドレス

*NONE

ゲートウェイ・アドレスはありません。

文字値

LANインターフェースと関連したIPアドレスの省略時ゲートウェイ・アドレスをDDD.DDD.DDD.DDDの形式で指定してください。ここで、DDDは0から255の範囲の10進数です。コマンド入力行からゲートウェイ・アドレスを入力する場合には、そのアドレスをアポストロフィで囲まなければなりません。

要素3: 仮想イーサネット基本UDP ポート

1024から65471

ローカルLANインターフェースがリモート・サーバーとの仮想イーサネット通信で使用する、最も小さい番号が付いたユーザー・データグラム・プロトコル(UDP)ポートを指定します。仮想イーサネット通信は、UDPパケットにカプセル化されます。各仮想イーサネット・アダプターは、指定した基本ポート番号から基本ポート番号に構成済み仮想イーサネット・アダプターの数を足した数値までの範囲から、自動的にUDPポートが割り当てられます。

要素6: ケーブル接続

このローカル・インターフェースで 사용되는ケーブル接続のタイプを指定します。

***NETWORK**

このローカル・インターフェースのケーブルは、ネットワークに接続されます。

***DIRECT**

このローカル・インターフェースのケーブルは、リモート・システムのインターフェースに直接接続されます。

上

IPL時のオンライン (ONLINE)

初期プログラム・ロード(IPL)時にこのオブジェクトを自動的にオンに構成変更するかどうかを指定します。

***SAME**

値は変更されません。

***YES**

この装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されます。

***NO**

この装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されません。

上

MSG 待ち行列 (MSGQ)

この装置に対する操作メッセージが送られるメッセージ待ち行列を指定します。

単一値

*SAME

値は変更されません。

*SYSOPR

メッセージは、システム操作員メッセージ待ち行列(QSYS/QSYSOPR)に送られます。

修飾子1: MSG 待ち行列

名前

操作メッセージが送られるメッセージ待ち行列の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

*LIBL

最初に一致するものが見つかるまで、ジョブのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前

検索するライブラリーの名前を指定してください。

上

回復限界 (CMNRCYLMT)

この装置記述で使用する通信回復限界を指定します。

単一値

*SAME

値は変更されません。

*SYSVAL

システム値QCMNRCYLMTに指定された回復限界が使用されます。

要素1: カウント限界

0から99

システムによって実行される回復の試みの回数を指定します。

要素2: 時間間隔

0から120

回復の試みが行なわれるまでの時間（分数）を指定してください。

上

テキスト'記述' (TEXT)

*SAME

テキスト（ある場合）は変更されません。

*BLANK

テキストは指定されません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

上

例

```
CHGDEVNWSH  DEVD(DEVNWSH)  MSGQ(NWSHLIB/NWSHMSGQ)
```

このコマンドは、DEVNWSHという名前のネットワーク・サーバー・ホスト・アダプター装置の操作メッセージがライブラリーNWSHLIB中のメッセージ待ち行列NWSHMSGQに送信されるよう、この装置の装置記述を変更します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF2618

装置記述&1は変更されなかった。

上

装置記述の変更（光ディスク）(CHGDEVOPT)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

装置記述（光ディスク）変更(CHGDEVOPT)コマンドは、光ディスク装置の装置記述を変更します。

制約事項: このコマンドを使用するには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
DEV D	装置記述	名前	必須, キー, 定位置 1
RSRCNAME	資源名	名前, *SAME, *NONE	オプション
LCLINTNETA	ローカルIPアドレス	*SAME, *NONE, *SRVLAN	オプション
RMTINTNETA	リモートIPアドレス	文字値, *SAME	オプション
NETIMGDIR	ネットワーク・イメージ・ディレクトリー	パス名, *SAME	オプション
UID	ユーザーID番号	0-4294967295, *SAME	オプション
GID	グループID番号	0-4294967295, *SAME	オプション
ONLINE	IPL時のオンライン	*SAME, *YES, *NO	オプション
MSGQ	MSG 待ち行列	単一値: *SAME, *SYSOPR その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: MSG 待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
TEXT	テキスト記述	文字値, *SAME, *BLANK	オプション

上

装置記述 (DEV D)

装置記述の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

上

資源名 (RSRCNAME)

記述が表すハードウェアを識別する資源名を指定します。

*SAME

値は変更されません。

*NONE

資源名は指定されません。 装置をオンに変更する前に、資源名を提供しなければなりません。

資源名

システムの光ディスク装置ハードウェアを識別する名前を指定してください。

注: 資源名を確認するためには、TYPE(*STG)を指定したハードウェア資源処理(WRKHDWRSC)コマンドを使用してください。

上

ローカルIPアドレス (LCLINTNETA)

仮想イメージ・ファイルをネットワーク上で使用する際にリモート・システムとの通信に使用されるTCP/IPインターフェースを指定します。

注: 資源名 (RSRCNAME)パラメーターに*NONEが指定されている場合には、このパラメーターは無効です。

*SAME

値は変更されません。

*NONE

インターネット・アドレスは指定されません。この値を指定すると、ネットワーク仮想イメージ・ファイルを使用できなくなります。

*SRVLAN

保守ツール・サーバーまたはオペレーション・コンソール(LAN)で定義された値が指定されます。

上

リモートIPアドレス (RMTINTNETA)

この仮想光ディスク装置が仮想イメージ・ファイルを検索する、ネットワーク・ファイル・システム(NFS)サーバーのリモートIPアドレスを指定します。

注: ローカルIPアドレス (LCLINTNETA)パラメーターに*SRVLANが指定されている場合、このパラメーターに値が必要です。

*SAME

値は変更されません。

文字値

IPアドレスは、*NNN.NNN.NNN.NNN*の形式で指定します。ここで、*NNN*は0から255の範囲の10進数です。小数点付き10進数のIPアドレスの各パートの先行ゼロは無効となり、除去されることとなります。IPアドレスは、そのアドレスのネットワークID (ID)部分またはホストID部分がすべて2進数の1にまたは0になっている場合には正しくありません。コマンド入力行からIPアドレスを入力する場合には、そのアドレスをアポストロフィで囲まなければなりません。

上

ネットワーク・イメージ・ディレクトリー (NETIMGDIR)

この装置で使用するために準備された仮想イメージ・ファイルを格納しているネットワーク・ファイル・システム(NFS)サーバーのネットワーク・パスを指定します。

注: ローカルIPアドレス (**LCLINTNETA**)パラメーターに*SRVLANが指定されている場合、このパラメーターに値が必要です。

*SAME

値は変更されません。

パス名

仮想イメージ・ファイルを格納しているNFSサーバーのネットワーク・パスを指定します。最大127文字を指定することができます。

上

ユーザーID番号 (UID)

ネットワーク・ファイル・システム(NFS)サーバーのリモート・ユーザー・プロファイルのID番号を指定します。

注: このパラメーターが有効となるのは、ローカルIPアドレス **LCLINTNETA**パラメーターに*SRVLANが指定された場合のみです。

*SAME

値は変更されません。

0-4294967295

NFSサーバーのリモート・ユーザー・プロファイルのID番号を指定します。

上

グループID番号 (GID)

ネットワーク・ファイル・システム(NFS)サーバーのリモート・グループ・プロファイルのID番号を指定します。

注: このパラメーターが有効となるのは、ローカルIPアドレス LCLINTNETAパラメーターに*SRVLANが指定された場合のみです。

*SAME

値は変更されません。

0-4294967295

NFSサーバーのリモート・グループ・プロファイルのID番号を指定します。

上

IPL時のオンライン (ONLINE)

初期プログラム・ロード(IPL)時にこのオブジェクトを自動的にオンに構成変更するかどうかを指定します。

注: このパラメーターの値は、ローカルIPアドレス LCLINTNETAパラメーターに*SRVLAN が指定されている場合は*NOに設定されます。

*SAME

値は変更されません。

***YES**

この装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されます。

***NO**

この装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されません。

上

MSG 待ち行列 (MSGQ)

この装置に対する操作メッセージが送られるメッセージ待ち行列を指定します。

単一値

*SAME

値は変更されません。

***SYSOPR**

メッセージは、システム操作員メッセージ待ち行列(QSYS/QSYSOPR)に送られます。

修飾子1: MSG 待ち行列

名前

操作メッセージが送られるメッセージ待ち行列の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL**

最初に一致するものが見つかるまで、ジョブのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前

検索するライブラリーの名前を指定してください。

上

テキスト'記述' (TEXT)

***SAME**

テキスト（ある場合）は変更されません。

***BLANK**

テキストは指定されません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

上

例

```
CHGDEVOPT  DEVD(OPT01)  ONLINE(*YES)
```

このコマンドは、OPT01という名前の光ディスク装置の装置記述を、装置がIPL時に自動的にオンに構成変更されるように変更します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF2618

装置記述&1は変更されなかった。

上

装置記述の変更（印刷装置）(CHGDEVPRT)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

印刷装置記述の変更(CHGDEVPRT)コマンドにより、印刷装置の装置記述が変更されます。

制約事項: このコマンドを使用するには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
DEVD	装置記述	名前	必須, キー, 定位置 1
SWTLINLST	交換回線リスト	値 (最大 8 回の繰り返し): 名前, *SAME, *NONE	オプション
ADPTADR	LAN リモート・アダプター・アドレス	000000000001-FFFFFFFFFFFFE, *SAME	オプション
ADPTTYPE	アダプター・タイプ	*SAME, *INTERNAL, *EXTERNAL	オプション
ADPTCNNTYP	アダプター接続タイプ	*SAME, *PARALLEL, *SERIAL	オプション
AFP	拡張機能の印刷	*SAME, *YES, *NO	オプション
PORT	ポート番号	0-65535, *SAME	オプション
SWTSET	スイッチの設定値	0-6, *SAME	オプション
LOCADR	ローカル・ロケーション・アドレス	00-FE, *SAME	オプション
ONLINE	IPL時のオンライン	*SAME, *YES, *NO	オプション
LNGTYPE	言語タイプ	*SAME, *SYSVAL, AGB, AGI, ALI, BGB, BLI, BRB, CAB, CAI, CLB, CSB, CYB, DMB, DMI, ESB, FAB, FAI, FNB, FNI, GKB, GNB, HNB, ICB, ICI, IRB, ITB, ITI, JPB, LTB, LVB, MKB, NCB, NEB, NEI, NWB, NWI, PKB, PLB, PRB, PRI, RMB, ROB, RUB, SFI, SGI, SKB, SPB, SPI, SQB, SSB, SSI, SWB, SWI, THB, TKB, TRB, UAB, UKB, UKI, USB, USI, YGI	オプション
PRTQLTY	印刷品質	*SAME, *STD, *DRAFT, *NLQ	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
FONT	フォント	要素リスト	オプション
	要素 1: 識別コード	文字値, <u>*SAME</u> , 2, 3, 5, 8, 10, 11, 12, 13, 18, 19, 20, 21, 25, 26, 30, 31, 38, 39, 40, 41, 42, 43, 44, 46, 49, 50, 51, 52, 55, 61, 62, 63, 66, 68, 69, 70, 71, 72, 74, 75, 76, 80, 84, 85, 86, 87, 91, 92, 95, 96, 98, 99, 101, 102, 103, 109, 110, 111, 112, 154, 155, 157, 158, 159, 160, 162, 163, 164, 167, 168, 173, 174, 175, 178, 179, 180, 181, 182, 183, 186, 187, 188, 189, 190, 191, 194, 195, 204, 205, 211, 212, 221, 222, 223, 225, 226, 229, 230, 232, 233, 234, 244, 245, 247, 248, 249, 252, 253, 254, 255, 256, 258, 259, 279, 281, 282, 285, 290, 300, 400, 434, 435, 751, 752, 753, 754, 755, 756, 757, 758, 759, 760, 761, 762, 763, 764, 765, 1051, 1053, 1056, 1351, 1653, 1803, 2103, 4407, 4427, 4535, 4919, 4939, 5047, 5067, 5687, 5707, 5815, 5835, 5943, 6199, 6219, 6327, 6347, 8503, 8523, 8631, 8651, 8759, 8779, 8887, 8907, 12855, 12875, 16951, 16971, 17079, 17099, 33335, 33355, 33463, 33483, 33591, 33601, 33719, 33729, 34103, 34123, 34231, 34251, 37431, 41783, 41803	
	要素 2: ポイント・サイズ	0.1-999.9, <u>*SAME</u> , *NONE	
FORMFEED	用紙送り	<u>*SAME</u> , *TYPE, *CONT, *CONT2, *CUT, *AUTOCUT	オプション
SEPDRAWER	区切り用紙入れ	1-255, <u>*SAME</u> , *FILE	オプション
SEPPGM	セパレーター・プログラム	単一値: <u>*SAME</u> , *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: セパレーター・プログラム	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	
NBRDRAWER	用紙入れの数	<u>*SAME</u> , 1, 2, 3	オプション
PRTERMSG	印刷装置エラー・メッセージ	<u>*SAME</u> , *INQ, *INFO	オプション
MSGQ	MSG 待ち行列	単一値: <u>*SAME</u> , *CTLD, *SYSOPR その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: MSG 待ち行列	名前, QSYSOPR	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
MAXLENRU	要求単位の最大長	*SAME, *CALC, 241, 245, 247, 256	オプション
ACTTMR	活動化タイマー	1-2550, *SAME, *NOMAX	オプション
INACTTMR	非活動タイマー	1-30, *SAME, *ATTACH, *NOMAX, *SEC15, *SEC30	オプション
SNPTDEV	SNAパススルー装置記述	名前, *SAME, *NONE	オプション
SNPTGRP	SNAパススルー・グループ名	名前, *SAME, *NONE	オプション
LOGON	ホスト・サイン・オン/ログオン・コマンド	文字値, *SAME, *NONE	オプション
PACING	ペーシング	1-7, *SAME	オプション
LINESPEED	回線速度	*SAME, *TYPE, 150, 300, 600, 1200, 1800, 2400, 3600, 4800, 7200, 9600, 19200, 38400	オプション
WORDLEN	語の長さ	*SAME, *TYPE, 7, 8	オプション
PARITY	パリティのタイプ	*SAME, *TYPE, *EVEN, *ODD, *NONE, *MARK, *SPACE	オプション
STOPBITS	停止ビット	*SAME, *TYPE, 1, 2	オプション
TRANSFORM	ホスト印刷の変換	*SAME, *NO, *YES	オプション
MFRTYPMDL	メーカー・タイプ, 型式	文字値, *SAME	オプション
PPSRC1	用紙入れ 1	*SAME, *MFRTYPMDL, *LETTER, *LEGAL, *EXECUTIVE, *LEDGER, *A3, *A4, *A5, *B4, *B5, *CONT80, *CONT132, *NONE	オプション
PPSRC2	用紙入れ 2	*SAME, *MFRTYPMDL, *LETTER, *LEGAL, *EXECUTIVE, *LEDGER, *A3, *A4, *A5, *B4, *B5, *CONT80, *CONT132, *NONE	オプション
ENVELOPE	エンベロープ・ソース	*SAME, *MFRTYPMDL, *MONARCH, *NUMBER9, *NUMBER10, *B5, *C5, *DL, *NONE	オプション
ASCII899	ASCII コード・ページ 899 サポート	*SAME, *NO, *YES	オプション
IMGCFG	イメージ構成	文字値, *SAME, *NONE	オプション
MAXPNDRQS	保留中要求の最大数	1-31, *SAME	オプション
PRTCVT	変換中の印刷	*SAME, *YES, *NO	オプション
PRTRQSTMR	印刷要求タイマー	1-3600, *SAME, *NOMAX	オプション
FORMDF	書式定義	単一値: *SAME その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 書式定義	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
CHRID	文字識別コード	単一値: *SAME, *SYSVAL その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: グラフィック文字セット	1-32767	
	要素 2: コード・ページ	1-32767	

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
RMTLOCNAME	リモート・ロケーション	要素リスト	オプション
	要素 1: 名前またはアドレス	文字値, <u>*SAME</u>	
LCLLOCNAME	ローカル・ロケーション	通信名, <u>*SAME</u> , *NETATR	オプション
MODE	モード	通信名, <u>*SAME</u> , QSPWTR, *NETATR	オプション
IGCFEAT	DBCS機能	単一値: <u>*SAME</u> その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 装置の機構	文字値	
	要素 2: 最終コード・ポイント	4141-FFFE	
USRDFNOPT	ユーザー定義オプション	値 (最大 4 回の繰り返し): 文字値, <u>*SAME</u> , *NONE	オプション
USRDFNOBJ	ユーザー定義オブジェクト	単一値: <u>*SAME</u> , *NONE その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: オブジェクト	修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: オブジェクト	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	
	要素 2: オブジェクト・タイプ	*DTAARA, *DTAQ, *FILE, *USRIDX, *PSFCFG, *USRQ, *USRSPC	
USRDTATFM	データ変換プログラム	単一値: <u>*SAME</u> , *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: データ変換プログラム	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	
USRDRVPGM	ユーザー定義ドライバー・プログラム	単一値: <u>*SAME</u> , *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ユーザー定義ドライバー・プログラム	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	
SYSDRVPGM	システム・ドライバー・プログラム	文字値, <u>*SAME</u>	オプション
SECURECNN	保護接続	<u>*SAME</u> , *NO, *YES	オプション
VLDL	妥当性検査リスト	単一値: <u>*SAME</u> , *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 妥当性検査リスト	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
PUBLISHINF	出版情報	要素リスト	オプション
	要素 1: 両面印刷のサポート	*SAME, *SIMPLEX, *DUPLEX, *UNKNOWN	
	要素 2: サポート・カラー	*SAME, *NOCOLOR, *COLOR, *UNKNOWN	
	要素 3: 当たりページ数, 黒	1-32767, *SAME, *UNKNOWN	
	要素 4: 当たりページ数, カラー	1-32767, *SAME, *UNKNOWN	
	要素 5: ロケーション	文字値, *SAME, *BLANK	
	要素 6: サポートのデータ・ストリーム	単一値: *SAME, *UNKNOWN その他の値 (最大 5 回の繰り返し): *PCL, *PS, *PDF, *IPDS, *SCS	
TEXT	テキスト記述	文字値, *SAME, *BLANK	オプション
RMTNETID	リモート・ネットワーク識別コード	通信名, *SAME, *NETATR, *NONE	オプション
WSCST	ワークステーション・カスタマイズ・オブジェクト	単一値: *SAME, *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ワークステーション・カスタマイズ・オブジェクト	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	

上

装置記述 (DEVD)

装置記述の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

上

DEVCLS(*LAN)およびLANATTACH(*LEXLINK)またはLANATTACH(*USRDFN)が指定されている時に印刷装置が関連付けられる交換回線の名前を指定します。この印刷装置と関連付けることのできる交換回線のタイプは、直接フレーム・リレー、トークンリング、イーサネットIEEE 802.3,およびすべての標準が指定されたイーサネットです。

*SAME

値は変更されません。

*NONE

交換回線は指定されません。

交換回線

交換回線の名前を指定してください。最大8本の交換回線を指定することができます。

LAN リモート・アダプター・アドレス (ADPTADR)

DEVCLS(*LAN)およびLANATTACH(*LEXLINK)またはLANATTACH(*USRDFN)が指定されている時に、リモート印刷装置のLANアドレスを指定します。

*SAME

値は変更されません。

印刷装置アドレス

リモート印刷装置の12桁の16進数LANアドレスを指定してください。有効な値の範囲は000000000001からFFFFFFFFFFEです。

アダプター・タイプ (ADPTTYPE)

DEVCLS(*LAN)およびLANATTACH(*LEXLINK)またはLANATTACH(*USRDFN)が指定されている時に使用されるLAN印刷装置アダプターのタイプを指定します。

*SAME

値は変更されません。

*INTERNAL

印刷装置は内部LANアダプター・カードをもっています。

*EXTERNAL

印刷装置は内部LANアダプター・カードをもっています。

アダプター接続タイプ (ADPTCNTYP)

DEVCLS(*LAN)およびADPTTYPE(*EXTERNAL)が指定された時に、外部LAN印刷装置アダプターによってサポートされているポートのタイプを指定します。

注: ADPTTYPE(*INTERNAL)を指定した時には、このパラメーターは無視されます。

*SAME

値は変更されません。

*PARALLEL

LAN印刷装置アダプターは1つまたは複数の並行ポートをサポートしています。

*SERIAL

LAN印刷装置アダプターは1つまたは複数のシリアル・ポートをサポートしています。

上

拡張機能の印刷 (AFP)

この印刷装置が高機能印刷を行うかどうかを指定します。たいていのIPDS印刷装置は、AFP(*YES)またはAFP(*NO)のどちらでも構成できます。たいていの非IPDS印刷装置は、構成できるのはAFP(*NO)だけです。このパラメーターが使用されるのは、**装置クラス (DEVCLS)**パラメーターで*LCL, *RMT,または*LANが指定され、**装置タイプ (TYPE)**で*IPDSが指定されている場合だけです。

*SAME

値は変更されません。

***NO**

この印刷装置は拡張機能の印刷に使用されません。

***YES**

この印刷装置は拡張機能の印刷に使用されます。

上

ポート番号 (PORT)

印刷装置のポート番号を指定します。有効な値の範囲は0から65535です。印刷装置によっては、有効な値の範囲はさらに制限される場合があります。

平衡型接続印刷装置の場合:有効な値の範囲は0から7です。

TCP/IPネットワークに接続された印刷装置の場合は、DEVCLS(*LAN), TYPE(3812),およびLANATTACH(*IP)は次のように指定されます。

注: 装置がSIMPLE NETWORK MANAGEMENT PROTOCOL (SNMP), SYSDRVPGM(*IBMSNMPDRV)またはHP印刷装置ジョブ言語(PJL), SYSDRVPGM(*IBMPJLDRV)をサポートしている場合には、装置の資料を参照するか、あるいはポート番号の判別を装置メーカーに依頼してください。

装置がINTERNET PRINTING PROTOCOL (IPP), SYSDRVPGM(*IBMIPPDRV)をサポートしている場合には、周知のポート番号は631です。

ASCII端末制御装置に接続する印刷装置の場合: 有効な値は0から17の範囲であり、印刷装置が接続されるASCII端末制御装置のポートを示します。12ポート拡張機能がないと、ポート0から5だけが有効です。12ポート拡張機構がある場合には、ポート6から17が追加されます。

LANに接続された印刷装置の場合は、DEVCLS(*LAN) TYPE(3812),およびLANATTACH(*LEXLINK)またはLANATTACH(*USRDFN)は次のように指定されます。

注: ADPTTYPE(*EXTERNAL)が指定される場合は、使用するパラレル・ポートまたはシリアル・ポートのポート番号値を示します（外部LANアダプターに複数ポートがあるとき）。有効な値の範囲は0から17です。

ADPTTYPE(*INTERNAL)が指定される場合は、ポート番号は不要です。

***SAME**

値は変更されません。

ポート番号

ポート番号を指定してください。有効な値の範囲は0から65535です。

印刷装置によっては、有効な値の範囲はさらに制限される場合があります。

上

スイッチの設定値 (SWTSET)

ローカル平衡型装置のスイッチの設定値を指定します。

有効な値の範囲は0から6です。

***SAME**

値は変更されません。

上

ローカル・ロケーション・アドレス (LOCADR)

この装置のローカル・ロケーション・アドレスを指定します。

使用できる値の範囲は00からFEです。装置を接続する制御装置のタイプによって、有効な値が決まります。

制御装置

有効な値

5251 00, 02-09

5294 00-1B

5394 00-14

5494 00-37

3174 02-41

3274 02-41

SNAホスト

01-FE

4701 02-FE

4702 02-FE

714 System i: プログラミング i5/OS コマンド ANZPRFACT (プロファイル活動の分析) ~

4680 02-54

4684 02-FE

FBSS 02-FE

***SAME**

値は変更されません。

上

IPL時のオンライン (ONLINE)

初期プログラム・ロード(IPL)時にこのオブジェクトを自動的にオンに構成変更するかどうかを指定します。

***SAME**

値は変更されません。

***YES**

この装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されます。

***NO**

この装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されません。

上

言語タイプ (LNGTYPE)

ASCII印刷装置では、この印刷装置の省略時の国別キーボード言語IDを記述します。

次の言語は、ホスト印刷変換かワークステーション・カスタマイズのいずれかが使用されている場合にのみASCII装置で使用することができます。ALI, BGB, CSB, ESB, HNB, IRB, JPB, LTB, LVB, MKB, PKB, PLB, RMB, RUB, SKB, SQB, TRB, UAB,およびYGI。

***SAME**

値は変更されません。

***SYSVAL**

システムはQKBDTYPEシステム値を使用します。

言語タイプ

次のテーブルからこの印刷装置に正しい国別キーボード言語IDを指定してください。

ID 言語 (国) - ASCII装置グループ

ALI アルバニア

CLB アラビア語X/BASIC - D*

AGB オーストリア／ドイツ- A, B
AGI オーストリア／ドイツ各国間- A, B
BLI ベルギー各国間- B
BRB ブラジル・ポルトガル語
BGB ブルガリア
CAB カナダ・フランス語- A, B
CAI カナダ・フランス語各国間- A, B
SPB カタロニア語
YGI クロアチア／セルビア（ローマ字）／スロベニア
CYB キリル
CSB チェコ共和国
DMB デンマーク- B
DMI デンマーク各国間- B
ESB エストニア
FNB フィンランド／スウェーデン- B
FNI フィンランド／スウェーデン各国間- B
FAB フランス(AZERTY) - A, B
FAI フランス(AZERTY)各国間- A, B
GNB ギリシャ語（注を参照）
NCB ヘブライ語- D*
HNB ハンガリー
ICB アイスランド
ICI アイスランド各国間
IRB イラン（ペルシア語）
ITB イタリア- A, B
ITI イタリア各国間- A, B
JPB 日本ラテン語拡張
ROB ローマ字-2/ROECE（中欧，東欧）
LVB ラトビア
LTB リトアニア
MKB FYRマケドニア（前ユーゴスラビア連邦）
NEB オランダ
NEI オランダ各国間
NWB ノルウェー- B
NWI ノルウェー各国間- B
PLB ポーランド

PRB	ポルトガル- B
PRI	ポルトガル各国間- B
RMB	ルーマニア
RUB	ロシア
SQB	セルビア (キリル語)
SKB	スロバキア
SPB	スペイン- B
SPI	スペイン各国間- B
SSB	スペイン語圏- B
SSI	スペイン語圏各国間- B
SWB	スウェーデン- B
SWI	スウェーデン各国間- B
SFI	スイス/フランス語各国間- B
SGI	スイス/ドイツ語各国間- B
THB	タイ
TKB	トルコ(QWERTY)
TRB	トルコ(F)
UAB	ウクライナ
UKB	英国- A, B
UKI	英国各国間- A, B
USB	米国/カナダ- A, B, C
USI	米国/カナダ各国間- A, B, C
PKB	ウルドゥー語
YGI	前ユーゴスラビアの言語

注: GNBコードはギリシャの現在のIDです。 GKBコードはV2R1以前に使用されたもので引き続きサポートされますが、推奨されるGNBコードより文字数が少なくなっています。

上

印刷品質 (PRTQLTY)

ASCII印刷装置の省略時の印刷品質を下位品質から最上品質の順に、ドラフト(*DRAFT)、標準(*STD)、または近英字品質(*NLQ)のいずれにするかを指定します。すべてのASCII印刷装置のタイプ(すべてのエミュレーション)はこのパラメーターでサポートします。印刷装置が5219をエミュレートしている(EMLDEVパラメーター)場合は、この品質はこの印刷装置の送り先の個別印刷ファイルによって一時変更します。

注: すべての平衡型印刷装置エミュレーションがこのパラメーターをサポートします。ASCII印刷装置が5219平衡型印刷装置をエミュレートしている場合には、この印刷品質設定値は、この印刷装置に送信される個々の印刷ファイルによって一時変更されます。

***SAME**

値は変更されません。

***STD**

標準品質設定値を指定します。

***DRAFT**

ドラフト品質設定値を指定します。

***NLQ**

近英字品質の設定値を指定します。

上

フォント識別コード (FONT)

3812, 3816, 5219印刷装置(5219印刷装置をエミュレートするASCII印刷装置を含む) , およびIPDS印刷装置で使用されるフォントIDおよびポイント・サイズを指定します。フォントID (10桁まで) は, この印刷装置で使用されます。各フォントIDには暗黙の1インチ当たりの文字数(CPI)値があります。IDまたはポイント・サイズが指定されていない場合には, システムにより自動的に設定されます。

注: いくつかのフォントは印刷装置によって置き換えられることがあります。 詳細については, 各印刷装置の手引き書を参照してください。

***SAME**

値は変更されません。

要素1:フォントID

ID

この印刷装置に関連したフォントIDを指定してください。

要素2:ポイント・サイズ

***NONE**

ポイント・サイズはシステムによって指定され, 指定されたフォントIDによって決定されます。

ポイント・サイズ

0.1から999.9の範囲のポイント・サイズを指定してください。

上

用紙送り (FORMFEED)

このスプール・ファイルに使用される用紙送り接続機構を指定します。このパラメーターは、印刷装置への用紙の送り方を決定します。すべての印刷装置がこのパラメーターをサポートするわけではありません。このパラメーターがサポートされているかどうかを判別するには、印刷装置ファイル作成(CRTPRTF)コマンドを参照してください。

注: ホスト印刷変換機能が使用可能になった時に、FORMFEEDパラメーターはPPRSRC1パラメーターに指定された値によって一時変更されます。

***SAME**

値は変更されません。

***TYPE**

用紙送りの値は、印刷装置タイプに基づいてシステムによって判別されます。

***CONT**

印刷装置で連続用紙が使用されます。一部の印刷装置(3812, 4216)には、連続用紙送り接続機構が備わっていません(これらは実際には連続用紙をサポートしない)。しかし、場合によっては、エミュレートされる平衡型印刷装置のサポートと合わせるために、*CONTを指定しなければなりません。

***CONT2**

印刷装置で連続用紙が使用されます。用紙は2次連続用紙送り機構から送られます。印刷装置に2次連続用紙送り機構が必要です。この値は4214, 4234, 4247,および*IPDS印刷装置に使用できません。

***CUT**

印刷装置で単票用紙が使用されます。単票用紙の場合には、用紙位置決めのメッセージは送信されません。この値は、SCS 5219印刷装置をエミュレートしている4216印刷装置を除き、すべてのASCII印刷装置に有効です。

***AUTOCUT**

単票用紙が自動的に印刷装置に送り込まれます。この印刷装置には、用紙送り接続機構が備わっていないなければなりません。*AUTOCUT機能は、5219印刷装置をエミュレートしている4207, 4208, 4216, 4224,および5204印刷装置に対して有効です。

上

区切り用紙入れ (SEPDRAWER)

分離ページを印刷するためにどの用紙入れを選択するかを指定します。

***SAME**

値は変更されません。

***FILE**

分離ページは、残りのスプール・ファイルと同じ用紙入れからの用紙に印刷されます。

分離ページ用紙入れ

分離ページを印刷する用紙入れを指示する1から255の範囲の値を指定してください。

注: 一部の印刷装置の場合には、SEPDRAWER(3)は封筒引き出しを暗黙のうちに指定します。

1

分離ページは用紙入れ1から印刷されます。

2

分離ページは用紙入れ2から印刷されます。

3

分離ページは用紙入れ3から印刷されます。

上

セパレーター・プログラム (SEPPGM)

ジョブおよびファイル区切り文字の印刷時にユーザーがユーザー出口プログラムを呼び出せるようにすることによって、分離ページのスタイルを指定します。

***SAME**

値は変更されません。

***NONE**

分離ページは変更されません。

出口プログラム名

出口プログラム名を指定します。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

出口プログラムを見つけるためにジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

出口プログラムが入っているライブラリーの名前を指定してください。

上

用紙入れの数 (NBRDRAWER)

*AUTOCUTを使用して用紙送り(FORMFEEDパラメーター)に定義したASCII印刷装置の場合に、印刷装置の用紙送り接続機構がサポートする用紙入れは1台なのか、2台なのか、あるいは3台なのかを指定します。用紙送りが*CONTまたは*CUTの場合には、このパラメーターは適用されません。

注: 用紙入れ数のパラメーターは、印刷装置が用紙をどの用紙入れから選択するかではなく、物理的にサポートする用紙入れの数を指定します。どの用紙入れを選択するかは、印刷装置に送信される個々の印刷装置ファイルによって指示されます。

*SAME

値は変更されません。

1

1つの用紙入れが物理的にサポートされます。

2

2つの用紙入れが物理的にサポートされます。

3

3つの用紙入れが物理的にサポートされます。

FORMFEED(*AUTOCUT)をサポートする印刷装置では、次の数の用紙入れがサポートされます。

1. 4207-1および4208印刷装置で有効なのは、NBRDRAWER(1)だけです。
2. 4224印刷装置で有効なのは、NBRDRAWER(3)だけです。
3. 4207-2, 4216, および5204印刷装置では、1, 2, および3のNBRDRAWER値がサポートされます。

注: NBRDRAWER(3)は、2つの用紙入れおよび封筒入れが使用されます。

上

印刷装置エラー・メッセージ (PRTERMSG)

回復可能エラーに対して、装置が照会メッセージまたは通知メッセージのどちらを受け取るのかを指定します。このパラメーターは、ASCIIワークステーション制御装置に接続された印刷装置には適用されません。

***SAME**

値は変更されません。

***INQ**

回復可能エラーに対して、照会メッセージが送信されます。

***INFO**

回復可能エラーに対して、通知メッセージが送信されます。

上

MSG 待ち行列 (MSGQ)

この装置に対する操作メッセージが送られるメッセージ待ち行列を指定します。

***SAME**

値は変更されません。

***CTLD**

メッセージは、接続される制御装置に定義されたメッセージ待ち行列に送られます。メッセージ待ち行列は、装置がオンに構成変更された時に決定されます。

***SYSOPR**

メッセージは、システム操作員メッセージ待ち行列(QSYS/QSYSOPR)に送られます。

メッセージ待ち行列名

操作メッセージが送られるメッセージ待ち行列の名前を指定してください。

***LIBL**

最初に一致するものが見つかるまで、ジョブのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

上

要求単位の最大長 (MAXLENRU)

リモート表示装置と印刷装置の場合には、使用可能な最大要求単位(RU)の長さ (バイト数) を指定します。

*SAME

値は変更されません。

*CALC

システムが使用に最も適した値を決定します。

*CALCの値はX.25ネットワークに接続されていない装置に対して指定しなければなりません。

*CALCはX.25ネットワークに接続された装置に対して指定することができます。すべての場合に

*CALCが推奨値です。

最大長要求単位

241または247を指定します。この値が有効なのは、X.25ネットワークに接続された装置の場合だけです。推奨値*CALCを指定しない場合には、ELLCに241を使用し、QLLCに247を使用されるようお奨めします。245および256の値を指定できますが、この結果は*CALCを指定したのと同じです。

上

ホストIBM System iからの活動化要求に装置が応答するのを待機する時間 (秒数) を指定します。この時間内に装置が応答しない場合には、利用不能であると見なされます。

*NOMAX

装置は無制限に待機します。

注: *NOMAXは、DEVCLS(*LAN)とAFP(*YES)の時それらが指定された時にのみ有効です。

活動化タイマー

装置が使用不能であると見なされる前の秒数を指示する数値を指定してください。

注: LANATTACHが*LEXLINKであり、指定された秒数を経過した場合には、照会メッセージが出されます。

上

非活動タイマー (INACTTMR)

非活動タイマー (タイムアウト) 値を指定します。このパラメーターは、装置の他の属性に基づいて、タイムアウト値を超えた時に何が起こるのかも指定します。

- SNAパススルー(SNPT)サポートを使用して接続された装置の場合には、ユーザーはQSYSOPRに対するメッセージによって通知され、セッションは、装置がホスト・アプリケーションに結合されていない時間がタイムアウト値を超えた時に終了します。ユーザーは接続およびセッションを再確立しなければなりません。
- アプリケーション・タイプの値が*APPINIT, *DEVINIT,または*NRFである装置の場合には、セッションは、タイムアウト値を超える時間の間装置が非活動状態になった（装置に対してオープンされたファイルがクローズされ、その装置についてファイルをオープンするための追加要求を受け取らなかった）時に終了します。

注: サブシステムは常に装置に対してオープンされたファイルをもっているため、このタイマーはサブシステムに割り振られた装置では使用されません（通常の対話式使用）。このタイマーは、装置に対してファイルをオープンおよびクローズするバッチ・ジョブによって使用されます。

その他の接続機構の場合には、有効な値の範囲は1から30分です。

***SAME**

値は変更されません。

***ATTACH**

この値は、物理的接続機構(ATTACHパラメーター)の値と、装置クラス(DEVCLS)およびアプリケーション・タイプ(APPTYPE)パラメーター上の一定の値によって変化します。

1. DEVCLS(*SNPT)またはAPPTYPE(*DEVINIT)のサポートでは、*ATTACHは*NOMAX にマップします。
2. DEVCLS(*LAN)では、*ATTACHは*SEC15にマップします。
3. APPTYPE(*NRF)およびAPPTYPE(*APPINIT)のサポートでは、*ATTACHは1分にマップします。

***NOMAX**

最大非活動時間は追跡されません（非活動タイマーは実施されません）。

***SEC15**

15秒のタイムアウト期間が使用されます。

***SEC30**

30秒のタイムアウト期間が使用されます。

非活動タイマー

タイムアウト値（分）を指定します。

上

SNAパススルー装置記述 (SNPTDEV)

ホストまたは拡張プログラム間通信機能(APPC)制御装置に接続する関連したSNA パススルー装置の名前を指定します。

*SAME

値は変更されません。

*NONE

名前は指定されません。

関連装置名

ホストまたはこの装置に関連したAPPC制御装置に接続する装置の名前を指定してください。

上

SNAパススルー・グループ名 (SNPTGRP)

構成リスト中のホスト装置のグループに対して構成された名前を指定します(CRTCFGLコマンドを参照してください)。これは、この装置が使用可能なグループの任意の装置と関連していることを指示します。

*SAME

値は変更されません。

*NONE

名前は指定されません。

グループ名

この装置と関連していなければならないホスト装置のグループに対して構成された名前を指定してください。

上

ホスト・サイン・オン/ログオン・コマンド (LOGON)

サインオン (ログオン) テキストを指定します。このパラメーターは、DEVCLS(*SNPT)または APPTYPE(*NRF)を指定した場合に使用することができます。APPTYPE(*NRF)は、セッションの確立が要求された時にホスト・システムに送信されるログオン・ストリングを指定します。DEVCLS(*SNPT)は、SNA パススルー・サポートを開始した後にホスト・システムに送信されるサインオン・テキストを指定します。

このパラメーターは、ファイルが*NRF用にオープンされた時にホスト・ネットワークでシステム・サービス制御点(SSCP)に送信されるログオン・ストリングも指定します。

*SAME

値は変更されません。

*NONE

テキストがホスト・システムに送信されません。

ホスト・ログオン・コマンド

ホスト・システムに送信するテキストを指定してください。テキストに空白または他の特殊文字が入っている場合には、そのテキストをアポストロフィで囲まなければなりません。テキスト中のすべてのアポストロフィは、2つのアポストロフィとして表す必要があります。最大256文字まで指定できます。

上

ペーシング値 (PACING)

要求/応答単位(RU)に使用されるSNAペーシング値を指定します。

*SAME

値は変更されません。

ペーシング値

1から7の範囲内の値を指定してください。

上

回線速度 (LINESPEED)

回線速度を1秒当たりのビット数(BPS)で指定します。

*SAME

値は変更されません。

*TYPE

システムは、この装置タイプに指定された設定値を使用します。

*TYPEはすべての印刷装置に19200ビット/秒を選択します。

回線速度

回線速度を指定してください。有効な値は150, 300, 600, 1200, 1800, 2400, 3600, 4800, 7200, 9600, 19200,または38400です。

上

語の長さ (WORDLEN)

ASCII装置の場合には、ASCIIワークステーション制御装置と装置間の接続を介した通信に使用される語の長さ（ビット／文字）を指定します。モデムおよび郵便電話電信(PTT)接続機構の場合には、語の長さはそのモデムに対して選択された語の長さと同じでなければなりません。表示装置の補助ポートに接続された補助印刷装置の場合には、語の長さはその表示装置の装置記述に指定された語の長さと同じでなければなりません。

入出力装置によっては、すべてのワード長をサポートしていないものもあります。使用したいワード長を入出力装置がサポートしているかどうか確認してください。

*SAME

値は変更されません。

*TYPE

システムは、この装置タイプに指定された設定値を使用します。

*TYPEはすべての印刷装置に8ビットの語の長さを選択します。

7

7ビット・ワード長を指定します。

8

8ビット・ワード長を指定します。

上

パリティのタイプ (PARITY)

ASCII装置の場合には、ASCIIワークステーション制御装置と装置間の接続を介した通信に使用されるパリティのタイプを指定します。モデムおよび郵便電話電信(PTT) 接続機構の場合には、パリティのタイプはそのモデムに対して選択したタイプと同じでなければなりません。また、表示装置の補助ポートに接続された補助印刷装置の場合には、パリティのタイプは表示装置の装置記述に指定したタイプと同じでなければなりません。

入出力装置によっては、すべてのタイプのパリティをサポートしないものもあります。使用したいタイプのパリティを入出力装置がサポートしているかどうか確認してください。

*SAME

値は変更されません。

*TYPE

システムは、この装置タイプに指定された設定値を使用します。

*TYPEは、すべての印刷装置に対して*EVEN（偶数パリティ）を選択します。

***EVEN**

偶数パリティを指定します。

***ODD**

奇数パリティを指定します。

***NONE**

パリティ・ビットを使用しないことを指定します。

***MARK**

マーク・パリティ（パリティでは1を使用する）を指定します。

***SPACE**

スペース・パリティ（パリティでは0を使用する）を指定します。

上

停止ビット (STOPBITS)

ASCII装置の場合には、ASCIIワークステーション制御装置と装置間の接続を介した通信に使用される停止ビットの数を指定します。モデムおよび郵便電話電信(PTT)接続機構の場合には、停止ビットの数はそのモデムに対して選択された停止ビットの数と同じでなければなりません。表示装置の補助ポートに接続された補助印刷装置の場合には、停止ビットの数はその表示装置の装置記述に指定された停止ビットの数と同じでなければなりません。

入出力装置によっては、すべての停止ビットの数をサポートしないものもあります。使用したい停止ビットの数を入出力装置がサポートしているかどうか確認してください。

***SAME**

値は変更されません。

***TYPE**

1

1停止ビットを指定します。

2

2停止ビットを指定します。

上

ホスト印刷の変換 (TRANSFORM)

印刷装置がホスト印刷変換サポートを使用するかどうかを指定します。

*SAME

値は変更されません。

*NO

印刷装置はホスト印刷変換サポートを使用しません。

*YES

印刷装置はホスト印刷変換サポートを使用します。

注: TRANSFORMが*NOから*YESに変更されて、ホスト印刷変換がその装置で使用可能にならない場合には、MFRTYPMDLパラメーターを指定しなければなりません。

上

メーカー・タイプ、型式 (MFRTYPMDL)

ホスト印刷変換機能を使用している印刷装置のメーカー、タイプ、および型式を指定します。

*SAME

値は変更されません。

文字値 印刷装置の対応するメーカー、タイプ、および型式を指定します。

次のリストには、使用している装置に指定された値が示されています。

注: MFRTYPMDLに*WSCSTXXXが指定されている場合には、ワークステーション・カスタマイズ・オブジェクトを指定しなければなりません。

メーカー、タイプ、および型式テーブル

*IBM2380	IBM 2380パーソナル・プリンター・シリーズII IBM 2380プラス・プリンター
*IBM2381	IBM 2381パーソナル・プリンター・シリーズII IBM 2381プラス・プリンター
*IBM2390	IBM 2390パーソナル・プリンター・シリーズII IBM 2390プラス・プリンター
*IBM2391	IBM 2391パーソナル・プリンター・シリーズII IBM 2391プラス・プリンター
*IBM3112	IBM 3112ページ印刷装置
*IBM3116	IBM 3116ページ印刷装置
*IBM3130	IBM 3130拡張印刷装置
*IBM3812	IBM 3812ページ印刷装置
*IBM3816	IBM 3816ページ印刷装置
*IBM3912HP	IBM 3912ページ印刷装置(HPモード)
*IBM3916HP	IBM 3916ページ印刷装置(HPモード)
*IBM39302	IBM 39302 IBM 3930-02Sページ印刷装置 IBM 39302 IBM 3930-02Dページ印刷装置
*IBM39303	IBM 39303 IBM 3930-03Sページ印刷装置 IBM 39303 IBM 3930-03Dページ印刷装置
*IBM4019	IBM 4019レーザー・プリンター IBM 4019Eレーザー・プリンターE
*IBM4019HP	IBM 4019レーザー・プリンター(HPモード)

IBM 4019レーザー・プリンターE (HPモード)
 *IBM4029 IBM 4029-010レーザー・プリンター5E
 IBM 4029-020レーザー・プリンター6
 IBM 4029-030レーザー・プリンター10
 IBM 4029-040レーザー・プリンター10L
 *IBM4029HP IBM 4029-010レーザー・プリンター5E (HPモード)
 IBM 4029-020レーザー・プリンター6 (HPモード)
 IBM 4029-030レーザー・プリンター10 (HPモード)
 IBM 4029-040レーザー・プリンター10L
 (HPモード)
 *IBM4037 IBM 4037 5E印刷装置
 *IBM4039HP IBM 4039レーザー・プリンター10D (HPモード)
 IBM 4039レーザー・プリンター10Dプラス
 (HPモード)
 IBM 4039レーザー・プリンター10R (HPモード)
 IBM 4039レーザー・プリンター10Rプラス
 (HPモード)
 IBM 4039レーザー・プリンター12R (HPモード)
 IBM 4039レーザー・プリンター12Rプラス
 (HPモード)
 IBM 4039レーザー・プリンター12L (HPモード)
 IBM 4039レーザー・プリンター12Lプラス
 (HPモード)
 IBM 4039レーザー・プリンター16L (HPモード)
 IBM 4039レーザー・プリンター16Lプラス
 (HPモード)
 *IBM4070 IBM 4070 IJ (IBMモード)
 *IBM4070EP IBM 4070 IJ (EPSONモード)
 *IBM4072 IBM 4072 EXECJET
 *IBM4076 IBM 4076 EXECJET II印刷装置(HPモード)
 *IBM42011 IBM 4201-1 PROPRINTER
 *IBM42012 IBM 4201-2 PROPRINTER II
 *IBM42013 IBM 4201-3 PROPRINTER III
 *IBM42021 IBM 4202-1 PROPRINTER XL
 *IBM42022 IBM 4202-2 PROPRINTER II XL
 *IBM42023 IBM 4202-3 PROPRINTER III XL
 *IBM42071 IBM 4207-1 PROPRINTER X24
 *IBM42072 IBM 4207-2 PROPRINTER X24E
 *IBM42081 IBM 4208-1 PROPRINTER XL24
 *IBM42082 IBM 4208-2 PROPRINTER XL24E
 *IBM4212 IBM 4212 PROPRINTER 24P
 *IBM4216 IBM 4216-10パーソナル・ページ・プリンター
 *IBM4226 IBM 4226-302印刷装置
 *IBM4230 IBM 4230-4S3印刷装置(IBMモード)
 IBM 4230-4I3印刷装置(IBMモード)
 *IBM4232 IBM 4232-302印刷装置(IBMモード)
 *IBM4244ASF IBM 4244印刷装置 (単一トラクター送りおよびASF)
 *IBM4244DUAL IBM 4244印刷装置 (複式連続用紙送り機構)
 *IBM4244MAN IBM 4244印刷装置 (単一用紙送りまたは手動選択)
 *IBM4247ASF IBM 4247印刷装置 (単一トラクター送りおよびASF)
 *IBM4247DUAL IBM 4247印刷装置 (複式連続用紙送り機構)
 *IBM4247MAN IBM 4247印刷装置 (単一用紙送りまたは手動選択)
 *IBM4308 IBM INFOPRINTカラー8
 *IBM4312 IBMネットワーク印刷装置12
 *IBM4317 IBMネットワーク印刷装置17
 *IBM4320 IBM INFOPRINT 20
 *IBM4322 IBM INFOPRINT 21
 *IBM4324 IBM ネットワーク印刷装置24
 *IBM4332 IBM INFOPRINT 32
 *IBM4340 IBM INFOPRINT 40
 *IBM47121 IBM 4712-1トランザクション印刷装置
 *IBM47122 IBM 4712-2トランザクション印刷装置
 *IBM47221 IBM 4722-1文書印刷装置
 *IBM47222 IBM 4722-2文書印刷装置
 *IBM4770 IBM 4770インクジェット・トランザクション印刷装置
 *IBM4912 IBM INFOPRINT 12
 *IBM5152 IBM 5152グラフィック印刷装置

*IBM5201	IBM 5201-2 QUIETWRITER
*IBM5202	IBM 5202-1 QUIETWRITER III
*IBM5204	IBM 5204-1 QUICKWRITER
*IBM5216	IBM 5216 WHEELPRINTER
*IBM5575	IBM 5579-H02型印刷装置
	IBM 5579-K02型印刷装置
	IBM 5577-T02型印刷装置
	IBM 5579-S02型印刷装置
	IBM 5577-K02型印刷装置
	IBM 5577-J02型印刷装置
	IBM 5577-G02型印刷装置
	IBM 5577-H02型印刷装置
	IBM 5577-F02型印刷装置
	IBM 5577-B02型印刷装置
	IBM 5575-H02型印刷装置
	IBM 5575-F02型印刷装置 (SBCSカートリッジ付き)
	IBM 5575-B02型印刷装置 (SBCSカートリッジ付き)
	IBM 5573-K02型印刷装置
	IBM 5573-J02型印刷装置
	IBM 5573-H02型印刷装置
	IBM 5573-G02型印刷装置
	IBM 5572-B02型印刷装置
	IBM 5417-011型印刷装置
	IBM 5407-011型印刷装置
	IBM 5327-011型印刷装置
	IBM 4208-502型印刷装置
*IBM6400	IBM 6400印刷装置 (IBMモード)
*IBM6400EP	IBM 6400印刷装置 (EPSONモード)
*IBM6404	IBM 6404印刷装置 (IBMモード)
*IBM6404EP	IBM 6404印刷装置 (EPSONモード)
*IBM6408	IBM 6408-A00印刷装置 (IBMモード)
	IBM 6408-CTA印刷装置 (IBMモード)
*IBM6408EP	IBM 6408-A00印刷装置 (EPSONモード)
	IBM 6408-CTA印刷装置 (EPSONモード)
*IBM6412	IBM 6412-A00印刷装置 (IBMモード)
	IBM 6412-CTA印刷装置 (IBMモード)
*IBM6412EP	IBM 6412-A00印刷装置 (EPSONモード)
	IBM 6412-CTA印刷装置 (EPSONモード)
*IBMPAGES	IBM 5589-H01印刷装置
	IBM 5588-H02印刷装置
	IBM 5587-H01印刷装置
	IBM 5586-H02印刷装置
	IBM 5585-H01印刷装置
	IBM 5584-K02型印刷装置
	IBM 5584-H02印刷装置
	IBM 5584-G02印刷装置
*IBMPAGESNPB	*IBMPAGESと同じだが、 非印刷枠のテキスト位置調整なし
*IBMPAGES300	IBMネットワーク・プリンター12 (PAGESフィーチャー付き)
	IBMネットワーク・プリンター17 (PAGESフィーチャー付き)
	IBMネットワーク・プリンター24 (PAGESフィーチャー付き)
	IBM INFOPRINT 20 (PAGESフィーチャーなし)
	IBM INFOPRINT 32 (PAGESフィーチャーあり)
	IBM INFOPRINT 40 (PAGESフィーチャーあり)
*IBMPAGES300NPB	*IBMPAGES300と同じだが、 非印刷枠のテキスト位置調整なし
*INFOPRINT8C	IBM INFOPRINTカラー8
*INFOPRINT12	IBM INFOPRINT 12
*INFOPRINT20	IBM INFOPRINT 20
*INFOPRINT21	IBM INFOPRINT 21
*INFOPRINT32	IBM INFOPRINT 32
*INFOPRINT40	IBM INFOPRINT 40
*INFOPRINT70	IBM INFOPRINT 70
*INFOPRINT85	IBM INFOPRINT 2085

*INFOPRINT105 IBM INFOPRINT 2105
 *INFOPRINT1116 IBM INFOPRINT 1116
 *INFOPRINT1120 IBM INFOPRINT 1120
 *INFOPRINT1125 IBM INFOPRINT 1125
 *INFOPRINT1130 IBM INFOPRINT 1130
 *INFOPRINT1140 IBM INFOPRINT 1140
 *INFOPRINT1145 IBM INFOPRINT 1145
 *INFOPRINT1220C IBM INFOPRINTカラー1220
 *INFOPRINT1222 IBM INFOPRINT 1222
 *INFOPRINT1226 IBM INFOPRINT 1226
 *INFOPRINT1228C IBM INFOPRINTカラー1228
 *INFOPRINT1312 IBM INFOPRINT 1312
 *INFOPRINT1332 IBM INFOPRINT 1332
 *INFOPRINT1334C IBM INFOPRINTカラー1334
 *INFOPRINT1352 IBM INFOPRINT 1352
 *INFOPRINT1354C IBM INFOPRINTカラー1354
 *INFOPRINT1357C IBM INFOPRINTカラー1357
 *INFOPRINT1372 IBM INFOPRINT 1372
 *INFOPRINT1400C IBM INFOPRINTカラー14xxシリーズ印刷装置
 *INFOPRINT1410 IBM INFOPRINT 1410 MFP
 *INFOPRINT1412 IBM INFOPRINT 1412
 *INFOPRINT1422 IBM INFOPRINT 1422
 *INFOPRINT1500 IBM INFOPRINT 15xxシリーズ印刷装置
 *INFOPRINT1500C IBM INFOPRINTカラー15xxシリーズ印刷装置
 *INFOPRINT1600 IBM INFOPRINT 16xxシリーズ印刷装置
 *INFOPRINT1600C IBM INFOPRINTカラー16xxシリーズ印刷装置
 *INFOPRINT2000 IBM INFOPRINT 2000
 *INFOPRINT2085 IBM INFOPRINT 2085
 *INFOPRINT2105 IBM INFOPRINT 2105
 *INFOPRINT2190 IBM INFOPRINT 2190
 *INFOPRINT2210 IBM INFOPRINT 2210
 *INFOPRINT2235 IBM INFOPRINT 2235
 *INFOPRINT2705 IBM INFOPRINT 2105
 *INFOPRINT2706 IBM INFOPRINT 2105ES
 *INFOPRINT2761 IBM INFOPRINT 2060ES
 *INFOPRINT2775 IBM INFOPRINT 2075ES
 *INFOPRINT2785 IBM INFOPRINT 2085
 *INFOPRINT2790 IBM INFOPRINT 2090ES
 *INFOPRINT6500 IBM INFOPRINT 6500 (Epsonモード)
 *CANLIPS3 CANON LIPS3 DBCS印刷装置
 *CANLIPS3NPB *CANLIPS3と同じだが、
 非印刷枠のテキスト位置調整なし
 *CPQPM15 COMPAQ PAGEMARK 15 (HPモード)
 *CPQPM20 COMPAQ PAGEMARK 20 (HPモード)
 *EPAP2250 EPSON ACTIONPRINTER 2250
 *EPAP3250 EPSON ACTIONPRINTER 3250
 *EPAP5000 EPSON ACTIONPRINTER 5000
 *EPAP5500 EPSON ACTIONPRINTER 5500
 *EPDFX5000 EPSON DFX-5000
 *EPDFX8000 EPSON DFX-8000
 *EPEPL7000 EPSON EPL-7000
 *EPEPL8000 EPSON EPL-8000
 *EPFX850 EPSON FX-850
 *EPFX870 EPSON FX-870
 *EPFX1170 EPSON FX-1170
 *EPLQ510 EPSON LQ-510
 *EPLQ570 EPSON LQ-570
 *EPLQ860 EPSON LQ-860
 *EPLQ870 EPSON LQ-870
 *EPLQ1070 EPSON LQ-1070
 *EPLQ1170 EPSON LQ-1170
 *EPLQ2550 EPSON LQ-2550
 *EPLX810 EPSON LX-810
 *EPSQ870 EPSON SQ-870
 *EPSQ1170 EPSON SQ-1170
 *ESCPDBCS EPSON ESC/P DBCS印刷装置
 *HP11 HP LASERJETシリーズII

*HPIID	HP LASERJET IID
*HPIIP	HP LASERJET IIP
*HPIII	HP LASERJET III
*HPIIID	HP LASERJET IIID
*HPIIIP	HP LASERJET IIP
*HPIIISI	HP LASERJET IIISI
*HP4	HP LASERJET 4
*HP5	HP LASERJET 5シリーズ
*HP5SI	HP LASERJET 5SI
*HP6	HP LASERJET 6シリーズ
*HP310	HP DESKJET 310
*HP320	HP DESKJET 320
*HP500	HP DESKJET 500
*HP520	HP DESKJET 520
*HP540	HP DESKJET 540
*HP550C	HP DESKJET 550C
*HP560C	HP DESKJET 560C
*HP1100	HP LASERJET 1100シリーズ
*HP1200C	HP DESKJET 1200C
*HP1600C	HP DESKJET 1600C
*HP4000	HP LASERJET 4000シリーズ
*HP5000	HP LASERJET 5000シリーズ
*HP8000	HP LASERJET 8000シリーズ
*HPCOLORLJ	HP COLOR LASERJET 5
*HPDBCS	HP LASERJET互換印刷装置DBCS入力用
*HPPAINT	HP PAINTJET
	HP PAINTJET XL
	HP PAINTJET XL300
*LEX2380	LEXMARK用紙印刷装置2380プラス
*LEX2381	LEXMARK用紙印刷装置2381プラス
*LEX2390	LEXMARK用紙印刷装置2390プラス
*LEX2391	LEXMARK用紙印刷装置2391プラス
*LEX4227	LEXMARK 4227用紙印刷装置
*LEXMARKC	LEXMARK Cシリーズ印刷装置
*LEXMARKC510	LEXMARK C510カラー印刷装置
*LEXMARKC750	LEXMARK C750カラー印刷装置
*LEXMARKC752	LEXMARK C752カラー印刷装置
*LEXMARKC910	LEXMARK C910カラー印刷装置
*LEXMARKC912	LEXMARK C912カラー印刷装置
*LEXMARKE	LEXMARK Eシリーズ印刷装置
*LEXMARKE322	LEXMARK E322印刷装置
*LEXMARKE323	LEXMARK E323印刷装置
*LEXMARKE330	LEXMARK E330印刷装置
	LEXMARK E332N印刷装置
*LEXMARKT	LEXMARK Tシリーズ印刷装置
*LEXMARKT420	LEXMARK T420印刷装置
*LEXMARKT520	LEXMARK T520印刷装置
*LEXMARKT522	LEXMARK T522印刷装置
*LEXMARKT620	LEXMARK T620印刷装置
*LEXMARKT622	LEXMARK T622印刷装置
*LEXMARKT630	LEXMARK T630印刷装置
*LEXMARKT632	LEXMARK T632印刷装置
*LEXMARKT634	LEXMARK T634印刷装置
*LEXMARKW	LEXMARK Wシリーズ印刷装置
*LEXMARKW812	LEXMARK W812印刷装置
*LEXMARKW820	LEXMARK W820印刷装置
*LEXMARKX422	LEXMARK X422 MFP
*LEXOPTRA	LEXMARK OPTRA FAMILY (HPモード)
*LEXOPTRAC	LEXMARK OPTRA Cカラー印刷装置
*LEXOPTRAN	LEXMARK OPTRA N印刷装置
*LEXOPTRAS	LEXMARK OPTRA S印刷装置ファミリー
*LEXOPTRASC	LEXMARK OPTRA SCカラー印刷装置
	LEXMARK OPTRAカラー1200印刷装置
*LEXOPTRAT	LEXMARK OPTRA T印刷装置シリーズ
*LEXOPTRAW	LEXMARK OPTRA W印刷装置シリーズ
*NECP2	NEC P2 PINWRITER
*NECP2200	NEC P2200 PINWRITER

*NECP2200XE NEC P2200 XE PINWRITER
 *NECP5200 NEC P5200 PINWRITER
 *NECP5300 NEC P5300 PINWRITER
 *NECP6200 NEC P6200 PINWRITER
 *NECP6300 NEC P6300 PINWRITER
 *NECPCPR201 NEC PC-PR101 DBCS印刷装置
 NEC PC-PR201 DBCS印刷装置
 *NONE 印刷装置は、CVTIMG APIによって生成された
 ページ記述子言語をサポートします。
 注: 装置タイプが*SCSまたは*AFPDSの
 スプール・ファイルは、これらの印刷装置
 のホスト印刷変換機能では処理できま
 せん。
 *OKI184IBM OKIDATA MICROLINE 184 TURBO (IBMモード)
 *OKI320IBM OKIDATA MICROLINE 320 (IBMモード)
 *OKI321IBM OKIDATA MICROLINE 321 (IBMモード)
 *OKI390IBM OKIDATA MICROLINE 390 PLUS (IBMモード)
 *OKI391IBM OKIDATA MICROLINE 391 PLUS (IBMモード)
 *OKI393IBM OKIDATA MICROLINE 393 PLUS (IBMモード)
 *OKI590IBM OKIDATA MICROLINE 590 (IBMモード)
 *OKI591IBM OKIDATA MICROLINE 591 (IBMモード)
 *OKI400 OKIDATA 0L400 LEDページ印刷装置
 *OKI800 OKIDATA 0L800 LEDページ印刷装置
 *OKI810 OKIDATA 0L810 LEDページ印刷装置
 *OKI820 OKIDATA 0L820 LEDページ印刷装置
 *OKI3410 OKIDATA PACEMARK 3410
 *PAN1123EP PANASONIC KX-P1123 (EPSONモード)
 *PAN1124EP PANASONIC KX-P1124 (EPSONモード)
 *PAN1124IEP PANASONIC KX-P1124I (EPSONモード)
 *PAN1180EP PANASONIC KX-P1180 (EPSONモード)
 *PAN1180IEP PANASONIC KX-P1180I (EPSONモード)
 *PAN1191EP PANASONIC KX-P1191 (EPSONモード)
 *PAN1624EP PANASONIC KX-P1624 (EPSONモード)
 *PAN1654EP PANASONIC KX-P1654 (EPSONモード)
 *PAN1695EP PANASONIC KX-P1695 (EPSONモード)
 *PAN2123EP PANASONIC KX-P2123 (EPSONモード)
 *PAN2124EP PANASONIC KX-P2124 (EPSONモード)
 *PAN2180EP PANASONIC KX-P2180 (EPSONモード)
 *PAN2624EP PANASONIC KX-P2624 (EPSONモード)
 *PAN4410HP PANASONIC KX-P4410 (HPモード)
 *PAN4420HP PANASONIC KX-P4420 (HPモード)
 *PAN4430HP PANASONIC KX-P4430 (HPモード)
 *PAN4450IHP PANASONIC KX-P4450I (HPモード)
 *PAN4451HP PANASONIC KX-P4451 (HPモード)
 *PANASONIC2310 PANASONIC DP-2310印刷装置
 *PANASONIC3010 PANASONIC DP-3010印刷装置
 *PANASONIC3510 PANASONIC DP-3510印刷装置
 *PANASONIC3520 PANASONIC DP-3520印刷装置
 *PANASONIC4510 PANASONIC DP-4510印刷装置
 *PANASONIC4520 PANASONIC DP-4520印刷装置
 *PANASONIC6010 PANASONIC DP-6010印刷装置
 *PANASONIC6020 PANASONIC DP-6020印刷装置
 *PDF Portable Document Format
 *PDFEMBEDTT Portable Document Format。すべてのTrueType
 フォント参照が出力文書に組み込まれます。
 *PDFIBMWT Portable Document Format。システムに付属の
 IBM WorldTypeフォントが標準PDFフォント参照
 にマップされます。
 *RICOH1515 RICOH AFICIO 1515印刷装置シリーズ
 *RICOH2015 RICOH AFICIO 2015印刷装置シリーズ
 *RICOH2018 RICOH AFICIO 2018印刷装置シリーズ
 *RICOH2022 RICOH AFICIO 2022印刷装置シリーズ
 *RICOH2027 RICOH AFICIO 2027印刷装置シリーズ
 *RICOH2032 RICOH AFICIO 2032印刷装置シリーズ
 *RICOH2035 RICOH AFICIO 2035印刷装置シリーズ
 *RICOH2045 RICOH AFICIO 2045印刷装置シリーズ
 *RICOHAP400 RICOH AFICIO AP400印刷装置シリーズ

*RICOHAP600N	RICOH AFICIO AP600N印刷装置シリーズ
*RICOHAP900	RICOH AFICIO AP900印刷装置シリーズ
*RICOHAP3200	RICOH AFICIO AP3200印刷装置シリーズ
*RICOHAP4510	RICOH AFICIO AP4510印刷装置シリーズ
*RICOHCL2000	RICOH AFICIO CL2000カラー印刷装置シリーズ
*RICOHCL3100	RICOH AFICIO CL3000Eカラー印刷装置シリーズ
	RICOH AFICIO CL3100Nカラー印刷装置シリーズ
*RICOHCL4000	RICOH AFICIO CL4000カラー印刷装置シリーズ
*RICOHCL5000	RICOH AFICIO CL5000カラー印刷装置シリーズ
*RICOHCL7000	RICOH AFICIO CL7000カラー印刷装置シリーズ
*RICOHCL7100	RICOH AFICIO CL7100カラー印刷装置シリーズ
*RICOHMP1100	RICOH AFICIO MP1100印刷装置シリーズ
*RICOHMP1350	RICOH AFICIO MP1350印刷装置シリーズ
*RICOHMP9000	RICOH AFICIO MP9000印刷装置シリーズ
*RICOHSP4100N	RICOH AFICIO SP4100N印刷装置シリーズ
	RICOH AFICIO SP4110N印刷装置シリーズ
*RICOHSP9100DN	RICOH AFICIO SP9100DN印刷装置シリーズ
*RICOHSPC811DN	RICOH AFICIO SPC811DNカラー印刷装置シリーズ
*WORKIO_BL	PANASONIC WORKiO DP-23xxシリーズ印刷装置
	PANASONIC WORKiO DP-30xxシリーズ印刷装置
*WORKIO_BM	PANASONIC WORKiO DP-35xxシリーズ印刷装置
*WORKIO_CR	PANASONIC WORKiO DP-Cxxxシリーズ・カラー印刷装置
*XR4215MRP	XEROX 4215/MRP (HPモード)
*XR4219MRP	XEROX 4219/MRP (HPモード)
*XR4220MRP	XEROX 4220/MRP (HPモード)
*XR4230MRP	XEROX 4230/MRP (HPモード)
*XR4235	XEROX 4235 LASERPRINTING (HPモード)
*XR4700II	XEROX 4700 IIカラー文書印刷装置 (HPモード)
*WSCSTA3	印刷装置はリストされていない(A3サイズ用紙)
*WSCSTA4	印刷装置はリストされていない(A4サイズ用紙)
*WSCSTA5	印刷装置はリストされていない(A5サイズ用紙)
*WSCSTB4	印刷装置はリストされていない(B4サイズ用紙)
*WSCSTB5	印刷装置はリストされていない(B5サイズ用紙)
*WSCSTCONT80	印刷装置はリストされていない(8インチ連続用紙)
*WSCSTCONT132	印刷装置はリストされていない(13.2インチ連続用紙)
*WSCSTEXECUTIVE	印刷装置はリストされていない(エグゼクティブ・サイズ用紙)
*WSCSTLEDGER	印刷装置はリストされていない(レジャー・サイズ用紙)
*WSCSTLEGAL	印刷装置はリストされていない(リーガル・サイズ用紙)
*WSCSTLETTER	印刷装置はリストされていない(レターサイズ用紙)
*WSCSTNONE	印刷装置はリストされていない(用紙サイズ未指定)
*WSCST	印刷装置はリストされていない

上

用紙入れ 1 (PPRSRC1)

用紙入れ1で使用される用紙のタイプを指定します。

*SAME

値は変更されません。

*MFRTYPMDL

システムはこの印刷装置の推奨設定値を使用します。

*LETTER

この用紙入れの用紙はレター・サイズ(8.5 X 11インチ)です。

*LEGAL

この用紙入れの用紙は規格サイズ(8.5 X 14インチ) です。

***LEDGER**

この用紙入れの用紙は元帳サイズ(11 X 17インチ) です。

***EXECUTIVE**

この用紙入れの用紙はエグゼクティブ・サイズ(7.25 X 10.5インチ) です。

***A3**

この用紙入れの用紙はA3サイズ(297MM X 420MM)です。

***A4**

この用紙入れの用紙はA4サイズ(210MM X 297MM)です。

***A5**

この用紙入れの用紙はA5サイズ(148 X 210MM)です。

***B4**

この用紙入れの用紙はB4サイズ(257MM X 364MM)です。

***B5**

この用紙入れの用紙はB5サイズ(182 X 257MM)です。

***CONT80**

この用紙入れの用紙は連続用紙(8.0インチ) です。

***CONT132**

この用紙入れの用紙は連続用紙(13.2インチ) です。

***NONE**

用紙入れ番号1は指定されていません。

上

用紙入れ 2 (PPRSRC2)

用紙入れ2で使用する用紙のタイプを指定します。

*SAME

値は変更されません。

*MFRTYPMDL

システムはこの印刷装置の推奨設定値を使用します。

*LETTER

この用紙入れの用紙はレター・サイズ(8.5 X 11インチ) です。

*LEGAL

この用紙入れの用紙は規格サイズ(8.5 X 14インチ) です。

*LEDGER

この用紙入れの用紙は元帳サイズ(11 X 17インチ) です。

*EXECUTIVE

この用紙入れの用紙はエグゼクティブ・サイズ(7.25 X 10.5インチ) です。

*A3

この用紙入れの用紙はA3サイズ(297MM X 420MM)です。

*A4

この用紙入れの用紙はA4サイズ(210MM X 297MM)です。

*A5

この用紙入れの用紙はA5サイズ(148 X 210MM)です。

*B4

この用紙入れの用紙はB4サイズ(257MM X 364MM)です。

*B5

この用紙入れの用紙はB5サイズ(182 X 257MM)です。

*NONE

用紙入れ番号1は指定されていません。

上

エンベロップ・ソース (ENVELOPE)

3番目の用紙入れで使用される封筒のタイプを指定します。

***SAME**

値は変更されません。

***MFRTPMDL**

システムはこの印刷装置の推奨設定値を使用します。

***MONARCH**

この用紙入れの封筒はモナーク・サイズ(3.875 X 7.5インチ)です。

***NUMBER9**

この用紙入れの封筒は9番サイズ(3.875 X 8.875インチ)です。

***NUMBER10**

この用紙入れの封筒は10番サイズ(4.125 X 9.5インチ)です。

***B5**

この用紙入れの封筒はB5サイズ(176MM X 250MM)です。

***C5**

この用紙入れの封筒はC5サイズ(162MM X 229MM)です。

***DL**

この用紙入れの封筒はDLサイズ(110MM X 220MM)です。

***NONE**

封筒用紙入れは指定されていません。

上

ASCII コード・ページ 899 サポート (ASCII899)

印刷装置にASCIIコード・ページ899が導入されているかどうかを指定します。

*SAME

値は変更されません。

*NO

印刷装置にASCIIコード・ページ899は導入されていません。

*YES

印刷装置にASCIIコード・ページ899が導入されています。

上

イメージ構成 (IMGCFG)

この印刷装置のイメージ構成を指定します。イメージ構成オブジェクトは、各種のイメージおよび印刷データ・ストリーム形式に対する変換サービスを提供します。

*SAME

値は変更されません。

*NONE

イメージ構成は指定されません。

イメージ構成

印刷装置用のイメージ構成を指定してください。

次のリストには、提供されているイメージ構成オブジェクトと普及している多くの印刷装置に推奨されるイメージ構成オブジェクトが含まれています。

イメージ構成オブジェクト・テーブル

----- HP PCLデータ・ストリーム-----	
*IMGA01	PCL 300-DPI印刷装置
*IMGA02	PCL 600-DPI印刷装置
*IMGA03	PCL 1200-DPI印刷装置
*IMGA04	PCL 300-DPIカラー印刷装置
*IMGA05	PCL 600-DPIカラー印刷装置
*IMGA06	PCL 1200-DPIカラー印刷装置
*IMGA07	PCL 75-DPI印刷装置 (圧縮なし)
*IMGA08	PCL 600-DPI カラー印刷装置 (より大きな印刷余白付き)
*IMGA09	PCL 300-DPI印刷装置 (圧縮なし)
-----ポストスクリプト・データ・ストリーム-----	
*IMGB01	ポストスクリプト300-DPI印刷装置
*IMGB02	ポストスクリプト600-DPI印刷装置
*IMGB03	ポストスクリプト1200-DPI印刷装置
*IMGB04	ポストスクリプト300-DPIカラー印刷装置
*IMGB05	ポストスクリプト600-DPIカラー印刷装置

*IMGB06	ポストスクリプト1200-DPIカラー印刷装置
*IMGB07	ポストスクリプト600X300-DPIカラー印刷装置
*IMGB08	ポストスクリプト1200X300-DPIカラー印刷装置
*IMGB09	ポストスクリプト360-DPIカラー印刷装置
*IMGB10	ポストスクリプト720-DPIカラー印刷装置
*IMGB11	ポストスクリプト1440X720-DPIカラー印刷装置
*IMGB12	ポストスクリプト400-DPI印刷装置
*IMGB13	ポストスクリプト800-DPIカラー印刷装置
*IMGB14	ポストスクリプト600-DPIカラー印刷装置 (より大きな印刷余白付き)
*IMGB15	ポストスクリプト300-DPIカラー印刷装置 (より大きな印刷余白付き)
----- IPDSデータ・ストリーム-----	
*IMGC01	IPDS 240-DPI印刷装置
*IMGC02	IPDS 300-DPI印刷装置
*IMGC03	IPDS 600-DPI印刷装置
*IMGC04	IPDS 1200-DPI印刷装置
*IMGC05	IPDS 240-DPI印刷装置 (印刷余白付き)
*IMGC06	IPDS 300-DPI印刷装置 (印刷余白付き)
*IMGC07	IPDS 600-DPI印刷装置 (印刷余白付き)
*IMGC08	IPDS 1200-DPI印刷装置 (印刷余白付き)
*IMGC09	IPDS 240-DPI印刷装置 (IM/1イメージのみ)
*IMGC10	IPDS 240-DPI印刷装置 (印刷余白付き) (IM/1イメージのみ)
*IMGC11	IPDS 240-DPI印刷装置 (CCITT G4圧縮)
----- PCLおよびポストスクリプト・データ・ストリーム-----	
*IMGD01	PCL/ポストスクリプト300-DPI印刷装置
*IMGD02	PCL/ポストスクリプト600-DPI印刷装置
*IMGD03	PCL/ポストスクリプト1200-DPI印刷装置
*IMGD04	PCL/ポストスクリプト300-DPIカラー印刷装置
*IMGD05	PCL/ポストスクリプト600-DPIカラー印刷装置
*IMGD06	PCL/ポストスクリプト1200-DPIカラー印刷装置
*IMGD07	PCL 300-DPI/ポストスクリプト600-DPI印刷装置
*IMGD08	PCL 300-DPI/ポストスクリプト1200-DPI印刷装置
*IMGD09	PCL 600-DPI/ポストスクリプト300-DPI印刷装置
*IMGD10	PCL 600-DPI/ポストスクリプト1200-DPI印刷装置
*IMGD11	PCL/ポストスクリプト600-DPIカラー印刷装置 (より大きな印刷余白付き)

印刷装置テーブルによる、推奨されるイメージ構成オブジェクト

COMPAQ PAGEMARC 20	*IMGD01
EPSON EPCL-4印刷装置	*IMGA01
EPSON EPCL-5印刷装置	*IMGA02
EPSON STYLUS PHOTO (ポストスクリプト付き)	*IMGB10
EPSON STYLUS COLOR 600, 800 (ポストスクリプト付き)	*IMGB11
HP COLOR LASERJET 5	*IMGA04
HP COLOR LASERJET 5M	*IMGD04
HP DESKJET 560C, 820C, 1200C	*IMGA04
HP DESKJET 500, 600, 1200	*IMGA01
HP DESKJET 1600C, 1600CN	*IMGA04
HP DESKJET 1600CM	*IMGD04
HP LASERJET II, IID, IIP	*IMGA09
HP LASERJET II, IID, IIP (ポストスクリプト付き)	*IMGB01
HP LASERJET III, IIID, IIISI, 4L	*IMGA01
HP LASERJET III, IIID, IIISI, 4L (ポストスクリプト付き)	*IMGD01
HP LASERJET 4, 4P, 4V, 4SI, 4 PLUS	*IMGA02
HP LASERJET 4M, 4MP, 4MV, 4SI MX, 4M PLUS	*IMGD02
HP LASERJET 5, 5P, 5SI	*IMGA02
HP LASERJET 5M, 5MP, 5SI MX	*IMGD02
HP LASERJET 6, 6P, 6L	*IMGA02
HP LASERJET 6M, 6MP	*IMGD02
IBM 3112, 3116ページ印刷装置 (IPDS機構付き)	*IMGD02
IBM 3112, 3116ページ印刷装置 (ASCII/LAN)	*IMGA02
IBM 3112, 3116ページ印刷装置 (ポストスクリプト付き)	*IMGD02
IBM 3130, 3160-1 AF印刷装置 (240画素モード)	*IMGC01
IBM 3130 AF印刷装置 (300画素モード)	*IMGC02

IBM INFOPRINT 20 (IPDS機構付き)	*IMGC02
IBM INFOPRINT 20 (ASCII)	*IMGA02
IBM INFOPRINT 32 (IPDS機構付き)	*IMGC02
IBM INFOPRINT 32 (ASCII)	*IMGA02
IBM INFOPRINT 60	*IMGC03
IBM INFOPRINT 62モデル2	*IMGC05
IBM INFOPRINT 62モデル3	*IMGC06
IBM INFOCOLOR 70	*IMGB05
IBM INFOPRINT 4000	*IMGC05
IBM INFOPRINT 4000 (高解像度)	*IMGC06
IBM 3825, 3827, 3828 AF印刷装置	*IMGC09
IBM 3825, 3827, 3828 AF印刷装置(AFIG付き)	*IMGC01
IBM 3829 AF印刷装置	*IMGC01
IBM 3835-001 AF印刷装置	*IMGC10
IBM 3835-001 AF印刷装置(AFIG付き)	*IMGC05
IBM 3835-002, 3900 AF印刷装置	*IMGC05
IBM 3912, 3916ページ印刷装置(ASCII/LAN)	*IMGA01
IBM 3912, 3916ページ印刷装置(IPDS機構付き) (平衡型)	*IMGC06
IBM 3930-02ページ印刷装置(IPDSディスク)	*IMGC01
IBM 3930-03ページ印刷装置	*IMGA01
IBM 3930-03ページ印刷装置 (ポストスクリプト付き)	*IMGD01
IBM 3935 AF印刷装置	*IMGC02
IBM 4019レーザー・プリンター(HPモード)	*IMGA09
IBM 4019レーザー・プリンター (ポストスクリプト付き)	*IMGB01
IBM 4028レーザー・プリンター	*IMGC06
IBM 4029レーザー・プリンター	*IMGA01
IBM 4029レーザー・プリンター (ポストスクリプト付き)	*IMGB02
IBM 4039レーザー・プリンター	*IMGA01
IBM 4039レーザー・プリンター (ポストスクリプト付き)	*IMGD07
IBM 4049レーザー・プリンター	*IMGA02
IBM 4049レーザー・プリンター (ポストスクリプト付き)	*IMGD02
IBM 4079カラー・ジェット・プリンターPS	*IMGB09
IBM 4303ネットワーク・カラー・プリンター	*IMGB05
IBM 4312, 4317, 4324 NP (IPDS機構付き) (平衡型)	*IMGC06
IBM 4312, 4317, 4324 NP (IPDS機構付き) (LAN)	*IMGC06
IBM 4312, 4317, 4324 NP (ASCII/LAN)	*IMGA02
IBM 4312, 4317, 4324 NP (ポストスクリプト付き)(ASCII/LAN)	*IMGD02
LEXMARK 4039PLUS	*IMGB02
LEXMARK OPTRA Cカラー・プリンター	*IMGD11
LEXMARK OPTRA E, E+	*IMGA02
LEXMARK OPTRA N	*IMGD02
LEXMARK OPTRA R+, RX+, LX+, LXN+	*IMGD02
LEXMARK OPTRA S印刷装置	*IMGD02
LEXMARK OPTRA SCカラー印刷装置	*IMGD05
OKIDATA OL400 LEDページ印刷装置	*IMGA01
OKIDATA OL800, OL810 LEDページ印刷装置	*IMGA02
QMS 2025, 3225	*IMGB12
QMS MAGICOLOR CX	*IMGD04
TEKTRONIX PHASER 140	*IMGB09
TEKTRONIX PHASER 300	*IMGB04
TEKTRONIX PHASER 400	*IMGB05
TEKTRONIX PHASER 540, 550	*IMGB05
TEKTRONIX PHASER 560	*IMGB06
XEROX 4219/MRP	*IMGA01
XEROX 4220/MRP	*IMGA02
XEROX 4230 DOCUPRINTER	*IMGA02
XEROX 4512, 4517ネットワーク・プリンター	*IMGA02
XEROX 4520MP印刷装置	*IMGB13
XEROX 4700 IIカラー文書印刷装置	*IMGD04
XEROX 4915カラー・レーザー・プリンター	*IMGB08
XEROX 4920, 4925カラー・レーザー・プリンター	*IMGB05

上

保留中要求の最大数 (MAXPNDQRS)

印刷装置の待ち行列に入れることのできる印刷要求の最大数を指定します。このパラメーターが使用されるのは、**拡張機能の印刷 (AFP)**パラメーターに*YESが指定されている場合だけです。

*SAME

値は変更されません。

最大印刷要求数

待ち行列に入れることのできる印刷要求の最大数を示す1から31の数値を指定してください。

上

変換中の印刷 (PRTCVT)

AFPを使用するファイルがIPDSに完全に変換される前に印刷を始めるかどうかを指定します。

*SAME

値は変更されません。

*YES

IPDS変換を完了する前に印刷が開始されます。

*NO

IPDS変換を完了する前に印刷は開始されません。

上

印刷要求タイマー (PRTRQSTMR)

印刷要求が連続用紙を使用する印刷装置に送信されてから、出力の最後のページが印刷装置から用紙スタックカーに入れられるまでの間に、待機する秒数を指定します。このパラメーターが使用されるのは、**拡張機能の印刷 (AFP)**パラメーターに*YESが指定され、**用紙送り (FORMFEED)**パラメーターに*CONTが指定されている場合だけです。

*SAME

値は変更されません。

*NOMAX

タイマーは使用されません。

印刷要求タイマー

印刷要求が送られてから、出力の最後のページを印刷装置から出すまでに待機する秒数(1から3600)を指定してください。

書式定義 (FORMDF)

印刷要求に対する他の書式定義仕様がないうちに使用される書式定義の名前を指定します。このパラメーターが使用されるのは、**拡張機能の印刷 (AFP)**パラメーターに*YESが指定されている場合だけです。

*SAME

値は変更されません。

書式定義名

使用する書式定義の名前を指定してください。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとして指定されているライブラリーがない場合、QGPLライブラリーが検索されます。

ライブラリー名

オブジェクトが入っているライブラリーを指定してください。

文字識別コード (CHRID)

印刷装置の場合に、分離ページ・フォントが明示的に指定されていない時にジョブおよびファイル分離ページを印刷するのに使用するフォントを示す文字ID (図形文字セットおよびコード・ページ) を指定します。このパラメーターは、**拡張機能の印刷 (AFP)**パラメーターに*YESを指定した場合、および**AFP接続機構 (AFPATTACH)**パラメーターに*APPCを指定した場合、または**ホスト印刷の変換 (TRANSFORM)**パラメーターに*YESを指定した場合にだけ、使用されます。

注: AFPATTACHパラメーターは変更不可能です。印刷装置のCHRID値を変更するためには、印刷装置は、AFPATTACH(*APPC)またはTRANSFORM(*YES)を指定して作成されていなければなりません。

*SAME

値は変更されません。

***SYSVAL**

システムは、QCHRIDシステム値からコマンド・パラメーターの図形文字セットおよびコード・ページ値を判別します。

図形文字セットコード・ページ

この表示装置の属性に一致する図形文字セットおよびコード・ページの値を指定してください。図形文字セットおよびコード・ページの値は、1から32767の範囲内の数値でなければなりません。

リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)

印刷装置のリモート・ロケーション名を指定します。この値はSNAネットワークIDと制御点名、インターネット・プロトコル(IP)ホスト名、またはIPアドレスとすることができます。

SNAリモート・ロケーション名は、NNNNNNNN.CCCCCCCCという形式を使用して指定します。NNNNNNNNはネットワークIDで、CCCCCCCCは制御点名です。制御点名のみを指定した場合には、ネットワークIDの値としてRMTNETIDパラメーター値が使用されます。

IPリモート・ロケーション名は1から255文字の長さでなければなりません。

注: このパラメーターはAFP(*YES)とAFPATTACH(*APPC)の両方を指定した場合、あるいはLANATTACH(*IP)またはLANATTACH(*USRDFN)を指定した場合に有効です。APPTYPE(*APPINIT)を指定した時には、このパラメーターは必須です。APPTYPE(*APPINIT)装置のリモート・ロケーション名は、物理装置の仮想記憶通信アクセス方式/IBMネットワーク制御プログラム(VTAM/NCP)名です。

*SAME

値は変更されません。

リモート・ロケーション名

リモート・ロケーション名、リモート・システム名、またはIPアドレスを指定してください。

ローカル・ロケーション (LCLLOCNAME)

ローカル・ロケーション名を指定します。このパラメーターが有効なのは、AFP(*YES)およびAFPATTACH(*APPC)が指定されているか、あるいはAPPTYPE(*APPINIT)が指定されている場合だけです。APPTYPE(*APPINIT)装置のローカル・ロケーション名は、IBMネットワーク制御プログラム(NCP)中の独立論理装置(LU)の名前です。

*SAME

値は変更されません。

*NETATR

システム・ネットワーク属性で指定されたLCLLOCNAME値が使用されます。

ローカル・ロケーション名

ローカル・ロケーション名を指定してください。

モード (MODE)

この装置のセッション限界およびセッション特性の定義に使用されるモードの名前を指定します。

***SAME**

値は変更されません。

QSPWTR

印刷装置で特に使用するために存在するモード。

***NETATR**

ネットワーク属性のモードが使用されます。

モード名

この装置によって使用されるモード記述の名前を指定してください。

上

DBCS機能 (IGCFEAT)

装置の機構および最終コード・ポイントの値を示すためにDBCSフィーチャー・コード形式で使用される2バイト文字セット(DBCS)テーブルを指定します。このパラメーター記述の終わりにあるテーブルには、漢字使用可能の装置の有効な装置機構および最終コード・ポイント値が示されています。

注: このパラメーターが有効なのは、漢字使用可能の装置の場合だけです。

***SAME**

値は変更されません。

要素1: DBCS使用可能装置の機能

装置の機構

SSSSLRの形式を使用して、装置の文字解像度、言語、および相対バッファ・サイズの装置の機構を指定します。この場合:

SSSS =

文字の解像度 (作成するために使用される行列点の数)。例えば、2424は、文字を公式化するために使用可能な24行列点の高さと24行列点の幅です。

L = 言語コード。現在サポートされている4つの言語コードは次の通りです。

- J =日本語
- K =韓国語
- C =中国語 (繁体字)
- S =中国語 (簡体字)

R = 相対バッファ・サイズ。有効な値は0, 1, 2,および4です。

要素2:最終コード・ポイント

最終コード・ポイント

最後の漢字の4桁のコード・ポイントを指定してください。この値はブランクとすることができます。

上

ユーザー定義オプション (USRDFNOPT)

スプール出力の場合にのみ、スプール・ファイルを処理するユーザー・アプリケーションまたはユーザー指定プログラムによって使用される1つまたは複数のユーザー定義オプションを指定します。最大4つのユーザー定義オプションを指定することができます。

*SAME

値は変更されません。

*NONE

ユーザー定義のオプションは指定しません。

ユーザー定義オプション

スプール・ファイルを処理するユーザー・アプリケーションによって使用されるユーザー定義オプションを指定してください。すべての文字が受け入れ可能です。

上

ユーザー定義オブジェクト (USRDFNOBJ)

スプール出力の場合のみ、スプール・ファイルを処理するユーザー・アプリケーションまたはユーザー指定プログラムによって使用されるユーザー定義オブジェクトを指定します。

単一値

*SAME

値は変更されません。

*NONE

ユーザー定義オブジェクト名は指定されません。

要素1:ユーザー定義オブジェクトの名前

ユーザー定義オブジェクト名

スプール・ファイルを処理する、ユーザー・アプリケーションまたはユーザー指定のプログラムで使用されるユーザー定義のオブジェクトの名前を指定してください。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

*LIBL 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。 スレッドの現行ライブラリーとして指定されているライブラリーがない場合、QGPLライブラリーが検索されます。

ライブラリー名

オブジェクトが入っているライブラリーを指定してください。

要素2:ユーザー定義オブジェクトのタイプ

オブジェクト・タイプ

ユーザー・オブジェクトのタイプは、次の1つとすることができます。

***DTAARA**

データ域

***DTAQ**

データ待ち行列

***FILE** ファイル

***PSFCFG**

PSF構成

***USRIDX**

ユーザー索引

***USRQ**

ユーザー待ち行列

***USRSPC**

ユーザー空間

上

データ変換プログラム (USRDTATFM)

スプール・ファイル・データの変換に使用されるユーザー定義データ・プログラムを指定します。

注:

1. このパラメーターは、AFP(*YES)が指定されている時には*NONEでなければなりません。
2. TRANSFORM(*YES)が指定された場合には、このパラメーターは*NONEでなければなりません。

***SAME**

値は変更されません。

***NONE**

ユーザー定義のデータ変換プログラムは指定しません。

ユーザー定義データ変換プログラム名

ユーザー定義データ変換プログラムの名前を指定してください。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとして指定されているライブラリーがない場合、QGPLライブラリーが検索されます。

ライブラリー名

オブジェクトが入っているライブラリーを指定してください。

上

ユーザー定義ドライバー・プログラム (USRDRVPGM)

ユーザー定義のドライバー・プログラムの修飾名を指定します。

注: このパラメーターは、AFP(*YES)が指定されている時には*NONEでなければなりません。

***SAME**

値は変更されません。

***NONE**

ユーザー定義のドライバー・プログラムは指定しません。

ユーザー定義のドライバー・プログラム名

ユーザー定義のドライバー・プログラム名を指定してください。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとして指定されているライブラリーがない場合、QGPLライブラリーが検索されます。

ライブラリー名

オブジェクトが入っているライブラリーを指定してください。

上

システム・ドライバー・プログラム (SYSDRVPGM)

IBM System i5印刷装置出力をTCP/IPネットワークを介して接続されている印刷装置に送る機能を提供するシステム定義ドライバー・プログラムの名前を指定します。

注: このパラメーターは、DEVCLS(*LAN)、TYPE(3812)およびLANATTACH(*IP)が指定されている時のみ有効です。

***SAME**

値は変更されません。

***HPPJLDRV**

HP互換印刷装置ドライバー・プログラムが使用されます。

***IBMPJLDRV**

IBMネットワーク印刷装置ドライバー・プログラムが使用されます。

***NETSTNDRV**

ネットワーク端末のドライバー・プログラムが使用されます。

***IBMSNMPDRV**

IBM SNMP印刷装置ドライバー・プログラムが使用されます。

***IBMIPDRV**

IBM IPP印刷装置ドライバー・プログラムが使用されます。

上

保護接続(SECURECNN)

印刷装置にセキュア接続を確立するかどうかを指定します。セキュア接続は、接続を通じて受け渡しされる印刷データの秘密を維持するための暗号化通信セッションを提供します。

注: このパラメーターが有効であるのは、SYSDRVPGM(*IBMIPDRV)が指定されているときだけです。

***SAME**

値は変更されません。

***NO**

印刷装置との接続は保護されません。

***YES**

印刷装置との接続が保護されます。印刷装置はSSL (SECURE SOCKETS LAYER)またはTLS (TRANSPORT LAYER SECURITY)をサポートし、システム・デジタル証明書をもっている必要があります。保護接続の詳細については、印刷装置プログラミングの資料を参照してください。

上

妥当性検査リスト (VLDL)

印刷装置が認証を要求する場合に使用される妥当性検査リストを指定します。妥当性検査リストでは、スプール・ファイルを作成するユーザーの名前、印刷装置の名前、またはシステムの名前について検査されます。名前と関連した認証情報が印刷装置に戻されます。妥当性検査リストの構築に関する詳細については、印刷装置プログラミングの資料を参照してください。

注: このパラメーターが有効であるのは、SYSDRVPGM(*IBMIPPDRV)が指定されているときだけです。

*SAME

値は変更されません。

*NONE

妥当性検査リストが指定されません。

妥当性検査リスト・オブジェクト

認証情報が入っている妥当性検査リストの名前を指定してください。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

*LIBL 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとして指定されているライブラリーがない場合、QGPLライブラリーが検索されます。

ライブラリー名

オブジェクトが入っているライブラリーを指定してください。

上

LIGHTWEIGHT DIRECTORY ACCESS PROTOCOL (LDAP)ディレクトリーに公開できる印刷装置に関する情報を指定します。

要素1:両面印刷のサポート

印刷装置が用紙の両面への印刷をサポートしているかどうかを指定します。

*SAME

値は変更されません。

*UNKNOWN

このフィールドの値は不明です。

*SIMPLEX

印刷装置は用紙の片面への印刷のみをサポートします。

*DUPLEX

印刷装置は用紙の両面への印刷をサポートします。

要素2:カラーのサポート

印刷装置がカラー・インク印刷をサポートしているかどうかを指定します。

***SAME**

値は変更されません。

***UNKNOWN**

このフィールドの値は不明です。

***COLOR**

印刷装置はカラー・インク印刷をサポートします。

***NOCOLOR**

印刷装置はカラー・インク印刷をサポートしません。

要素3: 1分当たりの黒インク印刷ページ数

印刷装置が黒インクで1分当たりに印刷できるページ数。

***SAME**

値は変更されません。

***UNKNOWN**

このフィールドの値は不明です。

黒インク印刷ページ数

印刷装置が黒インクで1分当たりに印刷できるページ数。このフィールドは1から32767の範囲内の整数値です。

要素4: 1分当たりのカラー・インク印刷ページ数

印刷装置が作成できる1分当たりのカラー・インクのページ数。

注: 1分当たりのカラー・インク印刷ページ数は、要素2で*COLORが指定されたときにのみ有効です。

***SAME**

値は変更されません。

***UNKNOWN**

このフィールドの値は不明です。

カラーのページ・カウント

印刷装置がカラー・インクで1分当たりに印刷できるページ数。このフィールドは1から32767の範囲内の整数値です。

要素5:設置場所

印刷装置の設置場所を手短に説明します。

***SAME**

値は変更されません。

***BLANK**

印刷装置の設置場所は指定されていません。

場所 印刷装置が設置されている場所を説明する30文字以内のテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

要素6:サポートされているデータ・ストリーム

印刷装置にサポートされているデータ・ストリーム・フォーマットを指定します。

*SAME

値は変更されません。

*UNKNOWN

このフィールドの値は不明です。

*PCL 印刷装置はPCL (印刷装置コマンド言語) をサポートします。

*PS 印刷装置はPOSTSCRIPTをサポートします。

*PDF 印刷装置はPDF (PORTABLE DOCUMENT FORMAT)をサポートします。

*IPDS 印刷装置はIPDS (高機能印刷装置データ・ストリーム) をサポートします。

*SCS 印刷装置はSCS (SNA文字ストリング) をサポートします。

上

テキスト'記述' (TEXT)

*SAME

テキスト (ある場合) は変更されません。

*BLANK

テキストは指定されません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

上

リモート・ネットワーク 識別コード (RMTNETID)

リモート・ネットワークのID (ID)を指定します。 AFP(*YES)およびAFPATTACH(*APPC)が指定されている時、またはAPPTYPE(*APPINIT)が指定されている時に、このパラメーターは必須パラメーターです。

*SAME

値は変更されません。

*NETATR

ネットワーク属性に指定されたリモート・ネットワークIDが使用されます。

*NONE

リモート・ネットワークID (ID)は使用されません。

リモート・ネットワークID

リモート・ネットワークのIDを指定してください。

上

ワークステーション・カスタマイズ・オブジェクト (WSCST)

ワークステーション・カスタマイズ・オブジェクトの修飾名を指定します。

*SAME

値は変更されません。

*NONE

ワークステーション・カスタマイズ・オブジェクトは指定されません。

ワークステーション・カスタマイズ・オブジェクト

ワークステーション・カスタマイズ・オブジェクトを指定してください。

注: WSCSTパラメーターにワークステーション・カスタマイズ・オブジェクトを指定した場合には、ASCII装置にFQB, FQI, INB, INI, JEB, JEI, JKB, JUB, KAB, KOB, RCB,およびTABを除くすべての国別キーボードIDを使用することができます。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

*LIBL 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとして指定されているライブラリーがない場合、QGPLライブラリーが検索されます。

ライブラリー名

オブジェクトが入っているライブラリーを指定してください。

上

例

例1:印刷装置アドレスの変更

```
CHGDEVPRT  DEVD(PRT1)  PORT(1)  SWTSET(5)
```

このコマンドは、PRT1という名前の印刷装置の装置記述を、ここでその印刷装置がポート1にあり、そのアドレスが5となるように変更します。

例2:アダプター・アドレスの変更

```
CHGDEVPRT  DEVD(PRT2)  ADPTADR(222222222222)
```

このコマンドは、PRT2という名前の印刷装置の装置記述を、そのアダプター・アドレスが222222222222となるように変更します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPDB12C

リモート・ロケーション名&2が正しい形式になっていない。

CPF2618

装置記述&1は変更されなかった。

CPDB1B8

パラメーターの組み合わせが無効です。理由コードは&2です。

上

装置記述の変更 (小売業) (CHGDEVRTL)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

小売業装置記述の変更(CHGDEVRTL)コマンドは、小売業装置の装置記述を変更します。

制約事項: このコマンドを使用するには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
DEVD	装置記述	名前	必須, キー, 定位置 1
LOCADR	ローカル・ロケーション・アドレス	01-FE, <u>*SAME</u>	オプション
ONLINE	IPL時のオンライン	<u>*SAME</u> , *YES, *NO	オプション
PACING	ペーシング値	0-7, <u>*SAME</u>	オプション
MAXLENRU	要求単位の最大長	*CALC, <u>*SAME</u> , 247, 256, 503, 512, 1015, 1024	オプション
APPTYPE	適用業務タイプ	<u>*SAME</u> , *OTHER, *RCMS, *SBMRTLPGM	オプション
ACTTMR	活動化タイマー	1-2550, <u>*SAME</u>	オプション
INACTTMR	非活動タイマー	1-30, <u>*SAME</u> , *NOMAX, *SEC15, *SEC30	オプション
SNPTDEV	SNAパススルー装置記述	名前, *NONE, <u>*SAME</u>	オプション
SNPTGRP	SNAパススルー・グループ名	名前, *NONE, <u>*SAME</u>	オプション
TEXT	テキスト記述	文字値, <u>*SAME</u> , *BLANK	オプション

上

装置記述 (DEVD)

装置記述の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

上

ローカル・ロケーション・アドレス (LOCADR)

この装置のローカル・ロケーション・アドレスを指定します。

有効な値の範囲は01からFFです。

***SAME**

値は変更されません。

上

IPL時のオンライン (ONLINE)

初期プログラム・ロード(IPL)時にこのオブジェクトを自動的にオンに構成変更するかどうかを指定します。

***SAME**

値は変更されません。

***YES**

この装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されます。

***NO**

この装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されません。

上

ペーシング値 (PACING)

要求/応答単位(RU)に使用されるSNAペーシング値を指定します。

***SAME**

値は変更されません。

ペーシング値

1から7の範囲内の値を指定してください。

上

要求単位の最大長 (MAXLENRU)

使用できる要求単位(RU)の最大長を指定します。

***SAME**

値は変更されません。

***CALC**

システムは使用する値を計算します。

最大長要求単位

着信要求単位の最大長として247, 256, 503, 512, 1015,または1024バイトを指定します。

適用業務タイプ (APPTYPE)

この装置によって使用されるアプリケーション・タイプを指定します。

*SAME

値は変更されません。

***OTHER**

この装置は、HCP (ローカル・ロケーション・アドレス (LOCADR)パラメーターに01が指定されている場合) または制御装置のアプリケーションのいずれかと通信します。 LOCADRパラメーターに01が指定されている場合には、常に*OTHERを指定する必要があります。 4684制御装置の場合に、LOCADRパラメーターの値が01以外のときは、このパラメーターを指定してはいけません。

***RCMS**

この装置はリモート変更管理機能サーバー(RCMS)と通信します。 *RCMSは、4680または4684制御装置の場合にだけ指定してください。 4684制御装置の場合に、LOCADRパラメーターの値が01以外のときは、*RCMSを指定する必要があります。

***SBMRTLPGM**

この装置は、ADCS SUP (ユーザー・プログラム開始) サポートを使用して小売業制御装置でプログラムを開始するために、小売業プログラム投入(SBMRTLPGM)コマンドで使用されます。 この値が有効となるのは、制御装置に小売業POS通信機能ライセンス・プログラムが使用されている場合だけです。 4684制御装置に*SBMRTLPGMを指定してはいけません。

活動化タイマー (ACTTMR)

ホストIBM System i5からの活動化要求に装置が応答するのを待機する時間 (秒数) を指定します。 この時間内に装置が応答しない場合には、利用不能であると見なされます。

注: このパラメーターは、交換回線上的のみ、およびDEVCLSパラメーターに*SNPTが指定された場合のみ有効です。

*SAME

値は変更されません。

活動化タイマー

装置が使用不能であると見なされる前の秒数を指示する1から2550の範囲の数値を指定してください。

非活動タイマー (INACTTMR)

SNAパススルー・サポートを使用して接続された装置の場合には、装置がホスト・アプリケーションに制限されていない時間を測るタイムアウト値を指定します。タイムアウト値を超えた時に、セッションは終了します。

*SAME

値は変更されません。

*NOMAX

最大非活動時間は追跡されません（非活動タイマーは実施されません）。

*SEC15

15秒のタイムアウト期間が使用されます。

*SEC30

30秒のタイムアウト期間が使用されます。

非活動タイマー

タイムアウト値（分）を指定します。

上

SNAパススルー装置記述 (SNPTDEV)

ホストまたは拡張プログラム間通信機能(APPC)制御装置に接続する関連したSNA パススルー装置の名前を指定します。

*SAME

値は変更されません。

*NONE

名前は指定されません。

関連装置名

ホストまたはこの装置に関連したAPPC制御装置に接続する装置の名前を指定してください。

上

SNAパススルー・グループ名 (SNPTGRP)

構成リスト中のホスト装置のグループに対して構成された名前を指定します(CRTCFLGコマンドを参照してください)。これは、この装置が使用可能なグループの任意の装置と関連していることを指示します。

***SAME**

値は変更されません。

***NONE**

名前は指定されません。

グループ名

この装置と関連していなければならないホスト装置のグループに対して構成された名前を指定してください。

上

テキスト'記述' (TEXT)

***SAME**

テキスト（ある場合）は変更されません。

***BLANK**

テキストは指定されません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

上

例

CHGDEVRTL DEVD(RTL1) PACING(5)

このコマンドは、RTL1という名前の小売り業装置記述を、新しいペーシング値として5が指定されるように変更します。

上

エラー・メッセージ

***ESCAPEメッセージ**

CPF2618

装置記述&1は変更されなかった。

上

装置記述の変更(SNPT) (CHGDEVSNT)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

装置記述の変更(SNAパススルー) (CHGDEVSNT)コマンドはSNAパススルー (SNPT) 装置の装置記述を変更します。

制約事項: このコマンドを使用するには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
DEV	装置記述	名前	必須, キー, 定位置 1
LOCADR	ローカル・ロケーション・アドレス	00-FE, *SAME	オプション
ONLINE	IPL時のオンライン	*YES, *NO, *SAME	オプション
ACTTMR	活動化タイマー	1-2550, *SAME	オプション
SNPTDEV	SNAパススルー装置記述	名前, *SAME, *NONE	オプション
SNPTGRP	SNAパススルー・グループ名	名前, *SAME, *NONE	オプション
TEXT	テキスト記述	文字値, *SAME, *BLANK	オプション

上

装置記述 (DEV)

装置記述の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

上

ローカル・ロケーション・アドレス (LOCADR)

この装置のローカル・ロケーション・アドレスを指定します。

*SAME

値は変更されません。

位置アドレス

位置アドレスを指定してください。

上

IPL時のオンライン (ONLINE)

初期プログラム・ロード(IPL)時にこのオブジェクトを自動的にオンに構成変更するかどうかを指定します。

*SAME

値は変更されません。

*YES

この装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されます。

*NO

この装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されません。

上

活動化タイマー (ACTTMR)

ホストIBM System i5からの活動化要求に装置が応答するのを待機する時間 (秒数) を指定します。この時間内に装置が応答しない場合には、利用不能であると見なされます。

注: このパラメーターは、交換回線上的のみ、およびDEVCLSパラメーターに*SNPTが指定された場合のみ有効です。

*SAME

値は変更されません。

活動化タイマー

装置が使用不能であると見なされる前の秒数を指示する1から2550の範囲の数値を指定してください。

上

SNAパススルー装置記述 (SNPTDEV)

ホストまたは拡張プログラム間通信機能(APPC)制御装置に接続する関連したSNA パススルー装置の名前を指定します。

*SAME

値は変更されません。

*NONE

名前は指定されません。

関連装置名

ホストまたはこの装置に関連したAPPC制御装置に接続する装置の名前を指定してください。

上

SNAパススルー・グループ名 (SNPTGRP)

構成リスト中のホスト装置のグループに対して構成された名前を指定します(CRTCFGLコマンドを参照してください)。これは、この装置が使用可能なグループの任意の装置と関連していることを指示します。

*SAME

値は変更されません。

*NONE

名前は指定されません。

グループ名

この装置と関連していなければならないホスト装置のグループに対して構成された名前を指定してください。

上

テキスト'記述' (TEXT)

*SAME

テキスト（ある場合）は変更されません。

*BLANK

テキストは指定されません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

上

例

```
CHGDEVSNPT DEVD(SNPTDEV1) LOCADR(05) SNPTDEV(DOWNDEV1)
```

このコマンドは、SNPTDEV1という名前のSNAパススルー装置記述を変更します。装置のロケーション・アドレスはX'05'です。この装置と関連したSNAパススルー装置名はDOWNDEV1です。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF2618

装置記述&1は変更されなかった。

上

装置記述の変更(SNUF) (CHGDEVSNUF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

SNUF装置記述の変更(CHGDEVSNUF)コマンドは、システム・ネットワーク体系アップライン機能(SNUF)装置の装置記述を変更します。

制約事項: このコマンドを使用するには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
DEVDR	装置記述	名前	必須, キー, 定位置 1
LOCADR	ローカル・ロケーション・アドレス	*SAME, 01, 02, 03, 04, 05, 06, 07, 08, 09, 0A, 0B, 0C, 0D, 0E, 0F, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17, 18, 19, 1A, 1B, 1C, 1D, 1E, 1F, 20, 21, 22, 23, 24, 25, 26, 27, 28, 29, 2A, 2B, 2C, 2D, 2E, 2F, 30, 31, 32, 33, 34, 35, 36, 37, 38, 39, 3A, 3B, 3C, 3D, 3E, 3F, 40, 41, 42, 43, 44, 45, 46, 47, 48, 49, 4A, 4B, 4C, 4D, 4E, 4F, 50, 51, 52, 53, 54, 55, 56, 57, 58, 59, 5A, 5B, 5C, 5D, 5E, 5F, 60, 61, 62, 63, 64, 65, 66, 67, 68, 69, 6A, 6B, 6C, 6D, 6E, 6F, 70, 71, 72, 73, 74, 75, 76, 77, 78, 79, 7A, 7B, 7C, 7D, 7E, 7F, 80, 81, 82, 83, 84, 85, 86, 87, 88, 89, 8A, 8B, 8C, 8D, 8E, 8F, 90, 91, 92, 93, 94, 95, 96, 97, 98, 99, 9A, 9B, 9C, 9D, 9E, 9F, A0, A1, A2, A3, A4, A5, A6, A7, A8, A9, AA, AB, AC, AD, AE, AF, B0, B1, B2, B3, B4, B5, B6, B7, B8, B9, BA, BB, BC, BD, BE, BF, C0, C1, C2, C3, C4, C5, C6, C7, C8, C9, CA, CB, CC, CD, CE, CF, D0, D1, D2, D3, D4, D5, D6, D7, D8, D9, DA, DB, DC, DD, DE, DF, E0, E1, E2, E3, E4, E5, E6, E7, E8, E9, EA, EB, EC, ED, EE, EF, F0, F1, F2, F3, F4, F5, F6, F7, F8, F9, FA, FB, FC, FD, FE, FF	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
ONLINE	IPL時のオンライン	<u>*SAME</u> , *YES, *NO	オプション
PGMSTRRQS	プログラム開始要求可能	<u>*SAME</u> , *YES, *NO	オプション
SPCHOSTAPP	特別なホスト適用業務	<u>*SAME</u> , *NONE, *FLASH	オプション
APPID	適用業務識別コード	名前, <u>*SAME</u>	オプション
HOST	ホスト・タイプ	<u>*SAME</u> , *CICS, *IMS, *IMSRTR, *ADCS	オプション
RCDLEN	レコード長	1-32767, <u>*SAME</u>	オプション
BLKLEN	ブロックの長さ	1-32767, <u>*SAME</u>	オプション
DFTPGM	省略時のプログラム	単一値: <u>*SAME</u> その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 省略時のプログラム	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	
HCP EML	HCPエミュレーション	<u>*SAME</u> , *STRUSRPGM, 3651, 3684, 4680, 4684	オプション
TEXT	テキスト'記述'	文字値, <u>*SAME</u> , *BLANK	オプション

上

装置記述 (DEVD)

装置記述の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

上

ローカル・ロケーション・アドレス (LOCADR)

この装置のローカル・ロケーション・アドレスを指定します。

有効な値の範囲は01からFFです。

*SAME

値は変更されません。

上

IPL時のオンライン (ONLINE)

初期プログラム・ロード(IPL)時にこのオブジェクトを自動的にオンに構成変更するかどうかを指定します。

*SAME

値は変更されません。

*YES

この装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されます。

***NO**

この装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されません。

上

プログラム開始要求可能 (PGMSTRRQS)

プログラム開始要求(PSR)を通じたホスト・システム呼び出しのために、この装置を予約するかどうかを指定します。

***SAME**

値は変更されません。

***NO**

この装置は、PSR要求用に予約されません。

***YES**

この装置は、PSR要求用に予約されます。

上

特別なホスト適用業務 (SPCHOSTAPP)

SNUFが、顧客情報管理システム／仮想記憶(CICS/VS)または情報管理システム／仮想記憶(IMS/VS)応用層以外の特殊なホスト・アプリケーション用のサポートをカスタマイズしているかどうかを指定します。

***SAME**

値は変更されません。

***NONE**

SNUFは、特殊なホスト・アプリケーションに対するサポートをカスタマイズしていません。

***FLASH**

SNUFは、連邦準備フラッシュ・アプリケーションに対するサポートをカスタマイズしています。

上

適用業務識別コード (APPID)

ログオン・メッセージとともに送信されるVTAMアプリケーションIDを指定します。

***SAME**

値は変更されません。

上

ホスト・タイプ (HOST)

装置が通信を行うホスト・システムのタイプを指定します。

***SAME**

値は変更されません。

***CICS**

ホスト・システム・タイプがCICS/VSです。

***IMS**

ホスト・システム・タイプがIMS/VSです。

***IMSRTR**

情報管理システムはホスト・システムです。RTR（使用可能状態復帰）コマンドはホスト・システムとの通信に使用されます。

***ADCS**

ストア用拡張データ通信は、ホスト・システムです。

上

レコード長 (RCDLEN)

この装置との通信時に使用できる最大レコード長を指定します。

有効な値の範囲は1から32767です。

値は少なくとも、送信される最も大きいレコードのサイズでなければなりません。この装置が接続される回線記述に指定されたバッファ・サイズ(MAXBUFFERパラメーター)を超えてはいけません。

***SAME**

値は変更されません。

上

ブロックの長さ (BLKLEN)

この装置との通信時に使用できる最大ブロック長を指定します。

指定可能な値は1から32767までです。

値は少なくとも、送信される最も大きいレコードのサイズでなければなりません。この装置が接続される回線記述に指定されたバッファ・サイズ(MAXBUFFERパラメータ)を超えてはいけません。

*SAME

値は変更されません。

上

省略時のプログラム (DFTPGM)

プログラム開始要求が受信されたが、プログラムが指定されていない場合に呼び出されるプログラム名を指定します。

プログラムは、その修飾名(ライブラリー名/プログラム名)で指定されます。

*SAME

値は変更されません。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

*LIBL 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとして指定されているライブラリーがない場合、QGPLライブラリーが検索されます。

ライブラリー名

オブジェクトが入っているライブラリーを指定してください。

上

HCPエミュレーション (HCP EML)

実行したいホスト・コマンド・プロセッサ(HCP)エミュレーションを指定します。

*SAME

値は変更されません。

3651

ホストはADCSを実行中であり、3651 HCPエミュレート・セッションにこの装置記述を使用します。

3684

ホストはADCSを実行中であり、3684 HCPエミュレート・セッションにこの装置記述を使用します。

4680

ホストはADCSを実行中であり、4680 HCPエミュレート・セッションにこの装置記述を使用します。

4684

ホストはADCSを実行中であり、4684 HCPエミュレート・セッションにこの装置記述を使用します。

***STRUSRPGM**

ホストはADCSを実行中であり、ユーザー・プログラム開始(SUP)エミュレート・セッションにこの装置記述を使用します。

上

テキスト'記述' (TEXT)

***SAME**

テキスト（ある場合）は変更されません。

***BLANK**

テキストは指定されません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

上

例

```
CHGDEVSNUF DEVD(SNUFDEV01) PGMSTRRQS(*YES) DFTPGM(INQUIRY)
```

このコマンドは、通信装置SNUFDEV01の装置記述を、プログラム開始要求を使用してのホスト・システム呼び出し用に予約されるように変更します。省略時のプログラムはINQUIRYに変更されます。

上

エラー・メッセージ

***ESCAPEメッセージ**

CPF2618

装置記述&1は変更されなかった。

上

装置記述の変更（テープ）(CHGDEV TAP)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

テープ装置記述の変更(CHGDEV TAP)コマンドにより、テープ装置の装置記述が変更されます。

制約事項: このコマンドを使用するには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
DEV D	装置記述	名前	必須, キー, 定位置 1
RSRCNAME	資源名	名前, *SAME, *NONE, *VRT	オプション
ONLINE	IPL時のオンライン	*SAME, *YES, *NO	オプション
ASSIGN	オンに構成変更時の装置割当て	*SAME, *YES, *NO	オプション
UNLOAD	オフに構成変更時の装置アンロード	*SAME, *YES, *NO	オプション
MSGQ	MSG 待ち行列	単一値: *SAME, *SYSOPR その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: MSG 待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
TEXT	テキスト記述	文字値, *SAME, *BLANK	オプション
SWTSET	スイッチの設定値	文字値, *SAME	オプション

上

装置記述 (DEV D)

装置記述の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

上

資源名 (RSRCNAME)

この記述が表す仮想または物理ハードウェアを識別する資源名を指定します。物理ハードウェア資源の場合には、WRKHDWRSCコマンドを使用して資源名を判別してください。

*SAME

値は変更されません。

*NONE

この時点では資源名は指定されません。

***VRT**

資源名は、装置記述の変更時にオペレーティング・システムによって生成されます。資源名は仮想（物理ではない）ハードウェアを表します。

資源名

システム上の物理または仮想装置を識別するための名前を指定してください。

上

IPL時のオンライン (ONLINE)

初期プログラム・ロード(IPL)時にこのオブジェクトを自動的にオンに構成変更するかどうかを指定します。

***SAME**

値は変更されません。

***YES**

この装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されます。

***NO**

この装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されません。

上

オンに構成変更時の装置割当て (ASSIGN)

テープ駆動機構をオンに構成変更する時に、これをシステムに割り当てるかどうかを指定します。

***SAME**

値は変更されません。

***YES**

テープ駆動機構は、装置のオンへの構成変更時に割り当てられます。

***NO**

装置のオンへの構成変更時に、テープ駆動機構は割り当てられません。

上

オフに構成変更時の装置アンロード (UNLOAD)

装置がオフに構成変更された時に、テープ駆動機構がアンロードされるかどうかを指定します。

*SAME

値は変更されません。

*YES

装置がオフに構成変更された時に、テープ駆動機構はアンロードされます。

*NO

装置がオフに構成変更された時に、テープ駆動機構はアンロードされません。テープは巻き戻されますが、テープの始めマーカを超えることはありません。

上

MSG 待ち行列 (MSGQ)

この装置に対する操作メッセージが送られるメッセージ待ち行列を指定します。

修飾名として使用できるものは次の通りです。

*SAME

値は変更されません。

*SYSOPR

メッセージがQSYSのQSYSOPRメッセージ待ち行列に送られます。

メッセージ待ち行列名

操作メッセージが送られるメッセージ待ち行列の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

*LIBL 最初に一致するものが見つかるまで、ジョブのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

上

テキスト'記述' (TEXT)

*SAME

テキスト (ある場合) は変更されません。

***BLANK**

テキストは指定されません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

上

スイッチの設定値 (SWTSET)

注: このパラメーターはすでに有効ではありません。すべてのテープ装置にRSRCNAME パラメーターを指定してください。 SWTSETパラメーターは、このコマンドの以前のバージョンに対応させるために提供されるものです。指定すると、SWTSET パラメーターはシステムによって資源名に変換されます。

テープ装置のスイッチの設定を指定します。

3422, 3480,および3490テープ装置の場合には、使用可能な値は0からFです。

3430テープ装置の場合には、使用可能な値は0から3です。

***SAME**

値は変更されません。

上

例

```
CHGDEVTAP  DEVD(TAP01)  ONLINE(*YES)
```

このコマンドは、TAP01という名前のテープ装置の装置記述を、装置がIPL時に自動的にオンに構成変更されるように変更します。

上

エラー・メッセージ

***ESCAPEメッセージ**

CPF2618

装置記述&1は変更されなかった。

上

DHCP属性の変更 (CHGDHCPA)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

(CHGDHCPA) DHCPサーバー属性のAUTOSTARTおよびMODEを設定または変更するためには、このコマンドを使用してください。

この変更は、DHCPサーバーが次回開始されるまで有効となります。

制約事項:

このコマンドを使用するには、*IOSYSCFG特殊権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
AUTOSTART	自動開始サーバー	*YES, *NO, *SAME	オプション
MODE	モード	*SERVER, *RELAY, *SAME	オプション

上

自動開始サーバー (AUTOSTART)

AUTOSTART属性は、STRTCPコマンドを使用してTCP/IPが開始された時にDHCPサーバーが開始されるかどうか、あるいはSTRTCP SVR SERVER(*AUTOSTART)コマンドが出される時点を決めます。

この属性は、STRTCP SVR *AUTOSTARTが指定された場合にSTRTCP SVRコマンドによって使用されます。STRTCP SVR *DHCPまたはSTRTCP SVR *ALLでは、AUTOSTART属性の値とは無関係に、DHCPサーバーが開始されます。次の例外があります。

注: STRTCP SVR *ALLコマンドが出されると、構成されているすべてのTCP/IPサーバーが開始されます。しかし、BOOTPサーバーとDHCPサーバーは、同時に同じマシンで実行することはできません。

STRTCP SVR *ALLコマンドが出されると、システムは、BOOTPサーバーとDHCPサーバーのジョブが構成されているかどうかを最初にチェックして確認します。両方が構成されている場合には、システムは各サーバーのAUTOSTART属性をチェックします。

サーバー(BOOTPまたはDHCP)のAUTOSTART属性が*YESに設定され、他方が*NOに設定されている場合には、AUTOSTART属性が*YESに設定されたサーバーが開始されます。

BOOTPとDHCPの両方のAUTOSTART属性が*NOに設定されている場合には、DHCPサーバーが開始されません。

BOOTP AUTOSTART値が*YESに設定されている場合には、DHCP AUTOSTART属性を*YESに設定することはできません。BOOTPサーバーとDHCPサーバーを同じマシンで同時に実行することはできません。BOOTP値とDHCP AUTOSTART値の両方を*YES に設定しようとする、エラー・メッセージを受け取ります。

***SAME**

AUTOSTART値を前の設定から変更したくない場合には、*SAMEを指定してください。*SAMEを指定した場合に、この値が前に設定されていなければ、値*NOが使用されます。

***YES** STRTCPコマンドによってTCP/IPが開始されるたびに、あるいはTCP/IPサーバーがSTRTCP_{SVR} *AUTOSTARTコマンドによって開始されるたびにDHCPサーバーを自動始動したい場合には、*YESの値を指定してください。

***NO** STRTCPコマンドによってTCP/IPが開始されるたびに、あるいはTCP/IPサーバーがSTRTCP_{SVR} *AUTOSTARTコマンドによって開始されるたびにDHCPサーバーを自動的に開始したくない場合には、*NOの値を指定してください。

この値を*NOに設定した場合には、STRTCP_{SVR} *DHCPコマンドまたはSTRTCP_{SVR} *ALLコマンドによってのみDHCPサーバーが開始されます。

DHCPサーバーを使用する予定がない場合には、AUTOSTARTを*NOに設定してください。

上

モード (MODE)

MODE属性は、DHCPサーバーをどのように機能させるかを決定します。これはDHCPサーバーとして、あるいはリレー・エージェント専用として機能させることができます。リレー・エージェントは、ホストからBOOTPまたはDHCP パケットを送り出してBOOTPサーバーまたはDHCPサーバーを活動化し、サーバーからホストにそれを戻します。これはBOOTPサーバーまたはDHCPサーバーの機能を実行しません。

***SAME**

MODE値を前の設定から変更したくない場合には、*SAMEを指定してください。*SAME を指定した場合に、この値が前に設定されていなければ、値*SERVERが使用されます。

***SERVER**

ホスト要求に応答してDHCPサーバーで再使用可能なIPアドレスをホストに自動的に割り当てたい場合には、この値を*SERVERに設定してください。

***RELAY**

DHCPサーバーをリレー・エージェントのみとして機能させたい場合には、この値を*RELAYに設定してください。リレー・エージェントは、ホストからBOOTPまたはDHCP パケットを送り出してBOOTPサーバーまたはDHCPサーバーを活動化し、サーバーからホストにそれを戻します。これはBOOTPサーバーまたはDHCPサーバーの機能を実行しません。

上

例

例1: DHCPサーバーの自動始動

```
CHGDHCPA  AUTOSTART(*YES)
```

このコマンドは、次回にSTRTCPコマンドを出しTCP/IPが開始され、TCP/IPアプリケーションが自動始動されると、DHCPサーバーが自動始動されることを指示します。

例2: DHCP機能のBOOTP/DHCPリレー・エージェントとしての使用

```
CHGDHCPA  AUTOSTART(*SAME)  MODE(*RELAY)
```

このコマンドは、次回にDHCPを開始すると、BOOTP/DHCPリレー・エージェントとして機能することを指示します。ローカル・システムではDHCPパケットをもう処理しようとはしなくなりますが、その代わりにそのパケットを中継します。現在、DHCPが実行中である場合は、次回にサーバーが開始されるまで、CHGDHCPA属性は有効にならないので、このコマンドは現行実行モードに対して何の影響もありません。AUTOSTART属性は変更されません。

例3: DHCPサーバーの手動による開始の許可

```
CHGDHCPA  AUTOSTART(*NO)  MODE(*SERVER)
```

このコマンドは、STRTCPコマンドが出されるとTCP/IPの残りによって、DHCPサーバーは自動的に開始されません。これを手動で開始できるのはSTRTCP SVRコマンドによってのみです。MODE設定の*SERVERによって、この例はDHCPサーバーがこのシステムで受信したすべてのDHCPパケットを処理しようとするようになります。

上

エラー・メッセージ

なし

上

ディレクトリー項目変更 (CHGDIRE)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター

例

エラー・メッセージ

ディレクトリー項目変更(CHGDIRE)コマンドにより、システム配布ディレクトリー内のある特定の項目についてそのデータを変更することができます。

このコマンドはX.400プロダクト(X.400)のサポートを提供します。X.400は、オープン・システム間相互接続(OSI)アプリケーションとして&SYS.システム用に開発された限定プログラム・オフリング(LPO)です。これは、国際電信電話諮問委員会(CCITT)が提唱する勧告のX.400シリーズを実施して、異なるベンダー（例えば、IBMとDEC など）からなるシステム上のユーザー間でメッセージ（メール）の交換を可能にします。

CHGDIREコマンドは対話式表示画面サポートを提供しません。これは、ディレクトリー項目処理(WRKDIRE)コマンドで提供されます。

注:

1. システムが英小文字を大文字に変更しないようにするためには、値をアポストロフィで囲みます。これはユーザーID/アドレス、システム名/グループ、部門、またはX.400発信元/宛先名には適用されません。
2. ユーザーID/アドレス、システム名/グループ、部門、またはX.400 O/R名だけは、CMDCHRIDパラメーターで指定された図形文字識別子(GCID)から変換されます。他のパラメーターはすべて入力された通りに正確に記憶され、GCIDはそれと一緒に記憶されます。省略時のGCID値にはシステム値QCHRIDからの値が使用されます。ユーザーは、文字セットまたはコード・ページを指定するか、あるいは表示装置記述に*DEVDを指定することによって省略時の値を一時変更することができます。
3. 2バイト文字セット(DBCS)文字は、次のシステム・ディレクトリー項目パラメーターに入力することができます。
 - USRD
 - LSTNAM
 - FSTNAM
 - MIDNAM
 - PREFNAM
 - FULNAM
 - DEPT
 - TITLE
 - CMPNY
 - LOCATION
 - BLDG
 - OFC
 - ADDR1
 - ADDR2

- ADDR3
 - ADDR4
 - TEXT
 - USRDFNFLD
4. 管理担当者には、すべてのディレクトリー項目を更新する権限があります。管理担当者ではないユーザーは固有のディレクトリー項目の特定フィールドの変さらに制限されています。管理担当者ではないユーザーがこのコマンドを実行し、自分以外のUSRIDを指定した場合には、エラー・メッセージが戻されます。管理担当者以外の者が次のフィールドのどれかに対する変更を要求した場合には、コマンドを実行中の担当者はこれらのフィールドの更新を許可されていないことを示すメッセージが戻されます。
- 記述 (USRD)
 - ユーザー・プロフィール (USER)
 - システム名 (SYSNAME)
 - 間接ユーザー (INDUSR)
 - 個人用メールの受信 (PRTPERS)
 - 姓 (LSTNAM)
 - 名 (FSTNAM)
 - ミドル・ネーム (MIDNAM)
 - 好みの名前 (PREFNAM)
 - 完全な名前 (FULNAM)
 - 部門 (DEPT)
 - 転送元 (FWDFRM)
 - ネットワーク・ユーザーID (NETUSRID)
 - 同期可能 (ALWSYNC)
 - DLO所有者 (DLOOWN)
 - X.400 O/R名フィールド (COUNTRY, ADMD, PRMD, ORG, SURNAM, GIVENNAM, INITIALS, GENQUAL, ORGUNIT,およびDMNDFNATR)
 - メール・サービス・レベル (MSFSRVLVL)
 - 優先アドレス (PREFADR)

ディレクトリーのX.400 O/R名は、このコマンドを使用して変更することができます。X.400は通信の国際規格であり、O/R名はX.400で使用するアドレッシング情報です。X.400 O/R名は文字セット1169およびコード・ページ500になっていなければなりません。このセットには、AからZ, 0から9,および一部の特殊文字が含まれています。使用できる文字の詳細説明はISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「グローバリゼーション」情報にあります。

制約事項ディレクトリー項目に入っている任意のデータ（ユーザーID およびアドレスを除く）を更新するためには、ユーザーは管理担当者権限をもっていなければなりません。管理担当者でないユーザーは、自分のディレクトリー項目の中の限られた数のフィールドしか更新することができません。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
USRID	ユーザー識別コード	要素リスト	必須, キー, 定位置 1
	要素 1: ユーザー識別コード	文字値	
	要素 2: アドレス	文字値	
USRD	ユーザー記述	単一値: <u>*SAME</u> その他の値: 要素リスト	オプション, 定位置 2
	要素 1: 既存の記述	文字値, *FIRST	
	要素 2: 新しい記述	文字値	
USER	ユーザー・プロフィール	名前, <u>*SAME</u> , *NONE	オプション
SYSNAME	システム名	単一値: <u>*SAME</u> , *LCL, *PC, *ERROR その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: システム名	文字値	
	要素 2: システム・グループ	文字値	
NETUSRID	ネットワーク・ユーザーID	文字値, <u>*SAME</u> , *USRID	オプション
LSTNAM	姓	文字値, <u>*SAME</u> , *NONE	オプション
FSTNAM	名	文字値, <u>*SAME</u> , *NONE	オプション
MIDNAM	ミドル・ネーム	文字値, <u>*SAME</u> , *NONE	オプション
PREFNAM	優先名	文字値, <u>*SAME</u> , *NONE	オプション
FULNAM	完全な名前	文字値, <u>*SAME</u> , *DFT	オプション
DEPT	部門	文字値, <u>*SAME</u> , *NONE	オプション
TITLE	役職	文字値, <u>*SAME</u> , *NONE	オプション
CMPNY	会社	文字値, <u>*SAME</u> , *NONE	オプション
TELNBR1	電話番号 1	文字値, <u>*SAME</u> , *NONE	オプション
TELNBR2	電話番号 2	文字値, <u>*SAME</u> , *NONE	オプション
FAXTELNBR	FAX電話番号	文字値, <u>*SAME</u> , *NONE	オプション
LOC	ロケーション	文字値, <u>*SAME</u> , *NONE	オプション
BLDG	ビルディング	文字値, <u>*SAME</u> , *NONE	オプション
OFC	オフィス	文字値, <u>*SAME</u> , *NONE	オプション
ADDR1	住所行1	文字値, <u>*SAME</u> , *NONE	オプション
ADDR2	住所行2	文字値, <u>*SAME</u> , *NONE	オプション
ADDR3	住所行3	文字値, <u>*SAME</u> , *NONE	オプション
ADDR4	住所行4	文字値, <u>*SAME</u> , *NONE	オプション
FWDFRM	転送元ユーザー識別コード	単一値: <u>*SAME</u> , *NONE その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: ユーザー識別コード	文字値	
	要素 2: アドレス	文字値	
INDUSR	間接ユーザー	<u>*SAME</u> , *NO, *YES	オプション
PRTPEPERS	個人用メールの印刷	<u>*SAME</u> , *NO, *YES	オプション
PRTCOPER	カバー・ページの印刷	<u>*SAME</u> , *YES, *NO	オプション
NFYMAIL	メール通知	<u>*SAME</u> , *SPECIFIC, *ALLMAIL, *NOMAIL	オプション
NFYPTPEPERS	優先, 私用, 重要	<u>*SAME</u> , *YES, *NO	オプション
NFYMSG	メッセージ	<u>*SAME</u> , *YES, *NO	オプション
TEXT	テキスト	文字値, <u>*SAME</u> , *NONE	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノート
CMDCHRID	コマンド文字識別コード	単一値: *SYSVAL, *DEVD その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: グラフィック文字セット	整数	
	要素 2: コード・ページ	整数	
COUNTRY	国別または地域ID	文字値, *SAME, *NONE	オプション
ADMD	管理ドメイン	文字値, *SAME, *NONE	オプション
PRMD	私用管理ドメイン	文字値, *SAME, *NONE	オプション
SURNAM	姓	文字値, *SAME, *NONE, *LSTNAM	オプション
GIVENAM	名	文字値, *SAME, *NONE, *FSTNAM	オプション
INITIALS	初期	文字値, *SAME, *NONE	オプション
GENQUAL	生成修飾子	文字値, *SAME, *NONE	オプション
ORG	組織名	文字値, *SAME, *NONE	オプション
ORGUNIT	組織単位	単一値: *SAME, *NONE その他の値 (最大 4 回の繰り返し): 文字値	オプション
DMNDFNATR	ドメイン定義属性	単一値: *SAME, *NONE その他の値 (最大 4 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: タイプ	文字値	
	要素 2: 値	文字値	
USRDFNFLD	ユーザー定義のフィールド	単一値: *SAME, *NONE その他の値 (最大 100 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: フィールド名	文字値	
	要素 2: プロダクトID	文字値, *NONE	
	要素 3: 値	文字値	
MSFSRVLVL	メール・サービス・レベル	単一値: *SAME, *USRIDX, *SYSMS, *DOMINO その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: フィールド名	文字値	
	要素 2: プロダクトID	文字値, *NONE	
PREFADR	優先アドレス	要素リスト	オプション
	要素 1: フィールド名	文字値, *SAME, *USRID, *ORNAME, *SMTP	
	要素 2: プロダクトID	文字値, *NONE	
	要素 3: アドレス・タイプ	文字値	
CCMAILADR	CC&COLON.MAILアドレス	文字値, *SAME, *NONE	オプション
CCMAILCMT	CC&COLON.MAIL注記	文字値, *SAME, *NONE	オプション
ALWSYNC	同期可能	*SAME, *YES, *NO	オプション
DLOWN	DLO所有者	*SAME, *USRPRF, *GRPPRF	オプション

上

ユーザー識別コード (USRID)

更新するディレクトリー項目のユーザーIDおよびアドレスを指定します。両方の部分を指定しなければなりません。

これは必須パラメーターです。

ユーザーIDおよびアドレス

ユーザーIDおよびアドレスの両方を指定してください。各部分には、最大8文字を入れることができます。

上

ユーザー記述 (USRD)

変更される特定の記述と、それにとって代わる記述を指定します。記述は、ユーザーIDおよびアドレスに対してだけは固有でなければなりません。ディレクトリー中では固有とする必要はありません。

注: このフィールドを更新できるのは管理担当者だけです。

*SAME

特定の記述が提供されず、このユーザーのどの記述に対しても変更は行われません。

表示される**既存の記述**の値は次の通りです。

***FIRST**

ユーザーの最初の記述が変更されます。

既存の記述

このユーザーの、変更される特定の記述を指定してください。

指定できる**新しい記述**の値は次の通りです。

新しい記述

指定した記述値にとって代わる新しいユーザー記述を指定してください。

上

ユーザー・プロフィール (USER)

ユーザーのユーザー・プロフィールを指定します。

注: このフィールドを更新できるのは管理担当者だけです。

*SAME

ユーザー・プロフィールは変更されません。

***NONE**

ユーザー・プロフィールは空白に変更されます。この値は、リモート・ユーザーの場合にのみ有効です。

ユーザー・プロフィール名

正しいシステム・ユーザー・プロフィール名として最大10桁までを指定してください。すべてのローカル・ユーザーにプロフィール名が必要です。リモート・ユーザーがローカル・システムの文書およびフォルダーを処理する必要がある場合にのみ、リモート・ユーザーにユーザー・プロフィールが必要となります。

上

システム名 (SYSNAME)

ユーザーが作業を行うシステムのシステム名およびグループ名を指定します。

詳細は、AS/400 SNA配布サービス (SD88-5031)にあります。

注: このフィールドを更新できるのは管理担当者だけです。

*SAME

システム名およびグループ名は変更されません。

***LCL** システム名およびグループ名の省略時の値として、ローカル・システム名が使用されます。

***PC** *PCは、このシステムに接続したパーソナル・コンピューター(PC)の分散システム・ノード管理機能(DSNX)ユーザー用です。

***ERROR**

ユーザー・ネットワークに未解決のすべての配布を受け取る中央システムが入っている場合には、この値を使用してください。このタイプのネットワークでは、配布が予定システムで特定のユーザーIDを見つけることができず、予定システムに配布を中央システムに送る*ANY *ANY項目がある時に配布のループ状態が起こることがあります。中央システムにも、未解決の配布を予定システムに送る省略時の*ANYアドレス項目があります。配布のループ状態を防止するためには、追加または変更する省略時の項目のシステム名として*ERRORを指定してください。配布が特定のユーザーIDを見つけられないで、この省略時の項目と一致した場合には、その配布は、ディレクトリーの一致が見つからなかった場合と同様に、正しくないユーザーとして処理されます。

*ERRORは、ユーザー識別コード (USRID)パラメーターに*ANYアドレスまたは*ANY *ANYが指定されている時にだけ有効です。

システム名およびグループ

ユーザーの記述が送られる送信先のシステムのシステム名およびグループ名を指定してください。システム名だけが必須です。各部分には、最大8文字を入れることができます。

リモート・システム名およびグループはシステム・ネットワーク・テーブルに対して定義する前にユーザーに割り当てることができますが、システム名およびグループがリモート・システムで定義されるまでそのリモート・ユーザーに配布を送ることはできません。リモート・システム名およびグループは配布サービス構成(CFGDSTSRV)コマンドを使用して定義します。

上

ネットワーク・ユーザーID (NETUSRID)

ディレクトリー項目のネットワーク・ユーザーIDを指定します。ネットワーク・ユーザーIDは、ネットワーク内のユーザーを固有に識別するために使用されます。

*SAME

値は変更されません。

***USRID**

ネットワーク・ユーザーIDをこの項目に関連のあるユーザーIDおよびアドレスに変更してください。ネットワーク・ユーザーIDの形式は、8桁のユーザーID、1個の空白文字、および8桁のアドレスです。

ネットワーク・ユーザーID

このユーザーのネットワーク・ユーザーIDを指定してください。最大47桁を指定することができます。

上

姓 (LSTNAM)

ユーザーの姓を指定します。名前（姓、名、ミドル・ネーム、優先名、またはフルネーム）が指定されていないで、**部門 (DEPT)**パラメーターに値が指定されている場合には、姓の省略時の値としてアスタリスク(*)が使用されます。

*SAME

姓は変更されません。

*NONE

姓はブランクに変更されます。

姓 ユーザーの姓として最大40文字までを指定してください。

上

名 (FSTNAM)

ユーザーの名を指定します。

*SAME

名は変更されません。

*NONE

名はブランクに変更されます。

名 ユーザーの名として最大20文字までを指定してください。

上

ミドル・ネーム (MIDNAM)

ユーザーのミドル・ネームを指定します。

*SAME

ミドル・ネームは変更されません。

*NONE

ミドル・ネームはブランクに変更されます。

ミドル・ネーム

ユーザーのミドル・ネームとして最大20文字までを指定してください。

上

優先名 (PREFNAM)

ユーザーがこの名前でもアドレス指定されることを希望する名前を指定します。

*SAME

優先名は変更されません。

*NONE

優先名はブランクに変更されます。

優先名 ユーザーの優先名として最大8桁までを指定してください。

上

完全な名前 (FULNAM)

ユーザーのフルネームを指定します。このフィールドは管理担当者が入力するか、あるいはシステムによって作成することができます。このフィールドに管理担当者がデータを入力した場合には、そのデータは入力された形式で記憶されます。フルネームを指定しなかった場合には、システムによって次のように作成されます。

- 姓, 名 ミドル (優先)
- フルネームの一部が指定されていない場合には、抜けている部分がこの形式から除去されます。
- 優先名を指定した時には、常に括弧で囲まれます。
- 優先名を指定したが、姓, 名, およびミドル・ネームの後に50文字以内に収まらない場合には、フルネーム・フィールドの最後の数桁がこの優先名によって占められ、それらの桁の文字が置き換えられます。したがって、優先名を指定した場合には、その優先名は常に表示されます。

注: このフィールドを変更できるのは、管理担当者だけです。

*SAME

前のフルネームが管理担当者によって入力されたものである場合には、フルネームは変更されません。

前のフルネームが、姓, 名, ミドル・ネーム, および優先名を基にしてシステムによって作成されたものである場合に、新しい姓, 名, ミドル・ネーム, または優先名を指定した場合には、フルネームは、システムによって新しい値から作成されます。

***DFT** フルネームは省略時の値から決定されます。

フルネーム

ユーザーのフルネームとして、50文字までを指定してください。

上

部門 (DEPT)

ユーザーがそのメンバーとなっている部門の名前または番号を指定します。

注: このフィールドを変更できるのは、管理担当者だけです。

*SAME

部門の名前または番号は変更されません。

***NONE**

部門の名前または番号は空白に変更されます。

部門名 ユーザーの部門の名前として最大10桁を指定してください。

上

役職 (TITLE)

ユーザーの職名（マーケティング・ディレクター、会計主任、生産技術者など）を指定します。

***SAME**

ユーザーの職名は変更されません。

***NONE**

職名は空白に変更されます。

役職 ユーザーの職名として最大40文字までを指定してください。

上

会社 (CMPNY)

ユーザーが勤めている会社の名前を指定します。

***SAME**

会社名は変更されません。

***NONE**

会社名は空白に変更されます。

会社 会社名として最大50文字までを指定してください。

上

電話番号 1 (TELNR1)

ユーザーの主電話番号を指定します。電話番号はユーザーに適した任意の配置（国際電話番号形式を含む）で指定することができます。

***SAME**

電話番号は変更されません。

***NONE**

主電話番号は空白に変更されます。

電話番号1

ユーザーの主電話番号として最大26桁までを指定してください。

上

電話番号 2 (TELNBR2)

ユーザーの2次電話番号を指定します。電話番号はユーザーに適した任意の配置（国際電話番号形式を含む）で指定することができます。

*SAME

2次電話番号は変更されません。

*NONE

2次電話番号は空白に変更されます。

電話番号2

ユーザーの2次電話番号として最大26桁までを指定してください。

上

FAX電話番号 (FAXTELNBR)

ユーザーのファクシミリ電話番号を指定します。ファクシミリ電話番号は、ユーザーに適した任意の形式（国際電話番号形式を含む）で指定することができます。

*SAME

ファクシミリ電話番号は変更されません。

*NONE

ファクシミリ電話番号は空白に変更されます。

ファクシミリ電話番号

最大32桁のユーザーのファクシミリ電話番号を指定します。

上

ロケーション (LOC)

ユーザーのロケーションを指定します。

*SAME

ユーザーのロケーションは変更されません。

*NONE

ロケーションは空白に変更されます。

ロケーション

ユーザーのロケーションとして最大40文字までを指定してください。

上

ビルディング (BLDG)

ユーザーが働いているビルディングの名前を指定します。

*SAME

ビルディングの名前は変更されません。

***NONE**

ビルディングの名前は空白に変更されます。

ビルディング

ユーザーが働いているビルディングの名前として、最大20文字までを指定してください。

上

オフィス (OFC)

ユーザーのオフィスの名前または番号を指定します。

***SAME**

ユーザーのオフィスの名前または番号は変更されません。

***NONE**

ユーザーのオフィスの名前または番号は空白に変更されます。

オフィス

ユーザーのオフィスの名前または番号として、最大16文字までを指定してください。

上

住所行1 (ADDR1)

ユーザーの郵便宛先住所を指定します。これらの各フィールドには、最大40文字まで入力することができます。

***SAME**

住所行は変更されません。

***NONE**

住所行は空白に変更されます。

文字値 ユーザーの郵便宛先住所を任意の形式で指定してください。

上

住所行2 (ADDR2)

ユーザーの郵便宛先住所を指定します。これらの各フィールドには、最大40文字まで入力することができます。

***SAME**

住所行は変更されません。

***NONE**

住所行は空白に変更されます。

文字値 ユーザーの郵便宛先住所を任意の形式で指定してください。

上

住所行3 (ADDR3)

ユーザーの郵便宛先住所を指定します。これらの各フィールドには、最大40文字まで入力することができます。

*SAME

住所行は変更されません。

*NONE

住所行は空白に変更されます。

文字値 ユーザーの郵便宛先住所を任意の形式で指定してください。

上

住所行4 (ADDR4)

ユーザーの郵便宛先住所を指定します。これらの各フィールドには、最大40文字まで入力することができます。

*SAME

住所行は変更されません。

*NONE

住所行は空白に変更されます。

文字値 ユーザーの郵便宛先住所を任意の形式で指定してください。

上

転送元ユーザー識別コード (FWDFRM)

指定されたユーザーIDおよびアドレスから配布が自動的に転送されるかどうかを指定します。この値が有効なのは、ローカル・ユーザーの場合だけです。この値をディレクトリー中の既存のユーザーID、アドレス、または転送元の値とすることはできません。これは、ディレクトリー項目名前変更(RNMDIRE)コマンドで使用され、すべてのユーザーが名前変更されるかあるいは変更されるまで、配布を前のユーザーに送ることができます。

*SAME

値は変更されません。

*NONE

配布は転送されません。

要素1:ユーザーID

ユーザーID

配布の転送元のユーザーIDを指定してください。最大8桁を指定することができます。この値を指定した場合には、要素2にアドレスを指定しなければなりません。

要素2:アドレス

アドレス

配布の転送元のアドレスを指定してください。最大8桁を指定することができます。

上

間接ユーザー (INDUSR)

ユーザーが間接ユーザーであるかどうかを指定します。間接ユーザーとは、システムにサインオンしないでメールを受信するローカル・ユーザーのことです。間接ユーザーの場合は、メールは自動的に印刷されます。各間接ユーザーは、ローカル・システム上にプロファイルをもっていなければなりません。

注: このフィールドを更新できるのは管理担当者だけです。

*SAME

間接ユーザー標識は変更されません。

*NO ユーザーは間接ユーザーではありません。

*YES ユーザーは間接ユーザーです。

上

個人用メールの印刷 (PRTPEERS)

間接ユーザーの私用メールを印刷するかどうかを指定します。私用メールの印刷時には、印刷装置に対する公衆アクセスを制約することを考慮しなければなりません。

注: このフィールドを更新できるのは管理担当者だけです。

*SAME

私用メール印刷標識は変更されません。

*NO 間接ユーザー向けの私用メールは印刷されません。

*YES 間接ユーザー向けの私用メールは印刷されます。

上

カバー・ページの印刷 (PRTCOPER)

メール項目の印刷時にカバー・ページを印刷するかどうかを指定します。

*SAME

カバー・ページ印刷標識は変更されません。

*YES メール項目の印刷時にカバー・ページが印刷されます。

*NO メール項目の印刷時にカバー・ページは印刷されません。

上

メール通知 (NFYMAIL)

ユーザーがメッセージ待ち行列にメッセージを受け取ることによって、メールの到着通知を受けるかどうかを指定します。

*SAME

メール通知標識は変更されません。

***SPECIFIC**

優先, 私用, 重要 (NFYPTYPERS)パラメーターおよびメッセージ (NFYMSG)パラメーターに指定されたタイプのメールが到着した時にだけ, ユーザーに通知されます。これらのタイプのメールには, 優先順位および個人用メール, およびメッセージを組み込むことができます。

***ALLMAIL**

ユーザーはすべてのタイプのメールについて到着通知を受けます。

***NOMAIL**

ユーザーはメールの到着通知を受けません。

上

優先, 私用, 重要 (NFYPTYPERS)

ユーザーが優先順位メール, 私用メール, および重要メールの到着について通知を受けるかどうかを指定します。メール通知 (NFYMAIL)パラメーターに*NOMAILまたは *ALLMAILが指定されている場合には, このパラメーターは無視されます。

***SAME**

値は変更されません。

***YES** ユーザーは, 優先順位メール, 私用メール, および重要メールの到着通知を受けます。

***NO** ユーザーは, 優先順位メール, 私用メール, および重要メールの到着通知を受けません。

上

メッセージ (NFYMSG)

ユーザーがメッセージの到着通知を受けるかどうかを指定します。メール通知 (NFYMAIL)パラメーターに*NOMAILまたは *ALLMAILが指定されている場合には, このパラメーターは無視されます。

***SAME**

メール・メッセージ標識は変更されません。

***YES** ユーザーはメッセージの到着通知を受けます。

***NO** ユーザーはメッセージの到着通知を受けません。

上

テキスト (TEXT)

ディレクトリー項目を記述する詳細情報を指定します。

***SAME**

テキストは変更されません。

***NONE**

テキストはブランクに変更されます。

記述 ユーザーに関する詳細情報を記述した50文字までのテキストを指定してください。

上

コマンド文字識別コード (CMDCHRID)

コマンド・パラメーター値として入力するデータの文字ID (図形文字セットおよびコード・ページ) を指定します。このパラメーターに指定した値は、**ユーザー識別コード (USRID)**パラメーター、**システム名 (SYSNAME)**パラメーター、**部門 (DEPT)**パラメーター、およびすべてのX.400 O/R名パラメーターに適用されます。

注:

- ユーザーIDおよびアドレス、システム名およびグループ、およびX.400 O/Rパラメーターだけが、このパラメーターで指定された図形文字セットID (GCID)に変換されます。指定したその他のパラメーター値はすべて、入力されたままの状態に記憶されます。GCIDの値はこれらと一緒に記憶されます。
- このコマンドを対話式に実行した場合には、表示装置記述から省略時のGCID値が取られます。このコマンドをバッチで実行した場合には、省略時のGCID値はQCHRID システム値から取られます。このパラメーターに特定の文字セットおよびコード・ページを指定することによって、これらの値を一時変更することができます。

注: 次のシステム・ディレクトリー入力パラメーターには2バイト文字セット(DBCS)文字を入力することができます。

- **ユーザー記述 (USRD)**
- 姓 (LSTNAM)
- 名 (FSTNAM)
- ミドル・ネーム (MIDNAM)
- 優先名 (PREFNAM)
- 完全な名前 (FULNAM)
- 部門 (DEPT)
- 役職 (TITLE)
- 会社 (CMPNY)
- ロケーション (LOC)
- ビルディング (BLDG)
- オフィス (OFC)
- 住所行1 (ADDR1)
- 住所行2 (ADDR2)
- 住所行3 (ADDR3)
- 住所行4 (ADDR4)
- テキスト (TEXT)

単一値

***SYSVAL**

システムは、QCHRIDシステム値からコマンド・パラメーターの図形文字セットおよびコード・ページ値を判別します。

***DEVVD**

システムは、このコマンドが入力された表示装置記述からの図形文字セットおよびコード・ページ

値を判別します。このオプションは、対話式ジョブから入力された時にだけ有効です。このオプションがバッチ・ジョブで指定された場合には、エラーが起こります。

要素1: グラフィック文字セット

1から32767

使用する図形文字セットを指定してください。

要素2: コード・ページ

1から32767

使用するコード・ページを指定してください。

上

国または地域 (COUNTRY)

X.400発信元/宛先(O/R)名の国または地域名部分を指定します。

*SAME

国または地域名は変更しません。

*NONE

国または地域名はブランクに変更されます。

国別または地域コード

ISO X.400コード・リスト・テーブルから、ISO 3166 ALPHA-2コードまたはCCITT国別または地域コードを指定してください。ISO X.400コード・リスト・テーブルのi5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「プログラミング」カテゴリーに含まれる制御言語(CL)トピック・コレクションにある「EXPANDED DESCRIPTIONS」のCOUNTRYパラメーターの説明を参照してください。

上

管理ドメイン (ADMD)

X.400 O/R名の管理ドメイン部分を指定します。

*SAME

管理ドメインは変更されません。

*NONE

事務管理機能ドメインはブランクに変更されます。

事務管理機能ドメイン

管理ドメインの記述として、最大16文字までを指定してください。管理ドメインは、管理領域を取り扱う公的な組織体であり、システムのメッセージ処理機能を包含した一連のメッセージ転送エージェントおよびユーザー・エージェントです。

上

私用管理ドメイン (PRMD)

X.400 O/R名の私用管理ドメイン部分を指定します。

*SAME

私用管理ドメインは変更されません。

*NONE

私用管理ドメインはブランクに変更されます。

私用管理ドメイン

私用管理ドメインの記述として、最大16文字までを指定してください。私用管理ドメインは、管理ドメインを取り扱う民間会社または非営利事業団体であり、システムのメッセージ処理機能を包含した一連のメッセージ転送エージェントおよびユーザー・エージェントです。

上

姓 (SURNAM)

X.400 O/R名中の個人名のX.400ユーザーの姓の部分を指定します。

注: GIVENNAM (姓), INITIALS (イニシャル), またはGENQUAL (世代修飾子) に値が指定されている場合には、このパラメーターは必須パラメーターです。

*SAME

姓は変更されません。

*NONE

姓はブランクに変更されます。

*LSTNAM

ディレクトリー項目に指定されているユーザーの姓が、姓として使用されます。

姓 姓として最大40文字までを指定してください。

上

名 (GIVENNAM)

X.400 O/R名中の個人名のX.400ユーザーの名の部分を指定します。

注: このパラメーターに値を指定している場合には、SURNAM (姓) パラメーターが必要です。

*SAME

名は変更されません。

*NONE

名はブランクに変更されます。

*FSTNAM

ディレクトリー項目に指定されているユーザーの名が、名として使用されます。16文字になるように切り捨てられます。

名 名として最大16文字までを指定してください。

上

初期 (INITIALS)

X.400 O/R名の中の個人名の頭文字の部分を指定します。例えば、'JOHN HENRY SMITH'の頭文字は'JH'となります。

注: このパラメーターに値を指定している場合には、SURNAM (姓) パラメーターが必要です。

*SAME

頭文字は変更されません。

*NONE

頭文字は空白に変更されます。

頭文字 頭文字として最大5文字までを指定してください。

上

生成修飾子 (GENQUAL)

X.400 O/R名の中の個人名の世代修飾子の部分を指定します。例えば、'JOHN R. SMITH, III'の世代修飾子は'III'です。

注: このパラメーターに値を指定している場合には、SURNAM (姓) パラメーターが必要です。

*SAME

世代修飾子は変更されません。

*NONE

世代修飾子は空白に変更されます。

世代修飾子

世代修飾子として最大3文字までを指定してください。

上

組織名 (ORG)

X.400 O/R名の中の組織名の部分を指定します。

*SAME

組織名は変更されません。

*NONE

組織名は空白に変更されます。

組織 組織名として最大64文字までを指定してください。

上

組織単位 (ORGUNIT)

X.400 O/R名の組織定義単位の部分を指定します。

***SAME**

組織単位は変更されません。

***NONE**

組織単位はブランクに変更されます。

組織単位

組織単位の名前として、最大32文字までを指定してください。最大4つの組織単位を、その重要性の大きい順にリストすることができます。

上

ドメイン定義属性 (DMNDFNATR)

既存のシステムがメッセージを送信できるようにするために、X.400標準では指定されていないが、X.400 O/R名の中では使用できるドメイン定義属性のタイプおよび値を指定します。最大4セットの属性を指定することができます。

注: X.121アドレスを指定するためには、タイプ フィールドに X.121 を入力し、値 フィールドにX.121アドレスを入力してください。X.121アドレスには、最大15個の数字を指定することができます。

他のドメイン定義属性を指定している場合には、X.121の対は指定した最後の属性でなければなりません。X.121アドレスを指定した場合には、国または地域 フィールドにも値を指定しなければなりません。

X.121は、X.25パケット交換データ網の国際番号づけ方式を提供するCCITT勧告です。

指定できる**タイプ**の値は次の通りです。

***SAME**

タイプは変更されません。

***NONE**

タイプはブランクに変更されます。

タイプ ドメイン定義属性のタイプとして、最大8文字までを指定してください。

指定できる**値**の値は次の通りです。

***SAME**

値は変更されません。

***NONE**

値はブランクに変更されます。

値 ドメイン定義属性の値として、最大128文字までを指定してください。

上

ユーザー定義のフィールド (USRDFNFLD)

ユーザー定義フィールドの名前と値を指定します。CHGSYSDIRAコマンドを使用し、F4キーによってプロンプトを出して、ユーザー定義フィールド名のリストを表示することができます。最大100個のユーザー定義フィールドを指定することができます。F4プロンプトを押した場合、サイズが最大長を超えると、このフィールドは既存の値で埋められません。この場合、既存の値を表示するには、ディレクトリー項目処理(WRKDIRE)コマンドを使用してください。既存の値のサイズが最大長を超えない場合には、このフィールドに既存の値が埋め込まれます。

注: 次のSMTPユーザー定義フィールドは、CHGSYSDIRAコマンドのプロンプトが出された時に常に表示されるわけではありませんが、システム配布ディレクトリーにSMTP情報を追加するためのユーザー定義フィールド(USRDFNFLD)パラメーターでまだ使用することができます。

- SMTPAUSRID SMTP
- SMTPDMN SMTP
- SMTPRTE SMTP

*SAME

値は変更されません。

*NONE

このユーザーのすべてのユーザー定義フィールド値が消去されます。

指定できるユーザー定義フィールド名の値は次の通りです。

フィールド名

最大10桁のユーザー定義フィールド名を指定してください。

指定できるユーザー定義フィールド・プロダクトIDの値は次の通りです。

*NONE

ユーザー定義フィールド・プロダクトIDは指定されません。

プロダクトID

最大7桁のユーザー定義フィールド・プロダクトIDを指定してください。

指定できるユーザー定義フィールド値の値は次の通りです。

値 ユーザー定義フィールド値の値として最大512桁を指定してください。すべてのフィールドがここで指定された値で置き換えられます。右側にブランクが埋め込まれます。ブランク値を指定すると値全体が消去されます。

上

メール・サービス・レベル (MSFSRVLVL)

ローカル・ユーザーのメール・サーバー・フレームワーク・サービス・レベルを指定します。リモート・ユーザーの場合には、このパラメーターは無視されます。これは、メールがシステム上のどこに記憶されるかを示します。

*SAME

値は変更されません。

*USRIDX

メールはユーザー見出しに記憶されます。

***SYSMS**

メールは、POST OFFICE PROTOCOL (POP)メールボックスに記憶されます。これはパーソナル・コンピュータ上のPOPクライアントによってPOPインターフェースを使用してSystem i5 POPサーバーからアクセスすることができます。

***DOMINO**

メールは、LOTUS DOMINOメール・データベースに記憶されます。

指定できるメール・サービス・レベル・フィールド名の値は次の通りです。

フィールド名

最大10桁のフィールド名を指定してください。この値には、システム・ディレクトリー中の、CHGSYSDIRAコマンドによってUSRDFNFLDパラメーターでフィールド・タイプが*MSFSRVLVLとして定義されたユーザー定義フィールドを使用する必要があります。したがって、ここで指定するユーザー定義フィールドには、プログラムがメールの記憶場所を判別する時にメール・サーバー・フレームワーク・ユーザー出口プログラムで必要となる情報が入っていない必要があります。アドレス解決の出口点名はQIBM_QZMFMSF_ADR_RSLです。詳細については、ANYMAIL/400 MAIL SERVER FRAMEWORK SUPPORT (SC41-5411)を参照してください。このフィールドは単に標識として使用することもでき、その場合にはこの値をユーザー定義のフィールドにする必要はありません。ここで指定する値をユーザー定義フィールドにすることをお奨めします。

指定できるメール・サービス・レベル・プロダクトIDの値は次の通りです。

***NONE**

ユーザー定義フィールド・プロダクトIDは指定されません。

プロダクトID

最大7桁のユーザー定義フィールド・プロダクトIDを指定してください。

上

優先アドレス (PREFADR)

ユーザーの優先アドレスを指定します。これは、システム配布ディレクトリー中のどのフィールドをユーザーの優先アドレスとして使用するかをメール・サーバー・フレームワークに指示するものです。SNADSの場合には、*USRIDを指定してください。SNADSは、X.400 O/R名およびSIMPLE MAIL TRANSFER PROTOCOL (SMTP)名のゲートウェイを含むユーザー見出しに送られるすべての配布を処理します。

使用できる単一の値は次の通りです。

***SAME**

値は変更されません。

***USRID**

ユーザーID/アドレスがこのユーザーの優先アドレスです。

***ORNAME**

X.400 O/R名がこのユーザーの優先アドレスです。

***SMTP**

SMTP名がこのユーザーの優先アドレスです。

指定できる優先アドレス・フィールド名の値は次の通りです。

フィールド名

最大桁のフィールド名を指定してください。この値には、システム・ディレクトリー中の、CHGSYSDIRAによってUSRDFNFLDパラメーターでフィールド・タイプが*ADDRESSとして定義されたIBM定義またはユーザー定義のフィールドを使用する必要があります。したがって、ここで指定するフィールドは、プログラムがメールの記憶場所を判別する時にメール・サーバー・フレームワーク・ユーザー出口プログラムで必要となる情報を含むものでなければなりません。このフィールドは単に標識として使用することもでき、その場合に、この値をIBM定義またはユーザー定義のフィールドにする必要はありません。可能な時はいつも、ここで指定する値をIBM定義またはユーザー定義のフィールドにしてください。

指定できる優先アドレス・プロダクトIDの値は次の通りです。

*NONE

ユーザー定義フィールド・プロダクトIDは指定されません。

***IBM** フィールド名はシステム配布ディレクトリーのIBM定義フィールドです。 使用できるIBM定義フィールド名は次の通りです。

- USER (ユーザー・プロファイル)
- CCMAILADR (CC:MAILアドレス)
- FULNAM (フルネーム)
- NETUSRID (ネットワーク・ユーザーID)
- TELNBR1 (電話番号1)
- TELNBR2 (電話番号2)
- FAXTELNBR (ファクシミリ電話番号)

プロダクトID

最大7桁のユーザー定義フィールド・プロダクトIDを指定してください。

指定できる優先アドレスのアドレス・タイプの値は次の通りです。

アドレス・タイプ

最大8桁のアドレス・タイプを指定します。 アドレス・タイプは、メール・フレームワーク・タイプ構成追加(QZMFADDMAILCFG) APIで指定されるメール・サーバー・フレームワーク・タイプ名です。 可能な時はいつも、この値は、メール・サーバー・フレームワークの構成タイプ名の1つにしてください。 特殊値である優先アドレスにアドレス・タイプを指定する場合には、プロダクトIDに*Nを指定してください。

上

CC&COLON.MAILアドレス (CCMAILADR)

このユーザーのCC:MAILアドレスを指定します。

*SAME

値は変更されません。

*NONE

CC:MAILアドレスは指定されません。

'CC:MAILアドレス☒

CC:MAILアドレスを指定してください。 アドレス・フィールドは最大126桁です。 アドレスにリモ

ート郵便局名と別名の両方を含める場合には、それぞれの最大桁は126桁で、この2つを区切るスペースが1つ（合計は253桁）となります。リモート郵便局名にスペースが入る場合には、名前を引用符で囲まなければなりません。この場合には、制限に2桁が追加され、合計は128桁または255桁（別名がある場合）となります。

上

CC&COLON.MAIL注記 (CCMAILCMT)

このユーザーのCC:MAIL注記を指定します。

*SAME

値は変更されません。

*NONE

CC:MAIL注記は指定されません。

'CC:MAIL注記

CC:MAIL注記値に最大126桁を指定してください。

上

同期可能 (ALWSYNC)

この項目と他のディレクトリーとの同期が可能かどうかを指定します。

*SAME

値は変更されません。

*YES 同期は可能です。

*NO 同期は可能ではありません。

上

DLO所有者 (DLOOWN)

ユーザー・プロファイルまたはグループ・プロファイルに、このディレクトリー項目の文書ライブラリー・オブジェクト(DLO)の所有権を割り当てるかどうかを指定します。

注: このディレクトリー項目のユーザー・プロファイル・フィールドにユーザー・プロファイルがない場合には、DLO所有者フィールドの値は無視されます。

*SAME

値は変更されません。

*USRPRF

このディレクトリー項目と関連したユーザー・プロファイルが、新たに作成されたDLOの所有者になります。

*GRPPRF

このディレクトリー項目と関連するユーザー・プロファイルに指定されたグループ・プロファイル

は、新しく作成されたDLOの所有者となり、DLOに対する全権限を持っています。ユーザー・プロファイルのグループ・プロファイル値が*NONEである場合には、DLOの所有者がユーザー・プロファイルです。

上

例

例1:ユーザーの電話番号の変更

```
CHGDIRE  USRID(HURST PAYROLL)  USER(*SAME)  TELNBR1('456-4489')
```

このコマンドを実行するユーザーはユーザーID HURST PAYROLLをもっていて、機密保護管理者権限をもっていないものとします。ユーザーの主電話番号はブランクに変更されます。その他の情報はすべて同じままになっています。このコマンドは、HURST PAYROLL以外の誰かがこのコマンドを実行し、機密保護管理者権限をもっている場合と同様に機能します。このコマンドを実行中の担当者がHURST PAYROLLではなく、機密保護管理者権限がない場合は、エラー・メッセージが戻されます。

例2:ユーザーのアドレス、電話番号、およびテキスト情報の変更

```
CHGDIRE  USRID(BYRD NEWYORK)  USER(AJBYRD)  SYSNAME(*LCL)
          ADDR1('DEPT55N/025-3')  ADDR2('IBM ROCHESTER')
          ADDR3(*NONE)  ADDR4(*NONE)  TELNBR1('456-4489')
          LOC(ROCHESTER)  TEXT('BOCAから移籍したユーザー')
```

このコマンドを実行中の担当者には機密保護管理者権限があるものとします。ユーザー(BYRD NEWYORK)はリモート・ユーザーからローカル・ユーザーに移動しています。現在、ユーザーはローカル・ユーザーなので、現在はプロファイル名を指定しなければなりません。ユーザーのアドレス、電話番号、およびテキスト情報が更新されます。

例3:ユーザーの氏名、所属、およびオフィスの変更

```
CHGDIRE  USRID(JANE CHICAGO)  LSTNAM('SMITH')  MIDNAM('ALLEN')
          FULNAM(*DFT)  DEPT(55N)  OFC(L305)
```

このコマンドを実行中の担当者には機密保護管理者権限があるものとします。ユーザーJANE CHICAGOの名前は変更されていて、同時に、新しいオフィスおよび部門に移動しています。JANEの氏名は'SMITH, JANE ALLEN'に変更されます。FULNAM(*SAME)を指定するか、省略時の値として使用すると、たとえば名およびミドル・ネームを変更してもJANEの氏名は同じままになっています。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF8360

コミットメント制御操作を実行するための記憶域が不十分である。

CPF89A3

権限の理由のために操作が正常に行なわれていない。

CPF89A4

データ妥当性検査理由のために操作が正常に行なわれていない。

CPF89AE

ネットワーク・ユーザーID &1のディレクトリー項目は変更されなかった。

CPF8AA1

ライブラリーQUSRSYSの導入が完全でない。

CPF90A8

要求した操作を実行するためには*SECADM特殊権限が必要である。

CPF9024

システムが操作を終了する正しいレコードを獲得することができない。

CPF905C

変換テーブルを見つけようとした時にエラーが起こった。

CPF907E

自身のディレクトリー項目しか変更することができない。

CPF907F

指定されたパラメーターを使用することはできない。

CPF9083

ユーザーIDおよびアドレス&1 &2は変更されなかった。

CPF9096

バッチ・ジョブではCMDCHRID(*DEV D), DOCCHRID(*DEV D)を使用することはできない。

CPF9838

ユーザー・プロファイルの記憶域限界を超えた。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

上

ディレクトリー・シャドー・システムの変更 (CHGDIRSHD)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ディレクトリー・シャドー・システム変更(CHGDIRSHD)コマンドは、シャドー処理を行うように定義されたシステムを変更します。

制約事項:

このコマンドを使用するためには、機密保護管理者(*SECADM)権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
SYSNAME	システム名	文字値	必須, キー, 定位置 1
NXTSHD	次のシャドー	単一値: *CURRENT, *SCD, *SAME その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 日付	日付	
	要素 2: 時刻	時刻	
SCD	スケジュール済みシャドー	単一値: *CURRENT, *SAME その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 日付	日付	
	要素 2: 時刻	時刻	
FRQ	シャドー化頻度	*DAILY, *WEEKLY, *BIWEEKLY, *MONTHLY, *MONTHLYREL, *HOURS, *SAME	オプション
HOURS	時間間隔	1-999, *SAME	オプション
SKIPDAY	スキップする曜日	単一値: *NONE, *SAME その他の値 (最大 5 回の繰り返し): *SUN, *MON, *TUE, *WED, *THU, *FRI, *SAT	オプション
MONTHWK	月内の週	4, *LAST, *SAME	オプション
REINZ	データの初期設定	単一値: *NONE, *NONAPPC, *SAME その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 方法	*APPC	
	要素 2: データの置換え	*NO, *YES, *SAME	
RMTLOCNAME	リモート ロケーション名	文字値, *SYSNAME, *SAME	オプション
MODE	モード	文字値, *NETATR, *SAME	オプション
RMTNETID	リモート・ネットワーク 識別コード	文字値, *LOC, *NETATR, *NONE, *SAME	オプション

キーワード	記述	選択項目	ノート
LCLLOCNAME	ローカル・ロケーション名	文字値, *LOC, *NETATR, <u>*SAME</u>	オプション
TEXT	テキスト記述	文字値, *SYSNAME, <u>*SAME</u>	オプション

上

システム名 (SYSNAME)

ローカル・システムにデータを提供するシステムを指定します。変更する提供元システムの名前として最大8桁を指定することができます。大文字(AからZ),数字(0から9),および特殊文字(@, #, ¥, および組み込みブランク)を指定することができます。組み込みブランクは単一引用符(')で囲む必要があります。先行ブランクは使用できません。@, #, および¥文字は、正規の文字セットでなくすべてのキーボードで使用できるとは限らないので、好ましくありません。

これは必須パラメーターです。

上

次のシャドー (NXTSHD)

次のシャドーが行なわれる日付および時刻を指定します。これは、再試行が行なわれるか、あるいは予定されたシャドー日付に加えて次のシャドー日付が指定されている場合を除き、予定されたシャドー日付と同じです。

*SAME

値は変更されません。

*CURRENT

現在の日付および時刻が使用されます。

*SCD 予定された日付および時刻が使用されます。

指定できる次のシャドー日付の値は次の通りです。

次のシャドー日付

ユーザー・システムに対してシステムが次のシャドー処理を開始する日付を指定してください。

この日付はジョブ日付の形式で指定しなければなりません。

指定できる次のシャドー時刻の値は次の通りです。

次のシャドー時刻

ユーザー・システムに対してシステムが次のシャドー処理を開始する時刻を指定してください。

時刻は、次のように時刻区切り記号つきまたはなしの24時間形式で指定されます。

- 時刻区切り記号付きで、5桁または8桁のストリングを指定してください。この場合に、時刻区切り記号は時、分、秒を区切ります。コマンド入力行からこのコマンドを入力する場合には、このストリングはアポストロフィで囲む必要があります。ジョブに指定された時刻区切り記号以外の時刻区切り記号を使用した場合には、このコマンドは正常に実行されません。

- 時刻区切り記号を使用しない場合には、4または6桁のストリング(HHMMまたはHHMMSS)を指定します。ここで、**HH** =時、**MM** =分、および**SS** =秒です。**HH**の有効な値の範囲は00から23です。**MM**および**SS**の有効な値の範囲は00から59です。

これは必須パラメーターです。

上

スケジュール済みシャドー (SCD)

予定されたシャドーの日付および時刻を指定します。

*SAME

値は変更されません。

*CURRENT

システムは、現在の日付および時刻でデータのシャドー処理を開始します。

指定できるシャドー日付の値は次の通りです。

予定されたシャドー日付

ユーザー・システムに対してシステムがデータのシャドー処理を開始する日付を指定してください。この日付はジョブ日付の形式で指定しなければなりません。

指定できるシャドー時刻の値は次の通りです。

予定されたシャドー時刻

ユーザー・システムに対してシステムがデータのシャドー処理を開始する時刻を指定してください。

時刻は、次のように時刻区切り記号つきまたはなしの24時間形式で指定されます。

- 時刻区切り記号付きで、5桁または8桁のストリングを指定してください。この場合に、時刻区切り記号は時、分、秒を区切ります。コマンド入力行からこのコマンドを入力する場合には、このストリングはアポストロフィで囲む必要があります。ジョブに指定された時刻区切り記号以外の時刻区切り記号を使用した場合には、このコマンドは正常に実行されません。
- 時刻区切り記号を使用しない場合には、4または6桁のストリング(HHMMまたはHHMMSS)を指定します。ここで、**HH** =時、**MM** =分、および**SS** =秒です。**HH**の有効な値の範囲は00から23です。**MM**および**SS**の有効な値の範囲は00から59です。

これは必須パラメーターです。

上

シャドー化頻度 (FRQ)

SCDパラメーターに指定された値に基づいて、変更中の提供元システムがユーザー・システムに対してデータのシャドー処理を行う頻度を指定します。

*SAME

値は変更されません。

*WEEKLY

シャドー処理は1週間に1回行われます。

***DAILY**

シャドー処理は1日1回行われます。

***BIWEEKLY**

シャドー処理は、隔週に行われます。

***MONTHLY**

シャドー処理は、毎月同じ日に行われます。

***MONTHLYREL**

シャドー処理は、月の最初の月曜日というように、毎月同じ相対週の同じ相対曜日に行われます。

***HOURS**

シャドー処理は、HOURS（時間数）パラメーターに指定された間隔で行われます。

上

時間間隔 (HOURS)

提供元システムからのシャドー処理からシャドー処理までの間の時間数を指定します。このパラメーターが有効なのは、FRQ(*HOURS)が指定されている場合だけです。

***SAME**

値は変更されません。

時間数 シャドー処理からシャドー処理までの時間数を指定してください。

上

スキップする曜日 (SKIPDAY)

シャドー処理が行なわれない曜日を指定します。*NONE以外に最大5つの値を指定することができます。

このパラメーターが有効なのは、FRQ(*DAILY)が指定されている場合だけです。

***SAME**

値は変更されません。

***NONE**

スキップされる曜日はありません。

***SUN** 日曜日がスキップされます。

***MON** 月曜日がスキップされます。

***TUE** 火曜日がスキップされます。

***WED** 水曜日がスキップされます。

***THU** 木曜日がスキップされます。

***FRI** 金曜日がスキップされます。

***SAT** 土曜日がスキップされます。

上

月内の週 (MONTHWK)

月の同じ相対曜日に行なわれるシャドー処理を4週目に行う予定か、あるいは月の最後の週に行う予定かを指定します。

このパラメーターが有効なのは、FRQ(*MONTHLYREL)が指定されている場合およびSCDパラメーターの日付が22日、23日、または24日になっている場合だけです。

*SAME

値は変更されません。

4 シャドー処理は、月の4週目の同じ相対曜日に行われます。

*LAST

シャドー処理は、その月が4週であるか5週であるかに関係なく、月の最後の週の同じ相対曜日に行われます。

上

データの初期設定 (REINZ)

最初のシャドーを再度実行するときは使用する方法を指定します。最初のシャドーは、提供元システムの配布ディレクトリーのすべてのデータを複写します。以後のシャドーには、前のシャドー以後に変更されたデータだけが含まれます。

可能な方式の値は次の通りです。

*SAME

値は変更されません。

*NONE

シャドー処理されたディレクトリー・データは再初期設定されません。

*NONAPPC

ディレクトリーヘコピー(CPYTODIR)コマンドは、ディレクトリーの再初期設定に使用されます。

*APPC

拡張プログラム間通信機能を使用してこのコマンドを実行する時に、最初のシャドーが行われます。大きなディレクトリーをもつ販売会社システムを追加している場合には、最初のシャドーによって通信回線が占有されないようにするために、*NONAPPC を指定する必要がある場合もあります。

*APPCを指定すると、同じ項目が提供元システムのディレクトリーにも存在する場合に、要素2によって、ユーザー・システムのディレクトリー項目のフィールド中のデータをシャドー処理されたデータと置き換えるかどうかを指定することができます。

方式フィールドに*APPCが指定された場合には、可能なデータの置き換え値は次の通りです。

*SAME

値は変更されません。

***NO** ユーザー・システムの既存のディレクトリー項目のフィールド中のデータは、提供元システムからのデータと置き換えられません。

***YES** シャドー処理されたすべてのデータがユーザー・システムの配布ディレクトリーに追加されます。

ユーザー・システムの既存のディレクトリー項目のフィールド中のデータは、同じ項目が提供元システムのディレクトリーにもあれば、シャドー処理されたデータで置き換えられます。

上

リモート ロケーション名 (RMTLOCNAME)

変更される提供元システムのリモート・ロケーション名を指定します。

*SAME

値は変更されません。

*SYSNAME

SYSNAMEパラメーターに指定された値がリモート・ロケーション名として使用されます。

リモート・ロケーション名

リモート・ロケーションの名前を指定してください。

最大8桁を指定することができます。最初の文字は大文字のAからZか特殊文字¥, #, または@でなければなりません。名前にブランク, プラス符号(+),ピリオド(.),または下線(_)を入れることはできません。詳細については、拡張プログラム間通信(APPC)プログラマーの手引きを参照してください。

上

モード (MODE)

提供元システムからのデータのシャドー時に使用される、装置上のセッションを定義するモードの名前を指定します。

*SAME

値は変更されません。

*NETATR

ネットワーク属性のモードが使用されます。

モード名

モード名を指定してください。

最大8桁を指定することができます。最初の文字は大文字のAからZか特殊文字¥, #, または@でなければなりません。名前にブランク, プラス符号(+),ピリオド(.),または下線(_)を入れることはできません。詳細については、拡張プログラム間通信(APPC)プログラマーの手引きを参照してください。

上

リモート・ネットワーク 識別コード (RMTNETID)

提供元システムのリモート・ネットワークID (ID)を指定します。

*SAME

値は変更されません。

***LOC** リモート・ロケーションと関連したリモート・ネットワークIDが使用されます。複数のリモー

ト・ネットワークIDがリモート・ロケーションと関連付けられている場合には、どのリモート・ネットワークIDを使用するかをシステムが決定します。

***NETATR**

ネットワーク属性に指定されたリモート・ネットワークIDが使用されます。

***NONE**

リモート・ネットワークIDは使用されません。

リモート・ネットワークID

リモート・ネットワークIDを指定してください。

最大8桁を指定することができます。最初の文字は大文字のAからZか特殊文字¥, #, または@でなければなりません。名前にブランク, プラス符号(+),ピリオド(.),または下線(_)を入れることはできません。詳細については、拡張プログラム間通信(APPC)プログラマーの手引きを参照してください。

上

ローカル・ロケーション名 (LCLLOCNAME)

ローカル・ロケーション名を指定します。ローカル・ロケーション名は、変更中の提供元システムに対してユーザー・システムを識別するために使用されます。

***SAME**

値は変更されません。

***LOC** リモート・ロケーションと対応したローカル・ロケーション名が使用されます。

***NETATR**

システム・ネットワーク属性で指定されたLCLLOCNAME値が使用されます。

ローカル・ロケーション名

ローカル・ロケーション名を指定してください。

最大8桁を指定することができます。最初の文字は大文字のAからZか特殊文字¥, #, または@でなければなりません。先頭文字にブランク, プラス符号(+),ピリオド(.), または下線(_)は使用できません。詳細については、拡張プログラム間通信(APPC)プログラマーの手引きを参照してください。

上

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

***SAME**

値は変更されません。

***SYSNAME**

SYSNAMEパラメーターに指定された名前が記述に使用されます。

'記述' 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

上

例

例1: 次のシャドー日時の変更

```
CHGDIRSHD  SYSNAME(NYCITY)
           NXTSHD('93/05/01' '8:00:00')
```

このコマンドは、システムNYCITYの次のシャドーイングのオカレンスを変更します。これはスケジュール日時には影響を及ぼしません。このシステムのシャドーイングが完了すると、次の日時がスケジュール日時から計算されます。このコマンドはシャドーイングのスケジュールに対する一時的変更で使用されます。

例2: シャドー日時の変更

```
CHGDIRSHD  SYSNAME(NEWYORK)
           SCD('93/06/01' '20:00:00')
           FRQ(*BIWEEKLY)
```

このコマンドは、システムNEWYORKのスケジュール済みシャドーイング日付を1993年6月1日の8:00 PMに変更します。シャドーイングの頻度は1週おきです。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF90A8

要求した操作を実行するためには*SECADM特殊権限が必要である。

CPF90FE

シャドー提供元&1の追加または変更が正常に行なわれなかった。

CPF905C

変換テーブルを見つけようとした時にエラーが起こった。

CPF9838

ユーザー・プロファイルの記憶域限界を超えた。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

上

ディレクトリー・サーバー属性の変更 (CHGDIRSVRA)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: はい

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ディレクトリー・サーバー属性の変更(CHGDIRSVRA)コマンドは、ディレクトリー・サーバー構成を変更します。ディレクトリー・サーバーは、i5/OS上にLightweight Directory Access Protocol (LDAP)サーバーを提供します。

制約事項:

- このコマンドを使用するには、全オブジェクト(*ALLOBJ)および入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。
- /QIBM/UserData/OS400/DirSrv/idsslapd-<INSTANCE>/etcディレクトリーにあるディレクトリー・サーバー構成ファイル(ibmslapd.conf)への読み取り／書き込み(*RW)権限が必要です。ここで、<INSTANCE>はINSTANCEパラメーターの値に置き換えられます。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
INSTANCE	インスタンス	名前, <u>QUSRDIR</u>	オプションル, 定位置 1
DN	識別名	単一値: *SAME その他の値: 要素リスト	オプションル
	要素 1: 識別名	文字値, *ADMINDN, *UPDATEDN	
	要素 2: パスワード	文字値	

上

インスタンス (INSTANCE)

構成を変更するディレクトリー・サーバー・インスタンスを指定します。

QUSRDIR

システムの省略時のディレクトリー・サーバー・インスタンスの名前。

名前 ディレクトリー・サーバー・インスタンス名を指定します。この名前の文字数は、最小で1文字、最大で8文字です。

上

識別名 (DN)

ディレクトリー・サーバーのいずれかの管理ユーザーに新しいパスワードを指定します。変更できるパスワードには次のものがあります。

- サーバー管理者
- ローカル管理グループ・メンバー
- 複製提供者のバインド識別名

単一値

*SAME

値は変更されません。

要素1: 識別名

*ADMINDN

ディレクトリー・サーバー管理者のパスワードを変更するために使用されます。ローカル管理グループのメンバーのパスワードを変更するには、その管理グループ・メンバーのDNを指定します。

*UPDATEDN

提供者サーバーにディレクトリーの更新を伝搬する際にこのサーバーが使用できる識別名のパスワードを変更するために使用されます。これは、省略時の複製証明書に指定されたDNとパスワードに対応します。サブツリーに固有の提供者のパスワードを変更するには、その提供者のバインドDNを指定します。

文字値 パスワードが変更される際の識別名を指定します（例えば、cn=administrator）。最大長は50文字です。

要素2: パスワード

文字値 識別名に新しいパスワードを指定します。パスワードは大／小文字の区別があり、アポストロフィで囲む必要があります。最大長は50文字です。

上

例

例1:管理者パスワードの変更

```
CHGDIRSVRA  INSTANCE(QUSRDIR)
              DN(*ADMINDN 'private')
```

このコマンドは、QUSRDIRディレクトリー・サーバー・インスタンス構成用のディレクトリー・サーバー管理者のパスワードを変更します。

例2:更新パスワードの変更

```
CHGDIRSVRA  INSTANCE(QUSRDIR)
              DN(*UPDATEDN 'private')
```

このコマンドは、QUSRDIRレプリカ用のディレクトリー・サーバー・インスタンス構成にディレクトリーの更新を伝搬する際にマスター・サーバーが使用する必要のある識別名のパスワードを変更します。

例3: cn=Fluffyパスワードの変更

```
CHGDIRSVRA INSTANCE(DOGGIES)
DN('cn=Fluffy' 'poodle')
```

このコマンドは、DOGGIESディレクトリー・サーバー・インスタンス構成のFluffy識別名のパスワードを変更します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

GLD0215

ディレクトリー・サーバー・インスタンス&1が見つかりません。

GLD0218

不十分な権限または誤った識別名およびパスワードが指定されています。

GLD0219

管理者識別名と管理者パスワードの両方が必要である。

GLD021C

サーバーを構成するためには、APIの呼び出し側に&1および&2特殊権限が必要である。

GLD0227

サーバーが活動状態の時には、識別名は変更できません。

GLD0229

ライブラリー&2の妥当性検査リスト&1が見つからなかった。

GLD0231

プロジェクト・ユーザーのパスワードを設定できません。

CPFA314

メモリー割り振りエラー。

上

DLO監査レベルの変更 (CHGDLOAUD)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

文書ライブラリー・オブジェクト監査の変更(CHGDLOAUD)コマンドによって、監査(*AUDIT)特殊権限をもつユーザーは、文書ライブラリー・オブジェクト(DLO)またはDLOのグループの監査レベルを変更することができます。

注:

1. コマンドが処理を開始する時に存在している文書ライブラリー・オブジェクトだけが変更されます。コマンドの実行中に作成されたオブジェクトは、この変さらに含まれないことがあります。
2. フォルダー中のオブジェクト (*ROOTレベル・フォルダーも含む) の変更時には、その後にフォルダーに作成されるオブジェクトが含まれるフォルダーの監査レベルを引き継ぐように、そのフォルダーの監査レベルが最初に変更されます。
3. システム上のすべてのオブジェクトの変更時には、*ROOTレベル・フォルダーが最初に変更されます。
4. 任意のフォルダーに入れられない新しく作成される文書の省略時の監査レベルは、QCRTOBJAUDシステム値で見つかった値となります。任意のフォルダーに入れられない新しく作成されたすべての文書が適切な監査レベルを引き継ぐようにするために、任意のフォルダーに入れられない文書に対してCHGDLOAUDコマンドを実行する前に、このシステム値を所要の監査レベルに変更しなければなりません。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
DLO	文書ライブラリー・オブジェクト	文字値, *SYSOBJNAM, *ROOT, *ALL	必須, 定位置 1
FLR	フォルダー	文字値, *NONE, *ANY, *ROOT	オプション, 定位置 2
SYSOBJNAM	システム・オブジェクト名	名前	オプション
AUDDLO	DLO監査レベル	*SAME, *NONE, *USRPRF, *CHANGE, *ALL	オプション
LEVEL	リストのレベル	*CURRENT, *ALL	オプション

上

文書ライブラリー・オブジェクト (DLO)

その監査レベルが変更される文書またはフォルダーの名前を指定します。FLR(*ANY)を指定した場合には、DLO(*ALL)も指定しなければなりません。

*ALL 指定されたフォルダーのすべてのDLOの監査レベルが変更されます。

***ROOT**

*ROOTレベル・フォルダーの監査レベルが変更されます。 AUDDLOパラメーターに指定された値が、新しいすべての第1レベルのフォルダーの省略時の監査レベルとなります。

DLO(*ROOT)を指定した場合には、FLR(*NONE)も指定しなければなりません。

***SYSOBJNAM**

SYSOBJNAMパラメーターに指定されたシステム・オブジェクト名をもつ文書またはフォルダーの監査レベルが変更されます。

DLO(*SYSOBJNAM)を指定した場合には、FLR(*NONE)も指定しなければなりません。

名前 監査レベルを変更する文書ライブラリー・オブジェクトを指定します。

上

フォルダー (FLR)

その監査レベルを変更する文書ライブラリー・オブジェクトが入っているフォルダーを指定します。DLO(*ROOTまたは*SYSOBJNAM)を指定した場合には、FLR(*NONE)も指定しなければなりません。

***NONE**

フォルダー中にない文書は変更されます。

***ANY** すべての文書ライブラリー・オブジェクトが変更されます。

FLR(*ANY)を指定した場合には、DLO(*ALL)も指定しなければなりません。

***ROOT**

すべての第1レベルのフォルダーが変更されます。また、*ROOTレベル・フォルダーも変更されます。

名前 その監査レベルを変更する、文書ライブラリー・オブジェクトが入っているフォルダーの名前を指定してください。 DLO(*ALL)が指定された場合には、そのコマンドに指定されたフォルダーも変更されます。

上

システム・オブジェクト名 (SYSOBJNAM)

システム・オブジェクト名を指定します。 このパラメーターが有効なのは、DLO(*SYSOBJNAM)が指定された場合だけです。10桁の文字を指定しなければなりません。

上

DLO監査レベル (AUDDLO)

変更される文書またはフォルダーの監査レベルを指定します。

***SAME**

レベルは変更されません。

***NONE**

文書またはフォルダーに対して、読み取りまたは変更の監査は行われません。

***USRPRF**

このセッションの監査レコードを送信するかどうかを判別するためは、現行のユーザー・プロフィールが使用されます。

***CHANGE**

このDLOへのすべての変更アクセスがログされます。

***ALL** このDLOへのすべての変更および読み取りアクセスがログされます。

上

リストのレベル (LEVEL)

指定されたフォルダー中のネストされたレベルの文書およびフォルダーを変更するかどうかを指定します。

***CURRENT**

現行レベルの文書およびフォルダーだけが変さらに含まれます。

***ALL** すべてのレベルの文書およびフォルダーが変さらに含まれます。

上

例

例1: 監査レベルの変更

```
CHGDLOAUD DLO(MYDOC) FLR(MYFLR) AUDDL0(*ALL)
```

このコマンドは、フォルダーMYFLR内の文書MYDOCの監査レベルを変更するので、このDLOに対する変更または読み取りアクセスのすべてが機密保護ジャーナルに記録されます。

例2: システム・オブジェクト名監査レベルの変更

```
CHGDLOAUD DLO(*SYSOBJNAM) SYSOBJNAM(FMCM210974)
AUDDL0(*ALL)
```

このコマンドは、システム・オブジェクト名FMCM210974をもつ文書の監査レベルを変更するので、このDLOに対する変更または読み取りアクセスのすべてが機密保護ジャーナルに記録されます。

例3: すべてのDLOの監査レベルの変更

```
CHGDLOAUD DLO(*ALL) FLR(*ANY) AUDDL0(*ALL)
```

このコマンドは、すべてのDLOの監査レベルを変更するので、このDLOに対する変更または読み取りアクセスのすべてが機密保護ジャーナルに記録されます。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF22B0

監査値の変更は認可されていない。

CPF89AF

一部の文書ライブラリー・オブジェクトの監査レベルが変更されていない。

CPI905C

&1文書ライブラリー・オブジェクトが変更された

上

DLO権限の変更 (CHGDLOAUT)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

文書ライブラリー・オブジェクト権限変更(CHGDLOAUT)コマンドにより、文書またはフォルダーに対する既存のユーザーの権限を変更することができます。すなわち、このコマンドによって次のことを行うことができます。

- 既存のユーザーの特定権限の変更
- 特定権限をもたないユーザー(*PUBLIC)の権限の変更
- オブジェクトの機密保護を指定した権限リストの変更
- 既存の機密保護レベルの変更、または参照オブジェクトの機密保護レベルへの機密保護の変更

制約事項:

そのオブジェクトに対して全(*ALL)権限をもっているか、全オブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限をもっているか、あるいはこのオブジェクトの所有者でなければなりません。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
DLO	文書ライブラリー・オブジェクト	文字値, *ALL, *SYSOBJNAM, *ROOT	必須, 定位置 1
FLR	フォルダー	文字値, *NONE	オプション
USRAUT	ユーザー権限	単一値: *SAME その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: ユーザー・プロファイル	名前, *PUBLIC	
	要素 2: 権限レベル	*USE, *CHANGE, *EXCLUDE, *ALL, *AUTL	
AUTL	権限リスト	名前, *SAME, *NONE	オプション
SENSITIV	機密性	*SAME, *NONE, *PERSONAL, *PRIVATE, *CONFIDENTIAL	オプション
REFDLO	参照DLO	文字値, *NONE, *REFSYSOBJ	オプション
REFFLR	参照フォルダー	文字値, *NONE	オプション
SYSOBJNAM	システム・オブジェクト名	名前	オプション
REFSYSOBJ	参照システム・オブジェクト	名前	オプション
PERSONAL	個人	*SAME, *NO, *YES	オプション

上

文書ライブラリー・オブジェクト (DLO)

ユーザー権限を変更する文書またはフォルダーの名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

***ALL** 指定されたフォルダー内のすべてのオブジェクトのユーザー権限が変更されます。*ALLを指定する場合には、**フォルダー (FLR)**パラメーターに値を指定しなければなりません。

***SYSOBJNAM**

システム・オブジェクト名 (**SYSOBJNAM**)パラメーターで指定されたシステム・オブジェクト名に対するユーザー権限が変更されます。

***ROOT**

*ROOTフォルダーの共通権限値が変更されます。

名前 文書またはフォルダー・オブジェクトのユーザー割り当て名を指定してください。最大12桁を指定することができます。

上

フォルダー (FLR)

文書ライブラリー・オブジェクト (**DLO**)パラメーターに指定されたオブジェクトが入っているフォルダーを指定します。

***NONE**

フォルダー名は指定されません。

名前 フォルダーのユーザー割り当て名を指定してください。オブジェクトの入っているフォルダーがさらに別のフォルダーに入っている場合には、フォルダー名を一連のフォルダー名から構成することができます。最大63桁を指定することができます。

上

ユーザー権限 (USRAUT)

既存のユーザーの名前および新しいユーザー権限レベルを指定します。

USRAUT((*PUBLIC *CHANGE))が指定された場合には、すべてのユーザーが*ROOTフォルダーに第1レベルのフォルダーを作成することができます。USRAUT((*PUBLIC *USE))が指定された場合には、全オブジェクト(*ALLOBJ)またはセキュリティー管理者(*SECADM)の特殊権限を持つユーザーだけが第1レベルのフォルダーを作成できます。これらの値によって制御される機能は、フォルダーの作成だけです。共通権限は、*ROOTフォルダーに指定できるただ1つの機密保護値です。*ROOTフォルダーに指定できるのは変更(*CHANGE)および使用(*USE)共通権限だけです。

単一値

***SAME**

既存のユーザー権限は変更されません。

要素1: ユーザー・プロファイル

***PUBLIC**

特定権限をもたず、しかも権限リスト上にないユーザーの権限が変更されます。

名前 特定権限を変更するユーザー・プロファイルの名前を指定してください。

要素2: 権限レベル

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***CHANGE**

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限では、オブジェクト操作(*OBJOPR)および全データ権限が提供されます。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

***EXCLUDE**

ユーザーはこのオブジェクトにアクセスできません。

***AUTL**

権限リスト (AUTL)パラメーターで指定された権限リストの権限が、文書に対して使用されます。

*AUTL値が有効なのは、*PUBLICも指定された場合だけです。

上

権限リスト (AUTL)

既存の権限リストを別の権限リストで置き換えるか、あるいは文書ライブラリー・オブジェクトから除去するかを指定します。

***SAME**

権限リストは変更されません。

***NONE**

文書ライブラリー・オブジェクトはもはや権限リストによって保護されなくなります。文書ライブラリー・オブジェクトに対する共通権限が*AUTLの場合には、それが*EXCLUDEに変更されます。

名前 オブジェクトの機密保護を決定する権限が入っている新しい権限リストの名前を指定してください。

上

機密性 (SENSITIV)

X.400標準によって定義された機密性の4つのレベルのうち1つを指定します。4つのレベルとは、機密性なし、個人用、私用、および会社機密です。私用のマークがついた文書は、それに対して通常の権限しかないユーザーでも使用できますが、代替で作業しているユーザーは（代替で作業していない時には使用できることがあるとしても）使用することができません。

*SAME

値は変更されません。

*NONE

この文書には、機密上の制限はありません。

*PERSONAL

この文書はユーザーの個人用です。

*PRIVATE

この文書には所有者しかアクセスできない情報が入っています。このオブジェクトにゼロ(0)のアクセス・コードが割り当てられている場合には、この値を指定することはできません。

*CONFIDENTIAL

この文書には会社の処理手順に従って処理しなければならない情報が入っています。

上

参照DLO (REFDLO)

既存の文書またはフォルダーに対するユーザー権限が、参照される文書ライブラリー・オブジェクトに対するユーザー権限（特定権限、特定権限のないユーザーに認可される権限、権限リスト権限、アクセス・コード、および個人状況など）で置き換えられることを指定します。

*NONE

オブジェクト名に対する参照が指定されていません。

*REFSYSOBJ

オブジェクトに対する参照は、参照システム・オブジェクト (REFSYSOBJ)パラメーターに指定されます。これは、文書またはフォルダーのシステム・オブジェクト名です。

名前 参照される文書またはフォルダーの名前を指定してください。

上

参照フォルダー (REFFLR)

参照DLO (REFDLO)パラメーターで指定された参照されるオブジェクトが入っているフォルダーを指定します。

*NONE

フォルダー名は指定されません。

名前 参照されるフォルダーのユーザー指定名を指定してください。オブジェクトの入っているフォルダーがさらに別のフォルダーに入っている場合には、フォルダー名を一連のフォルダー名から構成することができます。

上

システム・オブジェクト名 (SYSOBJNAM)

文書またはフォルダーのシステム・オブジェクト名を指定します。このパラメーターが有効なのは、**文書ライブラリー・オブジェクト (DLO)**パラメーターに*SYSOBJNAMが指定されている場合だけです。

名前 10文字を使用して、文書またはフォルダーのシステム・オブジェクト名を指定してください。

上

参照システム・オブジェクト (REFSYSOBJ)

参照される文書ライブラリー・オブジェクトのシステム・オブジェクト名を指定します。

名前 10桁全体を使用して、参照される文書のライブラリー・オブジェクトのシステム・オブジェクト名を指定してください。

上

個人 (PERSONAL)

変更する文書が個人用文書であるかどうかを指定します。そうである場合には、この文書にアクセスできるのは、所有者かまたは認可されたユーザーだけです。私用のマークがついた文書は、それに対して通常の権限しかないユーザーでも使用できますが、代替で作業しているユーザーは（代替で作業していない時には使用できることがあるとしても）使用することができません。このパラメーターはSENSITIVで置き換えられますが、今まで通りPERSONALパラメーターを使用することができます。ただし、このパラメーターは後のリリースで除去される可能性があるため、でき得る限りSENSITIVパラメーターを使用してください。

*SAME

値は変更されません。

***NO** あるユーザーが他のユーザーに代わって作業をしている時に、アクセスは許可されます。この値はSENSITIV(*NONE)にマップされます。

***YES** あるユーザーが他のユーザーに代わって作業をしている時に、アクセスは許可されません。PERSONAL(*YES)の場合には、USER(*PUBLIC)は*EXCLUDEでなければなりません。このオブジェクトにゼロ(0)のアクセス・コードが割り当てられている場合には、この値を指定することはできません。この値はSENSITIV(*PRIVATE)にマップされます。

上

例

```
CHGDLOAUT DLO(MYDOC) FLR(MYFLR) USRAUT((*PUBLIC *AUTL))
AUTL(MYAUTL)
```

このコマンドは、フォルダーMYFLR内の文書MYDOCのユーザー*PUBLICの権限を変更します。共通（MYDOCに対する特定権限をもっていないユーザーで、権限リストMYAUTLにはなくて、ユーザーのグループにはMYDOCに対する特定権限がない）の権限リストに指定された権限は、共通権限を判別するために使用されます。

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF8A75

フォルダー&1のアクセスが認可されていない。

CPF8A77

フォルダー&1が見つからない。

CPF8A78

フォルダー&1は使用中である。

CPF8A79

フォルダー&1は論理的に損傷している。

CPF8A80

フォルダー&1の文書&2は使用中である。

CPF8A82

文書&2がフォルダー&1に見つからない。

CPF8A83

フォルダー&1の文書&2のアクセスが認可されていない。

CPF8A88

フォルダー&1の文書&2でこの操作を使用することはできない。

CPF8A89

フォルダー&1の文書&2が論理的に損傷している。

CPF90BA

文書ライブラリー・オブジェクトの権限要求が正常に実行されなかった。

CPF90B8

文書ライブラリー・オブジェクト&1の参照オブジェクトを指定する権限がない。

CPF901F

*PUBLIC以外のユーザーに*AUTLが指定された。

CPF9073

文書ライブラリー・オブジェクト&1の機密保護の表示または変更権限がない。

CPF908A

要求元&1は登録されていない。

CPF908B

文書ライブラリー・オブジェクトが見つからない。

CPF908E

&1個のオブジェクトが変更されたが、&2個のオブジェクトは変更されなかった。

CPF909A

フォルダー&1の文書&2に損傷がある。

CPF9095

フォルダー&1に損傷がある。

DLO所有者変更 (CHGDLOOWN)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

文書ライブラリー・オブジェクト所有者変更(CHGDLOOWN)コマンドにより、文書またはフォルダーの所有権をあるユーザーから別のユーザーに移すことができます。最初の所有者はもはやそのオブジェクトを所有せず、2番目のユーザーが所有者になります。新しい所有者をシステム配布ディレクトリーに登録しなければなりません。当該文書またはフォルダーに対する他のユーザーの権限は変更されません。

制約事項:

文書またはフォルダーの所有権を移動するためには、全オブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限が必要となり、あるいは要求元がその文書またはフォルダーの所有者でなければなりません。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
DLO	文書ライブラリー・オブジェクトまたは	文字値, *SYSOBJNAM	オプションル, 定位置 1
OWNER	現行所有者	要素リスト	オプションル, 定位置 2
	要素 1: ユーザー・プロファイル	名前	
NEWOWN	新しい所有者	要素リスト	オプションル
	要素 1: ユーザー・プロファイル	名前	
FLR	フォルダー	文字値, *NONE	オプションル
CUROWNAUT	現行の所有者権限	*REVOKE, *SAME	オプションル
SYSOBJNAM	システム・オブジェクト名	名前	オプションル

上

文書ライブラリー・オブジェクトまたは (DLO)

新しい所有者に割り当てられる文書またはフォルダー・オブジェクトの名前を指定します。現行所有者(OWNER)パラメーターを指定した場合には、DLOパラメーターを指定することはできません。

名前 ユーザーが割り当てる文書またはフォルダーの名前を指定してください。最大12桁を指定することができます。

*SYSOBJNAM

オブジェクトはシステム・オブジェクト名を使用して識別されます。オブジェクト名は、システム・オブジェクト名 (SYSOBJNAM)パラメーターに指定されます。*SYSOBJNAMを指定した場合には、FLR(*NONE)も指定しなければなりません。

上

現行所有者 (OWNER)

所有しているすべての文書またはフォルダーが移される現在の所有者のユーザー・プロファイル名を指定します。このユーザーが所有しているすべての文書またはフォルダーに新しい所有者が割り当てられます。文書ライブラリー・オブジェクトまたは (DLO)パラメーターを指定した場合には、現行所有者 (OWNER)パラメーターは指定できません。

名前 システムでの現在の所有者を識別するユーザー・プロファイルの名前を指定してください。

上

新しい所有者 (NEWOWN)

文書またはフォルダーが移される新しい所有者のユーザー・プロファイルを指定します。

名前 システムでの新しい所有者を識別するユーザー・プロファイルの名前を指定してください。

上

フォルダー (FLR)

文書ライブラリー・オブジェクトまたは (DLO)パラメーターで識別されるオブジェクトが入っているフォルダーの名前を指定します。

*NONE

フォルダー名は指定されません。

名前 フォルダーのユーザー割り当て名を指定してください。オブジェクトの入っているフォルダーがさらに別のフォルダーに入っている場合には、フォルダー名を一連のフォルダー名から構成することができます。最大63桁を指定することができます。

上

現行の所有者権限 (CUROWNAUT)

所有権を変更した場合に、現行所有者の権限を取り消すかどうかを指定します。

*REVOKE

オブジェクトが新しい所有者に移る時に、現在の所有者の権限は取り消されます。

*SAME

オブジェクトが新しい所有者に変更される時には、現在の所有者の権限は変更されません。

上

システム・オブジェクト名 (SYSOBJNAM)

文書またはフォルダーのシステム・オブジェクト名を指定します。文書ライブラリー・オブジェクトまたは (DLO)パラメーターにオブジェクト名を指定した場合には、このパラメーターは無視されます。

名前 10桁全体を使用して、文書またはフォルダーのシステム・オブジェクト名を指定してください。

例

例1:フォルダー所有権の転送

```
CHGDLOOWN DLO(MYFLR) NEWOWN(ANN)
```

このコマンドは、フォルダーMYFLRの所有権をANNという名前の新規所有者に割り当てます。権限は、現行所有者から取り消されます。

例2:すべての文書およびフォルダーの所有権の転送

```
CHGDLOOWN OWNER(ANDERSON) NEWOWN(SMITH)
```

このコマンドは、ANDERSONが所有している文書およびフォルダーのすべての所有権を新規所有者SMITHに割り当てます。権限は、現行所有者から取り消されます。

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF2204

ユーザー・プロファイル&1が見つからない。

CPF2232

ユーザー・プロファイル&1には認可されていません。

CPF2233

ユーザー・プロファイル&1に対する削除権限をもっていない。

CPF8A49

新しい所有者&1にUIDがない。

CPF8360

コミットメント制御操作を実行するための記憶域が不十分である。

CPF897E

&2 &3が所有している文書リストの名前&1はすでに存在している。

CPF9005

この要求を完了するのに必要なシステム資源を使用することができない。

CPF9006

ユーザーはシステム配布ディレクトリーに登録されていない。

CPF9009

システムには&2のファイル&1のジャーナルが必要である。

CPF9012

&1の文書交換セッションの開始が正常に行なわれなかった。

CPF9029

所有者プロファイル&1を指定することはできない。

CPF9032

文書交換セッションが開始されなかった。

CPF9048

&2文書ライブラリー・オブジェクトの所有権がプロファイル&1に変更された。&3は変更されませんでした。

CPF908A

要求元&1は登録されていない。

上

DLO 1 次グループの変更 (CHGDLOPGP)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

文書ライブラリー・オブジェクト1次グループの変更(CHGDLOPGP)コマンドは、ある1次グループから別の1次グループへ文書またはフォルダーを転送します。2番目のグループ・プロファイルが1次グループとなります。新しい1次グループはシステム配布ディレクトリーの中になければなりません。他のユーザーが文書またはフォルダーに対してもっている権限は変更されません。

古い権限の取り消し (RVKOLDAUT)パラメーターに*NOが指定されない限り、オブジェクトに対する旧の1次グループの権限は取り消されます。

注: システムは、ユーザー・プロファイルに指定されている場合にはグループ・プロファイルを検査して、文書またはフォルダーの1次グループを判別しません。

制約事項:

文書またはフォルダーの1次グループを転送するためには、ユーザーは全オブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限をもっているか、あるいは文書またはフォルダーの所有者でなければなりません。ユーザーは、旧1次グループ・プロファイルに対する削除権限(*DLT)、および新1次グループ・プロファイルに対する追加(*ADD)権限をもっていなければなりません。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
DLO	文書ライブラリー・オブジェクトまたは	文字値, *SYSOBJNAM, *ALL	オプション, 定位置 1
CURPGP	現行1次グループ	名前	オプション, 定位置 2
NEWPGP	新しい1次グループ	名前, *NONE	オプション
NEWPGPAUT	新しい1次グループ権限	*OLDPGP, *PRIVATE, *ALL, *CHANGE, *USE, *EXCLUDE	オプション
FLR	フォルダー	文字値, *NONE	オプション
RVKOLDAUT	古い権限の取り消し	*YES, *NO	オプション
SYSOBJNAM	システム・オブジェクト名	名前	オプション

上

文書ライブラリー・オブジェクトまたは (DLO)

新しい1次グループに割り当てる文書またはフォルダー・オブジェクトの名前を指定します。DLOパラメーターと現行1次グループ (CURPGP)パラメーターを一緒に使用することはできません。

***SYSOBJNAM**

オブジェクトはシステム・オブジェクト名を使用して識別されます。オブジェクト名は、システム・オブジェクト名 (**SYSOBJNAM**)パラメーターによって指定されます。

***ALL** FLRによって指定されたオブジェクトで、その1次グループが変更されています。フォルダー、その内容、そのすべてのサブフォルダーの内容でも、その1次グループが変更されています。

***ALL**を指定する場合には、**フォルダー(FLR)**パラメーターに値を指定しなければなりません。

名前 ユーザーが割り当てる文書またはフォルダーの名前を指定してください。最大12桁を指定することができます。

上

現行 1 次グループ (CURPGP)

すべての文書またはフォルダーの転送元の現行1次グループの1次グループ・プロファイル名を指定します。この1次グループに割り当てられたすべての文書またはフォルダーは、新しい1次グループに割り当てられません。CURPGPパラメーターと文書ライブラリー・オブジェクトまたは (**DLO**)パラメーターと一緒に使用することはできません。

上

新しい 1 次グループ (NEWPGP)

文書またはフォルダーの転送先の新しい1次グループの1次グループ・プロファイル名を指定します。グループ・プロファイルはすでに存在していて、それに割り当てられたグループID番号(GID)をもっていなければなりません。

***NONE**

オブジェクトは1次グループをもちません。

名前 新しい1次グループ名を指定してください。

上

新しい 1 次グループ権限 (NEWPGPAUT)

新しい1次グループがオブジェクトに対してもつ権限を指定します。

***OLDPGP**

新しい1次グループは、そのオブジェクトに対して旧1次グループがもっていた権限をすべてもちます。

***PRIVATE**

新しい1次グループはオブジェクトに対するのと同じの専用権限をもっています。旧1次グループがオブジェクトに対する専用権限をもっていない場合には、新しい1次グループはオブジェクトに対する権限をもちません。

ALL** 新しい1次グループはオブジェクトに対する全(ALL**)権限が与えられます。

***CHANGE**

新しい1次グループはオブジェクトに対する変更(***CHANGE**)権限が与えられます。

***USE** 新しい1次グループはオブジェクトに対する全使用(*USE)権限が与えられます。

***EXCLUDE**

新しい1次グループはオブジェクトに対する排他(*EXCLUDE)権限が与えられます。

上

フォルダー (FLR)

文書が入っているフォルダーの名前を指定します。

***NONE**

フォルダー名は指定されません。

名前 フォルダーのユーザー割り当て名を指定してください。 DLOパラメーターに指定されたオブジェクトが別のフォルダーに入っているフォルダーの中で見つかった場合には、フォルダー名を一連のフォルダー名から構成することができます。 最大63桁を指定することができます。

上

古い権限の取り消し (RVKOLDAUT)

1次グループをNEWPGPパラメーターに指定された新しい1次グループに転送する時に、現行1次グループの権限を取り消すかどうかを指定します。

***YES** オブジェクトを新しい1次グループに転送する時に、現行1次グループの権限は取り消されます。

***NO** 1次グループが新しい1次グループに変更される時に、現行の1次グループの権限は取り消されません。

上

システム・オブジェクト名 (SYSOBJNAM)

文書またはフォルダーのシステム・オブジェクト名を指定します。このパラメーターが有効なのは、DLO(*SYSOBJNAM)が指定された場合だけです。 10桁全部を指定しなければなりません。

上

例

例1:フォルダー1次グループの転送

```
CHGDLOPGP DLO(MYFLR) NEWPGP(GROUP1)
```

このコマンドは、フォルダーMYFLRのID次グループをGROUP1という名前の1次グループに割り当てます。権限は、現行1次グループから取り消されます。

例2:すべての文書およびフォルダーの1次グループの転送

```
CHGDLOPGP CURPGP(GROUP1) NEWPGP(GROUP2)
```

このコマンドは、1次グループGROUP1に割り当てられたすべての文書およびフォルダーの新規1次グループを新規1次グループGROUP2に割り当てます。権限は、現行1次グループから取り消されます。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF2204

ユーザー・プロファイル&1が見つからない。

CPF89C1

&2文書ライブラリー・オブジェクトの1次グループが1次グループ&1に変更された。&3は変更されません。

上

付録. 特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものです。

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒106-8711
東京都港区六本木3-2-12
日本アイ・ビー・エム株式会社
法務・知的財産
知的財産権ライセンス渉外

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。 IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Corporation
Software Interoperability Coordinator, Department YBWA
3605 Highway 52 N
Rochester, MN 55901
U.S.A.

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、IBM 機械コードのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性があります。その測定値が、一般に利用可能なシステムのものと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者をお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

著作権使用許諾:

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。

それぞれの複製物、サンプル・プログラムのいかなる部分、またはすべての派生的創作物にも、次のように、著作権表示を入れていただく必要があります。

© (お客様の会社名) (西暦年). このコードの一部は、IBM Corp. のサンプル・プログラムから取られています。 © Copyright IBM Corp. _年を入れる_. All rights reserved.

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は表示されない場合があります。

プログラミング・インターフェース情報

本書 (i5/OS コマンド) には、プログラムを作成するユーザーが IBM i5/OS のサービスを使用するためのプログラミング・インターフェースが記述されています。

商標

以下は、International Business Machines Corporation の米国およびその他の国における商標です。

Advanced Function Printing
AFP
AS/400
CICS
COBOL/400
C/400
DataPropagator
DB2
Distributed Relational Database Architecture
Lotus Domino
DRDA
IBM
Infoprint
InfoWindow
i5/OS
iSeries
Integrated Language Environment
Lotus
LPDA
OfficeVision
Print Services Facility
RPG/400
System i
System x
SystemView
System/36
TCS
Tivoli
WebSphere
z/OS

Adobe、Adobe ロゴ、PostScript、および PostScript ロゴは、米国およびその他の国における Adobe Systems Incorporated の商標または登録商標です。

Intel、Intel (ロゴ)、Intel Inside、Intel Inside (ロゴ)、Intel Centrino、Intel Centrino (ロゴ)、Celeron、Intel Xeon、Intel SpeedStep、Itanium、Pentium は、Intel Corporation または子会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Linux は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における商標です。

Microsoft、Windows、Windows NT および Windows ロゴは、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは、Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標です。

UNIX は、The Open Group の米国およびその他の国における登録商標です。

他の会社名、製品名およびサービス名等はそれぞれ各社の商標です。

使用条件

これらの資料は、以下の条件に同意していただける場合に限りご使用いただけます。

個人使用: これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、非商業的な個人による使用目的に限り複製することができます。ただし、IBM の明示的な承諾をえずに、これらの資料またはその一部について、二次的著作物を作成したり、配布 (頒布、送信を含む) または表示 (上映を含む) することはできません。

商業的使用: これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、お客様の企業内に限り、複製、配布、および表示することができます。ただし、IBM の明示的な承諾をえずにこれらの資料の二次的著作物を作成したり、お客様の企業外で資料またはその一部を複製、配布、または表示することはできません。

ここで明示的に許可されているもの以外に、資料や資料内に含まれる情報、データ、ソフトウェア、またはその他の知的所有権に対するいかなる許可、ライセンス、または権利を明示的にも黙示的にも付与するものではありません。

資料の使用が IBM の利益を損なうと判断された場合や、上記の条件が適切に守られていないと判断された場合、IBM はいつでも自らの判断により、ここで与えた許可を撤回できるものとさせていただきます。

お客様がこの情報をダウンロード、輸出、または再輸出する際には、米国のすべての輸出入関連法規を含む、すべての関連法規を遵守するものとします。

IBM は、これらの資料の内容についていかなる保証もしません。これらの資料は、特定物として現存するままの状態を提供され、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任なしで提供されます。

コードに関するライセンス情報および特記事項

IBM は、お客様に、すべてのプログラム・コードのサンプルを使用することができる非独占的な著作使用権を許諾します。お客様は、このサンプル・コードから、お客様独自の特別のニーズに合わせた類似のプログラムを作成することができます。

強行法規で除外を禁止されている場合を除き、IBM、そのプログラム開発者、および供給者は「プログラム」および「プログラム」に対する技術的サポートがある場合にはその技術的サポートについて、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。

いかなる場合においても、IBM および IBM のサプライヤーならびに IBM ビジネス・パートナーは、その予見の有無を問わず発生した以下のものについて賠償責任を負いません。

1. データの喪失、または損傷。
2. 直接損害、特別損害、付随的損害、間接損害、または経済上の結果的損害
3. 逸失した利益、ビジネス上の収益、あるいは節約すべかりし費用

国または地域によっては、法律の強行規定により、上記の責任の制限が適用されない場合があります。



Printed in Japan